

## 基礎演習I 01

12085

担当者名 / Instructor 乾 亨

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Description

基礎演習は、1回生全員が指定されたクラスに分かれ、それぞれのクラスで学生たちが協同して学んでいく演習スタイルの科目です。「テーマの発見」「テーマの追究」の手法を学び、身につけていくこと、つまり、産業社会学部において、主体的に学んでいくための方法を理解していくことが主たる狙いです。①意味あるテーマをいかに発見するか、②文献調査やフィールド調査・アンケート調査などによって、いかにテーマに接近していくかについて、グループ討論やクラス発表にもとづく討論を実施しながら、実感的に理解を深めていきます。アクティブラーニングとしての積極的な参加がもとめられる科目です。

基礎演習の学習内容や進め方については、担当教員が責任をもってあたりますが、全体で共通な事項については「基礎演習ガイドライン」がつけられていますので、良く読んでおいて下さい。

## 到達目標 / Focus and Goal

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

前期には、各クラス4名程度のエンター（上回生のボランティア学生）が、後期のクラスには、院生がTA（ティーチング・アシスタント）として参加し、学習やクラスの運営に協力し、学生の支援に当たりますので、いろいろ相談して下さい。

## 授業スケジュール / Schedule

| 授業日 (第N回) | テーマ / Theme                       | キーワード / Key Word |
|-----------|-----------------------------------|------------------|
| 1         | 授業の進め方、運営方法については各担当教員の指示に従ってください。 |                  |

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

| 種別 / Kind | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc.                                                          |
|-----------|-----------------|----------------------------------------------------------------------------------------|
| 日常点       | 100 %           | 開講回数の2/3以上の出席が評価対象の要件となります。評価方法は、平常点（班学習、発表、討論参加等）やレポート・小論文等によりますが、詳しくは、担当教員が個別に指示します。 |

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

## 教科書 / Textbooks

『産業社会学部で学ぶー産業社会学部ハンドブック』など

## 参考書 / Reference Books

## 参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

## その他 / Others

## 基礎演習I 02

12086

担当者名 / Instructor 木田 融男

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Description

基礎演習は、1回生全員が指定されたクラスに分かれ、それぞれのクラスで学生たちが協同して学んでいく演習スタイルの科目です。「テーマの発見」「テーマの追究」の手法を学び、身につけていくこと、つまり、産業社会学部において、主体的に学んでいくための方法を理解していくことが主たる狙いです。①意味あるテーマをいかに発見するか、②文献調査やフィールド調査・アンケート調査などによって、いかにテーマに接近していくかについて、グループ討論やクラス発表にもとづく討論を実施しながら、実感的に理解を深めていきます。アクティブラーニングとしての積極的な参加がもとめられる科目です。

基礎演習の学習内容や進め方については、担当教員が責任をもってあたりますが、全体で共通な事項については「基礎演習ガイドライン」がつけられていますので、良く読んでおいて下さい。

## 到達目標 / Focus and Goal

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enrolle in, but not required to

前期には、各クラス4名程度のエンター（上回生のボランティア学生）が、後期のクラスには、院生がTA（ティーチング・アシスタント）として参加し、学習やクラスの運営に協力し、学生の支援に当たりますので、いろいろ相談して下さい。

## 授業スケジュール / Schedule

| 授業日 (第N回) | テーマ / Theme                       | キーワード / Key Word |
|-----------|-----------------------------------|------------------|
| 1         | 授業の進め方、運営方法については各担当教員の指示に従ってください。 |                  |

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

| 種別 / Kind | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc.                                                          |
|-----------|-----------------|----------------------------------------------------------------------------------------|
| 日常点       | 100 %           | 開講回数の2/3以上の出席が評価対象の要件となります。評価方法は、平常点（班学習、発表、討論参加等）やレポート・小論文等によりますが、詳しくは、担当教員が個別に指示します。 |

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

## 教科書 / Textbooks

『産業社会学部で学ぶー産業社会学部ハンドブック』など

## 参考書 / Reference Books

## 参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

## その他 / Others

## 基礎演習I 03

12087

担当者名 / Instructor 斎藤 真緒

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Description

基礎演習は、1回生全員が指定されたクラスに分かれ、それぞれのクラスで学生たちが協同して学んでいく演習スタイルの科目です。「テーマの発見」「テーマの追究」の手法を学び、身につけていくこと、つまり、産業社会学部において、主体的に学んでいくための方法を理解していくことが主たる狙いです。①意味あるテーマをいかに発見するか、②文献調査やフィールド調査・アンケート調査などによって、いかにテーマに接近していくかについて、グループ討論やクラス発表にもとづく討論を実施しながら、実感的に理解を深めていきます。アクティブラーニングとしての積極的な参加がもとめられる科目です。

基礎演習の学習内容や進め方については、担当教員が責任をもってあたりますが、全体で共通な事項については「基礎演習ガイドライン」がつけられていますので、良く読んでおいて下さい。

## 到達目標 / Focus and Goal

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

前期には、各クラス4名程度のエンター（上回生のボランティア学生）が、後期のクラスには、院生がTA（ティーチング・アシスタント）として参加し、学習やクラスの運営に協力し、学生の支援に当たりますので、いろいろ相談して下さい。

## 授業スケジュール / Schedule

| 授業日 (第N回) | テーマ / Theme                       | キーワード / Key Word |
|-----------|-----------------------------------|------------------|
| 1         | 授業の進め方、運営方法については各担当教員の指示に従ってください。 |                  |

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

| 種別 / Kind | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc.                                                          |
|-----------|-----------------|----------------------------------------------------------------------------------------|
| 日常点       | 100 %           | 開講回数の2/3以上の出席が評価対象の要件となります。評価方法は、平常点（班学習、発表、討論参加等）やレポート・小論文等によりますが、詳しくは、担当教員が個別に指示します。 |

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

## 教科書 / Textbooks

『産業社会学部で学ぶー産業社会学部ハンドブック』など

## 参考書 / Reference Books

## 参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

## その他 / Others

## 基礎演習I 04

12088

担当者名 / Instructor 辻 勝次

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Description

基礎演習は、1回生全員が指定されたクラスに分かれ、それぞれのクラスで学生たちが協同して学んでいく演習スタイルの科目です。「テーマの発見」「テーマの追究」の手法を学び、身につけていくこと、つまり、産業社会学部において、主体的に学んでいくための方法を理解していくことが主たる狙いです。①意味あるテーマをいかに発見するか、②文献調査やフィールド調査・アンケート調査などによって、いかにテーマに接近していくかについて、グループ討論やクラス発表にもとづく討論を実施しながら、実感的に理解を深めていきます。アクティブラーニングとしての積極的な参加がもとめられる科目です。

基礎演習の学習内容や進め方については、担当教員が責任をもってあたりますが、全体で共通な事項については「基礎演習ガイドライン」がつけられていますので、良く読んでおいて下さい。

## 到達目標 / Focus and Goal

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

前期には、各クラス4名程度のエンター（上回生のボランティア学生）が、後期のクラスには、院生がTA（ティーチング・アシスタント）として参加し、学習やクラスの運営に協力し、学生の支援に当たりますので、いろいろ相談して下さい。

## 授業スケジュール / Schedule

| 授業日 (第N回) | テーマ / Theme                       | キーワード / Key Word |
|-----------|-----------------------------------|------------------|
| 1         | 授業の進め方、運営方法については各担当教員の指示に従ってください。 |                  |

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

| 種別 / Kind | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc.                                                          |
|-----------|-----------------|----------------------------------------------------------------------------------------|
| 日常点       | 100 %           | 開講回数の2/3以上の出席が評価対象の要件となります。評価方法は、平常点（班学習、発表、討論参加等）やレポート・小論文等によりますが、詳しくは、担当教員が個別に指示します。 |

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

## 教科書 / Textbooks

『産業社会学部で学ぶー産業社会学部ハンドブック』など

## 参考書 / Reference Books

## 参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

## その他 / Others

## 基礎演習I 05

12089

担当者名 / Instructor 中井 美樹

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Description

基礎演習は、1回生全員が指定されたクラスに分かれ、それぞれのクラスで学生たちが協同して学んでいく演習スタイルの科目です。「テーマの発見」「テーマの追究」の手法を学び、身につけていくこと、つまり、産業社会学部において、主体的に学んでいくための方法を理解していくことが主たる狙いです。①意味あるテーマをいかに発見するか、②文献調査やフィールド調査・アンケート調査などによって、いかにテーマに接近していくかについて、グループ討論やクラス発表にもとづく討論を実施しながら、実感的に理解を深めていきます。アクティブラーニングとしての積極的な参加がもとめられる科目です。

基礎演習の学習内容や進め方については、担当教員が責任をもってあたりますが、全体で共通な事項については「基礎演習ガイドライン」がつけられていますので、良く読んでおいて下さい。

## 到達目標 / Focus and Goal

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

前期には、各クラス4名程度のエンター（上回生のボランティア学生）が、後期のクラスには、院生がTA（ティーチング・アシスタント）として参加し、学習やクラスの運営に協力し、学生の支援に当たりますので、いろいろ相談して下さい。

## 授業スケジュール / Schedule

| 授業日 (第N回) | テーマ / Theme                       | キーワード / Key Word |
|-----------|-----------------------------------|------------------|
| 1         | 授業の進め方、運営方法については各担当教員の指示に従ってください。 |                  |

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

| 種別 / Kind | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc.                                                          |
|-----------|-----------------|----------------------------------------------------------------------------------------|
| 日常点       | 100 %           | 開講回数の2/3以上の出席が評価対象の要件となります。評価方法は、平常点（班学習、発表、討論参加等）やレポート・小論文等によりますが、詳しくは、担当教員が個別に指示します。 |

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

## 教科書 / Textbooks

『産業社会学部で学ぶー産業社会学部ハンドブック』など

## 参考書 / Reference Books

## 参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

## その他 / Others

## 基礎演習I 06

12090

担当者名 / Instructor 松葉 正文

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Description

基礎演習は、1回生全員が指定されたクラスに分かれ、それぞれのクラスで学生たちが協同して学んでいく演習スタイルの科目です。「テーマの発見」「テーマの追究」の手法を学び、身につけていくこと、つまり、産業社会学部において、主体的に学んでいくための方法を理解していくことが主たる狙いです。①意味あるテーマをいかに発見するか、②文献調査やフィールド調査・アンケート調査などによって、いかにテーマに接近していくかについて、グループ討論やクラス発表にもとづく討論を実施しながら、実感的に理解を深めていきます。アクティブラーニングとしての積極的な参加がもとめられる科目です。

基礎演習の学習内容や進め方については、担当教員が責任をもってあたりますが、全体で共通な事項については「基礎演習ガイドライン」がつけられていますので、良く読んでおいて下さい。

## 到達目標 / Focus and Goal

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

前期には、各クラス4名程度のエンター（上回生のボランティア学生）が、後期のクラスには、院生がTA（ティーチング・アシスタント）として参加し、学習やクラスの運営に協力し、学生の支援に当たりますので、いろいろ相談して下さい。

## 授業スケジュール / Schedule

| 授業日 (第N回) | テーマ / Theme                       | キーワード / Key Word |
|-----------|-----------------------------------|------------------|
| 1         | 授業の進め方、運営方法については各担当教員の指示に従ってください。 |                  |

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

| 種別 / Kind | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc.                                                          |
|-----------|-----------------|----------------------------------------------------------------------------------------|
| 日常点       | 100 %           | 開講回数の2/3以上の出席が評価対象の要件となります。評価方法は、平常点（班学習、発表、討論参加等）やレポート・小論文等によりますが、詳しくは、担当教員が個別に指示します。 |

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

## 教科書 / Textbooks

『産業社会学部で学ぶー産業社会学部ハンドブック』など

## 参考書 / Reference Books

## 参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

## その他 / Others

## 基礎演習I 07

12091

担当者名 / Instructor リム・ボン

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Description

基礎演習は、1回生全員が指定されたクラスに分かれ、それぞれのクラスで学生たちが協同して学んでいく演習スタイルの科目です。「テーマの発見」「テーマの追究」の手法を学び、身につけていくこと、つまり、産業社会学部において、主体的に学んでいくための方法を理解していくことが主たる狙いです。①意味あるテーマをいかに発見するか、②文献調査やフィールド調査・アンケート調査などによって、いかにテーマに接近していくかについて、グループ討論やクラス発表にもとづく討論を実施しながら、実感的に理解を深めていきます。アクティブラーニングとしての積極的な参加がもとめられる科目です。

基礎演習の学習内容や進め方については、担当教員が責任をもってあたりますが、全体で共通な事項については「基礎演習ガイドライン」がつけられていますので、良く読んでおいて下さい。

## 到達目標 / Focus and Goal

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

前期には、各クラス4名程度のエンター（上回生のボランティア学生）が、後期のクラスには、院生がTA（ティーチング・アシスタント）として参加し、学習やクラスの運営に協力し、学生の支援に当たりますので、いろいろ相談して下さい。

## 授業スケジュール / Schedule

| 授業日 (第N回) | テーマ / Theme                       | キーワード / Key Word |
|-----------|-----------------------------------|------------------|
| 1         | 授業の進め方、運営方法については各担当教員の指示に従ってください。 |                  |

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

| 種別 / Kind | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc.                                                          |
|-----------|-----------------|----------------------------------------------------------------------------------------|
| 日常点       | 100 %           | 開講回数の2/3以上の出席が評価対象の要件となります。評価方法は、平常点（班学習、発表、討論参加等）やレポート・小論文等によりますが、詳しくは、担当教員が個別に指示します。 |

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

## 教科書 / Textbooks

『産業社会学部で学ぶー産業社会学部ハンドブック』など

## 参考書 / Reference Books

## 参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

## その他 / Others

## 基礎演習I 08

12092

担当者名 / Instructor 深澤 敦

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Description

基礎演習は、1回生全員が指定されたクラスに分かれ、それぞれのクラスで学生たちが協同して学んでいく演習スタイルの科目です。「テーマの発見」「テーマの追究」の手法を学び、身につけていくこと、つまり、産業社会学部において、主体的に学んでいくための方法を理解していくことが主たる狙いです。①意味あるテーマをいかに発見するか、②文献調査やフィールド調査・アンケート調査などによって、いかにテーマに接近していくかについて、グループ討論やクラス発表にもとづく討論を実施しながら、実感的に理解を深めていきます。アクティブラーニングとしての積極的な参加がもとめられる科目です。

基礎演習の学習内容や進め方については、担当教員が責任をもってあたりますが、全体で共通な事項については「基礎演習ガイドライン」がつけられていますので、良く読んでおいて下さい。

## 到達目標 / Focus and Goal

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

前期には、各クラス4名程度のエンター（上回生のボランティア学生）が、後期のクラスには、院生がTA（ティーチング・アシスタント）として参加し、学習やクラスの運営に協力し、学生の支援に当たりますので、いろいろ相談して下さい。

## 授業スケジュール / Schedule

| 授業日 (第N回) | テーマ / Theme                       | キーワード / Key Word |
|-----------|-----------------------------------|------------------|
| 1         | 授業の進め方、運営方法については各担当教員の指示に従ってください。 |                  |

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

| 種別 / Kind | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc.                                                          |
|-----------|-----------------|----------------------------------------------------------------------------------------|
| 日常点       | 100 %           | 開講回数の2/3以上の出席が評価対象の要件となります。評価方法は、平常点（班学習、発表、討論参加等）やレポート・小論文等によりますが、詳しくは、担当教員が個別に指示します。 |

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

## 教科書 / Textbooks

『産業社会学部で学ぶー産業社会学部ハンドブック』など

## 参考書 / Reference Books

## 参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

## その他 / Others



## 基礎演習I 09

12093

担当者名 / Instructor 赤井 正二

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Description

基礎演習は、1回生全員が指定されたクラスに分かれ、それぞれのクラスで学生たちが協同して学んでいく演習スタイルの科目です。「テーマの発見」「テーマの追究」の手法を学び、身につけていくこと、つまり、産業社会学部において、主体的に学んでいくための方法を理解していくことが主たる狙いです。①意味あるテーマをいかに発見するか、②文献調査やフィールド調査・アンケート調査などによって、いかにテーマに接近していくかについて、グループ討論やクラス発表にもとづく討論を実施しながら、実感的に理解を深めていきます。アクティブラーニングとしての積極的な参加がもとめられる科目です。

基礎演習の学習内容や進め方については、担当教員が責任をもってあたりますが、全体で共通な事項については「基礎演習ガイドライン」がつけられていますので、良く読んでおいて下さい。

## 到達目標 / Focus and Goal

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

前期には、各クラス4名程度のエンター（上回生のボランティア学生）が、後期のクラスには、院生がTA（ティーチング・アシスタント）として参加し、学習やクラスの運営に協力し、学生の支援に当たりますので、いろいろ相談して下さい。

## 授業スケジュール / Schedule

| 授業日 (第N回) | テーマ / Theme                       | キーワード / Key Word |
|-----------|-----------------------------------|------------------|
| 1         | 授業の進め方、運営方法については各担当教員の指示に従ってください。 |                  |

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

| 種別 / Kind | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc.                                                          |
|-----------|-----------------|----------------------------------------------------------------------------------------|
| 日常点       | 100 %           | 開講回数の2/3以上の出席が評価対象の要件となります。評価方法は、平常点（班学習、発表、討論参加等）やレポート・小論文等によりますが、詳しくは、担当教員が個別に指示します。 |

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

## 教科書 / Textbooks

『産業社会学部で学ぶー産業社会学部ハンドブック』など

## 参考書 / Reference Books

## 参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

## その他 / Others

## 基礎演習I 10

12094

担当者名 / Instructor 黄 盛彬

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Description

基礎演習は、1回生全員が指定されたクラスに分かれ、それぞれのクラスで学生たちが協同して学んでいく演習スタイルの科目です。「テーマの発見」「テーマの追究」の手法を学び、身につけていくこと、つまり、産業社会学部において、主体的に学んでいくための方法を理解していくことが主たる狙いです。①意味あるテーマをいかに発見するか、②文献調査やフィールド調査・アンケート調査などによって、いかにテーマに接近していくかについて、グループ討論やクラス発表にもとづく討論を実施しながら、実感的に理解を深めていきます。アクティブラーニングとしての積極的な参加がもとめられる科目です。

基礎演習の学習内容や進め方については、担当教員が責任をもってあたりますが、全体で共通な事項については「基礎演習ガイドライン」がつけられていますので、良く読んでおいて下さい。

## 到達目標 / Focus and Goal

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

前期には、各クラス4名程度のエンター（上回生のボランティア学生）が、後期のクラスには、院生がTA（ティーチング・アシスタント）として参加し、学習やクラスの運営に協力し、学生の支援に当たりますので、いろいろ相談して下さい。

## 授業スケジュール / Schedule

| 授業日 (第N回) | テーマ / Theme                       | キーワード / Key Word |
|-----------|-----------------------------------|------------------|
| 1         | 授業の進め方、運営方法については各担当教員の指示に従ってください。 |                  |

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

| 種別 / Kind | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc.                                                          |
|-----------|-----------------|----------------------------------------------------------------------------------------|
| 日常点       | 100 %           | 開講回数の2/3以上の出席が評価対象の要件となります。評価方法は、平常点（班学習、発表、討論参加等）やレポート・小論文等によりますが、詳しくは、担当教員が個別に指示します。 |

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

## 教科書 / Textbooks

『産業社会学部で学ぶー産業社会学部ハンドブック』など

## 参考書 / Reference Books

## 参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

## その他 / Others

## 基礎演習I 11

12095

担当者名 / Instructor 増田 幸子

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Description

基礎演習は、1回生全員が指定されたクラスに分かれ、それぞれのクラスで学生たちが協同して学んでいく演習スタイルの科目です。「テーマの発見」「テーマの追究」の手法を学び、身につけていくこと、つまり、産業社会学部において、主体的に学んでいくための方法を理解していくことが主たる狙いです。①意味あるテーマをいかに発見するか、②文献調査やフィールド調査・アンケート調査などによって、いかにテーマに接近していくかについて、グループ討論やクラス発表にもとづく討論を実施しながら、実感的に理解を深めていきます。アクティブラーニングとしての積極的な参加がもとめられる科目です。

基礎演習の学習内容や進め方については、担当教員が責任をもってあたりますが、全体で共通な事項については「基礎演習ガイドライン」がつけられていますので、良く読んでおいて下さい。

## 到達目標 / Focus and Goal

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

前期には、各クラス4名程度のエンター（上回生のボランティア学生）が、後期のクラスには、院生がTA（ティーチング・アシスタント）として参加し、学習やクラスの運営に協力し、学生の支援に当たりますので、いろいろ相談して下さい。

## 授業スケジュール / Schedule

| 授業日 (第N回) | テーマ / Theme                       | キーワード / Key Word |
|-----------|-----------------------------------|------------------|
| 1         | 授業の進め方、運営方法については各担当教員の指示に従ってください。 |                  |

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

| 種別 / Kind | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc.                                                          |
|-----------|-----------------|----------------------------------------------------------------------------------------|
| 日常点       | 100 %           | 開講回数の2/3以上の出席が評価対象の要件となります。評価方法は、平常点（班学習、発表、討論参加等）やレポート・小論文等によりますが、詳しくは、担当教員が個別に指示します。 |

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

## 教科書 / Textbooks

『産業社会学部で学ぶー産業社会学部ハンドブック』など

## 参考書 / Reference Books

## 参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

## その他 / Others

## 基礎演習I 12

12096

担当者名 / Instructor 坂田 謙司

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Description

基礎演習は、1回生全員が指定されたクラスに分かれ、それぞれのクラスで学生たちが協同して学んでいく演習スタイルの科目です。「テーマの発見」「テーマの追究」の手法を学び、身につけていくこと、つまり、産業社会学部において、主体的に学んでいくための方法を理解していくことが主たる狙いです。①意味あるテーマをいかに発見するか、②文献調査やフィールド調査・アンケート調査などによって、いかにテーマに接近していくかについて、グループ討論やクラス発表にもとづく討論を実施しながら、実感的に理解を深めていきます。アクティブラーニングとしての積極的な参加がもとめられる科目です。

基礎演習の学習内容や進め方については、担当教員が責任をもってあたりますが、全体で共通な事項については「基礎演習ガイドライン」がつけられていますので、良く読んでおいて下さい。

## 到達目標 / Focus and Goal

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enrolle in, but not required to

前期には、各クラス4名程度のエンター（上回生のボランティア学生）が、後期のクラスには、院生がTA（ティーチング・アシスタント）として参加し、学習やクラスの運営に協力し、学生の支援に当たりますので、いろいろ相談して下さい。

## 授業スケジュール / Schedule

| 授業日 (第N回) | テーマ / Theme                       | キーワード / Key Word |
|-----------|-----------------------------------|------------------|
| 1         | 授業の進め方、運営方法については各担当教員の指示に従ってください。 |                  |

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

| 種別 / Kind | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc.                                                          |
|-----------|-----------------|----------------------------------------------------------------------------------------|
| 日常点       | 100 %           | 開講回数の2/3以上の出席が評価対象の要件となります。評価方法は、平常点（班学習、発表、討論参加等）やレポート・小論文等によりますが、詳しくは、担当教員が個別に指示します。 |

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

## 教科書 / Textbooks

『産業社会学部で学ぶー産業社会学部ハンドブック』など

## 参考書 / Reference Books

## 参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

## その他 / Others

## 基礎演習I 13

12097

担当者名 / Instructor 小泉 秀昭

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Description

基礎演習は、1回生全員が指定されたクラスに分かれ、それぞれのクラスで学生たちが協同して学んでいく演習スタイルの科目です。「テーマの発見」「テーマの追究」の手法を学び、身につけていくこと、つまり、産業社会学部において、主体的に学んでいくための方法を理解していくことが主たる狙いです。①意味あるテーマをいかに発見するか、②文献調査やフィールド調査・アンケート調査などによって、いかにテーマに接近していくかについて、グループ討論やクラス発表にもとづく討論を実施しながら、実感的に理解を深めていきます。アクティブラーニングとしての積極的な参加がもとめられる科目です。

基礎演習の学習内容や進め方については、担当教員が責任をもってあたりますが、全体で共通な事項については「基礎演習ガイドライン」がつけられていますので、良く読んでおいて下さい。

## 到達目標 / Focus and Goal

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

前期には、各クラス4名程度のエンター（上回生のボランティア学生）が、後期のクラスには、院生がTA（ティーチング・アシスタント）として参加し、学習やクラスの運営に協力し、学生の支援に当たりますので、いろいろ相談して下さい。

## 授業スケジュール / Schedule

| 授業日 (第N回) | テーマ / Theme                       | キーワード / Key Word |
|-----------|-----------------------------------|------------------|
| 1         | 授業の進め方、運営方法については各担当教員の指示に従ってください。 |                  |

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

| 種別 / Kind | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc.                                                          |
|-----------|-----------------|----------------------------------------------------------------------------------------|
| 日常点       | 100 %           | 開講回数の2/3以上の出席が評価対象の要件となります。評価方法は、平常点（班学習、発表、討論参加等）やレポート・小論文等によりますが、詳しくは、担当教員が個別に指示します。 |

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

## 教科書 / Textbooks

『産業社会学部で学ぶー産業社会学部ハンドブック』など

## 参考書 / Reference Books

## 参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

## その他 / Others

## 基礎演習Ⅰ 14

12098

担当者名 / Instructor 山下 高行

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Description

基礎演習は、1 回生全員が指定されたクラスに分かれ、それぞれのクラスで学生たちが協同して学んでいく演習スタイルの科目です。「テーマの発見」「テーマの追究」の手法を学び、身につけていくこと、つまり、産業社会学部において、主体的に学んでいくための方法を理解していくことが主たる狙いです。①意味あるテーマをいかに発見するか、②文献調査やフィールド調査・アンケート調査などによって、いかにテーマに接近していくかについて、グループ討論やクラス発表にもとづく討論を実施しながら、実感的に理解を深めていきます。アクティブラーニングとしての積極的な参加がもとめられる科目です。

基礎演習の学習内容や進め方については、担当教員が責任をもってあたりますが、全体で共通な事項については「基礎演習ガイドライン」がつけられていますので、良く読んでおいて下さい。

## 到達目標 / Focus and Goal

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

前期には、各クラス4名程度のエンター（上回生のボランティア学生）が、後期のクラスには、院生がTA（ティーチング・アシスタント）として参加し、学習やクラスの運営に協力し、学生の支援に当たりますので、いろいろ相談して下さい。

## 授業スケジュール / Schedule

| 授業日 (第N回) | テーマ / Theme                       | キーワード / Key Word |
|-----------|-----------------------------------|------------------|
| 1         | 授業の進め方、運営方法については各担当教員の指示に従ってください。 |                  |

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

| 種別 / Kind | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc.                                                          |
|-----------|-----------------|----------------------------------------------------------------------------------------|
| 日常点       | 100 %           | 開講回数の2/3以上の出席が評価対象の要件となります。評価方法は、平常点（班学習、発表、討論参加等）やレポート・小論文等によりますが、詳しくは、担当教員が個別に指示します。 |

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

## 教科書 / Textbooks

『産業社会学部で学ぶー産業社会学部ハンドブック』など

## 参考書 / Reference Books

## 参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

## その他 / Others

## 基礎演習Ⅰ 15

12099

担当者名 / Instructor 柳澤 伸司

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Description

基礎演習は、1回生全員が指定されたクラスに分かれ、それぞれのクラスで学生たちが協同して学んでいく演習スタイルの科目です。「テーマの発見」「テーマの追究」の手法を学び、身につけていくこと、つまり、産業社会学部において、主体的に学んでいくための方法を理解していくことが主たる狙いです。①意味あるテーマをいかに発見するか、②文献調査やフィールド調査・アンケート調査などによって、いかにテーマに接近していくかについて、グループ討論やクラス発表にもとづく討論を実施しながら、実感的に理解を深めていきます。アクティブラーニングとしての積極的な参加がもとめられる科目です。

基礎演習の学習内容や進め方については、担当教員が責任をもってあたりますが、全体で共通な事項については「基礎演習ガイドライン」がつけられていますので、良く読んでおいて下さい。

## 到達目標 / Focus and Goal

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

前期には、各クラス4名程度のエンター（上回生のボランティア学生）が、後期のクラスには、院生がTA（ティーチング・アシスタント）として参加し、学習やクラスの運営に協力し、学生の支援に当たりますので、いろいろ相談して下さい。

## 授業スケジュール / Schedule

| 授業日 (第N回) | テーマ / Theme                       | キーワード / Key Word |
|-----------|-----------------------------------|------------------|
| 1         | 授業の進め方、運営方法については各担当教員の指示に従ってください。 |                  |

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

| 種別 / Kind | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc.                                                          |
|-----------|-----------------|----------------------------------------------------------------------------------------|
| 日常点       | 100 %           | 開講回数の2/3以上の出席が評価対象の要件となります。評価方法は、平常点（班学習、発表、討論参加等）やレポート・小論文等によりますが、詳しくは、担当教員が個別に指示します。 |

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

## 教科書 / Textbooks

『産業社会学部で学ぶー産業社会学部ハンドブック』など

## 参考書 / Reference Books

## 参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

## その他 / Others

## 基礎演習Ⅰ 16

12100

担当者名 / Instructor 筒井 淳也

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Description

基礎演習は、1 回生全員が指定されたクラスに分かれ、それぞれのクラスで学生たちが協同して学んでいく演習スタイルの科目です。「テーマの発見」「テーマの追究」の手法を学び、身につけていくこと、つまり、産業社会学部において、主体的に学んでいくための方法を理解していくことが主たる狙いです。①意味あるテーマをいかに発見するか、②文献調査やフィールド調査・アンケート調査などによって、いかにテーマに接近していくかについて、グループ討論やクラス発表にもとづく討論を実施しながら、実感的に理解を深めていきます。アクティブラーニングとしての積極的な参加がもとめられる科目です。

基礎演習の学習内容や進め方については、担当教員が責任をもってあたりますが、全体で共通な事項については「基礎演習ガイドライン」がつけられていますので、良く読んでおいて下さい。

## 到達目標 / Focus and Goal

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

前期には、各クラス4名程度のエンター（上回生のボランティア学生）が、後期のクラスには、院生がTA（ティーチング・アシスタント）として参加し、学習やクラスの運営に協力し、学生の支援に当たりますので、いろいろ相談して下さい。

## 授業スケジュール / Schedule

| 授業日 (第N回) | テーマ / Theme                       | キーワード / Key Word |
|-----------|-----------------------------------|------------------|
| 1         | 授業の進め方、運営方法については各担当教員の指示に従ってください。 |                  |

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

| 種別 / Kind | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc.                                                          |
|-----------|-----------------|----------------------------------------------------------------------------------------|
| 日常点       | 100 %           | 開講回数の2/3以上の出席が評価対象の要件となります。評価方法は、平常点（班学習、発表、討論参加等）やレポート・小論文等によりますが、詳しくは、担当教員が個別に指示します。 |

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

## 教科書 / Textbooks

『産業社会学部で学ぶー産業社会学部ハンドブック』など

## 参考書 / Reference Books

## 参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

## その他 / Others



## 基礎演習Ⅰ 17

12101

担当者名 / Instructor 宝月 誠

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Description

基礎演習は、1 回生全員が指定されたクラスに分かれ、それぞれのクラスで学生たちが協同して学んでいく演習スタイルの科目です。「テーマの発見」「テーマの追究」の手法を学び、身につけていくこと、つまり、産業社会学部において、主体的に学んでいくための方法を理解していくことが主たる狙いです。①意味あるテーマをいかに発見するか、②文献調査やフィールド調査・アンケート調査などによって、いかにテーマに接近していくかについて、グループ討論やクラス発表にもとづく討論を実施しながら、実感的に理解を深めていきます。アクティブラーニングとしての積極的な参加がもとめられる科目です。

基礎演習の学習内容や進め方については、担当教員が責任をもってあたりますが、全体で共通な事項については「基礎演習ガイドライン」がつけられていますので、良く読んでおいて下さい。

## 到達目標 / Focus and Goal

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

前期には、各クラス4名程度のエンター（上回生のボランティア学生）が、後期のクラスには、院生がTA（ティーチング・アシスタント）として参加し、学習やクラスの運営に協力し、学生の支援に当たりますので、いろいろ相談して下さい。

## 授業スケジュール / Schedule

| 授業日 (第N回) | テーマ / Theme                       | キーワード / Key Word |
|-----------|-----------------------------------|------------------|
| 1         | 授業の進め方、運営方法については各担当教員の指示に従ってください。 |                  |

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

| 種別 / Kind | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc.                                                          |
|-----------|-----------------|----------------------------------------------------------------------------------------|
| 日常点       | 100 %           | 開講回数の2/3以上の出席が評価対象の要件となります。評価方法は、平常点（班学習、発表、討論参加等）やレポート・小論文等によりますが、詳しくは、担当教員が個別に指示します。 |

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

## 教科書 / Textbooks

『産業社会学部で学ぶー産業社会学部ハンドブック』など

## 参考書 / Reference Books

## 参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

## その他 / Others

## 基礎演習Ⅰ 18

12102

担当者名 / Instructor 仲間 裕子

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Description

基礎演習は、1回生全員が指定されたクラスに分かれ、それぞれのクラスで学生たちが協同して学んでいく演習スタイルの科目です。「テーマの発見」「テーマの追究」の手法を学び、身につけていくこと、つまり、産業社会学部において、主体的に学んでいくための方法を理解していくことが主たる狙いです。①意味あるテーマをいかに発見するか、②文献調査やフィールド調査・アンケート調査などによって、いかにテーマに接近していくかについて、グループ討論やクラス発表にもとづく討論を実施しながら、実感的に理解を深めていきます。アクティブラーニングとしての積極的な参加がもとめられる科目です。

基礎演習の学習内容や進め方については、担当教員が責任をもってあたりますが、全体で共通な事項については「基礎演習ガイドライン」がつけられていますので、良く読んでおいて下さい。

## 到達目標 / Focus and Goal

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

前期には、各クラス4名程度のエンター（上回生のボランティア学生）が、後期のクラスには、院生がTA（ティーチング・アシスタント）として参加し、学習やクラスの運営に協力し、学生の支援に当たりますので、いろいろ相談して下さい。

## 授業スケジュール / Schedule

| 授業日 (第N回) | テーマ / Theme                       | キーワード / Key Word |
|-----------|-----------------------------------|------------------|
| 1         | 授業の進め方、運営方法については各担当教員の指示に従ってください。 |                  |

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

| 種別 / Kind | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc.                                                          |
|-----------|-----------------|----------------------------------------------------------------------------------------|
| 日常点       | 100 %           | 開講回数の2/3以上の出席が評価対象の要件となります。評価方法は、平常点（班学習、発表、討論参加等）やレポート・小論文等によりますが、詳しくは、担当教員が個別に指示します。 |

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

## 教科書 / Textbooks

『産業社会学部で学ぶー産業社会学部ハンドブック』など

## 参考書 / Reference Books

## 参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

## その他 / Others

## 基礎演習I 19

12112

担当者名 / Instructor 森西 真弓

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Description

基礎演習は、1回生全員が指定されたクラスに分かれ、それぞれのクラスで学生たちが協同して学んでいく演習スタイルの科目です。「テーマの発見」「テーマの追究」の手法を学び、身につけていくこと、つまり、産業社会学部において、主体的に学んでいくための方法を理解していくことが主たる狙いです。①意味あるテーマをいかに発見するか、②文献調査やフィールド調査・アンケート調査などによって、いかにテーマに接近していくかについて、グループ討論やクラス発表にもとづく討論を実施しながら、実感的に理解を深めていきます。アクティブラーニングとしての積極的な参加がもとめられる科目です。

基礎演習の学習内容や進め方については、担当教員が責任をもってあたりますが、全体で共通な事項については「基礎演習ガイドライン」がつけられていますので、良く読んでおいて下さい。

## 到達目標 / Focus and Goal

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

前期には、各クラス4名程度のエンター（上回生のボランティア学生）が、後期のクラスには、院生がTA（ティーチング・アシスタント）として参加し、学習やクラスの運営に協力し、学生の支援に当たりますので、いろいろ相談して下さい。

## 授業スケジュール / Schedule

| 授業日 (第N回) | テーマ / Theme                       | キーワード / Key Word |
|-----------|-----------------------------------|------------------|
| 1         | 授業の進め方、運営方法については各担当教員の指示に従ってください。 |                  |

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

| 種別 / Kind | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc.                                                          |
|-----------|-----------------|----------------------------------------------------------------------------------------|
| 日常点       | 100 %           | 開講回数の2/3以上の出席が評価対象の要件となります。評価方法は、平常点（班学習、発表、討論参加等）やレポート・小論文等によりますが、詳しくは、担当教員が個別に指示します。 |

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

## 教科書 / Textbooks

『産業社会学部で学ぶー産業社会学部ハンドブック』など

## 参考書 / Reference Books

## 参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

## その他 / Others

## 基礎演習I 20

12103

担当者名 / Instructor 金井 淳二

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Description

基礎演習は、1回生全員が指定されたクラスに分かれ、それぞれのクラスで学生たちが協同して学んでいく演習スタイルの科目です。「テーマの発見」「テーマの追究」の手法を学び、身につけていくこと、つまり、産業社会学部において、主体的に学んでいくための方法を理解していくことが主たる狙いです。①意味あるテーマをいかに発見するか、②文献調査やフィールド調査・アンケート調査などによって、いかにテーマに接近していくかについて、グループ討論やクラス発表にもとづく討論を実施しながら、実感的に理解を深めていきます。アクティブラーニングとしての積極的な参加がもとめられる科目です。

基礎演習の学習内容や進め方については、担当教員が責任をもってあたりますが、全体で共通な事項については「基礎演習ガイドライン」がつけられていますので、良く読んでおいて下さい。

## 到達目標 / Focus and Goal

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

前期には、各クラス4名程度のエンター（上回生のボランティア学生）が、後期のクラスには、院生がTA（ティーチング・アシスタント）として参加し、学習やクラスの運営に協力し、学生の支援に当たりますので、いろいろ相談して下さい。

## 授業スケジュール / Schedule

| 授業日 (第N回) | テーマ / Theme                       | キーワード / Key Word |
|-----------|-----------------------------------|------------------|
| 1         | 授業の進め方、運営方法については各担当教員の指示に従ってください。 |                  |

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

| 種別 / Kind | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc.                                                          |
|-----------|-----------------|----------------------------------------------------------------------------------------|
| 日常点       | 100 %           | 開講回数の2/3以上の出席が評価対象の要件となります。評価方法は、平常点（班学習、発表、討論参加等）やレポート・小論文等によりますが、詳しくは、担当教員が個別に指示します。 |

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

## 教科書 / Textbooks

『産業社会学部で学ぶー産業社会学部ハンドブック』など

## 参考書 / Reference Books

## 参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

## その他 / Others

## 基礎演習I 21

12104

担当者名 / Instructor 草深 直臣

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Description

基礎演習は、1回生全員が指定されたクラスに分かれ、それぞれのクラスで学生たちが協同して学んでいく演習スタイルの科目です。「テーマの発見」「テーマの追究」の手法を学び、身につけていくこと、つまり、産業社会学部において、主体的に学んでいくための方法を理解していくことが主たる狙いです。①意味あるテーマをいかに発見するか、②文献調査やフィールド調査・アンケート調査などによって、いかにテーマに接近していくかについて、グループ討論やクラス発表にもとづく討論を実施しながら、実感的に理解を深めていきます。アクティブラーニングとしての積極的な参加がもとめられる科目です。

基礎演習の学習内容や進め方については、担当教員が責任をもってあたりますが、全体で共通な事項については「基礎演習ガイドライン」がつけられていますので、良く読んでおいて下さい。

## 到達目標 / Focus and Goal

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

前期には、各クラス4名程度のエンター（上回生のボランティア学生）が、後期のクラスには、院生がTA（ティーチング・アシスタント）として参加し、学習やクラスの運営に協力し、学生の支援に当たりますので、いろいろ相談して下さい。

## 授業スケジュール / Schedule

| 授業日 (第N回) | テーマ / Theme                       | キーワード / Key Word |
|-----------|-----------------------------------|------------------|
| 1         | 授業の進め方、運営方法については各担当教員の指示に従ってください。 |                  |

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

| 種別 / Kind | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc.                                                          |
|-----------|-----------------|----------------------------------------------------------------------------------------|
| 日常点       | 100 %           | 開講回数の2/3以上の出席が評価対象の要件となります。評価方法は、平常点（班学習、発表、討論参加等）やレポート・小論文等によりますが、詳しくは、担当教員が個別に指示します。 |

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

## 教科書 / Textbooks

『産業社会学部で学ぶー産業社会学部ハンドブック』など

## 参考書 / Reference Books

## 参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

## その他 / Others

## 基礎演習I 22

12105

担当者名 / Instructor 飯田 哲也

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Description

基礎演習は、1回生全員が指定されたクラスに分かれ、それぞれのクラスで学生たちが協同して学んでいく演習スタイルの科目です。「テーマの発見」「テーマの追究」の手法を学び、身につけていくこと、つまり、産業社会学部において、主体的に学んでいくための方法を理解していくことが主たる狙いです。①意味あるテーマをいかに発見するか、②文献調査やフィールド調査・アンケート調査などによって、いかにテーマに接近していくかについて、グループ討論やクラス発表にもとづく討論を実施しながら、実感的に理解を深めていきます。アクティブラーニングとしての積極的な参加がもとめられる科目です。

基礎演習の学習内容や進め方については、担当教員が責任をもってあたりますが、全体で共通な事項については「基礎演習ガイドライン」がつけられていますので、良く読んでおいて下さい。

## 到達目標 / Focus and Goal

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enrolle in, but not required to

前期には、各クラス4名程度のエンター（上回生のボランティア学生）が、後期のクラスには、院生がTA（ティーチング・アシスタント）として参加し、学習やクラスの運営に協力し、学生の支援に当たりますので、いろいろ相談して下さい。

## 授業スケジュール / Schedule

| 授業日 (第N回) | テーマ / Theme                       | キーワード / Key Word |
|-----------|-----------------------------------|------------------|
| 1         | 授業の進め方、運営方法については各担当教員の指示に従ってください。 |                  |

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

| 種別 / Kind | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc.                                                            |
|-----------|-----------------|------------------------------------------------------------------------------------------|
| 日常点       | 100 %           | 開講回数の2/3以上の出席が評価対象の要件となります。評価方法は、平常点 (班学習、発表、討論参加等) やレポート・小論文等によりますが、詳しくは、担当教員が個別に指示します。 |

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

## 教科書 / Textbooks

『産業社会学部で学ぶー産業社会学部ハンドブック』など

## 参考書 / Reference Books

## 参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

## その他 / Others

## 基礎演習I 23

12106

担当者名 / Instructor 崎山 治男

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Description

基礎演習は、1回生全員が指定されたクラスに分かれ、それぞれのクラスで学生たちが協同して学んでいく演習スタイルの科目です。「テーマの発見」「テーマの追究」の手法を学び、身につけていくこと、つまり、産業社会学部において、主体的に学んでいくための方法を理解していくことが主たる狙いです。①意味あるテーマをいかに発見するか、②文献調査やフィールド調査・アンケート調査などによって、いかにテーマに接近していくかについて、グループ討論やクラス発表にもとづく討論を実施しながら、実感的に理解を深めていきます。アクティブラーニングとしての積極的な参加がもとめられる科目です。

基礎演習の学習内容や進め方については、担当教員が責任をもってあたりますが、全体で共通な事項については「基礎演習ガイドライン」がつけられていますので、良く読んでおいて下さい。

## 到達目標 / Focus and Goal

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

前期には、各クラス4名程度のエンター（上回生のボランティア学生）が、後期のクラスには、院生がTA（ティーチング・アシスタント）として参加し、学習やクラスの運営に協力し、学生の支援に当たりますので、いろいろ相談して下さい。

## 授業スケジュール / Schedule

| 授業日 (第N回) | テーマ / Theme                       | キーワード / Key Word |
|-----------|-----------------------------------|------------------|
| 1         | 授業の進め方、運営方法については各担当教員の指示に従ってください。 |                  |

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

| 種別 / Kind | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc.                                                          |
|-----------|-----------------|----------------------------------------------------------------------------------------|
| 日常点       | 100 %           | 開講回数の2/3以上の出席が評価対象の要件となります。評価方法は、平常点（班学習、発表、討論参加等）やレポート・小論文等によりますが、詳しくは、担当教員が個別に指示します。 |

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

## 教科書 / Textbooks

『産業社会学部で学ぶー産業社会学部ハンドブック』など

## 参考書 / Reference Books

## 参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

## その他 / Others

## 基礎演習I 24

12084

担当者名 / Instructor 芝田 英昭

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Description

基礎演習は、1回生全員が指定されたクラスに分かれ、それぞれのクラスで学生たちが協同して学んでいく演習スタイルの科目です。「テーマの発見」「テーマの追究」の手法を学び、身につけていくこと、つまり、産業社会学部において、主体的に学んでいくための方法を理解していくことが主たる狙いです。①意味あるテーマをいかに発見するか、②文献調査やフィールド調査・アンケート調査などによって、いかにテーマに接近していくかについて、グループ討論やクラス発表にもとづく討論を実施しながら、実感的に理解を深めていきます。アクティブラーニングとしての積極的な参加がもとめられる科目です。

基礎演習の学習内容や進め方については、担当教員が責任をもってあたりますが、全体で共通な事項については「基礎演習ガイドライン」がつけられていますので、良く読んでおいて下さい。

## 到達目標 / Focus and Goal

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

前期には、各クラス4名程度のエンター（上回生のボランティア学生）が、後期のクラスには、院生がTA（ティーチング・アシスタント）として参加し、学習やクラスの運営に協力し、学生の支援に当たりますので、いろいろ相談して下さい。

## 授業スケジュール / Schedule

| 授業日 (第N回) | テーマ / Theme                       | キーワード / Key Word |
|-----------|-----------------------------------|------------------|
| 1         | 授業の進め方、運営方法については各担当教員の指示に従ってください。 |                  |

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

| 種別 / Kind | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc.                                                          |
|-----------|-----------------|----------------------------------------------------------------------------------------|
| 日常点       | 100 %           | 開講回数の2/3以上の出席が評価対象の要件となります。評価方法は、平常点（班学習、発表、討論参加等）やレポート・小論文等によりますが、詳しくは、担当教員が個別に指示します。 |

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

## 教科書 / Textbooks

『産業社会学部で学ぶー産業社会学部ハンドブック』など

## 参考書 / Reference Books

## 参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

## その他 / Others



## 基礎演習I 25

12107

担当者名 / Instructor 櫻谷 真理子

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Description

基礎演習は、1回生全員が指定されたクラスに分かれ、それぞれのクラスで学生たちが協同して学んでいく演習スタイルの科目です。「テーマの発見」「テーマの追究」の手法を学び、身につけていくこと、つまり、産業社会学部において、主体的に学んでいくための方法を理解していくことが主たる狙いです。①意味あるテーマをいかに発見するか、②文献調査やフィールド調査・アンケート調査などによって、いかにテーマに接近していくかについて、グループ討論やクラス発表にもとづく討論を実施しながら、実感的に理解を深めていきます。アクティブラーニングとしての積極的な参加がもとめられる科目です。

基礎演習の学習内容や進め方については、担当教員が責任をもってあたりますが、全体で共通な事項については「基礎演習ガイドライン」がつけられていますので、良く読んでおいて下さい。

## 到達目標 / Focus and Goal

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

前期には、各クラス4名程度のエンター（上回生のボランティア学生）が、後期のクラスには、院生がTA（ティーチング・アシスタント）として参加し、学習やクラスの運営に協力し、学生の支援に当たりますので、いろいろ相談して下さい。

## 授業スケジュール / Schedule

| 授業日 (第N回) | テーマ / Theme                       | キーワード / Key Word |
|-----------|-----------------------------------|------------------|
| 1         | 授業の進め方、運営方法については各担当教員の指示に従ってください。 |                  |

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

| 種別 / Kind | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc.                                                          |
|-----------|-----------------|----------------------------------------------------------------------------------------|
| 日常点       | 100 %           | 開講回数の2/3以上の出席が評価対象の要件となります。評価方法は、平常点（班学習、発表、討論参加等）やレポート・小論文等によりますが、詳しくは、担当教員が個別に指示します。 |

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

## 教科書 / Textbooks

『産業社会学部で学ぶー産業社会学部ハンドブック』など

## 参考書 / Reference Books

## 参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

## その他 / Others

## 基礎演習I 26

12108

担当者名 / Instructor 秋葉 武

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Description

基礎演習は、1回生全員が指定されたクラスに分かれ、それぞれのクラスで学生たちが協同して学んでいく演習スタイルの科目です。「テーマの発見」「テーマの追究」の手法を学び、身につけていくこと、つまり、産業社会学部において、主体的に学んでいくための方法を理解していくことが主たる狙いです。①意味あるテーマをいかに発見するか、②文献調査やフィールド調査・アンケート調査などによって、いかにテーマに接近していくかについて、グループ討論やクラス発表にもとづく討論を実施しながら、実感的に理解を深めていきます。アクティブラーニングとしての積極的な参加がもとめられる科目です。

基礎演習の学習内容や進め方については、担当教員が責任をもってあたりますが、全体で共通な事項については「基礎演習ガイドライン」がつけられていますので、良く読んでおいて下さい。

## 到達目標 / Focus and Goal

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

前期には、各クラス4名程度のエンター（上回生のボランティア学生）が、後期のクラスには、院生がTA（ティーチング・アシスタント）として参加し、学習やクラスの運営に協力し、学生の支援に当たりますので、いろいろ相談して下さい。

## 授業スケジュール / Schedule

| 授業日 (第N回) | テーマ / Theme                       | キーワード / Key Word |
|-----------|-----------------------------------|------------------|
| 1         | 授業の進め方、運営方法については各担当教員の指示に従ってください。 |                  |

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

| 種別 / Kind | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc.                                                          |
|-----------|-----------------|----------------------------------------------------------------------------------------|
| 日常点       | 100 %           | 開講回数の2/3以上の出席が評価対象の要件となります。評価方法は、平常点（班学習、発表、討論参加等）やレポート・小論文等によりますが、詳しくは、担当教員が個別に指示します。 |

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

## 教科書 / Textbooks

『産業社会学部で学ぶー産業社会学部ハンドブック』など

## 参考書 / Reference Books

## 参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

## その他 / Others

## 基礎演習I 27

12109

担当者名 / Instructor 峰島 厚

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Description

基礎演習は、1回生全員が指定されたクラスに分かれ、それぞれのクラスで学生たちが協同して学んでいく演習スタイルの科目です。「テーマの発見」「テーマの追究」の手法を学び、身につけていくこと、つまり、産業社会学部において、主体的に学んでいくための方法を理解していくことが主たる狙いです。①意味あるテーマをいかに発見するか、②文献調査やフィールド調査・アンケート調査などによって、いかにテーマに接近していくかについて、グループ討論やクラス発表にもとづく討論を実施しながら、実感的に理解を深めていきます。アクティブラーニングとしての積極的な参加がもとめられる科目です。

基礎演習の学習内容や進め方については、担当教員が責任をもってあたりますが、全体で共通な事項については「基礎演習ガイドライン」がつけられていますので、良く読んでおいて下さい。

## 到達目標 / Focus and Goal

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

前期には、各クラス4名程度のエンター（上回生のボランティア学生）が、後期のクラスには、院生がTA（ティーチング・アシスタント）として参加し、学習やクラスの運営に協力し、学生の支援に当たりますので、いろいろ相談して下さい。

## 授業スケジュール / Schedule

| 授業日 (第N回) | テーマ / Theme                       | キーワード / Key Word |
|-----------|-----------------------------------|------------------|
| 1         | 授業の進め方、運営方法については各担当教員の指示に従ってください。 |                  |

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

| 種別 / Kind | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc.                                                          |
|-----------|-----------------|----------------------------------------------------------------------------------------|
| 日常点       | 100 %           | 開講回数の2/3以上の出席が評価対象の要件となります。評価方法は、平常点（班学習、発表、討論参加等）やレポート・小論文等によりますが、詳しくは、担当教員が個別に指示します。 |

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

## 教科書 / Textbooks

『産業社会学部で学ぶー産業社会学部ハンドブック』など

## 参考書 / Reference Books

## 参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

## その他 / Others

## 基礎演習I 28

12111

担当者名 / Instructor 小川 栄二

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Description

基礎演習は、1回生全員が指定されたクラスに分かれ、それぞれのクラスで学生たちが協同して学んでいく演習スタイルの科目です。「テーマの発見」「テーマの追究」の手法を学び、身につけていくこと、つまり、産業社会学部において、主体的に学んでいくための方法を理解していくことが主たる狙いです。①意味あるテーマをいかに発見するか、②文献調査やフィールド調査・アンケート調査などによって、いかにテーマに接近していくかについて、グループ討論やクラス発表にもとづく討論を実施しながら、実感的に理解を深めていきます。アクティブラーニングとしての積極的な参加がもとめられる科目です。

基礎演習の学習内容や進め方については、担当教員が責任をもってあたりますが、全体で共通な事項については「基礎演習ガイドライン」がつけられていますので、良く読んでおいて下さい。

## 到達目標 / Focus and Goal

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

前期には、各クラス4名程度のエンター（上回生のボランティア学生）が、後期のクラスには、院生がTA（ティーチング・アシスタント）として参加し、学習やクラスの運営に協力し、学生の支援に当たりますので、いろいろ相談して下さい。

## 授業スケジュール / Schedule

| 授業日 (第N回) | テーマ / Theme                       | キーワード / Key Word |
|-----------|-----------------------------------|------------------|
| 1         | 授業の進め方、運営方法については各担当教員の指示に従ってください。 |                  |

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

| 種別 / Kind | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc.                                                          |
|-----------|-----------------|----------------------------------------------------------------------------------------|
| 日常点       | 100 %           | 開講回数の2/3以上の出席が評価対象の要件となります。評価方法は、平常点（班学習、発表、討論参加等）やレポート・小論文等によりますが、詳しくは、担当教員が個別に指示します。 |

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

## 教科書 / Textbooks

『産業社会学部で学ぶー産業社会学部ハンドブック』など

## 参考書 / Reference Books

## 参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

## その他 / Others

## 基礎演習I 29

12110

担当者名 / Instructor 生田 正幸

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Description

基礎演習は、1回生全員が指定されたクラスに分かれ、それぞれのクラスで学生たちが協同して学んでいく演習スタイルの科目です。「テーマの発見」「テーマの追究」の手法を学び、身につけていくこと、つまり、産業社会学部において、主体的に学んでいくための方法を理解していくことが主たる狙いです。①意味あるテーマをいかに発見するか、②文献調査やフィールド調査・アンケート調査などによって、いかにテーマに接近していくかについて、グループ討論やクラス発表にもとづく討論を実施しながら、実感的に理解を深めていきます。アクティブラーニングとしての積極的な参加がもとめられる科目です。

基礎演習の学習内容や進め方については、担当教員が責任をもってあたりますが、全体で共通な事項については「基礎演習ガイドライン」がつけられていますので、良く読んでおいて下さい。

## 到達目標 / Focus and Goal

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

前期には、各クラス4名程度のエンター（上回生のボランティア学生）が、後期のクラスには、院生がTA（ティーチング・アシスタント）として参加し、学習やクラスの運営に協力し、学生の支援に当たりますので、いろいろ相談して下さい。

## 授業スケジュール / Schedule

| 授業日 (第N回) | テーマ / Theme                       | キーワード / Key Word |
|-----------|-----------------------------------|------------------|
| 1         | 授業の進め方、運営方法については各担当教員の指示に従ってください。 |                  |

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

| 種別 / Kind | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc.                                                          |
|-----------|-----------------|----------------------------------------------------------------------------------------|
| 日常点       | 100 %           | 開講回数の2/3以上の出席が評価対象の要件となります。評価方法は、平常点（班学習、発表、討論参加等）やレポート・小論文等によりますが、詳しくは、担当教員が個別に指示します。 |

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

## 教科書 / Textbooks

『産業社会学部で学ぶー産業社会学部ハンドブック』など

## 参考書 / Reference Books

## 参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

## その他 / Others

## 基礎演習I 30

12113

担当者名 / Instructor 竹濱 朝美

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Description

基礎演習は、1回生全員が指定されたクラスに分かれ、それぞれのクラスで学生たちが協同して学んでいく演習スタイルの科目です。「テーマの発見」「テーマの追究」の手法を学び、身につけていくこと、つまり、産業社会学部において、主体的に学んでいくための方法を理解していくことが主たる狙いです。①意味あるテーマをいかに発見するか、②文献調査やフィールド調査・アンケート調査などによって、いかにテーマに接近していくかについて、グループ討論やクラス発表にもとづく討論を実施しながら、実感的に理解を深めていきます。アクティブラーニングとしての積極的な参加がもとめられる科目です。

基礎演習の学習内容や進め方については、担当教員が責任をもってあたりますが、全体で共通な事項については「基礎演習ガイドライン」がつけられていますので、良く読んでおいて下さい。

## 到達目標 / Focus and Goal

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

前期には、各クラス4名程度のエンター（上回生のボランティア学生）が、後期のクラスには、院生がTA（ティーチング・アシスタント）として参加し、学習やクラスの運営に協力し、学生の支援に当たりますので、いろいろ相談して下さい。

## 授業スケジュール / Schedule

| 授業日 (第N回) | テーマ / Theme                       | キーワード / Key Word |
|-----------|-----------------------------------|------------------|
| 1         | 授業の進め方、運営方法については各担当教員の指示に従ってください。 |                  |

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

| 種別 / Kind | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc.                                                          |
|-----------|-----------------|----------------------------------------------------------------------------------------|
| 日常点       | 100 %           | 開講回数の2/3以上の出席が評価対象の要件となります。評価方法は、平常点（班学習、発表、討論参加等）やレポート・小論文等によりますが、詳しくは、担当教員が個別に指示します。 |

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

## 教科書 / Textbooks

『産業社会学部で学ぶー産業社会学部ハンドブック』など

## 参考書 / Reference Books

## 参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

## その他 / Others

## 基礎演習I 31

12118

担当者名 / Instructor 奥村 信幸

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Description

基礎演習は、1回生全員が指定されたクラスに分かれ、それぞれのクラスで学生たちが協同して学んでいく演習スタイルの科目です。「テーマの発見」「テーマの追究」の手法を学び、身につけていくこと、つまり、産業社会学部において、主体的に学んでいくための方法を理解していくことが主たる狙いです。①意味あるテーマをいかに発見するか、②文献調査やフィールド調査・アンケート調査などによって、いかにテーマに接近していくかについて、グループ討論やクラス発表にもとづく討論を実施しながら、実感的に理解を深めていきます。アクティブラーニングとしての積極的な参加がもとめられる科目です。

基礎演習の学習内容や進め方については、担当教員が責任をもってあたりますが、全体で共通な事項については「基礎演習ガイドライン」がつけられていますので、良く読んでおいて下さい。

## 到達目標 / Focus and Goal

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enrolle in, but not required to

前期には、各クラス4名程度のエンター（上回生のボランティア学生）が、後期のクラスには、院生がTA（ティーチング・アシスタント）として参加し、学習やクラスの運営に協力し、学生の支援に当たりますので、いろいろ相談して下さい。

## 授業スケジュール / Schedule

| 授業日 (第N回) | テーマ / Theme                       | キーワード / Key Word |
|-----------|-----------------------------------|------------------|
| 1         | 授業の進め方、運営方法については各担当教員の指示に従ってください。 |                  |

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

| 種別 / Kind | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc.                                                            |
|-----------|-----------------|------------------------------------------------------------------------------------------|
| 日常点       | 100 %           | 開講回数の2/3以上の出席が評価対象の要件となります。評価方法は、平常点 (班学習、発表、討論参加等) やレポート・小論文等によりますが、詳しくは、担当教員が個別に指示します。 |

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

## 教科書 / Textbooks

『産業社会学部で学ぶー産業社会学部ハンドブック』など

## 参考書 / Reference Books

## 参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

## その他 / Others

## 基礎演習I 32

12119

担当者名 / Instructor 奥川 櫻豊彦

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Description

基礎演習は、1回生全員が指定されたクラスに分かれ、それぞれのクラスで学生たちが協同して学んでいく演習スタイルの科目です。「テーマの発見」「テーマの追究」の手法を学び、身につけていくこと、つまり、産業社会学部において、主体的に学んでいくための方法を理解していくことが主たる狙いです。①意味あるテーマをいかに発見するか、②文献調査やフィールド調査・アンケート調査などによって、いかにテーマに接近していくかについて、グループ討論やクラス発表にもとづく討論を実施しながら、実感的に理解を深めていきます。アクティブラーニングとしての積極的な参加がもとめられる科目です。

基礎演習の学習内容や進め方については、担当教員が責任をもってあたりますが、全体で共通な事項については「基礎演習ガイドライン」がつけられていますので、良く読んでおいて下さい。

## 到達目標 / Focus and Goal

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

前期には、各クラス4名程度のエンター（上回生のボランティア学生）が、後期のクラスには、院生がTA（ティーチング・アシスタント）として参加し、学習やクラスの運営に協力し、学生の支援に当たりますので、いろいろ相談して下さい。

## 授業スケジュール / Schedule

| 授業日 (第N回) | テーマ / Theme                       | キーワード / Key Word |
|-----------|-----------------------------------|------------------|
| 1         | 授業の進め方、運営方法については各担当教員の指示に従ってください。 |                  |

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

| 種別 / Kind | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc.                                                          |
|-----------|-----------------|----------------------------------------------------------------------------------------|
| 日常点       | 100 %           | 開講回数の2/3以上の出席が評価対象の要件となります。評価方法は、平常点（班学習、発表、討論参加等）やレポート・小論文等によりますが、詳しくは、担当教員が個別に指示します。 |

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

## 教科書 / Textbooks

『産業社会学部で学ぶー産業社会学部ハンドブック』など

## 参考書 / Reference Books

## 参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

## その他 / Others



## 基礎演習I 33

12120

担当者名 / Instructor 前田 信彦

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Description

基礎演習は、1回生全員が指定されたクラスに分かれ、それぞれのクラスで学生たちが協同して学んでいく演習スタイルの科目です。「テーマの発見」「テーマの追究」の手法を学び、身につけていくこと、つまり、産業社会学部において、主体的に学んでいくための方法を理解していくことが主たる狙いです。①意味あるテーマをいかに発見するか、②文献調査やフィールド調査・アンケート調査などによって、いかにテーマに接近していくかについて、グループ討論やクラス発表にもとづく討論を実施しながら、実感的に理解を深めていきます。アクティブラーニングとしての積極的な参加がもとめられる科目です。

基礎演習の学習内容や進め方については、担当教員が責任をもってあたりますが、全体で共通な事項については「基礎演習ガイドライン」がつけられていますので、良く読んでおいて下さい。

## 到達目標 / Focus and Goal

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

前期には、各クラス4名程度のエンター（上回生のボランティア学生）が、後期のクラスには、院生がTA（ティーチング・アシスタント）として参加し、学習やクラスの運営に協力し、学生の支援に当たりますので、いろいろ相談して下さい。

## 授業スケジュール / Schedule

| 授業日 (第N回) | テーマ / Theme                       | キーワード / Key Word |
|-----------|-----------------------------------|------------------|
| 1         | 授業の進め方、運営方法については各担当教員の指示に従ってください。 |                  |

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

| 種別 / Kind | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc.                                                          |
|-----------|-----------------|----------------------------------------------------------------------------------------|
| 日常点       | 100 %           | 開講回数の2/3以上の出席が評価対象の要件となります。評価方法は、平常点（班学習、発表、討論参加等）やレポート・小論文等によりますが、詳しくは、担当教員が個別に指示します。 |

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

## 教科書 / Textbooks

『産業社会学部で学ぶー産業社会学部ハンドブック』など

## 参考書 / Reference Books

## 参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

## その他 / Others

## 基礎演習I 34

12121

担当者名 / Instructor 石倉 康次

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Description

基礎演習は、1回生全員が指定されたクラスに分かれ、それぞれのクラスで学生たちが協同して学んでいく演習スタイルの科目です。「テーマの発見」「テーマの追究」の手法を学び、身につけていくこと、つまり、産業社会学部において、主体的に学んでいくための方法を理解していくことが主たる狙いです。①意味あるテーマをいかに発見するか、②文献調査やフィールド調査・アンケート調査などによって、いかにテーマに接近していくかについて、グループ討論やクラス発表にもとづく討論を実施しながら、実感的に理解を深めていきます。アクティブラーニングとしての積極的な参加がもとめられる科目です。

基礎演習の学習内容や進め方については、担当教員が責任をもってあたりますが、全体で共通な事項については「基礎演習ガイドライン」がつけられていますので、良く読んでおいて下さい。

## 到達目標 / Focus and Goal

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enrolle in, but not required to

前期には、各クラス4名程度のエンター（上回生のボランティア学生）が、後期のクラスには、院生がTA（ティーチング・アシスタント）として参加し、学習やクラスの運営に協力し、学生の支援に当たりますので、いろいろ相談して下さい。

## 授業スケジュール / Schedule

| 授業日 (第N回) | テーマ / Theme                       | キーワード / Key Word |
|-----------|-----------------------------------|------------------|
| 1         | 授業の進め方、運営方法については各担当教員の指示に従ってください。 |                  |

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

| 種別 / Kind | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc.                                                            |
|-----------|-----------------|------------------------------------------------------------------------------------------|
| 日常点       | 100 %           | 開講回数の2/3以上の出席が評価対象の要件となります。評価方法は、平常点 (班学習、発表、討論参加等) やレポート・小論文等によりますが、詳しくは、担当教員が個別に指示します。 |

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

## 教科書 / Textbooks

『産業社会学部で学ぶー産業社会学部ハンドブック』など

## 参考書 / Reference Books

## 参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

## その他 / Others

## 基礎演習Ⅱ 01

12169

担当者名 / Instructor 乾 亨

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Description

基礎演習は、1回生全員が指定されたクラスに分かれ、それぞれのクラスで学生たちが協同して学んでいく演習スタイルの科目です。「テーマの発見」「テーマの追究」の手法を学び、身につけていくこと、つまり、産業社会学部において、主体的に学んでいくための方法を理解していくことが主たる狙いです。①意味あるテーマをいかに発見するか、②文献調査やフィールド調査・アンケート調査などによって、いかにテーマに接近していくかについて、グループ討論やクラス発表にもとづく討論を実施しながら、実感的に理解を深めていきます。アクティブラーニングとしての積極的な参加がもとめられる科目です。

基礎演習の学習内容や進め方については、担当教員が責任をもってあたりますが、全体で共通な事項については「基礎演習ガイドライン」がつけられていますので、良く読んでおいて下さい。

## 到達目標 / Focus and Goal

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

前期には、各クラス4名程度のエンター（上回生のボランティア学生）が、後期のクラスには、院生がTA（ティーチング・アシスタント）として参加し、学習やクラスの運営に協力し、学生の支援に当たりますので、いろいろ相談して下さい。

## 授業スケジュール / Schedule

| 授業日 (第N回) | テーマ / Theme                        | キーワード / Key Word |
|-----------|------------------------------------|------------------|
| 1         | 授業の進め方、運営方法については、各担当教員の指示に従ってください。 |                  |

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

| 種別 / Kind | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc.                                                          |
|-----------|-----------------|----------------------------------------------------------------------------------------|
| 日常点       | 100 %           | 開講回数の2/3以上の出席が評価対象の要件となります。評価方法は、平常点（班学習、発表、討論参加等）やレポート・小論文等によりますが、詳しくは、担当教員が個別に指示します。 |

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

## 教科書 / Textbooks

『産業社会学部で学ぶー産業社会学部ハンドブック』など

## 参考書 / Reference Books

## 参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

## その他 / Others

## 基礎演習II 02

12170

担当者名 / Instructor 木田 融男

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Description

基礎演習は、1回生全員が指定されたクラスに分かれ、それぞれのクラスで学生たちが協同して学んでいく演習スタイルの科目です。「テーマの発見」「テーマの追究」の手法を学び、身につけていくこと、つまり、産業社会学部において、主体的に学んでいくための方法を理解していくことが主たる狙いです。①意味あるテーマをいかに発見するか、②文献調査やフィールド調査・アンケート調査などによって、いかにテーマに接近していくかについて、グループ討論やクラス発表にもとづく討論を実施しながら、実感的に理解を深めていきます。アクティブラーニングとしての積極的な参加がもとめられる科目です。

基礎演習の学習内容や進め方については、担当教員が責任をもってあたりますが、全体で共通な事項については「基礎演習ガイドライン」がつけられていますので、良く読んでおいて下さい。

## 到達目標 / Focus and Goal

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

前期には、各クラス4名程度のエンター（上回生のボランティア学生）が、後期のクラスには、院生がTA（ティーチング・アシスタント）として参加し、学習やクラスの運営に協力し、学生の支援に当たりますので、いろいろ相談して下さい。

## 授業スケジュール / Schedule

| 授業日 (第N回) | テーマ / Theme                        | キーワード / Key Word |
|-----------|------------------------------------|------------------|
| 1         | 授業の進め方、運営方法については、各担当教員の指示に従ってください。 |                  |

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

| 種別 / Kind | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc.                                                          |
|-----------|-----------------|----------------------------------------------------------------------------------------|
| 日常点       | 100 %           | 開講回数の2/3以上の出席が評価対象の要件となります。評価方法は、平常点（班学習、発表、討論参加等）やレポート・小論文等によりますが、詳しくは、担当教員が個別に指示します。 |

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

## 教科書 / Textbooks

『産業社会学部で学ぶー産業社会学部ハンドブック』など

## 参考書 / Reference Books

## 参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

## その他 / Others

## 基礎演習II 03

12171

担当者名 / Instructor 斎藤 真緒

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Description

基礎演習は、1回生全員が指定されたクラスに分かれ、それぞれのクラスで学生たちが協同して学んでいく演習スタイルの科目です。「テーマの発見」「テーマの追究」の手法を学び、身につけていくこと、つまり、産業社会学部において、主体的に学んでいくための方法を理解していくことが主たる狙いです。①意味あるテーマをいかに発見するか、②文献調査やフィールド調査・アンケート調査などによって、いかにテーマに接近していくかについて、グループ討論やクラス発表にもとづく討論を実施しながら、実感的に理解を深めていきます。アクティブラーニングとしての積極的な参加がもとめられる科目です。

基礎演習の学習内容や進め方については、担当教員が責任をもってあたりますが、全体で共通な事項については「基礎演習ガイドライン」がつけられていますので、良く読んでおいて下さい。

## 到達目標 / Focus and Goal

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

前期には、各クラス4名程度のエンター（上回生のボランティア学生）が、後期のクラスには、院生がTA（ティーチング・アシスタント）として参加し、学習やクラスの運営に協力し、学生の支援に当たりますので、いろいろ相談して下さい。

## 授業スケジュール / Schedule

| 授業日 (第N回) | テーマ / Theme                        | キーワード / Key Word |
|-----------|------------------------------------|------------------|
| 1         | 授業の進め方、運営方法については、各担当教員の指示に従ってください。 |                  |

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

| 種別 / Kind | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc.                                                          |
|-----------|-----------------|----------------------------------------------------------------------------------------|
| 日常点       | 100 %           | 開講回数の2/3以上の出席が評価対象の要件となります。評価方法は、平常点（班学習、発表、討論参加等）やレポート・小論文等によりますが、詳しくは、担当教員が個別に指示します。 |

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

## 教科書 / Textbooks

『産業社会学部で学ぶー産業社会学部ハンドブック』など

## 参考書 / Reference Books

## 参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

## その他 / Others

## 基礎演習II 04

12172

担当者名 / Instructor 辻 勝次

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Description

基礎演習は、1回生全員が指定されたクラスに分かれ、それぞれのクラスで学生たちが協同して学んでいく演習スタイルの科目です。「テーマの発見」「テーマの追究」の手法を学び、身につけていくこと、つまり、産業社会学部において、主体的に学んでいくための方法を理解していくことが主たる狙いです。①意味あるテーマをいかに発見するか、②文献調査やフィールド調査・アンケート調査などによって、いかにテーマに接近していくかについて、グループ討論やクラス発表にもとづく討論を実施しながら、実感的に理解を深めていきます。アクティブラーニングとしての積極的な参加がもとめられる科目です。

基礎演習の学習内容や進め方については、担当教員が責任をもってあたりますが、全体で共通な事項については「基礎演習ガイドライン」がつけられていますので、良く読んでおいて下さい。

## 到達目標 / Focus and Goal

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

前期には、各クラス4名程度のエンター（上回生のボランティア学生）が、後期のクラスには、院生がTA（ティーチング・アシスタント）として参加し、学習やクラスの運営に協力し、学生の支援に当たりますので、いろいろ相談して下さい。

## 授業スケジュール / Schedule

| 授業日 (第N回) | テーマ / Theme                        | キーワード / Key Word |
|-----------|------------------------------------|------------------|
| 1         | 授業の進め方、運営方法については、各担当教員の指示に従ってください。 |                  |

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

| 種別 / Kind | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc.                                                          |
|-----------|-----------------|----------------------------------------------------------------------------------------|
| 日常点       | 100 %           | 開講回数の2/3以上の出席が評価対象の要件となります。評価方法は、平常点（班学習、発表、討論参加等）やレポート・小論文等によりますが、詳しくは、担当教員が個別に指示します。 |

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

## 教科書 / Textbooks

『産業社会学部で学ぶー産業社会学部ハンドブック』など

## 参考書 / Reference Books

## 参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

## その他 / Others

## 基礎演習II 05

12173

担当者名 / Instructor 中井 美樹

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Description

基礎演習は、1回生全員が指定されたクラスに分かれ、それぞれのクラスで学生たちが協同して学んでいく演習スタイルの科目です。「テーマの発見」「テーマの追究」の手法を学び、身につけていくこと、つまり、産業社会学部において、主体的に学んでいくための方法を理解していくことが主たる狙いです。①意味あるテーマをいかに発見するか、②文献調査やフィールド調査・アンケート調査などによって、いかにテーマに接近していくかについて、グループ討論やクラス発表にもとづく討論を実施しながら、実感的に理解を深めていきます。アクティブラーニングとしての積極的な参加がもとめられる科目です。

基礎演習の学習内容や進め方については、担当教員が責任をもってあたりますが、全体で共通な事項については「基礎演習ガイドライン」がつけられていますので、良く読んでおいて下さい。

## 到達目標 / Focus and Goal

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

前期には、各クラス4名程度のエンター（上回生のボランティア学生）が、後期のクラスには、院生がTA（ティーチング・アシスタント）として参加し、学習やクラスの運営に協力し、学生の支援に当たりますので、いろいろ相談して下さい。

## 授業スケジュール / Schedule

| 授業日 (第N回) | テーマ / Theme                        | キーワード / Key Word |
|-----------|------------------------------------|------------------|
| 1         | 授業の進め方、運営方法については、各担当教員の指示に従ってください。 |                  |

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

| 種別 / Kind | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc.                                                          |
|-----------|-----------------|----------------------------------------------------------------------------------------|
| 日常点       | 100 %           | 開講回数の2/3以上の出席が評価対象の要件となります。評価方法は、平常点（班学習、発表、討論参加等）やレポート・小論文等によりますが、詳しくは、担当教員が個別に指示します。 |

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

## 教科書 / Textbooks

『産業社会学部で学ぶー産業社会学部ハンドブック』など

## 参考書 / Reference Books

## 参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

## その他 / Others

## 基礎演習II 06

12174

担当者名 / Instructor 松葉 正文

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Description

基礎演習は、1回生全員が指定されたクラスに分かれ、それぞれのクラスで学生たちが協同して学んでいく演習スタイルの科目です。「テーマの発見」「テーマの追究」の手法を学び、身につけていくこと、つまり、産業社会学部において、主体的に学んでいくための方法を理解していくことが主たる狙いです。①意味あるテーマをいかに発見するか、②文献調査やフィールド調査・アンケート調査などによって、いかにテーマに接近していくかについて、グループ討論やクラス発表にもとづく討論を実施しながら、実感的に理解を深めていきます。アクティブラーニングとしての積極的な参加がもとめられる科目です。

基礎演習の学習内容や進め方については、担当教員が責任をもってあたりますが、全体で共通な事項については「基礎演習ガイドライン」がつけられていますので、良く読んでおいて下さい。

## 到達目標 / Focus and Goal

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

前期には、各クラス4名程度のエンター（上回生のボランティア学生）が、後期のクラスには、院生がTA（ティーチング・アシスタント）として参加し、学習やクラスの運営に協力し、学生の支援に当たりますので、いろいろ相談して下さい。

## 授業スケジュール / Schedule

| 授業日 (第N回) | テーマ / Theme                        | キーワード / Key Word |
|-----------|------------------------------------|------------------|
| 1         | 授業の進め方、運営方法については、各担当教員の指示に従ってください。 |                  |

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

| 種別 / Kind | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc.                                                          |
|-----------|-----------------|----------------------------------------------------------------------------------------|
| 日常点       | 100 %           | 開講回数の2/3以上の出席が評価対象の要件となります。評価方法は、平常点（班学習、発表、討論参加等）やレポート・小論文等によりますが、詳しくは、担当教員が個別に指示します。 |

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

## 教科書 / Textbooks

『産業社会学部で学ぶー産業社会学部ハンドブック』など

## 参考書 / Reference Books

## 参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

## その他 / Others



## 基礎演習II 07

12175

担当者名 / Instructor リム・ボン

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Description

基礎演習は、1回生全員が指定されたクラスに分かれ、それぞれのクラスで学生たちが協同して学んでいく演習スタイルの科目です。「テーマの発見」「テーマの追究」の手法を学び、身につけていくこと、つまり、産業社会学部において、主体的に学んでいくための方法を理解していくことが主たる狙いです。①意味あるテーマをいかに発見するか、②文献調査やフィールド調査・アンケート調査などによって、いかにテーマに接近していくかについて、グループ討論やクラス発表にもとづく討論を実施しながら、実感的に理解を深めていきます。アクティブラーニングとしての積極的な参加がもとめられる科目です。

基礎演習の学習内容や進め方については、担当教員が責任をもってあたりますが、全体で共通な事項については「基礎演習ガイドライン」がつけられていますので、良く読んでおいて下さい。

## 到達目標 / Focus and Goal

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

前期には、各クラス4名程度のエンター（上回生のボランティア学生）が、後期のクラスには、院生がTA（ティーチング・アシスタント）として参加し、学習やクラスの運営に協力し、学生の支援に当たりますので、いろいろ相談して下さい。

## 授業スケジュール / Schedule

| 授業日 (第N回) | テーマ / Theme                        | キーワード / Key Word |
|-----------|------------------------------------|------------------|
| 1         | 授業の進め方、運営方法については、各担当教員の指示に従ってください。 |                  |

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

| 種別 / Kind | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc.                                                          |
|-----------|-----------------|----------------------------------------------------------------------------------------|
| 日常点       | 100 %           | 開講回数の2/3以上の出席が評価対象の要件となります。評価方法は、平常点（班学習、発表、討論参加等）やレポート・小論文等によりますが、詳しくは、担当教員が個別に指示します。 |

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

## 教科書 / Textbooks

『産業社会学部で学ぶー産業社会学部ハンドブック』など

## 参考書 / Reference Books

## 参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

## その他 / Others

## 基礎演習II 08

12176

担当者名 / Instructor 景井 充

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Description

基礎演習は、1回生全員が指定されたクラスに分かれ、それぞれのクラスで学生たちが協同して学んでいく演習スタイルの科目です。「テーマの発見」「テーマの追究」の手法を学び、身につけていくこと、つまり、産業社会学部において、主体的に学んでいくための方法を理解していくことが主たる狙いです。①意味あるテーマをいかに発見するか、②文献調査やフィールド調査・アンケート調査などによって、いかにテーマに接近していくかについて、グループ討論やクラス発表にもとづく討論を実施しながら、実感的に理解を深めていきます。アクティブラーニングとしての積極的な参加がもとめられる科目です。

基礎演習の学習内容や進め方については、担当教員が責任をもってあたりますが、全体で共通な事項については「基礎演習ガイドライン」がつけられていますので、良く読んでおいて下さい。

## 到達目標 / Focus and Goal

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

前期には、各クラス4名程度のエンター（上回生のボランティア学生）が、後期のクラスには、院生がTA（ティーチング・アシスタント）として参加し、学習やクラスの運営に協力し、学生の支援に当たりますので、いろいろ相談して下さい。

## 授業スケジュール / Schedule

| 授業日 (第N回) | テーマ / Theme                        | キーワード / Key Word |
|-----------|------------------------------------|------------------|
| 1         | 授業の進め方、運営方法については、各担当教員の指示に従ってください。 |                  |

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

| 種別 / Kind | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc.                                                          |
|-----------|-----------------|----------------------------------------------------------------------------------------|
| 日常点       | 100 %           | 開講回数の2/3以上の出席が評価対象の要件となります。評価方法は、平常点（班学習、発表、討論参加等）やレポート・小論文等によりますが、詳しくは、担当教員が個別に指示します。 |

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

## 教科書 / Textbooks

『産業社会学部で学ぶー産業社会学部ハンドブック』など

## 参考書 / Reference Books

## 参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

## その他 / Others

## 基礎演習II 09

12177

担当者名 / Instructor 赤井 正二

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Description

基礎演習は、1回生全員が指定されたクラスに分かれ、それぞれのクラスで学生たちが協同して学んでいく演習スタイルの科目です。「テーマの発見」「テーマの追究」の手法を学び、身につけていくこと、つまり、産業社会学部において、主体的に学んでいくための方法を理解していくことが主たる狙いです。①意味あるテーマをいかに発見するか、②文献調査やフィールド調査・アンケート調査などによって、いかにテーマに接近していくかについて、グループ討論やクラス発表にもとづく討論を実施しながら、実感的に理解を深めていきます。アクティブラーニングとしての積極的な参加がもとめられる科目です。

基礎演習の学習内容や進め方については、担当教員が責任をもってあたりますが、全体で共通な事項については「基礎演習ガイドライン」がつけられていますので、良く読んでおいて下さい。

## 到達目標 / Focus and Goal

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

前期には、各クラス4名程度のエンター（上回生のボランティア学生）が、後期のクラスには、院生がTA（ティーチング・アシスタント）として参加し、学習やクラスの運営に協力し、学生の支援に当たりますので、いろいろ相談して下さい。

## 授業スケジュール / Schedule

| 授業日 (第N回) | テーマ / Theme                        | キーワード / Key Word |
|-----------|------------------------------------|------------------|
| 1         | 授業の進め方、運営方法については、各担当教員の指示に従ってください。 |                  |

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

| 種別 / Kind | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc.                                                          |
|-----------|-----------------|----------------------------------------------------------------------------------------|
| 日常点       | 100 %           | 開講回数の2/3以上の出席が評価対象の要件となります。評価方法は、平常点（班学習、発表、討論参加等）やレポート・小論文等によりますが、詳しくは、担当教員が個別に指示します。 |

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

## 教科書 / Textbooks

『産業社会学部で学ぶー産業社会学部ハンドブック』など

## 参考書 / Reference Books

## 参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

## その他 / Others

## 基礎演習II 10

12178

担当者名 / Instructor 黄 盛彬

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Description

基礎演習は、1回生全員が指定されたクラスに分かれ、それぞれのクラスで学生たちが協同して学んでいく演習スタイルの科目です。「テーマの発見」「テーマの追究」の手法を学び、身につけていくこと、つまり、産業社会学部において、主体的に学んでいくための方法を理解していくことが主たる狙いです。①意味あるテーマをいかに発見するか、②文献調査やフィールド調査・アンケート調査などによって、いかにテーマに接近していくかについて、グループ討論やクラス発表にもとづく討論を実施しながら、実感的に理解を深めていきます。アクティブラーニングとしての積極的な参加がもとめられる科目です。

基礎演習の学習内容や進め方については、担当教員が責任をもってあたりますが、全体で共通な事項については「基礎演習ガイドライン」がつけられていますので、良く読んでおいて下さい。

## 到達目標 / Focus and Goal

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

前期には、各クラス4名程度のエンター（上回生のボランティア学生）が、後期のクラスには、院生がTA（ティーチング・アシスタント）として参加し、学習やクラスの運営に協力し、学生の支援に当たりますので、いろいろ相談して下さい。

## 授業スケジュール / Schedule

| 授業日 (第N回) | テーマ / Theme       | キーワード / Key Word |
|-----------|-------------------|------------------|
| 1 9/28    | 授業の進め方、運営方法の説明    |                  |
| 2 10/5    | テーマについてのブレンストーミング |                  |
| 3 10/12   | テーマ発表 (各班)        |                  |
| 4 10/19   | 調査計画及び先行研究の目録作成   |                  |
| 5 10/26   | 先行研究の検討の報告        |                  |
| 6 11/2    | 先行研究の検討の報告        |                  |
| 7 11/9    | 第一班 研究発表          |                  |
| 8 11/16   | 第二班 研究発表          |                  |
| 9 11/23   | 第三班 研究発表          |                  |
| 10 11/30  | 第四班 研究発表          |                  |
| 11 12/7   | 第五班 研究発表          |                  |
| 12 12/14  | 第六班 研究発表          |                  |
| 13 12/21  | 最終レポート作成へ向けての質疑応答 |                  |
| 14 1/11   | 最終レポートの提出         |                  |
| 15 1/18   | 講評                |                  |

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

| 種別 / Kind | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc.                                                            |
|-----------|-----------------|------------------------------------------------------------------------------------------|
| 日常点       | 100 %           | 開講回数の2/3以上の出席が評価対象の要件となります。評価方法は、平常点 (班学習、発表、討論参加等) やレポート・小論文等によりますが、詳しくは、担当教員が個別に指示します。 |

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

## 教科書 / Textbooks

『産業社会学部で学ぶー産業社会学部ハンドブック』など

## 参考書 / Reference Books

## 参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

## その他 / Others

## 基礎演習Ⅱ 11

12179

担当者名 / Instructor 増田 幸子

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Description

基礎演習は、1回生全員が指定されたクラスに分かれ、それぞれのクラスで学生たちが協同して学んでいく演習スタイルの科目です。「テーマの発見」「テーマの追究」の手法を学び、身につけていくこと、つまり、産業社会学部において、主体的に学んでいくための方法を理解していくことが主たる狙いです。①意味あるテーマをいかに発見するか、②文献調査やフィールド調査・アンケート調査などによって、いかにテーマに接近していくかについて、グループ討論やクラス発表にもとづく討論を実施しながら、実感的に理解を深めていきます。アクティブラーニングとしての積極的な参加がもとめられる科目です。

基礎演習の学習内容や進め方については、担当教員が責任をもってあたりますが、全体で共通な事項については「基礎演習ガイドライン」がつけられていますので、良く読んでおいて下さい。

## 到達目標 / Focus and Goal

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

前期には、各クラス4名程度のエンター（上回生のボランティア学生）が、後期のクラスには、院生がTA（ティーチング・アシスタント）として参加し、学習やクラスの運営に協力し、学生の支援に当たりますので、いろいろ相談して下さい。

## 授業スケジュール / Schedule

| 授業日 (第N回) | テーマ / Theme                        | キーワード / Key Word |
|-----------|------------------------------------|------------------|
| 1         | 授業の進め方、運営方法については、各担当教員の指示に従ってください。 |                  |

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

| 種別 / Kind | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc.                                                          |
|-----------|-----------------|----------------------------------------------------------------------------------------|
| 日常点       | 100 %           | 開講回数の2/3以上の出席が評価対象の要件となります。評価方法は、平常点（班学習、発表、討論参加等）やレポート・小論文等によりますが、詳しくは、担当教員が個別に指示します。 |

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

## 教科書 / Textbooks

『産業社会学部で学ぶー産業社会学部ハンドブック』など

## 参考書 / Reference Books

## 参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

## その他 / Others

## 基礎演習Ⅱ 12

12180

担当者名 / Instructor 坂田 謙司

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Description

基礎演習は、1 回生全員が指定されたクラスに分かれ、それぞれのクラスで学生たちが協同して学んでいく演習スタイルの科目です。「テーマの発見」「テーマの追究」の手法を学び、身につけていくこと、つまり、産業社会学部において、主体的に学んでいくための方法を理解していくことが主たる狙いです。①意味あるテーマをいかに発見するか、②文献調査やフィールド調査・アンケート調査などによって、いかにテーマに接近していくかについて、グループ討論やクラス発表にもとづく討論を実施しながら、実感的に理解を深めていきます。アクティブラーニングとしての積極的な参加がもとめられる科目です。

基礎演習の学習内容や進め方については、担当教員が責任をもってあたりますが、全体で共通な事項については「基礎演習ガイドライン」がつけられていますので、良く読んでおいて下さい。

## 到達目標 / Focus and Goal

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

前期には、各クラス4名程度のエンター（上回生のボランティア学生）が、後期のクラスには、院生がTA（ティーチング・アシスタント）として参加し、学習やクラスの運営に協力し、学生の支援に当たりますので、いろいろ相談して下さい。

## 授業スケジュール / Schedule

| 授業日 (第N回) | テーマ / Theme                        | キーワード / Key Word |
|-----------|------------------------------------|------------------|
| 1         | 授業の進め方、運営方法については、各担当教員の指示に従ってください。 |                  |

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

| 種別 / Kind | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc.                                                          |
|-----------|-----------------|----------------------------------------------------------------------------------------|
| 日常点       | 100 %           | 開講回数の2/3以上の出席が評価対象の要件となります。評価方法は、平常点（班学習、発表、討論参加等）やレポート・小論文等によりますが、詳しくは、担当教員が個別に指示します。 |

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

## 教科書 / Textbooks

『産業社会学部で学ぶー産業社会学部ハンドブック』など

## 参考書 / Reference Books

## 参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

## その他 / Others

## 基礎演習II 13

12181

担当者名 / Instructor 小泉 秀昭

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Description

基礎演習は、1回生全員が指定されたクラスに分かれ、それぞれのクラスで学生たちが協同して学んでいく演習スタイルの科目です。「テーマの発見」「テーマの追究」の手法を学び、身につけていくこと、つまり、産業社会学部において、主体的に学んでいくための方法を理解していくことが主たる狙いです。①意味あるテーマをいかに発見するか、②文献調査やフィールド調査・アンケート調査などによって、いかにテーマに接近していくかについて、グループ討論やクラス発表にもとづく討論を実施しながら、実感的に理解を深めていきます。アクティブラーニングとしての積極的な参加がもとめられる科目です。

基礎演習の学習内容や進め方については、担当教員が責任をもってあたりますが、全体で共通な事項については「基礎演習ガイドライン」がつけられていますので、良く読んでおいて下さい。

## 到達目標 / Focus and Goal

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

前期には、各クラス4名程度のエンター（上回生のボランティア学生）が、後期のクラスには、院生がTA（ティーチング・アシスタント）として参加し、学習やクラスの運営に協力し、学生の支援に当たりますので、いろいろ相談して下さい。

## 授業スケジュール / Schedule

| 授業日 (第N回) | テーマ / Theme                        | キーワード / Key Word |
|-----------|------------------------------------|------------------|
| 1         | 授業の進め方、運営方法については、各担当教員の指示に従ってください。 |                  |

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

| 種別 / Kind | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc.                                                          |
|-----------|-----------------|----------------------------------------------------------------------------------------|
| 日常点       | 100 %           | 開講回数の2/3以上の出席が評価対象の要件となります。評価方法は、平常点（班学習、発表、討論参加等）やレポート・小論文等によりますが、詳しくは、担当教員が個別に指示します。 |

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

## 教科書 / Textbooks

『産業社会学部で学ぶー産業社会学部ハンドブック』など

## 参考書 / Reference Books

## 参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

## その他 / Others

## 基礎演習Ⅱ 14

12182

担当者名 / Instructor 川口 晋一

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Description

基礎演習は、1回生全員が指定されたクラスに分かれ、それぞれのクラスで学生たちが協同して学んでいく演習スタイルの科目です。「テーマの発見」「テーマの追究」の手法を学び、身につけていくこと、つまり、産業社会学部において、主体的に学んでいくための方法を理解していくことが主たる狙いです。①意味あるテーマをいかに発見するか、②文献調査やフィールド調査・アンケート調査などによって、いかにテーマに接近していくかについて、グループ討論やクラス発表にもとづく討論を実施しながら、実感的に理解を深めていきます。アクティブラーニングとしての積極的な参加がもとめられる科目です。

基礎演習の学習内容や進め方については、担当教員が責任をもってあたりますが、全体で共通な事項については「基礎演習ガイドライン」がつけられていますので、良く読んでおいて下さい。

## 到達目標 / Focus and Goal

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

前期には、各クラス4名程度のエンター（上回生のボランティア学生）が、後期のクラスには、院生がTA（ティーチング・アシスタント）として参加し、学習やクラスの運営に協力し、学生の支援に当たりますので、いろいろ相談して下さい。

## 授業スケジュール / Schedule

| 授業日 (第N回) | テーマ / Theme                        | キーワード / Key Word |
|-----------|------------------------------------|------------------|
| 1         | 授業の進め方、運営方法については、各担当教員の指示に従ってください。 |                  |

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

| 種別 / Kind | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc.                                                          |
|-----------|-----------------|----------------------------------------------------------------------------------------|
| 日常点       | 100 %           | 開講回数の2/3以上の出席が評価対象の要件となります。評価方法は、平常点（班学習、発表、討論参加等）やレポート・小論文等によりますが、詳しくは、担当教員が個別に指示します。 |

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

## 教科書 / Textbooks

『産業社会学部で学ぶー産業社会学部ハンドブック』など

## 参考書 / Reference Books

## 参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

## その他 / Others



## 基礎演習II 15

12183

担当者名 / Instructor 有賀 郁敏

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Description

基礎演習は、1回生全員が指定されたクラスに分かれ、それぞれのクラスで学生たちが協同して学んでいく演習スタイルの科目です。「テーマの発見」「テーマの追究」の手法を学び、身につけていくこと、つまり、産業社会学部において、主体的に学んでいくための方法を理解していくことが主たる狙いです。①意味あるテーマをいかに発見するか、②文献調査やフィールド調査・アンケート調査などによって、いかにテーマに接近していくかについて、グループ討論やクラス発表にもとづく討論を実施しながら、実感的に理解を深めていきます。アクティブラーニングとしての積極的な参加がもとめられる科目です。

基礎演習の学習内容や進め方については、担当教員が責任をもってあたりますが、全体で共通な事項については「基礎演習ガイドライン」がつけられていますので、良く読んでおいて下さい。

## 到達目標 / Focus and Goal

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

前期には、各クラス4名程度のエンター（上回生のボランティア学生）が、後期のクラスには、院生がTA（ティーチング・アシスタント）として参加し、学習やクラスの運営に協力し、学生の支援に当たりますので、いろいろ相談して下さい。

## 授業スケジュール / Schedule

| 授業日 (第N回) | テーマ / Theme                        | キーワード / Key Word |
|-----------|------------------------------------|------------------|
| 1         | 授業の進め方、運営方法については、各担当教員の指示に従ってください。 |                  |

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

| 種別 / Kind | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc.                                                          |
|-----------|-----------------|----------------------------------------------------------------------------------------|
| 日常点       | 100 %           | 開講回数の2/3以上の出席が評価対象の要件となります。評価方法は、平常点（班学習、発表、討論参加等）やレポート・小論文等によりますが、詳しくは、担当教員が個別に指示します。 |

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

## 教科書 / Textbooks

『産業社会学部で学ぶー産業社会学部ハンドブック』など

## 参考書 / Reference Books

## 参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

## その他 / Others

## 基礎演習II 16

12184

担当者名 / Instructor 筒井 淳也

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Description

基礎演習は、1回生全員が指定されたクラスに分かれ、それぞれのクラスで学生たちが協同して学んでいく演習スタイルの科目です。「テーマの発見」「テーマの追究」の手法を学び、身につけていくこと、つまり、産業社会学部において、主体的に学んでいくための方法を理解していくことが主たる狙いです。①意味あるテーマをいかに発見するか、②文献調査やフィールド調査・アンケート調査などによって、いかにテーマに接近していくかについて、グループ討論やクラス発表にもとづく討論を実施しながら、実感的に理解を深めていきます。アクティブラーニングとしての積極的な参加がもとめられる科目です。

基礎演習の学習内容や進め方については、担当教員が責任をもってあたりますが、全体で共通な事項については「基礎演習ガイドライン」がつけられていますので、良く読んでおいて下さい。

## 到達目標 / Focus and Goal

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

前期には、各クラス4名程度のエンター（上回生のボランティア学生）が、後期のクラスには、院生がTA（ティーチング・アシスタント）として参加し、学習やクラスの運営に協力し、学生の支援に当たりますので、いろいろ相談して下さい。

## 授業スケジュール / Schedule

| 授業日 (第N回) | テーマ / Theme                        | キーワード / Key Word |
|-----------|------------------------------------|------------------|
| 1         | 授業の進め方、運営方法については、各担当教員の指示に従ってください。 |                  |

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

| 種別 / Kind | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc.                                                          |
|-----------|-----------------|----------------------------------------------------------------------------------------|
| 日常点       | 100 %           | 開講回数の2/3以上の出席が評価対象の要件となります。評価方法は、平常点（班学習、発表、討論参加等）やレポート・小論文等によりますが、詳しくは、担当教員が個別に指示します。 |

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

## 教科書 / Textbooks

『産業社会学部で学ぶー産業社会学部ハンドブック』など

## 参考書 / Reference Books

## 参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

## その他 / Others

## 基礎演習II 17

12185

担当者名 / Instructor 宝月 誠

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Description

基礎演習は、1回生全員が指定されたクラスに分かれ、それぞれのクラスで学生たちが協同して学んでいく演習スタイルの科目です。「テーマの発見」「テーマの追究」の手法を学び、身につけていくこと、つまり、産業社会学部において、主体的に学んでいくための方法を理解していくことが主たる狙いです。①意味あるテーマをいかに発見するか、②文献調査やフィールド調査・アンケート調査などによって、いかにテーマに接近していくかについて、グループ討論やクラス発表にもとづく討論を実施しながら、実感的に理解を深めていきます。アクティブラーニングとしての積極的な参加がもとめられる科目です。

基礎演習の学習内容や進め方については、担当教員が責任をもってあたりますが、全体で共通な事項については「基礎演習ガイドライン」がつけられていますので、良く読んでおいて下さい。

## 到達目標 / Focus and Goal

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

前期には、各クラス4名程度のエンター（上回生のボランティア学生）が、後期のクラスには、院生がTA（ティーチング・アシスタント）として参加し、学習やクラスの運営に協力し、学生の支援に当たりますので、いろいろ相談して下さい。

## 授業スケジュール / Schedule

| 授業日 (第N回) | テーマ / Theme                        | キーワード / Key Word |
|-----------|------------------------------------|------------------|
| 1         | 授業の進め方、運営方法については、各担当教員の指示に従ってください。 |                  |

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

| 種別 / Kind | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc.                                                          |
|-----------|-----------------|----------------------------------------------------------------------------------------|
| 日常点       | 100 %           | 開講回数の2/3以上の出席が評価対象の要件となります。評価方法は、平常点（班学習、発表、討論参加等）やレポート・小論文等によりますが、詳しくは、担当教員が個別に指示します。 |

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

## 教科書 / Textbooks

『産業社会学部で学ぶー産業社会学部ハンドブック』など

## 参考書 / Reference Books

## 参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

## その他 / Others

## 基礎演習II 18

12186

担当者名 / Instructor 仲間 裕子

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Description

基礎演習は、1回生全員が指定されたクラスに分かれ、それぞれのクラスで学生たちが協同して学んでいく演習スタイルの科目です。「テーマの発見」「テーマの追究」の手法を学び、身につけていくこと、つまり、産業社会学部において、主体的に学んでいくための方法を理解していくことが主たる狙いです。①意味あるテーマをいかに発見するか、②文献調査やフィールド調査・アンケート調査などによって、いかにテーマに接近していくかについて、グループ討論やクラス発表にもとづく討論を実施しながら、実感的に理解を深めていきます。アクティブラーニングとしての積極的な参加がもとめられる科目です。

基礎演習の学習内容や進め方については、担当教員が責任をもってあたりますが、全体で共通な事項については「基礎演習ガイドライン」がつけられていますので、良く読んでおいて下さい。

## 到達目標 / Focus and Goal

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

前期には、各クラス4名程度のエンター（上回生のボランティア学生）が、後期のクラスには、院生がTA（ティーチング・アシスタント）として参加し、学習やクラスの運営に協力し、学生の支援に当たりますので、いろいろ相談して下さい。

## 授業スケジュール / Schedule

| 授業日 (第N回) | テーマ / Theme                        | キーワード / Key Word |
|-----------|------------------------------------|------------------|
| 1         | 授業の進め方、運営方法については、各担当教員の指示に従ってください。 |                  |

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

| 種別 / Kind | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc.                                                          |
|-----------|-----------------|----------------------------------------------------------------------------------------|
| 日常点       | 100 %           | 開講回数の2/3以上の出席が評価対象の要件となります。評価方法は、平常点（班学習、発表、討論参加等）やレポート・小論文等によりますが、詳しくは、担当教員が個別に指示します。 |

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

## 教科書 / Textbooks

『産業社会学部で学ぶー産業社会学部ハンドブック』など

## 参考書 / Reference Books

## 参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

## その他 / Others

## 基礎演習II 19

12197

担当者名 / Instructor 森西 真弓

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Description

基礎演習は、1回生全員が指定されたクラスに分かれ、それぞれのクラスで学生たちが協同して学んでいく演習スタイルの科目です。「テーマの発見」「テーマの追究」の手法を学び、身につけていくこと、つまり、産業社会学部において、主体的に学んでいくための方法を理解していくことが主たる狙いです。①意味あるテーマをいかに発見するか、②文献調査やフィールド調査・アンケート調査などによって、いかにテーマに接近していくかについて、グループ討論やクラス発表にもとづく討論を実施しながら、実感的に理解を深めていきます。アクティブラーニングとしての積極的な参加がもとめられる科目です。

基礎演習の学習内容や進め方については、担当教員が責任をもってあたりますが、全体で共通な事項については「基礎演習ガイドライン」がつけられていますので、良く読んでおいて下さい。

## 到達目標 / Focus and Goal

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

前期には、各クラス4名程度のエンター（上回生のボランティア学生）が、後期のクラスには、院生がTA（ティーチング・アシスタント）として参加し、学習やクラスの運営に協力し、学生の支援に当たりますので、いろいろ相談して下さい。

## 授業スケジュール / Schedule

| 授業日 (第N回) | テーマ / Theme                        | キーワード / Key Word |
|-----------|------------------------------------|------------------|
| 1         | 授業の進め方、運営方法については、各担当教員の指示に従ってください。 |                  |

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

| 種別 / Kind | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc.                                                          |
|-----------|-----------------|----------------------------------------------------------------------------------------|
| 日常点       | 100 %           | 開講回数の2/3以上の出席が評価対象の要件となります。評価方法は、平常点（班学習、発表、討論参加等）やレポート・小論文等によりますが、詳しくは、担当教員が個別に指示します。 |

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

## 教科書 / Textbooks

『産業社会学部で学ぶー産業社会学部ハンドブック』など

## 参考書 / Reference Books

## 参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

## その他 / Others

## 基礎演習II 20

12187

担当者名 / Instructor 金井 淳二

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Description

基礎演習は、1回生全員が指定されたクラスに分かれ、それぞれのクラスで学生たちが協同して学んでいく演習スタイルの科目です。「テーマの発見」「テーマの追究」の手法を学び、身につけていくこと、つまり、産業社会学部において、主体的に学んでいくための方法を理解していくことが主たる狙いです。①意味あるテーマをいかに発見するか、②文献調査やフィールド調査・アンケート調査などによって、いかにテーマに接近していくかについて、グループ討論やクラス発表にもとづく討論を実施しながら、実感的に理解を深めていきます。アクティブラーニングとしての積極的な参加がもとめられる科目です。

基礎演習の学習内容や進め方については、担当教員が責任をもってあたりますが、全体で共通な事項については「基礎演習ガイドライン」がつけられていますので、良く読んでおいて下さい。

## 到達目標 / Focus and Goal

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

前期には、各クラス4名程度のエンター（上回生のボランティア学生）が、後期のクラスには、院生がTA（ティーチング・アシスタント）として参加し、学習やクラスの運営に協力し、学生の支援に当たりますので、いろいろ相談して下さい。

## 授業スケジュール / Schedule

| 授業日 (第N回) | テーマ / Theme                        | キーワード / Key Word |
|-----------|------------------------------------|------------------|
| 1         | 授業の進め方、運営方法については、各担当教員の指示に従ってください。 |                  |

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

| 種別 / Kind | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc.                                                          |
|-----------|-----------------|----------------------------------------------------------------------------------------|
| 日常点       | 100 %           | 開講回数の2/3以上の出席が評価対象の要件となります。評価方法は、平常点（班学習、発表、討論参加等）やレポート・小論文等によりますが、詳しくは、担当教員が個別に指示します。 |

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

## 教科書 / Textbooks

『産業社会学部で学ぶー産業社会学部ハンドブック』など

## 参考書 / Reference Books

## 参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

## その他 / Others

## 基礎演習Ⅱ 21

12188

担当者名 / Instructor 草深 直臣

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Description

基礎演習は、1回生全員が指定されたクラスに分かれ、それぞれのクラスで学生たちが協同して学んでいく演習スタイルの科目です。「テーマの発見」「テーマの追究」の手法を学び、身につけていくこと、つまり、産業社会学部において、主体的に学んでいくための方法を理解していくことが主たる狙いです。①意味あるテーマをいかに発見するか、②文献調査やフィールド調査・アンケート調査などによって、いかにテーマに接近していくかについて、グループ討論やクラス発表にもとづく討論を実施しながら、実感的に理解を深めていきます。アクティブラーニングとしての積極的な参加がもとめられる科目です。

基礎演習の学習内容や進め方については、担当教員が責任をもってあたりますが、全体で共通な事項については「基礎演習ガイドライン」がつけられていますので、良く読んでおいて下さい。

## 到達目標 / Focus and Goal

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

前期には、各クラス4名程度のエンター（上回生のボランティア学生）が、後期のクラスには、院生がTA（ティーチング・アシスタント）として参加し、学習やクラスの運営に協力し、学生の支援に当たりますので、いろいろ相談して下さい。

## 授業スケジュール / Schedule

| 授業日 (第N回) | テーマ / Theme                        | キーワード / Key Word |
|-----------|------------------------------------|------------------|
| 1         | 授業の進め方、運営方法については、各担当教員の指示に従ってください。 |                  |

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

| 種別 / Kind | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc.                                                          |
|-----------|-----------------|----------------------------------------------------------------------------------------|
| 日常点       | 100 %           | 開講回数の2/3以上の出席が評価対象の要件となります。評価方法は、平常点（班学習、発表、討論参加等）やレポート・小論文等によりますが、詳しくは、担当教員が個別に指示します。 |

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

## 教科書 / Textbooks

『産業社会学部で学ぶー産業社会学部ハンドブック』など

## 参考書 / Reference Books

## 参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

## その他 / Others

## 基礎演習II 22

12189

担当者名 / Instructor 飯田 哲也

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Description

基礎演習は、1回生全員が指定されたクラスに分かれ、それぞれのクラスで学生たちが協同して学んでいく演習スタイルの科目です。「テーマの発見」「テーマの追究」の手法を学び、身につけていくこと、つまり、産業社会学部において、主体的に学んでいくための方法を理解していくことが主たる狙いです。①意味あるテーマをいかに発見するか、②文献調査やフィールド調査・アンケート調査などによって、いかにテーマに接近していくかについて、グループ討論やクラス発表にもとづく討論を実施しながら、実感的に理解を深めていきます。アクティブラーニングとしての積極的な参加がもとめられる科目です。

基礎演習の学習内容や進め方については、担当教員が責任をもってあたりますが、全体で共通な事項については「基礎演習ガイドライン」がつけられていますので、良く読んでおいて下さい。

## 到達目標 / Focus and Goal

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enrolle in, but not required to

前期には、各クラス4名程度のエンター（上回生のボランティア学生）が、後期のクラスには、院生がTA（ティーチング・アシスタント）として参加し、学習やクラスの運営に協力し、学生の支援に当たりますので、いろいろ相談して下さい。

## 授業スケジュール / Schedule

| 授業日 (第N回) | テーマ / Theme                        | キーワード / Key Word |
|-----------|------------------------------------|------------------|
| 1         | 授業の進め方、運営方法については、各担当教員の指示に従ってください。 |                  |

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

| 種別 / Kind | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc.                                                          |
|-----------|-----------------|----------------------------------------------------------------------------------------|
| 日常点       | 100 %           | 開講回数の2/3以上の出席が評価対象の要件となります。評価方法は、平常点（班学習、発表、討論参加等）やレポート・小論文等によりますが、詳しくは、担当教員が個別に指示します。 |

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

## 教科書 / Textbooks

『産業社会学部で学ぶー産業社会学部ハンドブック』など

## 参考書 / Reference Books

## 参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

## その他 / Others



## 基礎演習II 23

12190

担当者名 / Instructor 崎山 治男

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Description

基礎演習は、1回生全員が指定されたクラスに分かれ、それぞれのクラスで学生たちが協同して学んでいく演習スタイルの科目です。「テーマの発見」「テーマの追究」の手法を学び、身につけていくこと、つまり、産業社会学部において、主体的に学んでいくための方法を理解していくことが主たる狙いです。①意味あるテーマをいかに発見するか、②文献調査やフィールド調査・アンケート調査などによって、いかにテーマに接近していくかについて、グループ討論やクラス発表にもとづく討論を実施しながら、実感的に理解を深めていきます。アクティブラーニングとしての積極的な参加がもとめられる科目です。

基礎演習の学習内容や進め方については、担当教員が責任をもってあたりますが、全体で共通な事項については「基礎演習ガイドライン」がつけられていますので、良く読んでおいて下さい。

## 到達目標 / Focus and Goal

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

前期には、各クラス4名程度のエンター（上回生のボランティア学生）が、後期のクラスには、院生がTA（ティーチング・アシスタント）として参加し、学習やクラスの運営に協力し、学生の支援に当たりますので、いろいろ相談して下さい。

## 授業スケジュール / Schedule

| 授業日 (第N回) | テーマ / Theme                        | キーワード / Key Word |
|-----------|------------------------------------|------------------|
| 1         | 授業の進め方、運営方法については、各担当教員の指示に従ってください。 |                  |

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

| 種別 / Kind | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc.                                                          |
|-----------|-----------------|----------------------------------------------------------------------------------------|
| 日常点       | 100 %           | 開講回数の2/3以上の出席が評価対象の要件となります。評価方法は、平常点（班学習、発表、討論参加等）やレポート・小論文等によりますが、詳しくは、担当教員が個別に指示します。 |

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

## 教科書 / Textbooks

『産業社会学部で学ぶー産業社会学部ハンドブック』など

## 参考書 / Reference Books

## 参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

## その他 / Others

## 基礎演習II 24

12191

担当者名 / Instructor 芝田 英昭

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Description

基礎演習は、1回生全員が指定されたクラスに分かれ、それぞれのクラスで学生たちが協同して学んでいく演習スタイルの科目です。「テーマの発見」「テーマの追究」の手法を学び、身につけていくこと、つまり、産業社会学部において、主体的に学んでいくための方法を理解していくことが主たる狙いです。①意味あるテーマをいかに発見するか、②文献調査やフィールド調査・アンケート調査などによって、いかにテーマに接近していくかについて、グループ討論やクラス発表にもとづく討論を実施しながら、実感的に理解を深めていきます。アクティブラーニングとしての積極的な参加がもとめられる科目です。

基礎演習の学習内容や進め方については、担当教員が責任をもってあたりますが、全体で共通な事項については「基礎演習ガイドライン」がつけられていますので、良く読んでおいて下さい。

## 到達目標 / Focus and Goal

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enrolle in, but not required to

前期には、各クラス4名程度のエンター（上回生のボランティア学生）が、後期のクラスには、院生がTA（ティーチング・アシスタント）として参加し、学習やクラスの運営に協力し、学生の支援に当たりますので、いろいろ相談して下さい。

## 授業スケジュール / Schedule

| 授業日 (第N回) | テーマ / Theme                        | キーワード / Key Word |
|-----------|------------------------------------|------------------|
| 1         | 授業の進め方、運営方法については、各担当教員の指示に従ってください。 |                  |

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

| 種別 / Kind | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc.                                                          |
|-----------|-----------------|----------------------------------------------------------------------------------------|
| 日常点       | 100 %           | 開講回数の2/3以上の出席が評価対象の要件となります。評価方法は、平常点（班学習、発表、討論参加等）やレポート・小論文等によりますが、詳しくは、担当教員が個別に指示します。 |

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

## 教科書 / Textbooks

『産業社会学部で学ぶー産業社会学部ハンドブック』など

## 参考書 / Reference Books

## 参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

## その他 / Others

## 基礎演習Ⅱ 25

12192

担当者名 / Instructor 櫻谷 真理子

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Description

基礎演習は、1回生全員が指定されたクラスに分かれ、それぞれのクラスで学生たちが協同して学んでいく演習スタイルの科目です。「テーマの発見」「テーマの追究」の手法を学び、身につけていくこと、つまり、産業社会学部において、主体的に学んでいくための方法を理解していくことが主たる狙いです。①意味あるテーマをいかに発見するか、②文献調査やフィールド調査・アンケート調査などによって、いかにテーマに接近していくかについて、グループ討論やクラス発表にもとづく討論を実施しながら、実感的に理解を深めていきます。アクティブラーニングとしての積極的な参加がもとめられる科目です。

基礎演習の学習内容や進め方については、担当教員が責任をもってあたりますが、全体で共通な事項については「基礎演習ガイドライン」がつけられていますので、良く読んでおいて下さい。

## 到達目標 / Focus and Goal

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

前期には、各クラス4名程度のエンター（上回生のボランティア学生）が、後期のクラスには、院生がTA（ティーチング・アシスタント）として参加し、学習やクラスの運営に協力し、学生の支援に当たりますので、いろいろ相談して下さい。

## 授業スケジュール / Schedule

| 授業日 (第N回) | テーマ / Theme                        | キーワード / Key Word |
|-----------|------------------------------------|------------------|
| 1         | 授業の進め方、運営方法については、各担当教員の指示に従ってください。 |                  |

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

| 種別 / Kind | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc.                                                          |
|-----------|-----------------|----------------------------------------------------------------------------------------|
| 日常点       | 100 %           | 開講回数の2/3以上の出席が評価対象の要件となります。評価方法は、平常点（班学習、発表、討論参加等）やレポート・小論文等によりますが、詳しくは、担当教員が個別に指示します。 |

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

## 教科書 / Textbooks

『産業社会学部で学ぶー産業社会学部ハンドブック』など

## 参考書 / Reference Books

## 参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

## その他 / Others

## 基礎演習II 26

12193

担当者名 / Instructor 高橋 正人

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Description

基礎演習は、1回生全員が指定されたクラスに分かれ、それぞれのクラスで学生たちが協同して学んでいく演習スタイルの科目です。「テーマの発見」「テーマの追究」の手法を学び、身につけていくこと、つまり、産業社会学部において、主体的に学んでいくための方法を理解していくことが主たる狙いです。①意味あるテーマをいかに発見するか、②文献調査やフィールド調査・アンケート調査などによって、いかにテーマに接近していくかについて、グループ討論やクラス発表にもとづく討論を実施しながら、実感的に理解を深めていきます。アクティブラーニングとしての積極的な参加がもとめられる科目です。

基礎演習の学習内容や進め方については、担当教員が責任をもってあたりますが、全体で共通な事項については「基礎演習ガイドライン」がつけられていますので、良く読んでおいて下さい。

## 到達目標 / Focus and Goal

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

前期には、各クラス4名程度のエンター（上回生のボランティア学生）が、後期のクラスには、院生がTA（ティーチング・アシスタント）として参加し、学習やクラスの運営に協力し、学生の支援に当たりますので、いろいろ相談して下さい。

## 授業スケジュール / Schedule

| 授業日 (第N回) | テーマ / Theme                        | キーワード / Key Word |
|-----------|------------------------------------|------------------|
| 1         | 授業の進め方、運営方法については、各担当教員の指示に従ってください。 |                  |

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

| 種別 / Kind | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc.                                                          |
|-----------|-----------------|----------------------------------------------------------------------------------------|
| 日常点       | 100 %           | 開講回数の2/3以上の出席が評価対象の要件となります。評価方法は、平常点（班学習、発表、討論参加等）やレポート・小論文等によりますが、詳しくは、担当教員が個別に指示します。 |

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

## 教科書 / Textbooks

『産業社会学部で学ぶー産業社会学部ハンドブック』など

## 参考書 / Reference Books

## 参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

## その他 / Others

## 基礎演習Ⅱ 27

12194

担当者名 / Instructor 峰島 厚

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Description

基礎演習は、1 回生全員が指定されたクラスに分かれ、それぞれのクラスで学生たちが協同して学んでいく演習スタイルの科目です。「テーマの発見」「テーマの追究」の手法を学び、身につけていくこと、つまり、産業社会学部において、主体的に学んでいくための方法を理解していくことが主たる狙いです。①意味あるテーマをいかに発見するか、②文献調査やフィールド調査・アンケート調査などによって、いかにテーマに接近していくかについて、グループ討論やクラス発表にもとづく討論を実施しながら、実感的に理解を深めていきます。アクティブラーニングとしての積極的な参加がもとめられる科目です。

基礎演習の学習内容や進め方については、担当教員が責任をもってあたりますが、全体で共通な事項については「基礎演習ガイドライン」がつけられていますので、良く読んでおいて下さい。

## 到達目標 / Focus and Goal

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

前期には、各クラス4名程度のエンター（上回生のボランティア学生）が、後期のクラスには、院生がTA（ティーチング・アシスタント）として参加し、学習やクラスの運営に協力し、学生の支援に当たりますので、いろいろ相談して下さい。

## 授業スケジュール / Schedule

| 授業日 (第N回) | テーマ / Theme                        | キーワード / Key Word |
|-----------|------------------------------------|------------------|
| 1         | 授業の進め方、運営方法については、各担当教員の指示に従ってください。 |                  |

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

| 種別 / Kind | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc.                                                          |
|-----------|-----------------|----------------------------------------------------------------------------------------|
| 日常点       | 100 %           | 開講回数の2/3以上の出席が評価対象の要件となります。評価方法は、平常点（班学習、発表、討論参加等）やレポート・小論文等によりますが、詳しくは、担当教員が個別に指示します。 |

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

## 教科書 / Textbooks

『産業社会学部で学ぶー産業社会学部ハンドブック』など

## 参考書 / Reference Books

## 参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

## その他 / Others

## 基礎演習Ⅱ 28

12196

担当者名 / Instructor 小川 栄二

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Description

基礎演習は、1 回生全員が指定されたクラスに分かれ、それぞれのクラスで学生たちが協同して学んでいく演習スタイルの科目です。「テーマの発見」「テーマの追究」の手法を学び、身につけていくこと、つまり、産業社会学部において、主体的に学んでいくための方法を理解していくことが主たる狙いです。①意味あるテーマをいかに発見するか、②文献調査やフィールド調査・アンケート調査などによって、いかにテーマに接近していくかについて、グループ討論やクラス発表にもとづく討論を実施しながら、実感的に理解を深めていきます。アクティブラーニングとしての積極的な参加がもとめられる科目です。

基礎演習の学習内容や進め方については、担当教員が責任をもってあたりますが、全体で共通な事項については「基礎演習ガイドライン」がつけられていますので、良く読んでおいて下さい。

## 到達目標 / Focus and Goal

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

前期には、各クラス4名程度のエンター（上回生のボランティア学生）が、後期のクラスには、院生がTA（ティーチング・アシスタント）として参加し、学習やクラスの運営に協力し、学生の支援に当たりますので、いろいろ相談して下さい。

## 授業スケジュール / Schedule

| 授業日 (第N回) | テーマ / Theme                        | キーワード / Key Word |
|-----------|------------------------------------|------------------|
| 1         | 授業の進め方、運営方法については、各担当教員の指示に従ってください。 |                  |

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

| 種別 / Kind | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc.                                                            |
|-----------|-----------------|------------------------------------------------------------------------------------------|
| 日常点       | 100 %           | 開講回数の2/3以上の出席が評価対象の要件となります。評価方法は、平常点 (班学習、発表、討論参加等) やレポート・小論文等によりますが、詳しくは、担当教員が個別に指示します。 |

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

## 教科書 / Textbooks

『産業社会学部で学ぶー産業社会学部ハンドブック』など

## 参考書 / Reference Books

## 参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

## その他 / Others

## 基礎演習II 29

12195

担当者名 / Instructor 生田 正幸

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Description

基礎演習は、1回生全員が指定されたクラスに分かれ、それぞれのクラスで学生たちが協同して学んでいく演習スタイルの科目です。「テーマの発見」「テーマの追究」の手法を学び、身につけていくこと、つまり、産業社会学部において、主体的に学んでいくための方法を理解していくことが主たる狙いです。①意味あるテーマをいかに発見するか、②文献調査やフィールド調査・アンケート調査などによって、いかにテーマに接近していくかについて、グループ討論やクラス発表にもとづく討論を実施しながら、実感的に理解を深めていきます。アクティブラーニングとしての積極的な参加がもとめられる科目です。

基礎演習の学習内容や進め方については、担当教員が責任をもってあたりますが、全体で共通な事項については「基礎演習ガイドライン」がつけられていますので、良く読んでおいて下さい。

## 到達目標 / Focus and Goal

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

前期には、各クラス4名程度のエンター（上回生のボランティア学生）が、後期のクラスには、院生がTA（ティーチング・アシスタント）として参加し、学習やクラスの運営に協力し、学生の支援に当たりますので、いろいろ相談して下さい。

## 授業スケジュール / Schedule

| 授業日 (第N回) | テーマ / Theme                        | キーワード / Key Word |
|-----------|------------------------------------|------------------|
| 1         | 授業の進め方、運営方法については、各担当教員の指示に従ってください。 |                  |

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

| 種別 / Kind | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc.                                                          |
|-----------|-----------------|----------------------------------------------------------------------------------------|
| 日常点       | 100 %           | 開講回数の2/3以上の出席が評価対象の要件となります。評価方法は、平常点（班学習、発表、討論参加等）やレポート・小論文等によりますが、詳しくは、担当教員が個別に指示します。 |

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

## 教科書 / Textbooks

『産業社会学部で学ぶー産業社会学部ハンドブック』など

## 参考書 / Reference Books

## 参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

## その他 / Others

## 基礎演習II 30

12198

担当者名 / Instructor 竹濱 朝美

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Description

基礎演習は、1回生全員が指定されたクラスに分かれ、それぞれのクラスで学生たちが協同して学んでいく演習スタイルの科目です。「テーマの発見」「テーマの追究」の手法を学び、身につけていくこと、つまり、産業社会学部において、主体的に学んでいくための方法を理解していくことが主たる狙いです。①意味あるテーマをいかに発見するか、②文献調査やフィールド調査・アンケート調査などによって、いかにテーマに接近していくかについて、グループ討論やクラス発表にもとづく討論を実施しながら、実感的に理解を深めていきます。アクティブラーニングとしての積極的な参加がもとめられる科目です。

基礎演習の学習内容や進め方については、担当教員が責任をもってあたりますが、全体で共通な事項については「基礎演習ガイドライン」がつけられていますので、良く読んでおいて下さい。

## 到達目標 / Focus and Goal

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

前期には、各クラス4名程度のエンター（上回生のボランティア学生）が、後期のクラスには、院生がTA（ティーチング・アシスタント）として参加し、学習やクラスの運営に協力し、学生の支援に当たりますので、いろいろ相談して下さい。

## 授業スケジュール / Schedule

| 授業日 (第N回) | テーマ / Theme                        | キーワード / Key Word |
|-----------|------------------------------------|------------------|
| 1         | 授業の進め方、運営方法については、各担当教員の指示に従ってください。 |                  |

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

| 種別 / Kind | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc.                                                          |
|-----------|-----------------|----------------------------------------------------------------------------------------|
| 日常点       | 100 %           | 開講回数の2/3以上の出席が評価対象の要件となります。評価方法は、平常点（班学習、発表、討論参加等）やレポート・小論文等によりますが、詳しくは、担当教員が個別に指示します。 |

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

## 教科書 / Textbooks

『産業社会学部で学ぶー産業社会学部ハンドブック』など

## 参考書 / Reference Books

## 参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

## その他 / Others



## 基礎演習Ⅱ 31

12205

担当者名 / Instructor 奥村 信幸

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Description

基礎演習は、1回生全員が指定されたクラスに分かれ、それぞれのクラスで学生たちが協同して学んでいく演習スタイルの科目です。「テーマの発見」「テーマの追究」の手法を学び、身につけていくこと、つまり、産業社会学部において、主体的に学んでいくための方法を理解していくことが主たる狙いです。①意味あるテーマをいかに発見するか、②文献調査やフィールド調査・アンケート調査などによって、いかにテーマに接近していくかについて、グループ討論やクラス発表にもとづく討論を実施しながら、実感的に理解を深めていきます。アクティブラーニングとしての積極的な参加がもとめられる科目です。

基礎演習の学習内容や進め方については、担当教員が責任をもってあたりますが、全体で共通な事項については「基礎演習ガイドライン」がつけられていますので、良く読んでおいて下さい。

## 到達目標 / Focus and Goal

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

前期には、各クラス4名程度のエンター（上回生のボランティア学生）が、後期のクラスには、院生がTA（ティーチング・アシスタント）として参加し、学習やクラスの運営に協力し、学生の支援に当たりますので、いろいろ相談して下さい。

## 授業スケジュール / Schedule

| 授業日 (第N回) | テーマ / Theme                        | キーワード / Key Word |
|-----------|------------------------------------|------------------|
| 1         | 授業の進め方、運営方法については、各担当教員の指示に従ってください。 |                  |

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

| 種別 / Kind | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc.                                                          |
|-----------|-----------------|----------------------------------------------------------------------------------------|
| 日常点       | 100 %           | 開講回数の2/3以上の出席が評価対象の要件となります。評価方法は、平常点（班学習、発表、討論参加等）やレポート・小論文等によりますが、詳しくは、担当教員が個別に指示します。 |

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

## 教科書 / Textbooks

『産業社会学部で学ぶー産業社会学部ハンドブック』など

## 参考書 / Reference Books

## 参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

## その他 / Others

## 基礎演習II 32

12206

担当者名 / Instructor 奥川 櫻豊彦

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Description

基礎演習は、1回生全員が指定されたクラスに分かれ、それぞれのクラスで学生たちが協同して学んでいく演習スタイルの科目です。「テーマの発見」「テーマの追究」の手法を学び、身につけていくこと、つまり、産業社会学部において、主体的に学んでいくための方法を理解していくことが主たる狙いです。①意味あるテーマをいかに発見するか、②文献調査やフィールド調査・アンケート調査などによって、いかにテーマに接近していくかについて、グループ討論やクラス発表にもとづく討論を実施しながら、実感的に理解を深めていきます。アクティブラーニングとしての積極的な参加がもとめられる科目です。

基礎演習の学習内容や進め方については、担当教員が責任をもってあたりますが、全体で共通な事項については「基礎演習ガイドライン」がつけられていますので、良く読んでおいて下さい。

## 到達目標 / Focus and Goal

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

前期には、各クラス4名程度のエンター（上回生のボランティア学生）が、後期のクラスには、院生がTA（ティーチング・アシスタント）として参加し、学習やクラスの運営に協力し、学生の支援に当たりますので、いろいろ相談して下さい。

## 授業スケジュール / Schedule

| 授業日 (第N回) | テーマ / Theme                        | キーワード / Key Word |
|-----------|------------------------------------|------------------|
| 1         | 授業の進め方、運営方法については、各担当教員の指示に従ってください。 |                  |

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

| 種別 / Kind | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc.                                                          |
|-----------|-----------------|----------------------------------------------------------------------------------------|
| 日常点       | 100 %           | 開講回数の2/3以上の出席が評価対象の要件となります。評価方法は、平常点（班学習、発表、討論参加等）やレポート・小論文等によりますが、詳しくは、担当教員が個別に指示します。 |

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

## 教科書 / Textbooks

『産業社会学部で学ぶー産業社会学部ハンドブック』など

## 参考書 / Reference Books

## 参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

## その他 / Others

## 基礎演習II 33

12207

担当者名 / Instructor 前田 信彦

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Description

基礎演習は、1回生全員が指定されたクラスに分かれ、それぞれのクラスで学生たちが協同して学んでいく演習スタイルの科目です。「テーマの発見」「テーマの追究」の手法を学び、身につけていくこと、つまり、産業社会学部において、主体的に学んでいくための方法を理解していくことが主たる狙いです。①意味あるテーマをいかに発見するか、②文献調査やフィールド調査・アンケート調査などによって、いかにテーマに接近していくかについて、グループ討論やクラス発表にもとづく討論を実施しながら、実感的に理解を深めていきます。アクティブラーニングとしての積極的な参加がもとめられる科目です。

基礎演習の学習内容や進め方については、担当教員が責任をもってあたりますが、全体で共通な事項については「基礎演習ガイドライン」がつけられていますので、良く読んでおいて下さい。

## 到達目標 / Focus and Goal

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

前期には、各クラス4名程度のエンター（上回生のボランティア学生）が、後期のクラスには、院生がTA（ティーチング・アシスタント）として参加し、学習やクラスの運営に協力し、学生の支援に当たりますので、いろいろ相談して下さい。

## 授業スケジュール / Schedule

| 授業日 (第N回) | テーマ / Theme                        | キーワード / Key Word |
|-----------|------------------------------------|------------------|
| 1         | 授業の進め方、運営方法については、各担当教員の指示に従ってください。 |                  |

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

| 種別 / Kind | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc.                                                          |
|-----------|-----------------|----------------------------------------------------------------------------------------|
| 日常点       | 100 %           | 開講回数の2/3以上の出席が評価対象の要件となります。評価方法は、平常点（班学習、発表、討論参加等）やレポート・小論文等によりますが、詳しくは、担当教員が個別に指示します。 |

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

## 教科書 / Textbooks

『産業社会学部で学ぶー産業社会学部ハンドブック』など

## 参考書 / Reference Books

## 参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

## その他 / Others

## 基礎演習II 34

12208

担当者名 / Instructor 石倉 康次

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Description

基礎演習は、1回生全員が指定されたクラスに分かれ、それぞれのクラスで学生たちが協同して学んでいく演習スタイルの科目です。「テーマの発見」「テーマの追究」の手法を学び、身につけていくこと、つまり、産業社会学部において、主体的に学んでいくための方法を理解していくことが主たる狙いです。①意味あるテーマをいかに発見するか、②文献調査やフィールド調査・アンケート調査などによって、いかにテーマに接近していくかについて、グループ討論やクラス発表にもとづく討論を実施しながら、実感的に理解を深めていきます。アクティブラーニングとしての積極的な参加がもとめられる科目です。

基礎演習の学習内容や進め方については、担当教員が責任をもってあたりますが、全体で共通な事項については「基礎演習ガイドライン」がつけられていますので、良く読んでおいて下さい。

## 到達目標 / Focus and Goal

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

前期には、各クラス4名程度のエンター（上回生のボランティア学生）が、後期のクラスには、院生がTA（ティーチング・アシスタント）として参加し、学習やクラスの運営に協力し、学生の支援に当たりますので、いろいろ相談して下さい。

## 授業スケジュール / Schedule

| 授業日 (第N回) | テーマ / Theme                        | キーワード / Key Word |
|-----------|------------------------------------|------------------|
| 1         | 授業の進め方、運営方法については、各担当教員の指示に従ってください。 |                  |

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

| 種別 / Kind | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc.                                                          |
|-----------|-----------------|----------------------------------------------------------------------------------------|
| 日常点       | 100 %           | 開講回数の2/3以上の出席が評価対象の要件となります。評価方法は、平常点（班学習、発表、討論参加等）やレポート・小論文等によりますが、詳しくは、担当教員が個別に指示します。 |

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

## 教科書 / Textbooks

『産業社会学部で学ぶー産業社会学部ハンドブック』など

## 参考書 / Reference Books

## 参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

## その他 / Others

## 演習I 1A

15064

担当者名 / Instructor 斎藤 真緒

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Description

1回生時の学部共通専門科目、学科共通専門科目での学習、および、2回生前期セメスターにおける学系共通専門科目での学習の到達を踏まえ、ゼミナール形式によって専門的研究の導入教育・学習を行います。

## 到達目標 / Focus and Goal

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

## 授業スケジュール / Schedule

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

| 種別 / Kind | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc. |
|-----------|-----------------|-------------------------------|
| 日常点       | 100 %           |                               |

## 日常点評価

評価方法は、出席状況、平常点(班学習あるいは個人研究、発表、討論参加等)やレポート・小論文等によりますが、詳しくは担当教員が個別に指示します。

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

## 教科書 / Textbooks

## 参考書 / Reference Books

## 参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

## その他 / Others

## 演習ⅠB

15146

担当者名 / Instructor 辻 勝次

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Description

1年生時の学部共通専門科目、学科共通専門科目での学習、および、2回生前期セメスターにおける学系共通専門科目での学習の到達を踏まえ、ゼミナール形式によって専門的研究の導入教育・学習を行います。

## 到達目標 / Focus and Goal

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

## 授業スケジュール / Schedule

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

| 種別 / Kind | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc. |
|-----------|-----------------|-------------------------------|
| 日常点       | 100 %           |                               |

## 日常点評価

評価方法は、出席状況、平常点(班学習あるいは個人研究、発表、討論参加等)やレポート・小論文等によりますが、詳しくは担当教員が個別に指示します。

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

## 教科書 / Textbooks

## 参考書 / Reference Books

## 参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

## その他 / Others

## 演習 I 1C

本文無し

担当者名 / Instructor単位数 / Credit授業の概要 / Course Description到達目標 / Focus and Goal履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to授業スケジュール / Schedule(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research教科書 / Textbooks参考書 / Reference Books参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Courseその他 / Others

## 演習I 1D

15150

担当者名 / Instructor 牧野 泰典

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Description

1回生時の学部共通専門科目、学科共通専門科目での学習、および、2回生前期セメスターにおける学系共通専門科目での学習の到達を踏まえ、ゼミナール形式によって専門的研究の導入教育・学習を行います。

## 到達目標 / Focus and Goal

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

## 授業スケジュール / Schedule

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

| 種別 / Kind | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc. |
|-----------|-----------------|-------------------------------|
| 日常点       | 100 %           |                               |

## 日常点評価

評価方法は、出席状況、平常点(班学習あるいは個人研究、発表、討論参加等)やレポート・小論文等によりますが、詳しくは担当教員が個別に指示します。

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

## 教科書 / Textbooks

## 参考書 / Reference Books

## 参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

## その他 / Others



## 演習I 1E

15152

担当者名 / Instructor 石本 幸良

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Description

1回生時の学部共通専門科目、学科共通専門科目での学習、および、2回生前期セメスターにおける学系共通専門科目での学習の到達を踏まえ、ゼミナール形式によって専門的研究の導入教育・学習を行います。

## 到達目標 / Focus and Goal

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

## 授業スケジュール / Schedule

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

| 種別 / Kind | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc. |
|-----------|-----------------|-------------------------------|
| 日常点       | 100 %           |                               |

## 日常点評価

評価方法は、出席状況、平常点(班学習あるいは個人研究、発表、討論参加等)やレポート・小論文等によりますが、詳しくは担当教員が個別に指示します。

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

## 教科書 / Textbooks

## 参考書 / Reference Books

## 参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

## その他 / Others

## 演習I 1F

15184

担当者名 / Instructor 和田 武

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Description

1回生時の学部共通専門科目、学科共通専門科目での学習、および、2回生前期セメスターにおける学系共通専門科目での学習の到達を踏まえ、ゼミナール形式によって専門的研究の導入教育・学習を行います。

## 到達目標 / Focus and Goal

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

## 授業スケジュール / Schedule

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

| 種別 / Kind | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc. |
|-----------|-----------------|-------------------------------|
| 日常点       | 100 %           |                               |

## 日常点評価

評価方法は、出席状況、平常点(班学習あるいは個人研究、発表、討論参加等)やレポート・小論文等によりますが、詳しくは担当教員が個別に指示します。

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

## 教科書 / Textbooks

## 参考書 / Reference Books

## 参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

## その他 / Others

## 演習I 1G

15160

担当者名 / Instructor 澤井 勝

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Description

1回生時の学部共通専門科目、学科共通専門科目での学習、および、2回生前期セメスターにおける学系共通専門科目での学習の到達を踏まえ、ゼミナール形式によって専門的研究の導入教育・学習を行います。

## 到達目標 / Focus and Goal

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

## 授業スケジュール / Schedule

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

| 種別 / Kind | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc. |
|-----------|-----------------|-------------------------------|
| 日常点       | 100 %           |                               |

## 日常点評価

評価方法は、出席状況、平常点(班学習あるいは個人研究、発表、討論参加等)やレポート・小論文等によりますが、詳しくは担当教員が個別に指示します。

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

## 教科書 / Textbooks

## 参考書 / Reference Books

## 参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

## その他 / Others

## 演習I 2A

15171

担当者名 / Instructor 津田 正夫

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Description

1回生時の学部共通専門科目、学科共通専門科目での学習、および、2回生前期セメスターにおける学系共通専門科目での学習の到達を踏まえ、ゼミナール形式によって専門的研究の導入教育・学習を行います。

## 到達目標 / Focus and Goal

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

## 授業スケジュール / Schedule

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

| 種別 / Kind | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc. |
|-----------|-----------------|-------------------------------|
| 日常点       | 100 %           |                               |

## 日常点評価

評価方法は、出席状況、平常点(班学習あるいは個人研究、発表、討論参加等)やレポート・小論文等によりますが、詳しくは担当教員が個別に指示します。

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

## 教科書 / Textbooks

## 参考書 / Reference Books

## 参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

## その他 / Others

## 演習I 2B

15153

担当者名 / Instructor 神保 哲生

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Description

1年生時の学部共通専門科目、学科共通専門科目での学習、および、2回生前期セメスターにおける学系共通専門科目での学習の到達を踏まえ、ゼミナール形式によって専門的研究の導入教育・学習を行います。

## 到達目標 / Focus and Goal

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

## 授業スケジュール / Schedule

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

| 種別 / Kind | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc. |
|-----------|-----------------|-------------------------------|
| 日常点       | 100 %           |                               |

## 日常点評価

評価方法は、出席状況、平常点(班学習あるいは個人研究、発表、討論参加等)やレポート・小論文等によりますが、詳しくは担当教員が個別に指示します。

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

## 教科書 / Textbooks

## 参考書 / Reference Books

## 参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

## その他 / Others

## 演習I 2C

15162

担当者名 / Instructor 柳澤 伸司

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Description

1回生時の学部共通専門科目、学科共通専門科目での学習、および、2回生前期セメスターにおける学系共通専門科目での学習の到達を踏まえ、ゼミナール形式によって専門的研究の導入教育・学習を行います。

## 到達目標 / Focus and Goal

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

## 授業スケジュール / Schedule

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

| 種別 / Kind | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc. |
|-----------|-----------------|-------------------------------|
| 日常点       | 100 %           |                               |

## 日常点評価

評価方法は、出席状況、平常点(班学習あるいは個人研究、発表、討論参加等)やレポート・小論文等によりますが、詳しくは担当教員が個別に指示します。

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

## 教科書 / Textbooks

## 参考書 / Reference Books

## 参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

## その他 / Others

## 演習I 2D

15080

担当者名 / Instructor 坂田 謙司

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Description

1回生時の学部共通専門科目、学科共通専門科目での学習、および、2回生前期セメスターにおける学系共通専門科目での学習の到達を踏まえ、ゼミナール形式によって専門的研究の導入教育・学習を行います。

## 到達目標 / Focus and Goal

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

## 授業スケジュール / Schedule

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

| 種別 / Kind | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc. |
|-----------|-----------------|-------------------------------|
| 日常点       | 100 %           |                               |

## 日常点評価

評価方法は、出席状況、平常点(班学習あるいは個人研究、発表、討論参加等)やレポート・小論文等によりますが、詳しくは担当教員が個別に指示します。

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

## 教科書 / Textbooks

## 参考書 / Reference Books

## 参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

## その他 / Others

## 演習I 2E

15178

担当者名 / Instructor 黄 盛彬

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Description

1回生時の学部共通専門科目、学科共通専門科目での学習、および、2回生前期セメスターにおける学系共通専門科目での学習の到達を踏まえ、ゼミナール形式によって専門的研究の導入教育・学習を行います。

## 到達目標 / Focus and Goal

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

## 授業スケジュール / Schedule

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

| 種別 / Kind | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc. |
|-----------|-----------------|-------------------------------|
| 日常点       | 100 %           |                               |

## 日常点評価

評価方法は、出席状況、平常点(班学習あるいは個人研究、発表、討論参加等)やレポート・小論文等によりますが、詳しくは担当教員が個別に指示します。

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

## 教科書 / Textbooks

## 参考書 / Reference Books

## 参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

## その他 / Others



## 演習I 2F

15113

担当者名 / Instructor 増田 幸子

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Description

1回生時の学部共通専門科目、学科共通専門科目での学習、および、2回生前期セメスターにおける学系共通専門科目での学習の到達を踏まえ、ゼミナール形式によって専門的研究の導入教育・学習を行います。

## 到達目標 / Focus and Goal

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

## 授業スケジュール / Schedule

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

| 種別 / Kind | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc. |
|-----------|-----------------|-------------------------------|
| 日常点       | 100 %           |                               |

## 日常点評価

評価方法は、出席状況、平常点(班学習あるいは個人研究、発表、討論参加等)やレポート・小論文等によりますが、詳しくは担当教員が個別に指示します。

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

## 教科書 / Textbooks

## 参考書 / Reference Books

## 参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

## その他 / Others

## 演習I 2G

15165

担当者名 / Instructor 小泉 秀昭

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Description

1年生時の学部共通専門科目、学科共通専門科目での学習、および、2回生前期セメスターにおける学系共通専門科目での学習の到達を踏まえ、ゼミナール形式によって専門的研究の導入教育・学習を行います。

## 到達目標 / Focus and Goal

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

## 授業スケジュール / Schedule

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

| 種別 / Kind | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc. |
|-----------|-----------------|-------------------------------|
| 日常点       | 100 %           |                               |

## 日常点評価

評価方法は、出席状況、平常点(班学習あるいは個人研究、発表、討論参加等)やレポート・小論文等によりますが、詳しくは担当教員が個別に指示します。

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

## 教科書 / Textbooks

## 参考書 / Reference Books

## 参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

## その他 / Others

## 演習I 2H

15047

担当者名 / Instructor 池田 知加

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Description

1回生時の学部共通専門科目、学科共通専門科目での学習、および、2回生前期セメスターにおける学系共通専門科目での学習の到達を踏まえ、ゼミナール形式によって専門的研究の導入教育・学習を行います。

## 到達目標 / Focus and Goal

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

## 授業スケジュール / Schedule

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

| 種別 / Kind | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc. |
|-----------|-----------------|-------------------------------|
| 日常点       | 100 %           |                               |

## 日常点評価

評価方法は、出席状況、平常点(班学習あるいは個人研究、発表、討論参加等)やレポート・小論文等によりますが、詳しくは担当教員が個別に指示します。

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

## 教科書 / Textbooks

## 参考書 / Reference Books

## 参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

## その他 / Others

## 演習I 3A

15120

担当者名 / Instructor 門田 幸太郎

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Description

1年生時の学部共通専門科目、学科共通専門科目での学習、および、2回生前期セメスターにおける学系共通専門科目での学習の到達を踏まえ、ゼミナール形式によって専門的研究の導入教育・学習を行います。

## 到達目標 / Focus and Goal

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

## 授業スケジュール / Schedule

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

| 種別 / Kind | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc. |
|-----------|-----------------|-------------------------------|
| 日常点       | 100 %           |                               |

## 日常点評価

評価方法は、出席状況、平常点(班学習あるいは個人研究、発表、討論参加等)やレポート・小論文等によりますが、詳しくは担当教員が個別に指示します。

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

## 教科書 / Textbooks

## 参考書 / Reference Books

## 参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

## その他 / Others

## 演習I 3B

15147

担当者名 / Instructor 景井 充

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Description

1回生時の学部共通専門科目、学科共通専門科目での学習、および、2回生前期セメスターにおける学系共通専門科目での学習の到達を踏まえ、ゼミナール形式によって専門的研究の導入教育・学習を行います。

## 到達目標 / Focus and Goal

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

## 授業スケジュール / Schedule

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

| 種別 / Kind | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc. |
|-----------|-----------------|-------------------------------|
| 日常点       | 100 %           |                               |

## 日常点評価

評価方法は、出席状況、平常点(班学習あるいは個人研究、発表、討論参加等)やレポート・小論文等によりますが、詳しくは担当教員が個別に指示します。

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

## 教科書 / Textbooks

## 参考書 / Reference Books

## 参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

## その他 / Others

## 演習I 3C

15179

担当者名 / Instructor 佐藤 春吉

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Description

1回生時の学部共通専門科目、学科共通専門科目での学習、および、2回生前期セメスターにおける学系共通専門科目での学習の到達を踏まえ、ゼミナール形式によって専門的研究の導入教育・学習を行います。

## 到達目標 / Focus and Goal

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

## 授業スケジュール / Schedule

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

| 種別 / Kind | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc. |
|-----------|-----------------|-------------------------------|
| 日常点       | 100 %           |                               |

## 日常点評価

評価方法は、出席状況、平常点(班学習あるいは個人研究、発表、討論参加等)やレポート・小論文等によりますが、詳しくは担当教員が個別に指示します。

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

## 教科書 / Textbooks

## 参考書 / Reference Books

## 参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

## その他 / Others

## 演習I 3D

15154

担当者名 / Instructor 森西 真弓

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Description

1回生時の学部共通専門科目、学科共通専門科目での学習、および、2回生前期セメスターにおける学系共通専門科目での学習の到達を踏まえ、ゼミナール形式によって専門的研究の導入教育・学習を行います。

## 到達目標 / Focus and Goal

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

## 授業スケジュール / Schedule

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

| 種別 / Kind | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc. |
|-----------|-----------------|-------------------------------|
| 日常点       | 100 %           |                               |

## 日常点評価

評価方法は、出席状況、平常点(班学習あるいは個人研究、発表、討論参加等)やレポート・小論文等によりますが、詳しくは担当教員が個別に指示します。

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

## 教科書 / Textbooks

## 参考書 / Reference Books

## 参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

## その他 / Others

## 演習I 3E

15163

担当者名 / Instructor 出口 剛司

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Description

1回生時の学部共通専門科目、学科共通専門科目での学習、および、2回生前期セメスターにおける学系共通専門科目での学習の到達を踏まえ、ゼミナール形式によって専門的研究の導入教育・学習を行います。

## 到達目標 / Focus and Goal

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

## 授業スケジュール / Schedule

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

| 種別 / Kind | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc. |
|-----------|-----------------|-------------------------------|
| 日常点       | 100 %           |                               |

## 日常点評価

評価方法は、出席状況、平常点(班学習あるいは個人研究、発表、討論参加等)やレポート・小論文等によりますが、詳しくは担当教員が個別に指示します。

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

## 教科書 / Textbooks

## 参考書 / Reference Books

## 参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

## その他 / Others



## 演習I 3F

15093

担当者名 / Instructor 崎山 治男

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Description

1回生時の学部共通専門科目、学科共通専門科目での学習、および、2回生前期セメスターにおける学系共通専門科目での学習の到達を踏まえ、ゼミナール形式によって専門的研究の導入教育・学習を行います。

## 到達目標 / Focus and Goal

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

## 授業スケジュール / Schedule

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

| 種別 / Kind | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc. |
|-----------|-----------------|-------------------------------|
| 日常点       | 100 %           |                               |

## 日常点評価

評価方法は、出席状況、平常点(班学習あるいは個人研究、発表、討論参加等)やレポート・小論文等によりますが、詳しくは担当教員が個別に指示します。

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

## 教科書 / Textbooks

## 参考書 / Reference Books

## 参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

## その他 / Others

## 演習I 3G

15217

担当者名 / Instructor 金井 淳二

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Description

1年生時の学部共通専門科目、学科共通専門科目での学習、および、2回生前期セメスターにおける学系共通専門科目での学習の到達を踏まえ、ゼミナール形式によって専門的研究の導入教育・学習を行います。

## 到達目標 / Focus and Goal

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

## 授業スケジュール / Schedule

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

| 種別 / Kind | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc. |
|-----------|-----------------|-------------------------------|
| 日常点       | 100 %           |                               |

## 日常点評価

評価方法は、出席状況、平常点(班学習あるいは個人研究、発表、討論参加等)やレポート・小論文等によりますが、詳しくは担当教員が個別に指示します。

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

## 教科書 / Textbooks

## 参考書 / Reference Books

## 参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

## その他 / Others

## 演習I 4A

15014

担当者名 / Instructor 生田 正幸

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Description

1回生時の学部共通専門科目、学科共通専門科目での学習、および、2回生前期セメスターにおける学系共通専門科目での学習の到達を踏まえ、ゼミナール形式によって専門的研究の導入教育・学習を行います。

## 到達目標 / Focus and Goal

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

## 授業スケジュール / Schedule

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

| 種別 / Kind | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc. |
|-----------|-----------------|-------------------------------|
| 日常点       | 100 %           |                               |

## 日常点評価

評価方法は、出席状況、平常点(班学習あるいは個人研究、発表、討論参加等)やレポート・小論文等によりますが、詳しくは担当教員が個別に指示します。

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

## 教科書 / Textbooks

## 参考書 / Reference Books

## 参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

## その他 / Others

## 演習I 4B

15121

担当者名 / Instructor 荒木 穂積

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Description

1回生時の学部共通専門科目、学科共通専門科目での学習、および、2回生前期セメスターにおける学系共通専門科目での学習の到達を踏まえ、ゼミナール形式によって専門的研究の導入教育・学習を行います。

## 到達目標 / Focus and Goal

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

## 授業スケジュール / Schedule

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

| 種別 / Kind | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc. |
|-----------|-----------------|-------------------------------|
| 日常点       | 100 %           |                               |

## 日常点評価

評価方法は、出席状況、平常点(班学習あるいは個人研究、発表、討論参加等)やレポート・小論文等によりますが、詳しくは担当教員が個別に指示します。

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

## 教科書 / Textbooks

## 参考書 / Reference Books

## 参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

## その他 / Others

## 演習I 4C

15200

担当者名 / Instructor 峰島 厚

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Description

1年生時の学部共通専門科目、学科共通専門科目での学習、および、2回生前期セメスターにおける学系共通専門科目での学習の到達を踏まえ、ゼミナール形式によって専門的研究の導入教育・学習を行います。

## 到達目標 / Focus and Goal

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

## 授業スケジュール / Schedule

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

| 種別 / Kind | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc. |
|-----------|-----------------|-------------------------------|
| 日常点       | 100 %           |                               |

## 日常点評価

評価方法は、出席状況、平常点(班学習あるいは個人研究、発表、討論参加等)やレポート・小論文等によりますが、詳しくは担当教員が個別に指示します。

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

## 教科書 / Textbooks

## 参考書 / Reference Books

## 参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

## その他 / Others

## 演習I 4D

15216

担当者名 / Instructor 峰島 厚、岡田 まり

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Description

1回生時の学部共通専門科目、学科共通専門科目での学習、および、2回生前期セメスターにおける学系共通専門科目での学習の到達を踏まえ、ゼミナール形式によって専門的研究の導入教育・学習を行います。

## 到達目標 / Focus and Goal

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

## 授業スケジュール / Schedule

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

| 種別 / Kind | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc. |
|-----------|-----------------|-------------------------------|
| 日常点       | 100 %           |                               |

## 日常点評価

評価方法は、出席状況、平常点(班学習あるいは個人研究、発表、討論参加等)やレポート・小論文等によりますが、詳しくは担当教員が個別に指示します。

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

## 教科書 / Textbooks

## 参考書 / Reference Books

## 参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

## その他 / Others

## 演習I 4E

15166

担当者名 / Instructor 石倉 康次

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Description

1回生時の学部共通専門科目、学科共通専門科目での学習、および、2回生前期セメスターにおける学系共通専門科目での学習の到達を踏まえ、ゼミナール形式によって専門的研究の導入教育・学習を行います。

## 到達目標 / Focus and Goal

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

## 授業スケジュール / Schedule

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

| 種別 / Kind | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc. |
|-----------|-----------------|-------------------------------|
| 日常点       | 100 %           |                               |

## 日常点評価

評価方法は、出席状況、平常点(班学習あるいは個人研究、発表、討論参加等)やレポート・小論文等によりますが、詳しくは担当教員が個別に指示します。

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

## 教科書 / Textbooks

## 参考書 / Reference Books

## 参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

## その他 / Others

## 演習I 4F

15155

担当者名 / Instructor 高橋 正人

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Description

1回生時の学部共通専門科目、学科共通専門科目での学習、および、2回生前期セメスターにおける学系共通専門科目での学習の到達を踏まえ、ゼミナール形式によって専門的研究の導入教育・学習を行います。

## 到達目標 / Focus and Goal

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

## 授業スケジュール / Schedule

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

| 種別 / Kind | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc. |
|-----------|-----------------|-------------------------------|
| 日常点       | 100 %           |                               |

## 日常点評価

評価方法は、出席状況、平常点(班学習あるいは個人研究、発表、討論参加等)やレポート・小論文等によりますが、詳しくは担当教員が個別に指示します。

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

## 教科書 / Textbooks

## 参考書 / Reference Books

## 参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

## その他 / Others



## 演習I 4G

15180

担当者名 / Instructor 高垣 忠一郎

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Description

1回生時の学部共通専門科目、学科共通専門科目での学習、および、2回生前期セメスターにおける学系共通専門科目での学習の到達を踏まえ、ゼミナール形式によって専門的研究の導入教育・学習を行います。

## 到達目標 / Focus and Goal

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

## 授業スケジュール / Schedule

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

| 種別 / Kind | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc. |
|-----------|-----------------|-------------------------------|
| 日常点       | 100 %           |                               |

## 日常点評価

評価方法は、出席状況、平常点(班学習あるいは個人研究、発表、討論参加等)やレポート・小論文等によりますが、詳しくは担当教員が個別に指示します。

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

## 教科書 / Textbooks

## 参考書 / Reference Books

## 参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

## その他 / Others

## 演習I 5A

15156

担当者名 / Instructor 伊藤 武夫

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Description

1回生時の学部共通専門科目、学科共通専門科目での学習、および、2回生前期セメスターにおける学系共通専門科目での学習の到達を踏まえ、ゼミナール形式によって専門的研究の導入教育・学習を行います。

## 到達目標 / Focus and Goal

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

## 授業スケジュール / Schedule

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

| 種別 / Kind | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc. |
|-----------|-----------------|-------------------------------|
| 日常点       | 100 %           |                               |

## 日常点評価

評価方法は、出席状況、平常点(班学習あるいは個人研究、発表、討論参加等)やレポート・小論文等によりますが、詳しくは担当教員が個別に指示します。

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

## 教科書 / Textbooks

## 参考書 / Reference Books

## 参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

## その他 / Others

## 演習I 5B

15181

担当者名 / Instructor 乾 亨

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Description

1回生時の学部共通専門科目、学科共通専門科目での学習、および、2回生前期セメスターにおける学系共通専門科目での学習の到達を踏まえ、ゼミナール形式によって専門的研究の導入教育・学習を行います。

## 到達目標 / Focus and Goal

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

## 授業スケジュール / Schedule

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

| 種別 / Kind | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc. |
|-----------|-----------------|-------------------------------|
| 日常点       | 100 %           |                               |

## 日常点評価

評価方法は、出席状況、平常点(班学習あるいは個人研究、発表、討論参加等)やレポート・小論文等によりますが、詳しくは担当教員が個別に指示します。

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

## 教科書 / Textbooks

## 参考書 / Reference Books

## 参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

## その他 / Others

## 演習I 5C

15173

担当者名 / Instructor 松葉 正文

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Description

1回生時の学部共通専門科目、学科共通専門科目での学習、および、2回生前期セメスターにおける学系共通専門科目での学習の到達を踏まえ、ゼミナール形式によって専門的研究の導入教育・学習を行います。

## 到達目標 / Focus and Goal

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

## 授業スケジュール / Schedule

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

| 種別 / Kind | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc. |
|-----------|-----------------|-------------------------------|
| 日常点       | 100 %           |                               |

## 日常点評価

評価方法は、出席状況、平常点(班学習あるいは個人研究、発表、討論参加等)やレポート・小論文等によりますが、詳しくは担当教員が個別に指示します。

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

## 教科書 / Textbooks

## 参考書 / Reference Books

## 参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

## その他 / Others

## 演習I 5D

15168

担当者名 / Instructor 鈴木 隆

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Description

1回生時の学部共通専門科目、学科共通専門科目での学習、および、2回生前期セメスターにおける学系共通専門科目での学習の到達を踏まえ、ゼミナール形式によって専門的研究の導入教育・学習を行います。

## 到達目標 / Focus and Goal

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

## 授業スケジュール / Schedule

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

| 種別 / Kind | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc. |
|-----------|-----------------|-------------------------------|
| 日常点       | 100 %           |                               |

## 日常点評価

評価方法は、出席状況、平常点(班学習あるいは個人研究、発表、討論参加等)やレポート・小論文等によりますが、詳しくは担当教員が個別に指示します。

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

## 教科書 / Textbooks

## 参考書 / Reference Books

## 参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

## その他 / Others

## 演習I 5E

15157

担当者名 / Instructor 筒井 淳也

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Description

1回生時の学部共通専門科目、学科共通専門科目での学習、および、2回生前期セメスターにおける学系共通専門科目での学習の到達を踏まえ、ゼミナール形式によって専門的研究の導入教育・学習を行います。

## 到達目標 / Focus and Goal

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

## 授業スケジュール / Schedule

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

| 種別 / Kind | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc. |
|-----------|-----------------|-------------------------------|
| 日常点       | 100 %           |                               |

## 日常点評価

評価方法は、出席状況、平常点(班学習あるいは個人研究、発表、討論参加等)やレポート・小論文等によりますが、詳しくは担当教員が個別に指示します。

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

## 教科書 / Textbooks

## 参考書 / Reference Books

## 参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

## その他 / Others

## 演習I 5F

15182

担当者名 / Instructor 宝月 誠

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Description

1回生時の学部共通専門科目、学科共通専門科目での学習、および、2回生前期セメスターにおける学系共通専門科目での学習の到達を踏まえ、ゼミナール形式によって専門的研究の導入教育・学習を行います。

## 到達目標 / Focus and Goal

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

## 授業スケジュール / Schedule

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

| 種別 / Kind | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc. |
|-----------|-----------------|-------------------------------|
| 日常点       | 100 %           |                               |

## 日常点評価

評価方法は、出席状況、平常点(班学習あるいは個人研究、発表、討論参加等)やレポート・小論文等によりますが、詳しくは担当教員が個別に指示します。

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

## 教科書 / Textbooks

## 参考書 / Reference Books

## 参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

## その他 / Others

## 演習I 5G

15137

担当者名 / Instructor 高木 正朗

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Description

1回生時の学部共通専門科目、学科共通専門科目での学習、および、2回生前期セメスターにおける学系共通専門科目での学習の到達を踏まえ、ゼミナール形式によって専門的研究の導入教育・学習を行います。

## 到達目標 / Focus and Goal

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

## 授業スケジュール / Schedule

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

| 種別 / Kind | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc. |
|-----------|-----------------|-------------------------------|
| 日常点       | 100 %           |                               |

## 日常点評価

評価方法は、出席状況、平常点(班学習あるいは個人研究、発表、討論参加等)やレポート・小論文等によりますが、詳しくは担当教員が個別に指示します。

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

## 教科書 / Textbooks

## 参考書 / Reference Books

## 参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

## その他 / Others



## 演習I 5H

15158

担当者名 / Instructor 草深 直臣

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Description

1回生時の学部共通専門科目、学科共通専門科目での学習、および、2回生前期セメスターにおける学系共通専門科目での学習の到達を踏まえ、ゼミナール形式によって専門的研究の導入教育・学習を行います。

## 到達目標 / Focus and Goal

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

## 授業スケジュール / Schedule

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

| 種別 / Kind | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc. |
|-----------|-----------------|-------------------------------|
| 日常点       | 100 %           |                               |

## 日常点評価

評価方法は、出席状況、平常点(班学習あるいは個人研究、発表、討論参加等)やレポート・小論文等によりますが、詳しくは担当教員が個別に指示します。

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

## 教科書 / Textbooks

## 参考書 / Reference Books

## 参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

## その他 / Others

## 演習I 5I

15192

担当者名 / Instructor 津止 正敏

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Description

1回生時の学部共通専門科目、学科共通専門科目での学習、および、2回生前期セメスターにおける学系共通専門科目での学習の到達を踏まえ、ゼミナール形式によって専門的研究の導入教育・学習を行います。

## 到達目標 / Focus and Goal

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

## 授業スケジュール / Schedule

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

| 種別 / Kind | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc. |
|-----------|-----------------|-------------------------------|
| 日常点       | 100 %           |                               |

## 日常点評価

評価方法は、出席状況、平常点(班学習あるいは個人研究、発表、討論参加等)やレポート・小論文等によりますが、詳しくは担当教員が個別に指示します。

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

## 教科書 / Textbooks

## 参考書 / Reference Books

## 参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

## その他 / Others

## 演習I 5J

15164

担当者名 / Instructor 中村 正

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Description

1回生時の学部共通専門科目、学科共通専門科目での学習、および、2回生前期セメスターにおける学系共通専門科目での学習の到達を踏まえ、ゼミナール形式によって専門的研究の導入教育・学習を行います。

## 到達目標 / Focus and Goal

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

## 授業スケジュール / Schedule

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

| 種別 / Kind | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc. |
|-----------|-----------------|-------------------------------|
| 日常点       | 100 %           |                               |

## 日常点評価

評価方法は、出席状況、平常点(班学習あるいは個人研究、発表、討論参加等)やレポート・小論文等によりますが、詳しくは担当教員が個別に指示します。

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

## 教科書 / Textbooks

## 参考書 / Reference Books

## 参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

## その他 / Others

## 演習I 5K

15159

担当者名 / Instructor 中川 勝雄

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Description

1回生時の学部共通専門科目、学科共通専門科目での学習、および、2回生前期セメスターにおける学系共通専門科目での学習の到達を踏まえ、ゼミナール形式によって専門的研究の導入教育・学習を行います。

## 到達目標 / Focus and Goal

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

## 授業スケジュール / Schedule

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

| 種別 / Kind | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc. |
|-----------|-----------------|-------------------------------|
| 日常点       | 100 %           |                               |

## 日常点評価

評価方法は、出席状況、平常点(班学習あるいは個人研究、発表、討論参加等)やレポート・小論文等によりますが、詳しくは担当教員が個別に指示します。

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

## 教科書 / Textbooks

## 参考書 / Reference Books

## 参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

## その他 / Others

## 演習I 6A

15183

担当者名 / Instructor 松田 博

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Description

1回生時の学部共通専門科目、学科共通専門科目での学習、および、2回生前期セメスターにおける学系共通専門科目での学習の到達を踏まえ、ゼミナール形式によって専門的研究の導入教育・学習を行います。

## 到達目標 / Focus and Goal

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

## 授業スケジュール / Schedule

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

| 種別 / Kind | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc. |
|-----------|-----------------|-------------------------------|
| 日常点       | 100 %           |                               |

## 日常点評価

評価方法は、出席状況、平常点(班学習あるいは個人研究、発表、討論参加等)やレポート・小論文等によりますが、詳しくは担当教員が個別に指示します。

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

## 教科書 / Textbooks

## 参考書 / Reference Books

## 参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

## その他 / Others

## 演習I 6B

15138

担当者名 / Instructor 奥村 信幸

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Description

1回生時の学部共通専門科目、学科共通専門科目での学習、および、2回生前期セメスターにおける学系共通専門科目での学習の到達を踏まえ、ゼミナール形式によって専門的研究の導入教育・学習を行います。

## 到達目標 / Focus and Goal

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

## 授業スケジュール / Schedule

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

| 種別 / Kind | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc. |
|-----------|-----------------|-------------------------------|
| 日常点       | 100 %           |                               |

## 日常点評価

評価方法は、出席状況、平常点(班学習あるいは個人研究、発表、討論参加等)やレポート・小論文等によりますが、詳しくは担当教員が個別に指示します。

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

## 教科書 / Textbooks

## 参考書 / Reference Books

## 参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

## その他 / Others

## 演習I 6C

15198

担当者名 / Instructor 池内 靖子

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Description

1回生時の学部共通専門科目、学科共通専門科目での学習、および、2回生前期セメスターにおける学系共通専門科目での学習の到達を踏まえ、ゼミナール形式によって専門的研究の導入教育・学習を行います。

## 到達目標 / Focus and Goal

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

## 授業スケジュール / Schedule

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

| 種別 / Kind | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc. |
|-----------|-----------------|-------------------------------|
| 日常点       | 100 %           |                               |

## 日常点評価

評価方法は、出席状況、平常点(班学習あるいは個人研究、発表、討論参加等)やレポート・小論文等によりますが、詳しくは担当教員が個別に指示します。

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

## 教科書 / Textbooks

## 参考書 / Reference Books

## 参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

## その他 / Others

## 演習Ⅰ 6D

15176

担当者名 / Instructor 櫻井 純理

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Description

1年生時の学部共通専門科目、学科共通専門科目での学習、および、2回生前期セメスターにおける学系共通専門科目での学習の到達を踏まえ、ゼミナール形式によって専門的研究の導入教育・学習を行います。

## 到達目標 / Focus and Goal

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

## 授業スケジュール / Schedule

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

| 種別 / Kind | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc. |
|-----------|-----------------|-------------------------------|
| 日常点       | 100 %           |                               |

## 日常点評価

評価方法は、出席状況、平常点(班学習あるいは個人研究、発表、討論参加等)やレポート・小論文等によりますが、詳しくは担当教員が個別に指示します。

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

## 教科書 / Textbooks

## 参考書 / Reference Books

## 参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

## その他 / Others



## 演習I 6E

15225

担当者名 / Instructor 篠田 武司

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Description

1年生時の学部共通専門科目、学科共通専門科目での学習、および、2回生前期セメスターにおける学系共通専門科目での学習の到達を踏まえ、ゼミナール形式によって専門的研究の導入教育・学習を行います。

## 到達目標 / Focus and Goal

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

## 授業スケジュール / Schedule

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

| 種別 / Kind | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc. |
|-----------|-----------------|-------------------------------|
| 日常点       | 100 %           |                               |

## 日常点評価

評価方法は、出席状況、平常点(班学習あるいは個人研究、発表、討論参加等)やレポート・小論文等によりますが、詳しくは担当教員が個別に指示します。

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

## 教科書 / Textbooks

## 参考書 / Reference Books

## 参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

## その他 / Others

## 演習I 6F

15226

担当者名 / Instructor 山本 隆

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Description

1回生時の学部共通専門科目、学科共通専門科目での学習、および、2回生前期セメスターにおける学系共通専門科目での学習の到達を踏まえ、ゼミナール形式によって専門的研究の導入教育・学習を行います。

## 到達目標 / Focus and Goal

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

## 授業スケジュール / Schedule

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

| 種別 / Kind | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc. |
|-----------|-----------------|-------------------------------|
| 日常点       | 100 %           |                               |

## 日常点評価

評価方法は、出席状況、平常点(班学習あるいは個人研究、発表、討論参加等)やレポート・小論文等によりますが、詳しくは担当教員が個別に指示します。

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

## 教科書 / Textbooks

## 参考書 / Reference Books

## 参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

## その他 / Others

## 演習Ⅱ 1A S 人間福祉演習Ⅱ 1A

13998

担当者名 / Instructor 乾 亨

単位数 / Credit 4

授業の概要 / Course Description

2回生までの学習・研究あるいは演習Ⅰ/人間福祉演習Ⅰの成果を基礎に、専門科目と関連させながらゼミナール形式によって専門的研究を進めることを目標とします。ここでは、教員の指導に基づき共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、その成果を発表したり、討議したり、レポートや論文にまとめる力量の形成を目指します。学生それぞれが属する学科・学系プログラムにおける学習の一定の到達点を示す成果が期待されています。

到達目標 / Focus and Goal履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to授業スケジュール / Schedule(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

＊試験に代わるレポートとして実施

＊日常点評価 評価方法は、「出席状況」、「日常的な演習活動」と「演習レポート(またはこれに代わる成果物)」によります。

受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research教科書 / Textbooks参考書 / Reference Books参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Courseその他 / Others

## 演習Ⅱ 1B § 人間福祉演習Ⅱ 1B

13988

担当者名 / Instructor 國廣 敏文

単位数 / Credit 4

授業の概要 / Course Description

2回生までの学習・研究あるいは演習Ⅰ/人間福祉演習Ⅰの成果を基礎に、専門科目と関連させながらゼミナール形式によって専門的研究を進めることを目標とします。ここでは、教員の指導に基づき共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、その成果を発表したり、討議したり、レポートや論文にまとめる力量の形成を目指します。学生それぞれが属する学科・学系プログラムにおける学習の一定の到達点を示す成果が期待されています。

到達目標 / Focus and Goal履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to授業スケジュール / Schedule(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

＊試験に代わるレポートとして実施

＊日常点評価 評価方法は、「出席状況」、「日常的な演習活動」と「演習レポート(またはこれに代わる成果物)」によります。

受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research教科書 / Textbooks参考書 / Reference Books参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Courseその他 / Others

## 演習Ⅱ 1C § 人間福祉演習Ⅱ 1C

14081

担当者名 / Instructor 辻 勝次

単位数 / Credit 4

授業の概要 / Course Description

2回生までの学習・研究あるいは演習Ⅰ/人間福祉演習Ⅰの成果を基礎に、専門科目と関連させながらゼミナール形式によって専門的研究を進めることを目標とします。ここでは、教員の指導に基づき共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、その成果を発表したり、討議したり、レポートや論文にまとめる力量の形成を目指します。学生それぞれが属する学科・学系プログラムにおける学習の一定の到達点を示す成果が期待されています。

到達目標 / Focus and Goal履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to授業スケジュール / Schedule(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

＊試験に代わるレポートとして実施

＊日常点評価 評価方法は、「出席状況」、「日常的な演習活動」と「演習レポート(またはこれに代わる成果物)」によります。

受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research教科書 / Textbooks参考書 / Reference Books参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Courseその他 / Others

## 演習Ⅱ 1E S 人間福祉演習Ⅱ 1E

14083

担当者名 / Instructor 竹濱 朝美

単位数 / Credit 4

授業の概要 / Course Description

2回生までの学習・研究あるいは演習Ⅰ/人間福祉演習Ⅰの成果を基礎に、専門科目と関連させながらゼミナール形式によって専門的研究を進めることを目標とします。ここでは、教員の指導に基づき共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、その成果を発表したり、討議したり、レポートや論文にまとめる力量の形成を目指します。学生それぞれが属する学科・学系プログラムにおける学習の一定の到達点を示す成果が期待されています。

到達目標 / Focus and Goal履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to授業スケジュール / Schedule(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

＊試験に代わるレポートとして実施

＊日常点評価 評価方法は、「出席状況」、「日常的な演習活動」と「演習レポート(またはこれに代わる成果物)」によります。

受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research教科書 / Textbooks参考書 / Reference Books参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Courseその他 / Others

## 演習Ⅱ 1F S 人間福祉演習Ⅱ 1F

14047

担当者名 / Instructor 斎藤 真緒

単位数 / Credit 4

授業の概要 / Course Description

2回生までの学習・研究あるいは演習Ⅰ/人間福祉演習Ⅰの成果を基礎に、専門科目と関連させながらゼミナール形式によって専門的研究を進めることを目標とします。ここでは、教員の指導に基づき共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、その成果を発表したり、討議したり、レポートや論文にまとめる力量の形成を目指します。学生それぞれが属する学科・学系プログラムにおける学習の一定の到達点を示す成果が期待されています。

到達目標 / Focus and Goal履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to授業スケジュール / Schedule(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

＊試験に代わるレポートとして実施

＊日常点評価 評価方法は、「出席状況」、「日常的な演習活動」と「演習レポート(またはこれに代わる成果物)」によります。

受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research教科書 / Textbooks参考書 / Reference Books参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Courseその他 / Others

## 演習Ⅱ 1G § 人間福祉演習Ⅱ 1G

14034

担当者名 / Instructor 中川 順子

単位数 / Credit 4

授業の概要 / Course Description

2回生までの学習・研究あるいは演習Ⅰ/人間福祉演習Ⅰの成果を基礎に、専門科目と関連させながらゼミナール形式によって専門的研究を進めることを目標とします。ここでは、教員の指導に基づき共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、その成果を発表したり、討議したり、レポートや論文にまとめる力量の形成を目指します。学生それぞれが属する学科・学系プログラムにおける学習の一定の到達点を示す成果が期待されています。

到達目標 / Focus and Goal履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to授業スケジュール / Schedule(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

＊試験に代わるレポートとして実施

＊日常点評価 評価方法は、「出席状況」、「日常的な演習活動」と「演習レポート(またはこれに代わる成果物)」によります。

受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research教科書 / Textbooks参考書 / Reference Books参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Courseその他 / Others



## 演習Ⅱ 2A S 人間福祉演習Ⅱ 2A

14000

担当者名 / Instructor 赤井 正二

単位数 / Credit 4

授業の概要 / Course Description

2回生までの学習・研究あるいは演習Ⅰ/人間福祉演習Ⅰの成果を基礎に、専門科目と関連させながらゼミナール形式によって専門的研究を進めることを目標とします。ここでは、教員の指導に基づき共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、その成果を発表したり、討議したり、レポートや論文にまとめる力量の形成を目指します。学生それぞれが属する学科・学系プログラムにおける学習の一定の到達点を示す成果が期待されています。

到達目標 / Focus and Goal履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to授業スケジュール / Schedule(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

＊試験に代わるレポートとして実施

＊日常点評価 評価方法は、「出席状況」、「日常的な演習活動」と「演習レポート(またはこれに代わる成果物)」によります。

受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research教科書 / Textbooks参考書 / Reference Books参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Courseその他 / Others

## 演習Ⅱ 2B S 人間福祉演習Ⅱ 2B

14074

担当者名 / Instructor 津田 正夫

単位数 / Credit 4

授業の概要 / Course Description

2回生までの学習・研究あるいは演習Ⅰ/人間福祉演習Ⅰの成果を基礎に、専門科目と関連させながらゼミナール形式によって専門的研究を進めることを目標とします。ここでは、教員の指導に基づき共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、その成果を発表したり、討議したり、レポートや論文にまとめる力量の形成を目指します。学生それぞれが属する学科・学系プログラムにおける学習の一定の到達点を示す成果が期待されています。

到達目標 / Focus and Goal履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to授業スケジュール / Schedule(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

＊試験に代わるレポートとして実施

＊日常点評価 評価方法は、「出席状況」、「日常的な演習活動」と「演習レポート(またはこれに代わる成果物)」によります。

受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research教科書 / Textbooks参考書 / Reference Books参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Courseその他 / Others

## 演習Ⅱ 2C § 人間福祉演習Ⅱ 2C

14002

担当者名 / Instructor 黄 盛彬

単位数 / Credit 4

授業の概要 / Course Description

2回生までの学習・研究あるいは演習Ⅰ/人間福祉演習Ⅰの成果を基礎に、専門科目と関連させながらゼミナール形式によって専門的研究を進めることを目標とします。ここでは、教員の指導に基づき共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、その成果を発表したり、討議したり、レポートや論文にまとめる力量の形成を目指します。学生それぞれが属する学科・学系プログラムにおける学習の一定の到達点を示す成果が期待されています。

到達目標 / Focus and Goal履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to授業スケジュール / Schedule(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

＊試験に代わるレポートとして実施

＊日常点評価 評価方法は、「出席状況」、「日常的な演習活動」と「演習レポート(またはこれに代わる成果物)」によります。

受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research教科書 / Textbooks参考書 / Reference Books参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Courseその他 / Others

## 演習Ⅱ 2D S 人間福祉演習Ⅱ 2D

14004

担当者名 / Instructor 柳澤 伸司

単位数 / Credit 4

授業の概要 / Course Description

2回生までの学習・研究あるいは演習Ⅰ/人間福祉演習Ⅰの成果を基礎に、専門科目と関連させながらゼミナール形式によって専門的研究を進めることを目標とします。ここでは、教員の指導に基づき共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、その成果を発表したり、討議したり、レポートや論文にまとめる力量の形成を目指します。学生それぞれが属する学科・学系プログラムにおける学習の一定の到達点を示す成果が期待されています。

到達目標 / Focus and Goal履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to授業スケジュール / Schedule(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

＊試験に代わるレポートとして実施

＊日常点評価 評価方法は、「出席状況」、「日常的な演習活動」と「演習レポート(またはこれに代わる成果物)」によります。

受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research教科書 / Textbooks参考書 / Reference Books参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Courseその他 / Others

## 演習Ⅱ 2E S 人間福祉演習Ⅱ 2E

14038

担当者名 / Instructor 坂田 謙司

単位数 / Credit 4

授業の概要 / Course Description

2回生までの学習・研究あるいは演習Ⅰ/人間福祉演習Ⅰの成果を基礎に、専門科目と関連させながらゼミナール形式によって専門的研究を進めることを目標とします。ここでは、教員の指導に基づき共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、その成果を発表したり、討議したり、レポートや論文にまとめる力量の形成を目指します。学生それぞれが属する学科・学系プログラムにおける学習の一定の到達点を示す成果が期待されています。

到達目標 / Focus and Goal履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to授業スケジュール / Schedule(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

＊試験に代わるレポートとして実施

＊日常点評価 評価方法は、「出席状況」、「日常的な演習活動」と「演習レポート(またはこれに代わる成果物)」によります。

受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research教科書 / Textbooks参考書 / Reference Books参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Courseその他 / Others

## 演習Ⅱ 2F S 人間福祉演習Ⅱ 2F

14044

担当者名 / Instructor 小泉 秀昭

単位数 / Credit 4

授業の概要 / Course Description

2回生までの学習・研究あるいは演習Ⅰ/人間福祉演習Ⅰの成果を基礎に、専門科目と関連させながらゼミナール形式によって専門的研究を進めることを目標とします。ここでは、教員の指導に基づき共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、その成果を発表したり、討議したり、レポートや論文にまとめる力量の形成を目指します。学生それぞれが属する学科・学系プログラムにおける学習の一定の到達点を示す成果が期待されています。

到達目標 / Focus and Goal履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to授業スケジュール / Schedule(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

＊試験に代わるレポートとして実施

＊日常点評価 評価方法は、「出席状況」、「日常的な演習活動」と「演習レポート(またはこれに代わる成果物)」によります。

受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research教科書 / Textbooks参考書 / Reference Books参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Courseその他 / Others

## 演習Ⅱ 2G § 人間福祉演習Ⅱ 2G

14031

担当者名 / Instructor 奥村 信幸

単位数 / Credit 4

## 授業の概要 / Course Description

2回生までの学習・研究あるいは演習Ⅰ/人間福祉演習Ⅰの成果を基礎に、専門科目と関連させながらゼミナール形式によって専門的研究を進めることを目標とします。ここでは、教員の指導に基づき共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、その成果を発表したり、討議したり、レポートや論文にまとめる力量の形成を目指します。学生それぞれが属する学科・学系プログラムにおける学習の一定の到達点を示す成果が期待されています。

## 到達目標 / Focus and Goal

履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

## 授業スケジュール / Schedule

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

＊試験に代わるレポートとして実施

＊日常点評価 評価方法は、「出席状況」、「日常的な演習活動」と「演習レポート(またはこれに代わる成果物)」によります。

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

## 教科書 / Textbooks

## 参考書 / Reference Books

## 参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

## その他 / Others

## 演習Ⅱ 3A S 人間福祉演習Ⅱ 3A

14049

担当者名 / Instructor 山下 高行

単位数 / Credit 4

授業の概要 / Course Description

2回生までの学習・研究あるいは演習Ⅰ/人間福祉演習Ⅰの成果を基礎に、専門科目と関連させながらゼミナール形式によって専門的研究を進めることを目標とします。ここでは、教員の指導に基づき共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、その成果を発表したり、討議したり、レポートや論文にまとめる力量の形成を目指します。学生それぞれが属する学科・学系プログラムにおける学習の一定の到達点を示す成果が期待されています。

到達目標 / Focus and Goal履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to授業スケジュール / Schedule(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

＊試験に代わるレポートとして実施

＊日常点評価 評価方法は、「出席状況」、「日常的な演習活動」と「演習レポート(またはこれに代わる成果物)」によります。

受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research教科書 / Textbooks参考書 / Reference Books参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Courseその他 / Others



## 演習Ⅱ 3B S 人間福祉演習Ⅱ 3B

14040

担当者名 / Instructor 高木 正朗

単位数 / Credit 4

授業の概要 / Course Description

2回生までの学習・研究あるいは演習Ⅰ/人間福祉演習Ⅰの成果を基礎に、専門科目と関連させながらゼミナール形式によって専門的研究を進めることを目標とします。ここでは、教員の指導に基づき共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、その成果を発表したり、討議したり、レポートや論文にまとめる力量の形成を目指します。学生それぞれが属する学科・学系プログラムにおける学習の一定の到達点を示す成果が期待されています。

到達目標 / Focus and Goal履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to授業スケジュール / Schedule(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

＊試験に代わるレポートとして実施

＊日常点評価 評価方法は、「出席状況」、「日常的な演習活動」と「演習レポート(またはこれに代わる成果物)」によります。

受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research教科書 / Textbooks参考書 / Reference Books参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Courseその他 / Others

## 演習Ⅱ 3C § 人間福祉演習Ⅱ 3C

14006

担当者名 / Instructor 草深 直臣

単位数 / Credit 4

授業の概要 / Course Description

2回生までの学習・研究あるいは演習Ⅰ/人間福祉演習Ⅰの成果を基礎に、専門科目と関連させながらゼミナール形式によって専門的研究を進めることを目標とします。ここでは、教員の指導に基づき共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、その成果を発表したり、討議したり、レポートや論文にまとめる力量の形成を目指します。学生それぞれが属する学科・学系プログラムにおける学習の一定の到達点を示す成果が期待されています。

到達目標 / Focus and Goal履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to授業スケジュール / Schedule(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

＊試験に代わるレポートとして実施

＊日常点評価 評価方法は、「出席状況」、「日常的な演習活動」と「演習レポート(またはこれに代わる成果物)」によります。

受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research教科書 / Textbooks参考書 / Reference Books参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Courseその他 / Others

## 演習Ⅱ 3E S 人間福祉演習Ⅱ 3E

14063

担当者名 / Instructor 仲間 裕子

単位数 / Credit 4

授業の概要 / Course Description

2回生までの学習・研究あるいは演習Ⅰ/人間福祉演習Ⅰの成果を基礎に、専門科目と関連させながらゼミナール形式によって専門的研究を進めることを目標とします。ここでは、教員の指導に基づき共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、その成果を発表したり、討議したり、レポートや論文にまとめる力量の形成を目指します。学生それぞれが属する学科・学系プログラムにおける学習の一定の到達点を示す成果が期待されています。

到達目標 / Focus and Goal履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to授業スケジュール / Schedule(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

＊試験に代わるレポートとして実施

＊日常点評価 評価方法は、「出席状況」、「日常的な演習活動」と「演習レポート(またはこれに代わる成果物)」によります。

受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research教科書 / Textbooks参考書 / Reference Books参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Courseその他 / Others

## 演習Ⅱ 3F S 人間福祉演習Ⅱ 3F

14051

担当者名 / Instructor 崎山 治男

単位数 / Credit 4

授業の概要 / Course Description

2回生までの学習・研究あるいは演習Ⅰ/人間福祉演習Ⅰの成果を基礎に、専門科目と関連させながらゼミナール形式によって専門的研究を進めることを目標とします。ここでは、教員の指導に基づき共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、その成果を発表したり、討議したり、レポートや論文にまとめる力量の形成を目指します。学生それぞれが属する学科・学系プログラムにおける学習の一定の到達点を示す成果が期待されています。

到達目標 / Focus and Goal履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to授業スケジュール / Schedule(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

＊試験に代わるレポートとして実施

＊日常点評価 評価方法は、「出席状況」、「日常的な演習活動」と「演習レポート(またはこれに代わる成果物)」によります。

受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research教科書 / Textbooks参考書 / Reference Books参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Courseその他 / Others

## 演習Ⅱ 3G § 人間福祉演習Ⅱ 3G

13978

担当者名 / Instructor 森西 真弓

単位数 / Credit 4

授業の概要 / Course Description

2回生までの学習・研究あるいは演習Ⅰ/人間福祉演習Ⅰの成果を基礎に、専門科目と関連させながらゼミナール形式によって専門的研究を進めることを目標とします。ここでは、教員の指導に基づき共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、その成果を発表したり、討議したり、レポートや論文にまとめる力量の形成を目指します。学生それぞれが属する学科・学系プログラムにおける学習の一定の到達点を示す成果が期待されています。

到達目標 / Focus and Goal履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to授業スケジュール / Schedule(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

＊試験に代わるレポートとして実施

＊日常点評価 評価方法は、「出席状況」、「日常的な演習活動」と「演習レポート(またはこれに代わる成果物)」によります。

受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research教科書 / Textbooks参考書 / Reference Books参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Courseその他 / Others

## 演習Ⅱ 4A S 人間福祉演習Ⅱ 4A

13980

担当者名 / Instructor 荒木 穂積

単位数 / Credit 4

授業の概要 / Course Description

2回生までの学習・研究あるいは演習Ⅰ/人間福祉演習Ⅰの成果を基礎に、専門科目と関連させながらゼミナール形式によって専門的研究を進めることを目標とします。ここでは、教員の指導に基づき共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、その成果を発表したり、討議したり、レポートや論文にまとめる力量の形成を目指します。学生それぞれが属する学科・学系プログラムにおける学習の一定の到達点を示す成果が期待されています。

到達目標 / Focus and Goal履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to授業スケジュール / Schedule(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

＊試験に代わるレポートとして実施

＊日常点評価 評価方法は、「出席状況」、「日常的な演習活動」と「演習レポート(またはこれに代わる成果物)」によります。

受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research教科書 / Textbooks参考書 / Reference Books参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Courseその他 / Others

## 演習Ⅱ 4B S 人間福祉演習Ⅱ 4B

14085

担当者名 / Instructor 生田 正幸

単位数 / Credit 4

授業の概要 / Course Description

2回生までの学習・研究あるいは演習Ⅰ/人間福祉演習Ⅰの成果を基礎に、専門科目と関連させながらゼミナール形式によって専門的研究を進めることを目標とします。ここでは、教員の指導に基づき共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、その成果を発表したり、討議したり、レポートや論文にまとめる力量の形成を目指します。学生それぞれが属する学科・学系プログラムにおける学習の一定の到達点を示す成果が期待されています。

到達目標 / Focus and Goal履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to授業スケジュール / Schedule(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

＊試験に代わるレポートとして実施

＊日常点評価 評価方法は、「出席状況」、「日常的な演習活動」と「演習レポート(またはこれに代わる成果物)」によります。

受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research教科書 / Textbooks参考書 / Reference Books参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Courseその他 / Others

## 演習Ⅱ 4C § 人間福祉演習Ⅱ 4C

14087

担当者名 / Instructor 櫻谷 真理子

単位数 / Credit 4

授業の概要 / Course Description

2回生までの学習・研究あるいは演習Ⅰ/人間福祉演習Ⅰの成果を基礎に、専門科目と関連させながらゼミナール形式によって専門的研究を進めることを目標とします。ここでは、教員の指導に基づき共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、その成果を発表したり、討議したり、レポートや論文にまとめる力量の形成を目指します。学生それぞれが属する学科・学系プログラムにおける学習の一定の到達点を示す成果が期待されています。

到達目標 / Focus and Goal履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to授業スケジュール / Schedule(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

＊試験に代わるレポートとして実施

＊日常点評価 評価方法は、「出席状況」、「日常的な演習活動」と「演習レポート(またはこれに代わる成果物)」によります。

受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research教科書 / Textbooks参考書 / Reference Books参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Courseその他 / Others



## 演習Ⅱ 4D S 人間福祉演習Ⅱ 4D

14065

担当者名 / Instructor 中村 正

単位数 / Credit 4

授業の概要 / Course Description

2回生までの学習・研究あるいは演習Ⅰ/人間福祉演習Ⅰの成果を基礎に、専門科目と関連させながらゼミナール形式によって専門的研究を進めることを目標とします。ここでは、教員の指導に基づき共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、その成果を発表したり、討議したり、レポートや論文にまとめる力量の形成を目指します。学生それぞれが属する学科・学系プログラムにおける学習の一定の到達点を示す成果が期待されています。

到達目標 / Focus and Goal履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to授業スケジュール / Schedule(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

＊試験に代わるレポートとして実施

＊日常点評価 評価方法は、「出席状況」、「日常的な演習活動」と「演習レポート(またはこれに代わる成果物)」によります。

受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research教科書 / Textbooks参考書 / Reference Books参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Courseその他 / Others

## 演習Ⅱ 4E S 人間福祉演習Ⅱ 4E

14089

担当者名 / Instructor 峰島 厚、岡田 まり

単位数 / Credit 4

## 授業の概要 / Course Description

2回生までの学習・研究あるいは演習Ⅰ/人間福祉演習Ⅰの成果を基礎に、専門科目と関連させながらゼミナール形式によって専門的研究を進めることを目標とします。ここでは、教員の指導に基づき共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、その成果を発表したり、討議したり、レポートや論文にまとめる力量の形成を目指します。学生それぞれが属する学科・学系プログラムにおける学習の一定の到達点を示す成果が期待されています。

## 到達目標 / Focus and Goal

履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

## 授業スケジュール / Schedule

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

＊試験に代わるレポートとして実施

＊日常点評価 評価方法は、「出席状況」、「日常的な演習活動」と「演習レポート(またはこれに代わる成果物)」によります。

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

## 教科書 / Textbooks

## 参考書 / Reference Books

## 参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

## その他 / Others

## 演習Ⅱ 4F S 人間福祉演習Ⅱ 4F

14096

担当者名 / Instructor 石倉 康次

単位数 / Credit 4

授業の概要 / Course Description

2回生までの学習・研究あるいは演習Ⅰ/人間福祉演習Ⅰの成果を基礎に、専門科目と関連させながらゼミナール形式によって専門的研究を進めることを目標とします。ここでは、教員の指導に基づき共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、その成果を発表したり、討議したり、レポートや論文にまとめる力量の形成を目指します。学生それぞれが属する学科・学系プログラムにおける学習の一定の到達点を示す成果が期待されています。

到達目標 / Focus and Goal履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to授業スケジュール / Schedule(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

＊試験に代わるレポートとして実施

＊日常点評価 評価方法は、「出席状況」、「日常的な演習活動」と「演習レポート(またはこれに代わる成果物)」によります。

受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research教科書 / Textbooks参考書 / Reference Books参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Courseその他 / Others

## 演習Ⅱ 5A S 人間福祉演習Ⅱ 5A

14105

担当者名 / Instructor 木田 融男

単位数 / Credit 4

授業の概要 / Course Description

2回生までの学習・研究あるいは演習Ⅰ/人間福祉演習Ⅰの成果を基礎に、専門科目と関連させながらゼミナール形式によって専門的研究を進めることを目標とします。ここでは、教員の指導に基づき共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、その成果を発表したり、討議したり、レポートや論文にまとめる力量の形成を目指します。学生それぞれが属する学科・学系プログラムにおける学習の一定の到達点を示す成果が期待されています。

到達目標 / Focus and Goal履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to授業スケジュール / Schedule(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

＊試験に代わるレポートとして実施

＊日常点評価 評価方法は、「出席状況」、「日常的な演習活動」と「演習レポート(またはこれに代わる成果物)」によります。

受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research教科書 / Textbooks参考書 / Reference Books参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Courseその他 / Others

## 演習Ⅱ 5B § 人間福祉演習Ⅱ 5B

14008

担当者名 / Instructor 篠田 武司

単位数 / Credit 4

授業の概要 / Course Description

2回生までの学習・研究あるいは演習Ⅰ/人間福祉演習Ⅰの成果を基礎に、専門科目と関連させながらゼミナール形式によって専門的研究を進めることを目標とします。ここでは、教員の指導に基づき共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、その成果を発表したり、討議したり、レポートや論文にまとめる力量の形成を目指します。学生それぞれが属する学科・学系プログラムにおける学習の一定の到達点を示す成果が期待されています。

到達目標 / Focus and Goal

履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

授業スケジュール / Schedule

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

\*試験に代わるレポートとして実施

\*日常点評価 評価方法は、「出席状況」、「日常的な演習活動」と「演習レポート(またはこれに代わる成果物)」によります。

受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research教科書 / Textbooks参考書 / Reference Books参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Courseその他 / Others

## 演習Ⅱ 5C § 人間福祉演習Ⅱ 5C

14010

担当者名 / Instructor 松葉 正文

単位数 / Credit 4

授業の概要 / Course Description

2回生までの学習・研究あるいは演習Ⅰ/人間福祉演習Ⅰの成果を基礎に、専門科目と関連させながらゼミナール形式によって専門的研究を進めることを目標とします。ここでは、教員の指導に基づき共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、その成果を発表したり、討議したり、レポートや論文にまとめる力量の形成を目指します。学生それぞれが属する学科・学系プログラムにおける学習の一定の到達点を示す成果が期待されています。

到達目標 / Focus and Goal履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to授業スケジュール / Schedule(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

＊試験に代わるレポートとして実施

＊日常点評価 評価方法は、「出席状況」、「日常的な演習活動」と「演習レポート(またはこれに代わる成果物)」によります。

受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research教科書 / Textbooks参考書 / Reference Books参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Courseその他 / Others

## 演習Ⅱ 5D § 人間福祉演習Ⅱ 5D

14053

担当者名 / Instructor 山口 歩

単位数 / Credit 4

授業の概要 / Course Description

2回生までの学習・研究あるいは演習Ⅰ/人間福祉演習Ⅰの成果を基礎に、専門科目と関連させながらゼミナール形式によって専門的研究を進めることを目標とします。ここでは、教員の指導に基づき共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、その成果を発表したり、討議したり、レポートや論文にまとめる力量の形成を目指します。学生それぞれが属する学科・学系プログラムにおける学習の一定の到達点を示す成果が期待されています。

到達目標 / Focus and Goal履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to授業スケジュール / Schedule(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

＊試験に代わるレポートとして実施

＊日常点評価 評価方法は、「出席状況」、「日常的な演習活動」と「演習レポート(またはこれに代わる成果物)」によります。

受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research教科書 / Textbooks参考書 / Reference Books参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Courseその他 / Others

## 演習Ⅱ 5E S 人間福祉演習Ⅱ 5E

14055

担当者名 / Instructor 鈴木 みどり、増田 幸子

単位数 / Credit 4

授業の概要 / Course Description

2回生までの学習・研究あるいは演習Ⅰ/人間福祉演習Ⅰの成果を基礎に、専門科目と関連させながらゼミナール形式によって専門的研究を進めることを目標とします。ここでは、教員の指導に基づき共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、その成果を発表したり、討議したり、レポートや論文にまとめる力量の形成を目指します。学生それぞれが属する学科・学系プログラムにおける学習の一定の到達点を示す成果が期待されています。

到達目標 / Focus and Goal履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to授業スケジュール / Schedule(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

＊試験に代わるレポートとして実施

＊日常点評価 評価方法は、「出席状況」、「日常的な演習活動」と「演習レポート(またはこれに代わる成果物)」によります。

受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research教科書 / Textbooks参考書 / Reference Books参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Courseその他 / Others



## 演習Ⅱ 5F S 人間福祉演習Ⅱ 5F

14022

担当者名 / Instructor 川口 晋一

単位数 / Credit 4

授業の概要 / Course Description

2回生までの学習・研究あるいは演習Ⅰ/人間福祉演習Ⅰの成果を基礎に、専門科目と関連させながらゼミナール形式によって専門的研究を進めることを目標とします。ここでは、教員の指導に基づき共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、その成果を発表したり、討議したり、レポートや論文にまとめる力量の形成を目指します。学生それぞれが属する学科・学系プログラムにおける学習の一定の到達点を示す成果が期待されています。

到達目標 / Focus and Goal履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to授業スケジュール / Schedule(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

＊試験に代わるレポートとして実施

＊日常点評価 評価方法は、「出席状況」、「日常的な演習活動」と「演習レポート(またはこれに代わる成果物)」によります。

受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research教科書 / Textbooks参考書 / Reference Books参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Courseその他 / Others

## 演習Ⅱ 5G § 人間福祉演習Ⅱ 5G

14012

担当者名 / Instructor 長澤 克重

単位数 / Credit 4

授業の概要 / Course Description

2回生までの学習・研究あるいは演習Ⅰ/人間福祉演習Ⅰの成果を基礎に、専門科目と関連させながらゼミナール形式によって専門的研究を進めることを目標とします。ここでは、教員の指導に基づき共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、その成果を発表したり、討議したり、レポートや論文にまとめる力量の形成を目指します。学生それぞれが属する学科・学系プログラムにおける学習の一定の到達点を示す成果が期待されています。

到達目標 / Focus and Goal履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to授業スケジュール / Schedule(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

＊試験に代わるレポートとして実施

＊日常点評価 評価方法は、「出席状況」、「日常的な演習活動」と「演習レポート(またはこれに代わる成果物)」によります。

受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research教科書 / Textbooks参考書 / Reference Books参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Courseその他 / Others

## 演習Ⅱ 5H S 人間福祉演習Ⅱ 5H

14042

担当者名 / Instructor 増田 幸子

単位数 / Credit 4

授業の概要 / Course Description

2回生までの学習・研究あるいは演習Ⅰ/人間福祉演習Ⅰの成果を基礎に、専門科目と関連させながらゼミナール形式によって専門的研究を進めることを目標とします。ここでは、教員の指導に基づき共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、その成果を発表したり、討議したり、レポートや論文にまとめる力量の形成を目指します。学生それぞれが属する学科・学系プログラムにおける学習の一定の到達点を示す成果が期待されています。

到達目標 / Focus and Goal履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to授業スケジュール / Schedule(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

＊試験に代わるレポートとして実施

＊日常点評価 評価方法は、「出席状況」、「日常的な演習活動」と「演習レポート(またはこれに代わる成果物)」によります。

受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research教科書 / Textbooks参考書 / Reference Books参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Courseその他 / Others

## 演習Ⅱ 5I § 人間福祉演習Ⅱ 5I

14091

担当者名 / Instructor 奥川 櫻豊彦

単位数 / Credit 4

## 授業の概要 / Course Description

2回生までの学習・研究あるいは演習Ⅰ/人間福祉演習Ⅰの成果を基礎に、専門科目と関連させながらゼミナール形式によって専門的研究を進めることを目標とします。ここでは、教員の指導に基づき共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、その成果を発表したり、討議したり、レポートや論文にまとめる力量の形成を目指します。学生それぞれが属する学科・学系プログラムにおける学習の一定の到達点を示す成果が期待されています。

## 到達目標 / Focus and Goal

履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

## 授業スケジュール / Schedule

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

＊試験に代わるレポートとして実施

＊日常点評価 評価方法は、「出席状況」、「日常的な演習活動」と「演習レポート(またはこれに代わる成果物)」によります。

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

## 教科書 / Textbooks

## 参考書 / Reference Books

## 参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

## その他 / Others

## 演習Ⅱ 5J S 人間福祉演習Ⅱ 5J

14024

担当者名 / Instructor 久津内 一雄

単位数 / Credit 4

## 授業の概要 / Course Description

2回生までの学習・研究あるいは演習Ⅰ/人間福祉演習Ⅰの成果を基礎に、専門科目と関連させながらゼミナール形式によって専門的研究を進めることを目標とします。ここでは、教員の指導に基づき共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、その成果を発表したり、討議したり、レポートや論文にまとめる力量の形成を目指します。学生それぞれが属する学科・学系プログラムにおける学習の一定の到達点を示す成果が期待されています。

## 到達目標 / Focus and Goal

履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

## 授業スケジュール / Schedule

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

＊試験に代わるレポートとして実施

＊日常点評価 評価方法は、「出席状況」、「日常的な演習活動」と「演習レポート(またはこれに代わる成果物)」によります。

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

## 教科書 / Textbooks

## 参考書 / Reference Books

## 参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

## その他 / Others

## 演習Ⅱ 5K S 人間福祉演習Ⅱ 5K

13990

担当者名 / Instructor 佐々木 嬉代三

単位数 / Credit 4

授業の概要 / Course Description

2回生までの学習・研究あるいは演習Ⅰ/人間福祉演習Ⅰの成果を基礎に、専門科目と関連させながらゼミナール形式によって専門的研究を進めることを目標とします。ここでは、教員の指導に基づき共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、その成果を発表したり、討議したり、レポートや論文にまとめる力量の形成を目指します。学生それぞれが属する学科・学系プログラムにおける学習の一定の到達点を示す成果が期待されています。

到達目標 / Focus and Goal履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to授業スケジュール / Schedule(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

＊試験に代わるレポートとして実施

＊日常点評価 評価方法は、「出席状況」、「日常的な演習活動」と「演習レポート(またはこれに代わる成果物)」によります。

受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research教科書 / Textbooks参考書 / Reference Books参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Courseその他 / Others

## 演習Ⅱ 5L S 人間福祉演習Ⅱ 5L

14026

担当者名 / Instructor 宝月 誠

単位数 / Credit 4

授業の概要 / Course Description

2回生までの学習・研究あるいは演習Ⅰ/人間福祉演習Ⅰの成果を基礎に、専門科目と関連させながらゼミナール形式によって専門的研究を進めることを目標とします。ここでは、教員の指導に基づき共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、その成果を発表したり、討議したり、レポートや論文にまとめる力量の形成を目指します。学生それぞれが属する学科・学系プログラムにおける学習の一定の到達点を示す成果が期待されています。

到達目標 / Focus and Goal履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to授業スケジュール / Schedule(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

＊試験に代わるレポートとして実施

＊日常点評価 評価方法は、「出席状況」、「日常的な演習活動」と「演習レポート(またはこれに代わる成果物)」によります。

受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research教科書 / Textbooks参考書 / Reference Books参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Courseその他 / Others

## 演習Ⅱ 5M § 人間福祉演習Ⅱ 5M

13992

担当者名 / Instructor 中川 勝雄

単位数 / Credit 4

授業の概要 / Course Description

2回生までの学習・研究あるいは演習Ⅰ/人間福祉演習Ⅰの成果を基礎に、専門科目と関連させながらゼミナール形式によって専門的研究を進めることを目標とします。ここでは、教員の指導に基づき共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、その成果を発表したり、討議したり、レポートや論文にまとめる力量の形成を目指します。学生それぞれが属する学科・学系プログラムにおける学習の一定の到達点を示す成果が期待されています。

到達目標 / Focus and Goal履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to授業スケジュール / Schedule(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

＊試験に代わるレポートとして実施

＊日常点評価 評価方法は、「出席状況」、「日常的な演習活動」と「演習レポート(またはこれに代わる成果物)」によります。

受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research教科書 / Textbooks参考書 / Reference Books参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Courseその他 / Others



## 演習Ⅱ 5N S 人間福祉演習Ⅱ 5N

13994

担当者名 / Instructor 山本 隆

単位数 / Credit 4

授業の概要 / Course Description

2回生までの学習・研究あるいは演習Ⅰ/人間福祉演習Ⅰの成果を基礎に、専門科目と関連させながらゼミナール形式によって専門的研究を進めることを目標とします。ここでは、教員の指導に基づき共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、その成果を発表したり、討議したり、レポートや論文にまとめる力量の形成を目指します。学生それぞれが属する学科・学系プログラムにおける学習の一定の到達点を示す成果が期待されています。

到達目標 / Focus and Goal履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to授業スケジュール / Schedule(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

＊試験に代わるレポートとして実施

＊日常点評価 評価方法は、「出席状況」、「日常的な演習活動」と「演習レポート(またはこれに代わる成果物)」によります。

受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research教科書 / Textbooks参考書 / Reference Books参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Courseその他 / Others

## 演習Ⅱ 50 S 人間福祉演習Ⅱ 50

14057

担当者名 / Instructor 前田 信彦

単位数 / Credit 4

授業の概要 / Course Description

2回生までの学習・研究あるいは演習Ⅰ/人間福祉演習Ⅰの成果を基礎に、専門科目と関連させながらゼミナール形式によって専門的研究を進めることを目標とします。ここでは、教員の指導に基づき共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、その成果を発表したり、討議したり、レポートや論文にまとめる力量の形成を目指します。学生それぞれが属する学科・学系プログラムにおける学習の一定の到達点を示す成果が期待されています。

到達目標 / Focus and Goal履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to授業スケジュール / Schedule(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

＊試験に代わるレポートとして実施

＊日常点評価 評価方法は、「出席状況」、「日常的な演習活動」と「演習レポート(またはこれに代わる成果物)」によります。

受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research教科書 / Textbooks参考書 / Reference Books参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Courseその他 / Others

## 演習Ⅱ 5P S 人間福祉演習Ⅱ 5P

14093

担当者名 / Instructor 松田 亮三

単位数 / Credit 4

授業の概要 / Course Description

2回生までの学習・研究あるいは演習Ⅰ/人間福祉演習Ⅰの成果を基礎に、専門科目と関連させながらゼミナール形式によって専門的研究を進めることを目標とします。ここでは、教員の指導に基づき共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、その成果を発表したり、討議したり、レポートや論文にまとめる力量の形成を目指します。学生それぞれが属する学科・学系プログラムにおける学習の一定の到達点を示す成果が期待されています。

到達目標 / Focus and Goal

履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

授業スケジュール / Schedule

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

＊試験に代わるレポートとして実施

＊日常点評価 評価方法は、「出席状況」、「日常的な演習活動」と「演習レポート(またはこれに代わる成果物)」によります。

受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research教科書 / Textbooks参考書 / Reference Books参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Courseその他 / Others

## 演習Ⅱ 5Q S 人間福祉演習Ⅱ 5Q

14076

担当者名 / Instructor 神保 哲生

単位数 / Credit 4

授業の概要 / Course Description

2回生までの学習・研究あるいは演習Ⅰ/人間福祉演習Ⅰの成果を基礎に、専門科目と関連させながらゼミナール形式によって専門的研究を進めることを目標とします。ここでは、教員の指導に基づき共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、その成果を発表したり、討議したり、レポートや論文にまとめる力量の形成を目指します。学生それぞれが属する学科・学系プログラムにおける学習の一定の到達点を示す成果が期待されています。

到達目標 / Focus and Goal履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to授業スケジュール / Schedule(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

＊試験に代わるレポートとして実施

＊日常点評価 評価方法は、「出席状況」、「日常的な演習活動」と「演習レポート(またはこれに代わる成果物)」によります。

受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research教科書 / Textbooks参考書 / Reference Books参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Courseその他 / Others

## 卒業研究指導 1A

14062

担当者名 / Instructor 木田 融男

単位数 / Credit 4

## 授業の概要 / Course Description

3回生までの学習・研究あるいは演習活動の成果にもとづき、専門科目と関連させながらゼミナール形式によってさらに高度な専門的研究を進めることを目標とします。教員の指導により共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、4年間の成果として卒業論文、あるいはそれに代わる成果物(ビデオなど)の作成を行います。

## 到達目標 / Focus and Goal

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

## 授業スケジュール / Schedule

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

＊試験に代わるレポートとして実施

＊日常点評価 「日常的な演習活動」と「卒業論文(またはこれに代わる成果物)」によります。

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

## 教科書 / Textbooks

## 参考書 / Reference Books

## 参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

## その他 / Others

## 卒業研究指導 1B

14046

担当者名 / Instructor 國廣 敏文

単位数 / Credit 4

## 授業の概要 / Course Description

3回生までの学習・研究あるいは演習活動の成果にもとづき、専門科目と関連させながらゼミナール形式によってさらに高度な専門的研究を進めることを目標とします。教員の指導により共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、4年間の成果として卒業論文、あるいはそれに代わる成果物(ビデオなど)の作成を行います。

## 到達目標 / Focus and Goal

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

## 授業スケジュール / Schedule

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

＊試験に代わるレポートとして実施

＊日常点評価 「日常的な演習活動」と「卒業論文(またはこれに代わる成果物)」によります。

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

## 教科書 / Textbooks

## 参考書 / Reference Books

## 参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

## その他 / Others

## 卒業研究指導 1C

14099

担当者名 / Instructor 篠田 武司

単位数 / Credit 4

## 授業の概要 / Course Description

3回生までの学習・研究あるいは演習活動の成果にもとづき、専門科目と関連させながらゼミナール形式によってさらに高度な専門的研究を進めることを目標とします。教員の指導により共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、4年間の成果として卒業論文、あるいはそれに代わる成果物(ビデオなど)の作成を行います。

## 到達目標 / Focus and Goal

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

## 授業スケジュール / Schedule

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

＊試験に代わるレポートとして実施

＊日常点評価 「日常的な演習活動」と「卒業論文(またはこれに代わる成果物)」によります。

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

## 教科書 / Textbooks

## 参考書 / Reference Books

## 参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

## その他 / Others

## 卒業研究指導 1D

14073

担当者名 / Instructor 辻 勝次

単位数 / Credit 4

## 授業の概要 / Course Description

3回生までの学習・研究あるいは演習活動の成果にもとづき、専門科目と関連させながらゼミナール形式によってさらに高度な専門的研究を進めることを目標とします。教員の指導により共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、4年間の成果として卒業論文、あるいはそれに代わる成果物(ビデオなど)の作成を行います。

## 到達目標 / Focus and Goal

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

## 授業スケジュール / Schedule

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

＊試験に代わるレポートとして実施

＊日常点評価 「日常的な演習活動」と「卒業論文(またはこれに代わる成果物)」によります。

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

## 教科書 / Textbooks

## 参考書 / Reference Books

## 参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

## その他 / Others



## 卒業研究指導 1E

14016

担当者名 / Instructor 深澤 敦、櫻井 純理

単位数 / Credit 4

## 授業の概要 / Course Description

3年生までの学習・研究あるいは演習活動の成果にもとづき、専門科目と関連させながらゼミナール形式によってさらに高度な専門的研究を進めることを目標とします。教員の指導により共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、4年間の成果として卒業論文、あるいはそれに代わる成果物(ビデオなど)の作成を行います。

## 到達目標 / Focus and Goal

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

## 授業スケジュール / Schedule

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

＊試験に代わるレポートとして実施

＊日常点評価 「日常的な演習活動」と「卒業論文(またはこれに代わる成果物)」によります。

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

## 教科書 / Textbooks

## 参考書 / Reference Books

## 参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

## その他 / Others

## 卒業研究指導 1F

14107

担当者名 / Instructor 石本 幸良

単位数 / Credit 4

## 授業の概要 / Course Description

3回生までの学習・研究あるいは演習活動の成果にもとづき、専門科目と関連させながらゼミナール形式によってさらに高度な専門的研究を進めることを目標とします。教員の指導により共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、4年間の成果として卒業論文、あるいはそれに代わる成果物(ビデオなど)の作成を行います。

## 到達目標 / Focus and Goal

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

## 授業スケジュール / Schedule

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

＊試験に代わるレポートとして実施

＊日常点評価 「日常的な演習活動」と「卒業論文(またはこれに代わる成果物)」によります。

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

## 教科書 / Textbooks

## 参考書 / Reference Books

## 参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

## その他 / Others

## 卒業研究指導 2A

14028

担当者名 / Instructor 赤井 正二、鈴木 みどり

単位数 / Credit 4

## 授業の概要 / Course Description

3回生までの学習・研究あるいは演習活動の成果にもとづき、専門科目と関連させながらゼミナール形式によってさらに高度な専門的研究を進めることを目標とします。教員の指導により共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、4年間の成果として卒業論文、あるいはそれに代わる成果物(ビデオなど)の作成を行います。

## 到達目標 / Focus and Goal

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

## 授業スケジュール / Schedule

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

＊試験に代わるレポートとして実施

＊日常点評価 「日常的な演習活動」と「卒業論文(またはこれに代わる成果物)」によります。

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

## 教科書 / Textbooks

## 参考書 / Reference Books

## 参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

## その他 / Others

## 卒業研究指導 2B

14036

担当者名 / Instructor 津田 正夫

単位数 / Credit 4

## 授業の概要 / Course Description

3回生までの学習・研究あるいは演習活動の成果にもとづき、専門科目と関連させながらゼミナール形式によってさらに高度な専門的研究を進めることを目標とします。教員の指導により共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、4年間の成果として卒業論文、あるいはそれに代わる成果物(ビデオなど)の作成を行います。

## 到達目標 / Focus and Goal

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

## 授業スケジュール / Schedule

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

＊試験に代わるレポートとして実施

＊日常点評価 「日常的な演習活動」と「卒業論文(またはこれに代わる成果物)」によります。

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

## 教科書 / Textbooks

## 参考書 / Reference Books

## 参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

## その他 / Others

## 卒業研究指導 2C

14067

担当者名 / Instructor 長澤 克重

単位数 / Credit 4

## 授業の概要 / Course Description

3回生までの学習・研究あるいは演習活動の成果にもとづき、専門科目と関連させながらゼミナール形式によってさらに高度な専門的研究を進めることを目標とします。教員の指導により共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、4年間の成果として卒業論文、あるいはそれに代わる成果物(ビデオなど)の作成を行います。

## 到達目標 / Focus and Goal

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

## 授業スケジュール / Schedule

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

＊試験に代わるレポートとして実施

＊日常点評価 「日常的な演習活動」と「卒業論文(またはこれに代わる成果物)」によります。

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

## 教科書 / Textbooks

## 参考書 / Reference Books

## 参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

## その他 / Others

## 卒業研究指導 2D

14079

担当者名 / Instructor 黄 盛彬

単位数 / Credit 4

## 授業の概要 / Course Description

3回生までの学習・研究あるいは演習活動の成果にもとづき、専門科目と関連させながらゼミナール形式によってさらに高度な専門的研究を進めることを目標とします。教員の指導により共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、4年間の成果として卒業論文、あるいはそれに代わる成果物(ビデオなど)の作成を行います。

## 到達目標 / Focus and Goal

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

## 授業スケジュール / Schedule

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

＊試験に代わるレポートとして実施

＊日常点評価 「日常的な演習活動」と「卒業論文(またはこれに代わる成果物)」によります。

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

## 教科書 / Textbooks

## 参考書 / Reference Books

## 参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

## その他 / Others

## 卒業研究指導 2E

14014

担当者名 / Instructor 増田 幸子

単位数 / Credit 4

## 授業の概要 / Course Description

3回生までの学習・研究あるいは演習活動の成果にもとづき、専門科目と関連させながらゼミナール形式によってさらに高度な専門的研究を進めることを目標とします。教員の指導により共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、4年間の成果として卒業論文、あるいはそれに代わる成果物(ビデオなど)の作成を行います。

## 到達目標 / Focus and Goal

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

## 授業スケジュール / Schedule

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

＊試験に代わるレポートとして実施

＊日常点評価 「日常的な演習活動」と「卒業論文(またはこれに代わる成果物)」によります。

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

## 教科書 / Textbooks

## 参考書 / Reference Books

## 参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

## その他 / Others

## 卒業研究指導 2F

14108

担当者名 / Instructor 坂田 謙司

単位数 / Credit 4

## 授業の概要 / Course Description

3回生までの学習・研究あるいは演習活動の成果にもとづき、専門科目と関連させながらゼミナール形式によってさらに高度な専門的研究を進めることを目標とします。教員の指導により共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、4年間の成果として卒業論文、あるいはそれに代わる成果物(ビデオなど)の作成を行います。

## 到達目標 / Focus and Goal

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

## 授業スケジュール / Schedule

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

＊試験に代わるレポートとして実施

＊日常点評価 「日常的な演習活動」と「卒業論文(またはこれに代わる成果物)」によります。

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

## 教科書 / Textbooks

## 参考書 / Reference Books

## 参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

## その他 / Others



## 卒業研究指導 3A

14068

担当者名 / Instructor 奥川 櫻豊彦

単位数 / Credit 4

## 授業の概要 / Course Description

3回生までの学習・研究あるいは演習活動の成果にもとづき、専門科目と関連させながらゼミナール形式によってさらに高度な専門的研究を進めることを目標とします。教員の指導により共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、4年間の成果として卒業論文、あるいはそれに代わる成果物(ビデオなど)の作成を行います。

## 到達目標 / Focus and Goal

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

## 授業スケジュール / Schedule

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

＊試験に代わるレポートとして実施

＊日常点評価 「日常的な演習活動」と「卒業論文(またはこれに代わる成果物)」によります。

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

## 教科書 / Textbooks

## 参考書 / Reference Books

## 参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

## その他 / Others

## 卒業研究指導 3B

14072

担当者名 / Instructor 遠藤 保子

単位数 / Credit 4

## 授業の概要 / Course Description

3回生までの学習・研究あるいは演習活動の成果にもとづき、専門科目と関連させながらゼミナール形式によってさらに高度な専門的研究を進めることを目標とします。教員の指導により共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、4年間の成果として卒業論文、あるいはそれに代わる成果物(ビデオなど)の作成を行います。

## 到達目標 / Focus and Goal

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

## 授業スケジュール / Schedule

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

＊試験に代わるレポートとして実施

＊日常点評価 「日常的な演習活動」と「卒業論文(またはこれに代わる成果物)」によります。

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

## 教科書 / Textbooks

## 参考書 / Reference Books

## 参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

## その他 / Others

## 卒業研究指導 3C

14097

担当者名 / Instructor 佐藤 嘉一

単位数 / Credit 4

## 授業の概要 / Course Description

3回生までの学習・研究あるいは演習活動の成果にもとづき、専門科目と関連させながらゼミナール形式によってさらに高度な専門的研究を進めることを目標とします。教員の指導により共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、4年間の成果として卒業論文、あるいはそれに代わる成果物(ビデオなど)の作成を行います。

## 到達目標 / Focus and Goal

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

## 授業スケジュール / Schedule

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

＊試験に代わるレポートとして実施

＊日常点評価 「日常的な演習活動」と「卒業論文(またはこれに代わる成果物)」によります。

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

## 教科書 / Textbooks

## 参考書 / Reference Books

## 参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

## その他 / Others

## 卒業研究指導 3D

14020

担当者名 / Instructor 仲間 裕子

単位数 / Credit 4

## 授業の概要 / Course Description

3回生までの学習・研究あるいは演習活動の成果にもとづき、専門科目と関連させながらゼミナール形式によってさらに高度な専門的研究を進めることを目標とします。教員の指導により共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、4年間の成果として卒業論文、あるいはそれに代わる成果物(ビデオなど)の作成を行います。

## 到達目標 / Focus and Goal

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

## 授業スケジュール / Schedule

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

＊試験に代わるレポートとして実施

＊日常点評価 「日常的な演習活動」と「卒業論文(またはこれに代わる成果物)」によります。

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

## 教科書 / Textbooks

## 参考書 / Reference Books

## 参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

## その他 / Others

## 卒業研究指導 3E

14060

担当者名 / Instructor 松田 博

単位数 / Credit 4

## 授業の概要 / Course Description

3回生までの学習・研究あるいは演習活動の成果にもとづき、専門科目と関連させながらゼミナール形式によってさらに高度な専門的研究を進めることを目標とします。教員の指導により共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、4年間の成果として卒業論文、あるいはそれに代わる成果物(ビデオなど)の作成を行います。

## 到達目標 / Focus and Goal

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

## 授業スケジュール / Schedule

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

＊試験に代わるレポートとして実施

＊日常点評価 「日常的な演習活動」と「卒業論文(またはこれに代わる成果物)」によります。

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

## 教科書 / Textbooks

## 参考書 / Reference Books

## 参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

## その他 / Others

## 卒業研究指導 3F

14100

担当者名 / Instructor 森田 真樹、久保 富三夫

単位数 / Credit 4

## 授業の概要 / Course Description

3回生までの学習・研究あるいは演習活動の成果にもとづき、専門科目と関連させながらゼミナール形式によってさらに高度な専門的研究を進めることを目標とします。教員の指導により共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、4年間の成果として卒業論文、あるいはそれに代わる成果物(ビデオなど)の作成を行います。

## 到達目標 / Focus and Goal

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

## 授業スケジュール / Schedule

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

＊試験に代わるレポートとして実施

＊日常点評価 「日常的な演習活動」と「卒業論文(またはこれに代わる成果物)」によります。

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

## 教科書 / Textbooks

## 参考書 / Reference Books

## 参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

## その他 / Others

## 卒業研究指導 4A

13977

担当者名 / Instructor 山下 高行

単位数 / Credit 4

## 授業の概要 / Course Description

3回生までの学習・研究あるいは演習活動の成果にもとづき、専門科目と関連させながらゼミナール形式によってさらに高度な専門的研究を進めることを目標とします。教員の指導により共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、4年間の成果として卒業論文、あるいはそれに代わる成果物(ビデオなど)の作成を行います。

## 到達目標 / Focus and Goal

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

## 授業スケジュール / Schedule

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

＊試験に代わるレポートとして実施

＊日常点評価 「日常的な演習活動」と「卒業論文(またはこれに代わる成果物)」によります。

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

## 教科書 / Textbooks

## 参考書 / Reference Books

## 参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

## その他 / Others

## 卒業研究指導 5A

14019

担当者名 / Instructor 加藤 直樹

単位数 / Credit 4

## 授業の概要 / Course Description

3回生までの学習・研究あるいは演習活動の成果にもとづき、専門科目と関連させながらゼミナール形式によってさらに高度な専門的研究を進めることを目標とします。教員の指導により共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、4年間の成果として卒業論文、あるいはそれに代わる成果物(ビデオなど)の作成を行います。

## 到達目標 / Focus and Goal

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

## 授業スケジュール / Schedule

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

＊試験に代わるレポートとして実施

＊日常点評価 「日常的な演習活動」と「卒業論文(またはこれに代わる成果物)」によります。

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

## 教科書 / Textbooks

## 参考書 / Reference Books

## 参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

## その他 / Others



## 卒業研究指導 5B

14033

担当者名 / Instructor 櫻谷 真理子

単位数 / Credit 4

## 授業の概要 / Course Description

3回生までの学習・研究あるいは演習活動の成果にもとづき、専門科目と関連させながらゼミナール形式によってさらに高度な専門的研究を進めることを目標とします。教員の指導により共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、4年間の成果として卒業論文、あるいはそれに代わる成果物(ビデオなど)の作成を行います。

## 到達目標 / Focus and Goal

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

## 授業スケジュール / Schedule

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

＊試験に代わるレポートとして実施

＊日常点評価 「日常的な演習活動」と「卒業論文(またはこれに代わる成果物)」によります。

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

## 教科書 / Textbooks

## 参考書 / Reference Books

## 参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

## その他 / Others

## 卒業研究指導 5C

14030

担当者名 / Instructor 芝田 英昭

単位数 / Credit 4

## 授業の概要 / Course Description

3回生までの学習・研究あるいは演習活動の成果にもとづき、専門科目と関連させながらゼミナール形式によってさらに高度な専門的研究を進めることを目標とします。教員の指導により共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、4年間の成果として卒業論文、あるいはそれに代わる成果物(ビデオなど)の作成を行います。

## 到達目標 / Focus and Goal

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

## 授業スケジュール / Schedule

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

＊試験に代わるレポートとして実施

＊日常点評価 「日常的な演習活動」と「卒業論文(またはこれに代わる成果物)」によります。

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

## 教科書 / Textbooks

## 参考書 / Reference Books

## 参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

## その他 / Others

## 卒業研究指導 5D

14069

担当者名 / Instructor 生田 正幸

単位数 / Credit 4

## 授業の概要 / Course Description

3回生までの学習・研究あるいは演習活動の成果にもとづき、専門科目と関連させながらゼミナール形式によってさらに高度な専門的研究を進めることを目標とします。教員の指導により共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、4年間の成果として卒業論文、あるいはそれに代わる成果物(ビデオなど)の作成を行います。

## 到達目標 / Focus and Goal

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

## 授業スケジュール / Schedule

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

＊試験に代わるレポートとして実施

＊日常点評価 「日常的な演習活動」と「卒業論文(またはこれに代わる成果物)」によります。

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

## 教科書 / Textbooks

## 参考書 / Reference Books

## 参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

## その他 / Others

## 卒業研究指導 5E

13976

担当者名 / Instructor 山本 隆

単位数 / Credit 4

## 授業の概要 / Course Description

3回生までの学習・研究あるいは演習活動の成果にもとづき、専門科目と関連させながらゼミナール形式によってさらに高度な専門的研究を進めることを目標とします。教員の指導により共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、4年間の成果として卒業論文、あるいはそれに代わる成果物(ビデオなど)の作成を行います。

## 到達目標 / Focus and Goal

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

## 授業スケジュール / Schedule

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

＊試験に代わるレポートとして実施

＊日常点評価 「日常的な演習活動」と「卒業論文(またはこれに代わる成果物)」によります。

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

## 教科書 / Textbooks

## 参考書 / Reference Books

## 参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

## その他 / Others

## 卒業研究指導 5F

14080

担当者名 / Instructor 小川 栄二

単位数 / Credit 4

## 授業の概要 / Course Description

3回生までの学習・研究あるいは演習活動の成果にもとづき、専門科目と関連させながらゼミナール形式によってさらに高度な専門的研究を進めることを目標とします。教員の指導により共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、4年間の成果として卒業論文、あるいはそれに代わる成果物(ビデオなど)の作成を行います。

## 到達目標 / Focus and Goal

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

## 授業スケジュール / Schedule

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

＊試験に代わるレポートとして実施

＊日常点評価 「日常的な演習活動」と「卒業論文(またはこれに代わる成果物)」によります。

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

## 教科書 / Textbooks

## 参考書 / Reference Books

## 参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

## その他 / Others

## 卒業研究指導 6A

13985

担当者名 / Instructor 乾 亨

単位数 / Credit 4

## 授業の概要 / Course Description

3回生までの学習・研究あるいは演習活動の成果にもとづき、専門科目と関連させながらゼミナール形式によってさらに高度な専門的研究を進めることを目標とします。教員の指導により共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、4年間の成果として卒業論文、あるいはそれに代わる成果物(ビデオなど)の作成を行います。

## 到達目標 / Focus and Goal

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

## 授業スケジュール / Schedule

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

＊試験に代わるレポートとして実施

＊日常点評価 「日常的な演習活動」と「卒業論文(またはこれに代わる成果物)」によります。

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

## 教科書 / Textbooks

## 参考書 / Reference Books

## 参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

## その他 / Others

## 卒業研究指導 6B

13986

担当者名 / Instructor 深井 純一

単位数 / Credit 4

## 授業の概要 / Course Description

3回生までの学習・研究あるいは演習活動の成果にもとづき、専門科目と関連させながらゼミナール形式によってさらに高度な専門的研究を進めることを目標とします。教員の指導により共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、4年間の成果として卒業論文、あるいはそれに代わる成果物(ビデオなど)の作成を行います。

## 到達目標 / Focus and Goal

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

## 授業スケジュール / Schedule

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

＊試験に代わるレポートとして実施

＊日常点評価 「日常的な演習活動」と「卒業論文(またはこれに代わる成果物)」によります。

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

## 教科書 / Textbooks

## 参考書 / Reference Books

## 参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

## その他 / Others

## 卒業研究指導 6C

14029

担当者名 / Instructor 和田 武

単位数 / Credit 4

## 授業の概要 / Course Description

3回生までの学習・研究あるいは演習活動の成果にもとづき、専門科目と関連させながらゼミナール形式によってさらに高度な専門的研究を進めることを目標とします。教員の指導により共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、4年間の成果として卒業論文、あるいはそれに代わる成果物(ビデオなど)の作成を行います。

## 到達目標 / Focus and Goal

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

## 授業スケジュール / Schedule

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

＊試験に代わるレポートとして実施

＊日常点評価 「日常的な演習活動」と「卒業論文(またはこれに代わる成果物)」によります。

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

## 教科書 / Textbooks

## 参考書 / Reference Books

## 参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

## その他 / Others



## 卒業研究指導 6D

13987

担当者名 / Instructor 中井 美樹

単位数 / Credit 4

## 授業の概要 / Course Description

3回生までの学習・研究あるいは演習活動の成果にもとづき、専門科目と関連させながらゼミナール形式によってさらに高度な専門的研究を進めることを目標とします。教員の指導により共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、4年間の成果として卒業論文、あるいはそれに代わる成果物(ビデオなど)の作成を行います。

## 到達目標 / Focus and Goal

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

## 授業スケジュール / Schedule

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

＊試験に代わるレポートとして実施

＊日常点評価 「日常的な演習活動」と「卒業論文(またはこれに代わる成果物)」によります。

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

## 教科書 / Textbooks

## 参考書 / Reference Books

## 参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

## その他 / Others

## 卒業研究指導 6E

13996

担当者名 / Instructor 山口 歩

単位数 / Credit 4

## 授業の概要 / Course Description

3回生までの学習・研究あるいは演習活動の成果にもとづき、専門科目と関連させながらゼミナール形式によってさらに高度な専門的研究を進めることを目標とします。教員の指導により共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、4年間の成果として卒業論文、あるいはそれに代わる成果物(ビデオなど)の作成を行います。

## 到達目標 / Focus and Goal

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

## 授業スケジュール / Schedule

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

＊試験に代わるレポートとして実施

＊日常点評価 「日常的な演習活動」と「卒業論文(またはこれに代わる成果物)」によります。

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

## 教科書 / Textbooks

## 参考書 / Reference Books

## 参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

## その他 / Others

## 卒業研究指導 6F

14017

担当者名 / Instructor 赤井 正二

単位数 / Credit 4

## 授業の概要 / Course Description

3回生までの学習・研究あるいは演習活動の成果にもとづき、専門科目と関連させながらゼミナール形式によってさらに高度な専門的研究を進めることを目標とします。教員の指導により共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、4年間の成果として卒業論文、あるいはそれに代わる成果物(ビデオなど)の作成を行います。

## 到達目標 / Focus and Goal

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

## 授業スケジュール / Schedule

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

＊試験に代わるレポートとして実施

＊日常点評価 「日常的な演習活動」と「卒業論文(またはこれに代わる成果物)」によります。

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

## 教科書 / Textbooks

## 参考書 / Reference Books

## 参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

## その他 / Others

## 卒業研究指導 6G

14018

担当者名 / Instructor 伊藤 武夫

単位数 / Credit 4

## 授業の概要 / Course Description

3回生までの学習・研究あるいは演習活動の成果にもとづき、専門科目と関連させながらゼミナール形式によってさらに高度な専門的研究を進めることを目標とします。教員の指導により共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、4年間の成果として卒業論文、あるいはそれに代わる成果物(ビデオなど)の作成を行います。

## 到達目標 / Focus and Goal

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

## 授業スケジュール / Schedule

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

\*試験に代わるレポートとして実施

\*日常点評価 「日常的な演習活動」と「卒業論文(またはこれに代わる成果物)」によります。

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

## 教科書 / Textbooks

## 参考書 / Reference Books

## 参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

## その他 / Others

## 卒業研究指導 6H

13997

担当者名 / Instructor 宮下 晋吉

単位数 / Credit 4

## 授業の概要 / Course Description

3回生までの学習・研究あるいは演習活動の成果にもとづき、専門科目と関連させながらゼミナール形式によってさらに高度な専門的研究を進めることを目標とします。教員の指導により共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、4年間の成果として卒業論文、あるいはそれに代わる成果物(ビデオなど)の作成を行います。

## 到達目標 / Focus and Goal

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

## 授業スケジュール / Schedule

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

＊試験に代わるレポートとして実施

＊日常点評価 「日常的な演習活動」と「卒業論文(またはこれに代わる成果物)」によります。

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

## 教科書 / Textbooks

## 参考書 / Reference Books

## 参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

## その他 / Others

## 卒業研究指導 6I

14061

担当者名 / Instructor 川口 晋一

単位数 / Credit 4

## 授業の概要 / Course Description

3回生までの学習・研究あるいは演習活動の成果にもとづき、専門科目と関連させながらゼミナール形式によってさらに高度な専門的研究を進めることを目標とします。教員の指導により共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、4年間の成果として卒業論文、あるいはそれに代わる成果物(ビデオなど)の作成を行います。

## 到達目標 / Focus and Goal

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

## 授業スケジュール / Schedule

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

＊試験に代わるレポートとして実施

＊日常点評価 「日常的な演習活動」と「卒業論文(またはこれに代わる成果物)」によります。

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

## 教科書 / Textbooks

## 参考書 / Reference Books

## 参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

## その他 / Others

## 卒業研究指導 6J

14095

担当者名 / Instructor 佐々木 嬉代三

単位数 / Credit 4

## 授業の概要 / Course Description

3回生までの学習・研究あるいは演習活動の成果にもとづき、専門科目と関連させながらゼミナール形式によってさらに高度な専門的研究を進めることを目標とします。教員の指導により共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、4年間の成果として卒業論文、あるいはそれに代わる成果物(ビデオなど)の作成を行います。

## 到達目標 / Focus and Goal

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

## 授業スケジュール / Schedule

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

＊試験に代わるレポートとして実施

＊日常点評価 「日常的な演習活動」と「卒業論文(またはこれに代わる成果物)」によります。

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

## 教科書 / Textbooks

## 参考書 / Reference Books

## 参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

## その他 / Others

## 卒業研究指導 6K

14035

担当者名 / Instructor 高木 正朗

単位数 / Credit 4

## 授業の概要 / Course Description

3回生までの学習・研究あるいは演習活動の成果にもとづき、専門科目と関連させながらゼミナール形式によってさらに高度な専門的研究を進めることを目標とします。教員の指導により共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、4年間の成果として卒業論文、あるいはそれに代わる成果物(ビデオなど)の作成を行います。

## 到達目標 / Focus and Goal

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

## 授業スケジュール / Schedule

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

＊試験に代わるレポートとして実施

＊日常点評価 「日常的な演習活動」と「卒業論文(またはこれに代わる成果物)」によります。

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

## 教科書 / Textbooks

## 参考書 / Reference Books

## 参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

## その他 / Others



## 卒業研究指導 6L

14021

担当者名 / Instructor 門田 幸太郎

単位数 / Credit 4

## 授業の概要 / Course Description

3回生までの学習・研究あるいは演習活動の成果にもとづき、専門科目と関連させながらゼミナール形式によってさらに高度な専門的研究を進めることを目標とします。教員の指導により共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、4年間の成果として卒業論文、あるいはそれに代わる成果物(ビデオなど)の作成を行います。

## 到達目標 / Focus and Goal

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

## 授業スケジュール / Schedule

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

＊試験に代わるレポートとして実施

＊日常点評価 「日常的な演習活動」と「卒業論文(またはこれに代わる成果物)」によります。

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

## 教科書 / Textbooks

## 参考書 / Reference Books

## 参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

## その他 / Others

## 卒業研究指導 6M

14070

担当者名 / Instructor 森西 真弓

単位数 / Credit 4

## 授業の概要 / Course Description

3回生までの学習・研究あるいは演習活動の成果にもとづき、専門科目と関連させながらゼミナール形式によってさらに高度な専門的研究を進めることを目標とします。教員の指導により共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、4年間の成果として卒業論文、あるいはそれに代わる成果物(ビデオなど)の作成を行います。

## 到達目標 / Focus and Goal

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

## 授業スケジュール / Schedule

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

＊試験に代わるレポートとして実施

＊日常点評価 「日常的な演習活動」と「卒業論文(またはこれに代わる成果物)」によります。

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

## 教科書 / Textbooks

## 参考書 / Reference Books

## 参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

## その他 / Others

## 卒業研究指導 60

14059

担当者名 / Instructor 荒木 穂積

単位数 / Credit 4

## 授業の概要 / Course Description

3回生までの学習・研究あるいは演習活動の成果にもとづき、専門科目と関連させながらゼミナール形式によってさらに高度な専門的研究を進めることを目標とします。教員の指導により共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、4年間の成果として卒業論文、あるいはそれに代わる成果物(ビデオなど)の作成を行います。

## 到達目標 / Focus and Goal

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

## 授業スケジュール / Schedule

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

＊試験に代わるレポートとして実施

＊日常点評価 「日常的な演習活動」と「卒業論文(またはこれに代わる成果物)」によります。

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

## 教科書 / Textbooks

## 参考書 / Reference Books

## 参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

## その他 / Others

## 卒業研究指導 6P

14078

担当者名 / Instructor 峰島 厚

単位数 / Credit 4

## 授業の概要 / Course Description

3回生までの学習・研究あるいは演習活動の成果にもとづき、専門科目と関連させながらゼミナール形式によってさらに高度な専門的研究を進めることを目標とします。教員の指導により共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、4年間の成果として卒業論文、あるいはそれに代わる成果物(ビデオなど)の作成を行います。

## 到達目標 / Focus and Goal

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

## 授業スケジュール / Schedule

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

＊試験に代わるレポートとして実施

＊日常点評価 「日常的な演習活動」と「卒業論文(またはこれに代わる成果物)」によります。

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

## 教科書 / Textbooks

## 参考書 / Reference Books

## 参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

## その他 / Others

## 卒業研究指導 6Q

14098

担当者名 / Instructor 小澤 亘

単位数 / Credit 4

## 授業の概要 / Course Description

3回生までの学習・研究あるいは演習活動の成果にもとづき、専門科目と関連させながらゼミナール形式によってさらに高度な専門的研究を進めることを目標とします。教員の指導により共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、4年間の成果として卒業論文、あるいはそれに代わる成果物(ビデオなど)の作成を行います。

## 到達目標 / Focus and Goal

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

## 授業スケジュール / Schedule

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

＊試験に代わるレポートとして実施

＊日常点評価 「日常的な演習活動」と「卒業論文(またはこれに代わる成果物)」によります。

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

## 教科書 / Textbooks

## 参考書 / Reference Books

## 参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

## その他 / Others

## 卒業研究指導 6R

14045

担当者名 / Instructor 黒田 学

単位数 / Credit 4

## 授業の概要 / Course Description

3回生までの学習・研究あるいは演習活動の成果にもとづき、専門科目と関連させながらゼミナール形式によってさらに高度な専門的研究を進めることを目標とします。教員の指導により共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、4年間の成果として卒業論文、あるいはそれに代わる成果物(ビデオなど)の作成を行います。

## 到達目標 / Focus and Goal

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

## 授業スケジュール / Schedule

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

＊試験に代わるレポートとして実施

＊日常点評価 「日常的な演習活動」と「卒業論文(またはこれに代わる成果物)」によります。

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

## 教科書 / Textbooks

## 参考書 / Reference Books

## 参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

## その他 / Others

## 卒業研究指導 6S

13984

担当者名 / Instructor 中村 正

単位数 / Credit 4

## 授業の概要 / Course Description

3回生までの学習・研究あるいは演習活動の成果にもとづき、専門科目と関連させながらゼミナール形式によってさらに高度な専門的研究を進めることを目標とします。教員の指導により共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、4年間の成果として卒業論文、あるいはそれに代わる成果物(ビデオなど)の作成を行います。

## 到達目標 / Focus and Goal

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

## 授業スケジュール / Schedule

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

＊試験に代わるレポートとして実施

＊日常点評価 「日常的な演習活動」と「卒業論文(またはこれに代わる成果物)」によります。

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

## 教科書 / Textbooks

## 参考書 / Reference Books

## 参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

## その他 / Others

## 卒業研究指導 6T

14102

担当者名 / Instructor 秋葉 武、鈴木 暁子

単位数 / Credit 4

## 授業の概要 / Course Description

3回生までの学習・研究あるいは演習活動の成果にもとづき、専門科目と関連させながらゼミナール形式によってさらに高度な専門的研究を進めることを目標とします。教員の指導により共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、4年間の成果として卒業論文、あるいはそれに代わる成果物(ビデオなど)の作成を行います。

## 到達目標 / Focus and Goal

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

## 授業スケジュール / Schedule

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

＊試験に代わるレポートとして実施

＊日常点評価 「日常的な演習活動」と「卒業論文(またはこれに代わる成果物)」によります。

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

## 教科書 / Textbooks

## 参考書 / Reference Books

## 参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

## その他 / Others



## 卒業研究指導 6U

14103

担当者名 / Instructor 石坂 好樹

単位数 / Credit 4

## 授業の概要 / Course Description

3回生までの学習・研究あるいは演習活動の成果にもとづき、専門科目と関連させながらゼミナール形式によってさらに高度な専門的研究を進めることを目標とします。教員の指導により共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、4年間の成果として卒業論文、あるいはそれに代わる成果物(ビデオなど)の作成を行います。

## 到達目標 / Focus and Goal

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

## 授業スケジュール / Schedule

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

＊試験に代わるレポートとして実施

＊日常点評価 「日常的な演習活動」と「卒業論文(またはこれに代わる成果物)」によります。

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

## 教科書 / Textbooks

## 参考書 / Reference Books

## 参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

## その他 / Others

## 卒業研究指導 6V

14109

担当者名 / Instructor 松田 亮三

単位数 / Credit 4

## 授業の概要 / Course Description

3回生までの学習・研究あるいは演習活動の成果にもとづき、専門科目と関連させながらゼミナール形式によってさらに高度な専門的研究を進めることを目標とします。教員の指導により共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、4年間の成果として卒業論文、あるいはそれに代わる成果物(ビデオなど)の作成を行います。

## 到達目標 / Focus and Goal

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

## 授業スケジュール / Schedule

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

＊試験に代わるレポートとして実施

＊日常点評価 「日常的な演習活動」と「卒業論文(またはこれに代わる成果物)」によります。

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

## 教科書 / Textbooks

## 参考書 / Reference Books

## 参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

## その他 / Others

## 卒業研究指導 6W

14110

担当者名 / Instructor 高垣 忠一郎

単位数 / Credit 4

## 授業の概要 / Course Description

3回生までの学習・研究あるいは演習活動の成果にもとづき、専門科目と関連させながらゼミナール形式によってさらに高度な専門的研究を進めることを目標とします。教員の指導により共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、4年間の成果として卒業論文、あるいはそれに代わる成果物(ビデオなど)の作成を行います。

## 到達目標 / Focus and Goal

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

## 授業スケジュール / Schedule

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

＊試験に代わるレポートとして実施

＊日常点評価 「日常的な演習活動」と「卒業論文(またはこれに代わる成果物)」によります。

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

## 教科書 / Textbooks

## 参考書 / Reference Books

## 参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

## その他 / Others

## 卒業研究指導 6X

14015

担当者名 / Instructor 坂本 利子

単位数 / Credit 4

## 授業の概要 / Course Description

3回生までの学習・研究あるいは演習活動の成果にもとづき、専門科目と関連させながらゼミナール形式によってさらに高度な専門的研究を進めることを目標とします。教員の指導により共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、4年間の成果として卒業論文、あるいはそれに代わる成果物(ビデオなど)の作成を行います。

## 到達目標 / Focus and Goal

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

## 授業スケジュール / Schedule

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

＊試験に代わるレポートとして実施

＊日常点評価 「日常的な演習活動」と「卒業論文(またはこれに代わる成果物)」によります。

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

## 教科書 / Textbooks

## 参考書 / Reference Books

## 参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

## その他 / Others

## 現代と社会 SA § 現代社会 SA § 社会学 SA

11380

担当者名 / Instructor リム・ボン

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Description

この科目は、身近な社会現象の分析を通じて、現代とはどのような時代か、社会構造はどのように変わろうとしているのかを考える。この科目は、社会分析に必要な基礎的な理論、基礎的概念、および分析視点を提供する。本年度は、次の内容を取り上げる。1) 地球環境破壊、持続可能性と消費生活、気候変動と温室効果ガス削減、2) まちづくり運動、都市の光と影、都市構造、3) 社会的格差、教育・労働の格差、ジェンダーと格差について、分析する。三つのテーマについて、それぞれの基礎的倫理、基礎的概念、主要な事例分析を見ていく。

## 到達目標 / Focus and Goal

- 1) 地球環境破壊、持続可能性と消費生活、気候変動と温室効果ガス削減に関する基礎概念、基礎理論の学習。
- 2) 都市構造、まちづくりに関する基礎概念・基礎理論の学習。
- 3) 社会的格差、教育・労働の格差、ジェンダーと格差に関する基礎理論、基礎概念の学習。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enrolle in, but not required to

## 授業スケジュール / Schedule

| 授業日 (第N回) | テーマ / Theme                                                                          | キーワード / Key Word |
|-----------|--------------------------------------------------------------------------------------|------------------|
| 1         | 巨大都市の光と影。(リム)                                                                        |                  |
| 2         | まちづくり運動と市民自治。(リム)                                                                    |                  |
| 3         | 歴史的町並みの保全と再生。(リム)                                                                    |                  |
| 4         | リサーチ・デイ (データ収集日)。(リム)                                                                |                  |
| 5         | 世界都市の可能性。(リム)                                                                        |                  |
| 6         | 社会的格差とは:現代日本でなぜ格差が問題となっているのか。(中井)                                                    |                  |
| 7         | 教育と不平等:教育機会の格差は解消されたか。(中井)                                                           |                  |
| 8         | 働き方と不平等:雇用の流動化と就業機会の格差。(中井)                                                          |                  |
| 9         | ジェンダーと不平等:男性が生きる社会と女性が生きる社会。(中井)                                                     |                  |
| 10        | まとめ:格差が生じる仕組みとこれからの社会のあり方。(中井)                                                       |                  |
| 11        | あなたが大学で学ぶ意味:授業の進め方、世界の貧困と飢餓、児童労働、食糧供給。(竹濱)                                           |                  |
| 12        | 地球環境破壊と社会:地球環境破壊、持続可能な社会、自然エネルギー。(竹濱)                                                |                  |
| 13        | 環境配慮型マーケティングと環境ラベル:消費生活から発生する環境負荷、環境マーケティングの事例、マス・マーケティングと環境マーケティング、グリーンコンシューマー。(竹濱) |                  |
| 14        | 森林と農地:脱ダム論を検討する、ダム時代の開幕とダム問題。(竹濱)                                                    |                  |
| 15        | 気候変動をめぐる科学ニュース。まとめ。(竹濱)                                                              |                  |

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

| 種別 / Kind        | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc. |
|------------------|-----------------|-------------------------------|
| 定期試験             | 100 %           |                               |
| 評価は、定期試験により判定する。 |                 |                               |

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

テキストのとおり。テキストを必ず持参すること。各自がテキストを持参していることを前提に授業を行うので、テキストの本文そのものについては、授業中にプリントは配布しない。テキストには、基礎的理論の解説のほか、参考文献、参考WEBを紹介しているので、参照すること。

## 教科書 / Textbooks

| 書名 / Title                      | 出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment |
|---------------------------------|----------------------------------------------------------|
| 『21世紀の日本を見つめる:家族から地球まで』<br>2004 | 立命館大学現代社会研究会／晃洋書房／／                                      |

テキストに基づいて授業を進める。各自、テキストを持参していることを前提に、講義を進めるので、必ず、持参すること。

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

その他 / Others

## 現代と社会 SB § 現代社会 SB § 社会学 SB

11381

担当者名 / Instructor 中井 美樹

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Description

この科目は、身近な社会現象の分析を通じて、現代とはどのような時代か、社会構造はどのように変わろうとしているのかを考える。この科目は、社会分析に必要な基礎的な理論、基礎的概念、および分析視点を提供する。本年度は、次の内容を取り上げる。1) 地球環境破壊、持続可能性と消費生活、気候変動と温室効果ガス削減、2) まちづくり運動、都市の光と影、都市構造、3) 社会的格差、教育・労働の格差、ジェンダーと格差について、分析する。三つのテーマについて、それぞれの基礎的倫理、基礎的概念、主要な事例分析を見ていく。

## 到達目標 / Focus and Goal

- 1) 地球環境破壊、持続可能性と消費生活、気候変動と温室効果ガス削減に関する基礎概念、基礎理論の学習。
- 2) 都市構造、まちづくりに関する基礎概念・基礎理論の学習。
- 3) 社会的格差、教育・労働の格差、ジェンダーと格差に関する基礎理論、基礎概念の学習。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enrolle in, but not required to

## 授業スケジュール / Schedule

| 授業日 (第N回) | テーマ / Theme                                                                          | キーワード / Key Word |
|-----------|--------------------------------------------------------------------------------------|------------------|
| 1         | 社会的格差とは：現代日本でなぜ格差が問題となっているのか。(中井)                                                    |                  |
| 2         | 教育と不平等：教育機会の格差は解消されたか。(中井)                                                           |                  |
| 3         | 働き方と不平等：雇用の流動化と就業機会の格差。(中井)                                                          |                  |
| 4         | ジェンダーと不平等：男性が生きる社会と女性が生きる社会。(中井)                                                     |                  |
| 5         | まとめ：格差が生じる仕組みとこれからの社会のあり方。(中井)                                                       |                  |
| 6         | あなたが大学で学ぶ意味：授業の進め方、世界の貧困と飢餓、児童労働、食糧供給。(竹演)                                           |                  |
| 7         | 地球環境破壊と社会：地球環境破壊、持続可能な社会、自然エネルギー。(竹演)                                                |                  |
| 8         | 環境配慮型マーケティングと環境ラベル：消費生活から発生する環境負荷、環境マーケティングの事例、マス・マーケティングと環境マーケティング、グリーンコンシューマー。(竹演) |                  |
| 9         | 森林と農地：脱ダム論を検討する、ダム時代の開幕とダム問題。(竹演)                                                    |                  |
| 10        | 気候変動をめぐる科学ニュース。まとめ。(竹演)                                                              |                  |
| 11        | 巨大都市の光と影。(リム)                                                                        |                  |
| 12        | まちづくり運動と市民自治。(リム)                                                                    |                  |
| 13        | 歴史的町並みの保全と再生。(リム)                                                                    |                  |
| 14        | リサーチ・デイ (データ収集日)。(リム)                                                                |                  |
| 15        | 世界都市の可能性。(リム)                                                                        |                  |

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

| 種別 / Kind        | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc. |
|------------------|-----------------|-------------------------------|
| 定期試験             | 100 %           |                               |
| 評価は、定期試験により判定する。 |                 |                               |

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

テキストのとおり。テキストを必ず持参すること。各自がテキストを持参していることを前提に授業を行うので、テキストの本文そのものについては、授業中にプリントは配布しない。テキストには、基礎的理論の解説のほか、参考文献、参考WEBを紹介しているので、参照すること。

## 教科書 / Textbooks

| 書名 / Title                      | 出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment |
|---------------------------------|----------------------------------------------------------|
| 「21世紀の日本を見つめる：家族から地球まで」<br>2004 | 立命館大学現代社会研究会／晃洋書房／／                                      |

テキストに基づいて授業を進める。各自、テキストを持参していることを前提に、講義を進めるので、必ず、持参すること。

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

その他 / Others



## 現代と社会 SC § 現代社会 SC § 社会学 SC

11384

担当者名 / Instructor 竹演 朝美

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Description

この科目は、身近な社会現象の分析を通じて、現代とはどのような時代か、社会構造はどのように変わろうとしているのかを考える。この科目は、社会分析に必要な基礎的な理論、基礎的概念、および分析視点を提供する。本年度は、次の内容を取り上げる。1) 地球環境破壊、持続可能性と消費生活、気候変動と温室効果ガス削減、2) まちづくり運動、都市の光と影、都市構造、3) 社会的格差、教育・労働の格差、ジェンダーと格差について、分析する。三つのテーマについて、それぞれの基礎的倫理、基礎的概念、主要な事例分析を見ていく。

## 到達目標 / Focus and Goal

- 1) 地球環境破壊、持続可能性と消費生活、気候変動と温室効果ガス削減に関する基礎概念、基礎理論の学習。
- 2) 都市構造、まちづくりに関する基礎概念・基礎理論の学習。
- 3) 社会的格差、教育・労働の格差、ジェンダーと格差に関する基礎理論、基礎概念の学習。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

## 授業スケジュール / Schedule

| 授業日 (第N回) | テーマ / Theme                                                                           | キーワード / Key Word |
|-----------|---------------------------------------------------------------------------------------|------------------|
| 1         | あなたが大学で学ぶ意味: 授業の進め方、世界の貧困と飢餓、児童労働、食糧供給。(竹演)                                           |                  |
| 2         | 地球環境破壊と社会: 地球環境破壊、持続可能な社会、自然エネルギー。(竹演)                                                |                  |
| 3         | 環境配慮型マーケティングと環境ラベル: 消費生活から発生する環境負荷、環境マーケティングの事例、マス・マーケティングと環境マーケティング、グリーンコンシューマー。(竹演) |                  |
| 4         | 森林と農地: 脱ダム論を検討する、ダム時代の開幕とダム問題。(竹演)                                                    |                  |
| 5         | 気候変動をめぐる科学ニュース。まとめ。(竹演)                                                               |                  |
| 6         | 巨大都市の光と影。(リム)                                                                         |                  |
| 7         | まちづくり運動と市民自治。(リム)                                                                     |                  |
| 8         | 歴史的町並みの保全と再生。(リム)                                                                     |                  |
| 9         | リサーチ・デイ (データ収集日)。(リム)                                                                 |                  |
| 10        | 世界都市の可能性。(リム)                                                                         |                  |
| 11        | 社会的格差とは: 現代日本でなぜ格差が問題となっているのか。(中井)                                                    |                  |
| 12        | 教育と不平等: 教育機会の格差は解消されたか。(中井)                                                           |                  |
| 13        | 働き方と不平等: 雇用の流動化と就業機会の格差。(中井)                                                          |                  |
| 14        | ジェンダーと不平等: 男性が生きる社会と女性が生きる社会。(中井)                                                     |                  |
| 15        | まとめ: 格差が生じる仕組みとこれからの社会のあり方。(中井)                                                       |                  |

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

| 種別 / Kind        | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc. |
|------------------|-----------------|-------------------------------|
| 定期試験             | 100 %           |                               |
| 評価は、定期試験により判定する。 |                 |                               |

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

テキストのとおり。テキストを必ず持参すること。各自がテキストを持参していることを前提に授業を行うので、テキストの本文そのものについては、授業中にプリントは配布しない。テキストには、基礎的理論の解説のほか、参考文献、参考WEBを紹介しているので、参照すること。

## 教科書 / Textbooks

| 書名 / Title                       | 出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment |
|----------------------------------|----------------------------------------------------------|
| 「21世紀の日本を見つめる: 家族から地球まで」<br>2004 | 立命館大学現代社会研究会／晃洋書房／／                                      |

テキストに基づいて授業を進める。各自、テキストを持参していることを前提に、講義を進めるので、必ず、持参すること。

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

その他 / Others

## 現代と福祉 SA S 社会福祉論I SA S 現代と福祉 SA

11240

担当者名 / Instructor 石倉 康次

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Description

この授業は産業社会学部の基礎科目であり、人間福祉学科の基幹的な導入科目に位置づく。より人間らしく生きる福祉社会をめざして、現状や福祉社会のあり方に関して問題提起したいいくつかの文章を素材に学習する。最終的には、各人が4年間の学びに向けた課題意識を持てることを期待する。

## 到達目標 / Focus and Goal

授業では教員の問題提起に対して「感想や意見」をペーパーなどで求めるが、最終的には、現代的な福祉課題について、各自の関心から意見を文章で展開できるようになってもらいたい。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

この授業では、人間福祉学科教員の執筆による「人間らしく生きる福祉学」(ミネルヴァ書房)を毎回テキストとして使用する。入門書であり独習もできる。毎回該当する章を読んでおくことが授業の前提となる。

授業では19章全部をとりあげることはできない。多様な角度から問題提起されている書であり、そこから学生が自分の課題を見つけられるようにしている。取り上げられなかった章については独習すること。

## 授業スケジュール / Schedule

| 授業日 (第N回) | テーマ / Theme | キーワード / Key Word |
|-----------|-------------|------------------|
| 1         | 「その他」参照     |                  |

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment  
 (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

| 種別 / Kind | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc. |
|-----------|-----------------|-------------------------------|
| 定期試験      | 50 %            |                               |
| 日常点       | 50 %            |                               |

受講生数にもよるが、原則として1サイクル(5回)ごとの日常点評価と、定期試験成績を半々で評価する。

日常点評価は、形態は多様であるが、出席、発言、意見発表、レポート、小テスト、感想提出などをもとに1サイクルごとにする。

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

## 教科書 / Textbooks

加藤・峰島・山本編著「人間らしく生きる福祉学」ミネルヴァ書房2005年

## 参考書 / Reference Books

## 参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

## その他 / Others

授業は5回を1サイクルとして芝田・峰島・石倉が各クラスを順にまわる。

各サイクルでは、テキストの章をいくつかずつとりあげる。それぞれの章は人間福祉学科教員が、福祉社会の現状をどうとらえるか、どう改善していくべきか、いろんな問題を多様な角度から取り上げ、問題提起している。各章の授業では、その共通の理解の下に、論点を抽出し、それについて各人の考えを磨きあう学習をすすめる。学びの形態は、受講生数にもよるが、多様な考えや見方に触れつつというものを追及したい。

こうした3サイクルの学習をとおして、各自が関心をもてる分野や課題を設定し、その現状をどうみるのか、どう改善していくべきか、などの課題意識をまとめられるようにする。

## 現代と福祉 SB § 社会福祉論I SB § 現代と福祉 SB

11242

担当者名 / Instructor 峰島 厚

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Description

この授業は産業社会学部の基礎科目であり、人間福祉学科の基幹的な導入科目に位置づく。より人間らしく生きる福祉社会をめざして、現状や福祉社会のあり方に関して問題提起したいいくつかの文章を素材に学習する。最終的には、各人が4年間の学びに向けた課題意識を持てることを期待する。

## 到達目標 / Focus and Goal

授業では教員の問題提起に対して「感想や意見」をペーパーなどで求めるが、最終的には、現代的な福祉課題について、各自の関心から意見を文章で展開できるようになってもらいたい。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

この授業では、人間福祉学科教員の執筆による「人間らしく生きる福祉学」(ミネルヴァ書房)を毎回テキストとして使用する。入門書であり独習もできる。毎回該当する章を読んでおくことが授業の前提となる。

授業では19章全部をとりあげることはできない。多様な角度から問題提起されている書であり、そこから学生が自分の課題を見つけられるようにしている。取り上げられなかった章については独習すること。

## 授業スケジュール / Schedule

| 授業日 (第N回) | テーマ / Theme | キーワード / Key Word |
|-----------|-------------|------------------|
| 1         | 「その他」参照     |                  |

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment  
 (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

| 種別 / Kind | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc. |
|-----------|-----------------|-------------------------------|
| 定期試験      | 50 %            |                               |
| 日常点       | 50 %            |                               |

受講生数にもよるが、原則として1サイクル(5回)ごとの日常点評価と、定期試験成績を半々で評価する。

日常点評価は、形態は多様であるが、出席、発言、意見発表、レポート、小テスト、感想提出などをもとに1サイクルごとにする。

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

## 教科書 / Textbooks

加藤・峰島・山本編著「人間らしく生きる福祉学」ミネルヴァ書房2005年

## 参考書 / Reference Books

## 参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

## その他 / Others

授業は5回を1サイクルとして芝田・峰島・石倉が各クラスを順にまわる。

各サイクルでは、テキストの章をいくつかずつとりあげる。それぞれの章は人間福祉学科教員が、福祉社会の現状をどうとらえるか、どう改善していくべきか、いろんな問題を多様な角度から取り上げ、問題提起している。各章の授業では、その共通の理解の下に、論点を抽出し、それについて各人の考えを磨きあう学習をすすめる。学びの形態は、受講生数にもよるが、多様な考えや見方に触れつつというものを追及したい。

こうした3サイクルの学習をとおして、各自が関心をもてる分野や課題を設定し、その現状をどうみるのか、どう改善していくべきか、などの課題意識をまとめられるようにする。

## 現代と福祉 SC § 社会福祉論 SC § 現代と福祉 SC

11244

担当者名 / Instructor 芝田 英昭

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Description

この授業は産業社会学部の基礎科目であり、人間福祉学科の基幹的な導入科目に位置づく。より人間らしく生きる福祉社会をめざして、現状や福祉社会のあり方に関して問題提起したいいくつかの文章を素材に学習する。最終的には、各人が4年間の学びに向けた課題意識を持てることを期待する。

## 到達目標 / Focus and Goal

授業では教員の問題提起に対して「感想や意見」をペーパーなどで求めるが、最終的には、現代的な福祉課題について、各自の関心から意見を文章で展開できるようになってもらいたい。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

この授業では、人間福祉学科教員の執筆による「人間らしく生きる福祉学」(ミネルヴァ書房)を毎回テキストとして使用する。入門書であり独習もできる。毎回該当する章を読んでおくことが授業の前提となる。

授業では19章全部をとりあげることはできない。多様な角度から問題提起されている書であり、そこから学生が自分の課題を見つけられるようにしている。取り上げられなかった章については独習すること。

## 授業スケジュール / Schedule

| 授業日 (第N回) | テーマ / Theme | キーワード / Key Word |
|-----------|-------------|------------------|
| 1         | 「その他」参照     |                  |

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment  
 (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

| 種別 / Kind | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc. |
|-----------|-----------------|-------------------------------|
| 定期試験      | 50 %            |                               |
| 日常点       | 50 %            |                               |

受講生数にもよるが、原則として1サイクル(5回)ごとの日常点評価と、定期試験成績を半々で評価する。

日常点評価は、形態は多様であるが、出席、発言、意見発表、レポート、小テスト、感想提出などをもとに1サイクルごとにする。

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

## 教科書 / Textbooks

加藤・峰島・山本編著「人間らしく生きる福祉学」ミネルヴァ書房2005年

## 参考書 / Reference Books

## 参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

## その他 / Others

授業は5回を1サイクルとして芝田・峰島・石倉が各クラスを順にまわる。

各サイクルでは、テキストの章をいくつかずつとりあげる。それぞれの章は人間福祉学科教員が、福祉社会の現状をどうとらえるか、どう改善していくべきか、いろんな問題を多様な角度から取り上げ、問題提起している。各章の授業では、その共通の理解の下に、論点を抽出し、それについて各人の考えを磨きあう学習をすすめる。学びの形態は、受講生数にもよるが、多様な考えや見方に触れつつというものを追及したい。

こうした3サイクルの学習をとおして、各自が関心をもてる分野や課題を設定し、その現状をどうみるのか、どう改善していくべきか、などの課題意識をまとめられるようにする。

## 現代とメディア SA

12325

担当者名 / Instructor 奥村 信幸

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Description

本講義は3人の講師がそれぞれのパートを担当する。「メディアと市民社会」では、民主主義を補完するジャーナリズムの役割を中心に。「メディア産業と制度」では、新聞、放送、出版などのビジネスと現代社会について、「メディアの将来と私たちの役割」では、マルチメディア化する社会の中でメディアを見分ける眼をどのように養うかを、それぞれ概説していく。

## 到達目標 / Focus and Goal

新聞・テレビ・インターネットなどの多様なメディアが私たちの社会で果たしている役割を理解し、その問題点をさらに学んでいくための「ものの見方」を身につける。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

他の受講生の迷惑になるような遅刻早退・私語・携帯電話の使用を禁止する。

## 授業スケジュール / Schedule

| 授業日 (第N回) | テーマ / Theme                   | キーワード / Key Word |
|-----------|-------------------------------|------------------|
| 1         | ガイダンス (講義の進め方・評価など)           |                  |
| 2         | メディアと市民社会 (1)                 |                  |
| 3         | メディアと市民社会 (2)                 |                  |
| 4         | メディアと市民社会 (3)                 |                  |
| 5         | メディアと市民社会 (4)                 |                  |
| 6         | メディア産業と制度 (1)                 |                  |
| 7         | メディア産業と制度 (2)                 |                  |
| 8         | メディア産業と制度 (3)                 |                  |
| 9         | メディア産業と制度 (4)                 |                  |
| 10        | 教材ビデオによる学習 (コミュニケーション・ペーパー記入) |                  |
| 11        | メディアの将来と私たちの役割 (1)            |                  |
| 12        | メディアの将来と私たちの役割 (2)            |                  |
| 13        | メディアの将来と私たちの役割 (3)            |                  |
| 14        | メディアの将来と私たちの役割 (4)            |                  |
| 15        | まとめ・これからの研究に向けて               |                  |

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

| 種別 / Kind                       | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc. |
|---------------------------------|-----------------|-------------------------------|
| 定期試験                            | 80 %            |                               |
| 日常点                             | 20 %            |                               |
| 定期試験80% 詳細:教科書を中心に出题            |                 |                               |
| 日常点20% 詳細:コミュニケーションペーパーなどを使用する。 |                 |                               |

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

## 教科書 / Textbooks

テキスト:「メディア社会の歩き方」 伊藤武夫ほか著 世界思想社

## 参考書 / Reference Books

授業中に随時紹介していく。

## 参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

授業中に随時紹介していく。

## その他 / Others

本講義は、各パートを3人の担当者がリレー形式で行うため、実際の講義の順序は、クラスによって異なる。

## 現代とメディア SB

12327

担当者名 / Instructor 筒井 淳也

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Description

本講義は3人の講師がそれぞれのパートを担当する。「メディアと市民社会」では、民主主義を補完するジャーナリズムの役割を中心に。「メディア産業と制度」では、新聞、放送、出版などのビジネスと現代社会について、「メディアの将来と私たちの役割」では、マルチメディア化する社会の中でメディアを見分ける眼をどのように養うかを、それぞれ概説していく。

## 到達目標 / Focus and Goal

新聞・テレビ・インターネットなどの多様なメディアが私たちの社会で果たしている役割を理解し、その問題点をさらに学んでいくための「ものの見方」を身につける。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

他の受講生の迷惑になるような遅刻早退・私語・携帯電話の使用を禁止する。

## 授業スケジュール / Schedule

| 授業日 (第N回) | テーマ / Theme                   | キーワード / Key Word |
|-----------|-------------------------------|------------------|
| 1         | ガイダンス (講義の進め方・評価など)           |                  |
| 2         | メディアと市民社会 (1)                 |                  |
| 3         | メディアと市民社会 (2)                 |                  |
| 4         | メディアと市民社会 (3)                 |                  |
| 5         | メディアと市民社会 (4)                 |                  |
| 6         | メディア産業と制度 (1)                 |                  |
| 7         | メディア産業と制度 (2)                 |                  |
| 8         | メディア産業と制度 (3)                 |                  |
| 9         | メディア産業と制度 (4)                 |                  |
| 10        | 教材ビデオによる学習 (コミュニケーション・ペーパー記入) |                  |
| 11        | メディアの将来と私たちの役割 (1)            |                  |
| 12        | メディアの将来と私たちの役割 (2)            |                  |
| 13        | メディアの将来と私たちの役割 (3)            |                  |
| 14        | メディアの将来と私たちの役割 (4)            |                  |
| 15        | まとめ・これからの研究に向けて               |                  |

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

| 種別 / Kind                       | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc. |
|---------------------------------|-----------------|-------------------------------|
| 定期試験                            | 80 %            |                               |
| 日常点                             | 20 %            |                               |
| 定期試験80% 詳細:教科書を中心に出题            |                 |                               |
| 日常点20% 詳細:コミュニケーションペーパーなどを使用する。 |                 |                               |

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

## 教科書 / Textbooks

テキスト:「メディア社会の歩き方」 伊藤武夫ほか著 世界思想社

## 参考書 / Reference Books

授業中に随時紹介していく。

## 参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

授業中に随時紹介していく。

## その他 / Others

本講義は、各パートを3人の担当者がリレー形式で行うため、実際の講義の順序は、クラスによって異なる。

## 現代とメディア SC

12326

担当者名 / Instructor 小泉 秀昭

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Description

本講義は3人の講師がそれぞれのパートを担当する。「メディアと市民社会」では、民主主義を補完するジャーナリズムの役割を中心に。「メディア産業と制度」では、新聞、放送、出版などのビジネスと現代社会について、「メディアの将来と私たちの役割」では、マルチメディア化する社会の中でメディアを見分ける眼をどのように養うかを、それぞれ概説していく。

## 到達目標 / Focus and Goal

新聞・テレビ・インターネットなどの多様なメディアが私たちの社会で果たしている役割を理解し、その問題点をさらに学んでいくための「ものの見方」を身につける。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

他の受講生の迷惑になるような遅刻早退・私語・携帯電話の使用を禁止する。

## 授業スケジュール / Schedule

| 授業日 (第N回) | テーマ / Theme                   | キーワード / Key Word |
|-----------|-------------------------------|------------------|
| 1         | ガイダンス (講義の進め方・評価など)           |                  |
| 2         | メディアと市民社会 (1)                 |                  |
| 3         | メディアと市民社会 (2)                 |                  |
| 4         | メディアと市民社会 (3)                 |                  |
| 5         | メディアと市民社会 (4)                 |                  |
| 6         | メディア産業と制度 (1)                 |                  |
| 7         | メディア産業と制度 (2)                 |                  |
| 8         | メディア産業と制度 (3)                 |                  |
| 9         | メディア産業と制度 (4)                 |                  |
| 10        | 教材ビデオによる学習 (コミュニケーション・ペーパー記入) |                  |
| 11        | メディアの将来と私たちの役割 (1)            |                  |
| 12        | メディアの将来と私たちの役割 (2)            |                  |
| 13        | メディアの将来と私たちの役割 (3)            |                  |
| 14        | メディアの将来と私たちの役割 (4)            |                  |
| 15        | まとめ・これからの研究に向けて               |                  |

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

| 種別 / Kind                       | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc. |
|---------------------------------|-----------------|-------------------------------|
| 定期試験                            | 80 %            |                               |
| 日常点                             | 20 %            |                               |
| 定期試験80% 詳細:教科書を中心に出题            |                 |                               |
| 日常点20% 詳細:コミュニケーションペーパーなどを使用する。 |                 |                               |

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

## 教科書 / Textbooks

テキスト:「メディア社会の歩き方」 伊藤武夫ほか著 世界思想社

## 参考書 / Reference Books

授業中に随時紹介していく。

## 参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

授業中に随時紹介していく。

## その他 / Others

本講義は、各パートを3人の担当者がリレー形式で行うため、実際の講義の順序は、クラスによって異なる。



## 人間と文化 SA

12384

担当者名 / Instructor 崎山 治男

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Description

文化現象といってもその内実は多様である。本講義では、〈わたしと知〉〈表現とスタイル〉〈かかわりと社会〉という三つの次元から現代文化について多面的に考察する。〈わたしと知〉では、『赤頭巾ちゃん』『ロビンソンクルーソー』などの物語・小説を素材に近現代社会における「個のアイデンティティ」の構造について取り上げる。さらに〈表現とスタイル〉では絵画、パフォーマンス、ファッションなどの表現活動を通じて「個の自己表現」について考察する。そして〈かかわりと社会〉では、「世代論」「ボランティア文化」「新たな公共性」「グローバリゼーション」などいくつかのトピックスを取り上げ、現代日本社会における人と人との「かかわり」の現在について考察する。

## 到達目標 / Focus and Goal

「文化の学び」には多様なアプローチがありうる。受講生には、3つのセッションで展開されるさまざまな文化研究の方法や成果を吸収することによって、自分自身の「文化を見る視点」を獲得することが期待されている。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

## 授業スケジュール / Schedule

| 授業日 (第N回) | テーマ / Theme                                                | キーワード / Key Word                                    |
|-----------|------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------|
| 第1回       | イントロダクション: 3人の担当による導入講義                                    |                                                     |
| 第2～5回     | 第1セッション「〈私〉とはどのように作られるのかーアイデンティティへの自由・アイデンティティからの自由」担当: 崎山 | アイデンティティの社会的構成、物語とアイデンティティ、アイデンティティ・ポリティクス          |
| 第6～9回     | 第2セッション「タイトル: 〈私〉をどのように表現するのかー多様な非言語の世界」                   | 世紀の転換期と絵画、非言語コミュニケーションとパフォーマンス、ファッションと社会表現とスタイル」担当: |
| 第10～13回   | 第3セッション「〈私〉から〈社会〉へー新たな「かかわり」の創造に向けて」担当: 小澤                 | 世代と文化 ボランティア文化 新たな公共性 ナショナリズム グローバリゼーション            |
| 第14回      | 総括授業: 提出レポートに対するコメントまとめ                                    |                                                     |

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

指定教科書は事前に読解しておくこと。授業時に指示した文献(レジュメを含む)を読解させる場合もある。期中に、3回の課題レポートを課す。

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

| 種別 / Kind | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc.                             |
|-----------|-----------------|-----------------------------------------------------------|
| 定期試験      | 55 %            | テキストおよび授業の理解度。マークシート方式にて実施                                |
| レポート      | 45 %            | 各セッションごとに合計3回、レポートを提出してもらう。どれだけ、主体的に学習し、自ら考察しようとしたかを判断する。 |

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

本講義は上記3つの分野を担当する3人の講義責任者が、それぞれのクラスを順にローテーションしながら授業を進めていく。したがって、クラスによって、各セッションの順は異なる。各クラスの授業計画については、初回講義時に詳細をレジュメにて配布する。

## 教科書 / Textbooks

佐藤嘉一編著『〈方法〉としての人間と文化』ミネルヴァ書房、2004年を各自購入のこと。

## 参考書 / Reference Books

授業時に適時紹介する。

## 参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

## その他 / Others

## 人間と文化 SB

12383

担当者名 / Instructor 小澤 亘

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Description

文化現象といってもその内実は多様である。本講義では、〈わたしと知〉〈表現とスタイル〉〈かかわりと社会〉という三つの次元から現代文化について多面的に考察する。〈わたしと知〉では、『赤頭巾ちゃん』『ロビンソンクルーソー』などの物語・小説を素材に近現代社会における「個のアイデンティティ」の構造について取り上げる。さらに〈表現とスタイル〉では絵画、パフォーマンス、ファッションなどの表現活動を通じて「個の自己表現」について考察する。そして〈かかわりと社会〉では、「世代論」「ボランティア文化」「新たな公共性」「グローバリゼーション」などいくつかのトピックスを取り上げ、現代日本社会における人と人との「かかわり」の現在について考察する。

## 到達目標 / Focus and Goal

「文化の学び」には多様なアプローチがありうる。受講生には、3つのセッションで展開されるさまざまな文化研究の方法や成果を吸収することによって、自分自身の「文化を見る視点」を獲得することが期待されている。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enrolle in, but not required to

## 授業スケジュール / Schedule

| 授業日 (第N回) | テーマ / Theme                                                | キーワード / Key Word                                    |
|-----------|------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------|
| 第1回       | イントロダクション: 3人の担当による導入講義                                    |                                                     |
| 第2～5回     | 第1セッション「〈私〉とはどのように作られるのかーアイデンティティへの自由・アイデンティティからの自由」担当: 崎山 | アイデンティティの社会的構成、物語とアイデンティティ、アイデンティティ・ポリティクス          |
| 第6～9回     | 第2セッション「タイトル: 〈私〉をどのように表現するのかー多様な非言語の世界」                   | 世紀の転換期と絵画、非言語コミュニケーションとパフォーマンス、ファッションと社会表現とスタイル」担当: |
| 第10～13回   | 第3セッション「〈私〉から〈社会〉へー新たな「かかわり」の創造に向けて」担当: 小澤                 | 世代と文化 ボランティア文化 新たな公共性 ナショナリズム グローバリゼーション            |
| 第14回      | 総括授業: 提出レポートに対するコメントまとめ                                    |                                                     |

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

指定教科書は事前に読解しておくこと。授業時に指示した文献 (レジュメを含む) を読解させる場合もある。期中に、3回の課題レポートを課す。

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

| 種別 / Kind | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc.                             |
|-----------|-----------------|-----------------------------------------------------------|
| 定期試験      | 55 %            | テキストおよび授業の理解度。マークシート方式にて実施                                |
| レポート      | 45 %            | 各セッションごとに合計3回、レポートを提出してもらう。どれだけ、主体的に学習し、自ら考察しようとしたかを判断する。 |

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

本講義は上記3つの分野を担当する3人の講義責任者が、それぞれのクラスを順にローテーションしながら授業を進めていく。したがって、クラスによって、各セッションの順は異なる。各クラスの授業計画については、初回講義時に詳細をレジュメにて配布する。

## 教科書 / Textbooks

佐藤嘉一編著『〈方法〉としての人間と文化』ミネルヴァ書房、2004年を各自購入のこと。

## 参考書 / Reference Books

授業時に適時紹介する。

## 参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

## その他 / Others

## 人間と文化 SC

12382

担当者名 / Instructor 遠藤 保子

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Description

文化現象といってもその内実は多様である。本講義では、〈わたしと知〉〈表現とスタイル〉〈かかわりと社会〉という三つの次元から現代文化について多面的に考察する。〈わたしと知〉では、『赤頭巾ちゃん』『ロビンソンクルーソー』などの物語・小説を素材に近現代社会における「個のアイデンティティ」の構造について取り上げる。さらに〈表現とスタイル〉では絵画、パフォーマンス、ファッションなどの表現活動を通じて「個の自己表現」について考察する。そして〈かかわりと社会〉では、「世代論」「ボランティア文化」「新たな公共性」「グローバリゼーション」などいくつかのトピックスを取り上げ、現代日本社会における人と人との「かかわり」の現在について考察する。

## 到達目標 / Focus and Goal

「文化の学び」には多様なアプローチがありうる。受講生には、3つのセッションで展開されるさまざまな文化研究の方法や成果を吸収することによって、自分自身の「文化を見る視点」を獲得することが期待されている。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enrolle in, but not required to

## 授業スケジュール / Schedule

| 授業日 (第N回) | テーマ / Theme                                                | キーワード / Key Word                                    |
|-----------|------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------|
| 第1回       | イントロダクション: 3人の担当による導入講義                                    |                                                     |
| 第2～5回     | 第1セッション「〈私〉とはどのように作られるのかーアイデンティティへの自由・アイデンティティからの自由」担当: 崎山 | アイデンティティの社会的構成、物語とアイデンティティ、アイデンティティ・ポリティクス          |
| 第6～9回     | 第2セッション「タイトル: 〈私〉をどのように表現するのかー多様な非言語の世界」                   | 世紀の転換期と絵画、非言語コミュニケーションとパフォーマンス、ファッションと社会表現とスタイル」担当: |
| 第10～13回   | 第3セッション「〈私〉から〈社会〉へー新たな「かかわり」の創造に向けて」担当: 小澤                 | 世代と文化 ボランティア文化 新たな公共性 ナショナリズム グローバリゼーション            |
| 第14回      | 総括授業: 提出レポートに対するコメントまとめ                                    |                                                     |

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

指定教科書は事前に読解しておくこと。授業時に指示した文献(レジュメを含む)を読解させる場合もある。期中に、3回の課題レポートを課す。

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

| 種別 / Kind | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc.                             |
|-----------|-----------------|-----------------------------------------------------------|
| 定期試験      | 55 %            | テキストおよび授業の理解度。マークシート方式にて実施                                |
| レポート      | 45 %            | 各セッションごとに合計3回、レポートを提出してもらう。どれだけ、主体的に学習し、自ら考察しようとしたかを判断する。 |

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

本講義は上記3つの分野を担当する3人の講義責任者が、それぞれのクラスを順にローテーションしながら授業を進めていく。したがって、クラスによって、各セッションの順は異なる。各クラスの授業計画については、初回講義時に詳細をレジュメにて配布する。

## 教科書 / Textbooks

佐藤嘉一編著『〈方法〉としての人間と文化』ミネルヴァ書房、2004年を各自購入のこと。

## 参考書 / Reference Books

授業時に適時紹介する。

## 参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

## その他 / Others

## NPO・NGO論 S § 非営利組織論 S

12984

担当者名 / Instructor 秋葉 武

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Description

社会的に重要な役割を持ち始めたNPO・NGOについて楽しく学んでいきたい。福祉、環境、人権、まちづくり等様々な分野の組織を中心にあげられる。また、企業および行政組織と比較して、NPOのサービスの特徴を考察していく(例えば、NPOのリーダーの多くが①いわゆる「専門家ではない」地域の市民 ②既存の制度から「はみ出した」専門家、である)。上記のテーマを学んでいくため、講義においてはビデオ等の視覚教材を毎回使用し、ゲスト・スピーカーを1-2回招くなどして最新の話題を取り上げていく。また受講者の意見を求める等、なるべく双方向のコミュニケーションに努める。

なお国際協力分野のNPO・NGOについては、本講義では取り扱わない。教員が別途、担当している「国際ボランティア論」で取り扱うこととなるので、留意されたい。

## 到達目標 / Focus and Goal

- ・サードセクターとしてのNPO——政府および企業だけでは、なぜ社会がうまく機能しなくなっているのか、を理解する。
- ・NPOは閉塞感を深める日本社会のなかで、具体的にどのような役割を果たせるのか、を具体的に理解する。
- ・NPOという組織における働き方は、新しい働き方を社会に提起しているといわれる。職員、ボランティアを含めたNPOの人材をみることで社会について考える題材とする。
- ・NPOは呼称、活動分野が多様であることから、一見理解し辛いイメージがあるが、その点についても整理して理解する。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enrolle in, but not required to

前期に教員が別途担当している「国際ボランティア論」

## 授業スケジュール / Schedule

| 授業日 (第N回) | テーマ / Theme                                 | キーワード / Key Word                 |
|-----------|---------------------------------------------|----------------------------------|
|           | 講義のガイダンス                                    | 授業の趣旨、達成目標、成績評価方法、担当教員の自己紹介      |
|           | NPO・NGOの概論①——阪神大震災時のボランティア活動を事例として——        | 用語・概念の整理、NPO・NGOの社会的存在理由、行政の限界   |
|           | NPO・NGOの概論②——NGOでの職員の働き方を事例として——            | 用語・概念の整理、NPO・NGOの社会的存在理由、サービスの特徴 |
|           | 無給ボランティアから有給スタッフへ——阪神大震災時のボランティア活動を事例として——  | NPO・NGOの学術的概念、呼称の固有性、有償化のプロセス    |
|           | 政府とNPOの関係——「NPO大国」アメリカのボランティア活動を事例として——     | アメリカのNPOの歴史、寄付行為、公共への市民参加        |
|           | 政府とNPOの関係——アメリカのNPOの企業、政府とのパートナーシップを事例として—— | 「大きな政府」の世界的な退潮、市民の公共への参加を促す社会制度  |
|           | 地球環境問題とNGO——地球温暖化防止に取り組むNGOの役割から——          | 国益追求の限界、市民組織の役割                  |
|           | 市民の公共への参加を促す社会制度——1998年のNPO法成立の背景から——       | 認証と認可の違い、法人格の意味                  |
|           | NPOの制度化——NPOの介護保険制度への参入を事例として——             | 在宅福祉NPOと介護保険、経営管理の重要性            |
|           | 企業とNPOの比較——Linuxの成功から——                     | 情報化、IT化とNPO                      |
|           | 事業型NPOおよび社会指向型企業の誕生                         | ソーシャル・ベンチャー、社会起業家                |
|           | NPOの資源開発——パブリックリソースセンターの取り組みから——            | 寄付マーケットの開拓、SRI(社会的責任投資)          |
|           | 講義のまとめ                                      | 振り返り                             |

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

NPOを取り巻く外部環境は急速に変化していますので、下記のHPなどをぜひチェックしてみてください。

日本NPOセンターHP <http://www.jnpoc.ne.jp/>  
パブリックリソースセンターHP <http://www.public.or.jp/>

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

| 種別 / Kind | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc.               |
|-----------|-----------------|---------------------------------------------|
| レポート      | 40 %            | 与えられたテーマについて、試験に代わるレポートを提出し、教員はそれを評価します。    |
| 日常点       | 60 %            | 毎回、出席を兼ねたコミュニケーションペーパーを配布し、教員は出席、記述内容を評価します |

ガイダンスに必ず出席して、受講するか否かを決めてください。成績評価は出席重視ですので、ガイダンスに出てみて「面白そうだな」と思った受講登録するのがよいと思います。

下記の行為をする受講生は「D」評価としています。

- ①他の受講生の受講権の侵害・授業中の私語、大幅な遅刻、頻繁な途中入退室など
- ②マナーの欠如(携帯電話の時計以外の目的での使用など)、レポートの記述の不適切な表現(タメ口など)

#### 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

#### 教科書 / Textbooks

#### 参考書 / Reference Books

##### 書名 / Title

##### 出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment

NPO基礎講座(新版)(2005)

山岡義典／ぎょうせい／／

新聞でNPOの記事をチェックしてみましょう

#### 参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

#### その他 / Others

受講することで、新しい視野が開かれると思います。

## アートマネジメント論 S S 芸術社会論II S

13069

担当者名 / Instructor 森口 まどか

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Description

そもそもアートマネジメントとは、芸術をマネージ（運営・管理）するとはどういう事柄を意味するのだろうか。一般に、アートマネジメントによって芸術と社会を結び、双方がより良く生かし生かされる方策を考え出すと捉えられている。しかしながら、その前提である社会にとってなぜ芸術は必要か、ということをもっと問はなくてはならないだろう。

近年、国立博物館・美術館・文化財研究所が独立行政法人化されたり、指定管理者制度の導入に伴い公共文化施設の管理者やその運営方法が審議されたり、博物館・美術館への市場化テストの導入が検討されるなど、わが国における公共文化施設の在り方が根本的に問い直されている。このような現状を踏まえると、アートマネジメントの必要性が増していることは言うまでもなく、先の問いについての考察が重要だと考える。本授業では、社会にとって芸術はなぜ必要かを問い、考察する。ミュージアム形成の歴史および、主に美術分野における国際展やパブリック・アートなどの実例を紹介しながらさまざまな問題点を検討し、次代の芸術特に美術と社会の関係について考えてゆきたい。

## 到達目標 / Focus and Goal

- ・わが国における博物館・美術館の現状を確認し、その問題点をさまざまな視点から挙げることができる。
- ・社会と芸術の関係についての知見を幅広く論じることができる。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enrolle in, but not required to

基礎的な美術史に関する知識があることが望まれるが、たとえば、美術史概論が事前に必要な履修科目ではない。

## 授業スケジュール / Schedule

| 授業日 (第N回) | テーマ / Theme                         | キーワード / Key Word    |
|-----------|-------------------------------------|---------------------|
| 第1回       | アートマネジメントとは 今日におけるアートマネジメントの必要性を中心に |                     |
| 第2～3回     | ミュージアムについて その歴史、社会、思想的背景から          | 啓蒙主義思想、公共性、美術       |
| 第4～5回     | オブ・ミュージアムについて 1960年代以降の美術を中心として     | パブリック・アート、インスタレーション |
| 第6～7回     | アートセンターの誕生と形成について                   |                     |
| 第8～9回     | 国際美術展その歴史と運営について                    |                     |
| 第10～11回   | アーティスト・イン・レジデンスの考え方                 | コミュニティ、コミュニケーション    |
| 第12～13回   | NPO活動とアートについて                       |                     |
| 第14回      | まとめ                                 |                     |

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

展覧会鑑賞を課題にし、レポートの提出を学期中に数回求める。

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

| 種別 / Kind | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc.            |
|-----------|-----------------|------------------------------------------|
| レポート      | 40 %            | レポート課題の提出を求める。                           |
| 日常点       | 60 %            | 毎回の授業終了後にその授業内容に関するコメントを求める。数回のレポートを求める。 |

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

## 教科書 / Textbooks

特になし

## 参考書 / Reference Books

- ・林容子『進化するアートマネジメント』レイライン、2004年
- ・ビエール・ブルデュエ他『美術愛好-ヨーロッパの美術館と観衆』山下雅之訳、木鐸社、1994年
- ・西野嘉章『二十一世紀博物館-博物資源立国へ地平を拓く』東京大学出版会、2000年
- ・『創造-現場から/現場へ』小林康夫・松浦寿輝編、(『表象のディスクール6』)、東京大学出版会、2000年
- ・その他適宜紹介する。

## 参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

適宜紹介する。

## その他 / Others

## アジアの福祉研究 S S アジアの福祉研究 I

20121

担当者名 / Instructor 桂 良太郎

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Description

アジアの高齢者と子どもに焦点をおきながら、10年後、20年後のアジアの社会情勢を考えながら、高齢者や子どもの人権保障がどのように守られるか、守られなければならないかについてさまざまな角度から分析したことがらについて考察しながら、ディスカッションしたい。

## 到達目標 / Focus and Goal

未来のアジアの情勢をしっかりと人口統計学的な背景からみた場合の予測をもとに、高齢者や子ども、とくに障害をかかえた子どもたちの人権保障がどのように世界的なパースペクティブ(視角)から構築されなければならないかについて検討することが目標である。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

国際関係論、国際社会学、および国際福祉の視点や分析方法などをしっかりおさえながら講義にのぞんでほしい。

## 授業スケジュール / Schedule

| 授業日(第N回) | テーマ / Theme                     | キーワード / Key Word               |
|----------|---------------------------------|--------------------------------|
| 第1回目     | オリエンテーションー講義のすすめかた、目標などについて-    | オリエンテーション                      |
| 第2回目     | 今なぜアジアの社会福祉なのか!?                | アジア型社会福祉、欧米型社会福祉               |
| 第3回目     | 貧困・不平等の福祉                       | 貧困・不平等の福祉                      |
| 第4回目     | 子どもの福祉I                         | 子どもの福祉、児童問題、児童憲章               |
| 第5回目     | ジェンダーと福祉                        | ジェンダーと福祉                       |
| 第6回目     | 障害と福祉                           | 障害とは何か、ディスエイブル                 |
| 第7回目     | 高齢者と福祉                          | 高齢化、高齢社会、高齢者問題、介護と生きがい         |
| 第8回目     | 難民と福祉ー社会的排除と福祉ー                 | 難民問題、                          |
| 第9回目     | エコロジーと福祉                        | 環境問題                           |
| 第10回目    | 社会開発と福祉                         | 社会開発                           |
| 第11回目    | 国際機関、国際NGOの活動と国際協力              | 国連、NGO、国際協力                    |
| 第12回目    | アジア各国の社会福祉・社会保障の制度政策①韓国と中国      | 中国の社会福祉、韓国の社会福祉                |
| 第13回目    | アジア各国の社会福祉・社会保障の制度政策②タイ、シンガポール他 | タイの社会福祉、シンガポールの社会福祉、その他の国の社会福祉 |
| 第14回目    | アジア型社会福祉の課題と展望                  | アジア型社会福祉                       |
| 第15回目    | まとめとプレゼンテーション                   | アジアの社会福祉、ソーシャルワーク              |

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

できるだけ各自で、新聞の切り抜きや情報を持参しあいながら、情報交換を多くとりたい。そして、アジアの今日的情勢を社会福祉の視点から展望できるように国際的なボランティア活動に関心をもってもらいたい。

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

| 種別 / Kind | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc.                                  |
|-----------|-----------------|----------------------------------------------------------------|
| レポート      | 20 %            | 講義をつうじて関心をもったことがらについて、各自で調べたことや、体験したことがらなどをレポートにして提出することを希望する。 |
| 日常点       | 20 %            | 毎回の講義のポイントをもとめたもの(A4版1-2枚)を次回の講義時に提出すること                       |
| その他       | 60 %            | 6割以上の出席が原則                                                     |

A+を希望する学生は事前に申し出ること。プレゼンテーションをしてもらいます。  
万一出席日数が足りない場合は事前に相談しにくること。特別課題を与えます。

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

ノートをしっかりとり、新聞の切り抜きや、各自で集めてきた情報をファイルにしておき、講義時に紹介してほしい。できるだけ多くの内外の新聞から情報収集すること。

## 教科書 / Textbooks

| 書名 / Title                                                                     | 出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment |
|--------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------|
| アジアの社会福祉                                                                       | 萩原康生他／日本出版放送協会／ISBN4-595-30606-7／2006年3月発売               |
| 放送大学(ラジオ)にて、本年度より、アジアの社会福祉という講座がはじまります。桂はそのなかで、アジアの子どもと福祉(第3章) 高齢者と福祉(第6章) 担当。 |                                                          |

**参考書 / Reference Books**

参考書は講義のなかで紹介します。

**参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course**

**その他 / Others**



## アジア文化論 S S 現代文明論 S

15143

担当者名 / Instructor 文 楚雄

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Description

アジアには多くの国や地域があり、様々な文化や伝統がある。また豊かな人的資源があり、潜在的な大きな経済市場もある。日本はアジアの一員である。地理的にも歴史的にも文化的にもアジアと強い絆を持っている。故に日本は大いにアジアに目を向けるべきであると思う。

本授業は、東アジアの日本、中国、韓国を中心に、アジアの文化、伝統、価値観、生活スタイルなどを比較しながら、その同質性や異質性を考えることにしたい。この授業を通じて、アジアの国々の文化に対する関心や理解を深めると同時に、日本文化に対する再認識をも深めたい。

## 到達目標 / Focus and Goal

- ◎ 中国、韓国を中心としたアジアの国々の文化に対する理解を深めることができる。
- ◎ 日本文化に対する再認識を深めることができる。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enrolle in, but not required to

## 授業スケジュール / Schedule

| 授業日 (第N回) | テーマ / Theme                 | キーワード / Key Word |
|-----------|-----------------------------|------------------|
| 第1回       | 文化とは何か。文化を見る視点や方法           |                  |
| 第2回       | 文化・文明の衝突                    |                  |
| 第3回       | 日・中・韓文化の特徴                  |                  |
| 第4回       | 儒教文化とその伝承                   |                  |
| 第5回       | 婚姻法から見た儒教思想                 |                  |
| 第6回       | 日・中・韓の食文化とマナー               |                  |
| 第7回       | 本学の留学生との交流                  |                  |
| 第8回       | 文学から見た文化——平家物語を中心に——        |                  |
| 第9回       | 言語と文化 —— 日本語、中国語、英語の比較から —— |                  |
| 第10回      | 道教・神道・禅                     |                  |
| 第11回      | 仏教文化                        |                  |
| 第12回      | 金閣寺と銀閣寺                     |                  |
| 第13回      | 住まい文化                       |                  |
| 第14回      | 日本人・中国人・韓国人の国民性             |                  |
| 第15回      | 一回分の授業に相当する最終レポートを課す        |                  |

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

| 種別 / Kind                    | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc. |
|------------------------------|-----------------|-------------------------------|
| レポート                         | 60 %            | 期末の試験に代わる最終レポートを提出しなければならない。  |
| 日常点                          | 40 %            | 日常的な取り組みや出席                   |
| 期末の最終レポートや出席などの平常点を総合して判断する。 |                 |                               |

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

## 教科書 / Textbooks

## 参考書 / Reference Books

| 書名 / Title | 出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment |
|------------|----------------------------------------------------------|
| 『中国人と日本人』  | 邱英漢／中央公論社／／                                              |
| 『韓国人の心』    | 李御寧／学生社／／                                                |
| 『日本人と日本文化』 | 司馬遼太郎／中公新書／／                                             |

## 参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

## その他 / Others

## 医療福祉論 S S 社会保障論II S

10287

担当者名 / Instructor 小西 直毅

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Description

医療福祉とは保健医療分野における社会福祉のことである。病院等の保健医療機関において、社会福祉の立場から患者のかかえる経済的、心理的、社会的問題の解決、調整を援助し、社会復帰の促進を図る保健医療ソーシャルワーカーが実際にどのような福祉実践を担っているのかを学ぶ。講義担当者(小西)は普段ソーシャルワーカーとして近畿大学医学部附属病院で勤務している。臨床家としての経験を十分に活かして、現実に関直面している問題、典型的な事例等を学習の素材として提示できることが本講義の特徴である。

## 到達目標 / Focus and Goal

- ①将来、保健医療機関に携わる際に不可欠となる「医療福祉」の基本的知識を身につけること。
- ②保健医療ソーシャルワーカーとしてのものの見方、考え方等を身に付けてもらうこと。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enrolle in, but not required to

社会福祉原論・社会福祉概論を習得し、ソーシャルワークについての知識を習得していることが望ましい。さらに特に価値、倫理の部分はよく学んで欲しい。知識のみならず、自己の障害者観、死生観を築き上げていくことに挑んで欲しい。また、文学や映画、演劇等の芸術にも多く触れ、生や死、病や障害が人生に投げかける意味を探って欲しい。さらに個人的な生活歴においての生活の実体験に対する感性を豊かにし、人の苦しみを自分に関係がないこととはせず、それに対して自分はどうに感じるのかを立ち止まって見つめる体験を積み重ねて欲しい。

## 授業スケジュール / Schedule

| 授業日(第N回) | テーマ / Theme                  | キーワード / Key Word                                                                        |
|----------|------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------|
| 1        | 医療福祉とは(講義のオリエンテーション)         | 保健・医療・福祉, 医療福祉, 保健医療ソーシャルワーク                                                            |
| 2        | 医療福祉制度①                      | 生活保障, 医療保障, 災害補償                                                                        |
| 3        | 医療福祉制度②                      | 身体障害, 介護保険                                                                              |
| 4        | 保健医療ソーシャルワークの価値              | ソーシャルワークの価値・倫理・知識                                                                       |
| 5        | 保健医療をめぐる動向とソーシャルワーカーの視点      | 医療保険制度, クリティカルパス, DPC                                                                   |
| 6        | 病院にソーシャルワーカーがいる意味            | 生老病死                                                                                    |
| 7        | 保健医療機関におけるソーシャルワーカーの役割       | 医療ソーシャルワーカー業務指針                                                                         |
| 8        | ソーシャルワーカーと組織                 | ヒューマンサービス組織                                                                             |
| 9        | 業務の開発                        | コンセプチュアルスキル, ヒューマンスキル, テクニカルスキル                                                         |
| 10       | 連携づくり                        | 連携, 協議, ネットワーク, コンサルテーション, 協働, 管理                                                       |
| 11       | 人間理解 1 : ソーシャルワークの原理・原則      | バイスティックの7原則                                                                             |
| 12       | 人間理解 2 : 理論・ソーシャルワークの実践アプローチ | 心理社会的アプローチ, 機能主義アプローチ, 問題解決アプローチ, システム理論, 危機介入アプローチ, 課題中心アプローチ, 生態学的アプローチ, エンパワメントアプローチ |
| 13       | 援助の実際                        | 依頼受理, アセスメント, 面接技法, 終結                                                                  |
| 14       | 自己覚知とスーパービジョン                | 援助者としての人, 専門職としての自己, スーパーバイザー, スーパーバイジー, 管理的機能, 教育的機能, 支持的機能                            |
| 15       | 総体としてのソーシャルワーク援助             | 人と環境の相互作用                                                                               |

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment  
 (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

| 種別 / Kind | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc.                        |
|-----------|-----------------|------------------------------------------------------|
| 定期試験      | 60 %            | 概念・歴史・理論・技術・社会制度等の基本的な知識の部分について定期試験を実施する。            |
| レポート      | 20 %            | 授業の理解度を確認したり、自分の考えをまとめてもらう部分については適時レポートを時間内に作成してもらう。 |
| 日常点       | 0 %             | 実施しない。                                               |
| その他       | 20 %            | 出席状況、授業態度を評価対象とする。                                   |

\* 具体的な知識については定期試験として実施する。自らの考えを述べてもらう必要がある課題についてはレポートを適時作成し提出を求める。その他、出席状況、受講態度も配慮して総合的評価を行う。

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

**教科書 / Textbooks**

| 書名 / Title           | 出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment |
|----------------------|----------------------------------------------------------|
| 保健医療ソーシャルワーク原論 (改訂版) | (社) 日本医療社会事業協会編 / 相川書房 / 4-7501-0311-x /                 |

講義はテキストの章立てを基本に行う。必要に応じ、講義中に資料、レジュメの配布を行なう。

**参考書 / Reference Books**

| 書名 / Title        | 出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment                            |
|-------------------|-------------------------------------------------------------------------------------|
| 保健医療ソーシャルワーク実践1～3 | (社) 日本社会福祉士会・(社) 日本医療社会事業協会編 / 中央法規 / 4-8058-2422-0, 4-8058-2423-9, 4-8058-2424-7 / |
| 医療ソーシャルワーク        | 杉本敏夫監修 / 久美株式会社 / 4-907757-24-7 /                                                   |
| 転換期の医療福祉          | 牧洋子・和田謙一郎編 / せせらぎ出版 / 4-88416-140-8 /                                               |

参考文献にて理解が不十分なところは補うことが望ましい。

**参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course**

<http://www.jaswhs.or.jp/>

**その他 / Others**

## 映像表現論 S S ルポルタージュ論 S

13098

担当者名 / Instructor 増田 幸子

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Description

本講義では、時代とマスメディアとしての社会的機能に注目しながら、映像メディアの一つである映画を取りあげる。  
映画は芸術的な側面やエンターテインメント性から語られがちであるが、本講義では、世界の映画の発展の歴史に沿いつつも、  
映画の表現様式とその表現が生成する社会的意味について学ぶことを重視する。

## 到達目標 / Focus and Goal

- ・100年に及ぶ世界の映画の発展の歴史の外観を把握できる。
- ・映画を中心とする映像表現の文法の基礎を理解できる。
- ・映画を時代や社会との関係から考察することができる。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

映像をはじめとしたメディア分析に関わる科目を受講していることが望ましい。

## 授業スケジュール / Schedule

| 授業日 (第N回) | テーマ / Theme                                                        | キーワード / Key Word                             |
|-----------|--------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------|
| 第1回目      | イントロダクション: 映画の歴史とは? 動く映像のはじまりから映画の誕生までの経緯と時代                       | リュミエール兄弟、シネマトグラフ、サイレント映画                     |
| 第2回目      | 映像の文法1: 「見る」ことの生理学、言語としての映画<br>鑑賞予定の作品例) 『サイコ』                     | image、デノテーションとコノテーション、コード                    |
| 第3回目      | 映像の文法2: 映画の空間と時間の統辞法 例) 『戦艦ポチョムキン』                                 | 演出 (ミザンセヌ) とモンタージュ                           |
| 第4回目      | 1920年代のフランス映画: 実験映画を中心とした総合芸術としての映画製作 例) 『アンダルシアの犬』                | シュルレアリスム、アバンギャルド、第七芸術論                       |
| 第5回目      | ドイツ表現主義: 第1次世界大戦後のドイツと映画 例) 『カリガリ博士』『メトロポリス』                       | ウーファ                                         |
| 第6回目      | プロパガンダと映画1: 第三帝国と映画利用 例) 『民族の祭典』                                   | 映画法、レニ・リーフェンシュタール                            |
| 第7回目      | プロパガンダと映画2: 第2次世界大戦とハリウッド 例) 『汝の敵を知れ』                              | combat film、教育映画                             |
| 第8回目      | プロパガンダと映画3: 日本における戦時の映画利用 例) 『戦ふ兵隊』                                | 国策映画、文化映画                                    |
| 第9回目      | イタリアのネオレアリズモ: イタリア・ファシズムと映画政策、その後 例) 『戦火のかなた』                      | レジスタンス、ロッセリーニ                                |
| 第10回目     | 日本映画の1950年代: 世界に「発見」された日本映画 例) 『羅生門』『東京物語』                         | 第二次黄金期、5社協定、小津・黒澤・溝口                         |
| 第11回目     | フランスのヌーヴェル・ヴァーグ: 1960年代前後の「カイエ・デュ・シネマ」を中心とした映画 例) 『勝手にしやが』         | 作家主義、シネマ・ベリテ派、カイエ派                           |
| 第12回目     | アメリカン・ニューシネマ: 1960年代末から70年代初頭にかけてのアメリカ社会と映画 例) 『俺たちに明日はない』『招かれざる客』 | プロダクション・コード、レイティング制                          |
| 第13回目     | 1980年代以降の中華電影: 中国・香港・台湾のそれぞれの映画 例) 『紅いコリヤン』『悲情城市』                  | 文化大革命と第五世代、香港ニュー・ウェイヴ、戒厳令解除と台湾ニュー・ウェイヴ       |
| 第14回目     | 1990年代以降のアジア映画: 韓国・イラン・インド映画の動き 例) 『八月のクリスマス』『友だちのうちはどこ?』          | 韓国の文民政策と映画産業への関与、検閲下のイラン映画製作、大衆娯楽としての国産インド映画 |
| 第15回目     | まとめ: 映画の越境性と土着性、エンターテインメント性と社会性                                    | ローカルとグローバル、国民映画                              |

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

- ・時間の関係上、講義に関連した作品をすべて見ることは難しいので、できる限り講義で取り上げた作品を各自で見しておくこと。

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

| 種別 / Kind                                                                                                                                           | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc. |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------|-------------------------------|
| レポート                                                                                                                                                | 70 %            | 期末レポート (5000字)                |
| 日常点                                                                                                                                                 | 30 %            | 授業中に数回の受講エッセイを課す              |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・受講エッセイが半分以上提出されていない者は、期末レポートの提出の資格がないものとする。</li> <li>・単なる映画の感想を述べたような期末レポートは、評価の対象とならないので注意すること。</li> </ul> |                 |                               |

・受講者の人数等によって、以上のことに変更が生じることがあるが、その場合はなるべくすみやかに授業中に知らせる。

#### 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

- ・随時具体的な作品を示しつつ授業を進めるが、映画が見られるという安易な考えで受講しても楽しいばかりの作品ではないので、十分に検討した後で登録することを勧める。
- ・遅刻には厳しく対処する。特に、他の受講生への迷惑もあり、30分を超えた遅刻の場合、入室は遠慮してほしい。
- ・授業開始から30分後、レジュメ等の配布を一切しないので注意すること。

#### 教科書 / Textbooks

教科書は、特に指定しない。授業中にレジュメや資料を配付する。

#### 参考書 / Reference Books

| 書名 / Title                 | 出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment |
|----------------------------|----------------------------------------------------------|
| 『映画の教科書』                   | ジェームズ・モナコ／フィルムアート社／4845983486／映像の文法や映画の記号的性質について、参考になる。  |
| 『映画映像史』                    | 出口丈人／小学館／4093874859／映像映画の歴史を概観するのに役立つ。                   |
| 『ワールド・シネマ・ヒストリー』           | アンドレア・グローネマイヤー／昇洋書房／4771015244／『映画映像史』とともに参考にすることを推奨する。  |
| 『映画技法のリテラシー (1) 映像の法則』     | ルイス・ジアネッティ／フィルムアート社／4845903547／(1)と(2)合わせて読むと、より参考になる。   |
| 『映画技法のリテラシー (2) 物語とクリティック』 | ルイス・ジアネッティ／フィルムアート社／4845904659／(1)と(2)合わせて読むと、より参考になる。   |
| 『アメリカ映画に現れた「日本」イメージの変遷』    | 増田幸子／大阪大学出版会／4872591771／第2次大戦とハリウッドについての部分を参考にしてほしい。     |

その他のものについては、随時授業中に紹介する。

#### 参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

Internet Movie Database(IMDb) <http://www.imdb.com/>

#### その他 / Others

## 映像プロデュース論 S

20116

担当者名 / Instructor 神谷 雅子

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Description

「映像」をプロデュースすることについての基礎的な知識の習得と、映像とは、プロデューサーとは、について理解を深める。現場のプロデューサーによる実践的な講義も予定。

## 到達目標 / Focus and Goal

映像プロデュースの仕組みの基本的な理解

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enrolle in, but not required to

## 授業スケジュール / Schedule

| 授業日 (第N回) | テーマ / Theme          | キーワード / Key Word |
|-----------|----------------------|------------------|
| 第1回       | 今回の授業で扱う映像についての定義の確認 | 映像               |
| 第2回       | 映像産業について①            | 映画               |
| 第3回       | 映像産業について②            | ビデオ              |
| 第4回       | 放送産業について①            | テレビ番組            |
| 第5回       | 放送産業について②            | CM               |
| 第6回       | プロデューサーの仕事①          | プロデューサー          |
| 第7回       | プロデューサーの仕事②          |                  |
| 第8回       | マネージメント概論①           | 戦略、組織マネージメント     |
| 第9回       | マネージメント概論②           | マーケティング          |
| 第10回      | ケーススタディ①             | 作品鑑賞             |
| 第11回      | ケーススタディ②             | 作品分析             |
| 第12回      | ケーススタディ③             | 作品展開             |
| 第13回      | 日本映画の海外戦略①           | 国際映画祭            |
| 第14回      | 日本映画の海外戦略②           | 合作               |
| 第15回      | 定期試験                 |                  |

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

あらゆるジャンルの映画、映像作品を、とにかくたくさん見ること。

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

| 種別 / Kind | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc.                          |
|-----------|-----------------|--------------------------------------------------------|
| 定期試験      | 80 %            | 試験問題は2問。最終授業日に試験問題の内容を明確にするので、答案で、授業の理解度を測る。           |
| 日常点       | 20 %            | 毎回の授業後に、コミュニケーションペーパーを配布し、質問や感想を書いてもらうので、その内容を、日常点とする。 |

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

## 教科書 / Textbooks

## 参考書 / Reference Books

- 「映画プロデューサーが面白い」(キネマ旬報編 同社 98年)  
「映画プロデューサー求む」(掛尾良夫 キネマ旬報社 03年)  
「ハリウッド巨大メディアの世界戦略」(滝山晋 日本経済新聞社 00年) ほか。

## 参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

## その他 / Others

## 映像文化論 S

13097

担当者名 / Instructor 久津内 一雄

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Description

## 映像文化論のテーマ

- ◆ 誕生から百年強の歴史を持つ映画 (=シネマ・アート) の本質とは一体何だろう? 従って、それを研究の対象とする映画論の根本的テーマとは何だろう?
- ◆ 映画が持っているエンターテインメント性とアート性とは原理的に二律背反的なものか?
- ◆ 映画を通時的に見ると、映画の共時態は別の共時態にドラスティックに変化していく。それは映画という文化現象が持つ「越境性」と「変換性」という属性と深く連関している。地球規模で眺めると、映画には大規模な構造的変化を引き起こす時期がある。この時期、映画の作家性が映画論の中心的テーマとなる。では、何故、こういう時期には、とりわけ映画の作家性という点を基軸に映画論が展開されるのか?
- ◆ 世界の映画史において、黄金期や変革期や復興期と呼ばれている時代には、実に多くの観客が映画館に足を運んだ。では、観客は何を求めて映画館に足を運んだのか?
- ◆ 映画は、誕生からわずか60年でそのピークを迎え、その後一気に凋落することを余儀なくされるわけだが、映画に未来があるとすればどんな未来がありうるか?

以上のようなテーマを中心に、映像文化のありようについて理解を深める。

## 到達目標 / Focus and Goal

- ① 世界の映画史の把握
- ② 現在の世界の映画状況の把握
- ③ 理論的把握 (文化論的・記号論的把握)

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enrolle in, but not required to

別になし

## 授業スケジュール / Schedule

| 授業日 (第N回) | テーマ / Theme         | キーワード / Key Word |
|-----------|---------------------|------------------|
| 第1回～第3回   | 映像芸術論の観点            |                  |
| 第4回       | モンタージュ論の観点          |                  |
| 第5回       | 作家主義論の観点            |                  |
| 第6回       | ショット論の観点            |                  |
| 第7回       | アメリカ映画黄金期           |                  |
| 第8回       | 日本映画黄金期             |                  |
| 第9回       | フランスヌーヴェル・ヴァーグ      |                  |
| 第10回～第11回 | 80年代から現在までの映画史      |                  |
| 第12回～第13回 | まとめ→ 映画史の構造論的・通時的把握 |                  |
| 第14 回     | 定期試験                |                  |

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

| 種別 / Kind         | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc. |
|-------------------|-----------------|-------------------------------|
| 定期試験              | 100 %           |                               |
| 定期試験として実施。論述問題1問。 |                 |                               |

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

## 教科書 / Textbooks

講義時レジュメ配布。

## 参考書 / Reference Books

- 参考文献一覧(総論部分のみ紹介)
- ☆映画論講座1～4 山田和夫監修 合同出版 1977年
- ☆映画芸術への招待 杉山平一 講談社 1987年
- ☆映像のポエジア アンドレイ・タルコフスキー キネマ旬報社 1988年
- ☆映画理論集成 岩本憲児編 フィルムアート社 1987年
- ☆映画の教科書 ジェイムズ・モナコ フィルムアート社 1989年
- ☆モンタージュ探究 谷川義雄 風濤社 1985年
- ☆映画の言語 ロッド・ホイトカー 法政大学出版局 1983年
- ☆映画と現実 ロイ・アーメス 法政大学出版局 1985年

- ☆映画の記号論 Yu.M. ロトマン 平凡社 1987年
- ☆映像学原論 植条則夫編 ミネルヴァ書房 1990年
- ☆映画 エドガール・モラン 法政大学出版局 1983年
- ☆映画における記号と意味 ピーター・ウォーレン フィルムアート社 1986年
- ☆映画芸術の社会学 G.A.ヒュアコ 有斐閣 1987年
- ☆季刊リュミエール6 (グリフィス特集) 筑摩書房 1986年

参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

その他 / Others



## 映像メディア分析 S S メディア・リテラシー論II S S メディア・リテラシー論II G

15115

担当者名 / Instructor 石田 美紀

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Description

映画を中心とする映像メディアの分析をとおしてメディア・リテラシーについて、理論研究と歴史的研究の両面から学ぶ。とくに本科目では、物語映画と観客の関係に焦点をあてる。観客はどのように映画作品から意味を汲み取るのか、観客はただひたすら受け身の状態で映画を消費するのだろうか。この二点を念頭におき、映画を社会・政治・経済・文化の文脈で分析する方法を学ぶ。また、メディア・リテラシーの目指すところが、「正しい」読みに収束するだけのものではないことも視野にいれ、個々の観客による文化実践としての批評・創作をも含めたオルタナティブ・メディアの可能性を考える。

## 到達目標 / Focus and Goal

- ・20世紀最大のメディアであり、現行の映像文化の礎となった映画を取り巻く問題を、映像メディアを分析する基本的知識として修得する。
- ・あるメディアを消費するだけでなく、メディアを成立させる社会・政治・経済・文化的背景を複合的に理解できるようになる。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enrolle in, but not required to

とくになし

## 授業スケジュール / Schedule

| 授業日 (第N回) | テーマ / Theme                              | キーワード / Key Word                     |
|-----------|------------------------------------------|--------------------------------------|
| 第1週       | 総括的導入講義                                  |                                      |
| 第2週       | Introduction／「映像を読む」とはなにか／意味と感性と社会       | キーワード:メディア、社会学、美学、表象                 |
| 第3週       | 複製技術が与えた人間に与えたもの 写真と映画                   | キーワード:19世紀、光学装置、ヴァルター・ベンヤミン          |
| 第4週       | 映画における「現実」と物語 (1)／リュミエールとメリエス            | キーワード:初期映画                           |
| 第5週       | 映画における「現実」と物語 (2)／物語と編集、G・W・グリフィス        | キーワード:物語、叙述、編集、古典映画                  |
| 第6週       | 映画における「現実」と物語 (3)／ハリウッドと映画産業             | キーワード:テオドル・アドルノ、経済システム、ヘイズ・コード       |
| 第7週       | 映画におけるイデオロギー (1)／ソヴィエト・モンタージュ派           | キーワード:アトラクション、社会主義イデオロギー             |
| 第8週       | 映画におけるイデオロギー (2)／ナチス・ドイツとリーフェンシュタール      | キーワード:レニ・リーフェンシュタール、美、差別             |
| 第9週       | 映画におけるイデオロギー (3)／日本の植民地映画                | キーワード:李香蘭、自壊するイデオロギー                 |
| 第10週      | 映画におけるオルタナティブ表現 (1)／小津安二郎                | キーワード:話法の読み替え、とんでん                   |
| 第11週      | 映画におけるオルタナティブ表現 (2)／1960年代の映画            | キーワード:フランス・ヌーヴェル・ヴァーグ、松竹ヌーベル・バーグ、ATG |
| 第12週      | 映画と観客 映画を観る行為を分析すること (1)／精神的映画理論         | キーワード:装置、西欧近代                        |
| 第13週      | 映画と観客 映画を観る行為を分析すること (2)／フェミニスト映画理論とその実践 | キーワード:視線、声、マルグリット・デュラス               |
| 第14週      | 映画の誤読 日本におけるルキーノ・ヴィスコンティ受容               | キーワード:三島由紀夫、アングラ、サブカルチャー、少女マンガ       |

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

とくになし

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

| 種別 / Kind | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc. |
|-----------|-----------------|-------------------------------|
| 定期試験      | 100 %           |                               |

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

自分の言葉で映像経験を語ることができるよう、積極的に映像と対峙してもらいたい。

## 教科書 / Textbooks

とくになし

## 参考書 / Reference Books

授業中に適宜指示する

## 参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

授業中に適宜指示する

その他 / Others

## 演劇論 S S 演劇・演出論 I S

12990

担当者名 / Instructor 池内 靖子

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Description

演劇というメディアは、劇場、舞台空間のデザイン、衣装、メイク、照明、演出、演技、台本といった多様な要素を含む、ライブの総合芸術である。講義では、演劇の魅力について、学際的な知の枠組み、演劇的なパラダイムから、近代演劇の誕生とともに、60年代～70年代のアンガラ小劇場運動に焦点を当て、同時に広く現代のパフォーマンス・アートを含めて考察する。俳優やパフォーマーを招待し、演劇やパフォーマンス空間、身体というテキスト、観客のまなざしなどについてワークショップを行う。京都の劇場やパフォーマンス・スペースのフィールドワークも行う。

## 到達目標 / Focus and Goal

演劇的な知、パラダイム、理論的な枠組みについて学ぶと同時に、地域や都市の演劇空間、個別の演劇・パフォーマンスの表現について調べ、考察する。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

## 授業スケジュール / Schedule

| 授業日 (第N回) | テーマ / Theme          | キーワード / Key Word           |
|-----------|----------------------|----------------------------|
| 1         | 都市・地域と劇場             | シアター・オリムピクス                |
| 2         | 近代演劇と女優の誕生           | 国民国家と演劇                    |
| 3         | 宝塚歌劇 I               | 大衆演劇、中産階級の娯楽               |
| 4         | 宝塚歌劇 II              | 男役と娘役、ジェンダー／セクシュアリティの構築    |
| 5         | 60～70年代のアンガラ小劇場運動 I  | 鈴木忠志、唐十郎、佐藤信               |
| 6         | 60～70年代のアンガラ小劇場運動 II | 寺山修司の天井桟敷                  |
| 7         | 舞踏の身体                | 土方巽、肉体の反乱                  |
| 8         | 女性パフォーマンス・アーティストの表現  | ウーマン・リブ、セクシュアリティ／ジェンダーの脱構築 |
| 9         | アート・アクティヴィズム／言説と身体   | ダム・タイプ、異性装／越境について          |
| 10        | ダンスとシアターの間           | ピナ・バウシュ、コリオグラフィ            |
| 11        | パフォーマンス・アート／言語・映像・身体 | テレサ・ハッキオン・チャのテキストの舞台化      |
| 12        | 招待アーティストの演劇とワークショップ  | オルタナティブな演劇空間と身体表現          |
| 13        | グループ・プレゼンテーション I     | 地域、都市と劇場のフィールドワーク          |
| 14        | グループ・プレゼンテーション II    | 地域、都市と劇場のフィールドワーク          |

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

個人やグループで、演劇やパフォーマンスを観に行き、劇場と地域の関係についてフィールドワークを行う。

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

| 種別 / Kind                                                                                                                                                         | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc.        |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------|--------------------------------------|
| レポート                                                                                                                                                              | 50 %            | 試験に代る最終レポートを提出すること。                  |
| 日常点                                                                                                                                                               | 50 %            | ビデオの感想を書き、グループでの議論とプレゼンテーションに参加すること。 |
| ※試験に代わるレポート50%                                                                                                                                                    |                 |                                      |
| 試験に代わるレポートとして実施。個人の課題として、自由に設定したテーマについて書き提出する(試験に変わる最終的なレポート)。                                                                                                    |                 |                                      |
| ※日常点評価50%                                                                                                                                                         |                 |                                      |
| ビデオを資料として使うので、それを見た後、感想を書いたり、適宜グループ・ディスカッションに積極的に参加する(日常点を加味する)。各グループで、劇場やパフォーマンス・スペースのフィールドワークを行う。そのフィールドワークについてグループ・プレゼンテーションを行い、プレゼンテーションのまとめ(最終レポートとは別)を提出する。 |                 |                                      |

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

演劇に関する広い興味、関心を持ち、それが私たちが生きる社会にとってどういう意味をもっているかについて考えること。劇場と地域の関係についてフィールドワークを行う。講義では、グループ・ディスカッションに積極的に参加すること。

## 教科書 / Textbooks

指定しない。授業で参考文献を提示するので、それを読むこと。

## 参考書 / Reference Books

さまざまな演劇論、演出論を参考文献として授業で紹介する。

参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

その他 / Others

## 演出論Ⅰ Ⅱ 演劇・演出論ⅡⅢ

15024

担当者名 / Instructor 三浦 基

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Description

この授業は、演劇を論じ、演劇的知性について考える講義です。

演劇とは何か？ という問いを授業の大テーマとします。

古典・近代演劇のビデオや資料を用いて、日本および世界の演劇の流れを把握します。

また具体的に、現場での演出家の仕事について触れながら、現代社会における芸術の関わりについて視野を広げることを目的とします。

## 到達目標 / Focus and Goal

各自が、積極的に演劇をはじめとする芸術に触れ、批評眼を養い、今後の人生を豊かに思考するきっかけとなることを目標とします。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

特になし

## 授業スケジュール / Schedule

| 授業日 (第N回) | テーマ / Theme | キーワード / Key Word                |
|-----------|-------------|---------------------------------|
| 第1回       | 演劇人の現在1     | 日本における演劇活動についての実情を知る (作品紹介)     |
| 第2回       | 演劇人の現在2     | 日本における演劇活動についての実情を知る (劇場文化について) |
| 第3回       | 演出家の仕事1     | 発想について (戯曲との距離)                 |
| 第4回       | 演出家の仕事2     | 発想について (絵画と写真)                  |
| 第5回       | 俳優の仕事1      | 演技について (名人芸と呼ばれるもの)             |
| 第6回       | 俳優の仕事2      | 演技について (パフォーマーという捉え方)           |
| 第7回       | スタッフの仕事1    | コンセプトについて (美術・照明と空間)            |
| 第8回       | スタッフの仕事2    | 美学について (現代美術という観点から)            |
| 第9回       | 演劇とは何か？     | 日本と世界の劇場文化 (革命の時代)              |
| 第10回      | 演劇とは何か？     | 表現することの必然と偶然                    |
| 第11回      | 演劇とは何か？     | 他ジャンルとの接点                       |
| 第12回      | 演劇とは何か？     | フィクションとノンフィクション (レポート課題発表)      |
| 第13回      | 演出とは何か？     | 歴史という意識                         |
| 第14回      | 演出とは何か？     | 現代という意識                         |
| 第15回      | (レポート作成)    |                                 |

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

三浦基演出の劇団地点の上演が京都市内で行われます。

実際の演出作品をぜひ、観劇して理解を深めてください。

地点公演

2006年6月上旬『るつぼ』原作：アーサー・ミラー

2007年2月中旬『ワーニャ伯父さん』原作：チェーホフ

詳細は、地点のホームページで更新されます。(http://www.chiten.org/)

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

| 種別 / Kind | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc. |
|-----------|-----------------|-------------------------------|
| 定期試験      | 0 %             | 特になし                          |
| レポート      | 70 %            | 学期末に課題を発表します。                 |
| 日常点       | 30 %            | 出席率を考慮します。                    |
| その他       | 0 %             | 特になし                          |

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

ビデオや資料を使用する形で演劇を考える講義です。

毎回、授業で引用するアーティストの作品や名前をできるだけ貪欲にメモして、多くの芸術に触れるようにしてください。

## 教科書 / Textbooks

特になし

## 参考書 / Reference Books

『かもめ・ワーニャ伯父さん』

著: チューホフ 訳: 神西清 新潮文庫 ISBN4-10-206502-4  
(近代演劇とは何かという問いに触れるために、資料として引用する予定)

『ベスト・オブ・ベケット2 勝負の終わり・クラブの最後のテープ』  
著: サミュエル・ベケット 訳: 安藤信也・高橋康成 白水社 ISBN4-560-03497-4  
(現代演劇とは何かという問いに触れるために、資料として引用する予定)

参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

三浦基代表の劇団地点のホームページ<http://www.chiten.org/>

その他 / Others

特になし

## エンタテインメント論 S S 現代産業論II S

15126

担当者名 / Instructor 増田 幸子

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Description

本講義では、エンタテインメント産業の一つとして映画産業を取りあげ、ハリウッド映画を中心にしたアメリカ映画と日本映画について学ぶ。主に、映画産業の発展の歴史を踏まえながら、経済的社会的側面から見た映画産業の状況と課題を整理していく。

## 到達目標 / Focus and Goal

- ・映画の製作から上映までの流通のシステムを説明できる。
- ・アメリカや日本で行われている映画製作における資金調達とリスクヘッジを説明できる。
- ・エンタテインメントとしての映画産業の特徴とその問題点について述べる事ができる。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

映画産業に関わる他の科目を受講していることが望ましい。

## 授業スケジュール / Schedule

| 授業日 (第N回) | テーマ / Theme                                 | キーワード / Key Word                    |
|-----------|---------------------------------------------|-------------------------------------|
| 第1回目      | ガイダンス、アメリカ映画産業小史1:映画の誕生と特許をめぐる動き、ハリウッドの誕生   | パテント、メジャー・スタジオ                      |
| 第2回目      | アメリカ映画産業小史2:1920年代後半から1930年代へ、第2次世界大戦とハリウッド | スター・システム、同意判決                       |
| 第3回目      | アメリカ映画産業小史3:戦後のハリウッドの不況とスタジオ・システムの崩壊、そして再興  | プロダクション・コード、ブロックバスター映画、ネオ・ハリウッド     |
| 第4回目      | アメリカの映画産業①:アメリカ映画産業の概観、映画市場の規模              | スタジオ・システム、夢の工場、メディアコングロマリット、プレイヤー   |
| 第5回目      | アメリカの映画産業②:映画製作の流れと契約                       | プロデューサー・システム、製作・配給・興行               |
| 第6回目      | アメリカの映画産業③:企画／資金調達から利益の分配までの流れ              | ウィンドウ、興行収入と配給収入、リスクヘッジ              |
| 第7回目      | アメリカの映画産業④:映画館ビジネスとデジタルエコノミーの動き             | マルチプレックス、デジウッド、シリウッド                |
| 第8回目      | 日本映画産業小史1:日本映画の誕生から第2次大戦後まで                 | 日活、松竹、東宝、映画法、東映、大映、5社体制             |
| 第9回目      | 日本映画産業小史2:1950年代の黄金期から斜陽産業へ、そして再生           | スタジオ・システム、プログラム・ピクチャー、角川映画          |
| 第10回目     | 日本の映画産業①:統計で見る日本映画、日本映画産業の概観                | 大手3社、配給収入、ブロックブッキング                 |
| 第11回目     | 日本の映画産業②:企画／資金調達から利益の分配までの流れ                | 製作委員会、映画ファンド、邦画系と洋画系、メジャー系と独立系、シネコン |
| 第12回目     | 日本の映画産業③:海外から注目される日本のアニメ                    | ジャパニメーション、ANIME、MANGA               |
| 第13回目     | 日本の映画産業④:日本映画コンテンツの海外進出                     | Jホラー、リメイク、コンテンツ                     |
| 第14回目     | 日本の映画産業⑤:日本映画の課題と今後の動き                      | 映画振興政策、知的財産、フィルム・コミッション             |
| 第15回目     | まとめ:ハリウッド・アジア・日本を視野に入れた映画産業?                | 合作映画                                |

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

- ・講義の中で触れた映画作品などは可能な限り、各自が見ておいてほしい。
- ・映画産業の現状についてはニュースでも取り上げられることがあるので、新聞などに日々意識して目を通していただくことが望ましい。

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

| 種別 / Kind                                   | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc.  |
|---------------------------------------------|-----------------|--------------------------------|
| 定期試験                                        | 100 %           | 講義で学んだことについて、選択式と記述式の両方でテストする。 |
| 日常点                                         | 20 %            | 授業中に数回の受講エッセイを課す。              |
| ・評価の際、日常点はマイナス点ではなくプラス点として加算するので、20%となっている。 |                 |                                |

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

- ・映画が見られる講義ではないので、安易に登録しても単位取得が難しいだけである。登録の際、よく検討してほしい。
- ・遅刻には厳しく対処する。特に、他の受講生への迷惑もあり、30分を超えた遅刻の場合、入室は遠慮してほしい。
- ・授業開始から30分後、レジュメ等の配布を一切しないので注意すること。

## 教科書 / Textbooks

教科書は、特に指定しない。授業中にレジュメや資料を配付する。

#### 参考書 / Reference Books

| 書名 / Title             | 出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment       |
|------------------------|----------------------------------------------------------------|
| 『ハリウッド・ビジネス』           | ミドリ・モール／文春新書／4166602101／ハリウッドのエンタテインメントロイヤーが筆者                 |
| 『ハリウッドはなぜ強いか』          | 赤木昭夫／ちくま新書／4480061363／ハリウッドの映画ビジネスの概要を知るのに役立つ                  |
| 『映像コンテンツ産業論』           | 菅谷実・中村清／丸善株式会社／4621070983／フランスなどの国の映画振興策を知るのに有効                |
| 『新版 エンタテインメントの罭』       | 福井健策編／すばる舎／4883992845／ハリウッドを中心とした映画産業の契約例などが参考になる              |
| 『踊るコンテンツ・ビジネスの未来』      | 畠山けんじ／小学館／4093875340／日本のアニメを中心としたコンテンツビジネスの概観を理解するのに有効         |
| 『最新2版 図解でわかるコンテンツビジネス』 | コンテンツビジネス研究会編／日本能率協会マネジメントセンター／4820742957／見開き1ページ単位で簡潔にまとまっている |

他は授業中に随時紹介する。

#### 参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

アメリカ映画協会 <http://www.mpa.org/>  
 (社)日本映画製作者連盟 <http://www.eiren.org/>  
 文化庁 <http://www.bunka.go.jp/>  
 経済産業省 <http://www.meti.go.jp/>

#### その他 / Others



## 外国語文献研究 SA S ドイツ語文献研究I SA

16033

担当者名 / Instructor 松葉 正文

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Description

市民社会、資本主義、国家、家族、国民、これらの用語と概念は、社会学と現代社会分析にとって最も重要なものの一部である。それらについて、示唆的な内容を含む現代ドイツの文献を紹介し検討する。

## 到達目標 / Focus and Goal

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

## 授業スケジュール / Schedule

授業日 (第N回)

テーマ / Theme

キーワード / Key Word

授業中に指示する

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind

割合 / Percentage

評価基準等 / Grading Criteria etc.

日常点

100 %

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

ドイツ語文法の基礎知識がある方が望ましい。

## 教科書 / Textbooks

Die ersten 180 Tage der neuen EU, 2004. (初級者向け)

J. Kocka, et. al., Europäische Zivilgesellschaft in Ost und West, 2000. (中・上級者向け)

受講者の希望を基に、その他の文献の可能性を含め、それらの必要部分の資料を配布する。

## 参考書 / Reference Books

## 参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

## その他 / Others

## 外国語文献研究 SB S ドイツ語文献研究II SB

16035

担当者名 / Instructor 松葉 正文

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Description

市民社会、資本主義、国家、家族、国民、これらの用語と概念は、社会学と現代社会分析にとって最も重要なものの一部である。それらについて、示唆的な内容を含む現代ドイツの文献を紹介し検討する。

## 到達目標 / Focus and Goal

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

## 授業スケジュール / Schedule

授業日 (第N回)

テーマ / Theme

キーワード / Key Word

授業中に指示する

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind

割合 / Percentage

評価基準等 / Grading Criteria etc.

日常点

100 %

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

ドイツ語文法の基礎知識がある方が望ましい。

## 教科書 / Textbooks

EU文書 Globalisierung als Chance fuer alle, 2003. (初級者向け)

Helmut Schmidt, Die Maechte der Zukunft, Muenchen 2004 (中・上級者向け)

受講者の希望を基に、その他の文献の可能性を含め、それらの必要部分の資料を配布する。

## 参考書 / Reference Books

## 参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

## その他 / Others

## 外国語文献研究 SC S フランス語文献研究I SC

16037

担当者名 / Instructor 藤田 博文

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Description

テーマ: 『ミシェル・フーコーの『自己への配慮』について (1)』

「自己」とは何か、「自由」とは何か、「欲望・快楽」をどう位置づけるべきか、そして生きるとはどういうことか。これらの問題に取り組む際、現代の知に多大な影響を与え、貢献した、フランスの哲学者かつ歴史家であるミシェル・フーコー (1926-1984) は、現代との関わりの中で古代ギリシアの哲学者ソクラテスによって提示された「自己への配慮」に光をあてた。本講義では、社会学的な観点を踏まえつつ、現代社会の重要なテーマであり、また人類の知的遺産でもあるこの「自己への配慮」について考察したフーコーのテキストを読み込んでいく。

## 到達目標 / Focus and Goal

- (1) 論理的な思考力を身につける。
- (2) 理論や実践における「倫理-政治的」観点の重要性を理解する。
- (3) フランス語の構文、文法、熟語などを理解する。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

この科目は専門科目なので、フランス語初級文法程度の知識を持っている学生が対象です。そこでフランス語の入門編を取り扱っている科目などを履修していることが望ましい。もちろん、初級文法程度の知識を持っている学生であれば、それに該当する科目を履修していなくてもよい。

## 授業スケジュール / Schedule

| 授業日 (第N回) | テーマ / Theme                                         | キーワード / Key Word                  |
|-----------|-----------------------------------------------------|-----------------------------------|
| 第1回目      | (1) 講義の目的。講義の進め方。(2) テキストについての説明。(3) 社会学の中心的主題について。 | 社会統合、個人の産出、主体、社会形成。               |
| 第2回目以降    | 基本的に輪読形式で進めていく。適宜、重要な概念についての解説や議論を行う。               | 自己への配慮、生存の技法、自由、欲望・快楽、倫理-政治的主体形成。 |

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

・毎回、予習 (翻訳と内容理解) をすること。

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

| 種別 / Kind | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc.   |
|-----------|-----------------|---------------------------------|
| 日常点       | 100 %           | (1) 翻訳の正確さとテキスト内容の理解を問う。(2) 出席。 |

・出席を含めた平常点。レポートを求める場合がある。

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

- (1) フランス語初級文法の知識をもっている学生が望ましい。
- (2) 毎回、予習を必要とする。
- (3) 辞書を頻繁に使用するので仏和辞書を必携。

## 教科書 / Textbooks

Michel Foucault, Histoire de la sexualité 2 : L'usage des plaisirs, Gallimard, 1984と、Michel Foucault, L'HERMENEUTIQUE DU SUJET : Cours au College de France, Seuil/Gallimard, 2001を使用する予定であるが、変更する場合がある。複数のテキストを使用する予定。なお、テキストはコピーして講義で配布する。

## 参考書 / Reference Books

- フーコーに関するテキストは数え切れないほど存在するが、入門書として以下に記すテキストを読んでおくことをすすめる。
- (1) 中山元『フーコー入門』ちくま新書、1996年。
  - (2) 桜井哲夫『フーコー—知と権力』講談社、1996年／『知の教科書 フーコー』講談社選書メチエ、2001年。
  - (3) フレデリック・グロ (露崎俊和訳) 『ミシェル・フーコー』白水社 (文庫クセジュ)、1998年。
  - (4) ミシェル・フーコーほか (田村俣・雲和子訳) 『自己のテクノロジー—フーコー・セミナーの記録』岩波現代文庫、2004年。

## 参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

## その他 / Others

## 外国語文献研究 SD S フランス語文献研究II SD

16039

担当者名 / Instructor 藤田 博文

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Description

テーマ: 『ミシェル・フーコーの『自己への配慮』について (2)』

前期の講義 (『外国語文献研究SC』あるいは『フランス語文献研究 I SC』) の成果を踏まえて、さらに展開していく。

「自己」とは何か、「自由」とは何か、「欲望・快楽」をどう位置づけるべきか、そして生きるとはどういうことか。これらの問題に取り組む際、現代の知に多大な影響を与え、貢献した、フランスの哲学者かつ歴史家であるミシェル・フーコー (1926-1984) は、現代との関わりの中で古代ギリシアの哲学者ソクラテスによって提示された「自己への配慮」に光をあてた。本講義では、社会学的な観点を踏まえつつ、現代社会の重要なテーマであり、また人類の知的遺産でもあるこの「自己への配慮」について考察したフーコーのテキストを読み込んでいく。

## 到達目標 / Focus and Goal

- (1) 論理的な思考力を身につける。
- (2) 理論や実践における「倫理-政治的」観点の重要性を理解する。
- (3) フランス語の構文、文法、熟語などを理解する。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

- (1) この科目は専門科目なので、フランス語初級文法程度の知識を持っている学生が対象です。そこでフランス語の入門編を取り扱っている科目などを履修していることが望ましい。もちろん、初級文法程度の知識を持っている学生であれば、それに該当する科目を履修していなくてもよい。
- (2) 前期の講義 (外国語文献研究SCあるいはフランス語文献研究 I SC) を履修していることが望ましい。

## 授業スケジュール / Schedule

| 授業日 (第N回) | テーマ / Theme                                    | キーワード / Key Word                         |
|-----------|------------------------------------------------|------------------------------------------|
| 第1回目      | (1) 講義の目的、講義の進め方。(2) テキストについての説明。(3) 前期講義のまとめ。 | 自己への配慮、汝自身を知れ、自己の実践。                     |
| 第2回目以降    | 基本的に輪読形式で進めていく。適宜、重要な概念についての解説や議論を行う。          | 自己への配慮、自己自身を作りかえること、自由、欲望・快楽、倫理-政治的主体形成。 |

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

・毎回、予習 (翻訳と内容理解) をすること。

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

| 種別 / Kind | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc.   |
|-----------|-----------------|---------------------------------|
| 日常点       | 100 %           | (1) 翻訳の正確さとテキスト内容の理解を問う。(2) 出席。 |

・出席を含めた平常点。レポートを求める場合がある。

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

- (1) フランス語初級文法の知識をもっている学生が望ましい。
- (2) 毎回、予習を必要とする。
- (3) 辞書を頻繁に使用するので仏和辞書を必携。

## 教科書 / Textbooks

Michel Foucault, Histoire de la sexualité 2 : L'usage des plaisirs, Gallimard, 1984と、Michel Foucault, L'HERMENEUTIQUE DU SUJET : Cours au College de France, Seuil/Gallimard, 2001を使用する予定であるが、変更する場合がある。複数のテキストを使用する予定。なお、テキストはコピーして講義で配布する。

## 参考書 / Reference Books

フーコーに関するテキストは数え切れないほど存在するが、入門書として以下に記すテキストを読んでおくことをすすめる。

- (1) 中山元『フーコー入門』ちくま新書、1996年。
- (2) 桜井哲夫『フーコー—知と権力』講談社、1996年／『知の教科書 フーコー』講談社選書メチエ、2001年。
- (3) フレデリック・グロ (露崎俊和訳) 『ミシェル・フーコー』白水社 (文庫クセジュ)、1998年。
- (4) ミシェル・フーコーほか (田村徹・雲和子訳) 『自己のテクノロジー—フーコー・セミナーの記録』岩波現代文庫、2004年。

## 参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

## その他 / Others

## 外国語文献研究 SE S 中国語文献研究I SE

16041

担当者名 / Instructor 甘 琳樺

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Description

中国は現在目まぐるしい変化を遂げつつあります。そんな日進月歩の社会の表層を追いかけることを中国語学習の目的と考えているわけではありませんが、本テキストはたまたま中国の最新情報が紹介されています。当世学生気質から、日常生活に対する感覚まで内容は雑然と多方面にわたっており、これらを読むことで現代中国の実態の一端が窺えることでしょう。また、使われている文体も平易で日常的なものです。全体で10課ですから、前期後期とも3回で1課という進度で進めていきます。具体的には、読みと日本語訳をし(1週目)、ポイントと練習問題(2週目)、テーマを調査発表する(3週目)ことから授業が成り立っています。学生は好きなテーマを選択し、グループに分れて、協力しながら各課のテーマをこなすことになります。

## 到達目標 / Focus and Goal

中国語検定2級、3級レベルの実力を身につけることを目指します。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enrolle in, but not required to

中国語学習歴のある学生の参加を望んでいます。

## 授業スケジュール / Schedule

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

事前に予習をしていくこと。

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

| 種別 / Kind | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc. |
|-----------|-----------------|-------------------------------|
| レポート      | 40 %            |                               |
| 日常点       | 60 %            |                               |

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

## 教科書 / Textbooks

| 書名 / Title | 出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment |
|------------|----------------------------------------------------------|
| 『中国は今』     | 孟 広学・本間 史／白水社／／                                          |

## 参考書 / Reference Books

中日辞書を持参すること。

## 参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

## その他 / Others

## 外国語文献研究 SF S 中国語文献研究II SF

16043

担当者名 / Instructor 甘 琳樺

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Description

中国は現在目まぐるしい変化を遂げつつあります。そんな日進月歩の社会の表層を追いかけることを中国語学習の目的と考えているわけではありませんが、本テキストはたまたま中国の最新情報が紹介されています。当世学生気質から、日常生活に対する感覚まで内容は雑然と多方面にわたっており、これらを読むことで現代中国の実態の一端が窺えることでしょう。また、使われている文体も平易で日常的なものです。全体で10課ですから、前期後期とも3回で1課という進度で進めていきます。具体的には、読みと日本語訳をし(1週目)、ポイントと練習問題(2週目)、テーマを調査発表する(3週目)ことから授業が成り立っています。学生は好きなテーマを選択し、グループに分れて、協力しながら各課のテーマをこなすことになります。

## 到達目標 / Focus and Goal

中国語検定2級、3級レベルの実力を身につけることを目指します。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

中国語学習歴のある学生の参加を望んでいます。

## 授業スケジュール / Schedule

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

事前に予習をしてくること。

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

| 種別 / Kind | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc. |
|-----------|-----------------|-------------------------------|
| レポート      | 40 %            |                               |
| 日常点       | 60 %            |                               |

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

## 教科書 / Textbooks

| 書名 / Title | 出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment |
|------------|----------------------------------------------------------|
| 『中国は今』     | 孟 広学・本間 史／白水社／／                                          |

## 参考書 / Reference Books

中日辞書を持参すること。

## 参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

## その他 / Others

## 外国語文献研究 SG S 英語文献研究I SG

16045

担当者名 / Instructor 吉田 幸治

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Description

本講義では、社会学を学ぶ上での入門書的なテキストであるRandall CollinsのSociological Insight (『社会学的洞察力』)を講読し、近代社会における合理性の問題や、社会の秩序形成と宗教の関係といった社会の基本的なあり方を把握する上で重要となるトピックについて、考察を行う。そしてそれらの考察を通して、社会学を学ぶ際に必要な基礎的知識や発想について理解を深めることを目的としている。また本講義では、その第1章と第2章を受講者全員で輪読することにより、テキスト内で議論されている内容を正確に訳出できる技量の獲得を目指しながら、そこで知りえた知見をもとに活発な議論を行いたいと考えている。なおテキスト中で言及されている、ウェーバーやデュルケム等の社会学に関する重要な基礎概念については、講義中で適宜解説を行う。

## 到達目標 / Focus and Goal

テキスト本文において論じられている内容の正確な訳出と、社会学的基础知識の理解。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enrolle in, but not required to

## 授業スケジュール / Schedule

| 授業日 (第N回) | テーマ / Theme | キーワード / Key Word                                                                                                          |
|-----------|-------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|           | オリエンテーション   | 第一回授業時において、次回の翻訳担当者を決定。以下、毎回翻訳担当者を決め、受講者全員によるテキストの読み合わせを進めながら、適宜内容の解説や議論を行う。ただし受講者の人数やテキスト講読の進捗等により、読み合わせの方法については変更もありうる。 |
|           | 輪読          |                                                                                                                           |
|           | 輪読          |                                                                                                                           |
|           | 輪読          |                                                                                                                           |
|           | 輪読          |                                                                                                                           |
|           | 輪読          |                                                                                                                           |
|           | 輪読          |                                                                                                                           |
|           | 輪読          |                                                                                                                           |
|           | 輪読          |                                                                                                                           |
|           | 輪読          |                                                                                                                           |
|           | 輪読          |                                                                                                                           |
|           | 輪読          |                                                                                                                           |
|           | 輪読          |                                                                                                                           |
|           | 輪読          |                                                                                                                           |
|           | 輪読          |                                                                                                                           |
|           | 輪読、講義総括     | 読み進めてきたテキストの内容について、総括を行う。                                                                                                 |

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

事前に社会学史に関する簡単な概説書 (入門書程度でよい) を講読しておくことが望ましい。

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

| 種別 / Kind | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc.          |
|-----------|-----------------|----------------------------------------|
| 日常点       | 100 %           | 出席状況、担当箇所の翻訳、講義期間中に実施する小レポートによって評価を行う。 |

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

受講生によるテキストの翻訳を中心に講義を進めるが、その進め方については、第一回講義時に受講生と協議を行う。原則的には輪読形式で行うことを予定している。なお、受講にあたっての最低限のルールとして、自分の翻訳担当箇所だけでなく、他の担当者分の箇所も必ず読んでくることが求められる。

## 教科書 / Textbooks

| 書名 / Title                                                                                                                                 | 出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------|
| Sociological Insight                                                                                                                       | Randall Collins / Oxford University Press //             |
| 上記テキストのうち、Chapter1.The Nonrational Foundations of Rationality、及びChapter2.The Sociology of Godを講読する予定である。なお使用する部分は講義で配布するので、テキストを購入する必要はない。 |                                                          |

## 参考書 / Reference Books

| 書名 / Title | 出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment |
|------------|----------------------------------------------------------|
| 社会学のあゆみ    | 新睦人 他著 / 有斐閣 (有斐閣新書) / 4641088578 /                      |

|                             |                                    |
|-----------------------------|------------------------------------|
| 現代社会学講義                     | 佐藤慶幸 著／有斐閣 (有斐閣ブックス) ／4641086281 ／ |
| ウェーバー プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神 | 安藤英治 編／有斐閣 (有斐閣新書) ／4641087369 ／   |
| 社会学への招待                     | P.L.バーガー著 水野節夫他訳／新思索社／4783511780 ／ |

参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

その他 / Others



## 外国語文献研究 SH S 英語文献研究II SH

16047

担当者名 / Instructor 吉田 幸治

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Description

本講義では、社会学を学ぶ上での入門書的なテキストであるPeter.L.BergerのInvitation to Sociology (『社会学への招待』) をとり上げ、その内容的な中心部分である第4章「社会の中の人間」、第5章「人間の中の社会」、第6章「ドラマとしての社会」を講読する。このテキストでは、社会の中で生活する個人がどのように社会に拘束されているのか(第4章)、あるいはさらに、個人の内面においてそのような拘束がいかに浸透しているのか(第5章)について、「社会統制」「社会化」といった社会学的概念を用いて論述されている。またその上で、社会によるそうした拘束にも関わらず、人間が社会に対して持ちうる「自由」の可能性が論じられている(第6章)。本講義では、テキスト内で議論されているこれらの内容を正確に訳出できる技量の獲得を目指しながら、社会学を学ぶ上での基礎的な発想について理解を深めることを目的とする。なおテキスト中で言及されている、社会学上の重要な基礎概念については、講義中で適宜解説を行っていく。

## 到達目標 / Focus and Goal

テキスト本文において論じられている内容の正確な訳出と、社会学的基礎知識の理解。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

## 授業スケジュール / Schedule

| 授業日(第N回) | テーマ / Theme | キーワード / Key Word                                                                                                          |
|----------|-------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|          | オリエンテーション   | 第一回授業時において、次回の翻訳担当者を決定。以下、毎回翻訳担当者を決め、受講者全員によるテキストの読み合わせを進めながら、適宜内容の解説や議論を行う。ただし受講者の人数やテキスト講読の進捗等により、読み合わせの方法については変更もありうる。 |
|          | 輪読          |                                                                                                                           |
|          | 輪読          |                                                                                                                           |
|          | 輪読          |                                                                                                                           |
|          | 輪読          |                                                                                                                           |
|          | 輪読          |                                                                                                                           |
|          | 輪読          |                                                                                                                           |
|          | 輪読          |                                                                                                                           |
|          | 輪読          |                                                                                                                           |
|          | 輪読          |                                                                                                                           |
|          | 輪読          |                                                                                                                           |
|          | 輪読          |                                                                                                                           |
|          | 輪読          |                                                                                                                           |
|          | 輪読          |                                                                                                                           |
|          | 輪読、講義総括     | 読み進めてきたテキストの内容について、総括を行う。                                                                                                 |

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

事前に社会学史・社会学理論に関する簡単な概説書(入門書程度でよい)を講読しておくことが望ましい。

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

| 種別 / Kind | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc.          |
|-----------|-----------------|----------------------------------------|
| 日常点       | 100 %           | 出席状況、担当箇所の翻訳、講義期間中に実施する小レポートによって評価を行う。 |

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

受講生によるテキストの翻訳を中心に講義を進めるが、その進め方については、第一回講義時に受講生と協議を行う。原則的には輪読形式で行うことを予定している。なお、受講にあたっての最低限のルールとして、自分の翻訳担当箇所だけでなく、他の担当者分の箇所も必ず読んでくることが求められる。

## 教科書 / Textbooks

| 書名 / Title              | 出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment |
|-------------------------|----------------------------------------------------------|
| Invitation to Sociology | Peter.L.Berger / Doubleday //                            |

上記テキストのうち、Chapter4~Chapter6を講読する予定である。なお使用する部分は講義で配布するので、テキストを購入する必要はない。

## 参考書 / Reference Books

| 書名 / Title         | 出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment |
|--------------------|----------------------------------------------------------|
| リフレクションー社会学的な感受性へー | 野村一夫 著 / 文化書房博文社 / 4830106964 //                         |

|                   |                                   |
|-------------------|-----------------------------------|
| 現代社会学講義           | 佐藤慶幸 著／有斐閣(有斐閣ブックス)／4641086281／   |
| 社会学のあゆみ           | 新睦人 他著／有斐閣(有斐閣新書)／4641088578／     |
| 脱常識の社会学－社会の読み方入門－ | ランドル・コリンズ著 井上俊他訳／岩波書店／4000012754／ |

参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

その他 / Others

## 外国語文献研究 SI

16098

担当者名 / Instructor 市井 吉興

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Description

バウマン(Zygmunt Bauman)の著作、Liquid Modernity (Polity Press, 2000)を用いて、近年の社会問題(格差社会、下流社会、個人化、労働etc)の背景を検討する。

## 到達目標 / Focus and Goal

本講義のねらいは、テキストの「美しい翻訳」を目指すのではなく、文意を読みとり、テクニカルターム(専門用語)の理解をふまえたうえでの現状分析を試みることにある。それゆえに、講義では講読以外に、映像教材を用いたり、ディスカッションを試みたい。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enrolle in, but not required to

特になし。強いといえば社会学史、社会学理論を扱った講義を受講している、受講したことが望ましい。

## 授業スケジュール / Schedule

| 授業日(第N回) | テーマ / Theme                          | キーワード / Key Word            |
|----------|--------------------------------------|-----------------------------|
| 第1回      | ガイダンス                                | 講義の進め方                      |
| 第2回      | Foreword: On Being Light and Liquid① | バウマン、ギデンズ、ベック               |
| 第3回      | Foreword: On Being Light and Liquid② | モダン、ポストモダン                  |
| 第4回      | Emancipation①                        | 批判理論                        |
| 第5回      | Emancipation②                        | 批判理論                        |
| 第6回      | Emancipation③                        | 批判理論                        |
| 第7回      | Individuality①                       | フォーディズム、ポスト・フォーディズム、マクドナルド化 |
| 第8回      | Individuality②                       | フォーディズム、ポスト・フォーディズム、マクドナルド化 |
| 第9回      | Individuality③                       | フォーディズム、ポスト・フォーディズム、マクドナルド化 |
| 第10回     | Individuality④                       | フォーディズム、ポスト・フォーディズム、マクドナルド化 |
| 第11回     | Work①                                | 社会統合、福祉国家、構造改革、第三の道         |
| 第12回     | Work②                                | 社会統合、福祉国家、構造改革、第三の道         |
| 第13回     | Work③                                | 社会統合、福祉国家、構造改革、第三の道         |
| 第14回     | Work④                                | 社会統合、福祉国家、構造改革、第三の道         |
| 第15回     | まとめ                                  | 共感(sympathy)                |

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

新聞、雑誌、テレビ等で最近の時事問題に触れておくこと。

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

| 種別 / Kind | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc.                                                          |
|-----------|-----------------|----------------------------------------------------------------------------------------|
| 日常点       | 100 %           | 15回の講義のうち、3分の2以上の出席(つまり10回以上)がないと評価の対象にならない。ただし、就職活動、課外活動(部活、サークル等)による欠席は事前に申請すれば考慮する。 |

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

上述したが、新聞、雑誌、テレビ等で最近の時事問題に触れておくこと。

## 教科書 / Textbooks

Liquid Modernity, Zygmunt Bauman, Polity Press, 2000

※テキストを購入する必要はない。講読する部分は、コピーを講義で配布する。

## 参考書 / Reference Books

講義ごとに紹介する。

## 参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

特になし。

## その他 / Others

## 外国語文献研究 SJ

16099

担当者名 / Instructor 西田 心平

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Description

David E. Harris, "50 Key Concepts in Leisure Studies", 2005 を講読する。

一般的に考えて1日の生活のうち最も長い時間が費やされているのは「労働」(＝働くこと)である。だから社会科学においては、私たちの生活の循環を理解しようとする際、まず「労働」の問題から議論を始めることが多い。本講義はそうではなく、生活様式という点で見れば「消費生活」から、生活時間という点で見れば、「余暇時間(自由時間)」の側から考察する。そのための作業として、主だったキーワードを翻訳しながら視点を共有していきたい。

## 到達目標 / Focus and Goal

- ・余暇研究の最新のキーワードを英語の論理的な文章を通じて理解できる。
- ・キーワードを踏まえ日本社会の現実について自分なりに考察できる。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enrolle in, but not required to

特にない。

## 授業スケジュール / Schedule

| 授業日(第N回) | テーマ / Theme                      | キーワード / Key Word |
|----------|----------------------------------|------------------|
| 第1回      | 概要の説明、テキストの紹介                    |                  |
| 第2～3回    | Cultural Capitalの翻訳              |                  |
| 第4～5回    | Disneyficationの翻訳                |                  |
| 第6～7回    | Education as Leisureの翻訳          |                  |
| 第8～9回    | Ethnographyの翻訳                   |                  |
| 第10～11回  | Functionalismの翻訳                 |                  |
| 第12～13回  | Genderの翻訳                        |                  |
| 第14～15回  | Work-leisure Relationshipの翻訳とまとめ |                  |

 (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment  
 (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

翻訳作業そのものが目的ではない。内容理解の共有と議論が重要となる。何より十分な予習が前提である。

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

| 種別 / Kind | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc. |
|-----------|-----------------|-------------------------------|
| 日常点       | 100 %           | 翻訳作業、出席、発言、議論等から総合的に評価する。     |

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

扱うテキストは基本的にキーワード集である。1つ1つのキーワードに含まれる意味を十分に理解し、その上で自分の消費生活全体を振り返ってみることが大切である。そこから湧き上がってきた疑問を交流させることで、講義内での議論は一層充実したものとなる。そんな意気込みで翻訳作業にのぞみたい。なおスケジュールは進度に応じて若干の変動もあり得る。

## 教科書 / Textbooks

“50 Key Concepts in Leisure Studies (Key Concepts S.)”, David E. Harris, SAGE Publications.  
 購入する必要はない。必要箇所のコピーを配布する。

## 参考書 / Reference Books

| 書名 / Title                      | 出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment |
|---------------------------------|----------------------------------------------------------|
| 『余暇文明へ向かって』1962年                | J・デュマズディエ、中島厳訳／東京創元社／／                                   |
| 『民衆娯楽論』(余暇・娯楽研究基礎文献集第10巻) 1989年 | 権田保之助／大空社／／                                              |

## 参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

適宜講義の中で紹介する。

## その他 / Others

## 外国語文献研究 SK

16100

担当者名 / Instructor 高橋 裕子

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Description

R. コリンズの著書 (Sociological Insight) を読み解きながら、「なぜ人びとは道徳的感情をもつのか」、「なぜ神は社会の象徴なのか」といった社会学的理解を獲得していただきたい。そのような社会学的理解の中にこそじつところ「性愛的所有とはいかなるものか」という問いへの答えが秘められているのだが、詳しくは講義の中で解説していくことにする。本講義におけるテーマは、宗教、道徳・性愛である。

なお本講義では英文の一句一句を翻訳することではなく、コリンズ著 Sociological Insight の内容の理解に力点を置くので、予習のみではなく、関連文献に当たることが必要である。(予習箇所を指定し、各自、担当箇所の文献理解を授業内で発表してもらう。)

## 到達目標 / Focus and Goal

コリンズ著 Sociological Insight で示された視座をベースにレポートを作成する。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enrolle in, but not required to

「社会学概論」など社会学の基礎科目

## 授業スケジュール / Schedule

| 授業日 (第N回) | テーマ / Theme                  | キーワード / Key Word |
|-----------|------------------------------|------------------|
| 第1回       | 総括的導入講義                      |                  |
| 第2回       | 授業の進め方・分担当箇所の割り当てなどイントロダクション |                  |
| 第3回       | 文献講読・発表・解説                   |                  |
| 第4回       | 文献講読・発表・解説                   |                  |
| 第5回       | 文献講読・発表・解説                   |                  |
| 第6回       | 文献講読・発表・解説                   |                  |
| 第7回       | 文献講読・発表・解説                   |                  |
| 第8回       | 文献講読・発表・解説                   |                  |
| 第9回       | 文献講読・発表・解説                   |                  |
| 第10回      | レポート指導                       |                  |
| 第11回      | 文献講読・発表・解説                   |                  |
| 第12回      | 文献講読・発表・解説                   |                  |
| 第13回      | 文献講読・発表・解説                   |                  |
| 第14回      | 文献講読・発表・解説                   |                  |
| 第15回      | まとめ                          |                  |

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment  
 (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

| 種別 / Kind | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc. |
|-----------|-----------------|-------------------------------|
| レポート      | 50 %            |                               |
| 日常点       | 50 %            |                               |

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

## 教科書 / Textbooks

原著のコピーは適宜配布します。  
 学生は、ランドル・コリンズ著『脱常識の社会学—社会の読み方入門』岩波書店 (ISBN4-00-001275-4)、それから手持ちの英和辞書をもって講義に来てください。

## 参考書 / Reference Books

## 参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

## その他 / Others

## カウンセリング論 S

13020

担当者名 / Instructor 高垣 忠一郎

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Description

現代という時代や社会は人々の心にどのような問題をもたらしているのか？「癒し」「心の時代」「心の教育」「心の商品化」「心の専門家」「心理主義」「臨床心理士」「カウンセリング」「心理治療」「心のケア」などのことばが氾濫しているなかで、「心」に注目が集まっているように見える。「時代の寵児」ともてはやされた堀江氏はその著書のなかで「金で心が買える」と言っているようだし、その彼を持ちあげて選挙に担ぎ出した小泉首相は、靖国参拝への内外の批判を「心の問題」だと跳ね返している。一方は金で買えるほどに心を軽きものとみなしているようだし、他方は内外の批判の重さよりも、自らの心を重くみているように見える。

その両者がお互いを持ち上げあったのだからおもしろい。いったい心をどう見たらよいのか？なぜ現在「心」がこれほど、話題になるのか？また「心の問題」をどのようにとらえればいいのか？

カウンセリングは「心の問題」をどうとらえ、どのようにアプローチするのか？現代社会におけるカウンセリングの意義、役割、その功罪は何なのかを考えると共に、主要なカウンセリングの理論や方法についても紹介する

## 到達目標 / Focus and Goal

- ①心理臨床・カウンセリングが注目される社会的背景や歴史的背景を理解すること。
- ②カウンセリングとはどういうものであるのか、その基本を理解すること。
- ③カウンセリングのいくつかの理論と手法を理解すること。
- ④以上を通じて、現代人の心の問題に対する理解を深めること。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

たんに心やカウンセリングについての知識を得るのではなく、自分自身の心と頭をぐり抜けて、今日の社会の有り様や心の問題を真剣に考えてみようとする人に受講してもらいたい。自分と向き合って、自分の心に問いかける力を持った人であればよい。とりわけ、「平和」が脅かされている情勢のなかで、「平和」と「心」の問題に強い関心を持つ人、持ちたい人の参加を歓迎する。

## 授業スケジュール / Schedule

| 授業日 (第N回) | テーマ / Theme           | キーワード / Key Word |
|-----------|-----------------------|------------------|
|           | カウンセリングとはどういうものか？     |                  |
|           | カウンセリングの仕事はどんな仕事？     |                  |
|           | カウンセリングの歴史            |                  |
|           | 今日の社会とカウンセリング (1)     |                  |
|           | 今日の社会とカウンセリング (2)     |                  |
|           | 「心の教育」をどう考えるか？        |                  |
|           | カウンセリングの基本問題 (1)      |                  |
|           | カウンセリングの基本問題 (2)      |                  |
|           | カウンセリングの基本態度とプロセス (1) |                  |
|           | カウンセリングの基本態度とプロセス (2) |                  |
|           | クライアント中心療法            |                  |
|           | 認知療法                  |                  |
|           | 交流分析                  |                  |
|           | 精神分析                  |                  |

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

| 種別 / Kind | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc. |
|-----------|-----------------|-------------------------------|
| 定期試験      | 100 %           |                               |

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

## 教科書 / Textbooks

## 参考書 / Reference Books

| 書名 / Title   | 出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment |
|--------------|----------------------------------------------------------|
| 「心の専門家」はいらない | 小沢牧子／洋泉社／／                                               |
| 心を商品化する社会    | 小沢牧子ら／洋泉社／／                                              |
| 管理される心       | A. R. ホックシールド／世界思想社／／                                    |
| 平和を創る心理学     | 心理科学研究会／ナカニシヤ出版／／                                        |

生きることと自己肯定感

高垣忠一郎／新日本出版社／／

参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

その他 / Others

## 家族関係論 S S 家族社会学 S

13039

担当者名 / Instructor 櫻谷 真理子

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Description

今日、社会構造の急激な変化に伴い、さまざまな家族問題が出現している。育児不安、児童虐待、家庭内暴力、夫婦、親子の断絶の危機等、家族の崩壊へもつながりかねない不安定要素が増大し、あらためて家族のあり方が問われている。そこで、家族がお互いの人格を尊重しあい、独自の存在として生きることを妨げる要因及び家族福祉の課題を探りながら、これからの家族について考えてみたい。

## 到達目標 / Focus and Goal

- ・家族の定義、概念、家族の動向に関する基本的な理解を得る。
- ・家族問題について幅広く理解できる。
- ・家族福祉の現状や課題についての理解を深める。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enrolle in, but not required to

## 授業スケジュール / Schedule

| 授業日 (第N回) | テーマ / Theme          | キーワード / Key Word    |
|-----------|----------------------|---------------------|
| 1         | 現代家族の諸相—少子化、核家族化     | 子どもの価値の変化           |
| 2         | 現代家族の諸相—結婚観の変化、晩婚化   | 性別役割分業、専業主婦         |
| 3         | 母親一人の子育てと育児不安        | 子育て家族の孤立化、育児文化の衰退   |
| 4         | 3歳児神話の影響             | ボウルビィ、母性愛剥奪理論       |
| 5         | 父親の役割、育児参加           | 父性、育児休業             |
| 6         | 子どもを虐待する家族の特徴        | 世代間連鎖、子どもへの認知のゆがみ   |
| 7         | 子ども虐待と家族援助           | 親業訓練、子育て支援ネットワーク    |
| 8         | 思春期、青年期危機と親子関係その1    | 親の過支配、過干渉、「良い子」の苦しみ |
| 9         | 思春期、青年期危機と親子関係その2    | 親からの自立、心理的離乳        |
| 10        | 機能不全家族の中の子ども         | 機能不全家族、アダルトチルドレン    |
| 11        | ドメスティック・バイオレンスの中の子ども | 家庭内暴力、シェルター         |
| 12        | カナダにおける子どもの権利擁護と家族支援 | アドボカシー、子ども家庭福祉      |
| 13        | 世界に学ぶ子育て支援、家族支援の方向   | 保育保障、経済支援、父親の育児参加   |
| 14        | これからの家族のあり方          | 21世紀家族、性別役割分業の見直し   |

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

| 種別 / Kind | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc.                                            |
|-----------|-----------------|--------------------------------------------------------------------------|
| 定期試験      | 60 %            | 家族に関する基本問題や家族支援の課題についての理解がなされたか、また、授業を通じて、どのような考え方、見方の変化が生じたのか知るための試験です。 |
| レポート      | 20 %            | 数回のレポートを課します。                                                            |
| 日常点       | 20 %            | コミュニケーションカードによる授業の感想や意見を評価に加えます。                                         |

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

テキスト、参考書以外にも授業中に紹介した文献を読み、さまざまな問題に対する関心を広げ、解決の方向を探っていくことが望まれる。

## 教科書 / Textbooks

| 書名 / Title | 出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment |
|------------|----------------------------------------------------------|
| 子育て支援の現在   | 櫻谷真理子他編 / ミネルヴァ書房 / 4-623-03643-xc3336 /                 |

## 参考書 / Reference Books

| 書名 / Title      | 出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment |
|-----------------|----------------------------------------------------------|
| 「家族」と「幸福」の戦後史   | 三浦展 / 講談社現代新書 / 06-149482-1 /                            |
| 21世紀家族へ         | 落合恵美子 / 有斐閣選書 / 641-28091-6 /                            |
| 親と子—交錯するライフコース— | 藤崎宏子 / ミネルヴァ書房 / 623-03124-1 /                           |

## 参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course





## 家族社会学 S S 生活経済論 S

13118

担当者名 / Instructor 斎藤 真緒

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Description

私たちは、「学校」「企業」「市民社会」など、多様な集団および組織に属しているが、自分にとって最も身近な集団が「家族」である。家族をめぐる諸問題は、非常に身近な問題であるだけに、社会的・個人的関心の高い学問領域である。本講義では、「家族」というフィルターを通して、戦後日本社会の生活構造の歴史的形成過程および今日的課題について検討する

## 到達目標 / Focus and Goal

本講義では、家族社会学に関する理論的知識を習得すると同時に、こうした分析ツールを用いて、現代の家族変動の趨勢を読み解くことを目標とする。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

## 授業スケジュール / Schedule

| 授業日 (第N回) | テーマ / Theme           | キーワード / Key Word           |
|-----------|-----------------------|----------------------------|
| 第1回       | プロローグ 家族社会学入門ー家族とは何か  |                            |
| 第2回       | 家族社会学の歴史①             |                            |
| 第3回       | 日本における家族社会学の歴史②       |                            |
| 第4回       | 「近代家族」の成立             | アリエス、「子ども」の誕生、             |
| 第5回       | 日本における「近代家族」の発展       | 専業主婦、企業戦士、性別役割分業           |
| 第6回       | 「近代家族」と結婚①            | 未婚化、晩婚化、新・専業主婦願望           |
| 第7回       | 「近代家族」と結婚②            | 恋愛結婚、ロマンティックラブ・イデオロギー、夫婦別姓 |
| 第8回       | 「近代家族」の病理①            | DV、共依存                     |
| 第9回       | 「近代家族」の病理②            | 閉鎖的育児、三歳児神話、児童虐待           |
| 第10回      | 「家族関係」と死              | 墓、葬式                       |
| 第11回      | 「近代家族」のゆらぎ① 結婚をめぐる変化  | ドメスティック・パートナー法             |
| 第12回      | 「近代家族」のゆらぎ② 子育ての「社会化」 | パパ・クォータ                    |
| 第13回      | 「近代家族」のゆらぎ③ 介護の「社会化」  | 介護保険制度、遠距離介護               |
| 第14回      | 「近代家族」のゆらぎ④ 生殖技術      |                            |
| 第15回      | エピローグー私たちがつくるこれからの家族  |                            |

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

講義の理解を深めるために、講義に関連する参考文献を適宜提示する。

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

| 種別 / Kind | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc. |
|-----------|-----------------|-------------------------------|
| 定期試験      | 50 %            |                               |
| 日常点       | 50 %            | 講義の際にミニレポートを提出してもらう場合がある。     |

本講義は、一方向的な講義ではなく、受講生に自らの問題として考えてもらうことを目指しているために、ミニレポートを通じた日常点評価を重視する。したがって恒常的な出席が難しい学生には適さない。

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

受講に際しては、社会学の基礎知識を有していることが望ましい。

## 教科書 / Textbooks

テキストは用いない。

## 参考書 / Reference Books

## 参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

## その他 / Others

## 活字メディア分析 S

13076

担当者名 / Instructor 柳澤 伸司

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Description

一般的に私たちは日常的に活字メディアの持つ権威(活字で表現されたもの)を疑うことなく接していることが多い。活字メディアである新聞は最も古いメディア形式であり多様性に富んだ耐久性のあるメディアである。新聞は事実をもとに構成されているとされる。しかし記事であれ、写真であれ、論説であれ、広告であれそれらは表現物である。同じ新聞を時系列で比較したり、他社の新聞を比較することで新聞のさまざまな側面を読み取ることができる。この授業ではメディアリテラシーのひとつとして新聞を素材として、その構成、意図、表現について多角的な読み解き方を学ぶ。

## 到達目標 / Focus and Goal

グループワークによるコミュニケーション能力(責任感、調整力の醸成)の獲得、分析力の涵養、表現力(プレゼンテーションや「新聞」作成などスキル)を獲得する。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

ジャーナリズム論

## 授業スケジュール / Schedule

| 授業日(第N回) | テーマ / Theme                     | キーワード / Key Word |
|----------|---------------------------------|------------------|
|          | ガイダンス／授業の進め方について                |                  |
|          | 分析の視点／グループ分け(登録)・作業の計画          |                  |
|          | メディア分析の目標と方法―研究のアプローチ／メディア分析モデル |                  |
|          | グループによる分析作業(1) 課題の検討            |                  |
|          | グループによる分析作業(2) 調査方法の検討と確立       | 新聞記事の分析          |
|          | グループによる分析作業(3) データの収集と整理        | 新聞紙面の構成          |
|          | グループによる分析作業(4) データの収集と整理        | 報道、表現            |
|          | グループによる中間報告(プレゼンテーション)          |                  |
|          | グループによる分析作業(5) データの整理と検討        |                  |
|          | グループによる分析作業(6) 「新聞」作成の準備        |                  |
|          | 「新聞」作成(1)                       |                  |
|          | 「新聞」作成(2)                       |                  |
|          | 分析結果の報告 プレゼンテーション               |                  |
|          | 分析結果の報告と講評                      |                  |

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

この授業は定められた授業時間内だけでは終わらない。図書館で資料を集めたり、必要に応じて関係者に取材をするなどグループで必要な作業を授業時間外でも行わなければならないことがある。最終的にグループで作成する成果(表現)物はパソコン等で作成し、批評レポートの提出もオンライン(メール)で行うため、パソコンが使える環境を整えておくこと。

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

| 種別 / Kind                                                                                                                                                                                                                                             | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc.                |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------|----------------------------------------------|
| 日常点                                                                                                                                                                                                                                                   | 100 %           | 出席点(60点)、グループワークによる成果(表現)物(30点)、批評レポート(10点)。 |
| 参加型授業となるので、出席および活動への参加の度合いを基準とし、最後にまとめを兼ねた成果(表現)物、批評レポート(各自が作成)とあわせて評価する。従って、出席と能動的参加は必須条件となる。無断欠席および遅刻は減点となる。明確な理由や連絡も無く、3回連続して無断欠席した場合は不合格とする。初回およびグループ分けの第2回目の授業に出席しない人は受講意志なしとして判断するので注意してほしい。初回にこの授業の進め方、評価の仕方について説明するので、受講意志のあるなしに関わらず必ず出席すること。 |                 |                                              |

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

受講者はグループに分かれて互いに協力しながら調査・分析作業ができることを前提に受講登録すること。毎回の授業時間だけ出席していれば済むという授業形態ではないので注意してほしい。受講者にとって互いに迷惑となる遅刻、無断欠席等は許されない。授業はグループ活動と並行して考察に必要な指導を行う。受講者はグループに分かれて課題に基づき実際に新聞等をベースに文献などを活用し、調べた内容を整理考察していく。グループで分析した結果を発表し、それについて討論する。最終的に、グループで考察・分析した内容を「新聞」という形式で表現し、グループの作成した「新聞」についての批評レポートを各自提出する。

## 教科書 / Textbooks

使用しない。必要に応じて資料を配付する。

## 参考書 / Reference Books

| 書名 / Title | 出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment |
|------------|----------------------------------------------------------|
|------------|----------------------------------------------------------|

ニュース報道の言語論

玉木明／洋泉社／／

新聞の読み方

岸本重陳／岩波書店／／

その他、適宜紹介する。

参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

<http://www.ritsumeai.ac.jp/kic/~syt01970/>

その他 / Others

## 活字メディア論 S S 活字メディア論 G

20248

担当者名 / Instructor 山口 正紀

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Description

多様化するメディアにあって、活字メディアの存在意義・あり方が問われている。メディアによる人権侵害＝報道被害、市民の報道批判の高まり、法規制の動き。一方で、イラク戦争、有事法制、改憲の動きなどに関する権力チェックや批判精神の衰退(体制翼賛化)。本講義では、30年間の新聞記者生活、「人権と報道・連絡会」世話人としての活動体験をもとに、「人権と権力チェック」に焦点を当て、具体的な事例に基づいて、新聞を中心とした活字メディアの現状と未来について考える。

## 到達目標 / Focus and Goal

- ・活字メディアの基本的な問題点が理解できる
- ・活字メディアの報道に対する批判的な視点を持てる

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enrolle in, but not required to

- ・メディア・リテラシー論、憲法、刑法(事前に必要な知識が得られる授業を参考程度に紹介しています)

## 授業スケジュール / Schedule

| 授業日(第N回) | テーマ / Theme     | キーワード / Key Word                  |
|----------|-----------------|-----------------------------------|
| 第1回      | 活字メディアをめぐる諸問題   |                                   |
| 第2回      | 報道による人権侵害Ⅰ      | 松本サリン事件 ロス疑惑報道                    |
| 第3回      | 報道による人権侵害Ⅱ      | 冤罪 弾圧 犯人視報道                       |
| 第4回      | 報道による人権侵害Ⅲ      | 犯罪被害者 事故報道 地域報道被害                 |
| 第5回      | 報道による人権侵害Ⅳ      | 少年事件 精神疾患患者                       |
| 第6回      | 報道による人権侵害Ⅴ      | 性差別 女性像 ジェンダー                     |
| 第7回      | 報道被害の原因と構造      | 事件取材 匿名報道 記者クラブ                   |
| 第8回      | 報道被害をどうなくすか     | 法規制 自主規制 メディア責任制度 報道評議会 プレスオンブズマン |
| 第9回      | 新聞と政治の戦後史概論     | 占領 安保 ベトナム戦争 沖縄 99年国会             |
| 第10回     | 戦争・政治と新聞報道Ⅰ     | 9・11 アフガン戦争 イラク戦争                 |
| 第11回     | 戦争・政治と新聞報道Ⅱ     | 日朝国交正常化 拉致問題 ナショナリズム              |
| 第12回     | 戦争・政治と新聞報道Ⅲ     | 有事法制 憲法 改憲                        |
| 第13回     | 言論・報道の自由        | 新聞の戦争責任 権力チェック 言論統制               |
| 第14回     | 新聞記者と読者のあり方     | ジャーナリズム精神 メディア・リテラシー 新聞労連         |
| 第15回     | オルタナティブ・メディアの展望 | 韓国 オーマイニース 日刊ベリタ 週刊金曜日            |

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

- ・テキストを読んでおく

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

| 種別 / Kind | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc.                                            |
|-----------|-----------------|--------------------------------------------------------------------------|
| レポート      | 100 %           | 単なる講義への感想・要約ではなく、講義に関連するテーマについて、新聞報道、資料、文献にあたって、自分の頭で考えたレポートかどうかを基準に判断する |

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

- ・新聞報道に関心を持ち、問題があると思った記事の切抜きなどに努める

## 教科書 / Textbooks

| 書名 / Title              | 出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment |
|-------------------------|----------------------------------------------------------|
| メディアが市民の敵になる——さようなら読売新聞 | 山口正紀／現代人文社／4-87798-222-1／講義レジュメの中で関連ページを挙げておくので、事前に読んでおく |

## 参考書 / Reference Books

| 書名 / Title                      | 出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment   |
|---------------------------------|------------------------------------------------------------|
| 新版 犯罪報道の犯罪                      | 浅野健一／新風舎／4-7974-9392-5／授業内容のうち、報道被害、メディア責任制度の理解を深めたいときの参考書 |
| ニュースの虚構 メディアの真実 現場で考えた90-99報道検証 | 山口正紀／現代人文社／4-906531-89-X／授業内容のうち、90年代の報道の問題点を知りたいときの参考書    |

参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

人権と報道・連絡会 <http://www.jca.ax.apc.org/~jimporen/welcom.html>  
同志社大学浅野健一ゼミ <http://www1.doshisha.ac.jp/~kasano>

その他 / Others

## 環境技術論 S S 環境計画論 S

12968

担当者名 / Instructor 相楽 美穂

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Description

地下資源や生物資源の利用増加は、私達の生活に大きな変化をもたらし、物質的な豊かさを生み出したが、反面、深刻な問題も発生させた。日本において、地下資源や生物資源はどのように利用されてきたのか、そして、それに伴ってどのような問題が生じてきたのかを跡付け、今後のあるべき方向性に向けた近年の取り組みや議論を学ぶ。

## 到達目標 / Focus and Goal

技術をめぐる現代の諸問題について、歴史的な視点から分析できる。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

## 授業スケジュール / Schedule

| 授業日 (第N回) | テーマ / Theme             | キーワード / Key Word |
|-----------|-------------------------|------------------|
| 第1回       | 銅の利用と鉱害 (1)             |                  |
| 第2回       | 銅の利用と鉱害 (2)             |                  |
| 第3回       | ウランの利用と原発事故 (1)         |                  |
| 第4回       | ウランの利用と原発事故 (2)         |                  |
| 第5回       | 燃料としての木材利用の歴史と現状        |                  |
| 第6回       | 建築材、紙としての木材利用の歴史と現状 (1) |                  |
| 第7回       | 建築材、紙としての木材利用の歴史と現状 (2) |                  |
| 第8回       | 木材生産と森林の劣化・減少           |                  |
| 第9回       | 水資源と森林                  |                  |
| 第10回      | 森林の機能                   |                  |
| 第11回      | 食肉生産の歴史と狂牛病 (1)         |                  |
| 第12回      | 食肉生産の歴史と狂牛病 (2)         |                  |
| 第13回      | 穀物生産の歴史と遺伝子組み換え作物 (1)   |                  |
| 第14回      | 穀物生産の歴史と遺伝子組み換え作物 (2)   |                  |
| 第15回      | 定期試験                    |                  |

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

レポートの提出を求める場合があります。

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

| 種別 / Kind | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc.    |
|-----------|-----------------|----------------------------------|
| 定期試験      | 70 %            | 自分で考え、自分の言葉で論じているか、という点を重要視する。   |
| 日常点       | 30 %            | 講義中に、講義内容についての感想や質問内容を書き、提出を求める。 |

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

## 教科書 / Textbooks

## 参考書 / Reference Books

参考文献はその都度指示する。

## 参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

## その他 / Others

## 環境保全論 S S リサイクル論 S

15037

担当者名 / Instructor 和田 武

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Description

環境保全論/リサイクル論「持続可能な環境保全型社会の構築」20世紀後半以降、展開されてきた物とエネルギーの使い捨て型大量生産・消費を軸とする社会は、地球環境破壊や資源枯渇を引き起こす持続不可能な社会であることが判明してきた。本講では、「物」と「エネルギー」の生産体系の現状と問題点を国際的、国内的事例の分析に基づいて明らかにし、持続可能な環境保全型社会への転換を実現するための条件とプロセスについて論じる。

## 到達目標 / Focus and Goal

地球環境問題を引き起こしているこれまでの持続不可能な生産・消費システムについて理解し、それを持続可能なものに転換するための国内外の取り組みについての知識を獲得すること。それらを分析して、持続可能な生産・消費システムに転換するための方策について考察する力をもてるようにすること。さらに、生産・消費システムの転換が今後の持続可能な社会への発展につながることを認識し、今後の自らの生き方のなかに環境保全的要素を導入できるようにすること。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enrolle in, but not required to

総合学術科目「現代環境論」

## 授業スケジュール / Schedule

| 授業日 (第N回) | テーマ / Theme                                 | キーワード / Key Word                                  |
|-----------|---------------------------------------------|---------------------------------------------------|
|           | 自然の物質、エネルギー、生態系の循環平衡と人間活動                   | 自然、物質、エネルギー、生態系、人間活動、循環平衡                         |
|           | 大量生産消費システムがもたらす問題～資源枯渇、廃棄物問題と有害物質汚染、地球環境問題～ | 大量生産消費システム、資源枯渇、廃棄物問題、有害物質汚染、地球環境問題、地球温暖化         |
|           | 持続可能な環境保全型生産消費システムのあり方                      | 持続可能な生産消費システム、持続不可能な生産消費システム、物的生産、エネルギー生産         |
|           | 日本の資源循環利用の現状と問題点(1)資源循環利用の方法                | 日本、資源循環利用、廃棄物、3R、                                 |
|           | 日本の資源循環利用の現状と問題点(2)廃棄物・リサイクルに関する制度          | 日本、資源循環利用、廃棄物、リサイクル制度、容器包装リサイクル、製品リサイクル、循環型社会     |
|           | 諸外国の資源循環利用対策(1)ドイツの容器包装リサイクル                | 資源循環利用、ドイツ、容器包装リサイクル、拡大生産者責任、DSD社                 |
|           | 諸外国の資源循環利用対策(2)EU諸国の容器包装リサイクル               | 資源循環利用、EU、容器包装リサイクル、拡大生産者責任、環境税、デポジット制度、          |
|           | 諸外国の資源循環利用対策(3)製品リサイクル                      | 諸外国、資源循環利用、製品リサイクル、家電製品、自動車、拡大生産者責任、              |
|           | 日本と世界のエネルギー利用の現状と問題点                        | 日本、世界、エネルギー、化石資源、原子力、                             |
|           | 持続可能なエネルギーシナリオ                              | 温暖化防止、CO2削減、再生可能エネルギー、省エネルギー、エネルギー効率              |
|           | 諸外国のエネルギー利用(1)デンマークとドイツのエネルギー対策             | エネルギー、デンマーク、ドイツ、風力発電、太陽光発電、バイオマス                  |
|           | 諸外国のエネルギー利用(2)発展途上国のエネルギー対策～インドと中国を中心に～     | エネルギー、発展途上国、インド、中国、地域社会、未電化地域、電化、                 |
|           | 再生可能エネルギー普及論～市民参加による再生可能エネルギー普及～            | 再生可能エネルギー普及論、住民、市民、エネルギー生産手段、所有、                  |
|           | 日本の再生可能エネルギー普及                              | 日本、再生可能エネルギー、自治体、市民参加、住民参加、市民共同発電所、地域主導           |
|           | まとめ:持続可能な社会の構築                              | 持続可能な社会、社会発展論、市民の生産関与、生産手段の所有、生産の民主的社会化、社会発展プロセス、 |

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

自主的な学びを積極的に進めてほしい。環境保全に関して自主的に調査、実践、学習した成果を「自主レポート」として提出することを歓迎する(テーマや作成方法は自由。提出期限は12月の最後の講義日)。なお、優れた「自主レポート」については、内容により成績評価に0～20点を加算する。

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

| 種別 / Kind | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc.             |
|-----------|-----------------|-------------------------------------------|
| 定期試験      | 80 %            | 100点満点の試験点数に0.8がけ                         |
| レポート      | 0 %             | 自主レポートの提出を歓迎する。提出した場合、その内容に応じて0～20点を加算する。 |



日常点 20 % 授業時に講義の感想、意見、質問などを随時、小レポートとして提出を求め、それを採点する。

定期試験を実施 定期試験に日常点(小レポート)を加味して評価。評価の比重は、試験80%、日常点(小レポート)20%。小レポートは授業期間中、随時、数回提出を求める。なお、優れた「自主レポート」については、内容により成績評価に0~20点を加算する。

#### 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

高度な予備知識はとくに必要ないが、講義はまじめに出席、受講すること。ときどき、授業中に小レポート(感想、意見、質問など)の提出を求めるので、必ず提出すること(後日の提出は認めない)。また、自主的な学びを積極的に進めてほしい。環境保全に関して自主的に調査、実践、学習した成果を「自主レポート」として提出することを歓迎する(テーマや作成方法は自由。提出期限は12月の最後講義)。

#### 教科書 / Textbooks

テキストは使用しない。配布資料を中心に講義を行う。理解を深めるためにビデオ教材等も活用する。

#### 参考書 / Reference Books

| 書名 / Title                                                                                                                                                                                                                       | 出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------|
| 新・地球環境論                                                                                                                                                                                                                          | 和田 武／創元社／／                                               |
| 地球白書(各年度版)                                                                                                                                                                                                                       | C.フレイビンら／家の光協会／／                                         |
| 環境展望 (Vol.1~4)                                                                                                                                                                                                                   | 日本科学者会議公害環境問題研究委員会／実教出版／／                                |
| 21世紀世界のリサイクル                                                                                                                                                                                                                     | ジェトロ・ワールドナウ／JETRO／／                                      |
| 地球温暖化を防止するエネルギー戦略                                                                                                                                                                                                                | 林、和田ほか／実教出版／／                                            |
| その他、和田武『環境問題を学ぶ人のために』世界思想社、循環型社会法制研究会『循環型社会形成推進基本法の解説』ぎょうせい、日本科学者会議『地球温暖化防止とエネルギーの課題』水曜社、佐藤由美『自然エネルギーが地域を変える』学芸出版、エネルギー推進市民フォーラム『よくわかる自然エネルギー』合同出版、気候ネットワーク『地球温暖化防止の市民戦略』中央法規、などを推薦する。また、石弘之『必読・環境本100冊』は各分野の環境関連書籍を選択する上で参考になる。 |                                                          |

#### 参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

環境省；<http://www.env.go.jp/>、厚生労働省；<http://www.mhlw.go.jp/>、日本容器リサイクル協会；<http://www.jcpra.or.jp/>、環境go；<http://eco.go.ne.jp/>、資源エネルギー庁；<http://www.enecho.meti.go.jp/>、NEDO(新エネルギー産業技術開発機構)；<http://www.nedo.go.jp/>、気候ネットワーク；<http://www.jca.apc.org/kikonet/>、自然エネルギー市民の会；<http://www.bnet.jp/pare/>、 など。

#### その他 / Others

できるだけ欠席しないこと。自主的、積極的に学んでほしい。質問は大いに歓迎するが、メールよりも、授業終了後に直接、質問するほうが理解しやすいと思う。

## 環境問題論 S S 都市・農村計画論II S

12048

担当者名 / Instructor 深井 純一

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Description

河川を軸として上流の森林、中流の農地、下流河口付近の海岸線の相互関係を視野に入れ、我々の祖先が治水に工夫を重ねてきた足跡をふり返る。近代以後の、特に大規模ダムが登場による河床の変貌や人工水害の多発などを前者と対照して検討し、近年流行の脱ダム政策の意義と問題点を明らかにしたい。農学部系の環境論である。

## 到達目標 / Focus and Goal

水問題を切り口にして、自然は一枚の布のように関わりを持っていることを実感してもらう。また身近な水辺へ見学調査に出かける姿勢を養い、文献資料を苦勞して探す経験もしてほしい。果たして正しいかと疑いながら受講し、読書する批判精神を磨いてほしい。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

他の環境問題の諸科目。

## 授業スケジュール / Schedule

| 授業日 (第N回) | テーマ / Theme                                                                    | キーワード / Key Word                                                                                                      |
|-----------|--------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 第1回       | 開講に当たって 教師と学生は対等、果たして正しいかと疑いながら受講を! 期末レポートの出題と作成上の注意事項、成績評価の基準と方法の提案、期末に協議して決定 | 批判的精神、教育は対等の関係で                                                                                                       |
| 第2回       | ドキュメンタリービデオ上映『マザー・トゥリー』『残された原始の森』感想・質問のアンケート実施                                 | ブナ原生林の自然                                                                                                              |
| 第3回       | 先週のビデオアンケートの質問に答える。序論・環境問題とは? 環境の真の守り手とは?                                      | 環境保全と農林漁業、農産漁村住民の関係                                                                                                   |
| 第4回       | 日本の風土が育んできた河川との関わり                                                             | アジアモンスーン地帯、急勾配河川と年3回の出水、洪水乱流跡に水路開削、水害の危険性と同居                                                                          |
| 第5回       | 戦国時代に発展した遊水地と霞堤 (かすみでい) — 祖先の「治水」の英知に学ぶ(1) 洪水にひそむ自然の恵みを活用する知恵                  | 戦国時代、不連続堤防、遊水地、堤防林、洪水の濁り = 上流山林の腐葉土の置き土産                                                                              |
| 第6回       | 水防型の集落と家屋 — 祖先の「治水」の英知に学ぶ(2)                                                   | 水防型集落、水防型家屋、水屋、輪中、揚げ舟、家具吊り上げ                                                                                          |
| 第7回       | ドキュメンタリー・ビデオ上映『またも決壊 無策の中小河川』『濁流が都市を襲う』感想・質問のアンケート実施                           | 農村の水害、堤防決壊、都市の水害、中小河川、下水道の排水能力                                                                                        |
| 第8回       | 先週のビデオ・アンケートの質問に答える。水害に苦しみ続けた日本・水害問題の概括                                        |                                                                                                                       |
| 第9回       | 琵琶湖・淀川水系の特徴、その利水・治水・水質問題                                                       | 出水期を分け合う3つの支流、4つの盆地をつなぐ地形構造が反復利用を可能にした。湖岸の天井川・平地林・内湖群や中流の巨椋池、下流淀川べりのタマリ・ワンド                                           |
| 第10回      | この前後に卒業生あるいは友人の学外講師による特別講義実施 相手の都合で時期の変更あり                                     |                                                                                                                       |
| 第11回      | ドキュメンタリー・ビデオ上映『ダム王国ニッポン』『水のない川 — 大井川紀行』感想・質問のアンケート実施                           | ダムの堆砂による貯水力現象 海岸線の急速な後退                                                                                               |
| 第12回      | 先週のビデオ・アンケートに答える                                                               | 深刻なダム問題の諸相、しかしダムは不要と簡単に言えるか                                                                                           |
| 第13回      | ダム問題の概括、田中長野県知事の脱ダム論の意義と問題点、その背景にある県財政の危機                                      | 緑のダム=森林の貯水力の限界 流域に遊水地は再現可能?                                                                                           |
| 第14回      | 閉講に当たって、成績評価の基準と方法に関して協議・決定、14回の講義内容と方法に関する感想・批判の総括アンケート                       | 成績評価において期末レポートと中間の5回の提出物のウエイト、4回生以上の就職活動への配慮をどうするか、期末レポートにおいて参考文献の明治と引用・要約個所の明示、手書き、現地見学・図書館探検の過程を末尾にまとめる件などの是非を論議する。 |

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

期末レポートの作成に早くから取り組み、現地へ見学に出かけ、学内外の図書館を利用して文献を見つける。

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

| 種別 / Kind | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc.                                      |
|-----------|-----------------|--------------------------------------------------------------------|
| レポート      | 0 %             | 3回生以下は70%、4回生以上は85% (ただし受講生と協議して最終決定) 現地見学ないし文献探索の実施、文献の引用要約のルール厳守 |

その他 0 % 3回のビデオアンケート、特別講義の感想、全体の総括アンケート合わせて5回の中間提出物に、3回生以下は30%、4回生以上は15%を配点する。(ただしこの点も受講生と協議して最終決定) 真剣に書いているか否か

---

受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

出来るだけ詳しいレジメ・参考資料を配布するので、ノートすることに追われず、内容を疑いながら聞くこと。

講義内容も参考文献の内容も仮説に過ぎない。挙手発言してほしいが、せめてアンケート類に率直な自分の意見・反論を書いてほしい。謙虚にお答えするつもり。批判の自由を全面的に保障する

教科書 / Textbooks

『ハンドブック・さんしゃ』に収録された私の「図書館探検法」を参考にして自分で探すこと。苦勞して見つけた宝物は読んでみようかという気になるものだ。

参考書 / Reference Books

上記に同じく。

参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

私は書物派。インターネットは予習の手がかりに過ぎない。

その他 / Others

## 企画研究 (自主企画研究) SA

12745

担当者名 / Instructor 竹濱 朝美

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Description

この科目は、学習者自らが「主体的な学びのプロセス」を獲得することを主たる目的としています。

キーワードは「問題を探す」「科学する」「探求する」「参加する」「自ら学ぶ」です。自ら学ぶことにより、必要な学習の仕方、問題の複雑性や変化に対応する的確な感覚、センス、洞察力を獲得していくことを目標としています。与えられた課題やテーマを受動的にこなすのではなく、学習者自身が主体的に学習を企画し、対象者と関わりながら学習を展開させていくことが特徴であり、最も重要なポイントです。

3つのタイプがあり、TYPE1は学習者自らがテーマを決め学習を進める「自主企画・学習型」、TYPE2は担当教員が挙げたテーマについて学習を進める「教員とのコラボレート型」、TYPE3はこの科目に協力いただいている企業・団体・諸機関が挙げたテーマについて学習を進める「企業・団体・機関とのコラボレート型」です。授業内容の詳細は募集要項 (掲示および事務室配布) を参照してください。

## 到達目標 / Focus and Goal

TYPE1は、自分で決めたテーマと計画にもとづき作成する成果物(「研究レポート」)の作成を目標とします (研究レポートは8000字(400字×20枚)を目安とします)。学習にあたっては毎月1度、担当教員との間で進捗状況の報告とミーティングを行ってください。

TYPE2,3は、いずれも担当教員が定めた成果物の作成を目標とします (内容の詳細はクラス・担当教員ごとに異なります)。TYPE2,3は授業を実施し、成果物作成にむけたワーキングを行います。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enrolle in, but not required to

## 授業スケジュール / Schedule

| 授業日 (第N回) | テーマ / Theme                                                                                                                                | キーワード / Key Word |
|-----------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------|
| TYPE1     | TYPE1は、受講申込にあたってテーマ別に担当教員との間で1年間の学習の進め方などについてミーティングを行います。学習開始後は毎月1度、進捗状況報告書の提出により学習の進み具合などについて報告を求めるとともに、進捗状況報告書にもとづき担当教員との間でミーティングを実施します。 |                  |
| TYPE2,3   | TYPE2,3は、受講申込をうけて選考を行います。受講許可者は授業に出席をしてください。授業は担当教員の学習計画にもとづき実施されますが、実施曜日時限の詳細は初回授業以降、クラスごと決められます。                                         |                  |

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

| 種別 / Kind | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc. |
|-----------|-----------------|-------------------------------|
| レポート      | 50 %            |                               |
| 日常点       | 50 %            |                               |

TYPE1は成果物 (研究レポートまたはそれに代わるもの、研究レポートは8000字(400枚×20枚)を目安にしてください) により成績評価を行います。TYPE2,3は授業出席と授業を通じた学習、およびクラスごとに担当教員が定めた成果物により成績評価を行います。この科目の成績評価はTYPE1,2,3いずれも「P」(合格) または「F」(不合格) で行います。

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

## 教科書 / Textbooks

この科目の申込手続き、クラスごとの内容などの詳細については、募集要項 (掲示および事務室配布) を参照してください。

## 参考書 / Reference Books

## 参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

## その他 / Others

## 企画研究 (自主企画研究) SB

本文無し

担当者名 / Instructor単位数 / Credit授業の概要 / Course Description到達目標 / Focus and Goal履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to授業スケジュール / Schedule(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment  
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research教科書 / Textbooks参考書 / Reference Books参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Courseその他 / Others

## 企画研究 (自主企画研究) SC

12747

担当者名 / Instructor 遠藤 保子

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Description

この科目は、学習者自らが「主体的な学びのプロセス」を獲得することを主たる目的としています。

キーワードは「問題を探す」「科学する」「探求する」「参加する」「自ら学ぶ」です。自ら学ぶことにより、必要な学習の仕方、問題の複雑性や変化に対応する的確な感覚、センス、洞察力を獲得していくことを目標としています。与えられた課題やテーマを受動的にこなすのではなく、学習者自身が主体的に学習を企画し、対象者と関わりながら学習を展開させていくことが特徴であり、最も重要なポイントです。

3つのタイプがあり、TYPE1は学習者自らがテーマを決め学習を進める「自主企画・学習型」、TYPE2は担当教員が挙げたテーマについて学習を進める「教員とのコラボレート型」、TYPE3はこの科目に協力いただいている企業・団体・諸機関が挙げたテーマについて学習を進める「企業・団体・機関とのコラボレート型」です。授業内容の詳細は募集要項(掲示および事務室配布)を参照してください。

## 到達目標 / Focus and Goal

TYPE1は、自分で決めたテーマと計画にもとづき作成する成果物(「研究レポート」)の作成を目標とします(研究レポートは8000字(400字×20枚)を目安とします)。学習にあたっては毎月1度、担当教員との間で進捗状況の報告とミーティングを行ってください。

TYPE2,3は、いずれも担当教員が定めた成果物の作成を目標とします(内容の詳細はクラス・担当教員ごとに異なります)。TYPE2,3は授業を実施し、成果物作成にむけたワーキングを行います。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enrolle in, but not required to

## 授業スケジュール / Schedule

| 授業日(第N回) | テーマ / Theme                                                                                                                                | キーワード / Key Word |
|----------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------|
| TYPE1    | TYPE1は、受講申込にあたってテーマ別に担当教員との間で1年間の学習の進め方などについてミーティングを行います。学習開始後は毎月1度、進捗状況報告書の提出により学習の進み具合などについて報告を求めるとともに、進捗状況報告書にもとづき担当教員との間でミーティングを実施します。 |                  |
| TYPE2,3  | TYPE2,3は、受講申込をうけて選考を行います。受講許可者は授業に出席をしてください。授業は担当教員の学習計画にもとづき実施されますが、実施曜日時限の詳細は初回授業以降、クラスごと決められます。                                         |                  |

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

| 種別 / Kind | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc. |
|-----------|-----------------|-------------------------------|
| レポート      | 50 %            |                               |
| 日常点       | 50 %            |                               |

TYPE1は成果物(研究レポートまたはそれに代わるもの、研究レポートは8000字(400枚×20枚)を目安にしてください)により成績評価を行います。TYPE2,3は授業出席と授業を通じた学習、およびクラスごとに担当教員が定めた成果物により成績評価を行います。この科目の成績評価はTYPE1,2,3いずれも「P」(合格)または「F」(不合格)で行います。

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

## 教科書 / Textbooks

この科目の申込手続き、クラスごとの内容などの詳細については、募集要項(掲示および事務室配布)を参照してください。

## 参考書 / Reference Books

## 参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

## その他 / Others

## 企画研究 (自主企画研究) SD

本文無し

担当者名 / Instructor単位数 / Credit授業の概要 / Course Description到達目標 / Focus and Goal履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to授業スケジュール / Schedule(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment  
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research教科書 / Textbooks参考書 / Reference Books参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Courseその他 / Others

## 企画研究 (自主企画研究) SE

本文無し

担当者名 / Instructor単位数 / Credit授業の概要 / Course Description到達目標 / Focus and Goal履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to授業スケジュール / Schedule(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research教科書 / Textbooks参考書 / Reference Books参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Courseその他 / Others



## 企画研究 (自主企画研究) SF

12750

担当者名 / Instructor 陰山 英男

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Description

この科目は、学習者自らが「主体的な学びのプロセス」を獲得することを主たる目的としています。

キーワードは「問題を探す」「科学する」「探求する」「参加する」「自ら学ぶ」です。自ら学ぶことにより、必要な学習の仕方、問題の複雑性や変化に対応する的確な感覚、センス、洞察力を獲得していくことを目標としています。与えられた課題やテーマを受動的にこなすのではなく、学習者自身が主体的に学習を企画し、対象者と関わりながら学習を展開させていくことが特徴であり、最も重要なポイントです。

3つのタイプがあり、TYPE1は学習者自らがテーマを決め学習を進める「自主企画・学習型」、TYPE2は担当教員が挙げたテーマについて学習を進める「教員とのコラボレート型」、TYPE3はこの科目に協力いただいている企業・団体・諸機関が挙げたテーマについて学習を進める「企業・団体・機関とのコラボレート型」です。授業内容の詳細は募集要項(掲示および事務室配布)を参照してください。

## 到達目標 / Focus and Goal

TYPE1は、自分で決めたテーマと計画にもとづき作成する成果物(「研究レポート」)の作成を目標とします(研究レポートは8000字(400字×20枚)を目安とします)。学習にあたっては毎月1度、担当教員との間で進捗状況の報告とミーティングを行ってください。

TYPE2,3は、いずれも担当教員が定めた成果物の作成を目標とします(内容の詳細はクラス・担当教員ごとに異なります)。TYPE2,3は授業を実施し、成果物作成にむけたワーキングを行います。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enrolle in, but not required to

## 授業スケジュール / Schedule

| 授業日(第N回) | テーマ / Theme                                                                                                                                | キーワード / Key Word |
|----------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------|
| TYPE1    | TYPE1は、受講申込にあたってテーマ別に担当教員との間で1年間の学習の進め方などについてミーティングを行います。学習開始後は毎月1度、進捗状況報告書の提出により学習の進み具合などについて報告を求めるとともに、進捗状況報告書にもとづき担当教員との間でミーティングを実施します。 |                  |
| TYPE2,3  | TYPE2,3は、受講申込をうけて選考を行います。受講許可者は授業に出席をしてください。授業は担当教員の学習計画にもとづき実施されますが、実施曜日時限の詳細は初回授業以降、クラスごと決められます。                                         |                  |

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

| 種別 / Kind | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc. |
|-----------|-----------------|-------------------------------|
| レポート      | 50 %            |                               |
| 日常点       | 50 %            |                               |

TYPE1は成果物(研究レポートまたはそれに代わるもの、研究レポートは8000字(400枚×20枚)を目安にしてください)により成績評価を行います。TYPE2,3は授業出席と授業を通じた学習、およびクラスごとに担当教員が定めた成果物により成績評価を行います。この科目の成績評価はTYPE1,2,3いずれも「P」(合格)または「F」(不合格)で行います。

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

## 教科書 / Textbooks

この科目の申込手続き、クラスごとの内容などの詳細については、募集要項(掲示および事務室配布)を参照してください。

## 参考書 / Reference Books

## 参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

## その他 / Others

## 企画研究 (自主企画研究) SG

12751

担当者名 / Instructor 神谷 雅子

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Description

この科目は、学習者自らが「主体的な学びのプロセス」を獲得することを主たる目的としています。

キーワードは「問題を探す」「科学する」「探求する」「参加する」「自ら学ぶ」です。自ら学ぶことにより、必要な学習の仕方、問題の複雑性や変化に対応する確かな感覚、センス、洞察力を獲得していくことを目標としています。与えられた課題やテーマを受動的にこなすのではなく、学習者自身が主体的に学習を企画し、対象者と関わりながら学習を展開させていくことが特徴であり、最も重要なポイントです。

3つのタイプがあり、TYPE1は学習者自らがテーマを決め学習を進める「自主企画・学習型」、TYPE2は担当教員が挙げたテーマについて学習を進める「教員とのコラボレート型」、TYPE3はこの科目に協力いただいている企業・団体・諸機関が挙げたテーマについて学習を進める「企業・団体・機関とのコラボレート型」です。授業内容の詳細は募集要項 (掲示および事務室配布) を参照してください。

## 到達目標 / Focus and Goal

TYPE1は、自分で決めたテーマと計画にもとづき作成する成果物(「研究レポート」)の作成を目標とします (研究レポートは8000字(400字×20枚)を目安とします)。学習にあたっては毎月1度、担当教員との間で進捗状況の報告とミーティングを行ってください。

TYPE2,3は、いずれも担当教員が定めた成果物の作成を目標とします (内容の詳細はクラス・担当教員ごとに異なります)。TYPE2,3は授業を実施し、成果物作成にむけたワーキングを行います。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enrolle in, but not required to

## 授業スケジュール / Schedule

| 授業日 (第N回) | テーマ / Theme                                                                                                                                | キーワード / Key Word |
|-----------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------|
| TYPE1     | TYPE1は、受講申込にあたってテーマ別に担当教員との間で1年間の学習の進め方などについてミーティングを行います。学習開始後は毎月1度、進捗状況報告書の提出により学習の進み具合などについて報告を求めるとともに、進捗状況報告書にもとづき担当教員との間でミーティングを実施します。 |                  |
| TYPE2,3   | TYPE2,3は、受講申込をうけて選考を行います。受講許可者は授業に出席をしてください。授業は担当教員の学習計画にもとづき実施されますが、実施曜日時限の詳細は初回授業以降、クラスごと決められます。                                         |                  |

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

| 種別 / Kind | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc. |
|-----------|-----------------|-------------------------------|
| レポート      | 50 %            |                               |
| 日常点       | 50 %            |                               |

TYPE1は成果物 (研究レポートまたはそれに代わるもの、研究レポートは8000字(400枚×20枚)を目安にしてください) により成績評価を行います。TYPE2,3は授業出席と授業を通じた学習、およびクラスごとに担当教員が定めた成果物により成績評価を行います。この科目の成績評価はTYPE1,2,3いずれも「P」(合格) または「F」(不合格) で行います。

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

## 教科書 / Textbooks

この科目の申込手続き、クラスごとの内容などの詳細については、募集要項 (掲示および事務室配布) を参照してください。

## 参考書 / Reference Books

## 参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

## その他 / Others

## 企画研究 (自主企画研究) SH

12752

担当者名 / Instructor 乾 亨

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Description

この科目は、学習者自らが「主体的な学びのプロセス」を獲得することを主たる目的としています。

キーワードは「問題を探す」「科学する」「探求する」「参加する」「自ら学ぶ」です。自ら学ぶことにより、必要な学習の仕方、問題の複雑性や変化に対応する的確な感覚、センス、洞察力を獲得していくことを目標としています。与えられた課題やテーマを受動的にこなすのではなく、学習者自身が主体的に学習を企画し、対象者と関わりながら学習を展開させていくことが特徴であり、最も重要なポイントです。

3つのタイプがあり、TYPE1は学習者自らがテーマを決め学習を進める「自主企画・学習型」、TYPE2は担当教員が挙げたテーマについて学習を進める「教員とのコラボレート型」、TYPE3はこの科目に協力いただいている企業・団体・諸機関が挙げたテーマについて学習を進める「企業・団体・機関とのコラボレート型」です。授業内容の詳細は募集要項 (掲示および事務室配布) を参照してください。

## 到達目標 / Focus and Goal

TYPE1は、自分で決めたテーマと計画にもとづき作成する成果物(「研究レポート」)の作成を目標とします (研究レポートは8000字(400字×20枚)を目安とします)。学習にあたっては毎月1度、担当教員との間で進捗状況の報告とミーティングを行ってください。

TYPE2,3は、いずれも担当教員が定めた成果物の作成を目標とします (内容の詳細はクラス・担当教員ごとに異なります)。TYPE2,3は授業を実施し、成果物作成にむけたワーキングを行います。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enrolle in, but not required to

## 授業スケジュール / Schedule

| 授業日 (第N回) | テーマ / Theme                                                                                                                                | キーワード / Key Word |
|-----------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------|
| TYPE1     | TYPE1は、受講申込にあたってテーマ別に担当教員との間で1年間の学習の進め方などについてミーティングを行います。学習開始後は毎月1度、進捗状況報告書の提出により学習の進み具合などについて報告を求めるとともに、進捗状況報告書にもとづき担当教員との間でミーティングを実施します。 |                  |
| TYPE2,3   | TYPE2,3は、受講申込をうけて選考を行います。受講許可者は授業に出席をしてください。授業は担当教員の学習計画にもとづき実施されますが、実施曜日時限の詳細は初回授業以降、クラスごと決められます。                                         |                  |

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

| 種別 / Kind | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc. |
|-----------|-----------------|-------------------------------|
| レポート      | 50 %            |                               |
| 日常点       | 50 %            |                               |

TYPE1は成果物 (研究レポートまたはそれに代わるもの、研究レポートは8000字(400枚×20枚)を目安にしてください) により成績評価を行います。TYPE2,3は授業出席と授業を通じた学習、およびクラスごとに担当教員が定めた成果物により成績評価を行います。この科目の成績評価はTYPE1,2,3いずれも「P」(合格) または「F」(不合格) で行います。

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

## 教科書 / Textbooks

この科目の申込手続き、クラスごとの内容などの詳細については、募集要項 (掲示および事務室配布) を参照してください。

## 参考書 / Reference Books

## 参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

## その他 / Others

## 企画研究 (自主企画研究) SI

12753

担当者名 / Instructor 小泉 秀昭

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Description

この科目は、学習者自らが「主体的な学びのプロセス」を獲得することを主たる目的としています。

キーワードは「問題を探す」「科学する」「探求する」「参加する」「自ら学ぶ」です。自ら学ぶことにより、必要な学習の仕方、問題の複雑性や変化に対応する的確な感覚、センス、洞察力を獲得していくことを目標としています。与えられた課題やテーマを受動的にこなすのではなく、学習者自身が主体的に学習を企画し、対象者と関わりながら学習を展開させていくことが特徴であり、最も重要なポイントです。

3つのタイプがあり、TYPE1は学習者自らがテーマを決め学習を進める「自主企画・学習型」、TYPE2は担当教員が挙げたテーマについて学習を進める「教員とのコラボレート型」、TYPE3はこの科目に協力いただいている企業・団体・諸機関が挙げたテーマについて学習を進める「企業・団体・機関とのコラボレート型」です。授業内容の詳細は募集要項(掲示および事務室配布)を参照してください。

## 到達目標 / Focus and Goal

TYPE1は、自分で決めたテーマと計画にもとづき作成する成果物(「研究レポート」)の作成を目標とします(研究レポートは8000字(400字×20枚)を目安とします)。学習にあたっては毎月1度、担当教員との間で進捗状況の報告とミーティングを行ってください。

TYPE2,3は、いずれも担当教員が定めた成果物の作成を目標とします(内容の詳細はクラス・担当教員ごとに異なります)。TYPE2,3は授業を実施し、成果物作成にむけたワーキングを行います。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enrolle in, but not required to

## 授業スケジュール / Schedule

| 授業日(第N回) | テーマ / Theme                                                                                                                                | キーワード / Key Word |
|----------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------|
| TYPE1    | TYPE1は、受講申込にあたってテーマ別に担当教員との間で1年間の学習の進め方などについてミーティングを行います。学習開始後は毎月1度、進捗状況報告書の提出により学習の進み具合などについて報告を求めるとともに、進捗状況報告書にもとづき担当教員との間でミーティングを実施します。 |                  |
| TYPE2,3  | TYPE2,3は、受講申込をうけて選考を行います。受講許可者は授業に出席をしてください。授業は担当教員の学習計画にもとづき実施されますが、実施曜日時限の詳細は初回授業以降、クラスごと決められます。                                         |                  |

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

| 種別 / Kind | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc. |
|-----------|-----------------|-------------------------------|
| レポート      | 50 %            |                               |
| 日常点       | 50 %            |                               |

TYPE1は成果物(研究レポートまたはそれに代わるもの、研究レポートは8000字(400枚×20枚)を目安にしてください)により成績評価を行います。TYPE2,3は授業出席と授業を通じた学習、およびクラスごとに担当教員が定めた成果物により成績評価を行います。この科目の成績評価はTYPE1,2,3いずれも「P」(合格)または「F」(不合格)で行います。

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

## 教科書 / Textbooks

この科目の申込手続き、クラスごとの内容などの詳細については、募集要項(掲示および事務室配布)を参照してください。

## 参考書 / Reference Books

## 参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

## その他 / Others

## 企画研究 (自主企画研究) SJ

本文無し

担当者名 / Instructor単位数 / Credit授業の概要 / Course Description到達目標 / Focus and Goal履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to授業スケジュール / Schedule(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment  
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research教科書 / Textbooks参考書 / Reference Books参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Courseその他 / Others

## 企画研究 (自主企画研究) SK

12755

担当者名 / Instructor 小澤 亘、山口 歩

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Description

この科目は、学習者自らが「主体的な学びのプロセス」を獲得することを主たる目的としています。

キーワードは「問題を探す」「科学する」「探求する」「参加する」「自ら学ぶ」です。自ら学ぶことにより、必要な学習の仕方、問題の複雑性や変化に対応する的確な感覚、センス、洞察力を獲得していくことを目標としています。与えられた課題やテーマを受動的にこなすのではなく、学習者自身が主体的に学習を企画し、対象者と関わりながら学習を展開させていくことが特徴であり、最も重要なポイントです。

3つのタイプがあり、TYPE1は学習者自らがテーマを決め学習を進める「自主企画・学習型」、TYPE2は担当教員が挙げたテーマについて学習を進める「教員とのコラボレート型」、TYPE3はこの科目に協力いただいている企業・団体・諸機関が挙げたテーマについて学習を進める「企業・団体・機関とのコラボレート型」です。授業内容の詳細は募集要項 (掲示および事務室配布) を参照してください。

## 到達目標 / Focus and Goal

TYPE1は、自分で決めたテーマと計画にもとづき作成する成果物(「研究レポート」)の作成を目標とします (研究レポートは8000字(400字×20枚)を目安とします)。学習にあたっては毎月1度、担当教員との間で進捗状況の報告とミーティングを行ってください。

TYPE2,3は、いずれも担当教員が定めた成果物の作成を目標とします (内容の詳細はクラス・担当教員ごとに異なります)。TYPE2,3は授業を実施し、成果物作成にむけたワーキングを行います。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enrolle in, but not required to

## 授業スケジュール / Schedule

| 授業日 (第N回) | テーマ / Theme                                                                                                                                | キーワード / Key Word |
|-----------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------|
| TYPE1     | TYPE1は、受講申込にあたってテーマ別に担当教員との間で1年間の学習の進め方などについてミーティングを行います。学習開始後は毎月1度、進捗状況報告書の提出により学習の進み具合などについて報告を求めるとともに、進捗状況報告書にもとづき担当教員との間でミーティングを実施します。 |                  |
| TYPE2,3   | TYPE2,3は、受講申込をうけて選考を行います。受講許可者は授業に出席をしてください。授業は担当教員の学習計画にもとづき実施されますが、実施曜日時限の詳細は初回授業以降、クラスごと決められます。                                         |                  |

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

| 種別 / Kind | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc. |
|-----------|-----------------|-------------------------------|
| レポート      | 50 %            |                               |
| 日常点       | 50 %            |                               |

TYPE1は成果物 (研究レポートまたはそれに代わるもの、研究レポートは8000字(400枚×20枚)を目安にしてください) により成績評価を行います。TYPE2,3は授業出席と授業を通じた学習、およびクラスごとに担当教員が定めた成果物により成績評価を行います。この科目の成績評価はTYPE1,2,3いずれも「P」(合格) または「F」(不合格) で行います。

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

## 教科書 / Textbooks

この科目の申込手続き、クラスごとの内容などの詳細については、募集要項 (掲示および事務室配布) を参照してください。

## 参考書 / Reference Books

## 参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

## その他 / Others

## 企画研究 (自主企画研究) SL

12756

担当者名 / Instructor 奥川 櫻豊彦

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Description

この科目は、学習者自らが「主体的な学びのプロセス」を獲得することを主たる目的としています。

キーワードは「問題を探す」「科学する」「探求する」「参加する」「自ら学ぶ」です。自ら学ぶことにより、必要な学習の仕方、問題の複雑性や変化に対応する的確な感覚、センス、洞察力を獲得していくことを目標としています。与えられた課題やテーマを受動的にこなすのではなく、学習者自身が主体的に学習を企画し、対象者と関わりながら学習を展開させていくことが特徴であり、最も重要なポイントです。

3つのタイプがあり、TYPE1は学習者自らがテーマを決め学習を進める「自主企画・学習型」、TYPE2は担当教員が挙げたテーマについて学習を進める「教員とのコラボレート型」、TYPE3はこの科目に協力いただいている企業・団体・諸機関が挙げたテーマについて学習を進める「企業・団体・機関とのコラボレート型」です。授業内容の詳細は募集要項(掲示および事務室配布)を参照してください。

## 到達目標 / Focus and Goal

TYPE1は、自分で決めたテーマと計画にもとづき作成する成果物(「研究レポート」)の作成を目標とします(研究レポートは8000字(400字×20枚)を目安とします)。学習にあたっては毎月1度、担当教員との間で進捗状況の報告とミーティングを行ってください。

TYPE2,3は、いずれも担当教員が定めた成果物の作成を目標とします(内容の詳細はクラス・担当教員ごとに異なります)。TYPE2,3は授業を実施し、成果物作成にむけたワーキングを行います。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enrolle in, but not required to

## 授業スケジュール / Schedule

| 授業日(第N回) | テーマ / Theme                                                                                                                                | キーワード / Key Word |
|----------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------|
| TYPE1    | TYPE1は、受講申込にあたってテーマ別に担当教員との間で1年間の学習の進め方などについてミーティングを行います。学習開始後は毎月1度、進捗状況報告書の提出により学習の進み具合などについて報告を求めるとともに、進捗状況報告書にもとづき担当教員との間でミーティングを実施します。 |                  |
| TYPE2,3  | TYPE2,3は、受講申込をうけて選考を行います。受講許可者は授業に出席をしてください。授業は担当教員の学習計画にもとづき実施されますが、実施曜日時限の詳細は初回授業以降、クラスごと決められます。                                         |                  |

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

| 種別 / Kind | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc. |
|-----------|-----------------|-------------------------------|
| レポート      | 50 %            |                               |
| 日常点       | 50 %            |                               |

TYPE1は成果物(研究レポートまたはそれに代わるもの、研究レポートは8000字(400枚×20枚)を目安にしてください)により成績評価を行います。TYPE2,3は授業出席と授業を通じた学習、およびクラスごとに担当教員が定めた成果物により成績評価を行います。この科目の成績評価はTYPE1,2,3いずれも「P」(合格)または「F」(不合格)で行います。

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

## 教科書 / Textbooks

この科目の申込手続き、クラスごとの内容などの詳細については、募集要項(掲示および事務室配布)を参照してください。

## 参考書 / Reference Books

## 参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

## その他 / Others

## 企画研究 (自主企画研究) SM

12757

担当者名 / Instructor 文 楚雄

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Description

この科目は、学習者自らが「主体的な学びのプロセス」を獲得することを主たる目的としています。

キーワードは「問題を探す」「科学する」「探求する」「参加する」「自ら学ぶ」です。自ら学ぶことにより、必要な学習の仕方、問題の複雑性や変化に対応する的確な感覚、センス、洞察力を獲得していくことを目標としています。与えられた課題やテーマを受動的にこなすのではなく、学習者自身が主体的に学習を企画し、対象者と関わりながら学習を展開させていくことが特徴であり、最も重要なポイントです。

3つのタイプがあり、TYPE1は学習者自らがテーマを決め学習を進める「自主企画・学習型」、TYPE2は担当教員が挙げたテーマについて学習を進める「教員とのコラボレート型」、TYPE3はこの科目に協力いただいている企業・団体・諸機関が挙げたテーマについて学習を進める「企業・団体・機関とのコラボレート型」です。授業内容の詳細は募集要項(掲示および事務室配布)を参照してください。

## 到達目標 / Focus and Goal

TYPE1は、自分で決めたテーマと計画にもとづき作成する成果物(「研究レポート」)の作成を目標とします(研究レポートは8000字(400字×20枚)を目安とします)。学習にあたっては毎月1度、担当教員との間で進捗状況の報告とミーティングを行ってください。

TYPE2,3は、いずれも担当教員が定めた成果物の作成を目標とします(内容の詳細はクラス・担当教員ごとに異なります)。TYPE2,3は授業を実施し、成果物作成にむけたワーキングを行います。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enrolle in, but not required to

## 授業スケジュール / Schedule

| 授業日(第N回) | テーマ / Theme                                                                                                                                | キーワード / Key Word |
|----------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------|
| TYPE1    | TYPE1は、受講申込にあたってテーマ別に担当教員との間で1年間の学習の進め方などについてミーティングを行います。学習開始後は毎月1度、進捗状況報告書の提出により学習の進み具合などについて報告を求めるとともに、進捗状況報告書にもとづき担当教員との間でミーティングを実施します。 |                  |
| TYPE2,3  | TYPE2,3は、受講申込をうけて選考を行います。受講許可者は授業に出席をしてください。授業は担当教員の学習計画にもとづき実施されますが、実施曜日時限の詳細は初回授業以降、クラスごと決められます。                                         |                  |

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

| 種別 / Kind | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc. |
|-----------|-----------------|-------------------------------|
| レポート      | 50 %            |                               |
| 日常点       | 50 %            |                               |

TYPE1は成果物(研究レポートまたはそれに代わるもの、研究レポートは8000字(400枚×20枚)を目安にしてください)により成績評価を行います。TYPE2,3は授業出席と授業を通じた学習、およびクラスごとに担当教員が定めた成果物により成績評価を行います。この科目の成績評価はTYPE1,2,3いずれも「P」(合格)または「F」(不合格)で行います。

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

## 教科書 / Textbooks

この科目の申込手続き、クラスごとの内容などの詳細については、募集要項(掲示および事務室配布)を参照してください。

## 参考書 / Reference Books

## 参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

## その他 / Others



## 企画研究 (自主企画研究) SN

本文無し

担当者名 / Instructor単位数 / Credit授業の概要 / Course Description到達目標 / Focus and Goal履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to授業スケジュール / Schedule(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment  
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research教科書 / Textbooks参考書 / Reference Books参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Courseその他 / Others

## 企画研究 (自主企画研究) SO

16139

担当者名 / Instructor 荒木 穂積

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Description

この科目は、学習者自らが「主体的な学びのプロセス」を獲得することを主たる目的としています。

キーワードは「問題を探す」「科学する」「探求する」「参加する」「自ら学ぶ」です。自ら学ぶことにより、必要な学習の仕方、問題の複雑性や変化に対応する確かな感覚、センス、洞察力を獲得していくことを目標としています。与えられた課題やテーマを受動的にこなすのではなく、学習者自身が主体的に学習を企画し、対象者と関わりながら学習を展開させていくことが特徴であり、最も重要なポイントです。

3つのタイプがあり、TYPE1は学習者自らがテーマを決め学習を進める「自主企画・学習型」、TYPE2は担当教員が挙げたテーマについて学習を進める「教員とのコラボレート型」、TYPE3はこの科目に協力いただいている企業・団体・諸機関が挙げたテーマについて学習を進める「企業・団体・機関とのコラボレート型」です。授業内容の詳細は募集要項(掲示および事務室配布)を参照してください。

## 到達目標 / Focus and Goal

TYPE1は、自分で決めたテーマと計画にもとづき作成する成果物(「研究レポート」)の作成を目標とします(研究レポートは8000字(400字×20枚)を目安とします)。学習にあたっては毎月1度、担当教員との間で進捗状況の報告とミーティングを行ってください。

TYPE2,3は、いずれも担当教員が定めた成果物の作成を目標とします(内容の詳細はクラス・担当教員ごとに異なります)。TYPE2,3は授業を実施し、成果物作成にむけたワーキングを行います。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

## 授業スケジュール / Schedule

| 授業日(第N回) | テーマ / Theme                                                                                                                                | キーワード / Key Word |
|----------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------|
| TYPE1    | TYPE1は、受講申込にあたってテーマ別に担当教員との間で1年間の学習の進め方などについてミーティングを行います。学習開始後は毎月1度、進捗状況報告書の提出により学習の進み具合などについて報告を求めるとともに、進捗状況報告書にもとづき担当教員との間でミーティングを実施します。 |                  |
| TYPE2,3  | TYPE2,3は、受講申込をうけて選考を行います。受講許可者は授業に出席をしてください。授業は担当教員の学習計画にもとづき実施されますが、実施曜日時限の詳細は初回授業以降、クラスごと決められます。                                         |                  |

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

| 種別 / Kind | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc. |
|-----------|-----------------|-------------------------------|
| レポート      | 50 %            |                               |
| 日常点       | 50 %            |                               |

TYPE1は成果物(研究レポートまたはそれに代わるもの、研究レポートは8000字(400枚×20枚)を目安にしてください)により成績評価を行います。TYPE2,3は授業出席と授業を通じた学習、およびクラスごとに担当教員が定めた成果物により成績評価を行います。この科目の成績評価はTYPE1,2,3いずれも「P」(合格)または「F」(不合格)で行います。

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

## 教科書 / Textbooks

この科目の申込手続き、クラスごとの内容などの詳細については、募集要項(掲示および事務室配布)を参照してください。

## 参考書 / Reference Books

## 参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

## その他 / Others

## 企画研究 (自主企画研究) SP

16140

担当者名 / Instructor 坂本 利子

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Description

この科目は、学習者自らが「主体的な学びのプロセス」を獲得することを主たる目的としています。

キーワードは「問題を探す」「科学する」「探求する」「参加する」「自ら学ぶ」です。自ら学ぶことにより、必要な学習の仕方、問題の複雑性や変化に対応する確かな感覚、センス、洞察力を獲得していくことを目標としています。与えられた課題やテーマを受動的にこなすのではなく、学習者自身が主体的に学習を企画し、対象者と関わりながら学習を展開させていくことが特徴であり、最も重要なポイントです。

3つのタイプがあり、TYPE1は学習者自らがテーマを決め学習を進める「自主企画・学習型」、TYPE2は担当教員が挙げたテーマについて学習を進める「教員とのコラボレート型」、TYPE3はこの科目に協力いただいている企業・団体・諸機関が挙げたテーマについて学習を進める「企業・団体・機関とのコラボレート型」です。授業内容の詳細は募集要項(掲示および事務室配布)を参照してください。

## 到達目標 / Focus and Goal

TYPE1は、自分で決めたテーマと計画にもとづき作成する成果物(「研究レポート」)の作成を目標とします(研究レポートは8000字(400字×20枚)を目安とします)。学習にあたっては毎月1度、担当教員との間で進捗状況の報告とミーティングを行ってください。

TYPE2,3は、いずれも担当教員が定めた成果物の作成を目標とします(内容の詳細はクラス・担当教員ごとに異なります)。TYPE2,3は授業を実施し、成果物作成にむけたワーキングを行います。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enrolle in, but not required to

## 授業スケジュール / Schedule

| 授業日(第N回) | テーマ / Theme                                                                                                                                | キーワード / Key Word |
|----------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------|
| TYPE1    | TYPE1は、受講申込にあたってテーマ別に担当教員との間で1年間の学習の進め方などについてミーティングを行います。学習開始後は毎月1度、進捗状況報告書の提出により学習の進み具合などについて報告を求めるとともに、進捗状況報告書にもとづき担当教員との間でミーティングを実施します。 |                  |
| TYPE2,3  | TYPE2,3は、受講申込をうけて選考を行います。受講許可者は授業に出席をしてください。授業は担当教員の学習計画にもとづき実施されますが、実施曜日時限の詳細は初回授業以降、クラスごと決められます。                                         |                  |

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

| 種別 / Kind | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc. |
|-----------|-----------------|-------------------------------|
| レポート      | 50 %            |                               |
| 日常点       | 50 %            |                               |

TYPE1は成果物(研究レポートまたはそれに代わるもの、研究レポートは8000字(400枚×20枚)を目安にしてください)により成績評価を行います。TYPE2,3は授業出席と授業を通じた学習、およびクラスごとに担当教員が定めた成果物により成績評価を行います。この科目の成績評価はTYPE1,2,3いずれも「P」(合格)または「F」(不合格)で行います。

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

## 教科書 / Textbooks

この科目の申込手続き、クラスごとの内容などの詳細については、募集要項(掲示および事務室配布)を参照してください。

## 参考書 / Reference Books

## 参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

## その他 / Others

## 企画研究 (自主企画研究) SQ

16141

担当者名 / Instructor 坂田 謙司

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Description

この科目は、学習者自らが「主体的な学びのプロセス」を獲得することを主たる目的としています。

キーワードは「問題を探す」「科学する」「探求する」「参加する」「自ら学ぶ」です。自ら学ぶことにより、必要な学習の仕方、問題の複雑性や変化に対応する確かな感覚、センス、洞察力を獲得していくことを目標としています。与えられた課題やテーマを受動的にこなすのではなく、学習者自身が主体的に学習を企画し、対象者と関わりながら学習を展開させていくことが特徴であり、最も重要なポイントです。

3つのタイプがあり、TYPE1は学習者自らがテーマを決め学習を進める「自主企画・学習型」、TYPE2は担当教員が挙げたテーマについて学習を進める「教員とのコラボレート型」、TYPE3はこの科目に協力いただいている企業・団体・諸機関が挙げたテーマについて学習を進める「企業・団体・機関とのコラボレート型」です。授業内容の詳細は募集要項(掲示および事務室配布)を参照してください。

## 到達目標 / Focus and Goal

TYPE1は、自分で決めたテーマと計画にもとづき作成する成果物(「研究レポート」)の作成を目標とします(研究レポートは8000字(400字×20枚)を目安とします)。学習にあたっては毎月1度、担当教員との間で進捗状況の報告とミーティングを行ってください。

TYPE2,3は、いずれも担当教員が定めた成果物の作成を目標とします(内容の詳細はクラス・担当教員ごとに異なります)。TYPE2,3は授業を実施し、成果物作成にむけたワーキングを行います。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enrolle in, but not required to

## 授業スケジュール / Schedule

| 授業日(第N回) | テーマ / Theme                                                                                                                                | キーワード / Key Word |
|----------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------|
| TYPE1    | TYPE1は、受講申込にあたってテーマ別に担当教員との間で1年間の学習の進め方などについてミーティングを行います。学習開始後は毎月1度、進捗状況報告書の提出により学習の進み具合などについて報告を求めるとともに、進捗状況報告書にもとづき担当教員との間でミーティングを実施します。 |                  |
| TYPE2,3  | TYPE2,3は、受講申込をうけて選考を行います。受講許可者は授業に出席をしてください。授業は担当教員の学習計画にもとづき実施されますが、実施曜日時限の詳細は初回授業以降、クラスごと決められます。                                         |                  |

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

| 種別 / Kind | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc. |
|-----------|-----------------|-------------------------------|
| レポート      | 50 %            |                               |
| 日常点       | 50 %            |                               |

TYPE1は成果物(研究レポートまたはそれに代わるもの、研究レポートは8000字(400枚×20枚)を目安にしてください)により成績評価を行います。TYPE2,3は授業出席と授業を通じた学習、およびクラスごとに担当教員が定めた成果物により成績評価を行います。この科目の成績評価はTYPE1,2,3いずれも「P」(合格)または「F」(不合格)で行います。

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

## 教科書 / Textbooks

この科目の申込手続き、クラスごとの内容などの詳細については、募集要項(掲示および事務室配布)を参照してください。

## 参考書 / Reference Books

## 参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

## その他 / Others

## 企画研究 (自主企画研究) SS

16255

担当者名 / Instructor 柳澤 伸司

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Description

この科目は、学習者自らが「主体的な学びのプロセス」を獲得することを主たる目的としています。

キーワードは「問題を探す」「科学する」「探求する」「参加する」「自ら学ぶ」です。自ら学ぶことにより、必要な学習の仕方、問題の複雑性や変化に対応する的確な感覚、センス、洞察力を獲得していくことを目標としています。与えられた課題やテーマを受動的にこなすのではなく、学習者自身が主体的に学習を企画し、対象者と関わりながら学習を展開させていくことが特徴であり、最も重要なポイントです。

3つのタイプがあり、TYPE1は学習者自らがテーマを決め学習を進める「自主企画・学習型」、TYPE2は担当教員が挙げたテーマについて学習を進める「教員とのコラボレート型」、TYPE3はこの科目に協力いただいている企業・団体・諸機関が挙げたテーマについて学習を進める「企業・団体・機関とのコラボレート型」です。授業内容の詳細は募集要項 (掲示および事務室配布) を参照してください。

## 到達目標 / Focus and Goal

TYPE1は、自分で決めたテーマと計画にもとづき作成する成果物(「研究レポート」)の作成を目標とします (研究レポートは8000字(400字×20枚)を目安とします)。学習にあたっては毎月1度、担当教員との間で進捗状況の報告とミーティングを行ってください。

TYPE2,3は、いずれも担当教員が定めた成果物の作成を目標とします (内容の詳細はクラス・担当教員ごとに異なります)。TYPE2,3は授業を実施し、成果物作成にむけたワーキングを行います。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enrolle in, but not required to

## 授業スケジュール / Schedule

| 授業日 (第N回) | テーマ / Theme                                                                                                                                | キーワード / Key Word |
|-----------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------|
| TYPE1     | TYPE1は、受講申込にあたってテーマ別に担当教員との間で1年間の学習の進め方などについてミーティングを行います。学習開始後は毎月1度、進捗状況報告書の提出により学習の進み具合などについて報告を求めるとともに、進捗状況報告書にもとづき担当教員との間でミーティングを実施します。 |                  |
| TYPE2,3   | TYPE2,3は、受講申込をうけて選考を行います。受講許可者は授業に出席をしてください。授業は担当教員の学習計画にもとづき実施されますが、実施曜日時限の詳細は初回授業以降、クラスごと決められます。                                         |                  |

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

| 種別 / Kind | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc. |
|-----------|-----------------|-------------------------------|
| レポート      | 50 %            |                               |
| 日常点       | 50 %            |                               |

TYPE1は成果物 (研究レポートまたはそれに代わるもの、研究レポートは8000字(400枚×20枚)を目安にしてください) により成績評価を行います。TYPE2,3は授業出席と授業を通じた学習、およびクラスごとに担当教員が定めた成果物により成績評価を行います。この科目の成績評価はTYPE1,2,3いずれも「P」(合格) または「F」(不合格) で行います。

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

## 教科書 / Textbooks

この科目の申込手続き、クラスごとの内容などの詳細については、募集要項 (掲示および事務室配布) を参照してください。

## 参考書 / Reference Books

## 参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

## その他 / Others

## 基礎社会学 SA S 社会学概論I SA

12417

担当者名 / Instructor 佐藤 嘉一

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Description

この学部にはさまざまな専門領域があるが、社会学はそれらの専門をより深いレベルで基礎付けている土台の一つであることはまちがいない。産業社会学部の学生は社会学の素養を身につけた上で専門科目やゼミを受講するのが望ましい。

社会学は一言で言うと「個人現象の後ろに隠れている社会的な要因を見つけ出す」ことだと言える。そのために必要な社会学に固有の考え方や問題の立て方を学ぶのがこの基礎社会学である。

領域としては大きくいうと、理論として「社会学理論」と「現代社会論」がある。また主要な領域として「家族」、「地域」、「労働」、「文化」がある。これらを学ぶことで社会学の全体像を講義していく。

## 到達目標 / Focus and Goal

社会学の基礎概念と発想法について学ぶ

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enrolle in, but not required to

1回生後期の受講になる。

## 授業スケジュール / Schedule

| 授業日 (第N回) | テーマ / Theme                                      | キーワード / Key Word |
|-----------|--------------------------------------------------|------------------|
| 1         | 序章 社会学を学ぶにあたって 社会と個人の相互規定関係を中心に                  |                  |
| 2         | 第1章 行為と集団 行為→関係→集団 (組織) →全体 社会という概念の階層性について述べる   |                  |
| 3         | 同上                                               |                  |
| 4         | 第2章 家族と両性関係 制度としての「家」→近代家族 →家族の多様化について考える        |                  |
| 5         | 同上                                               |                  |
| 6         | 第3章 地域と住民関係 条件としての地域と地域住民 主体の相互関係を中心に考える         |                  |
| 7         | 同上                                               |                  |
| 8         | 第4章 仕事と職場関係 よい仕事とは何か、どこにあるのか、キャリアという概念を中心に考える    |                  |
| 9         | 同上                                               |                  |
| 10        | 第5章 現代と若者文化 消費・情報・記号社会における若者文化について考える            |                  |
| 11        | 同上                                               |                  |
| 12        | 第6章 現代社会 (論) 市民社会→大衆社会→脱工業 (ポスト・モダン) 社会の変遷を中心にする |                  |
| 13        | 同上                                               |                  |
| 14        | 全体のまとめ                                           |                  |

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

| 種別 / Kind | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc. |
|-----------|-----------------|-------------------------------|
| 定期試験      | 85 %            | 不合格は15%程度となる                  |
| レポート      | 15 %            | 期間中に1回レポートを課し、評価の参考とする        |
| 日常点       | 0 %             | 出席はとらない                       |

講義の7回目から8回目あたりで簡単なレポートを課す。レポート点は成績に反映される。また定期試験を行う。

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

## 教科書 / Textbooks

飯田哲也編著「基礎社会学講義」学文社、2002

この本は飯田先生が中心になって基礎社会学を担当する教員が協力して編集したものであり、授業はこの本をベースに進めていく。

## 参考書 / Reference Books

参考書はその都度紹介する。

**参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course****その他 / Others**

基礎社会学は3教員が担当する。3人は一つのクラスを第1回目講義から最終回の講義まで一貫して担当する。言い換えると途中で担当者が交代するリレー式ではない。3人は常々連絡を取りながら3クラスに対して同質の講義ができるように心がける。また担当者と受講生との双方向のコミュニケーションを取るよう工夫する。なお、教科書を使うので、レジメの類は原則として配布しない。

## 基礎社会学 SB S 社会学概論I SB

12419

担当者名 / Instructor 辻 勝次

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Description

この学部にはさまざまな専門領域があるが、社会学はそれらの専門をより深いレベルで基礎付けている土台の一つであることはまちがいない。産業社会学部の学生は社会学の素養を身につけた上で専門科目やゼミを受講するのが望ましい。

社会学は一言で言うと「個人現象の後ろに隠れている社会的な要因を見つけ出す」ことだと言える。そのために必要な社会学に固有の考え方や問題の立て方を学ぶのがこの基礎社会学である。

領域としては大きくいうと、理論として「社会学理論」と「現代社会論」がある。また主要な領域として「家族」、「地域」、「労働」、「文化」がある。これらを学ぶことで社会学の全体像を講義していく。

## 到達目標 / Focus and Goal

社会学の基礎概念と発想法について学ぶ

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enrolle in, but not required to

1回生後期の受講になる。

## 授業スケジュール / Schedule

| 授業日 (第N回) | テーマ / Theme                                      | キーワード / Key Word |
|-----------|--------------------------------------------------|------------------|
| 1         | 序章 社会学を学ぶにあたって 社会と個人の相互規定関係を中心に                  |                  |
| 2         | 第1章 行為と集団 行為→関係→集団 (組織) →全体 社会という概念の階層性について述べる   |                  |
| 3         | 同上                                               |                  |
| 4         | 第2章 家族と両性関係 制度としての「家」→近代家族 →家族の多様化について考える        |                  |
| 5         | 同上                                               |                  |
| 6         | 第3章 地域と住民関係 条件としての地域と地域住民 主体の相互関係を中心に考える         |                  |
| 7         | 同上                                               |                  |
| 8         | 第4章 仕事と職場関係 よい仕事とは何か、どこにあるのか、キャリアという概念を中心に考える    |                  |
| 9         | 同上                                               |                  |
| 10        | 第5章 現代と若者文化 消費・情報・記号社会における若者文化について考える            |                  |
| 11        | 同上                                               |                  |
| 12        | 第6章 現代社会 (論) 市民社会→大衆社会→脱工業 (ポスト・モダン) 社会の変遷を中心にする |                  |
| 13        | 同上                                               |                  |
| 14        | 全体のまとめ                                           |                  |

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

| 種別 / Kind | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc. |
|-----------|-----------------|-------------------------------|
| 定期試験      | 85 %            | 不合格は15%程度となる                  |
| レポート      | 15 %            | 期間中に1回レポートを課し、評価の参考とする        |
| 日常点       | 0 %             | 出席はとらない                       |

講義の7回目から8回目あたりで簡単なレポートを課す。レポート点は成績に反映される。また定期試験を行う。

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

## 教科書 / Textbooks

飯田哲也編著「基礎社会学講義」学文社、2002

この本は飯田先生が中心になって基礎社会学を担当する教員が協力して編集したものであり、授業はこの本をベースに進めていく。

## 参考書 / Reference Books

参考書はその都度紹介する。



**参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course****その他 / Others**

基礎社会学は3教員が担当する。3人は一つのクラスを第1回目講義から最終回の講義まで一貫して担当する。言い換えると途中で担当者が交代するリレー式ではない。3人は常々連絡を取りながら3クラスに対して同質の講義ができるように心がける。また担当者と受講生との双方向のコミュニケーションを取るように工夫する。なお、教科書を使うので、レジメの類は原則として配布しない。

## 基礎社会学 SC S 社会学概論I SC

12421

担当者名 / Instructor 飯田 哲也

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Description

この学部にはさまざまな専門領域があるが、社会学はそれらの専門をより深いレベルで基礎付けている土台の一つであることはまちがいない。産業社会学部の学生は社会学の素養を身につけた上で専門科目やゼミを受講するのが望ましい。

社会学は一言で言うと「個人現象の後ろに隠れている社会的な要因を見つけ出す」ことだと言える。そのために必要な社会学に固有の考え方や問題の立て方を学ぶのがこの基礎社会学である。

領域としては大きくいうと、理論として「社会学理論」と「現代社会論」がある。また主要な領域として「家族」、「地域」、「労働」、「文化」がある。これらを学ぶことで社会学の全体像を講義していく。

## 到達目標 / Focus and Goal

社会学の基礎概念と発想法について学ぶ

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enrolle in, but not required to

1回生後期の受講になる。

## 授業スケジュール / Schedule

| 授業日 (第N回) | テーマ / Theme                                      | キーワード / Key Word |
|-----------|--------------------------------------------------|------------------|
| 1         | 序章 社会学を学ぶにあたって 社会と個人の相互規定関係を中心に                  |                  |
| 2         | 第1章 行為と集団 行為→関係→集団 (組織) →全体 社会という概念の階層性について述べる   |                  |
| 3         | 同上                                               |                  |
| 4         | 第2章 家族と両性関係 制度としての「家」→近代家族 →家族の多様化について考える        |                  |
| 5         | 同上                                               |                  |
| 6         | 第3章 地域と住民関係 条件としての地域と地域住民 主体の相互関係を中心に考える         |                  |
| 7         | 同上                                               |                  |
| 8         | 第4章 仕事と職場関係 よい仕事とは何か、どこにあるのか、キャリアという概念を中心に考える    |                  |
| 9         | 同上                                               |                  |
| 10        | 第5章 現代と若者文化 消費・情報・記号社会における若者文化について考える            |                  |
| 11        | 同上                                               |                  |
| 12        | 第6章 現代社会 (論) 市民社会→大衆社会→脱工業 (ポスト・モダン) 社会の変遷を中心にする |                  |
| 13        | 同上                                               |                  |
| 14        | 全体のまとめ                                           |                  |

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

| 種別 / Kind | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc. |
|-----------|-----------------|-------------------------------|
| 定期試験      | 85 %            | 不合格は15%程度となる                  |
| レポート      | 15 %            | 期間中に1回レポートを課し、評価の参考とする        |
| 日常点       | 0 %             | 出席はとらない                       |

講義の7回目から8回目あたりで簡単なレポートを課す。レポート点は成績に反映される。また定期試験を行う。

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

## 教科書 / Textbooks

飯田哲也編著「基礎社会学講義」学文社、2002

この本は飯田先生が中心になって基礎社会学を担当する教員が協力して編集したものであり、授業はこの本をベースに進めていく。

## 参考書 / Reference Books

参考書はその都度紹介する。

**参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course****その他 / Others**

基礎社会学は3教員が担当する。3人は一つのクラスを第1回目講義から最終回の講義まで一貫して担当する。言い換えると途中で担当者が交代するリレー式ではない。3人は常々連絡を取りながら3クラスに対して同質の講義ができるように心がける。また担当者と受講生との双方向のコミュニケーションを取るよう工夫する。なお、教科書を使うので、レジメの類は原則として配布しない。

## 居住環境デザイン論 S S 都市構造論 G S 都市構造論 S

13059

担当者名 / Instructor 乾 亨

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Description

本講義では、一人ひとりにとって居心地のいい居住環境とはどのようなものなのかを明らかにするとともに、そのような環境を創出するための考え方や知恵や技を伝授する。多くの具体的事例を通して、「空間・場（都市・まち）」の質が「ひと」の在り方（社会関係や文化等）を規定し「できごと（生活のドラマ）」を誘発すると同時に、「ひと」の「思い」や「できごと」が「場」に意味を与えるという、「場」と「人」の「創り・創られる」相互浸透的で重層的な関係として「居住環境」を読み解く視点を学んでいく。

講義では、スライド映像等を活用しつつ事例をもとに「見える都市」から「見えない都市」を読み解いていく。知識提供型ではなく、事例を物語りその意味を考えてもらう問題提起型の講義。

## 到達目標 / Focus and Goal

人々が心地よく暮らしうる「場＝居住環境」とはなにかを知り、そのような環境やを創出するための考え方や技を身に付けるための糸口を、事例と園開設を通じて自ら学び、発見する。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

本講義のみで完結する内容ですが、後期におこなう「参加のデザイン論」をあわせて受講することを期待します。より理解の幅が深まるはずで

す。

## 授業スケジュール / Schedule

| 授業日 (第N回) | テーマ / Theme                 | キーワード / Key Word                            |
|-----------|-----------------------------|---------------------------------------------|
| 第1回       | 「居住環境デザイン論」ってなに？「居住環境」ってなに？ | 本授業の視点：「ひと」と「場所＝都市（まち・地域）」の関係論              |
| 第2回       | だから都市はおもしろい その1             | 京都歴史散歩・・・京都は千年の都、万古不易って本当？                  |
| 第3回       | だから都市はおもしろい その2             | 続・京都歴史散歩・・・「都市」の魅力は多層性・多義性にある               |
| 第4回       | だから都市はおもしろい その3             | としはうつろいゆくもの。網目としての都市・自己創出系としての都市＝「まちづくり」の視座 |
| 第5回       | 「都市を創る企て」としての近代都市計画 その1     | 都市計画とはなにか                                   |
| 第6回       | 「都市を創る企て」としての近代都市計画 その2     | 「理想の都市」は創りうるか＝近代都市計画の光と影 (1)                |
| 第7回       | 「都市を創る企て」としての近代都市計画 その3     | 「理想の都市」は創りうるか＝近代都市計画の光と影 (2)                |
| 第8回       | 「都市」の構造を継承するころみ その1         | ここちよい場所をつくる「まちづくり」事例 (1)                    |
| 第9回       | 「都市」の構造を継承するころみ その2         | ここちよい場所をつくる「まちづくり」事例 (2)                    |
| 第10回      | 「都市」の構造を継承するころみ その3         | ここちよい場所をつくる「まちづくり」事例 (3)                    |
| 第11回      | 「都市」(まち)に住み続けるために その1       | 京都の現状・・・京都は住み続けられるまちか？ (1)                  |
| 第12回      | 「都市」(まち)に住み続けるために その2       | 京都の現状・・・京都は住み続けられるまちか？ (2)                  |
| 第13回      | 「都市」(まち)に住み続けるために その3       | 新しい京都の動き                                    |
| 第14回      | まとめ                         |                                             |
| 第15回      | レポート試験                      | 論題は後日提示 (事務室の規定に順ずる)                        |

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

| 種別 / Kind | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc.                                   |
|-----------|-----------------|-----------------------------------------------------------------|
| レポート      | 100 %           | 基本的には提出された「レポート」の質で評価。それなりに厳しく採点します。                            |
| 日常点       | 20 %            | 適宜 (数回／半期)、出席確認を兼ねて感想や質問を提出してもらい、出席率がいい人は「試験にかわるレポート」の評価に加点します。 |

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

知識提供型ではなく、事例を物語りその意味を考えてもらう問題提起型の講義なので、きちんと出席して継続して受講することを望みます。教科書は用いず、適宜レジュメを配布します。

## 教科書 / Textbooks

## 参考書 / Reference Books

## 参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course



## グローバルメディア論Ⅰ マス・コミュニケーション論Ⅰ グローバルメディア論Ⅰ

15074

担当者名 / Instructor 黄 盛彬

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Description

マスコミュニケーション研究の展開および現状について歴史的に検討した上で、近年におけるメディアの資本、活動、そして表象の諸側面におけるグローバル化動向について考察する。国際コミュニケーション状況をめぐる理論パラダイムや諸言説を紹介し、主要な理論上の対立点について、メディアのグローバル化がさらに進んだ今日の視点で再評価する。そして、東アジア地域におけるメディア・文化の越境化動向を、地域固有の状況や最近における社会変動との関連で、分析・考察を行なう。その上で、マスコミュニケーション現象のもたらした近代的現象のひとつとして、「われわれと彼らの認識」すなわち「自画像と他者画像」の問題にも取り組みたい。

## 到達目標 / Focus and Goal

国際コミュニケーション状況をめぐる理論パラダイムや諸言説について理解する。  
東アジア地域におけるメディア・文化の越境化動向およびそれをめぐる言説について、より現実的な認識を獲得し、グローバル化時代における市民的教養を身につける。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enrolle in, but not required to

## 授業スケジュール / Schedule

| 授業日 (第N回) | テーマ / Theme                           | キーワード / Key Word                                                       |
|-----------|---------------------------------------|------------------------------------------------------------------------|
| 1         | イントロ 講義概要の説明                          |                                                                        |
| 2         | 国際コミュニケーション論とグローバリゼーション               | 国際コミュニケーション、グローバリゼーション                                                 |
| 3         | 国際コミュニケーションの理論および動向 1 ー新世界情報秩序論       | 新世界情報秩序 (New World Information Order), ユネスコ、国際連盟、情報の不均衡、第一世界、第三世界、南北問題 |
| 4         | 国際コミュニケーションの理論および動向 2 ー近代化論、相互理解論     | 近代化論、相互理解、文化交流、国民国家、植民地主義、発展                                           |
| 5         | 国際コミュニケーションの理論および動向 3 ー文化帝国主義論およびその批判 | 文化帝国主義論、メディア帝国主義、国家の言説、近代性批判                                           |
| 6         | 国際コミュニケーションの理論および動向 4 ー中心・周辺構造の変化を中心に | メディア経済学、中心と周辺、テレノベラ、言語圏、文化地政学                                          |
| 7         | 国際コミュニケーションの理論および動向 5 ー新たな理論的挑戦       | 文化研究、文化経済 (cultural economy)                                           |
| 8         | 中間総括および討論                             |                                                                        |
| 9         | 東アジアにおけるメディアのトランスナショナル化ーその概観          | グローバル化、トランスナショナル化、越境文化、ポピュラーカルチャー                                      |
| 10        | 「日本発ポピュラー・カルチャー」の東アジアでの受容             | 東アジア、ハリー族、多チャンネル化、オーディエンス、文化の受容                                        |
| 11        | 東アジアにおける「韓流ブーム」の展開と受容                 | 東アジア、韓流、文化の受容、言説                                                       |
| 12        | 国際報道と他者表象ー『「日本」はどう報じられているか』を読む。       | ステレオタイプ、国際報道、メディア・フレーム、オリエンタリズム                                        |
| 13        | スポーツ報道における自画像と他者表象                    | 表象 (representation)、われわれ、ナショナル・アイデンティティ、日本らしさ、オリエンタリズム、ポスト・コロニアル       |
| 14        | 講義総括および質疑応答                           |                                                                        |

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

第一回講義時に各回の文献資料などを明記した詳細な講義計画を配布する。その他、講義の参考書を読み、社会科学や国際情勢についての基本的な教養レベルの知識を習得しておくことが望ましい。国際比較という観点からは、日本のメディア報道だけではなく、それぞれの国家・地域のメディアについても、バランス感覚を持って日常的に接すること。なお、本シラバスの予定は、開講以降に変更される場合があり、たとえば各回の講義も必要に応じて延長したり、授業外学習の指示のみに代替されることがある。

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

| 種別 / Kind | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc. |
|-----------|-----------------|-------------------------------|
| レポート      | 80 %            |                               |
| 日常点       | 20 %            |                               |

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

## 教科書 / Textbooks

## 参考書 / Reference Books

書名 / Title出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment

文化帝国主義

Tomlinson, J., 片岡信訳／青土社／／

日本はどう報じられているか

石澤靖治編著／新潮社／／

サッカーの詩学と政治学

有元健・小笠原博毅編著／人文書院／／

その他、各回の参考文献を開講時に提示する。

参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

その都度、案内する。

その他 / Others

## ケアマネジメント論 S

12987

担当者名 / Instructor 三浦 ふたば

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Description

アメリカにおいて精神障害者を対象に始まったケアマネジメントは、要介護高齢者や障害者等に対する在宅支援の仕組みとして応用され、日本でも社会福祉基礎構造改革の政策動向のもとで着目され、2000年施行の介護保険法を契機に普及しつつある。本講では、まずケアマネジメントの概念を理解し、高齢者・障害者を中心に実践事例を通してケアマネジメントの具体的な展開方法と特徴を学ぶ。併せて、日本の介護保険法下におけるケアマネジメントの現実と課題について論じる。

## 到達目標 / Focus and Goal

- ① ケアマネジメントの概念について理解出来る
- ② 要介護高齢者・障害者の生活支援にケアマネジメントがどのように展開出来るのか理解出来る
- ③ 介護保険法の下でケアマネジメントがどのように展開されているのか理解出来る
- ④ ケアマネジメントの特徴と課題について理解出来る

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enrolle in, but not required to

老人福祉論、障害者福祉論、社会福祉援助技術論を受講していることが望ましい。

## 授業スケジュール / Schedule

| 授業日 (第N回) | テーマ / Theme                      | キーワード / Key Word |
|-----------|----------------------------------|------------------|
| 第1回目      | 講義の概要について、ケアマネジメントとは             |                  |
| 第2回目      | ケアマネジメントの概要① ケアマネジメントの目的         |                  |
| 第3回目      | ケアマネジメントの概要② ケアマネジメントの構造と過程      |                  |
| 第4回目      | ケアマネジメントの概要③ 生活ニーズと資源            |                  |
| 第5回目      | ケアマネジメントの概要④ 地域ネットワーク            |                  |
| 第6回目      | 対象別ケアマネジメント① 高齢者                 |                  |
| 第7回目      | 対象別ケアマネジメント② 障害者、子ども             |                  |
| 第8回目      | 在宅支援とケアマネジメント① 事例を通して実践的な展開方法を学ぶ |                  |
| 第9回目      | 在宅支援とケアマネジメント② 事例を通して実践的な展開方法を学ぶ |                  |
| 第10回目     | 在宅支援とケアマネジメント③ 事例を通して実践的な展開方法を学ぶ |                  |
| 第11回目     | 社会福祉施設におけるケアマネジメント               |                  |
| 第12回目     | 介護保険制度とケアマネジメント①                 |                  |
| 第13回目     | 介護保険制度とケアマネジメント②                 |                  |
| 第14回目     | 海外のケアマネジメント                      |                  |
| 第15回目     | ケアマネジメントの課題、まとめのレポート             |                  |

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

講義の中で随時指示する

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

| 種別 / Kind | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc.    |
|-----------|-----------------|----------------------------------|
| 定期試験      | 50 %            | ケアマネジメントの概要と課題についての理解を中心とした設問    |
| レポート      | 40 %            | 日本における介護保険法下でのケアマネジメントの課題に関するテーマ |
| 日常点       | 10 %            | 質疑などを含めた講義への関心を考慮                |

定期試験として実施。レポート課題については講義の中で提示する。

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

テキストや参考書の他、実践事例集などがたくさん出版されているので参考にしてほしい。

## 教科書 / Textbooks

| 書名 / Title | 出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment |
|------------|----------------------------------------------------------|
| ケアマネジメント論  | 『新版・社会福祉学習双書編集委員会』編／全国社会福祉協議会出版部／4-7935-0788-3／          |

## 参考書 / Reference Books



**書名 / Title****出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment**

利用者のためのケアマネジメント

大野 勇夫／あけび書房／4-87154-024-3／

ケアマネジメント講座①ケアマネジメント概論

白澤 政和、橋本 泰子、竹内 孝仁、編／中央法規出版／4-8058-1913-8／

ケアマネジメント講座②ケアマネジメントの実際  
と展開

同上／同上／4-8058-1914-6／

ケアマネジメント講座③海外と日本のケアマネジ  
メント

同上／同上／4-8058-1915-4／

**参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course**

日本ケアマネジメント学会、日本ケアマネジャー協会のホームページ等を参考にできる

**その他 / Others**

## 経済学理論 S S 経済学理論I S

13064

担当者名 / Instructor 伊藤 正純

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Description

まず現実の経済を認識するための基礎タームである、GDP成長率、国際収支、財政（歳入・歳出）などを説明する。次いで、労使間の分配問題を知るために必要な労働分配率や損益分岐点などを説明する。そして、北欧の経済政策を特徴を知るためレーン・メイドナー・モデルと、その現代版であるエンプロイビリティの形成を重視する生涯学習型雇用政策を説明する。そして最後に、新自由主義を信奉する日本の経済政策の特徴とその問題点を説明する。

## 到達目標 / Focus and Goal

経済理論の基礎タームを説明しながら、日本と北欧との経済システムの違いを明らかにしたい。講義の最終目標は、世界経済フォーラムでのランキングづけで高いと位置づけられた北欧福祉国家の「成長競争力」とは何かを解明することである。それは同時に、ワーク・ライフ・バランスを図りながら、豊かで安全な生活を実現するための経済政策とは何かを考えることでもある。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enrolle in, but not required to

## 授業スケジュール / Schedule

| 授業日 (第N回) | テーマ / Theme       | キーワード / Key Word            |
|-----------|-------------------|-----------------------------|
| 4 / 12    | GDP成長率とは何か        | GDP 国民所得の三面等価 経済統計          |
| 4 / 19    | 成長競争力指数ランキング      | 世界経済フォーラム 成長競争力指数 ビジネス競争力指数 |
| 4 / 26    | 国際収支とは何か          | 為替 円高 円安 購買力平価              |
| 5 / 10    | 財政とは何か            | 歳入 歳出 一般会計 特別会計 国民負担率       |
| 5 / 17    | 労働分配率からみた景気回復     | 利潤 剰余価値 現金給与総額 賃金           |
| 5 / 24    | 損益分配率からみた景気回復     | 損益分岐点 外需主導型経済 内需主導型経済       |
| 5 / 31    | 貯蓄率の低下をどうみるか      | 貯蓄から投資 高齢化                  |
| 6 / 7     | レーン・メイドナー・モデルについて | スウェーデン 積極的労働市場政策 労働組合       |
| 6 / 14    | ケインズの非自発的失業論について  | 経済政策 有効需要論 失業               |
| 6 / 21    | エンプロイビリティについて     | EU雇用戦略 生涯学習                 |
| 6 / 28    | 社会福祉は成長阻害要因か      | 国民負担率 大きな政府 小さな政府           |
| 7 / 5     | 新自由主義思想について       | 市場万能論 古い思想？新しい思想？ 自由とは何か    |
| 7 / 12    | キャッチアップ型ニッポンは貧困社会 | キャッチアップ型経済 貧困な福祉 貧困         |
| 7 / 19    | 日本に必要な経済政策を考える    | ワーク・ライフ・バランス 豊かさとは何か        |
| 7 / 26    | まとめ               |                             |

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

| 種別 / Kind | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc. |
|-----------|-----------------|-------------------------------|
| 定期試験      | 95 %            | 記述式論文試験。持ち込み不可。               |
| その他       | 5 %             | 講義中の感想文提出                     |

受講生の数によるが、人数が少ないようだと、日常点（小テスト）を実施するかもしれない。

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

①社会に対して関心をもつこと。政治・経済に関するニュースも知ろうとすること。②日本の諸制度は日本固有なものであって、日本を延長して、世界を考えないこと。外国に対する関心をもつこと。③新書程度でよいから、毎日持ち歩いて、時間を見つけては読むこと。④インターネットで入手した情報も使うので、インターネットが使えない人は使えるようにしておくこと。⑤講義中の私語は講義妨害であるので、厳しく叱責する。

## 教科書 / Textbooks

## 参考書 / Reference Books

| 書名 / Title      | 出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment |
|-----------------|----------------------------------------------------------|
| スウェーデンにみる個性重視社会 | 二文字理明・伊藤正純編／ 桜井書店／ ISBN4-921190-16-X／                    |
| スウェーデンの労働と産業    | 篠田武司編／ 学文社／ ISBN4-7620-1010-3／                           |
| グローバル化と日本の課題    | 高橋伸彰／ 岩波書店／ ISBN4-00-027049-4／                           |
| その都度、指示する。      |                                                          |

## 参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course



## 芸術社会論 S S 芸術社会論I S

12992

担当者名 / Instructor 乾 亨

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Description

現在の都市像(都心にしろニュータウンにしろ)あるいは建築や芸術はいかにして生まれてきたのか、その姿が過去の(例えば中世の)都市や建築と著しく異なるのはなぜか…本講義では、都市や建築の形(建築様式や都市計画)の変容を、各時代の社会のあり方(政治の仕組みや担い手、経済構造、技術、芸術、思想、生活水準等々)の変化との関連のなかで読み解いていく。

最大の関心は、私たちの今と直結する近代の都市・建築芸術の誕生と近代国家・市民社会との関係であるが、それを理解するためには、それらを産み出したヨーロッパ都市における社会と芸術の関係を、歴史の文脈のなかでとらえておく必要がある。というわけで、本講義では、古代～中世から近代にかけてのヨーロッパ都市社会の発展とそれに伴う建築芸術の変容の流れを概観したうえで、「近代都市」「近代建築」が誕生する様子を学ぶ。

毎回スライドを多用して、都市・建築等を紹介する。

## 到達目標 / Focus and Goal

- ・近代市民・近代国家を理解するうえでの「教養」としてのヨーロッパ都市史・文明史・建築史を学ぶ
- ・現代の地平から、「都市」「市民」概念を育んだヨーロッパ都市の変遷をたどることで、「現代」を考える
- ・ヨーロッパ旅行を10倍面白くする

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enrolle in, but not required to

## 授業スケジュール / Schedule

| 授業日(第N回) | テーマ / Theme           | キーワード / Key Word              |
|----------|-----------------------|-------------------------------|
| 第1回      | 講義の全体像                | 都市・建築様式・技術                    |
| 第2回      | ヨーロッパ文明の基盤            | ローマ・キリスト教・ビザンチン               |
| 第3回      | 都市の変遷と時代精神 その1        | ヨーロッパ文明の危機とロマネスク              |
| 第4回      | 都市の変遷と時代精神 その2        | 都市の時代とゴシック(1)                 |
| 第5回      | 都市の変遷と時代精神            | 都市の時代とゴシック(2)                 |
| 第6回      | 人間中心の時代のはじまり その1      | ルネサンス＝近代へと続く道                 |
| 第7回      | 人間中心の時代のはじまり その2      | マニエリスム                        |
| 第8回      | 宗教改革と反宗教改革            | バロック(1)                       |
| 第9回      | 都市の凋落と国家の台頭           | バロック・ロココ                      |
| 第10回     | 近代国家の誕生               | 鉄とガラスの時代・中世主義・アーツ&クラフト        |
| 第11回     | 世紀末芸術と大衆芸術            | アールヌーボー・アールデコ                 |
| 第12回     | 都市の思想としてのソシアリズム(社会主義) | 都市計画の曙・社会福祉とハウジング             |
| 第13回     | 輝く都市を目指して             | 様々な建築芸術運動とモダニズム・住宅は住むための機械である |
| 第14回     | 輝く都市の光と影・新しいこころみ      | 我々はどこから来たのか・我々はなにか・我々はどこに行くのか |
| 第15回     | レポート試験                | 論題は後日提示(事務室の規定に準じる)           |

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

自分で予習・復習を行って西洋史について多少の知識は得ておくこと

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

| 種別 / Kind | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc.                                  |
|-----------|-----------------|----------------------------------------------------------------|
| レポート      | 100 %           | 基本的には提出された「レポート」の質で評価。それなりに厳しく採点します。                           |
| 日常点       | 20 %            | 適宜(数回/半期)、出席確認を兼ねて感想や質問を提出してもらい、出席率がいい人は「試験にかわるレポート」の評価に加点します。 |

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

## 教科書 / Textbooks

教科書は使わず、適宜レジュメを配布する

## 参考書 / Reference Books

『近代都市計画の起源』ベネヴォロ著・横山正訳 鹿島出版会(絶版)  
他にも講義中、適宜紹介する

## 参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

その他 / Others

## 芸術表現論 S S 芸術表現論I S

13010

担当者名 / Instructor 仲間 裕子

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Description

20世紀前半のドイツの代表的な芸術運動である表現主義とダダ、そして表現主義に先行するヴォルプスヴェーデ派を取り上げ、それぞれの芸術理念を考察する。また、これらの芸術運動のなかでも、とくに女性芸術家のパウラ・モダーゾーン＝ベッカーとハンナ・ヘッヒが果たした役割を明らかにし、彼女たちの作品の解釈と作品に込められたメッセージの読解を試みる。

## 到達目標 / Focus and Goal

20世紀前半のドイツの中心的芸術運動の文化的・社会的時代背景を知る。  
女性芸術家の独創性と表現力を「女性性」から考察し、通例の近代美術史を再検討する。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

## 授業スケジュール / Schedule

| 授業日 (第N回) | テーマ / Theme                | キーワード / Key Word              |
|-----------|----------------------------|-------------------------------|
| 第1回目      | 近代美術史と女性芸術家                | 『美術史をつくった女性たち —モダニズムの歩みのなかで—』 |
| 第2回目      | 芸術家村ヴォルプスヴェーデとハインリヒ・フォーゲラー | 自然主義、メルヒェン、デザイン               |
| 第3回目      | ヴォルプスヴェーデと白樺派              | フォーゲラー、『白樺』、柳宋悦               |
| 第4回目      | パウラ・モダーゾーン＝ベッカー            | 原初的、母と子                       |
| 第5回目      | パウラ・モダーゾーン＝ベッカー            | 原初的、母と子                       |
| 第6回目      | ヴァイマル時代のベルリン               | 表現主義、ダダ、カフェ文化、女性の社会進出         |
| 第7回目      | ドイツ表現主義ブリュッケの自由と解放         | 若者文化、ヌーディズムの伝統、自然主義           |
| 第8回目      | ドイツ表現主義ブリュッケのプリミティヴィズム     | 列強の植民地主義、民族博物館                |
| 第9回目      | ドイツ表現主義ブリュッケと都市文化          | ヴァリエテ、カフェ、レビュー、ジャズ            |
| 第10回目     | ダダ                         | アヴァンギャルド、チューリヒ、デュシャン          |
| 第11回目     | ダダとベルリン                    | 国際ダダ見本市、モンタージュ                |
| 第12回目     | ハンナ・ヘッヒ                    | モンタージュ、異化された身体                |
| 第13回目     | ハンナ・ヘッヒ                    | モンタージュ、異化された身体                |
| 第14回目     | 表現主義、ダダ、そして女性アーティスト        |                               |

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

| 種別 / Kind | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc. |
|-----------|-----------------|-------------------------------|
| 定期試験      | 70 %            |                               |
| 日常点       | 30 %            | コメントなどを課す。                    |

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

ドイツ美術を紹介する美術館展覧会を見ること。  
(例 京都国立近代美術館「エルンスト・バルラハ展」2/21-4/2)

## 教科書 / Textbooks

| 書名 / Title                  | 出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment |
|-----------------------------|----------------------------------------------------------|
| 『美術史をつくった女性たち—モダニズムの歩みのなかで』 | 神林恒道、仲間裕子編／／ISBN4-326-80051-8／女性芸術家の作品から近代美術史を再考察した書。    |

## 参考書 / Reference Books

| 書名 / Title              | 出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment                 |
|-------------------------|--------------------------------------------------------------------------|
| 『ドイツとドイツ美術—やっかいな遺産』     | ハンス・ベルティング著 (仲間裕子訳)／／ISBN4-7710-0999-6／ドイツ美術の受容の歴史の特異性を文化・社会・政治から考察した評論。 |
| 『ドイツ表現主義の世界—美術と音楽をめぐって』 | 神林恒道編／法律文化社／ISBN4-589-01837-3／                                           |
| 『ドイツ表現主義の芸術』            | 土肥美夫著／岩波書店／ISBN4-00-001505-2／ドイツ美術、美学の多数の研究者が執筆したドイツ表現主義の専門書。            |

参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

教員との連絡方法

その他 / Others

## 計量社会学 S S 計量社会学I S

13088

担当者名 / Instructor 奥川 櫻豊彦

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Description

本科目では、社会学方法論のなかでも特に、量的調査データ、官庁統計やマクロデータ分析を中心に展開される。ツールとしてSPSSの統計解析ソフトプログラムを用いる。社会学方法論の視点 - つまり、"一本の木ではなく、全体の森のかたちを描くように" - から、変数の度数分布、クロス集計表、比例尺度の変数を用いた相関係数、分散分析等の統計解析技法が使えるように実習形式で取り組む。

## 到達目標 / Focus and Goal

分析結果を論理的に「報告書」にまとめられる力を養成すること。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

1回生時に、「情報処理」(SPSS)を履修しておくことが望ましい。なぜなら、本科目はSPSSの知識があるとの前提で実習が行われ、SPSS操作の指導に関わる時間的余裕がないから。

## 授業スケジュール / Schedule

| 授業日 (第N回) | テーマ / Theme                    | キーワード / Key Word |
|-----------|--------------------------------|------------------|
| 1         | 科目ガイダンス: 受講生の受講データ用紙記入         |                  |
| 2         | 社会学方法論 - 質的方法と量的方法、質的データと量的データ |                  |
| 3         | 社会学方法論 - 因果関係と相関関係、疑似相関と媒介変数   |                  |
| 4         | データファイルサーチ① 実際に用いられた社会調査のデータ例  |                  |
| 5         | データファイルサーチ② 官庁統計のデータファイル       |                  |
| 6         | データ解析の手法① - 度数分布               |                  |
| 7         | データ解析の手法② - クロス表               |                  |
| 8         | データ解析の手法③ - 多重回答のクロス表          |                  |
| 9         | データ解析の手法④ - 3重クロス表             |                  |
| 10        | データ解析の手法⑤ - 散布図、相関係数、相関表       |                  |
| 11        | データ解析の手法⑥ - 分散分析               |                  |
| 12        | 分析報告書の書き方① 図・表の作成              |                  |
| 13        | 報告書の書き方② 分析結果の書き方              |                  |
| 14        | 受講生による分析報告のプレゼンテーション           |                  |

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

| 種別 / Kind | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc. |
|-----------|-----------------|-------------------------------|
| レポート      | 40 %            | 分析レポート                        |
| 日常点       | 60 %            | 実習課題①20%、実習課題②20%、実習課題③20%    |

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

実習課題は、各自が授業以外の時間を確保し、取り組むことになります。

## 教科書 / Textbooks

西田晴彦・新睦人「社会調査の理論と技法(Ⅰ)」(川島書店、1976年)  
SPSSのマニュアル関係は、授業で紹介する予定。

## 参考書 / Reference Books

必要に応じて紹介していく。

## 参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

## その他 / Others



## 計量社会学 SB

16401

担当者名 / Instructor 奥川 櫻豊彦

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Description

本科目では、社会学方法論のなかでも特に、量的調査データ、官庁統計やマクロデータ分析を中心に展開される。ツールとしてSPSSの統計解析ソフトプログラムを用いる。社会学方法論の視点 - つまり、"一本の木ではなく、全体の森のかたちを描くように" - から、変数の度数分布、クロス集計表、比例尺度の変数を用いた相関係数、分散分析等の統計解析技法が使えるように実習形式で取り組む。

## 到達目標 / Focus and Goal

分析結果を論理的に「報告書」にまとめられる力を養成すること。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

1回生時に、「情報処理」(SPSS)を履修しておくことが望ましい。なぜなら、本科目はSPSSの知識があるとの前提で実習が行われ、SPSS操作の指導に関わる時間的余裕がないから。

## 授業スケジュール / Schedule

| 授業日 (第N回) | テーマ / Theme                    | キーワード / Key Word |
|-----------|--------------------------------|------------------|
| 1         | 科目ガイダンス: 受講生の受講データ用紙記入         |                  |
| 2         | 社会学方法論 - 質的方法と量的方法、質的データと量的データ |                  |
| 3         | 社会学方法論 - 因果関係と相関関係、疑似相関と媒介変数   |                  |
| 4         | データファイルサーチ① 実際に用いられた社会調査のデータ例  |                  |
| 5         | データファイルサーチ② 官庁統計のデータファイル       |                  |
| 6         | データ解析の手法① - 度数分布               |                  |
| 7         | データ解析の手法② - クロス表               |                  |
| 8         | データ解析の手法③ - 多重回答のクロス表          |                  |
| 9         | データ解析の手法④ - 3重クロス表             |                  |
| 10        | データ解析の手法⑤ - 散布図、相関係数、相関表       |                  |
| 11        | データ解析の手法⑥ - 分散分析               |                  |
| 12        | 分析報告書の書き方① 図・表の作成              |                  |
| 13        | 報告書の書き方② 分析結果の書き方              |                  |
| 14        | 受講生による分析報告のプレゼンテーション           |                  |

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

| 種別 / Kind | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc. |
|-----------|-----------------|-------------------------------|
| レポート      | 40 %            | 分析レポート                        |
| 日常点       | 60 %            | 実習課題①20%、実習課題②20%、実習課題③20%    |

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

実習課題は、各自が授業以外の時間を確保し、取り組むことになります。

## 教科書 / Textbooks

西田晴彦・新睦人『社会調査の理論と技法(Ⅰ)』(川島書店、1976年)  
SPSSのマニュアル関係は、授業で紹介する予定。

## 参考書 / Reference Books

必要に応じて紹介していく。

## 参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

## その他 / Others

## 言語コミュニケーション論 S S 言語コミュニケーション論 S

15122

担当者名 / Instructor 久津内 一雄

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Description

## 言語コミュニケーション論テーマ

- (1)近代言語学 (= ソシュール言語学) がよりどころにしたものとはいったい何か？なぜ、このことが現代言語学だけに止まらず、現代思想の潮流に途方もない影響を与えることになったのか？
- (2)ことばはなぜ変化するのか？また、これと関わって国家語イデオロギーと言語規範とは、機能的にどういうことを意味するのか？
- (3)「母語」を同じくする「言語共同体」が「心理共同体」や「精神共同体」や「運命共同体」と呼ばれるのはなぜか？
- (4)なぜ、「純粋言語」というモデルは、歴史の事実を離れて頭の中だけにのみ存在する架空の虚構でしかないのか？
- (5)言語とはいったい何か？言語は本当にコミュニケーションの道具か？

以上のテーマを言語「ラング」の「恣意性」の観点 (= 「言語相対主義」の観点) から考えていく。

## 到達目標 / Focus and Goal

- ①言語を巡る諸問題の整理・把握
- ②近代言語学の祖ソシュールからチョムスキーから社会言語学に至る言語学史の整理・把握
- ③言語学の文化論的・記号論的展開の整理・把握

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

## 授業スケジュール / Schedule

| 授業日 (第N回) | テーマ / Theme                                          | キーワード / Key Word |
|-----------|------------------------------------------------------|------------------|
| 第1回～第4回   | 近代言語学理論→ ソシュール言語学                                    |                  |
| 第5回       | 近代言語学理論→ ソシュール言語学からチョムスキー論<br>理言語学と社会言語学への系譜         |                  |
| 第6回～第8回   | 言語と社会・国家→言語相対論／ピジン語とクレオール語／国家語イデオロギーと言語規範            |                  |
| 第9回～第11回  | 言語と文化・思想→クロード・レヴィ＝ストロース／ロラン・バルト／ジャック・ラカン／ヴィットゲンシュタイン |                  |
| 第12回～第13回 | まとめ講義                                                |                  |
| 第14回      | 定期試験                                                 |                  |

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

| 種別 / Kind         | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc. |
|-------------------|-----------------|-------------------------------|
| 定期試験              | 100 %           |                               |
| 定期試験として実施。論述問題1問。 |                 |                               |

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

## 教科書 / Textbooks

## 参考書 / Reference Books

## ●入門参考書ベスト3

▼橋爪大三郎著、『はじめての構造主義』(講談社現代新書898)、講談社、1988年。ISBN4-06-148898-8

ともかくわかり易い。入門参考書としてはハイ・クオリティーである。著者の立場は、システム論的社会学。

▼田中克彦著、『言語学とは何か』(岩波新書303)、岩波書店、1993年。ISBN4-00-430303-6

ソシュールの思想自体についてはもっとよい本があるが、20世紀的な言語「構造」の考え方の潮流を知るにはこれが一番だと思う。著者の立場は社会言語学なので、ソシュールの言語思想が、妙に神秘化されていないところがお勧めで、普遍文法、歴史言語学、変形生成文法などへの言及もある。

▼立川健二、山田広昭共著、『現代言語論 ソシュール・フロイト・ヴィットゲンシュタイン』(ワードマップ・シリーズ) 新曜社、1990年。ISBN4-7885-0372-7

この本の主題は、言語論／言語哲学である。構造主義と密接な関係にある、記号論／記号学の潮流を理解するにはよい本である。「哲学の言語論的展開」といわれる、ヴィットゲンシュタイン～言語行為論への潮流は、直接構造主義には関わってこないけれど、記号論／記号学を媒介にして観ると、同じ関心への別アプローチ、とも見える。

## 参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

## その他 / Others

## 言語表現論 S S 言語表現論 I S

13018

担当者名 / Instructor 瀧本 和成

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Description

＜明治期の文学と社会－森鷗外の現代小品を中心に＞明治40年代に発表された森鷗外の現代小品は、日露戦後の社会・文壇・出版界に対し、独特の比喩（暗喩）と諷刺を織り交ぜながら構成され、展開している。本講義では、＜小品＞というジャンルに照明を当てつつ、作品のもつ詩的要素や表現の面白さからダイナミズムに至るまで当時の時代・社会状況、芸術環境を視野に入れながら読み進め、鑑賞して行きたい。時代を照射する森林太郎の鋭利な眼差しに触れると共に、繊細で優しい登場人物たちに出逢ってください。

## 到達目標 / Focus and Goal

比喩（暗喩・隠喩）と諷刺を理解し、字間（行間）を読みとることの重要性を知る。  
表現（form）と意味（idea）の関係を明らかにすること。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enrolle in, but not required to

明治文学史Ⅲ・Ⅳ  
文学と社会

## 授業スケジュール / Schedule

| 授業日（第N回） | テーマ / Theme             | キーワード / Key Word |
|----------|-------------------------|------------------|
| 第1回目     | 森鷗外の文学・明治40年代現代小品の特徴（1） | 鷗外の一生（文学者として）    |
| 第2回目     | 森鷗外の文学・明治40年代現代小品の特徴（2） | 鷗外文学の特徴          |
| 第3回目     | 森鷗外の文学・明治40年代現代小品の特徴（3） | 明治40年代の文学の特徴     |
| 第4回目     | 「沈黙の塔」を読む（1）            | ニイチェの影響          |
| 第5回目     | 「沈黙の塔」を読む（2）            | 朝日新聞の影響          |
| 第6回目     | 「沈黙の塔」を読む（3）            | 大逆事件の影響          |
| 第7回目     | 「大発見」を読む（1）             | S. A. 閣下と青木周蔵    |
| 第8回目     | 「大発見」を読む（2）             | 鷗外と自然主義文壇        |
| 第9回目     | 「大発見」を読む（3）             | 「2×2＝5」、「七死刑囚物語」 |
| 第10回目    | 「藤棚」を読む（1）              | 秀麿と家族            |
| 第11回目    | 「藤棚」を読む（2）              | 秀麿と綾小路           |
| 第12回目    | 「藤棚」を読む（3）              | ！邸宅での音楽会         |
| 第13回目    | 現代小品の位置付けと意義（1）         | 現代小品というジャンル      |
| 第14回目    | 現代小品の位置付けと意義（2）         | 現代小品というジャンル      |
| 第15回目    | 現代小品の位置付けと意義（3）         | 現代小品というジャンル      |

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

講義で取り上げる作品は丁寧に読むこと。

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

| 種別 / Kind | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc. |
|-----------|-----------------|-------------------------------|
| 定期試験      | 90 %            |                               |
| 日常点       | 10 %            |                               |

定期試験の成績を主とし、これに出席等を加味して総合評価する。

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

鷗外が文学を通してこの国の近代化を進めるためにどのような問題に直面し、そしてどのように解決しようとしたのか、どのような問題を課題として後世の人々に遺したのか。21世紀を生きる私たちが今一度立ち止まり、再考する。

## 教科書 / Textbooks

| 書名 / Title  | 出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment |
|-------------|----------------------------------------------------------|
| 『森鷗外 現代小品集』 | 瀧本和成編／晃洋書房／4-7710-1541-4 C3095／2004・5刊                   |

テキストを中心に講義を進めていくが、必要資料はその都度配布する。

## 参考書 / Reference Books

| 書名 / Title | 出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment |
|------------|----------------------------------------------------------|
| 『明治文学史』    | 上田博・瀧本和成編／晃洋書房／4-7710-1060-9 C3091／1998・11刊              |

## 参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course



## 現代家族論 S

12976

担当者名 / Instructor 松島 京

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Description

少子高齢化の進行を中心とした社会の生活構造の変動にともない、家族のあり方や個人の生活スタイルは変化しつつある。こうしたことから、現代日本社会は「家族の崩壊」「家族の危機」を迎えているといわれている。しかし果たしてそうなのだろうか。

「家族」は私たちにとって身近な生活空間であり他者との関係を形成する場である。現代社会における家族に対するまなざしを識るには、私たちが当たり前のように思っている「家族」の成立と変化の過程を知ることから始まる。家族と家族をとりまく現代的なテーマをもとに、これからの家族について考えていく。

## 到達目標 / Focus and Goal

社会と家族の関係について理解することができる

家族問題について考える際の社会的視点を獲得することができる

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

## 授業スケジュール / Schedule

| 授業日 (第N回) | テーマ / Theme                    | キーワード / Key Word                |
|-----------|--------------------------------|---------------------------------|
| 第1回       | はじめに：生活空間としての家族                |                                 |
| 第2回       | 現代家族の形成 (1)：家族の変容              | ライフコース、ライフスタイル                  |
| 第3回       | 現代家族の形成 (2)：近代国家と近代家族          | 近代国家、近代家族                       |
| 第4回       | 現代家族の形成 (3)：恋愛と結婚              | ジェンダー、セクシュアリティ、ロマンティック・ラブ、親密性   |
| 第5回       | 現代家族の形成 (4)：企業社会の形成と性別役割分業の進展  | 公的領域、私的領域、性別役割分業                |
| 第6回       | 現代家族の形成 (5)：少子高齢社会の進行          | 出生率の低下、未婚・非婚化、晩婚化、夫婦の出生力の低下     |
| 第7回       | 少子高齢社会と現代家族 (1)：子育てと親子関係       | 子育て支援、子育ての社会化、ワーク・ライフ・バランス      |
| 第8回       | 少子高齢社会と現代家族 (2)：高齢者と介護         | 介護保険制度、介護の社会化、高齢者世帯の増加、孤立化      |
| 第9回       | 少子高齢社会と現代家族 (3)：日本型福祉国家と生活保障   | 福祉国家、社会保障制度                     |
| 第10回      | 現代家族を考える視点 (1)：家族における暴力        | DV (ドメスティック・バイオレンス)、子ども虐待、高齢者虐待 |
| 第11回      | 現代家族を考える視点 (2)：ケア労働とアンペイドワーク   | ケア労働、アンペイドワーク、ローペイドワーク、感情労働     |
| 第12回      | 現代家族を考える視点 (3)：消費社会と個人化        | 個人化、高度情報化社会                     |
| 第13回      | 現代家族を考える視点 (4)：グローバリゼーションと地域社会 | グローバリゼーション、地域連帯                 |
| 第14回      | おわりに：あらためて家族とは                 |                                 |

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

| 種別 / Kind | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc.                  |
|-----------|-----------------|------------------------------------------------|
| 定期試験      | 70 %            | 論述試験。講義内容について総合的に理解し、自分なりの考えを持つことができているかを評価する。 |
| 日常点       | 30 %            | 講義中にいくつかの小レポートを課す。                             |

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

講義スケジュールは目安である。現代的なテーマを持つ講義なので、時事問題を組み込んでいくこともある。その際はスケジュールが若干変動する場合もある。

## 教科書 / Textbooks

指定しない。必要な資料は講義中に適宜配布する。

## 参考書 / Reference Books

講義中に必要に応じて紹介する。

参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

講義中に必要に応じて紹介する。

その他 / Others

## 現代企業論Ⅱ 企業社会論Ⅱ

15196

担当者名 / Instructor 櫻井 純理

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Description

企業活動や株主構造がグローバル化するなかで、日本企業における労働のありかたは大きな変化を見せている。なかでも、若年層におけるフリーターの増大や、パートタイマー、派遣・請負労働者などの非正社員の急増は、経済のみならず社会の諸側面に多大な影響を及ぼす変化であるといえる。この授業では、転換期にある企業労働の実態を多様な側面から検討し、現代日本社会における労働の問題点について考えていく。授業はレジュメやビデオ教材を使用した講義中心で進めるが、なるべく受講者の意見を聴く機会を設けたい。

## 到達目標 / Focus and Goal

社会人になる前に、必要最低限の労働（に関わる権利）についての知識を身につけること。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

特になし。

## 授業スケジュール / Schedule

| 授業日 (第N回) | テーマ / Theme                  | キーワード / Key Word                        |
|-----------|------------------------------|-----------------------------------------|
| 第1回       | 賃金制度の枠組み：給料はどうやって決まるのか？      | 職能賃金、職務賃金、評価制度、昇進・昇格                    |
| 第2回       | 賃金制度の変化：年功賃金から成果主義へ？         | 年功賃金、成果主義、コンピテンシー、年俸制、FA制度              |
| 第3～4回     | 長期雇用慣行と解雇規制：終身雇用は終わったか？      | 終身雇用、リストラ、企業再編、付加給付、解雇規制、整理解雇の四要件       |
| 第5～6回     | 企業内キャリア形成とキャリア・アンカー：働く目標はなに？ | 新時代の日本的経営、ジェネラリスト、スペシャリスト、キャリア・アンカー     |
| 第7～9回     | 非正規雇用の増大：働き方は「多様化」しているか？     | パートタイマー、労働者派遣、業務請負、個人事業主、ペイ・エクイティ、間接性差別 |
| 第10回      | 若者の雇用：フリーターは「自由」か？           | フリーター、無業者、ジョブカフェ、ヤングジョブスポット             |
| 第11～12回   | 長時間労働と過労死：労働時間の「弾力化」は得か損か？   | 長時間労働、サービス残業、変形労働時間、裁量労働、過労死・過労自殺       |
| 第13～14回   | 株主資本主義と労働の二極化：会社は誰のものか？      | コーポレート・ガバナンス、外部労働市場、エンプロイアビリティ          |
| 第15回      | 定期試験                         |                                         |

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

| 種別 / Kind | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc.                         |
|-----------|-----------------|-------------------------------------------------------|
| 定期試験      | 70 %            | 講義内容に関する理解と見識を問う試験を実施する。                              |
| レポート      | 20 %            | 授業内容に関連したテーマを設定し、レポートを作成してもらう。レポートとしての形式と内容の両面から評価する。 |
| 日常点       | 10 %            | 講義内容に関連した意見、感想などを授業時間中に記入、提出してもらう。授業への積極的な参加の姿勢を見る。   |

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

## 教科書 / Textbooks

| 書名 / Title       | 出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment |
|------------------|----------------------------------------------------------|
| 何がサラリーマンを駆りたてるのか | 櫻井純理／学文社／4-7620-1110-X／                                  |

## 参考書 / Reference Books

| 書名 / Title       | 出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment |
|------------------|----------------------------------------------------------|
| 雇用の未来            | ピーター・キャベリ／日本経済新聞社／4-532-14925-8／                         |
| はたらく若者たち 1979～81 | 後藤正治／岩波現代文庫／4-00-603101-7／                               |
| その他は授業中に随時紹介する。  |                                                          |

## 参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

授業内容に応じて随時紹介する。

## その他 / Others

## 現代経済論 S S 現代経済論I S

13074

担当者名 / Instructor 松葉 正文

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Description

現代日本経済分析をテーマとし、はじめに方法として「市民社会と企業社会」について考えたうえで、1990年以降のバブル崩壊不況など、文字通りの「現局面」分析を行なう。

本科目は、もちろん独立した科目であるが、私のもう1つの担当科目「日本経済論」と連結しておりその前半部分にあたる。

## 到達目標 / Focus and Goal

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enrolle in, but not required to

## 授業スケジュール / Schedule

| 授業日 (第N回) | テーマ / Theme    | キーワード / Key Word |
|-----------|----------------|------------------|
| 1.        | はじめにー問題の所在     |                  |
| 2.        | 日本経済の概況        |                  |
| 3.        | 「高度成長」と企業社会の成立 |                  |
| 4.        | 企業社会と市民社会      |                  |
| 5.        | 市民社会の概念規定      |                  |
| 6.        | 大企業体制の2類型      |                  |
| 7.        | 貿易関係と資本の対外的展開  |                  |
| 8.        | 同上 (2)         |                  |
| 9.        | 不良債権問題の経過と問題点  |                  |
| 10.       | 同上 (2)         |                  |
| 11.       | 六大企業集団と法人資本主義  |                  |
| 12.       | 同上 (2)         |                  |
| 13.       | 日本的経営について      |                  |
| 14.       | まとめ            |                  |
| 15.       | 定期試験           |                  |

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment  
 (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

| 種別 / Kind | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc. |
|-----------|-----------------|-------------------------------|
| 定期試験      | 100 %           |                               |

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

## 教科書 / Textbooks

松葉正文『現代日本経済論：市民社会と企業社会の間』晃洋書房。

## 参考書 / Reference Books

授業中に適時紹介する。

## 参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

## その他 / Others



## 現代産業論 S S 現代産業論I S

13078

担当者名 / Instructor 小野 秀生

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Description

現代社会は、国際化、情報化、サービス化の真直中にある。その土台となり、基軸七つているのが、諸般の産業活動である。本講義は、このように変化する現代社会の産業活動を、総合的かつ包括的に分析するために必要となる理論と方法を学習し、これをもとに現代産業の構造とその発展方向を解明する。とくに現代日本の産業活動の具体的内実注目し、ここに主眼をおいた分析を進める。

## 到達目標 / Focus and Goal

将来自分が就きたい職業や職種、産業の課題を発見し、課題解決の内容や方法を調査研究でき、話し合ったり発表できる要素を身につけてもらいたい。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

都度、資料配布して講義をするので、欠席のないよう受講を求めたい。また、今日的な課題も扱うので、新聞の切抜きなど産業をめぐる独自の情報の収集を薦めたい。

## 授業スケジュール / Schedule

| 授業日 (第N回) | テーマ / Theme           | キーワード / Key Word               |
|-----------|-----------------------|--------------------------------|
| 第1回       | 現代産業論の課題と構成           | 国際分業、富の生産・分配・支出の秩序             |
| 第2回       | 資本主義の発展と生産概念の展開       | 社会的分業、経済主体、資本主義の生産活動、工場制       |
| 第3回       | 技術・資料と労働、労働編成と労働過程    | 産業革命、産業資本、機械と人間                |
| 第4回       | 資本＝企業の蓄積と競争関係         | 資本蓄積、企業形態、独占と競争                |
| 第5回       | 社会的分業と産業構造            | 産業構造、産業組織、経済循環                 |
| 第6回       | 産業関連とビッグビジネス          | 産業構造の高度化、独占・寡占とビッグビジネス         |
| 第7回       | 技術革新とプロダクト・サイクル       | イノベーション、テクノロジー移転とギャップ          |
| 第8回       | 産業活動とポリシー・ミックス        | 比較生産費、マクロ経済・産業政策               |
| 第9回       | 日本の産業発展と蓄積モデル         | 産業発展の軌跡、加工貿易方式                 |
| 第10回      | 現代産業の情報化とサービス化        | 情報化、サービス化、自由化、金属化              |
| 第11回      | 産業発展と資源・環境問題          | 成長の限界、持続可能な開発、共生・環境型産業         |
| 第12回      | 現代産業の国際的展開とWTO体制      | 地域開発、GATTからWTO、多国籍企業化          |
| 第13回      | 日本産業の国際化と東アジア経済       | 多国籍企業、アジアNIES、ASEAN、東アジア共同体    |
| 第14回      | 21世紀の産業展開・・・その理論と政策課題 | 産業「空洞化」、新産業創造、グローバリズムと反グローバリズム |
| 第15回      | 定期試験                  |                                |

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

関心のある業種、産業別情報を新聞切り抜きで収集すること。

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

| 種別 / Kind | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc.      |
|-----------|-----------------|------------------------------------|
| 定期試験      | 100 %           | 基本的に試験結果により評価するが、受講状態の中で必要な方法を考えたい |

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

## 教科書 / Textbooks

特に指定しない

## 参考書 / Reference Books

講義中に都度紹介する

## 参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

www.meti.go.jp/policy/trade-policy/ (「通商白書2005」)

## その他 / Others

## 現代史ⅡⅡ 産業発達史ⅡⅡ

14988

担当者名 / Instructor 伊藤 武夫

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Description

テーマ:世界史における現在。現代はグローバル化の時代といわれる。多面的な異文化交流が繰り返される一方、人種・民族・宗教問題、あるいは地域間経済格差の拡大などを背景とした戦争・内紛が絶えない。この講義では、そのような現代世界がどのように形成され、今日が人類史上、どのような位置にあるかを、およそ過去500年の近現代史を振り返りつつ考えていきたいと思う。そのうえで、世界史の視点から、今日の日本の教育・福祉・労働環境をめぐる諸問題と今後の課題を検討していきたい。

## 到達目標 / Focus and Goal

今日の政治的・経済的・文化的な諸国際機関の役割と国民国家および地域社会との重層的な構造的連関を理解すること。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

特に希望はない。

## 授業スケジュール / Schedule

| 授業日 (第N回) | テーマ / Theme          | キーワード / Key Word           |
|-----------|----------------------|----------------------------|
| 9月26日     | 近代世界の成立と国民国家         | 地理上の発見 国民国家の誕生             |
| 10月3日     | 資本主義世界システムの展開と産業革命   | 産業革命 バックス・ブリタニカ            |
| 10月10日    | 第1次世界大戦前夜            | 三国同盟と三国協商 近代科学の思想 19世紀末の文化 |
| 10月17日    | 第1次世界大戦の勃発と戦争の長期化    | 総力戦体制 日本の対応                |
| 10月24日    | 終戦と新しい世界秩序           | ヴェルサイユ体制とワシントン会議           |
| 10月31日    | 1920年代のヨーロッパと日本      | フランスの外交努力 日本の大陸政策          |
| 11月7日     | 世界恐慌とドイツ・イタリアおよびスペイン | ファシズムの台頭 スターリン体制           |
| 11月14日    | 戦間期のアジア諸地域           | 中東と石油開発 アラブの独立運動 シオニズム     |
| 11月21日    | 第二次世界大戦とその帰結         | 日本の総力戦                     |
| 11月28日    | 東西冷戦体制と戦後復興          | 国際連合 マーシャル・プラン 1955年体制     |
| 12月5日     | ラテンアメリカとアメリカ合衆国      | 移民社会 開発と国際協力               |
| 12月12日    | アジアの復活、そして日本         | 脱植民地主義 工業化                 |
| 12月19日    | 先進工業諸国の福祉、労働         | 社会保障制度、先進国病                |
| 1月9日      | 教育・文化をめぐる先進国と途上国     | 少子化 グローバル・メディア             |
| 1月16日     | 現代世界とモダニティの変容        | 環境 人権 平和の問題                |

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

| 種別 / Kind | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc. |
|-----------|-----------------|-------------------------------|
| 定期試験      | 80 %            |                               |
| レポート      | 20 %            | 4回ほどコミュニケーション・ペーパーを介した応答を実施   |

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

現代史は、扱う範囲が広く、どこかを重点的に学習すれば単位が取得できるという科目ではない。講義は、現代社会に生起している諸問題を考える視点や射程を提供するもので、講義で話題にしたことについて、それに関連する書籍・文献を独自に読み進め、理解を深める学習を切に希望する。

## 教科書 / Textbooks

| 書名 / Title | 出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment |
|------------|----------------------------------------------------------|
| 概説 現代世界の歴史 | ウィリアム・ウッドラフ／ミネルヴァ書房／一度、通読されることを薦める                       |
| 現代史序説      | G・バグラフ／岩波書店／一度、通読することを薦める                                |
| 昭和史 全2巻    | 中村隆英／東洋経済新報社／日本の戦後史の概説書                                  |

毎回、レジュメにて、講義に関連する文献を紹介する。

## 参考書 / Reference Books

| 書名 / Title | 出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment |
|------------|----------------------------------------------------------|
| イングランド社会史  | エイザ・ブリッグズ／筑摩書房／4-480-85758-3／通読することを薦める                  |

講義のなかで、適宜、紹介する。

参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

最近、歴史に関する用語やキー概念を、サーチ・エンジンに入力すれば、関連する用語解説が簡単に検索できるので、まずはどのような用語でも良いから検索してみることである。

その他 / Others

## 現代市民社会論 S S 住民自治論 S

15054

担当者名 / Instructor 篠田 武司

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Description

市民社会についての議論が近年大きくクローズアップされています。それは、これまで国家がもたらした公共性の名のもとに経済的にも社会的にも大きな影響力を社会に与えてきたことに対して疑問が山積みになっているからです。といて、国家がやってきたことを民間企業に任せるのでは利潤主義に走りかねないので社会にとっては困ります。福祉事業などをみればこの点明らかです。したがって、国家や企業だけでなく、市民社会を育てながら新たな公共性を作り上げ、協治のシステムを作り上げていくことが可能なかどうか議論されはじめています。では、市民社会はどのような原理でもって作られるべきなのでしょう。これまで多くの人が、この原理について議論してきました。それは、近代社会が始まって以降現代にいたるまで続いています。本講義では、ルソーから始まり、ハーバマス、パットナムにいたる議論を見ながら、社会とは一体どのような原理で形成されているのかを考えていきます。

## 到達目標 / Focus and Goal

- 1) 近代(市民)社会形成の原理が何であったのかを、ルソー、スミスをといて理解すること
- 2) 現代(市民)社会の構成原理をハーバマス、パットナム、ハーストをといて理解すること
- 3) 現代社会において自明としている社会・人間観を懐疑し、再考すること

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

社会経済学  
社会倫理

## 授業スケジュール / Schedule

| 授業日(第N回) | テーマ / Theme             | キーワード / Key Word            |
|----------|-------------------------|-----------------------------|
| 1回目      | 近代市民社会の成立ーフランス革命を辿る     | アンシャンレジーム、ブルジョア、革命          |
| 2回目      | 市民社会の原理ーフランス人権宣言を読む     | 自由、平等、博愛、所有                 |
| 3回目      | 古典に見る社会像1ールソーの描いた社会     | 自然状態、文明社会、不平等、自愛心と慈愛心       |
| 4回目      | 古典に見る社会像2ースミスの描いた社会像    | 商業社会、利己心、同感の原理、正義           |
| 5回目      | 小括・まとめ                  |                             |
| 6回目      | 現代の市民社会論ー復権する市民社会論      | 東欧革命、市場と民主主義、市民組織           |
| 7回目      | ハーバマスと市民社会1ーハーバマスの課題    | システム世界、生活世界、植民地化、メディア       |
| 8回目      | ハーバマスと市民社会2ー市民的公共性      | 熟議民主主義、市民的公共性、批判的公共性        |
| 9回目      | パットナムと市民社会1ーボーリング・アローン  | 市民社会の衰退、社会関係資本、信頼、相互性       |
| 10回目     | パットナムと市民社会2ー社会関係資本と格差   | 社会関係資本、批判的考察、開発途上国と信頼       |
| 11回目     | ハーストと市民社会1ー国家と市民社会      | 公共性と国家、国家の市民社会化             |
| 12回目     | ハーストと市民社会2ー社会の統治(ガバナンス) | 社会ガバナンス、メタガバナンス、            |
| 13回目     | ハーストと市民社会3ーラディカル民主主義    | 社会への参加、市民社会の公共化、グローバル化と市民社会 |
| 14回目     | ギデンズと市民社会ー「第三の道」        | 活力ある市民社会、社会的包含              |
| 15回目     | まとめにかえて                 |                             |

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

| 種別 / Kind                      | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc. |
|--------------------------------|-----------------|-------------------------------|
| 定期試験                           | 80 %            | 講義に対する理解を考查する                 |
| 日常点                            | 20 %            | 講義期間中3ー4回の出席をとり点数化する          |
| 出席表を提出するときにはQRコードを使用するので持参すること |                 |                               |

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

## 教科書 / Textbooks

テキストは特に指定しない。レジュメの配布。

## 参考書 / Reference Books

| 書名 / Title | 出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment |
|------------|----------------------------------------------------------|
| 『市民社会論』    | 山口定／有斐閣／／                                                |
| 『市民の政治学』   | 篠原一／岩波新書／／                                               |
| 『相対化の時代』   | 坂本義和／岩波新書／／                                              |

『第三の道』

ギデنز (佐和訳) / 日本経済新聞社 //

-----  
上記以外にも適宜、紹介する。

参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

その他 / Others

## 現代政治論 S S 現代政治論I S

13061

担当者名 / Instructor 國廣 敏文

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Description

20世紀の科学＝技術や医学の飛躍的進歩によって、人類は宇宙旅行を現実のものとしクローンを作り出すまでになった。だが同時に20世紀は「紛争と革命の世紀」でもあり、飢餓や貧困、紛争や差別、エネルギー・食料問題など未解決の問題が山積しており、その意味で、人類は自然と社会を統治しえていない。政治学の観点から見ると、20世紀は「国民国家」の時代であるが、その国家が世紀末に至って「ゆらぎ」始めている。本講義では、分裂と統合との間を揺れ動く現代国家および世界政治の諸相と諸問題を把握するとともに、現代世界の構造と動態についての政治学的分析に必要な基礎概念や視点・方法を探る。

## 到達目標 / Focus and Goal

- ・グローバル化の進む中で、国家や人々が解決を迫られている現代的諸問題を広く理解する。
- ・それらの解決のための方策を考える。
- ・現代世界を捉えるための理論的枠組みについて理解を深め、自らの社会的視座を形成するとこをめざす。p

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

現代政治論はグローバルな視点から現代世界の諸問題を考察しますので、各国政治を、より具体的にみていくには、「比較政治論」もあわせて履修することを推奨します。

## 授業スケジュール / Schedule

| 授業日 (第N回) | テーマ / Theme                                                  | キーワード / Key Word        |
|-----------|--------------------------------------------------------------|-------------------------|
| 第1回       | I. 歴史認識と政治学の視点<br>現代という時代—20世紀から21世紀へ— 科学技術・医学発展の世紀、戦争と革命の世紀 | 20世紀                    |
| 第2回       | 政治学の方法と課題 —グローバル・プロブレマティクとは何か—                               | 政治学、グローバル・プロブレマティク      |
| 第3回       | II. 現代政治の諸相—国家、民族、紛争—<br>「国民国家」の拡大と「ゆらぎ」—「相対化の時代」か—          | 「国民国家」、「相対化の時代」         |
| 第4回       | 国家とは何か                                                       | 国家                      |
| 第5回       | 国家形成と国民形成                                                    | 国家と国民                   |
| 第6回       | 民族とは何か                                                       | 民族                      |
| 第7回       | 現代民族問題の概観 (1) —人種、言語、宗教との関わりで—                               | 人種、言語、宗教                |
| 第8回       | 現代民族問題の概観 (2) —いくつかの事例を中心に—                                  | 民族問題の現状                 |
| 第9回       | 「国民国家」と民族問題の将来                                               | 国家と民族問題の展望              |
| 第10回      | III. 分析枠組<br>「世界システム論」の方法                                    | 世界システム論                 |
| 第11回      | 「世界システム論」の意義と問題点                                             | 世界システム論                 |
| 第12回      | 「国際社会学」の意義と問題点                                               | 国際社会学                   |
| 第13回      | 「国際社会学」の意義と問題点                                               | 国際社会学                   |
| 第14回      | グローバル・ガバナンスとグローバルデモクラシー                                      | グローバル・ガバナンス、グローバルデモクラシー |
| 第15回      | IV. まとめと展望: グローバルデモクラシーの可能性                                  | 「グローバル化」の時代             |

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

新聞やニュースに普段から接するように心がけると、分からない言葉や問題があったときに、それを調べる癖を身につけること。そうした探求心や好奇心から、勉強することへの興味が湧いてきます。

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

| 種別 / Kind | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc.                                                    |
|-----------|-----------------|----------------------------------------------------------------------------------|
| 定期試験      | 70 %            | 講義で話した内容についての理解度・学習到達度を測る                                                        |
| レポート      | 20 %            | 講義内容あるいは特別講義に関するもの                                                               |
| 日常点       | 10 %            | 出席点を加味する                                                                         |
| その他       | 0 %             | * 定期試験として実施 成績評価＝単位認定は、セメスター終了時の論述試験を中心としますが、毎回出席を取ります。100点満点のうち、10点として総合点に参入します |

テキストはとくに指定しないが、授業に際して参考文献等を適宜紹介するので、事前・事後の学習に役立てて欲しい。  
現代の世界的状況を理解するための参考書として、D. ヘルド編 (中谷義和監訳) 『グローバル化とはなにか』法律文化社、2002年10月刊を挙げておきます。

受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

授業の中で紹介します。

その他 / Others

「私語」は、自らの学習権の放棄であると同時に、他者のそれへの侵害でもあるので、厳禁する。

## 現代デモクラシー論 S S 応用社会学特論VIII S

15031

担当者名 / Instructor HOSACK IAN

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Description

- Democracy has become a key concept for understanding the modern world, but it is a concept that means different things to different people. What exactly is democracy and how can it be achieved? What is the relationship between democracy and individual rights? What is the future for democracy in an era of globalisation? These are just some of the questions students will consider on this course.
- In addition to introducing students to some of the key issues concerning democracy, the course will also develop students' academic English skills in areas such as reading, listening to lectures, note-taking and discussion.

## 到達目標 / Focus and Goal

All classes will be conducted in English. Students will need to prepare for these by reading selected articles written in English, completing short-answer worksheets and by learning key vocabulary.

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enrolle in, but not required to

## 授業スケジュール / Schedule

| 授業日 (第N回) | テーマ / Theme                                          | キーワード / Key Word                                                                                                   |
|-----------|------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1         | Defining democracy: key concepts and questions       | Reading from Robert Dahl, 'On Democracy'                                                                           |
| 2         | Protective and Developmental Arguments for democracy | Reading from Ian Budge, 'The Challenge of Direct Democracy'                                                        |
| 3         | Athenian democracy                                   | Reading from Robert Dahl, 'Democracy & Its Critics'                                                                |
| 4         | Representative government                            | Reading from George Sorenson, 'Democracy and Democratization'                                                      |
| 5         | Electoral systems                                    | Reading from David Beetham & Kevin Boyle, 'Introducing Democracy'                                                  |
| 6         | A right or a duty? Should voting be compulsory?      | Readings Chris Puplick, 'The case for compulsory voting'; Padraic McGuinness, 'The case against compulsory voting' |
| 7         | Measuring democracy                                  | Reading from Robert Dahl, 'On Democracy'                                                                           |
| 8         | The Third Wave of Democracy                          | Reading Renske Doorenspleet, 'Reassessing the Three Waves of Democratization'                                      |
| 9         | Globalization: the implications for democracy        | Reading from David Held & Danielle Archibugi, 'Cosmopolitan Democracy'                                             |
| 10        | Cosmopolitan democracy                               | Reading from Ian Budge, 'The Challenge of Direct Democracy'                                                        |
| 11        | Electronic Democracy                                 | Reading from James Fishkin, 'The Voice of the People'                                                              |
| 12        | Deliberative Polls                                   | Reading from David Beetham & Kevin Boyle, 'Introducing Democracy'                                                  |
| 13        | Democracy and Human Rights                           |                                                                                                                    |
| 14        | Final test                                           |                                                                                                                    |

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment  
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind 割合 / Percentage 評価基準等 / Grading Criteria etc.



|      |      |                                                                                 |
|------|------|---------------------------------------------------------------------------------|
| 定期試験 | 20 % | Final test in the last class                                                    |
| 日常点  | 80 % | Weekly assignments followed by in-class discussion; several written assignments |

This is a very demanding course with a large amount of reading. Students must complete the set readings each week in order to participate in the class. All written assignments must be completed in order to pass.

受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

教科書 / Textbooks

No textbook. Teacher will provide materials.

参考書 / Reference Books

| 書名 / Title   | 出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment                                       |
|--------------|------------------------------------------------------------------------------------------------|
| On Democracy | Robert Dahl / Yale University Press / 0300084552 / A useful general introduction to the topic. |

参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

その他 / Others

## 公共政策論 S S 社会政策論II S

15111

担当者名 / Instructor 木村 高宏

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Description

実際の公共政策を理解評価するためには幅広い知見を渉猟すること,あるいは狭い領域を究めることが求められる。本講義においては,公共政策にまつわる諸領域の知見をそれほど深くは議論しない。どちらかといえば,深さよりも広さを重視した講義である。

## 到達目標 / Focus and Goal

公共政策の根拠を知り,また,考えるための足がかりを得る。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

政治や行政にかかわる基礎知識はないよりはあったほうがよい。

## 授業スケジュール / Schedule

| 授業日 (第N回) | テーマ / Theme            | キーワード / Key Word |
|-----------|------------------------|------------------|
|           | 主として以下のテーマについて講義を行う。   |                  |
|           | テーマ1: 公共政策という研究領域の成り立ち |                  |
|           | テーマ2: 公共政策とはどのようなものか   |                  |
|           | テーマ3: 公私関係の変化          |                  |

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

| 種別 / Kind | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc. |
|-----------|-----------------|-------------------------------|
| 定期試験      | 80 %            |                               |
| 日常点       | 20 %            |                               |

基本的には定期試験で成績が決定される。上記は目安である。

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

## 教科書 / Textbooks

## 参考書 / Reference Books

| 書名 / Title   | 出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment |
|--------------|----------------------------------------------------------|
| 『公共政策学』      | 足立幸男・森脇俊雄編著／ミネルヴァ書房／／                                    |
| 『概説 日本の公共政策』 | 新藤宗幸／東京大学出版会／／                                           |

## 参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

## その他 / Others

## 広告論 S S 情報産業論 I S

13053

担当者名 / Instructor 小泉 秀昭

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Description

テーマ:「現代広告論」

本講義では、企業の行う広告活動を中心におき、広告および広告産業を包括的に理解することを目指す。広告の定義、機能、また広告キャンペーン立案プロセスなど幅広い内容を実際の企業のケースを通し解説する。

## 到達目標 / Focus and Goal

受講する学生には、実社会において広告活動に関連する場面に直面した際に十分対応のできる知識、考え方を身につけることを望む。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

特になし

## 授業スケジュール / Schedule

| 授業日 (第N回) | テーマ / Theme                            | キーワード / Key Word |
|-----------|----------------------------------------|------------------|
| 1         | 講義の進め方・広告の歴史および定義                      |                  |
| 2         | 広告種類と機能 (社会的役割と企業のマーケティング活動としての役割)     |                  |
| 3         | 広告産業とは:特に広告代理店の役割と今後の方向性               |                  |
| 4         | 広告のブランド構築への役割                          |                  |
| 5         | 広告戦略立案プロセス (1)                         |                  |
| 6         | 広告戦略立案プロセス (2)                         |                  |
| 7         | 表現戦略 (1) TVCMの制作プロセスと表現の吟味:ACC賞受賞作品の解説 |                  |
| 8         | 表現戦略 (2) タレント広告の役割とその功罪                |                  |
| 9         | 表現戦略 (3) タレント広告の役割とその功罪2               |                  |
| 10        | メディア戦略 (1)                             |                  |
| 11        | メディア戦略 (2)                             |                  |
| 12        | IMC戦略                                  |                  |
| 13        | セールスプロモーション                            |                  |
| 14        | 講義の総括・ネット広告                            |                  |
| 15        | 定期試験                                   |                  |

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

配布のレジュメでの復習

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

| 種別 / Kind | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc. |
|-----------|-----------------|-------------------------------|
| 定期試験      | 60 %            | 教科書およびノートなどの持込は不可             |
| 日常点       | 40 %            | 不定期に授業内で課題を課す                 |

課題は7~8回は行う予定のため出席が難しい学生には不向き。課題は講義の始めに行う場合もある。

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

空欄のあるレジュメを毎回配布するため、遅刻をせず出席し空欄を埋めること

## 教科書 / Textbooks

特に市販のテキスト等は使用しない。オリジナルに作成した資料を使用。

## 参考書 / Reference Books

| 書名 / Title | 出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment |
|------------|----------------------------------------------------------|
| 現代広告論      | 岸志津江、田中洋、嶋村和恵 / 有斐閣 / 4-641-12082-X /                    |
| 特になし       |                                                          |

## 参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

特になし

## その他 / Others

特になし

## 公的扶助論 S S 公的扶助論 SG

12372

担当者名 / Instructor 西村 清忠

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Description

公的扶助とは、生活に困窮する者に対し、その者の資力と需要を調査した上でその必要に応じて、公的な一般財源から支出される経済給付を意味する。諸外国の公的扶助制度としては、社会扶助、所得扶助などと呼ばれるものがある。一方、わが国の公的扶助の中核をなすのが生活保護である。現行生活保護法は、1950年5月に制定され今日に至っている。この制度は日本国憲法第25条に規定する理念に基づいており、わが国の社会保障制度の根幹をなし、国民生活にとって最後のよりどころとなっている。本講では、実践編として生活保護制度のあらましを平易に解説し、理論編として貧困・社会的排除概念を講述する。また、社会福祉士の試験に対応するように留意する。

## 到達目標 / Focus and Goal

社会科学の視点から貧困問題と貧困者処遇のあり方を把握し、また社会福祉士の国家試験を念頭にして公的扶助論の必須項目および用語を理解する。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enrolle in, but not required to

社会福祉原論、社会保障論

## 授業スケジュール / Schedule

| 授業日 (第N回) | テーマ / Theme                               | キーワード / Key Word |
|-----------|-------------------------------------------|------------------|
| 第1回       | 貧困とは何か ―問題提起:現代社会における貧困と格差社会の進行―          |                  |
| 第2回       | ソーシャルワーカーの仕事と権利擁護                         |                  |
| 第3回       | 生活保護制度の現状を考える                             |                  |
| 第4回       | 貧困・デブリベーション・社会的排除(1)                      |                  |
| 第5回       | 貧困・デブリベーション・社会的排除(2)                      |                  |
| 第6回       | 公的扶助と援助方法(実務編)                            |                  |
| 第7回       | 福祉事務所の業務と組織(実務編)                          |                  |
| 第8回       | 具体的事例の検討(実務編)                             |                  |
| 第9回       | 公的扶助制度の歴史と現状(1)                           |                  |
| 第10回      | 公的扶助制度の歴史と現状(2)                           |                  |
| 第11回      | イギリスの貧困と雇用対策 ―「働くための福祉(Welfare to Work)」― |                  |
| 第12回      | イギリスの地域再生(Regeneration)とソーシャルインクルージョン     |                  |
| 第13回      | 朝日訴訟を再考する                                 |                  |
| 第14回      | 生活保護とホームレス対策                              |                  |
| 第15回      | 公的扶助論のまとめ(調整を含めて)                         |                  |

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

貧困を広く捉えるために経済問題にも精通することが必要である。そのため、新聞等のメディアを通して経済問題にも関心を寄せること。

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

| 種別 / Kind              | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc.   |
|------------------------|-----------------|---------------------------------|
| 定期試験                   | 50 %            | 基本的な理解度を確認する                    |
| レポート                   | 50 %            | リサーチの能力と社会問題の視点から課題提起できる能力を確認する |
| レポートのテーマは授業のなかで指示をする予定 |                 |                                 |

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

①格差社会や貧困に関する書物や新聞を読んで欲しい ②生活保護の分野から、ソーシャルワーカーの役割と任務を考えて欲しい

## 教科書 / Textbooks

| 書名 / Title | 出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment |
|------------|----------------------------------------------------------|
| 『公的扶助論』    | 岩田正美・岡部卓・杉村宏編著／ミネルヴァ書房／／スタンダードな教科書であり、社会福祉士の受験科目として適切である |

教科書は授業の前に一読しておくこと

## 参考書 / Reference Books

特になし

**参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course**

福祉政策の動向を知るために、厚生労働省のホームページを読んでおくこと

**その他 / Others**

特になし

## 国際教育援助論Ⅰ 社会教育論Ⅰ 国際教育援助論Ⅰ

13086

担当者名 / Instructor 東 自由里

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Description

自分の受けてきた教育を客観的に分析するとともに、特定の文化的、社会的背景から生まれた教育思想の実践例を検証する。「学校教育」をめぐる問題群を社会、文化的コンテキストの中で学際的な視野でとらえなおす。大きくわけて三つのテーマをとりあげる: 1)教育・学校の位置づけ 2)コミュニティと教育施策(シュタイナーの芸術教育) 3)市場原理と公教育(例:アメリカのチャータースクール)。

## 到達目標 / Focus and Goal

教育を通してどのような未来の社会を構想することができるのか。自分の視点が確立できるようになる。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

## 授業スケジュール / Schedule

| 授業日 (第N回) | テーマ / Theme                             | キーワード / Key Word                      |
|-----------|-----------------------------------------|---------------------------------------|
| 4月13日     | 1) 学校の位置づけ ユネスコ憲章この科目の授業の流れの説明、ペーパーのルール |                                       |
| 4月20日     | 脱学校社会<br>リイチ                            | イヴァン・イ<br>反生産性の法則、制度化への批判、価値観の商品化、    |
| 4月27日     | 被抑圧者の教育学<br>イレ(フレレ) ペーパーの説明             | パウロ・フレ<br>「沈黙の文化」、エンパワメント、批判的意識、リテラシー |
| 5月4日      | 祭日 授業なし                                 |                                       |
| 5月11日     | NGO と教育援助 (ブラジル)                        | 情報格差、貧富の格差                            |
| 5月18日     | フレイレ vs イリイチ                            |                                       |
| 5月25日     | 2) コミュニティと教育施策<br>リキュラム                 | シュタイナー教育:カ<br>自由への教育/ 自由な教育           |
| 6月1日      | 術教育                                     | シュタイナー教育: 芸<br>芸術的創造こそ教育              |
| 6月8日      | 院と福祉                                    | シュタイナー教育: 病<br>自己教育、自己治癒              |
| 6月15日     | 金融機関                                    | シュタイナーの思想と<br>教育現場への政治的・経済的・社会的干渉の排除  |
| 6月22日     | 3) 市場原理 と教育施策<br>国チャータースクール             | 「市民が創る学校」米<br>アカウンタビリティ、機会均等          |
| 6月29日     | 川区                                      | 「学校が変わる」東京品<br>生徒、保護者の選択権             |
| 7月6日      | キュラム「生きる力」とジョン・デューイ                     | カリフォルニア州のカリ<br>経験主義教育、子ども中心主義教育       |
| 7月13日     | フィンランド                                  | 「競争しなくても世界一」<br>教員免許、生涯教育             |
| 7月20日     | 最終講義日 まとめ<br>ー 教育と政策                    | 2006年党首討論 ー                           |

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

どのテキストを購入するかは、最初の講義にでてから決めて下さい。ペーパー提出後、教員からのフィードバックを送るのでその方法は授業で説明する。

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

| 種別 / Kind | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc.                                                          |
|-----------|-----------------|----------------------------------------------------------------------------------------|
| レポート      | 50 %            | アカデミックペーパー (3ページ) 二つを講義期間中に提出。それぞれB評価以上でなければならない(C評価のみ書き直し可能、D、Fは資格なし)。詳しい評価基準はWebCT参照 |
| 日常点       | 50 %            | 授業中に提出するコメントシートはA、B、C評価 (授業外では受け付けない)                                                  |

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

コメントシートは出席点でなく、毎回、評価がつきます。この科目の単位取得には、コメントシート最低9回は提出し、アカデミックペーパー二つB評価以上でなければならない。C評価は書き直し資格はありますが、D、Fは資格なし。ペーパーの書き方、内容については授業(およびWebCTにも掲載)説明いたしますので、ルールに従って提出してください。平常点評価のため、最初から最後まで必ず参加できる学生を求める。メールでのペーパーの提出は受け取りません。映像(ビデオ、パワーポイント)を多く使用しますのでレジュメなどの配布物に頼らず、自分でノートをとって下さい。

**教科書 / Textbooks**

| 書名 / Title          | 出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment |
|---------------------|----------------------------------------------------------|
| 義務教育を問い直す           | 藤田英典／ちくま新書／4-480-06243-2／パート3 必読                         |
| シュタイナー教育を考える        | 子安美智子／朝日文庫／4022604530／パート2 必読                            |
| 「競争しなくても世界一：フィンランド」 | 福田誠治／アドバンテージサーバー／4901927264／パート3 参考                      |
| 「脱学校の社会学」           | イヴァン・イリイチ／／／パート1 参考                                      |
| 「被抑圧者の教育学」          | パウロ・フレイレ／／／パート1 参考                                       |

**参考書 / Reference Books****参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course****その他 / Others**



## 国際ジャーナリズム論 S

20115

担当者名 / Instructor 奥村 信幸

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Description

- ・海外の報道機関、メディア産業の現状を理解する。
- ・日本のメディア、報道の現状を海外と比較し、優れている点や課題について考察する。
- ・日本が海外のメディアでどのように認識されているかを知り、国際的な情報発信について考察する。
- ・表現の自由やジャーナリズムの原則が、情報の国際化やマルチメディア化でどのような影響を受けるのか考察する。

## 到達目標 / Focus and Goal

履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

## 授業スケジュール / Schedule

| 授業日 (第N回) | テーマ / Theme                           | キーワード / Key Word            |
|-----------|---------------------------------------|-----------------------------|
| 第1回       | 「導入・カルチャーギャップと異文化コミュニケーション」           | カルチャーショック ステレオタイプ           |
| 第2回       | 「日本メディアの国際感覚 (1) 外国ニュースの情報源」          | 通信社 衛星放送                    |
| 第3回       | 「日本メディアの国際感覚 (2) 事例研究」                | 戦争報道 モザイク                   |
| 第4回       | 「権力とメディア (1) アメリカの民主主義とメディア」          | 米憲法修正第1条 表現の自由              |
| 第5回       | 「権力とメディア (2) 戦争のニュース」                 | 「埋め込み」ジャーナリスト 湾岸戦争 ベトナム戦争   |
| 第6回       | 「国際化するメディア・ビジネス」                      | 著作権 ハリウッド クロスオーナーシップ (業際保有) |
| 第7回       | 「メディアの倫理と理想を守る」                       | 倫理規定 シビック・ジャーナリズム           |
| 第8回       | 「公共放送を考える (1) BBCの理想」                 | 民主主義 説明責任                   |
| 第9回       | 「公共放送を考える (2) NHKのどこが問題なのか」           | 放送法 編集権 商業化                 |
| 第10回      | 「日本は世界からどう見られているか (1) 皇室報道」           | 宮内庁 歴史認識                    |
| 第11回      | 「日本は世界からどう見られているか (2) 政治と経済」          | 記者クラブ ポップカルチャー              |
| 第12回      | 「日本は世界からどのように見られているか (3) 日本の外交と対外発信力」 | (ゲストスピーカーを予定)               |
| 第13回      | 「新しいメディアと表現の自由 インターネットと著作権」           | クリエイティブ・コモンズ                |
| 第14回      | 「まとめの議論 未だ表現の自由のない国で」                 |                             |
| 第15回      | クラス内テスト                               |                             |

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

リーディング・アサインメント (英語) を割り当てたディスカッション・グループで討論をしてもらい、その結果を発表する課題を設定する。

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

| 種別 / Kind | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc. |
|-----------|-----------------|-------------------------------|
| 定期試験      | 40 %            | 最終回のクラスで記述式のものを出題する。          |
| レポート      | 30 %            | テーマ・形式は追って指示する。               |
| 日常点       | 30 %            | リーディング・アサインメントによる討論、発表、個人レポート |
| その他       | 0 %             | 意味のある質問やクラス内での発言は積極的に評価します。   |

受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

新聞を読み、テレビのニュースを視聴しておくこと。ニュースの内容を絶えず話題にするので最低限の知識が必要になる。

## 教科書 / Textbooks

リーディング・アサインメントとして授業開始時に指示する。

## 参考書 / Reference Books

授業開始時に追って指示する。

参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

その他 / Others

單位數 / Credit    2

歴史との関連で国際的な動向について正確に知ることなくして日本社会の科学的な分析は困難だと考えられますので、常に国際的な視野から

ものごとを見るよう努力して下さい。

#### 教科書 / Textbooks

テキストは使用せず、毎回講義レジュメや資料を配布します。

#### 参考書 / Reference Books

| 書名 / Title            | 出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment |
|-----------------------|----------------------------------------------------------|
| 福祉国家とジェンダー・ポリティックス    | 深澤和子著／東信堂、2003年／／                                        |
| 国際ジェンダー関係論            | サンドラ・ワイトワース著/武者小路公秀 (代表) 監訳／藤原書店、2000年／／                 |
| 社会政策 ― 国際化・高齢化・雇用の弾力化 | 石畑良太郎・牧野富夫編著／ミネルヴァ書房、1999年／／                             |

国際社会政策自体に関する日本語の本は極めて少ないですが、論文はいくつかありますので適宜紹介します。

#### 参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

<http://www.ilo.org>  
<http://www.socialeurope.com>

#### その他 / Others

現代社会における労働と福祉とジェンダーの諸問題に関心を持ち、しかもそれらを歴史的かつ国際的視点から考察することに興味のある学生諸君の積極的参加を期待しています。

## 国際社会論 S S 国際社会論 I

15174

担当者名 / Instructor 篠田 武司

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Description

文化や経済あるいは政治面でのグローバル化がますます進んでいます。世界の各国はその中に不可避に巻き込まれています。このことによって、国家の役割が大きく変わりつつあります。それは、経済や社会のガバナンス（統治）のあり方を変えつつあります。また、市民権のあり方をも変えつつあります。こうしたグローバル化は、いままでは市場の競争原理でもって解決していこうとする、いわゆる新自由主義のグローバル化として、このことが、また、様々な問題を引き起こしています。たとえば、先進諸国と開発途上国との間の経済格差はこれまでに開き、貧困が深刻な問題となってきています。本講義では、グローバル化がどのように進み、またそれがどのような課題をわれわれに与えているのかを、具体例をあげながら経済的、社会的に見ていきます。

## 到達目標 / Focus and Goal

- 1) 世界はグローバル化しているのか、しているとすればどのような意味でそうなのかを理論的に理解する。
- 2) グローバル化をすすめる組織、国際機関の役割と現状の理解。
- 3) グローバル化の中で起きている市民権概念の変化、特にEU、日本を例として理解する。
- 4) 開発途上国における貧困問題を理解する。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enrolle in, but not required to

社会経済学

## 授業スケジュール / Schedule

| 授業日 (第N回) | テーマ / Theme                   | キーワード / Key Word             |
|-----------|-------------------------------|------------------------------|
| 1回目       | グローバル化とはなにかーいつはじまり、その定義は？     | インターナショナル化、グローバル化、グローバリズム    |
| 2回目       | 経済のグローバル化ーその実態は？              | 貿易、対外投資、労働力の流動化              |
| 3回目       | グローバル化をめぐる議論ー3つの考え方           | グローバル化論、グローバル懐疑論、変容論         |
| 4回目       | 多国籍企業ーグローバル化をすすめるもの           | 多国籍企業の定義、企業内貿易、国連グローバル・コンパクト |
| 5回目       | 国際機関ーグローバル化をすすめるもの            | WB,WTO,UN                    |
| 6回目       | グローバル化のメインストリームーそれはアメリカ化か？    | 新自由主義、ワシントンコンセンサス、           |
| 7回目       | グローバル化とリージョナル化ー EU統合          | EU、東アジア共同体、NAFTA             |
| 8回目       | グローバル化と市民権ーEUにみる市民権問題         | マーシャル、デニズンシップ、国籍、市民権         |
| 9回目       | 同上ー 多文化共生と市民権                 | 同化、多様性、日本における定住外国人の参政権問題     |
| 10回目      | グローバル化と開発途上国ー貧困と格差            | 排除、貧困、格差                     |
| 11回目      | グローバル化と開発ー社会・人間開発へ            | アマティア・セン、潜在能力、人間開発、UNDP      |
| 12回目      | グローバル化と経済・社会問題ーグローバル化がもたらしたもの | 金融不安、犯罪の国際化、格差拡大、環境問題        |
| 13回目      | グローバル化と市民ーグローバル化を懐疑する         | 国際NGO、世界社会サミット               |
| 14回目      | どんなグローバル化なのか？                 | 国連ミレニアム目標、グッドガバナンス、人間の安全保障   |
| 15回目      | まとめにかえて                       |                              |

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

| 種別 / Kind                      | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc. |
|--------------------------------|-----------------|-------------------------------|
| 定期試験                           | 80 %            | 講義の内容がどれだけ理解できたのかを考査する        |
| 日常点                            | 20 %            | 講義期間中に3-4回出席をとり点数化            |
| 出席表を出す際には、QRコードを使用するので常に持参すること |                 |                               |

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

新聞の国際欄を読むといい。

## 教科書 / Textbooks

書名 / Title 出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment

///

テキストは特に指定しない。レジュメを配布。

**参考書 / Reference Books**

| 書名 / Title     | 出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment |
|----------------|----------------------------------------------------------|
| 『グローバル化とは何か』   | デヴィッド・ヘルド中谷監訳 / 法律文化社 / /                                |
| 『人間開発報告』各年度版   | UNDP / 国際協力出版会 / /                                       |
| 『ラテンアメリカは警告する』 | 内橋・佐野編 / 新評論 / /                                         |
| 『ヨーロッパとイスラーム』  | 内藤正典 / 岩波新書 / /                                          |
| 上記以外にも適宜、紹介する  |                                                          |

**参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course****その他 / Others**

社会経済学が専門。人間らしい生き方が可能な経済社会とは何か、を勉強している。地域研究としては、働くことと生活することのバランスが取れた社会を作り出してきたスウェーデン、ならびにグローバル化の中で格差がひろがり、苦悶している開発途上国、特にラテンアメリカを対象として調査。

## 国際福祉社会論 S S 比較福祉論 S S 国際福祉社会論 I

15128

担当者名 / Instructor 太田 美帆

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Description

各国で様々な方法で行われている福祉追求のあり方を学び、それらを体系的に理解することを目指します。

福祉とは、一人一人が生きて行く上で経験する問題(就労、育児・介護、加齢等に伴う問題)を、一個人を超えた制度(家族、企業、公的機関、NPO等)によって解決しようとする試みであると、この講義では考えます。

公的機関が中心となって問題解決するのが福祉国家であるとするならば、家族、企業、公的機関、NPO 等が互いに協力しあいながら問題解決するのが福祉社会であると考えられます。とはいえ、国によってこの協力関係のあり方は様々です。

講義の中で、各国の福祉のあり方は様々であるということを知り、なぜそれらの方法が採用されたのかという社会的背景に注意を向けて下さい。そしてそのような方法をとることによって、何が解決され、何が新たな問題として生じているのかを考えましょう。講義は産業先進諸国の福祉を主な対象とし、可能な限り具体的事例を交えて進めます。

## 到達目標 / Focus and Goal

各国で様々な方法で行われている福祉追求のあり方を学び、それらを体系的に理解すること。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

特にありません。

## 授業スケジュール / Schedule

| 授業日(第N回) | テーマ / Theme             | キーワード / Key Word          |
|----------|-------------------------|---------------------------|
| 第1回      | 概論:福祉とは?                | 福祉、産業化、国家、自動              |
| 第2回      | 福祉国家の課題の変化(19世紀末以降)     | 社会的リスク管理、就労               |
| 第3回      | 福祉国家制度の前提               | 工業社会、家族                   |
| 第4～6回    | 福祉制度の三類型                | 保守主義モデル、自由主義モデル、社会民主主義モデル |
| 第7～8回    | 脱工業化と福祉制度の変化            | サービス産業                    |
| 第9～10回   | 就労と家庭生活に関する三類型(1):育児支援  | 育児理念、法制度、保育サービス           |
| 第11～12回  | 就労と家庭生活に関する三類型(2):高齢者福祉 | 高齢者の社会的位置づけ、法制度、介護サービス    |
| 第13回     | 非営利組織と福祉                | 地域福祉、福祉多元主義               |
| 第14回     | アジア的福祉の特徴               | 経済成長、開発、国家官僚制             |
| 第15回     | まとめ                     |                           |

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

テレビや新聞、雑誌、映画など様々な機会をとおり、各国の福祉のあり方は様々であるということを知り、その社会的背景に注意を向けてみて下さい。

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

| 種別 / Kind | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc.                     |
|-----------|-----------------|---------------------------------------------------|
| 定期試験      | 60 %            | 講義で取り上げた基本的な問題や概念について理解し、自分の言葉で論じることができているかを評価する。 |
| 日常点       | 40 %            | 小テストおよび出席状況によって評価する。                              |

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

講義の内容と日常生活を関連づけて考えてみて下さい。

## 教科書 / Textbooks

特に指定しません。講義ではレジュメを配布します。

## 参考書 / Reference Books

- ・福祉資本主義の三つの世界:比較福祉国家の理論と動態、G.エスピン-アンデルセン、ミネルヴァ書、4-623-03323-6
- ・ポスト工業経済の社会的基礎:市場・福祉国家・家族の政治経済学、G.エスピン-アンデルセン、桜井書店、4-921190-00-3
- ・転換期の福祉国家:グローバル経済下の適応戦略、G.エスピン-アンデルセン編、早稲田大学出版部、4-657-03922-9
- ・比較福祉国家論:ゆらぎとオルタナティブ、岡沢憲英・宮本太郎編、法律文化社、4589019973

## 参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

講義中に適宜、紹介します。

## その他 / Others

## 国際福祉政策論 S S 国際福祉政策論 I

15233

担当者名 / Instructor 芝田 英昭

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Description

## ・ニュージーランドの福祉政策

かつて南半球の福祉国家といわれたニュージーランドが、1980年代以降あらゆる場面において規制緩和を推し進め市場主義国家に変貌したが、どのような背景で福祉国家を解体したのか。また福祉政策が、市場主義国家になったことでどのように変化したのかを、1970年代から現在まで概観しその変遷を考察します。

## 到達目標 / Focus and Goal

社会保障や福祉政策の研究対象は、ややもすると北欧やイギリスに偏りがちですが、あえて「かつての福祉国家ニュージーランド」を選びました。それは、ニュージーランドの規制緩和が、日本の橋本内閣以来の規制緩和の「模範」とされたからです。ニュージーランドの規制緩和、福祉政策を学ぶことで、日本の将来予測を試みたいと思います。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enrolle in, but not required to

社会保障論、福祉政策論

## 授業スケジュール / Schedule

| 授業日 (第N回) | テーマ / Theme                        | キーワード / Key Word                                  |
|-----------|------------------------------------|---------------------------------------------------|
| 第1回目      | ニュージーランドの概要                        | 位置、人口規模、                                          |
| 第2回目      | ニュージーランドの概要                        | 政治、経済                                             |
| 第3回目      | 福祉国家から市場主義国家への変貌の背景                | イギリスとの特恵的関係、Think Big Project、多額の債務               |
| 第4回目      | 労働党政権 (1984年～1990年) による規制緩和・経済改革   | ロジャーノミックス、GST (物品サービス税＝わが国の消費税に相当)、郵政3事業の企業化      |
| 第5回目      | 国民党政権 (1990年～1999年) による規制緩和・社会保障改革 | 雇用契約法、老齢年金、ACCの民営化                                |
| 第6回目      | 労働党等連立政権 (1999年以降) による改革の流れ        | ACCの再国営化、雇用関係法、Kiwi Bank (国民銀行の設立)                |
| 第7回目      | ニュージーランドの社会保障の仕組み                  | Ministry of Social Development、Ministry of Health |
| 第8回目      | ニュージーランドの社会保障の仕組み                  | 保健セクターの仕組み、ACCの仕組み                                |
| 第9回目      | 規制緩和が国民生活に与えた影響                    | 貧富の格差拡大、ホームレス、選挙への関心の低下                           |
| 第10回目     | 教育の市場かがもたらした経済負担と若者の心への影響          | Tomorrow School政策、教育の市場化、理事会の権限                   |
| 第11回目     | 教育の市場かがもたらした経済負担と若者の心への影響          | 学生ローン、Brain Drain (頭脳流出)、若者の荒廃                    |
| 第12回目     | 郵政の企業化                             | サービスの低下                                           |
| 第13回目     | 福祉国家崩壊を招いた雇用契約法                    | 雇用契約法、雇用関係法                                       |
| 第14回目     | ニュージーランドの福祉国家への揺り戻しと、わが国への教訓       | ニュージーランド航空への財政支援、国民銀行の設立                          |

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

ニュージーランドに関する文献は少ないので、インターネット等で資料を検索し、情報を収集しておいて下さい。

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

| 種別 / Kind | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc.  |
|-----------|-----------------|--------------------------------|
| 定期試験      | 58 %            | 出席点42点を差し引いた分を定期試験の配点58点とした。   |
| その他       | 42 %            | 毎回質問紙を配布・回収し出席点とする。3点×14回＝42点。 |

出席を重視しますので、欠席した場合は次回のコミュニケーション・ペーパーにその理由を記して下さい。理由のよっては公欠といたします。

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

講義では、班編制し討議をして頂くことがありますので、積極的に意見を述べて下さい。

## 教科書 / Textbooks

## 参考書 / Reference Books

| 書名 / Title       | 出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment |
|------------------|----------------------------------------------------------|
| ニュージーランド福祉国家の再設計 | J・ボストン著、芝田英昭監訳／法律文化社／589-02786-0／                        |

参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

ニュージーランド政府: [www.govt.nz](http://www.govt.nz)

その他 / Others



## 国際保健医療政策研究 S S 国際保健医療政策研究 I

20112

担当者名 / Instructor 松田 亮三

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Description

健康と医療に関するグローバルな動向と高所得国と中・低所得国それぞれの健康課題についての議論を検討する。  
国際保健医療という医師など医療従事者だけの分野かと思われるかもしれないが、実際にはプロジェクトの運営などに関わって多様な背景・専門性を持った人材が関わっている。その意味で、貧困、疾病、福祉などに関わる国際的諸問題に関心ある受講生に役立つ授業とする。

## 到達目標 / Focus and Goal

1. グローバルな健康問題の状況について、記述することができる。
2. グローバルな健康政策の展開について、記述することができる。
3. 医療制度についての理論を理解し、高所得国ないし低・中所得国での課題と動向を議論することができる。
4. 医療改革の動向について、高所得国ないし低・中所得国での課題と動向を議論することができる。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

国際福祉論、国際社会論、国際社会政策論、国際ボランティア論、地域保健論、現代人とヘルスケア、などが、内容をより立体的に理解する上で有用であろう。

## 授業スケジュール / Schedule

| 授業日 (第N回) | テーマ / Theme                                | キーワード / Key Word                                                         |
|-----------|--------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------|
| 1回        | グローバルにみる健康と医療 (授業の概要、進め方、情報源の紹介、           | 国際保健、グローバル健康政策、国際協力、医療システム、医療改革、世界保健機関 (WHO)、世界銀行、国連エイズ総会、ミレニアム目標        |
| 2-3回      | グローバルにみる健康状態 歴史的推移と現状                      | 死亡率、人口学的転換、疫学的転換、健康転換、パンデミック、保健統計、健康格差、健康の公平、グローバル公共財                    |
| 4-5回      | 保健医療制度論 歴史的発展と分析枠組み                        | 保健医療制度、医療供給制度、医療財政制度、医療システムの類型論、効率、利用の公平、財政の公平                           |
| 6-7回      | 保健医療制度の国際比較                                | OECD、WHO、ランキング、比較の基準、経路依存性、制度                                            |
| 8回        | 中間総括                                       |                                                                          |
| 9-11回     | 保健医療改革の動向 高所得国 (イギリス、スウェーデン、米国など)          | 保健医療改革、改革の記述的比較、疑似市場、民営化、無保険、普遍的医療制度、民間保険、マネージド・ケア、医療貯蓄口座、利用者負担、政策形成、分権化 |
| 12-14回    | 保健医療改革の動向 中・低所得国 (シンガポール、韓国、タイ、バングラディシュなど) | 普遍的健康保険、医療貯蓄口座、民営化、力量形成、地域社会による財政、マイクロ・インシュアランス、分権化                      |
| 15回       | 総括討議                                       |                                                                          |

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

1. 重要文献を指示するので、読むこと
2. 学習の理解を深めるのに、課題を着実にこなしていくこと

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

| 種別 / Kind | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc.                 |
|-----------|-----------------|-----------------------------------------------|
| 定期試験      | 80 %            | 授業で強調する最重要事項を主に、提示されている到達目標にいかにか到達したか。持ち込み不可。 |
| 日常点       | 20 %            | 主要概念を運用する力量をつちかうための課題を的確に遂行したかどうか。            |

評価は定期試験を中心に行うが、授業中に提示する課題を確実にこなしていくことが獲得目標に到達するためには必要である。  
評価は、回生等とはまったく無関係に厳密に行うことを徹底しているので、留意されたい。出席はとらないが、確実に出席をして授業内容を確実に把握し、課題をこなしていかなければ (1冊ですむ日本語のテキストはなく、パワーポイントだけではポイントが分からないことが予想されるので)、C評価を得ることも難しい可能性が高い。

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

授業はパワーポイントを使いながら行う。資料はウェブCTで配布するほか、教室でも可能な限り配布する (欠席して資料を入手できなかった場合は、ウェブCTをまずみる)。なお、著作権の関係で教室でしか配布できない資料もあるので注意されたい。また、原則として欠席した場合の資料は後日配布しないので、各自他の受講生に依頼するなどして入手すること。  
授業は基本的に教員のプレゼンと問題提起、受講生の討議ないしワーク、さらには事前に与えた課題をもとにグループ・ワークを行う。積極的な参加を望む。  
全体として広く浅くではなく、応用のきく基本的な事項を確実に理解することを主眼として授業を運営する。

## 教科書 / Textbooks

テキストは指定しない。新しい分野なので、オリジナルなシラバスにそって、参考文献を示しながら、検討していく。

**参考書 / Reference Books**

| <u>書名 / Title</u> | <u>出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment</u> |
|-------------------|-----------------------------------------------------------------|
|-------------------|-----------------------------------------------------------------|

|                                                            |                                                    |
|------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------|
| An introduction to health : policy, planning and financing | Brian Abel-Smith / London : Longman / 058223865X / |
|------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------|

|                |                                         |
|----------------|-----------------------------------------|
| 医療財源論：ヨーロッパの選択 | エリアス・モシアロス [ほか] 編著 / 光生館 / 4332600754 / |
|----------------|-----------------------------------------|

|         |                                   |
|---------|-----------------------------------|
| 国際保健医療学 | 日本国際保健医療学会編 / 杏林書院 / 476440527X / |
|---------|-----------------------------------|

|                             |                             |
|-----------------------------|-----------------------------|
| 国際保健医療のお仕事：あなたもチャレンジしてみませんか | 中村安秀編著 / 南山堂 / 4525182814 / |
|-----------------------------|-----------------------------|

詳しい参考文献は別途指示します。最近の比較分析は、Health Affairs (<http://www.healthaffairs.org/>) にしばしば掲載されますが、残念ながらまだ立命館では利用できませんので、内容の紹介を可能な範囲でしていきます。

**参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course**

国際的には、WHO, UNAIDS, UNDP, EU, 世界銀行, OECDなどの国際機関、各種の研究機関、NGOなど多数あります。  
国内では、外務省, JICA, 関係学会など、これも多数あります。  
これらの詳細については、授業で紹介します。

**その他 / Others**

## 国際ボランティア論 S

13091

担当者名 / Instructor 秋葉 武

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Description

発展途上国における多くの社会問題に取り組む、国際協力活動を行うNGOを中心に組み立てて取り上げる。その関連で、国際機関(国連、世界銀行等)、政府のODAについても一部で取り扱う。途上国における貧困や、民族紛争、テロ、環境破壊は、世界全体を不安定な状態に陥れている。そうしたなか市民によって結成されたNGO(非政府組織)の役割に注目が集まっている。本講義では「NGOの時代」といわれる21世紀のなかで組織の活動、課題を検証していく。講義は毎回ビデオを使用し、また1-2回ゲストスピーカーを招聘する。それによって、アップデートな事象についてより具体的な理解を深めてもらう。

## 到達目標 / Focus and Goal

- ・国際協力において、なぜ政府だけでは役割を果たせないのかを理解する
- ・NGOが具体的にどのような役割を果たしているのかを理解する
- ・国際協力NGOが現在、どのような立場に置かれているかの基本的問題や概念を理解する
- ・国際協力においてどのような人材が求められ、その特徴は何かについて理解する

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

担当教員が別途、担当している「NPO・NGO論」

## 授業スケジュール / Schedule

| 授業日(第N回) | テーマ / Theme                          | キーワード / Key Word                  |
|----------|--------------------------------------|-----------------------------------|
|          | 講義のガイダンス                             | 授業の趣旨、達成目標、成績評価方法                 |
|          | NGOの台頭とその社会的背景                       | NGOの機動性、国境なき医師団、地雷廃絶キャンペーン、アフリカ   |
|          | 日本のNGOの活動分野と協力形態                     | 適正技術、児童支援NGO、シャンティ国際ボランティア会、東南アジア |
|          | NGOの活動分野と協力形態                        | 持続可能な発展、環境NGO、アマゾン                |
|          | NGOと人権                               | 会員の獲得戦略、人権侵害、アムネスティ・インターナショナル     |
|          | NGOと国内の国際化                           | コミュニティにおける他組織との連携、多文化共生、多文化共生センター |
|          | NGOの新たな戦略 ― マイクロクレジット ―              | ビジネスモデル、エンパワメント、貧困と女性、グラミン銀行      |
|          | NGOの新たな戦略 ― フェア・トレード ―               | 世界貿易の不均衡、ピープルツリー、フェアトレードラベル       |
|          | NGOを取り巻く環境① ― 政府とのパートナーシップをめぐって ―    | 創造的緊張、協働、下請け化の危機                  |
|          | NGOを取り巻く環境② ― 国連とのパートナーシップをめぐって ―    | 国連の危機、アメリカとの相克、協働の進展              |
|          | NGOを取り巻く環境③ ― グローバリゼーションによる社会構造の変化 ― | グローバル化、社会的排除、絶対的貧困                |
|          | まとめ                                  | 振り返り                              |

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

| 種別 / Kind | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc.               |
|-----------|-----------------|---------------------------------------------|
| レポート      | 40 %            | 与えられたテーマについて、試験に代わるレポートを提出し、教員はそれを評価します。    |
| 日常点       | 60 %            | 毎回、出席を兼ねたコミュニケーションペーパーを配布し、教員は出席、記述内容を評価します |

出席重視ですので、ガイダンスに出た上で、納得した上で受講登録をすることがよいと思います。

なお、下記の行為をする受講生は「F」評価となる可能性があるため、留意してください。①他の受講生の受講権の侵害・授業中の私語、大幅な遅刻、頻繁な途中入退室など ②マナーの欠如(携帯電話の時計以外の目的での使用など)、レポートの記述の不適切な表現(タメ口など)

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

メディアで国際協力NGOが報道されることが多いので、新聞などを意識してみてください。

## 教科書 / Textbooks

書名 / Title 出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment

ハンドブックNGO——市民の地球的規模の問題 馬橋憲男、斎藤千宏編(1998) / 明石書店 / /  
への取り組み——

---

**参考書 / Reference Books**

**参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course**

随時紹介します

**その他 / Others**

新しい視野が開かれることを期待します

## 子どもとメディア S

20114

担当者名 / Instructor 楠山 研

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Description

今やメディアは子どもにとって当たり前の、生活環境そのものとなっており、「メディア＝悪」といった単純なとらえ方では何の解決策も示すことはできない。よってメディアを子どもの視点から捉え直し、子どもの利益にたって考えていく必要がある。本講義では、子どもの権利条約や内外の研究者の言説を題材としながら、変わりゆく社会の中で子どもはどのように生きていくのか、また大人はそれをどのように支えていけばよいのかについて検討していく。

## 到達目標 / Focus and Goal

・メディアを子どもの立場にたって考察できる

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

特に指定しない。

## 授業スケジュール / Schedule

| 授業日 (第N回) | テーマ / Theme                       | キーワード / Key Word |
|-----------|-----------------------------------|------------------|
| 第1回目      | 総括的導入講義を実施します。                    |                  |
| 第2回目      | 子どもの権利条約                          |                  |
| 第3回目      | 子ども・子ども期の変化とメディアの変化               |                  |
| 第4回目      | 子どもの生活におけるメディア①学校                 |                  |
| 第5回目      | 子どもの生活におけるメディア②家庭                 |                  |
| 第6回目      | 子どもの生活におけるメディア③放課後ほか              |                  |
| 第7回目      | 「子どもとメディア」問題①メディアは暴力を教えるか         |                  |
| 第8回目      | 「子どもとメディア」問題②子どもが情報を発信するという<br>こと |                  |
| 第9回目      | 「子どもとメディア」問題③消費者としての子ども           |                  |
| 第10回目     | 「子どもとメディア」問題④「子どもとメディア」を巡る大人      |                  |
| 第11回目     | 「子どもとメディア」問題⑤国境を超えるメディアと子ども       |                  |
| 第12回目     | 教育にできること                          |                  |
| 第13回目     | メディアを子どもにどう教えるか①                  |                  |
| 第14回目     | メディアを子どもにどう教えるか②                  |                  |

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

<開講までに>

あなたが子どもだった頃の子どもと今の子どもの違いを考えておくこと。

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

| 種別 / Kind | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc. |
|-----------|-----------------|-------------------------------|
| 定期試験      | 70 %            | 定期試験による評価を基本とする。              |
| 日常点       | 30 %            | 授業中に小レポート・アンケート等の提出を求める。      |

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

特別な予習は必要としないが、身の回りにあるメディアを子どもの目線で見ている時間をつくってほしい。

## 教科書 / Textbooks

特に指定しない。

## 参考書 / Reference Books

| 書名 / Title       | 出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment |
|------------------|----------------------------------------------------------|
| 子どもたちのサブカルチャー大研究 | 中西新太郎編／労働旬報社／4-8451-0475-X／                              |
| 他は授業時に随時、紹介する。   |                                                          |

## 参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

授業時に随時、紹介する。

## その他 / Others

## コミュニケーション政策論 S

13083

担当者名 / Instructor 黄 盛彬

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Description

「国民国家と戦争」の世紀として象徴される20世紀に誕生した放送メディアは、産業として、制度として、そして文化としても「ナショナルな」メディアとして成立し、その役割を果たしてきた。本講義では、近年におけるメディアのグローバル化動向を踏まえながら、1) 放送メディアとナショナル・アイデンティティとの関係やそのあり方をめぐる論議、2) そして「公共性」や「多様性・多元性」など、ナショナルな放送制度の中心に位置づけられてきた諸観念について再検討を行うことを目的とする。具体的な事例として、アメリカ、日本、韓国、朝鮮、中国、台湾のケースを取り上げる。

## 到達目標 / Focus and Goal

コミュニケーション制度の成立・変容について、歴史的背景および日本以外の各国との比較分析を通じて、よりの確な現実認識を獲得する。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

「グローバル・メディア論」

## 授業スケジュール / Schedule

| 授業日 (第N回) | テーマ / Theme                           | キーワード / Key Word                                               |
|-----------|---------------------------------------|----------------------------------------------------------------|
|           | なぜ「放送」はナショナル・メディアとして成立したのか            | テクノロジーと社会、無線想像力、ブロードキャスティング(broadcasting)                      |
|           | 国民国家とグローバル・メディア                       | 国民国家、グローバル化、戦争の世紀、総力戦、放送と通信の融合                                 |
|           | グローバルな公共圏は可能か                         | 公共圏 (public sphere)                                            |
|           | ナショナル・アイデンティティとポスト・ナショナル・アイデンティティ     | ナショナル・アイデンティティ (National Identity)、ナショナリズム、愛国心、表象、他者認識         |
|           | 放送とナショナル・アイデンティティ (討論)                |                                                                |
|           | アメリカ                                  | 公共の利益 (public interest)、規制緩和(deregulation)、表現の自由、文化戦争、戦争報道の諸問題 |
|           | 日本 その1                                | 公共・民間の二元体制、NHKと政治、「過去」の記憶をめぐる政治学                               |
|           | 日本 その2                                | クロス・オーナーシップ、新聞放送一体化                                            |
|           | 韓国－民主化以後の政治とナショナル・アイデンティティ            |                                                                |
|           | 朝鮮－劇場型革命国家におけるメディア、そして祖国と民族           |                                                                |
|           | 中国－社会主義市場経済型メディアの出現とナショナル・アイデンティティの相克 |                                                                |
|           | 「中華」と「台湾」、二つのアイデンティティの間               |                                                                |
|           | グローバル化、テレビジョン、社会                      |                                                                |
|           | 東アジアメディア空間の未来 (総括討論)                  |                                                                |

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

開講時に各回の文献資料などを明記した詳細な講義計画を配布する。その他、講義の参考書を読み、社会科学や国際情勢についての基本的な教養レベルの知識を習得しておくことが望ましい。国際比較という観点からは、日本のメディア報道だけではなく、それぞれの国家・地域のメディアについても、バランス感覚を持って日常的に接すること。なお、本シラバスの予定は、開講以降に変更される場合があり、たとえば各回の講義も必要に応じて延長したり、授業外学習の指示のみに代替されることがある。

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

| 種別 / Kind | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc. |
|-----------|-----------------|-------------------------------|
| 定期試験      | 80 %            |                               |
| レポート      | 20 %            |                               |

可能な限り、映像資料を提示しながら、受講生の想像力を豊かにしていきたい。数回程度、講義内容に関わる知識に関するレポートやミニテストを実施する。

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

## 教科書 / Textbooks

## 参考書 / Reference Books

| 書名 / Title                                          | 出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment |
|-----------------------------------------------------|----------------------------------------------------------|
| Television, the Public Sphere and National Identity | Price, Monroe E. / Clarendon Pr //                       |

その他、参考文献の詳細リストは、開講時に提示する。

参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

その他 / Others

## コミュニケーション理論 S § コミュニケーション論I S

12942

担当者名 / Instructor 池田 知加

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Description

コミュニケーションとは多義的な意味がこめられる概念です。そのため、コミュニケーションのとらえ方は、社会学、哲学、心理学、社会心理学、情報科学といった多様な分野で様々なアプローチがなされています。この講義では、主に、社会心理学(第2～5回目)と記号論(第6～9回目)からみたコミュニケーションについて理解を深めた上で、携帯電話、インターネットといったメディア使用を事例にコミュニケーションの現在について社会学的に考察(第10～13回目)します。

## 到達目標 / Focus and Goal

- ・社会心理学、記号論それぞれからみたコミュニケーション理論についての理解を深める。
- ・コミュニケーションへの理論的な理解を深めた上で、現代コミュニケーションの動向について社会学的に考察する。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enrolle in, but not required to

## 授業スケジュール / Schedule

| 授業日(第N回) | テーマ / Theme                | キーワード / Key Word |
|----------|----------------------------|------------------|
| 第1回      | イントロダクション                  |                  |
| 第2回      | 自己を知らせるコミュニケーション           | 自己開示             |
| 第3回      | 他者の心を動かすコミュニケーション          | 説得コミュニケーション      |
| 第4回      | マスメディアと説得コミュニケーション①        | プロパガンダ           |
| 第5回      | マスメディアと説得コミュニケーション②        | テレビ 効果研究         |
| 第6回      | コミュニケーションの記号と意味            | 記号論              |
| 第7回      | モノの記号化                     | 消費社会             |
| 第8回      | 身体の記号化                     | パノプティコン          |
| 第9回      | ヴァーチャリティとは何か?              | ヴァーチャル・リアリティ     |
| 第10回     | 現代コミュニケーションの動向             | 情報化              |
| 第11回     | コンピュータに媒介されたコミュニケーション(CMC) | 電子メディア 空間        |
| 第12回     | 電話コミュニケーション                | 携帯電話             |
| 第13回     | インターネット・コミュニケーション          | インターネット 公共圏      |
| 第14回     | 講義のまとめ                     |                  |

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

| 種別 / Kind | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc. |
|-----------|-----------------|-------------------------------|
| 定期試験      | 100 %           | 客観テスト60% 論述40%                |

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

基礎的な専門用語などについては、各自で社会学事典などを参考にして学習すること。

## 教科書 / Textbooks

| 書名 / Title    | 出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment |
|---------------|----------------------------------------------------------|
| 『テキストとコンテキスト』 | J.ハーバーマス／晃洋書房／／                                          |
| レジュメを使用します。   |                                                          |

## 参考書 / Reference Books

| 書名 / Title                     | 出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment |
|--------------------------------|----------------------------------------------------------|
| 『影響力の武器—なぜ、人は動かされるのか—』         | ロバート・B・チャルディーニ／誠信書房／4414302692／                          |
| 『プロパガンダ—広告・政治宣伝のからくりを見抜く』      | アンソニー・プラトカニス、エリオット・アランソン／誠信書房／4414302854／                |
| 『記号の知/メディアの知—日常生活批判のためのレッスン』   | 石田英敬／東京大学出版会／4130100947／                                 |
| 『場所感の喪失(上) 電子メディアが社会的行動に及ぼす影響』 | ジョシュア・メイロウィッツ／新曜社／4788508699／                            |

## 参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course



その他 / Others

私語は厳禁。氏名を確認の上、退室してもらいます。

## コミュニティメディア論 S S メディア認知論I S

13071

担当者名 / Instructor 坂田 謙司

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Description

現在のメディア状況は、衛星放送やデジタル化などによってよりグローバルかつマス化しており、メディアへの関心もそこを中心としている。その反面、コミュニティという地理的、心理的範囲に基づくメディアの存在が確かにあり、関心も徐々に強まっている。しかし、それは可視化されることなく、われわれの身の周りに隠れているのだ。

それはなぜなのだろうか？この授業の基本的な関心は、常に疑問と共にある。なぜマスなメディアだけではだめなのだろうか？なぜ、コミュニティとメディアが強く結びつくのだろうか？自明と思われていることに改めて目を向け、それを確認し、分析し、理解をする。授業は、その繰り返しである。

コミュニティ・メディアを単なる規模の小さなメディア、あるいは限られた範囲にしか受容できないメディアと単純に捉えるのは間違っている。コミュニティを中心としたメディアは、グローバル・メディアやマス・メディアとは異なる機能や役割を果たしているだけではなく、日常生活のさまざまな場面に深く根ざした存在でもある。そして、メディアへと向き合うときに、単なる受信者という立場だけでなく、発信者という立場からの参加が可能となるのもコミュニティ・メディアの特徴でもある。

では、コミュニティ・メディアとはいったいどんなメディアなのか。コミュニティとメディアはどんな結びつきをしているのだろうか。授業は、「地域メディアを学ぶ人のために」を中心として、コミュニティとメディアの関係性を問い直していく。

前半 コミュニティとメディアの関係性を歴史、研究、社会制度・制作の問題から確認する。

中間試験としてレポート提出を課す。

後半 個別のコミュニティ・メディアの存在を分析し、コミュニティとメディアの結びつきが生み出すものを確認する。

定期試験で講義全体の理解度を確認する。

レジュメ配布は授業開始後30分で終了する。以降は理由の如何に関わらず一切配布しないので、遅刻をしないように。

## 到達目標 / Focus and Goal

1. マス・メディア以外のメディアの存在を理解する。
2. コミュニティとメディアの関係を理解できる。
3. メディアの存在を自明とせず、さまざまな角度から観察できる。
4. コミュニティ・メディアにアクティブなアプローチができる。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

コア科目 (情報メディア学系用)

基礎社会学

メディア社会論

パブリックアクセス論

## 授業スケジュール / Schedule

| 授業日 (第N回) | テーマ / Theme        | キーワード / Key Word |
|-----------|--------------------|------------------|
| 4月7日      | コミュニティとメディアの関係を考える | コミュニティ コミュニケーション |
| 4月14日     | コミュニティ・メディア史       | メディア 歴史          |
| 4月21日     | コミュニティ・メディア研究と調査   | メディア研究 調査方法      |
| 4月28日     | コミュニティ・メディアと政治     | 政治 権力監視          |
| 5月12日     | コミュニティ・メディアと自治体    | 行政 広報            |
| 5月19日     | コミュニティ・メディアとガバナンス  | 統治 コミュニティ作り      |
| 5月26日     | コミュニティ・メディアとNPO    | 非営利活動 市民参加       |
| 6月2日      | 中間試験               | レポート             |
| 6月9日      | ミニコミ・フリーペーパー       | 印刷メディア 地域        |
| 6月16日     | フィルムコミッション         | 映画 地域            |
| 6月23日     | 有線放送と自主放送          | 放送 地域            |
| 6月30日     | コミュニティFM           | ラジオ 地域           |
| 7月7日      | ケーブルテレビ            | テレビ 地域           |
| 7月14日     | ネット・コミュニティ         | インターネット サイバースペース |
|           | 定期試験               |                  |

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

| 種別 / Kind | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc.          |
|-----------|-----------------|----------------------------------------|
| 定期試験      | 70 %            | 客観問題と論述問題を併用。受講人数によって、最終講義日試験となる場合がある。 |
| レポート      | 20 %            | 中間試験として実施。未提出の場合は成績評価対象にならない。          |

日常点

10 % 適宜掲示板への書き込みを求め、授業内で取り上げられた場合のみ評価対象とする。

**受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research**

机の前で本を読むという勉強のスタイルだけでなく、日常生活のなかに隠れているメディアの存在に目を向けなければならない。したがって、日々の生活の全てを新しい視点で見つめ直し、当たり前なことなど一つもないという思考の転換を行って欲しい。

**教科書 / Textbooks**書名 / Title出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment

地域メディアを学ぶ人のために

田村紀雄編／世界思想社／／

**参考書 / Reference Books**書名 / Title出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment

「声」の有線メディア史

坂田謙司／世界思想社／／

メディア・プラクティス

水越伸・吉見俊哉編／せりか書房／／

地域情報と社会心理

船津衛編著／北樹出版／／

その他の参考文献は、授業中に適宜提示する。

**参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course****その他 / Others**

## 参加のデザイン論 S S 市民参加論 S

15131

担当者名 / Instructor 乾 亨

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Description

世間では「参加」が大流行。もはや「参加」を思索・啓蒙する時代ではない。参加の意味と必要性（あるいは必然性）を踏まえながら、実践のなかで「参加」の状況をデザインする態度と力が求められている。本講義では、環境創造（まちづくり）活動における住民参加・住民主体の事例を紹介しつつ、「参加」の意味や成立要件、行政や住民の役割などについて考えていく。あわせて、「参加型まちづくり」を展開するための手法についても学習する。時間及び講義規模が許せば、ワークショップによる参加型学習も行いたい。

理論アプローチではなく、スライドを活用しつつ事例をもとに考える。「参加」の「制度」論ではない。

## 到達目標 / Focus and Goal

具体的事例を通して「参加」を概念化するとともに、参加の状況を創りだす（デザインする・マネージメントする）態度と技を学ぶ。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enrolle in, but not required to

本講義のみで完結する内容ですが、前期におこなう「居住環境デザイン論」をあわせて受講することを期待します。より理解の幅が深まるはずですが。

## 授業スケジュール / Schedule

| 授業日 (第N回) | テーマ / Theme              | キーワード / Key Word                           |
|-----------|--------------------------|--------------------------------------------|
| 第1回       | 参加のデザインってなに？             | この講義の目的と位置づけ                               |
| 第2回       | 「参加」の事例を見て考えよう…パート1      | コーポラティブハウジング（住みテ参加の住まいづくり）<br>ユーコートの事例を見る  |
| 第3回       | 「参加」の事例を見て考えよう…パート2      | 40年にわたり住民主体のまちづくりに取り組む真野地区の事例を見る           |
| 第4回       | ユーコートを通して「参加」を考える その1    | ユーコートの計画プロセスを追いながら「参加」の特性と成立要件を考える         |
| 第5回       | ユーコートを通して「参加」を考える その2    |                                            |
| 第6回       | 真野まちづくりを通して「参加」を考える その1  | まちづくりのプロセスを追いながら、多様な主体が関わる「参加」の特性と成立要件を考える |
| 第7回       | 真野まちづくりを通して「参加」を考える その2  |                                            |
| 第8回       | 真野まちづくりを通して「参加」を考える その3  | アクティブ参加とパッシブ参加（コミュニティのなかに居場所がある状況）         |
| 第9回       | 市民活動型まちづくりにおける「参加」       | 「私」からほとばしり出る「公」                            |
| 第10回      | 市民と行政のパートナーシップ型まちづくり その1 | 近年の京都の事例を通して、参加における行政や専門家の役割を考える           |
| 第11回      | 市民と行政のパートナーシップ型まちづくり その2 |                                            |
| 第12回      | 参加の手法を学ぶ その1             | イキイキとした参加の状況を創る手法である「ワークショップ」の事例を学ぶ        |
| 第13回      | 参加の手法を学ぶ その2             | ワークショップの進め方や考え方を学ぶ                         |
| 第14回      | まとめ                      | 参加の哲学                                      |
| 第15回      | レポート試験                   | 論題は後日提示（事務室の規定に準ずる）                        |

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

| 種別 / Kind | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc.                                  |
|-----------|-----------------|----------------------------------------------------------------|
| レポート      | 100 %           | 基本的には提出された「レポート」の質で評価。それなりに厳しく採点します。                           |
| 日常点       | 20 %            | 適宜（数回／半期）、出席確認を兼ねて感想や質問を提出してもらい、出席率がいい人は「試験にかわるレポート」の評価に加点します。 |

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

事例を物語りその意味を考えてもらう問題提起型の講義なので、継続的出席を望みます。とりわけ第1週・第2週・第3週は問題提起編なので、必ず、絶対、万難を排して、出席のこと。  
教科書は用いず、適宜レジュメを配布します。

## 教科書 / Textbooks

## 参考書 / Reference Books

## 参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course



## 産業技術論 S S 産業技術論I S

15097

担当者名 / Instructor 山口 歩

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Description

一国の生産技術のありかたは、その経済状況のみならず、生活水準や諸文化のスタイルにも大きな影響を与える。またそれ以上に、技術は今後の地球環境の変化の方向に決定的な影響を与える因子でもある。本講義では、生産技術が社会の諸事象にいかに関与しているのかを具体的に解きほぐし、またその発展過程を歴史的に解明していくことで、現代技術を批判的に捉える視点を示し、技術に関する問題の解決指針を与えていく。

それには、技術自身について理解すること以上に、それが社会の中でどのように機能しているか、役にたっているかについてのセンスを磨く必要があらわれる。技術を生活や社会の中に正確に位置づけ、その中から、スベックに感われない本来の「技術と社会の発展」のありようについて考えていきたい。

## 到達目標 / Focus and Goal

- 1 今日的な技術の抱える問題全般についての知識を得ること
- 2 諸個別問題の背後にある根源的な原因について理解すること

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

環境技術論を同時に履修していくことが望ましい(履修順序は問わない)

対象となる科学・技術についての説明に専門概念を使用することもあります。そうした事項については、その都度丁寧に説明いたします。受講に理系的知識を前提としてません。

## 授業スケジュール / Schedule

| 授業日(第N回) | テーマ / Theme         | キーワード / Key Word   |
|----------|---------------------|--------------------|
| 第1回目     | オリエンテーション 技術発展と社会発展 | 技術発展 社会発展          |
| 第2回目     | 発明と普及の時間差について       | 蒸気船と帆船 動力と制御       |
| 第3回目     | 大型化の利得について          | スケールメリット 表面効果と体積効果 |
| 第4回目     | 産業革命論1 道具と機械        | 道具と機械 産業革命         |
| 第5回目     | 産業革命論2 大量生産社会       | 大量生産               |
| 第6回目     | 工作機械論 汎用と専用         | 工作機械 汎用と専用         |
| 第7回目     | フォーディズム 流れ作業        | コンベア流れ生産 大量生産      |
| 第8回目     | フォーディズム2 テーラーシステム   | テーラーシステム           |
| 第9回目     | ポストフォーディズム          | リーン生産方式            |
| 第10回目    | 日本の生産様式             | FMS JIT            |
| 第11回目    | ロボット論               | ロボット Rキューブ         |
| 第12回目    | 半導体工業論              | 半導体 IC             |
| 第13回目    | エレクトロニクス製品の現状 楽器の問題 | PCM デジタル           |
| 第14回目    | 全体まとめ               |                    |

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

多数の本、視覚教材を随時紹介していきます。

参考にして下さい。

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

| 種別 / Kind | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc. |
|-----------|-----------------|-------------------------------|
| 定期試験      | 100 %           | 講義者の論理を正確に理解すること              |
| なし        |                 |                               |

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

一冊のテキストで学習できるものではありませんので、講義を聞き逃さないようにして下さい。

## 教科書 / Textbooks

テキストはありません。随時レジュメ、参考資料を配布していきます。

## 参考書 / Reference Books

| 書名 / Title         | 出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment |
|--------------------|----------------------------------------------------------|
| 『技術と労働』            | 大沼正則／岩波書店／ISBN4-00-003662-9 c0336 /                      |
| 『アメリカンシステムから大量生産へ』 | D.A.ハウンシェル／名古屋大学出版会／ISBN4-8158-0350-1 /                  |

上記以外にも参考書は多数に渡りますので、随時紹介し、また抜粋なども配布します。

参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

適宜、講義などで紹介していきます。

その他 / Others

## 産業社会学 S S 産業社会学I S

15015

担当者名 / Instructor 木田 融男

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Description

産業社会学を「産業社会としてとらえられる現代社会の学」としつつ、主としてそこに生きる人々の生活スタイル（労働や生活をめぐる生き方）に焦点を絞り、生活スタイルの今まで、今日、そしてこれから、を見ていく。主として日本社会をあつかうが、大きく企業社会から新自由主義社会への変容を軸としつつ、雇用（不況）、女性、若もの／子どもなどをめぐる環境変化のなかで、日本人の生活スタイルおよび日本社会の今後の像を考えていきたい。

## 到達目標 / Focus and Goal

現代社会およびそこに生き／働く日本人の生活スタイルを、理論的／実態的にとらえることを目標とする。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

コア科目（現代と社会）、基礎社会学

## 授業スケジュール / Schedule

| 授業日（第N回） | テーマ / Theme                             | キーワード / Key Word             |
|----------|-----------------------------------------|------------------------------|
| 1週       | 講義のオリエンテーション                            |                              |
| 2週       | 本講義の産業社会学について                           | 産業社会、社会学、産業社会学               |
| 3週       | 現代社会と生活スタイル1 現代社会論と日本社会の位置              | 現代社会論、市民社会、福祉社会、企業社会、新自由主義社会 |
| 4週       | 現代社会と生活スタイル2 社会学理論と生活スタイル               | 生活諸過程、生活空間／生活史、生活スタイル        |
| 5週       | 現代社会と生活スタイル3 社会学理論と生活スタイル2              | 社会的行為、疎外、他者志向、本来的志向／手段的志向    |
| 6週       | 日本社会と生活スタイル1 義論をめぐって                    | 日本的集団主義、罪と恥、間人主義             |
| 7週       | 日本社会と生活スタイル2 生活志向と企業社会志向                | 私生活志向、企業社会志向、本来的仕事志向         |
| 8週       | 日本社会と生活スタイル3 両方志向（狭い私生活志向と企業社会志向）をめぐって  | 両方志向                         |
| 9週       | 日本社会と生活スタイル4 企業社会の病理とその変容               | 生活優先社会、会社人間                  |
| 10週      | 日本社会と日本人の諸層1 働く人々の環境変容                  | 年功制／成果主義賃金、階層化、縁辺化           |
| 11週      | 日本社会と日本人の諸層2 女性の社会的進出                   | M字カーブ、母性神話                   |
| 12週      | 日本社会と日本人の諸層3 若もの／子どもの意識変容 付 フリーター／ニート現象 | 知と人間関係、ゆとり教育                 |
| 13週      | 日本社会の変容と生活スタイル1 現代社会のこれから               | 第3の道、日本型新福祉社会                |
| 14週      | 日本社会の変容と生活スタイル2 日本社会のこれからと新しい生活スタイル     | 自立、共同体主義、新しい共同性（公共性）、自分たちの社会 |
| 15週      | まとめ                                     |                              |

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment  
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

コメントを時には持って帰ってもらい、学んだ箇所の整理と認識、およびそれへの自らのコメントを考えてもらう。

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

| 種別 / Kind | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc.     |
|-----------|-----------------|-----------------------------------|
| 定期試験      | 80 %            |                                   |
| 日常点       | 20 %            | 諸u義へのコメントをし、全体の成績によって評価に加味する場合がある |

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

レジュメ・資料にもとづいて講義する。時々コメント（コミュニケーション・ペーパー）を出してもらい、講義へのあなたたちの思索を把握したり、講義の往復に使ったりする。このコメントは、評価に加味する場合もある。決まったテキストはない。講義のなかでレジュメ・資料を配布する。参考文献



は、講義のなかでで紹介する。

#### 教科書 / Textbooks

#### 参考書 / Reference Books

| 書名 / Title           | 出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment |
|----------------------|----------------------------------------------------------|
| 『変容する企業と社会—現代日本の再編—』 | 浪江巖・木田融男・守屋貴司編 / 八千代出版 //                                |
| 『企業社会・日本はどこへ行くのか』    | 渡辺治 / 教育史料出版会 //                                         |
| 『転換期の人間と社会』          | 佐々木嬉代三・中川勝雄編 / 法律文化社 //                                  |
| 『変貌する社会と文化』          | 木田融男・佐々木嬉代三編 / 法律文化社 //                                  |

#### 参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

#### その他 / Others

## 産業デザイン論 S

13000

担当者名 / Instructor 要 真理子

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Description

デザインは、単に、視覚的にもおもしろい、格好いいというだけでなく、私たちの思考や感情に働きかけ、ときに政治的な道具となることもある。この講義では、産業革命以後のおもにイギリスのデザインに注目し、文化的社会的コンテクストと照応させながら、デザインの機能とその可能性について考察する。

## 到達目標 / Focus and Goal

- ・スライドで紹介した装飾品や建造物などのデザインについて、それらがいつの時代のものでどのような特性をもっているか、説明することができる。
- ・デザインが近代の社会構造や産業の発展と密接なつながりをもっていることを理解できる。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enrolle in, but not required to

## 授業スケジュール / Schedule

| 授業日 (第N回) | テーマ / Theme         | キーワード / Key Word  |
|-----------|---------------------|-------------------|
| 第1回目      | はじめに                |                   |
| 第2回目      | デザインの定義             | 構成要素と原理、形、色、素材    |
| 第3回目      | デザインと技術             | 古典古代、実用性          |
| 第4回目      | 産業革命と機械生産           | 鉄、ガラス             |
| 第5回目      | ウィリアム・モリスの理論と活動 (1) | コミュニティ、共同作業、理想の書物 |
| 第6回目      | ウィリアム・モリスの理論と活動 (2) | コミュニティ、共同作業、理想の書物 |
| 第7回目      | アーツ・アンド・クラフツ運動 (1)  | 生活のための芸術          |
| 第8回目      | アーツ・アンド・クラフツ運動 (2)  | 生活のための芸術          |
| 第9回目      | 唯美主義とアール・ヌーヴォー      | 芸術のための芸術          |
| 第10回目     | 大衆社会と趣味の変質 (1)      | 大量生産、多品種少量生産      |
| 第11回目     | 大衆社会と趣味の変質 (2)      | 複製、画一化、ファシズム      |
| 第12回目     | 境界線の曖昧化             | 身体、認識、環境          |
| 第13回目     | デザインの可能性            | 人、コミュニケーション、関係    |
| 第14回目     | まとめ                 |                   |

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

| 種別 / Kind | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc.                                           |
|-----------|-----------------|-------------------------------------------------------------------------|
| 定期試験      | 70 %            | 各回で取り上げた基本問題 (デザインの歴史性、地域性、視覚的特性など) について理解し、自分の言葉で論じることができているかどうかを評価する。 |
| 日常点       | 30 %            | 小テストや授業態度を参考にする。                                                        |

おもに最終試験によって評価するが、セメスターの途中で小テストを行う場合がある。

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

毎回スライドを使用し、複数の対象 (例: 装飾品、建造物) について説明するので、そのなかで重要と思われるものについてはそのデータをノートに書き留めておくこと。当然のことだが、私語・携帯メール等は慎んでもらいたい。

## 教科書 / Textbooks

## 参考書 / Reference Books

| 書名 / Title           | 出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment                                 |
|----------------------|------------------------------------------------------------------------------------------|
| 『ウィリアム・モリス』(SD選書226) | 藤田治彦/鹿島出版会/4-306-05226-5/ウィリアム・モリスの理論と活動、およびアーツ・アンド・クラフツ運動、唯美主義とアール・ヌーヴォーの回で、参照することができる。 |
| 『現代デザイン論』            | 藤田治彦/昭和堂/4-8122-9908-X/デザインの流れや用語を勉強したいという人にすすめる。                                        |
| 『グーテンベルクの銀河系』        | マーシャル・マクルーハン/みすず書房/4-622-01896-9/メディア論の古典。                                               |
| 『インダストリアル・デザイン』      | ハーバート・リード/みすず書房/デザインを通史的というよりも理論的に分析している。初学者には難解に思えるかもしれない。                              |

その他の参考文献については、授業内で適宜紹介していく。

参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

その他 / Others

14回の授業のなかで小テストを数回行います。予告なく行うこともあります。提出回数ではなく、回答内容で評価しますので、自分が理解したこと、考えたことを、自分の言葉で表現するようにしてください。

## 自我論 S S 社会行動論II S

15000

担当者名 / Instructor 景井 充

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Description

双方向型講義をおこなう。今期は、自己心理学を中心的な素材として、ナルシズム、自己愛、自尊心、恥といった一連のテーマを取り上げたいと考えている。自己心理学を取り上げるとはいえ、心理学の講義ではないので注意のこと。展開的に、日本文化の基本的性格<和の構造>について、あるいは日本文化における権威主義の性格とその問題点について、また<甘えの構造>の特質などにも言及することとなる。あとは、学生とのやり取り次第である。

## 到達目標 / Focus and Goal

①、心理学的・社会的・文化論的「自己」了解における重要なテーマについて基本的理解を獲得すること。②、そうした基本的理解に依拠して、各自の経験を反省的に捉え返し、経験を言語化できる能力を獲得すること。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enrolle in, but not required to

## 授業スケジュール / Schedule

| 授業日 (第N回) | テーマ / Theme                         | キーワード / Key Word |
|-----------|-------------------------------------|------------------|
| 第1回       | イントロダクション、コミュニケーションペーパー (以下CPと記す) ① |                  |
| 第2回       | CP①へのレスポンス                          |                  |
| 第3回       | 「自己愛」についての2つの観点 (1)                 | 自己愛              |
| 第4回       | 「自己愛」についての2つの観点 (2)、CP②             | 自己愛              |
| 第5回       | CP②へのレスポンス                          |                  |
| 第6回       | ナルシズムとは何か (1)                       | ナルシズム            |
| 第7回       | ナルシズムとは何か (2)、CP③                   | ナルシズム            |
| 第8回       | CP③へのレスポンス                          |                  |
| 第9回       | 現代社会と「自己」 (1)                       | 自己、自尊心           |
| 第10回      | 現代社会と「自己」 (2)、CP④                   | 自己、自尊心           |
| 第11回      | CP④へのレスポンス                          |                  |
| 第12回      | 日本文化・社会と「自己」 (1)                    | 自己、恥             |
| 第13回      | 日本文化・社会と「自己」 (2)、CP⑤                | 自己、恥             |
| 第14回      | CP⑤へのレスポンス                          |                  |
| 第15回      | 総括 — 「自己」のリアリティとは何か                 |                  |

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment  
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

| 種別 / Kind | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc. |
|-----------|-----------------|-------------------------------|
| レポート      | 100 %           |                               |

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

双方向型の講義を楽しんでもらえればと思う。ただ、講義の水準は比較的高いと思うので、集中して臨まない講義の中心にあるメッセージを受け止めることはできないだろう。双方向型講義は教員との共同作業で作るものである。張り切って参加してもらいたい。

## 教科書 / Textbooks

印刷して配布する資料を素材に用いる。

## 参考書 / Reference Books

適宜紹介する。

## 参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

## その他 / Others

## 質的調査論 S

15213

担当者名 / Instructor 斎藤 真緒

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Description

本講義は、社会調査士プログラムの一環として今年度から開講される科目である。複雑化・多様化する現代社会において、人々の生活のリアリティに迫る手法として、質的調査が注目を集めている。本講義では、情報処理や計量社会学に含まれている量的調査との相互補完関係にある質的調査について、基本的な考え方、様々な種類の質的調査の方法とそれぞれの特性について学習する。同時に、受講生が自ら質的調査を実施する(グループ調査および個人調査)ことを通じて、質的調査についての理解をより実践的に深めることを目的とする。

## 到達目標 / Focus and Goal

本講義では、質的調査の理論的・哲学的基礎を理解すると同時に、調査での実践力を培うことで、社会調査にかかわるスキルの向上を目指す。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

量的調査に関する基礎知識を前提として講義を進めるため、関連する社会調査士プログラム等(情報処理、計量社会学)を受講しておくことが望ましい。

## 授業スケジュール / Schedule

| 授業日(第N回) | テーマ / Theme       | キーワード / Key Word  |
|----------|-------------------|-------------------|
| 第1回      | 社会調査入門            | 調査倫理、仮説           |
| 第2回      | 質的調査と量的調査         | 帰納法、演繹法、リアリティ     |
| 第3回      | 質的調査の歴史           | シカゴ学派、エスノメソドロジー   |
| 第4回      | グループインタビュー調査計画の作成 | サンプリング            |
| 第5回      | 質的調査の手法①          | インタビュー調査          |
| 第6回      | 質的調査の手法②          | 参与観察              |
| 第7回      | グループインタビュー調査報告会   |                   |
| 第8回      | 個人インタビュー調査計画の作成   |                   |
| 第9回      | 質的調査の手法③          | グラウンデッド・セオリー      |
| 第10回     | 質的調査の手法④          | ライフヒストリー、ライフストーリー |
| 第11回     | 質的調査の手法⑤          | ナラティブ分析           |
| 第12回     | 質的調査の分析技法         | 信頼性、妥当性           |
| 第13回     | 個人インタビュー調査報告会①    |                   |
| 第14回     | 個人インタビュー調査報告会②    |                   |
| 第15回     | 質的調査の可能性          | トライアングレーション       |

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

| 種別 / Kind | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc. |
|-----------|-----------------|-------------------------------|
| レポート      | 50 %            | インタビュー調査報告書の提出                |
| 日常点       | 50 %            |                               |

本講義は、一方向的な講義ではなく、講義外の時間を用いた調査および講義での報告会を行う予定である。したがって常的な出席が難しい学生には適さない。

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

## 教科書 / Textbooks

テキストは用いない。

## 参考書 / Reference Books

参考書については、講義で適宜提示する。

## 参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

## その他 / Others

## 児童・青年心理学 S § 児童青年の心理 S § 児童青年の心理 S § 児童福祉論II S

10914

担当者名 / Instructor 加藤 直樹

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Description

本講義では、児童心理学、青年心理学の基本を講義する。なおこれに加えて、児童福祉について母子保健、障害児福祉を中心に解説する。

## 到達目標 / Focus and Goal

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enrolle in, but not required to

## 授業スケジュール / Schedule

| 授業日 (第N回) | テーマ / Theme                                                                          | キーワード / Key Word |
|-----------|--------------------------------------------------------------------------------------|------------------|
|           | 1 乳幼児の発達                                                                             |                  |
|           | 1.1 乳幼児の発達 (1) 1.2 乳幼児の発達 (2) 1.3 1歳児の発達 1.4 2歳児の発達 1.5 3歳児の発達 1.6 4歳児の発達 1.7 5歳児の発達 |                  |
|           | 2 児童・青年の発達                                                                           |                  |
|           | 2.1 学童期の発達 2.2 思春期の発達 2.3 青年期の発達                                                     |                  |
|           | 3 子育てと児童福祉                                                                           |                  |
|           | 3.1 生まれる前から始まる母子保健 3.2 乳幼児健診・相談 3.3 障害児の早期発見・対応 3.4 子育て支援と保育 3.5 子ども—家庭—学校—地域        |                  |

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

| 種別 / Kind             | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc. |
|-----------------------|-----------------|-------------------------------|
| 定期試験                  | 100 %           |                               |
| 試験を行うと共に小テストを結果を加味する。 |                 |                               |

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

## 教科書 / Textbooks

特に設けない

## 参考書 / Reference Books

講義の中で紹介する

## 参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

## その他 / Others

随時小テストを行う

## 児童福祉論 S S 児童福祉論I S S 児童福祉論 SG

10685

担当者名 / Instructor 野田 正人

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Description

児童福祉は、最近では「子ども家庭福祉」とも呼ばれ、社会福祉分野の重要な一領域である。特に子どもの権利を視野に入れ、子どもの福祉に関するさまざまな制度や施策を理解すると同時に、その実現のためのソーシャルワークをも理解することが必要である。そこで、子どもの権利について学んだ上で、児童福祉の展開に関して学び、中でも特に児童虐待や非行など、援助が困難な領域の基本を学ぶ場とする。

## 到達目標 / Focus and Goal

社会福祉士の基本分野のひとつであり、児童に関する専門職としての基本を学ぶものである。児童虐待防止法の第1条にあるように、子どもの命とその人生、そして次世代までを視野にいれば援助を学ぶ科目である。本来通年でも不足するボリュームを半期で学ぶため、相当厳しい内容となり、例年相当数がFとなる。教養レベルではないのでこころして受講されたい。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enrolle in, but not required to

特になし

## 授業スケジュール / Schedule

| 授業日 (第N回) | テーマ / Theme          | キーワード / Key Word |
|-----------|----------------------|------------------|
| 1         | 子ども家庭福祉の原理と子どもの権利の系譜 |                  |
| 2         | 子どもの権利の系譜            |                  |
| 3         | 子どもの権利条約             |                  |
| 4         | 日本の子どもの課題            |                  |
| 5         | 子ども家庭福祉の施策           |                  |
| 6         | 子ども家庭福祉の実施体制         |                  |
| 7         | 分野別の課題 (子育て支援・保育)    |                  |
| 8         | 分野別の課題 (健全育成)        |                  |
| 9         | 分野別の課題 (自立支援)        |                  |
| 10        | 分野別の課題 (児童虐待)        |                  |
| 11        | 分野別の課題 (非行)          |                  |
| 12        | 子ども家庭福祉の専門職          |                  |
| 13        | 子ども家庭ソーシャルワーク        |                  |
| 14        | 子ども家庭福祉の課題           |                  |
| 15        | 子ども家庭福祉の今後           |                  |

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

| 種別 / Kind | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc. |
|-----------|-----------------|-------------------------------|
| 定期試験      | 60 %            | 通常の試験を実施する。                   |
| レポート      | 30 %            | 講義中に課題提示と回収を行うので、各自は注意すること。   |
| 日常点       | 10 %            | 原則として、コミュニケーションペーパーを使用する。     |

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

社会福祉発達史から、具体の援助技術方法論まで言及するので、そのような領域の基本書を一度目を通しておくことをすすめる。

## 教科書 / Textbooks

| 書名 / Title                                                   | 出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment |
|--------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------|
| 子ども家庭福祉論                                                     | 高橋重宏・才村純編著 / 建帛社 // 毎回携行のこと                              |
| 社会福祉六法                                                       | /// 備考参照                                                 |
| 社会福祉士受験には、社会福祉省六法が必要であるが、特に各分野が頻繁に法改正されているので、極力最新のものを使用すること。 |                                                          |

## 参考書 / Reference Books

| 書名 / Title                                                      | 出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment |
|-----------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------|
| 子どもの権利と社会的子育て                                                   | 許斐・望月・野田・桐野 / 信山社 //                                     |
| 子どもを虐待から守る制度と介入手法                                               | 峯本耕治 / 明石書店 //                                           |
| 社会福祉士の基本科目であり、温情的扱いは資格の信頼性を損なうと同時に利用者の人権を損なうこともあり得るため、厳しく可否を決めて |                                                          |

いる。特に最近高学年の不合格が多いが、この場合国家資格受験ができないので、心されたい。

**参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course**

厚生労働省 <http://www.mhlw.go.jp/index.html>  
外務省人権 <http://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/jido/index.html>

**その他 / Others**



## 司法福祉論 S

13090

担当者名 / Instructor 野田 正人

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Description

司法福祉は、司法を通じて福祉課題を解決しようという営みであり、政策から臨床技術を含む。  
従来は少年非行問題を中心に研究が進んできたが、今日では福祉全般における法的手続きの課題が大きくなり、家族介入や権利擁護などの分野でも必要とされるようになっていく。  
本講ではその流れを受けて、非行にとどまらない分野での取り組みに言及する。  
留意点として、司法福祉は法学的知識や心理学的知識が求められるものの、それらも基礎の一つとして福祉分野の科目であることを充分認識して受講されたい。

## 到達目標 / Focus and Goal

司法福祉の分野を理解することと同時に、福祉課題解決のために司法が関与する余地の意義について学習する。  
非行・虐待・財産保全などに関して、司法活用の余地があることに関して理解し、福祉の事例において、司法活用の余地の有無に関する検討が可能なレベルを期待する。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

特になし

## 授業スケジュール / Schedule

| 授業日 (第N回) | テーマ / Theme                  | キーワード / Key Word |
|-----------|------------------------------|------------------|
| 1         | 司法福祉の概念と定義                   |                  |
| 2         | 司法福祉の発見と発展                   |                  |
| 3         | 司法手続の概要とシステム                 |                  |
| 4         | 司法に関わる福祉課題 (夫婦)              |                  |
| 5         | 司法に関わる福祉課題 (親子)              |                  |
| 6         | 司法に関わる福祉課題 (虐待)              |                  |
| 7         | 司法に関わる福祉課題 (地域福祉権利擁護事業と成年後見) |                  |
| 8         | 少年保護制度と少年法                   |                  |
| 9         | 少年法と児童福祉法                    |                  |
| 10        | 非行へのまなざし                     |                  |
| 11        | 非行を見分けること                    |                  |
| 12        | 非行を施設で克服すること                 |                  |
| 13        | 非行を在宅で克服すること                 |                  |
| 14        | 被害者を支えること                    |                  |
| 15        | 司法福祉の今後                      | まとめ              |

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

受講期間中は、社会で生じる司法福祉上の課題に関心を持って、収集につとめてください。

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

| 種別 / Kind | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc. |
|-----------|-----------------|-------------------------------|
| レポート      | 60 %            |                               |
| 日常点       | 40 %            | 出席状況・講義中の課題やコメントによる           |

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

## 教科書 / Textbooks

| 書名 / Title                                                                        | 出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment |
|-----------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------|
| よくわかる司法福祉                                                                         | 村尾泰弘・廣井亮一／ミネルヴァ書房／4623040003／必要                          |
| 六法 特に民法（親族・相続）、刑法、少年法、児童福祉法、社会福祉法などが必要となるが、福祉六法を所持した上で、通常の六法が必要に応じて使える状況ならばそれでよい。 |                                                          |

## 参考書 / Reference Books

| 書名 / Title | 出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment |
|------------|----------------------------------------------------------|
| 司法福祉の焦点    | 加藤・野田・赤羽／ミネルヴァ書房／4623024733／                             |
| 司法福祉論・増補版  | 山口幸男／ミネルヴァ書房／4623042936／                                 |

|             |                          |
|-------------|--------------------------|
| 家庭裁判月報      | 最高裁／／／                   |
| 犯罪白書・警察白書・他 | ／／／                      |
| 非行臨床と司法福祉   | 加藤幸雄／ミネルヴァ書房／4623038831／ |

参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

その他 / Others

## ジャーナリズム論 S

13077

担当者名 / Instructor 柳澤 伸司

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Description

現代の市民社会に不可欠なメディア。環境や権力の監視とそれを伝える機能はジャーナリズムの本質である。何を伝え、何を言わなければならないか。現代社会におけるジャーナリズムの役割はますます重要になってきている。本講義では主として日本におけるジャーナリズムの機能・役割と責任、言論・表現の自由とそれをめぐる歴史・現状などについて、時事的・実質的な問題を取り上げながら多面的に考察する。授業は、覚えなければならない知識を獲得するというよりも、問題意識を啓発することに主眼を置くので、そこから生じるさまざまな問題意識に対して自分なりに深めることが重要である。

## 到達目標 / Focus and Goal

ジャーナリズムの本質やその現在の問題を歴史的相対的に捉える視座を獲得する。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enrolle in, but not required to

## 授業スケジュール / Schedule

| 授業日 (第N回) | テーマ / Theme                           | キーワード / Key Word |
|-----------|---------------------------------------|------------------|
|           | はじめに～授業の進め方と評価について・総論                 |                  |
|           | ジャーナリズムとは何か～ジャーナリズムとジャーナリストを考える       | ジャーナリズム          |
|           | 言論表現の自由～歴史的視点 (1) 黒岩涙香と宮武外骨           | 黒岩涙香、宮武外骨        |
|           | 言論表現の自由～歴史的視点 (2) 白虹事件と朝日新聞           | 白虹事件             |
|           | 言いたいことと言わねばならないこと～歴史的視点 (3) 菊竹六鼓と桐生悠々 | 菊竹六鼓、桐生悠々        |
|           | 報道することの難しさ～ジャーナリズムのアキレス腱？             | 皇室報道             |
|           | 報道システムの構造的問題～権力を監視し批判すること             | 記者クラブ制度          |
|           | 報道システムの構造的問題～国家秘密と知る権利 (1) 告発         | 沖縄返還密約事件         |
|           | 記者の倫理と企業の論理～国家秘密と知る権利 (2) メディアの敗北     | 記者の倫理            |
|           | 戦争報道とメディア～ (1) 戦争報道から何を学ぶか            | 宣伝、情報操作          |
|           | 戦争報道とメディア～ (2) メディアは何を伝えるか            | 映像のリアリティ         |
|           | 取材と報道のバランス～取材のプロセス                    | 雑誌記者             |
|           | メディアが作り出す報道被害～報道と人権の狭間で               | 犯罪報道、報道被害        |
|           | ジャーナリズムをどうするか～いま言わねばならないこと            |                  |

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

新聞、テレビ、週刊誌など現代社会の出来事を伝える報道に意識的に接触すること。ジャーナリズム論を深めるための参考文献を授業時に多数紹介するが、関連する文献を読み、問題意識を深めること。なお、ジャーナリズム論は現代史と深く関わっているので、近現代史の知識を増やすよう努力すること。

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

| 種別 / Kind                                                                                 | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc.                                             |
|-------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------|---------------------------------------------------------------------------|
| レポート                                                                                      | 70 %            | 最終的に授業に関連したテーマで作成した課題レポートを指定された期間までにオンライン提出。論点や表現の的確性、オリジナリティなどの観点を中心に評価。 |
| 日常点                                                                                       | 30 %            | 授業中に出す課題レポート (数回) のオンライン提出。主題に関わる意見の的確性、独自性を中心に評価。                        |
| 評価に関わるレポートの課題・評価基準等、詳細な執筆要領を初回の授業時に説明するので、必ず出席すること。なお、レポートはオンライン (メール) による提出となるので注意してほしい。 |                 |                                                                           |

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

受講者の問題意識を啓発するためにパワーポイントや関連ビデオなどを活用して授業を行う。一方的な講義ではなくテーマに関わって受講者の意見を求めながら授業を進める。ジャーナリズム論はそのテーマ性から時事的な問題を扱うので、予定された進度を変更することもあり得ることを了承の上、受講してほしい。レジュメ・資料等の配布物は授業時 (教室) 以外では配布しない。

## 教科書 / Textbooks

使用しない。必要に応じてレジュメ・資料等を用意する。

## 参考書 / Reference Books

書名 / Title

出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment

日本のジャーナリズムとは何か 情報革命下で 柴山哲也 編著／ミネルヴァ書房 ／4-623-03977-3 ／  
漂流する第四の権力

その他、適宜紹介する。

参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

<http://www.ritsumeai.ac.jp/kic/~syt01970/>

その他 / Others

授業中の私語は他の受講者の迷惑になるので厳しく対処する。

## 社会意識論 S S 社会意識論 I S

15106

担当者名 / Instructor 清 真人

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Description

近代西欧起源の社会科学的伝統のなかでは「社会」は、「家族」と「国家」の二つの極に対立すると同時に両極を媒介しするアンヴィバレントな性格をもった中間領域＝次元として問題にされてきた。そしてまた近代日本では、この関係性をめぐる西欧の理解（自己把握）との比較を通して、それでは日本的な特殊性を自分たちとしてはどのように問題化すべきかが絶えず問われてきた。

本授業では、最初に「社会」という問題領域がそうした社会科学的伝統のなかでどのように意識化されてきたかを概略的に素描した後、現代日本でこの「社会」的次元の主体的な造りなおしの試みがどのような理念と方法的意識のもとで改めて追求されだしているかを、「社会文化」論的視点から考察する。ここでいう「社会文化」とは、今日の問題状況が要請するより人間的な「社会」のあり方（それはとりもなおさず「個人」のあり方でもある）を生み出すうえで、それを既に生活のなかで実践されている一つの生き方として再発見し、意識化し、意味づけ、価値化し、そうすることでヴィジョンにまで高め、より強力な「社会」創造の実践（＝生活方法・生き方）を生み出す「文化」の力、これを重視する視点を意味する。

## 到達目標 / Focus and Goal

「社会」概念をめぐる社会科学的思考の伝統のアウトラインを基礎知識として身につけると同時に、それを今日の自分自身に適用して、今日の「社会」創造の生きた営みへの視点を獲得すること。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

## 授業スケジュール / Schedule

| 授業日 (第N回) | テーマ / Theme                                          | キーワード / Key Word                                                                     |
|-----------|------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------|
| 第1回       | 和辻哲郎の受けたショックと発見と思索——「社会」をめぐって                        | 旅とは何か？ 公共的社会と独立的個人の弁証法、和辻「風土」                                                        |
| 第2回       | 「市民社会」の概念史1——「ポリス」共同体と「市民」精神の伝統                      | 「市民社会」、「ポリス」、「市民」、「公共性」                                                              |
| 第3回       | 「市民社会」の概念史2——ヘーゲルとマルクスにおける「家族/市民社会/国家」の三区別と「資本主義」の誕生 | 「共同体（ゲマインシャフト）」と「競争的市場社会（ゲゼルシャフト）」、「資本主義」、ルソーにおける「公民」と「私民」との区別、ヘーゲル、マルクス、テンニエス、ヴェーバー |
| 第4回       | 「市民社会」の概念史3——「自由社会主義」の伝統とマルティン・ブーバーおよびハンナ・アーレントの問題意識 | 「製作」と区別される「実践」における人格証示と価値承認、対話の精神とコミュニティ、共同で社会を創造する喜び                                |
| 第5回       | 和辻の問題意識と柳田國男の「青年団」論                                  | 「村」社会、日本的自治精神の伝統、柳田民俗学と「郷土」研究、「天皇制」                                                  |
| 第6回       | 阿部謹也の「世間」論と戦後日本の「近代主義」                               | 「世間」、丸山真男、「近代主義」                                                                     |
| 第7回       | 「社会文化運動」の視点1——ハンブルクにおける「社会文化運動」のありよう                 | 社会文化運動、転回点としての68年、「新しい社会運動」、アイデンティティ問題と複数主義                                          |
| 第8回       | 「社会文化運動」の視点2（味方慎一氏との対話授業——街をどう造りなおすか？）               | 街の造りなおしと文化                                                                           |
| 第9回       | 「社会文化運動」の視点3——エーリッヒ・フロムの「社会心理学」の視点                   | 社会の内面化としての自我、「市場的構え」の問題性、新しいアイデンティティ意識                                               |
| 第10回      | 社会文化運動」の視点4——街とコミュニティ・カフェ                            | 「場」とコミュニケーション、ハーバーマス、公共圏とコミュニケーション、媒体としての芸術・文学・演劇                                    |
| 第11回      | 「社会文化運動」の視点5——街と学問（京都自由大学の試み）                        | 「在野」の伝統、「塾」の伝統、ヨーロッパの「大学」と学生組合、民間研究所と市民社会                                            |
| 第12回      | 「社会文化運動」の視点6——歌による革命（映画『アマンドラ：希望の歌』から考える）            | 黒人闘争と音楽、音楽と運動、                                                                       |
| 第13回      | 「社会文化運動」の視点7——街と在日外国人                                | 多文化共生とグローバリゼーション、生野の歴史、在日の歴史、複数主義的アイデンティティ                                           |
| 第14回      | まとめ                                                  |                                                                                      |
| 第15回      | 試験                                                   |                                                                                      |

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

自分の住む町や郷里での草の根の市民からの新しい街づくりの試みを発見し、その実際を知り、考察すること

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

| 種別 / Kind | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc. |
|-----------|-----------------|-------------------------------|
| 定期試験      | 70 %            |                               |
| レポート      | 30 %            |                               |

**受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research**

本授業を他の授業と自分の頭のなかで関連付け、「社会」に関する自分の基礎知識と関心とを《断片的に散在している状態》から《有機的に繋がっていき総合的となっていく状態》へと高めること

**教科書 / Textbooks**

教科書は、(1) 授業中に適宜配るプリントと (2) 『経験の危機を生きる——応答の絆の再生へ』、清真人、青木書店、ISBN4-250-99018-4、との二本立てからなる。

後者は、今日の「社会」の危機を、人間的な生を支え導く意識の形成の土台となる基礎的な「経験」の危機という視点から照らし出そうとしたものであり、またその点で「社会文化運動」の視点の基礎となる考え方を示したのもでもあり、本授業での問題考察をより内面的な視点から支え補完するものである。この点で、授業中に関連箇所が適宜指示され、「社会」と「意識」とをたえまなく関連付ける本授業の進行を「意識」の側から支える役割を果たす。

**参考書 / Reference Books**

授業中に適宜指示する

**参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course****その他 / Others**

## 社会階層論 S S 労働問題I S

15039

担当者名 / Instructor 中川 輝彦

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Description

本講義の狙いは、受講生が「階層 (社会階層)」という概念を理解し、その理解に基づいて日本社会を認識する力を習得することです。「階層」とは、収入などの社会的資源の格差を記述するための概念です。したがって、階層を論じることは「総中流」と言われてきた日本社会の中にある格差を認識することでもあります。講義では、教育、家族、仕事といった身近なトピックと絡めつつ、このテーマについて論じていく予定です。

## 到達目標 / Focus and Goal

社会階層論および関連分野の概念・論理を習得すること。すなわち、そうした概念・論理を用いて (日本) 社会を論じることができるようになること。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

講義では「数字」や「数式」も登場します。しかし、議論の中心は、階層 (格差) を維持したり、作りだしたりする仕組みであり、その仕組みを認識するための概念・論理です。「数字アレルギー」「数学アレルギー」の方も毛嫌いせず、受講してください。

## 授業スケジュール / Schedule

| 授業日 (第N回) | テーマ / Theme      | キーワード / Key Word                  |
|-----------|------------------|-----------------------------------|
| 1～3回目     | 階層および階層論の現状 (概説) | 階層、階級、社会移動                        |
| 4～8回目     | 教育と社会階層          | 学歴社会、メリトクラシー、文化的再生産、インセンティブ・ディバイド |
| 9～10回目    | ジェンダーと階層         | ジェンダー、感情労働                        |
| 11～12回目   | 家族と階層            | 地位の世帯共同性、近代家族、個人化                 |
| 13～15回目   | 福祉国家と階層          | 福祉国家、社会保障、総力戦体制、グローバリゼーション        |

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

近年マスメディアには「格差」をめぐる議論があふれています。それらに親しんでおいてください。

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

| 種別 / Kind | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc.                                                                                                                        |
|-----------|-----------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 定期試験      | 100 %           | 試験では概念・論理が理解できているか否かを評価します。この場合「理解できている」ことの必要条件は、概念・論理を平易な言葉で (例えば予備知識のない高校生にもわかるような言葉で) 解説できることです。したがって「ジャーゴン」を説明なしに並べているような答えは評価しません (「努力点」ありません)。 |

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

授業中関心のあるトピックを見つけたら、プリントに記載の参考文献等を参考に、さらに深く学習してください。

## 教科書 / Textbooks

授業中にプリントを配布します。それが「教科書」になります。

## 参考書 / Reference Books

配布のプリントに記載します。

## 参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

## その他 / Others

## 社会学講読 SB S 社会学講読II SB

15237

担当者名 / Instructor 景井 充

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Description

社会学は、社会科学の諸分野の中で最も後発の分野であり、近代社会の自己認識の学として成立した。ということは、社会学の本質的性格は近代社会と切り離せないということである。このことを知らずして社会学的認識は獲得できない。いまや社会学はありとあらゆる社会的関心に食指を伸ばす貪婪な学問であるが、もともとはっきりとした歴史的課題への取り組みとして成立した経緯がある。本講義では、社会学の歴史的認識の成立過程をたどることによって、社会学的思考のあり方を知る機会としたい。下記のテキストを用いる。

## 到達目標 / Focus and Goal

社会学的発想と認識の前提となる、社会学的問題意識の性質と歴史的 성격とについての認識を獲得すること。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

## 授業スケジュール / Schedule

| 授業日 (第N回) | テーマ / Theme             | キーワード / Key Word |
|-----------|-------------------------|------------------|
| 第1回       | イントロダクション               |                  |
| 第2回       | 第Ⅰ部 第1章 意志によって秩序づけられる世界 | 前近代社会における世界像     |
| 第3回       | 第Ⅰ部 第2章 法によって秩序づけられる世界  | 自由と秩序            |
| 第4回       | 第Ⅰ部 第3章 市民社会の秩序         | 市民社会の原型          |
| 第5回       | 第Ⅰ部 第4章 市民社会の葛藤と国家      | 社会と国家の矛盾         |
| 第6回       | 第Ⅰ部についての小括              | 近代市民社会の成立        |
| 第7回       | 第Ⅱ部 第1章 テクノクラットの社会設計図   | 社会の自己発展モデル       |
| 第8回       | 第Ⅱ部 第2章 社会の自己発展モデル      | マルクスの社会理論        |
| 第9回       | 第Ⅱ部 第3章 現存秩序の正当化        | スペンサーの社会進化論      |
| 第10回      | 第Ⅱ部についての小括              | 近代市民社会の矛盾とその評価   |
| 第11回      | 第Ⅲ部 第1章 社会学の近代化とはなにか    | 近代社会学への転換        |
| 第12回      | 第Ⅲ部 第2章 形式の規制力          | ジンメル の形式社会学      |
| 第13回      | 第Ⅲ部 第3章 意味の探求           | ウェーバーの理解社会学      |
| 第14回      | 第Ⅲ部 第4章 統合を求めて          | デュルケームの社会学       |
| 第15回      | 第Ⅲ部についての小括、全体の総括        | 社会学的思考           |

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

| 種別 / Kind | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc.    |
|-----------|-----------------|----------------------------------|
| レポート      | 40 %            | セメ末に各自の問題意識に基づいて最終レポートを書いてもらう。   |
| 日常点       | 60 %            | 3回の小括の際にレポートを書いてもらう。これを各回20点とする。 |

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

半期で1冊のテキストを読み通すのは大変だが、社会学の歴史的立場付けや問題意識のあり方について、まとまった認識を獲得するチャンスとなるはずであるから、積極的な姿勢で臨んでもらえば得るものは大きいはずである。

## 教科書 / Textbooks

| 書名 / Title        | 出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment |
|-------------------|----------------------------------------------------------|
| 『社会学的思考とはなにか』1998 | 三溝信著／有信堂／／                                               |

## 参考書 / Reference Books

適宜紹介する。

## 参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

## その他 / Others



## 社会学史Ⅱ 社会学概論Ⅱ

14986

担当者名 / Instructor 佐藤 春吉

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Description

社会学の生誕、確立の歴史を、重要な社会学者に則して概説する。その際には、社会学の形成発展を促した西欧近代社会の展開との関連を重視する。したがって、重要な社会学者の理論内容とともに、その歴史的社会的背景や思想的背景についてもできるだけわかりやすく解説し、社会学が立ててきた社会への問いの性格や意味について理解し考えていくことを重視して講義する。

## 到達目標 / Focus and Goal

社会学を基礎づけてきた古典的な社会学者の社会学説を理解し、社会的歴史的な背景のなかで、真剣に問われた問題を考え、各社会学者が設定した問題、重要概念や研究方法、社会学研究に立ち向かう考え方について学び、社会学的思考のための基礎的な素養を身につけることを目標にする。

具体的到達目標は、①代表的社会学者の主要な学説内容、主張、キー概念を理解すること、②それらの諸概念を普段の生活や学習に応用して考える力をつける。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

「基礎社会学」を受講していることはぜひ勧めたい。その他、社会学に関わる諸講義を受講しておれば、関心も深く理解しやすくなる。また、西欧近代史、近代の哲学思想(史)や経済学、政治学にかかわる講義も理解を助けるであろう。社会学を学ぶ学生にとっては社会学史に関する知識は必須の知識ともいえる事柄なので、軽視しないでプリントや参考書をもとに自主的に学習して欲しい。

## 授業スケジュール / Schedule

| 授業日(第N回) | テーマ / Theme                                                                | キーワード / Key Word                                        |
|----------|----------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------|
| 第1回      | 社会学成立の背景; 16世紀以来の西欧近代の誕生と19世紀ヨーロッパ市民社会の危機と変容と社会思想ならびに社会科学の課題               | ヨーロッパ近代市民社会                                             |
| 第2回      | 社会学の前史としての社会思想; 近代市民社会の成立と啓蒙主義的市民社会論; 1. ホッブス、ロック、ルソー                      | 近代社会の形成、自然法と経験科学、社会契約                                   |
| 第3回      | 社会学の前史としての社会思想; 近代社会の成立と啓蒙主義的市民社会論; 2. アダム・スミス                             | 自然法の経験科学、啓蒙の成果                                          |
| 第4回      | 社会学の生誕とその意味; 資本主義の矛盾と啓蒙主義思想の破綻(19世紀問題)とそれに立ち向かう社会科学としての社会学                 | 啓蒙の破綻と変容、19世紀的転換期の危機                                    |
| 第5回      | 社会学の生誕1; コントとスペンサー                                                         | 社会有機体説、歴史発展の法則、実証主義                                     |
| 第6回      | 社会学の生誕2; 資本主義の矛盾とマルクス(1)                                                   | 資本主義の矛盾、階級、疎外、物象化                                       |
| 第7回      | 社会学の生誕2; 資本主義の矛盾とマルクス(2)                                                   | 史的唯物論、生産力、生産関係、土台と上部構造                                  |
| 第8回      | 社会学の確立、社会学の古典期の成果; 19世紀末から生じた20世紀的な社会的構造転換と社会学の対象、方法の自覚的な仕上げ1; ジンメル        | 社会化の形式と形式社会学、心的相互作用                                     |
| 第9回      | 社会学の確立、社会学の古典期の成果; 19世紀末から生じた20世紀的な社会的構造転換と社会学の対象、方法の自覚的な仕上げ2; デュルケム(1)    | 実証主義、社会学主義、集合意識、社会的拘束力、方法論的集合主義                         |
| 第10回     | 社会学の確立、社会学の古典期の成果; 19世紀末から生じた20世紀的な社会的構造転換と社会学の対象、方法の自覚的な仕上げ2; デュルケム(2)    | 社会的事実、聖なるもの、俗なるもの、象徴主義                                  |
| 第11回     | 社会学の確立、社会学の古典期の成果; 19世紀末から生じた20世紀的な社会的構造転換と社会学の対象、方法の自覚的な仕上げ3; M. ヴェーバー(1) | 価値自由、理念型、方法論的個人主義、行為の諸類型、理解社会学、合理化                      |
| 第12回     | 社会学の確立、社会学の古典期の成果; 19世紀末から生じた20世紀的な社会的構造転換と社会学の対象、方法の自覚的な仕上げ3; M. ヴェーバー(2) | 支配、権力、支配の諸類型、集団類型、官僚制                                   |
| 第13回     | 社会学の確立、社会学の古典期の成果; 19世紀末から生じた20世紀的な社会的構造転換と社会学の対象、方法の自覚的な仕上げ3; M. ヴェーバー(3) | カリスマ、プロテスタンティズムと資本主義の精神、エートス、世俗内禁欲、使命予言、模範予言、ゼクテ、脱魔術化   |
| 第14回     | 第一次大戦以後の社会学; シカゴ学派とアメリカ社会学の展開                                              | 都市社会学、トマス、ミード                                           |
| 第15回     | 現代社会学お出立; パーソンズ社会学とその批判                                                    | AGIL図式、機能要件、構造機能主義、ラジカル社会学、現象学的社会学、ハーバーマスとコミュニケーション合意理性 |

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment  
 (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

講義時に配布する講義レジュメ、WebCT上で掲示する講義ノートをもとに、自宅学習をすることが重要になります。講義ノートとレジュメを活用するとともに、以下の社会学史の参考書と辞典も活用することを勧める。

新睦人他『社会学の歩み』有斐閣新書

同『社会学の歩み パート2』有斐閣新書

那須壽編『クロニクル社会学』有斐閣選書

浜島朗編『社会学小辞典』有斐閣

また、普段から古典と言われる重要な社会学者の著作を読むこと。自分の研究テーマをもって学習し、社会学を応用的に生かすように普段から心がけることが大切です。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

| 種別 / Kind | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc.                      |
|-----------|-----------------|----------------------------------------------------|
| 定期試験      | 100 %           | 試験成績をもとに、理解度、9割5分以上A+、8割以上A、7－8割B、6－7割Cを基本的な目安とする。 |

この講義は、基本的な知識の修得が肝心なので、各社会学者の学説や主要概念などの重要事項が理解できているかどうか試験される。講義に出席し、講義で配付されるプリントをよく読み、講義内容をしっかり理解していないと全く答えられないことになるので、きちんと学習を続けて欲しい。

受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

講義では講義レジュメを配布し、それに基づいて講義する。より詳しいプリントは、WebCTを利用して、受講者の利用に供する。受講者は、まず授業に出席すること、そのうえで、配布されるプリント教材をもとに講義内容をしっかり理解するようには必要がある。この他、他の社会学関係の講義や参考文献をも利用しながら、講義以外でも普段に社会学の歴史や重要な社会学者やその学説に関心をもって学習するようにして欲しい。社会学を学ぶ際には、小型の社会学辞典を買い求めることを勧める。社会学について学ぶ際には、辞典を手元におき、社会学関連の重要概念について、常々関心をもって調べる習慣をつけることが大切である。

教科書 / Textbooks

いわゆる「教科書」は、指定しない。講義プリントはかなり量も多く、教科書に匹敵するものになっている。しかし、受講者には、この他に、以下の参考書をあらかじめ購入し、参考にするを強く勧めたい。

新睦人他『社会学の歩み』有斐閣新書

同『社会学の歩み パート2』有斐閣新書

那須壽編『クロニクル社会学』有斐閣選書

浜島朗編『社会学小辞典』有斐閣

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

その他 / Others

## 社会学理論 S S 社会学理論I S

15048

担当者名 / Instructor 宝月 誠

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Description

現代の社会学理論の基本的な考え方を学んでもらうことを主眼にしている。そのためにデュルケムやヴェーバーなどの古典のみならず、現代の合理的選択理論やシホリック相互作用論、ブルデューの理論などを紹介する。社会的連帯・信頼・儀礼・権力・家族などを事例にして、理論を出来るだけ具体的に説明したい。

## 到達目標 / Focus and Goal

基本的な社会的概念に習熟すること。さらに社会的な考え方をマスターして、具体的な社会現象の理解に活用できるようになることが望ましい。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

社会科学全般についての基礎科目をできるだけ幅広く履修しておくことが望ましい。

## 授業スケジュール / Schedule

| 授業日 (第N回) | テーマ / Theme         | キーワード / Key Word  |
|-----------|---------------------|-------------------|
| 1         | 社会連帯の基底にあるものはなにか    | 合理性・非合理的前提・デュルケム  |
| 2         | 合理的選択理論は万能か         | フリーライダー問題         |
| 3         | 社会界の理論              | シカゴ学派・相互作用論       |
| 4         | 連帯を生み出す作用としての相互作用儀礼 | 儀礼・感情             |
| 5         | 現代の社会的儀礼の意義         | ゴフマン・コリンズ         |
| 6         | 社会の中の権力問題           | 権力作用のタイプ・支配       |
| 7         | 現代社会と象徴的権力の意義       | ブルデュー・象徴暴力・界      |
| 8         | 社会的不平等の問題           | 権力・富・身分・階層分化      |
| 9         | 逸脱はなぜ社会において存続するのか   | 機能・制度・コントロール      |
| 10        | 社会の中の資源・社会関係資本      | 資源・資本の所有・配分・再生産   |
| 11        | 性の所有について            | 婚姻関係・所有           |
| 12        | 所有から愛の市場へ           | 恋愛・家族の変質・誰と結婚するのか |
| 13        | 社会的ネットワーク           | グラノヴェッターの職業選択の研究  |
| 14        | 社会界の理論の展開           | 紛争・コミュニティ・職業生活の世界 |
| 15        | 社会の考え方の総括           | 要点の整理と質疑          |

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

| 種別 / Kind | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc. |
|-----------|-----------------|-------------------------------|
| 定期試験      | 100 %           |                               |

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

## 教科書 / Textbooks

| 書名 / Title | 出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment |
|------------|----------------------------------------------------------|
| 脱常識の社会学    | R.コリンズ／岩波書店／4-00-001275-4／                               |

## 参考書 / Reference Books

| 書名 / Title | 出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment |
|------------|----------------------------------------------------------|
| シカゴ学派の社会学  | 中野正大・ほか／世界思想社／4-7907-1029-7／                             |
| 社会学のあゆみ    | 新睦人・ほか／有斐閣／4-641-08857-8／                                |

## 参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

## その他 / Others

## 社会ガバナンス論 S S 行財政論 S

15090

担当者名 / Instructor 太田 美帆

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Description

ガバナンス (governance) という言葉は、社会科学の様々な分野で、様々な意味で用いられています。この講義では政治・行政分野における「ガバナンス」を理論的、実証的に示します。政治・行政の分野ではガバナンスは大きく分けて二つの意味で用いられています。一つは政策の形成過程・運営過程への関係者 (住人、NPO、企業等) の参加、もう一つは行政組織の効率化の試みです。両者とも、従来の行政機構 (government) が時代のニーズを捉えきれていないことや、行政活動において資源が有効に使われていないことに対する不満から生まれました。

講義では、ガバメントが機能しない理由、ガバメントからガバナンスへの動き、ガバナンスとガバメントの補完関係などについて考えてゆきたいと思います。なお、具体的事例を取り入れながら講義を進めます。

## 到達目標 / Focus and Goal

- ・ガバナンスの必要性を理解していること。
- ・ガバナンスのための仕組みを理解していること。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

受講のためにあらかじめ必要とされる知識・スキルは、特にありません。

## 授業スケジュール / Schedule

| 授業日 (第N回) | テーマ / Theme             | キーワード / Key Word                  |
|-----------|-------------------------|-----------------------------------|
| 第1回目      | 導入：ガバナンスとは何か？           | 社会ガバナンス、コーポレート・ガバナンス              |
| 第2回目      | なぜ行政改革が必要なのか？           | 官僚制、地方自治改革                        |
| 第3～4回目    | 行政活動をシステムという視点から考える     | ネットワーク、資源の交換                      |
| 第5回目      | 政策ネットワーク                | コーディネート                           |
| 第6回目      | 政策ネットワークから見る家族政策の変化     | 日本型福祉                             |
| 第7回目      | 政策決定過程の変容               | コーポラティズム、多元主義                     |
| 第8回目      | 小テスト                    |                                   |
| 第9～10回目   | 福祉提供の「バランスのとれた」役割分担へ向けて | 政府の失敗、市場の失敗、ボランティア・セクターの失敗、福祉多元主義 |
| 第11～12回目  | NPOの役割                  | 社会サービス、財源、供給、規制・監視                |
| 第13回目     | 政府の役割の変化                | 財政援助方式                            |
| 第14回目     | まとめ：福祉国家から福祉社会へ         |                                   |

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

新聞、テレビ、インターネット上、日常生活の中に見え隠れしている「ガバナンス」の情報に注意しておいて下さい。

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

| 種別 / Kind | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc.                                 |
|-----------|-----------------|---------------------------------------------------------------|
| 定期試験      | 60 %            | 講義で取り上げた基本問題や概念について理解しているかどうか、また、それを自分の言葉で論じることができるかどうかを評価する。 |
| 日常点       | 40 %            | 出席状況と小テストで判断する。小テストでは、講義内容の理解度を確認する。                          |

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

日常生活とかかわらせながら、講義を聞いて下さい。  
また、講義中に理解できなかったことは、早めに解決するようにして下さい。

## 教科書 / Textbooks

講義中に適宜、指示します。なお、講義ではレジュメを配布します。

## 参考書 / Reference Books

| 書名 / Title      | 出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment |
|-----------------|----------------------------------------------------------|
| 福祉国家のガバナンス      | 武智秀之／ミネルヴァ書房／4-623-03772-X／                              |
| 福祉社会：社会政策とその考え方 | 武川正吾／有斐閣／4-641-12119-2／                                  |
| 福祉国家と福祉社会       | W.A. ロブソン／東京大学出版会／4130020048／                            |

## 参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

講義中に適宜、指示します。

## その他 / Others

## 社会経済学Ⅱ 経済学Ⅱ

12964

担当者名 / Instructor 篠田 武司

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Description

構造改革、規制緩和あるいは年金改革などにみられるように、現在、日本の経済社会は大きく変化しつつあります。こうした変化は、日本ばかりではありません。80年代以降、世界的に進む新自由主義的な改革の流れの一環をなしています。それは、大量生産・大量消費といった経済システムと、また福祉の充実を特徴としてきた戦後世界の終焉を意味しています。グローバリゼーションの進展や知識社会の到来が、またそうした変化を促しています。本講義では、こうした変化の特徴がなぜであるのかを、経済の基本的な概念(言葉)、あるいは経済の基本的な仕組みから説明しつつ、歴史的に明らかにしていきます。その上で、どのような経済社会を構想すべきなのかについても考えたいと思います。

## 到達目標 / Focus and Goal

- 1) 経済学の基本的な用語、経済システムに関する知識の獲得(GDP、金融のメカニズムなど)
- 2) 戦後日本の経済社会の歴史の概括・比較による現在の経済社会の特徴の確認
- 3) 現代経済社会に関する諸理論の確認

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

経済学理論  
現代経済学

## 授業スケジュール / Schedule

| 授業日(第N回)                                                 | テーマ / Theme                    | キーワード / Key Word          |
|----------------------------------------------------------|--------------------------------|---------------------------|
| 1回目                                                      | 社会と経済空間ー市場とは？                  | 政治空間、経済空間、生活世界、市場         |
| 2回目                                                      | 資本と産業ー知識経済への移行                 | 資本の3類型、産業分類、知識経済社会        |
| 3回目                                                      | 株式会社の論理ー企業は誰のもの？               | 法人、株式、所有と経営、企業ガバナンス       |
| 3回目                                                      | 金融のシステムー金融の時代か？                | 貨幣、銀行、実体経済と信用経済、金融政策      |
| 4回目                                                      | コラムー欲望について考える                  | 貨幣欲望、資本主義の倫理              |
| 5回目                                                      | 経済の基礎概念ー国内総生産、国民所得とは？          | 国民経済計算、GDP、所得の3面等価        |
| 6回目                                                      | ケインズ主義ー成長と需要の経済学               | 完全雇用、需要、経済成長              |
| 7回目                                                      | ケインズ主義と福祉国家ー戦後経済社会の成熟          | 高度成長、福祉国家、妥協の力学           |
| 8回目                                                      | 戦後経済社会とフォーディズムー社会的変動           | 蓄積体制、調整様式、核家族、都市化         |
| 9回目                                                      | グローバル化と知識経済社会ー新たな段階へ           | 国際競争、福祉国家の危機、雇用の危機        |
| 10回目                                                     | 新自由主義の経済学ー福祉国家批判の経済学           | 市場原理主義、競争主義、ワシントン・コンセンサス  |
| 11回目                                                     | 新自由主義の価値観ー自由と平等                | 平等とは？ 自由とは？               |
| 12回目                                                     | 「第三の道」の経済社会像ー福祉国家でもなく新自由主義でもなく | 社会的包含、社会的排除、活力ある市民社会、ギデンズ |
| 13回目                                                     | 同上                             | 同上                        |
| 14回目                                                     | 人間中心の経済社会に向けて                  | アマティア・セン、潜在能力、新たなガバナンス    |
| 15回目                                                     | まとめにかえて                        |                           |
| 講義は、途中にトピックな話題(現代の雇用問題を考える)を適宜入れながら進められるので、進行は前後することがある。 |                                |                           |

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

| 種別 / Kind | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc. |
|-----------|-----------------|-------------------------------|
| 定期試験      | 80 %            | 講義の内容が理解されているかを考査する           |
| 日常点       | 20 %            | 出席を講義期間中3-4回とり、それを点数化する。      |

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

新聞の経済欄に目を通すといい。

## 教科書 / Textbooks

テキストは、使用しない。参考文献は適宜下記のものにつく加えながら講義で紹介する。  
レジュメが配布される。

## 参考書 / Reference Books

| 書名 / Title  | 出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment |
|-------------|----------------------------------------------------------|
| 『21世紀の経済社会』 | 浅野・篠田編／八千代出版／／                                           |

『漂流する資本主義』

佐和隆光／ダイヤモンド社／／

『人間回復の経済学』

神野直彦／岩波書店／／

参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

講義で適宜、紹介する。

その他 / Others

## 社会史 S S 社会史 I S

15148

担当者名 / Instructor 鈴木 栄樹

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Description

テーマ: 明治の文明開化と都市社会の諸相

日本の近代国家の形成過程は、同時に新たな近代都市の建設過程でもあった。それまでに形成されてきた都市社会は、近代国家の建設と資本主義経済の移植過程でどのように変貌していったのであろうか。講義では、ほぼ明治期を広い意味での文明開化の時期としてとらえ、主に東京と京都の2都市を事例として、その過程にみられる特徴的な諸問題について学ぶ。

## 到達目標 / Focus and Goal

様々な問題を抱える現代日本の都市について、その直接的な起原にさかのぼり、歴史的な視点から考察することを学ぶ。また、その際、歴史のなかの様々な都市一般に共通する点と、建設期の日本の近代都市に見られる特徴とを意識的に比較考察する知的姿勢を学ぶ。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enrolle in, but not required to

## 授業スケジュール / Schedule

| 授業日 (第N回) | テーマ / Theme       | キーワード / Key Word |
|-----------|-------------------|------------------|
| 1         | オリエンテーション         |                  |
| 2         | 文明のショーケースとしての都市   |                  |
| 3         | 東京奠都—江戸から東京へ—     |                  |
| 4         | 東京奠都—衰頹する京都—      |                  |
| 5         | 帝都の建設1            |                  |
| 6         | 帝都の建設2            |                  |
| 7         | 近代への道を摸索する京都      |                  |
| 8         | 欧化と伝統のはざま1        |                  |
| 9         | 欧化と伝統のはざま2        |                  |
| 10        | 文明のなかの貧困1         |                  |
| 11        | 文明のなかの貧困2         |                  |
| 12        | 工業化と都市経営1         |                  |
| 13        | 工業化と都市経営2         |                  |
| 14        | 明治末年の都市問題とあらたな都市像 |                  |

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

受講にあたっては、日本近代史全般についての概括的な知識をもっていることが望ましいが、テーマに対する興味や関心があれば、理解が可能なように配慮する。知識が不十分なばあいには、必要に応じて参考文献などを指示するので、自分でも独自に学習してほしい。

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

| 種別 / Kind | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc.                |
|-----------|-----------------|----------------------------------------------|
| 定期試験      | 80 %            | 論述筆記試験。事前にある程度の上達を与えるので、それに対して準備しておくことが望ましい。 |
| 日常点       | 20 %            | 下記の備考を参照。                                    |

随時、講義に対する理解度・疑問点などを書いてもらうことにより講義に対する積極性を評価するが、これは出席点という意味ではない。定期試験の評価を主としつつ、講義に対する積極性如何を加味して評価する。

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

ノートのとり方に工夫を心がけてほしい。板書を機械的に写すだけのノートでは意味がない。黒板のスペースは限られているが、ノートは十分なスペースがあるのだから、口頭で述べたこと、あるいは自分で調べたことなどを書き加えたりするなど、オリジナルノートを作成してもらいたい。また、歴史は現代的な関心から学びとられるものであるから、常に現代の国内外の動きと関わらせながら自分なりの問題関心を培ってほしい。

## 教科書 / Textbooks

| 書名 / Title                                                                 | 出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment |
|----------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------|
| 近代京都の改造 (仮題)                                                               | 伊藤之雄編著 / ミネルヴァ書房 / 4月刊行予定。鈴木 の論文も収録                      |
| 明治の東京計画                                                                    | 藤森照信著 / 岩波現代文庫 / 4-00-600133-9 C0152 /                   |
| 必ずしも上記のテキストに沿って授業を行うわけではないが、授業の際に、比較的頻繁にふれることになる。その他、毎回の授業時にレジュメと資料とを配付する。 |                                                          |

## 参考書 / Reference Books

| 書名 / Title | 出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment |
|------------|----------------------------------------------------------|
| 一国の首都      | 幸田露伴著 / 岩波文庫 / 4-00-319035-1 / 現在品切れ                     |

|               |                                |
|---------------|--------------------------------|
| 日本の下層社会       | 横山源之助著／岩波文庫／4-00-331091-8／     |
| 東京の三十年        | 田山花袋著／岩波文庫／4-00-310213-4／現在品切れ |
| 転生の都市・京都      | 辻ミチ子著／阿吽社／4-900590-61-4／       |
| 京都の歴史 第7巻・第8巻 | 京都市編／京都市史編纂所／／                 |

上記3冊は明治期の同時代の文献の復刻。その他は、研究書あるいは通史。上記の他に、随時、新しい文献を紹介していく。

#### 参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

<http://www.kyoto-phu.ac.jp/labo/kyouyou/eijuszk/index.html> (鈴木栄樹)

上記ウェブサイト授業関連の情報を随時掲載する。

#### その他 / Others



## 社会思想 S S 社会思想I S

15065

担当者名 / Instructor 松田 博

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Description

現代社会とその主体である人間との諸関係をめぐる問題はますます複雑かつ陰影を伴う分野となっている。かつて近代化論が想定した「成長の神話」は国際的に瓦解しつつある。経済発展による生活の物質的な条件整備つまり「豊かな社会」は必要条件ではあっても、自動的に「人間の安全保障」や「精神的・文化的・生活の充実」をもたらすものではなく、むしろ手段と目的の転倒によるさまざまな社会問題の要因になることも少なくない。「持つ文化」は「在る文化」を代替することは出来ない。「近代という未完のプロジェク」において根源的な「人間の安全保障」や「安全社会」などの課題を、自由論・平等論・友愛論という社会思想の基本的命題と関連付けて検討し、現代的社会思想の意義を掘り下げてみたい。社会科学の想像力養成のために、断片的知識の習得ではなく、文章表現能力の向上も重視したい。

## 到達目標 / Focus and Goal

社会思想とは、習得した知識、情報、経験を基礎に、現代社会を総合的に把握するための方法論＝思考方法を豊かにするための、総合的かつ学際的な研究分野である。したがって具体的な諸論題をととして、現代社会像を捉える「総合の知」の習得が不可欠である。さらにそれを自己の見解として論理的に表現する文章表現能力の向上が目標となることを受講生は自覚して欲しい。たんなる感想文やエッセイと論文・レポートは質的に異なっている。専門科目にふさわしいアカデミック・ライティング能力を身につけるための各自の努力を期待する。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

社会(科)学の基礎理論。社会(科)学の歴史。社会理論系の科目。

## 授業スケジュール / Schedule

| 授業日(第N回) | テーマ / Theme                                                                 | キーワード / Key Word       |
|----------|-----------------------------------------------------------------------------|------------------------|
| 1        | 総括的導入講義。                                                                    |                        |
| 2        | ガイダンス シラバス説明 参考文献紹介等                                                        |                        |
| 3        | ステレオタイプ論(概念) リップマン『世論』(岩波文庫)                                                |                        |
| 4        | ステレオタイプ論(事例) エスノセントリズム(自民族中心主義) サムナー『フォークウエイズ』(青木書店)、アドルノ『権威主義的パーソナリティ』(同前) |                        |
| 5        | 「人間の安全保障」論の形成 『安全保障の今日的課題—人間の安全保障委員会報告書』(朝日新聞社)、                            | A. セン 『人間の安全保障』(集英社新書) |
| 6        | 「人間の安全保障」論の展開 ① 『グローバル化と人間の安全保障—行動する市民社会』(日本経済評論社) ほか                       |                        |
| 7        | 「人間の安全保障」論の展開 ② 『もうひとつの世界は可能だ』(日本経済評論社)、『オルター・グローバリゼーション宣言』(作品社) ほか         |                        |
| 8        | 中間まとめ 基本概念の整理 質疑応答 小論文作成(文章表現上の注意事項説明も含む)                                   |                        |
| 9        | 「カルネアデスの板」の寓意 — 「希望格差社会」、 「不平等社会」論などが示すもの                                   |                        |
| 10       | 現代社会像の変貌 楽観的社会像・懐疑的社会像・悲観的社会像                                               |                        |
| 11       | 現代社会像の陰影 「下流社会」論、「ネオ階級社会」論、「安心ファシズム」論ほか                                     |                        |
| 12       | 「ポピュリズム社会」論の台頭                                                              |                        |
| 13       | 「自由主義」と現代社会—「新自由主義」問題、 斉藤純一『自由』(岩波書店) ほか                                    |                        |
| 14       | 「自由・平等・安全」の社会思想—社会と人間との関係性の再編成 斉藤純一編『親密圏のポリティクス』(ナカニシヤ出版) ほか                |                        |
| 15       | まとめ 質疑応答、レポート課題等説明、評価方法(日常点プラスレポート成績)について                                   |                        |

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

各講義の終わりに文献、資料など伝えるので、自主的な学習を期待したい。さらに基本的なテーマ(たとえばステレオタイプの実例など)についてはインターネットにて最新の情報をサーベイしてほしい。外国語の使用能力アップのためにも海外の動向に関心を持って欲しい。意識の「国際化」にも有益であろう。資料レジュメ末尾には、最新の文献情報を紹介する予定である。

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind 割合 / Percentage 評価基準等 / Grading Criteria etc.

|      |      |                                |
|------|------|--------------------------------|
| レポート | 70 % | 期末レポートの論理的構成、内容进行评估する          |
| 日常点  | 30 % | 課題の小論文などを評価する                  |
| その他  | 0 %  | 課題以外で自発的にレポート、書評など提出したものは加点する。 |

「論文・レポート作成方法」にかんする解説書を読んでおくこと。論文の構成、文献注などの必要事項を学んで、スキルアップを自覚的に心がけて欲しい。このようなスキルは社会人となっても、仕事や生活において必ず役に立ちます。本学の卒業生には、感想文やエッセイと論文・レポートとの相違を理解し、必要に応じて様々な文章を自在に書き分けられる能力を身につけて欲しい。学生時代の知識は忘れても、一度身につけたスキル＝技能は、水泳や自転車度同様、忘れないものです。また将来先輩として、親として「文章を読んで書く楽しさ」を後輩や可愛い子供に教えることが出来れば、尊敬されること間違いなしです。

#### 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

備考を参照のこと。期末のレポートは、たんなる感想文やエッセイの類は失格ないし減点とします。この科目を永年担当しているが、本学部学生の知的好奇心や問題意識が旺盛な学生が多いことは、学部によき伝統といえる。しかしレポートや小論文という文章になると、その長所が十分発揮されているとはいえない。残念なことである。「豊かな問題意識、貧しい文章力」ではもったいないと思う。文章表現力は、意識的に文章を書く努力によって確実に向上する。昨年の受講生にも見違えるほど書く能力がアップした者が少なくなかった。ぜひチャレンジしてください。

#### 教科書 / Textbooks

| 書名 / Title | 出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment |
|------------|----------------------------------------------------------|
| 人間の安全保障    | A. セン／集英社新書／／簡潔だが優れた解説書                                  |

上記文献は、教科書に近い参考書として推薦する。その他は必要に応じて資料レジュメを配布する。またシラバスに記入した文献以外の参考図書を紹介する。学際的で多領域なので、各自の問題意識をふまえてテーマにおうじた文献学習研究をおこなって欲しい。

#### 参考書 / Reference Books

| 書名 / Title      | 出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment |
|-----------------|----------------------------------------------------------|
| 永遠のファシズム        | U. エコ／岩波書店／／記号学の権威による社会論                                 |
| ポピュリズムに蝕まれたフランス | 国末憲人／草思社／／ポピュリズム理解にとって有益                                 |
| いまどきの「常識」       | 香山リカ／岩波新書／／優れた評論集                                        |
| 市民の政治学          | 篠原一／同上／／ポピュリズムの優れた解説                                     |

シラバスに記入した文献以外は、講義において紹介する。講義プランや方法についての提案や意見を歓迎します。

#### 参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

ステレオタイプその他本講義でとりあげるテーマは海外のサイトが充実しているので、ぜひ参照して欲しい。

#### その他 / Others

教室での携帯電話やメール使用、他の学生の迷惑になる私語などは厳禁します。特別の理由のない大幅な遅刻者は入室を禁止します。「喜・哀・楽 仮面の上に描くたび 己の顔をうしなう仮面」(現代学生百人一首)。

## 社会心理学 S S 社会心理学I S

12977

担当者名 / Instructor 上村 晃弘

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Description

社会心理学は、人間の行動を広義の社会との関わりから説明しようとする学問である。  
心理学の世間一般でのイメージと「心と行動の科学」という実像の差は大きい。社会心理学も単なる体験からの知識ではなく、実験や調査で得られた知見からなる実証科学である。  
本講義では、科学としての社会心理学における重要な概念、理論について述べていく。マス・メディアでよく採り上げられるような世俗的、ハウ・トゥー的な内容は期待しないで戴きたい。

## 到達目標 / Focus and Goal

社会心理学における概念や理論についての理解を深め、心理学的な観点から社会を見ることができるようになる。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

特になし。

## 授業スケジュール / Schedule

| 授業日 (第N回) | テーマ / Theme     | キーワード / Key Word         |
|-----------|-----------------|--------------------------|
| 第1回       | 社会心理学とはどのような学問か | パラダイム 方法 実験 調査           |
| 第2回       | 欲求と動機づけ         | 欲求 欲求階層説 達成動機 期待理論 衡平理論  |
| 第3回       | 自己              | 自己 自己提示 自己概念 自己評価        |
| 第4回       | 社会的認知1          | 印象形成 帰属過程                |
| 第5回       | 社会的認知2          | ステレオタイプ                  |
| 第6回       | 態度と態度変容         | 態度 態度変容                  |
| 第7回       | 対人関係と対人行動       | 対人魅力 対人交渉 攻撃 援助 贈答       |
| 第8回       | 集団              | 集団 同調 逸脱 リーダーシップ 集団的意志決定 |
| 第9回       | マス・コミュニケーション    | マス・コミュニケーションの概念、過程、機能、効果 |
| 第10回      | 普及              | イノベーション 普及               |
| 第11回      | 流行              | 流行                       |
| 第12回      | 集合行動            | 集団行動 群集心理                |
| 第13回      | 社会化             | 社会化 道徳性                  |
| 第14回      | 予備日             |                          |
| 第15回      | 試験              |                          |

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

| 種別 / Kind | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc.     |
|-----------|-----------------|-----------------------------------|
| 定期試験      | 100 %           | 社会心理学における基本的な用語や理論を理解できているかを評価する。 |

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

本講義は特に専門科目であるので、学術的な社会心理学を学ぶという意識を持ってもらいたい。大学にきた以上は、理論的な内容にもしっかりと臨んで戴きたい。

## 教科書 / Textbooks

| 書名 / Title       | 出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment      |
|------------------|---------------------------------------------------------------|
| 現代社会心理学―心理・行動・社会 | 青池慎一・榊博文(編著)／慶應義塾大学出版会／4-7664-1064-5 C3011／毎時間使用するので必ず購入すること。 |

資料を配布することもあるが、配布は当該時限のみとする。

## 参考書 / Reference Books

| 書名 / Title     | 出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment |
|----------------|----------------------------------------------------------|
| 心理学リーディングス     | 山口 裕幸(編)／ナカニシヤ出版／4-88848-618-2／                          |
| 社会心理学ショート・ショート | 岡本浩一／新曜社／4-7885-0229-1／                                  |

その他、あれば講義中に適宜紹介する。

## 参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

あれば講義中に適宜紹介する。

その他 / Others

## 社会調査情報処理 SA S 情報処理 SX

15018

担当者名 / Instructor 鈴木 未来

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Description

この授業は大量のデータを処理する技術を、社会調査における分析法のひとつである多変量解析を統計解析ソフトSPSSの操作を通じておこなうことで習得することを目的とする。量的調査で収集されるデータを単に集計する技法だけでなく、得られたデータの相関や散らばりなど、個々のデータの有する社会的な意味を探索するデータ分析力も養うことになる。

## 到達目標 / Focus and Goal

SPSSの操作を通じた、多変量解析によるデータ分析法の習得

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

社会調査論 社会統計学

## 授業スケジュール / Schedule

| 授業日 (第N回) | テーマ / Theme          | キーワード / Key Word |
|-----------|----------------------|------------------|
| 第1回       | イントロダクション: 社会調査と統計解析 |                  |
| 第2回       | [基礎編] SPSSの入力方法      |                  |
| 第3回       | 度数分布表の作成             |                  |
| 第4回       | グラフと図の作成・基礎統計量を求める   | 記述統計             |
| 第5回       | [応用編] 探索的分析とは        |                  |
| 第6回       | 2群の平均値の差を検定する        | t検定              |
| 第7回       | 変質的な変数の関連を調べる1       | クロス集計表           |
| 第8回       | 質的な変数の関連を調べる2        | $\chi^2$ 乗検定     |
| 第9回       | 全体的な「差」を検討する         | 分散分析             |
| 第10回      | 量的な変数の関連を調べる         | 散布図 相関係数         |
| 第11回      | [応用編] の総復習           |                  |
| 第12回      | [発展編] 多変量解析 (1)      | 重回帰分析            |
| 第13回      | 多変量解析 (2)            | 判断分析             |
| 第14回      | 多変量解析 (3)            | 因子分析             |
| 第15回      | まとめ                  |                  |

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

| 種別 / Kind | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc. |
|-----------|-----------------|-------------------------------|
| レポート      | 70 %            | 毎回の課題提出                       |
| 日常点       | 30 %            | 出席頻度を点数化する                    |

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

すべての内容が連続しているので、操作法習得のためには連続した出席が求められる。欠席しなければならない場合は、参考書等の文献で該当箇所を補修した上で次回の授業に望むこと。

## 教科書 / Textbooks

使用しない。授業時のプリントを配布する

## 参考書 / Reference Books

| 書名 / Title                   | 出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment |
|------------------------------|----------------------------------------------------------|
| 『SPSSでやさしく学ぶ統計解析 [第2版]』2002  | 室淳子・石村貞夫／東京図書／ISBN: 4-489-00637-3／                       |
| 『SPSSでやさしく学ぶ多変量解析 [第2版]』2002 | 室淳子・石村貞夫／東京図書／ISBN: 4-489-00638-1／                       |
| 『改訂版 社会調査の基礎』2003            | 岩永雅也 (放送大学教材)／日本放送出版協会／ISBN: 4-595-12687-5／              |
| 『あなたもできる データの処理と解析』1997      | 岩淵千明編／福村出版／ISBN: 4-571-20058-7／                          |

## 参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

## その他 / Others

## 社会調査情報処理 SB 5 情報処理 SY

15058

担当者名 / Instructor 寺尾 洋子

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Description

この科目では統計解析ソフトSPSSを学ぶことにより、社会調査等で得たデータを自分で解析する力を身につけることを目指す。大量のデータを処理する技術だけでなく、得られたデータの相関や散らばり、因果関係など社会的な意味を探究する力を身につけることをも目的とする。具体的には情報処理の基本概念を理解し、主要な計量モデルを概観する。その後、社会調査データを用いた解析と取り組む。

## 到達目標 / Focus and Goal

- ・SPSSを使って基本的な統計解析ができる
- ・解析結果を使ってレポートを作成できる

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enrolle in, but not required to

IDとパスワードはあらかじめ各自で確認しておくこと。  
自分用のフロッピーディスクまたはUSBメモリを持参すること。  
なお、最低限必要なスキルとして、以下の3点を求める。

1. タッチタイピングができること
2. ファイル管理ができること (ファイルのコピー、削除、移動、ファイル名の変更)
3. 複数のウィンドウを切り替えて操作できること。

## 授業スケジュール / Schedule

| 授業日 (第N回) | テーマ / Theme                                  | キーワード / Key Word |
|-----------|----------------------------------------------|------------------|
| 1         | イントロダクション: 社会調査と統計解析、統計ソフトSPSSの基礎            |                  |
| 2         | 記述統計量、計量モデルの概観                               |                  |
| 3         | 量的変数の関連: 相関係数                                |                  |
| 4         | 質的変数の関連: クロス表分析、カイニ乗検定                       |                  |
| 5         | 質的変数の関連: エラボレーション第3変数とは、コントロール、エラボレーションの考えかた |                  |
| 6         | 2群の差の検定: t検定                                 |                  |
| 7         | 多変量解析: 分散分析                                  |                  |
| 8         | 多変量解析: 因果分析(1)回帰分析                           |                  |
| 9         | 多変量解析: 因果分析(2)重回帰分析、パス解析                     |                  |
| 10        | 多変量解析: 因子分析(1)因子分析とは、因子数、回転                  |                  |
| 11        | 多変量解析: 因子分析(2)因子スコア                          |                  |
| 12        | 社会調査データを用いた分析(1)分析課題の設定とデータ分析、調査分析レポートの作成    |                  |
| 13        | 社会調査データを用いた分析(2)調査データの解析とレポートの作成             |                  |
| 14        | 社会調査データを用いた分析(3)解析結果のプレゼンテーション方法             |                  |

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

| 種別 / Kind | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc.   |
|-----------|-----------------|---------------------------------|
| レポート      | 30 %            | 社会調査データを自分なりに解析し、分析したレポートを求める   |
| 日常点       | 60 %            | 課題は毎回の講義で出題する                   |
| その他       | 10 %            | 授業中の質疑応答に積極的に参加したか等の講義参加傾向を加味する |

毎回実習を行い、課題提出を求めるので、遅刻・欠席は可能な限り避けること。それによる学習の遅れは自分で取り戻すことを原則とする。  
また、課題をこなすためには自習が必要になるので自主的な学習姿勢を持つことが必要である。

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

## 教科書 / Textbooks

| 書名 / Title      | 出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment |
|-----------------|----------------------------------------------------------|
| SPSSでやさしく学ぶ統計解析 | 室淳子、石村貞夫／東京図書／4489006373／テキストに沿って講義を進めるので必ず購入すること        |

**参考書 / Reference Books**

| 書名 / Title              | 出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment |
|-------------------------|----------------------------------------------------------|
| 統計でウソをつく法―数式を使わない統計学入門  | ダレル・ハフ／講談社ブルーバックス／4061177206／                            |
| データ分析ははじめの一步            | 清水誠／講談社ブルーバックス／4062571455／                               |
| よくわかる統計解析の基本と仕組み―数学セミナー | 山口和範／秀和システム／479800913X／                                  |

**参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course**

講義用のWebサイト  
<http://www.ritsumeai.ac.jp/~ytt06067/>

**その他 / Others**

## 社会調査論 S S 社会調査論I S

15035

担当者名 / Instructor 中川 輝彦

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Description

社会調査は、複雑で常に変化している社会や経済の諸現象をとらえるための重要な手段です。社会調査を行って実証研究をすすめるためには、基礎的な知識や技法の修得が不可欠です。この講義では、社会調査全般に対する理解を深めることを目標として、社会調査の種類と特徴を整理し、社会調査の準備・計画と実査についての注意点を検討します。また、もっとも一般的な社会調査の方法となっている調査票調査を中心に、標本抽出法、測定方法、調査票の作成法などを修得していただきます。

## 到達目標 / Focus and Goal

社会調査を行って実証研究をすすめるためには、基礎的な知識や技法および調査倫理が必要です。これらを理解することを目標とします。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

## 授業スケジュール / Schedule

| 授業日 (第N回) | テーマ / Theme                                         | キーワード / Key Word   |
|-----------|-----------------------------------------------------|--------------------|
| 1回        | 社会学と社会調査: 社会調査とは・社会調査の歴史                            | 社会調査               |
| 2回        | 社会調査の種類と特徴: 調査票法・観察法・自由面接法                          | 調査票法、観察法、自由面接法     |
| 3回        | 社会調査の手順: 社会調査の一般の手順・調査の倫理・問題意識と仮説構築                 | 倫理、仮説              |
| 4～5回      | 社会調査と理論: 記述と説明・仮説構築・先行研究と理論・命題と概念                   | 記述、説明、理論、命題、概念     |
| 6回        | 標本調査の考え方: サンプルングの方法(1) サンプルングの歴史とサンプルングの理論          | サンプルング             |
| 7～8回      | 標本調査の考え方: サンプルングの方法(2) 無作為抽出法・多段抽出法・層化抽出法           | 無作為抽出法、多段抽出法、層化抽出法 |
| 8回        | 標本調査と標本誤差: 標本誤差と非標本誤差・推定の精度                         | 標本誤差、非標本誤差、推定      |
| 9～10回     | 調査票の作成: 項目の選択・用語と文章・回答の形式・調査項目の配列                   | 調査票、ワーディング         |
| 11回       | コーディング: データの整理とチェック・エディティング・コーディング                  | エディティング、コーディング     |
| 12回       | 調査票の集計: データの記述: データの基礎的集計・変数の種類・データの記述              | 基礎統計量              |
| 13回       | データの分析(1) データの分析とは・2変数の関連の分析(クロス表分析)・エラボレーション       | クロス表、エラボレーション      |
| 14回       | データの分析(2) 結果の公表 2変数の関連の分析・相関係数・疑似相関・調査研究論文と調査報告書の作成 | 相関係数、疑似相関          |
| 15回       | 報告書の作成                                              |                    |

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

新聞、雑誌などに掲載されている「アンケート」や「世論調査」を批判的に読む癖を付けてください。ここで「批判的に読む」とは、故意あるいは無知ゆえに誤った方法で行われる社会調査があつとを絶ちませんが、こうした誤りに注意して、つまり「数字に騙されないように」読むということです。授業で解説する社会調査に関する知識が、そうした「批判的な読み」に役立つはずで

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

| 種別 / Kind | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc.                                                                         |
|-----------|-----------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 定期試験      | 100 %           | 試験は、特に理解を問うものを予定します。特に、問題に対して平易な言葉で答えることができるかどうか、を問います。したがって「ジャーゴン」を説明なしに並べている答えは評価しません(「努力点」もありません)。 |

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

本授業で扱うのは社会調査の基礎となる知識です。可能なら1年次に学習することをお勧めします。

## 教科書 / Textbooks

授業中にプリントを配布します。それが「教科書」になります。

## 参考書 / Reference Books

| 書名 / Title  | 出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment |
|-------------|----------------------------------------------------------|
| 社会調査へのアプローチ | 大谷信介・他／ミネルバ書房／4623041042／                                |



社会調査のウソ

谷岡一郎／文藝春秋／4166601105／

上記以外については、授業中配布のプリントに記載します。

参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

その他 / Others

## 社会調査論 SB

16400

担当者名 / Instructor 中川 輝彦

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Description

社会調査は、複雑で常に変化している社会や経済の諸現象をとらえるための重要な手段です。社会調査を行って実証研究をすすめるためには、基礎的な知識や技法の修得が不可欠です。この講義では、社会調査全般に対する理解を深めることを目標にして、社会調査の種類と特徴を整理し、社会調査の準備・計画と実査についての注意点を検討します。また、もっとも一般的な社会調査の方法となっている調査票調査を中心に、標本抽出法、測定方法、調査票の作成法などを修得していただきます。

## 到達目標 / Focus and Goal

社会調査を行って実証研究をすすめるためには、基礎的な知識や技法および調査倫理が必要です。これらを理解することを目標とします。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

## 授業スケジュール / Schedule

| 授業日 (第N回) | テーマ / Theme                                         | キーワード / Key Word   |
|-----------|-----------------------------------------------------|--------------------|
| 1回        | 社会学と社会調査：社会調査とは・社会調査の歴史                             | 社会調査               |
| 2回        | 社会調査の種類と特徴：調査票法・観察法・自由面接法                           | 調査票法、観察法、自由面接法     |
| 3回        | 社会調査の手順：社会調査の一般的手順・調査の倫理・問題意識と仮説構築                  | 倫理、仮説              |
| 4～5回      | 社会調査と理論：記述と説明・仮説構築・先行研究と理論・命題と概念                    | 記述、説明、理論、命題、概念     |
| 6回        | 標本調査の考え方：サンプリングの方法(1) サンプリングの歴史とサンプリングの理論           | サンプリング             |
| 7～8回      | 標本調査の考え方：サンプリングの方法(2) 無作為抽出法・多段抽出法・層化抽出法            | 無作為抽出法、多段抽出法、層化抽出法 |
| 8回        | 標本調査と標本誤差：標本誤差と非標本誤差・推定の精度                          | 標本誤差、非標本誤差、推定      |
| 9～10回     | 調査票の作成：項目の選択・用語と文章・回答の形式・調査項目の配列                    | 調査票、ワーディング         |
| 11回       | コーディング：データの整理とチェック・エディティング・コーディング                   | エディティング、コーディング     |
| 12回       | 調査票の集計：データの記述：データの基礎的集計・変数の種類・データの記述                | 基礎統計量              |
| 13回       | データの分析(1) データの分析とは・2変数の関連の分析(クロス表分析)・エラボレーション       | クロス表、エラボレーション      |
| 14回       | データの分析(2) 結果の公表 2変数の関連の分析・相関係数・疑似相関・調査研究論文と調査報告書の作成 | 相関係数、疑似相関          |
| 15回       | 報告書の作成                                              |                    |

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

新聞、雑誌などに掲載されている「アンケート」や「世論調査」を批判的に読む癖を付けてください。ここで「批判的に読む」とは、故意あるいは無知ゆえに誤った方法で行われる社会調査があるとを絶ちませんが、こうした誤りに注意して、つまり「数字に騙されないように」読むということです。授業で解説する社会調査に関する知識が、そうした「批判的な読み」に役立つはずで。

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

| 種別 / Kind | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc.                                                                         |
|-----------|-----------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 定期試験      | 100 %           | 試験は、特に理解を問うものを予定します。特に、問題に対して平易な言葉で答えることができるかどうか、を問います。したがって「ジャーゴン」を説明なしに並べている答えは評価しません（「努力点」もありません）。 |

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

本授業で扱うのは社会調査の基礎となる知識です。可能なら1年次に学習することをお勧めします。

## 教科書 / Textbooks

授業中にプリントを配布します。それが「教科書」になります。

## 参考書 / Reference Books

| 書名 / Title  | 出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment |
|-------------|----------------------------------------------------------|
| 社会調査へのアプローチ | 大谷信介・他／ミネルバ書房／4623041042／                                |

社会調査のウソ

谷岡一郎／文藝春秋／4166601105／

上記以外については、授業中配布のプリントに記載します。

参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

その他 / Others

## 社会動機論 S

12950

担当者名 / Instructor 藤島 寛

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Description

本講義では (1) 人間の動機、(2) 自己意識における社会、(3) 臨床社会心理学の3つのトピックを取り上げ、動機付けにおける社会的文化的側面を考察する。

## 到達目標 / Focus and Goal

社会や文化の与える動機づけへの影響について現代的課題を理解し、その問題点について心理学における動機づけの視点から論理的に考察できるようになることを目標とする。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

心理学の基礎的知識について学習できる科目を履修していることが望ましい。

## 授業スケジュール / Schedule

| 授業日 (第N回) | テーマ / Theme                      | キーワード / Key Word   |
|-----------|----------------------------------|--------------------|
| 1         | 人間の動機 (1) 一次的な動機づけにおける人間的側面      | 欲求と欲望              |
| 2         | 人間の動機 (2) 社会的動機                  | マレーの社会的動機リスト       |
| 3         | 人間の動機 (3) 社会的動機の測定               | 達成動機、親和動機          |
| 4         | 人間の動機 (4) 向社会的行動 (a)             | 援助行動               |
| 5         | 人間の動機 (5) 向社会的行動 (b)             | ボランティア行動           |
| 6         | 人間の動機 (6) 向社会的行動 (c)             | 社会的ジレンマ、信頼と協調      |
| 7         | 自己意識における社会 (1) 自己意識の測定           | 公的自己意識と私的自己意識      |
| 8         | 自己意識における社会 (2) 公的自己意識から自己の意味を考える | 不安とヒステリー           |
| 9         | 自己意識における社会 (3) 自己を支えるもの (a)      | パーソナリティ、アイデンティティ   |
| 10        | 自己意識における社会 (3) 自己を支えるもの (b)      | 愛着、自己愛             |
| 11        | 臨床社会心理学 (1) ストレス・コーピング           | コーピング、サポート         |
| 12        | 臨床社会心理学 (2) うつと認知 (a)            | 帰属、ベックの認知療法        |
| 13        | 臨床社会心理学 (3) うつと認知 (b)            | 自己注目理論             |
| 14        | 臨床社会心理学 (4) パーソナリティとコーピングの関係     | 完全主義、気晴らし、現実へのとらわれ |
| 15        | 臨床社会心理学 (5) 物語療法                 | 物語られるもの、聴取、人生の意味   |

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

各トピック終了後の日常的レポートによって、そのトピックのテーマに対する現代的問題への関心を深めること。

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

| 種別 / Kind | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc.                        |
|-----------|-----------------|------------------------------------------------------|
| レポート      | 80 %            | 各トピックにおける基礎的概念の理解に基づく現代的問題点への気づきとその問題点に対する深い考察を評価する。 |
| 日常点       | 20 %            | 日常的レポートにおける、各トピックのテーマに基づく現代的問題点への気づきと関心を評価する。        |

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

講義に出席し、“静かに”、“深く”考察すること。

## 教科書 / Textbooks

## 参考書 / Reference Books

| 書名 / Title       | 出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment |
|------------------|----------------------------------------------------------|
| 社会心理学への招待        | 高木修 (編) / 有斐閣 / 人間の動機における向社会的行動の参考書                      |
| 自己意識と他者意識        | 辻平治郎 / 北大路書房 / 自己意識における社会、及び臨床社会心理学の参考書                  |
| 自分のことから読む臨床心理学入門 | 丹野義彦・坂本真士 / 東京大学出版会 / 臨床社会心理学の参考書                        |

## 参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

## その他 / Others

## 社会統計学 S S 社会統計学II S

15072

担当者名 / Instructor 香川 文庸

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Description

この講義では、社会調査データを集計・分析する上で必要となる統計的分析方法の基礎を学ぶ。調査データを集計し要約的に記述する方法、母集団の特性値を推定する方法、母集団についての仮説を検定する方法について、理論的な基礎を講義するとともに練習問題を通じて実際にデータ分析を行ってみる。練習用のデータとして、受講生の友人・知人を対象に実施する簡単なアンケート調査の結果などを利用することもある。

## 到達目標 / Focus and Goal

基本的な統計手法を身につけ、実際のデータを用いた簡単な統計解析・分析が自力で行えるようになること。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

## 授業スケジュール / Schedule

| 授業日 (第N回) | テーマ / Theme<br>授業計画説明 | キーワード / Key Word<br>統計的データ分析の考え方 |
|-----------|-----------------------|----------------------------------|
|           | 標本と母集団                | 標本抽出法                            |
|           | 標本データの記述 (1)          | 度数分布とヒストグラム                      |
|           | 標本データの記述 (2)          | 代表値と散布度                          |
|           | 確率の概念                 | 確率と確率変数                          |
|           | 主な分布                  | 様々な分布、正規分布の性質                    |
|           | 標本分布 (1)              | 母数と統計量、標本分布、大数の法則と中心極限定理         |
|           | 標本分布 (2)              | 標本平均の分布、標本比率の分布、小標本法             |
|           | 母数の推定 (1)             | 点推定、区間推定、母平均の区間推定                |
|           | 母数の推定 (2)             | 母比率の区間推定                         |
|           | 統計的仮説検定 (1)           | 仮説検定の考え方                         |
|           | 統計的仮説検定 (2)           | 母平均の差の検定、母比率の差の検定                |
|           | 統計的仮説検定 (3)           | 独立性の検定、適合度検定                     |
|           | 2変量間の関係 (1)           | 相関係数                             |
|           | 2変量間の関係 (2)           | 回帰分析                             |

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

実際の統計処理はパソコンを用いて行うことが非常に多い。授業で学んだ手法をパソコン上で復習することが望ましい。

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

| 種別 / Kind | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc. |
|-----------|-----------------|-------------------------------|
| 定期試験      | 70 %            |                               |
| 日常点       | 30 %            | 小テスト形式                        |

理解度を高めるために授業時に小テストを行う予定である (実施時期は未定)。

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

遅刻・欠席をすると以降の講義が理解困難になるので、各人注意すること。

## 教科書 / Textbooks

| 書名 / Title | 出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment |
|------------|----------------------------------------------------------|
| 新・涙なしの統計学  | D.ロウントリー著 加納悟訳／新世社／4-88384-035-2／                        |

## 参考書 / Reference Books

| 書名 / Title        | 出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment |
|-------------------|----------------------------------------------------------|
| 現代統計学を学ぶ人のために     | 吉田忠編／世界思想社／4-7907-0577-3／                                |
| すぐわかる統計解析         | 石村貞夫／東京図書／4-489-00407-9／                                 |
| 統計学入門             | 東京大学教養学部統計学教室編／東京大学出版会／4-13-042065-8／                    |
| すぐわかるEXCELによる統計解析 | 内田治／東京図書／4-489-00600-4／                                  |

## 参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

その他 / Others

授業には電卓 (√ の計算のできるもの) を持参のこと。

## 社会発展論 S S 産業発達史 S

15245

担当者名 / Instructor 伊藤 正純

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Description

マルクスの唯物史観。資本主義は何か。20世紀の社会主義とは何だったのか。そして、なぜ崩壊したのか、資本主義の発展と修正。社会民主主義とは何か。ケインズと福祉国家。フォーディズム、ポスト・フォーディズム。新自由主義アメリカ。新社会民主主義スウェーデン。日本の社会発展段階は。持続可能な社会とは。

## 到達目標 / Focus and Goal

社会発展論は、社会的経済的進歩について考察するものである。だが、何をもち社会的経済的進歩とみるか、また何が社会的経済的進歩を牽引しているかとみるかで、見方は様々である。本講義では、資本主義対社会主義の対抗軸で社会発展をみるマルクス歴史観をベースに、資本主義の変容、社会主義の崩壊、そして社会民主主義の復権を具体的に論じてみたい。それは、新自由主義と新社会民主主義との対抗という視点で現代社会をみる方法の確立をめざすものでもある。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

## 授業スケジュール / Schedule

| 授業日 (第N回) | テーマ / Theme       | キーワード / Key Word             |
|-----------|-------------------|------------------------------|
| 9 / 27    | 社会発展とは何か          | マルクスの唯物史観 封建制から資本制へ 社会発展とは何か |
| 10 / 4    | 資本主義の発展について       | 自由主義 帝国主義 修正資本主義             |
| 10 / 11   | 帝国主義と大衆消費社会       | 植民地 第一次世界大戦 飛行機 自動車          |
| 10 / 18   | 20世紀社会主義とは何か      | ロシア革命 プロレタリア独裁と個人崇拜 国有化      |
| 10 / 25   | 社会民主主義とは何か        | ドイツ社会民主党 スウェーデン民主労働党 国民の家構想  |
| 11 / 1    | 福祉国家の諸類型について      | 自由主義 保守主義 社会民主主義             |
| 11 / 8    | フォーディズムとは何か       | 高度成長 イノベーション 構想と実行の分離        |
| 11 / 15   | フォーディズムの危機とは何か    | 高度成長から低成長へ                   |
| 11 / 22   | ポスト・フォーディズムとは何か   | 情報化 グローバル化                   |
| 11 / 29   | 新自由主義型社会 (1) アメリカ | アメリカ 金融の自由化 規制緩和             |
| 12 / 6    | 新社会民主主義型社会 スウェーデン | スウェーデン 福祉 分権化 マルクスの「個体的所有」   |
| 12 / 13   | 新自由主義型社会 (2) 日本   | 日本 ニッポン貧困社会                  |
| 12 / 20   | 持続可能な社会をめざして (1)  | 環境問題 環境税 スウェーデン              |
| 1 / 10    | 持続可能な社会をめざして (2)  | 自然エネルギー 原子力発電 ドイツ            |
| 1 / 17    | まとめ               |                              |

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

| 種別 / Kind | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc. |
|-----------|-----------------|-------------------------------|
| 定期試験      | 100 %           | 持ち込み不可。                       |

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

必要な世界史の学習は各自おこなってください。

## 教科書 / Textbooks

## 参考書 / Reference Books

| 書名 / Title      | 出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment |
|-----------------|----------------------------------------------------------|
| 復権する市民社会論       | 八木紀一郎他編著 / 日本評論社 / 4-535-55142-1 /                       |
| 危機—資本主義         | ボワイエ、山田鋭夫編集 / 藤原書店 / 4-938661-69-1 /                     |
| その他は、その都度、指示する。 |                                                          |

## 参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

## その他 / Others

できれば感想文を書いてもらおう。感想文や学生の反応をみて、必要な軌道修正をしながら、講義を進めたい。

## 社会病理学 S S 社会病理学 I S

13037

担当者名 / Instructor 崎山 治男

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Description

本講義では、学説史的な展開を踏まえつつ、学生諸氏にとって身近なテーマを取り上げる中で、「社会」病理学の基本的な視点の獲得を目指す。パート1では、なぜ・どのように近代・現代社会に特有の社会病理が登場してきたのかを、社会構造の変化という観点から捉える。主に、「自由」、「平等」、「博愛」といった近代社会で「正しい」とされている考え方が、逆に社会病理を生み出すといった視座を提示する。パート2では、青少年の意識といった側面を社会病理学の視点から掘り下げる。特に、「社会には病理が元々ある」という見方と、「社会病理が社会的に作り出される」という視点との交錯を講義する。パート3では、近年登場してきた「新しい」社会病理への見方を、主に家族臨床から捉え、社会病理学への理解の深化を図る。同時に、「心」を病理とする見方の進展が進んでいる現状に対して、「社会」病理学の視点からそれを懐疑的に見ていく重要性を示す。

## 到達目標 / Focus and Goal

- ・「社会病理」とされる事柄について、社会学的な見方を身につける。
- ・近代の「善」なる理念が、病理現象を産み出すパラドックスを理解する。
- ・とりわけ青少年の病理行動の背景を理解する。
- ・「新しい」病理現象とされる事柄への知識を深める。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enrolle in, but not required to

「社会学史」、「社会学概論」等の基礎的な知識を習得していることが望ましい。近年、マスメディアなどで頻繁に取り上げられる社会問題への関心を持った学生の受講を希望する。

## 授業スケジュール / Schedule

| 授業日 (第N回) | テーマ / Theme                                                    | キーワード / Key Word |
|-----------|----------------------------------------------------------------|------------------|
| 第1回       | イントロダクション                                                      |                  |
| 第2回       | Part1: 「社会」病理学とは何か: 社会構造と社会病理・「自由」であることは良いことなのか?: アノミーという社会心理  |                  |
| 第3回       | 「博愛」をどの範囲まで持てるのか?: 都市化と社会的連帯の崩壊                                |                  |
| 第4回       | 「平等」であることはどこまで正しいのか?: 「成功神話」の落とし穴                              |                  |
| 第5回       | 「勤勉」であるだけで良いのだろうか?: 下位文化の光と影                                   |                  |
| 第6回       | Part2: 現代の青年意識を「社会」病理学してみる・なぜ「気の合う仲間」が出来るのか?: 文化的学習理論による「仲間」作り |                  |
| 第7回       | 最近の少年は「キレイやすい」のか?: 少年犯罪を巡る統計とレイベリング論                           |                  |
| 第8回       | 少年犯罪は「凶悪化」しているのか?: 社会問題の構成主義                                   |                  |
| 第9回       | 地域や家族による支援はどこまで有効なのか: 他者との繋がりや紐帯理論                             |                  |
| 第10回      | 「引きこもり」は何故起きるのか?: 私事化する社会での青年意識                                |                  |
| 第11回      | Part3: 現代社会の病理の諸相: 社会病理の現在・目立つことと目立たぬこと: 劇場化する社会               |                  |
| 第12回      | なぜ「家族」に問題を求めるのか?: トラウマとアディクション                                 |                  |
| 第13回      | 「語ること」でラクになる?: ナラティブ・アプローチという相互行為                              |                  |
| 第14回      | 病理の過剰／病理の過剰: 医療化の進展と社会病理                                       |                  |
| 第15回      | まとめ: 「心」の病理と「社会」の病理                                            |                  |

## 学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## 大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

- ・毎回指示する、参考課題図書を出るだけ読むこと。
- ・各パート毎に、自らの考えを纏めること。



**成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation**

| 種別 / Kind | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc.      |
|-----------|-----------------|------------------------------------|
| 定期試験      | 100 %           | 授業内容を踏まえ、自らの視点で社会病理を分析出来ているかで判断する。 |

**受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research**

・社会病理は社会そのものを映し出す鏡である。日頃から新聞やニュース等に注目すること(但し、うのみにしないこと)。

**教科書 / Textbooks**

特に指定しない。レジュメ、資料等を必要に応じて配布する。

**参考書 / Reference Books**

必要に応じて紹介するが、社会病理学の学説史を押さえたものとして徳岡秀雄『社会病理を考える』世界思想社、宝月誠『逸脱とコントロールの社会学』有斐閣、佐々木嬉代三『社会病理学と社会的現実』学文社を挙げておく。

**参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course****その他 / Others**

## 社会福祉援助技術現場実習 SA S 社会福祉援助技術現場実習 SG

20255

担当者名 / Instructor 津止 正敏

単位数 / Credit 4

## 授業の概要 / Course Description

この授業は「社会福祉援助技術実習指導Ⅰ」で配属された施設・機関で実習を行う。夏期を中心に行うが、実習先の都合により後期セメスターに実習を行うこともある。

## 到達目標 / Focus and Goal

- ・社会福祉実践に対する十分な理解と認識
- ・実習先に関する十分な理解と認識
- ・福祉問題に関する十分な理解
- ・福祉制度・政策の十分な理解

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enrolle in, but not required to

本科目の履修にあたり、「社会福祉援助技術実習指導Ⅰ」の履修は必須となる。

## 授業スケジュール / Schedule

| 授業日 (第N回) | テーマ / Theme | キーワード / Key Word |
|-----------|-------------|------------------|
|           | 個別に指示する     |                  |

## 学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## 大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

社会福祉施設や機関の見学やボランティア活動などを積極的に行い、自主的に問題意識を深めることが望まれる。

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

| 種別 / Kind | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc. |
|-----------|-----------------|-------------------------------|
| 日常点       | 100 %           |                               |

実習ノートや実習先の評価をベースに評価を行う。

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

## 教科書 / Textbooks

## 参考書 / Reference Books

| 書名 / Title   | 出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment |
|--------------|----------------------------------------------------------|
| 「ソーシャルワーク実習」 | 岡田まり他編／有斐閣／4-641-05541-6／                                |

## 参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

## その他 / Others

## 社会福祉援助技術現場実習 SB

20256

担当者名 / Instructor 前田 信彦

単位数 / Credit 4

## 授業の概要 / Course Description

この授業は「社会福祉援助技術実習指導Ⅰ」で配属された施設・機関で実習を行う。夏期を中心に行うが、実習先の都合により後期セメスターに実習を行うこともある。

## 到達目標 / Focus and Goal

- ・社会福祉実践に対する十分な理解と認識
- ・実習先に関する十分な理解と認識
- ・福祉問題に関する十分な理解
- ・福祉制度・政策の十分な理解

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enrolle in, but not required to

本科目の履修にあたり、「社会福祉援助技術実習指導Ⅰ」の履修は必須となる。

## 授業スケジュール / Schedule

| 授業日 (第N回) | テーマ / Theme | キーワード / Key Word |
|-----------|-------------|------------------|
|           | 個別に指示する     |                  |

## 学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## 大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

社会福祉施設や機関の見学やボランティア活動などを積極的に行い、自主的に問題意識を深めることが望まれる。

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

| 種別 / Kind | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc. |
|-----------|-----------------|-------------------------------|
| 日常点       | 100 %           |                               |

実習ノートや実習先の評価をベースに評価を行う。

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

## 教科書 / Textbooks

## 参考書 / Reference Books

| 書名 / Title   | 出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment |
|--------------|----------------------------------------------------------|
| 「ソーシャルワーク実習」 | 岡田まり他編／有斐閣／4-641-05541-6／                                |

## 参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

## その他 / Others

## 社会福祉援助技術現場実習 SC

20257

担当者名 / Instructor 櫻谷 真理子

単位数 / Credit 4

## 授業の概要 / Course Description

この授業は「社会福祉援助技術実習指導Ⅰ」で配属された施設・機関で実習を行う。夏期を中心に行うが、実習先の都合により後期セメスターに実習を行うこともある。

## 到達目標 / Focus and Goal

- ・社会福祉実践に対する十分な理解と認識
- ・実習先に関する十分な理解と認識
- ・福祉問題に関する十分な理解
- ・福祉制度・政策の十分な理解

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enrolle in, but not required to

本科目の履修にあたり、「社会福祉援助技術実習指導Ⅰ」の履修は必須となる。

## 授業スケジュール / Schedule

| 授業日 (第N回) | テーマ / Theme | キーワード / Key Word |
|-----------|-------------|------------------|
|           | 個別に指示する     |                  |

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

社会福祉施設や機関の見学やボランティア活動などを積極的に行い、自主的に問題意識を深めることが望まれる。

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

| 種別 / Kind | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc. |
|-----------|-----------------|-------------------------------|
| 日常点       | 100 %           |                               |

実習ノートや実習先の評価をベースに評価を行う。

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

## 教科書 / Textbooks

## 参考書 / Reference Books

| 書名 / Title   | 出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment |
|--------------|----------------------------------------------------------|
| 「ソーシャルワーク実習」 | 岡田まり他編／有斐閣／4-641-05541-6／                                |

## 参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

## その他 / Others

## 社会福祉援助技術現場実習 SD

20258

担当者名 / Instructor 芝田 英昭

単位数 / Credit 4

## 授業の概要 / Course Description

この授業は「社会福祉援助技術実習指導Ⅰ」で配属された施設・機関で実習を行う。夏期を中心に行うが、実習先の都合により後期セメスターに実習を行うこともある。

## 到達目標 / Focus and Goal

- ・社会福祉実践に対する十分な理解と認識
- ・実習先に関する十分な理解と認識
- ・福祉問題に関する十分な理解
- ・福祉制度・政策の十分な理解

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enrolle in, but not required to

本科目の履修にあたり、「社会福祉援助技術実習指導Ⅰ」の履修は必須となる。

## 授業スケジュール / Schedule

| 授業日 (第N回) | テーマ / Theme | キーワード / Key Word |
|-----------|-------------|------------------|
|           | 個別に指示する     |                  |

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

社会福祉施設や機関の見学やボランティア活動などを積極的に行い、自主的に問題意識を深めることが望まれる。

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

| 種別 / Kind | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc. |
|-----------|-----------------|-------------------------------|
| 日常点       | 100 %           |                               |

実習ノートや実習先の評価をベースに評価を行う。

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

## 教科書 / Textbooks

## 参考書 / Reference Books

| 書名 / Title   | 出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment |
|--------------|----------------------------------------------------------|
| 「ソーシャルワーク実習」 | 岡田まり他編／有斐閣／4-641-05541-6／                                |

## 参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

## その他 / Others

## 社会福祉援助技術現場実習 SE

20259

担当者名 / Instructor 石倉 康次

単位数 / Credit 4

## 授業の概要 / Course Description

この授業は「社会福祉援助技術実習指導Ⅰ」で配属された施設・機関で実習を行う。夏期を中心に行うが、実習先の都合により後期セメスターに実習を行うこともある。

## 到達目標 / Focus and Goal

- ・社会福祉実践に対する十分な理解と認識
- ・実習先に関する十分な理解と認識
- ・福祉問題に関する十分な理解
- ・福祉制度・政策の十分な理解

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enrolle in, but not required to

本科目の履修にあたり、「社会福祉援助技術実習指導Ⅰ」の履修は必須となる。

## 授業スケジュール / Schedule

授業日 (第N回)

テーマ / Theme

キーワード / Key Word

個別に指示する

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

社会福祉施設や機関の見学やボランティア活動などを積極的に行い、自主的に問題意識を深めることが望まれる。

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind

割合 / Percentage

評価基準等 / Grading Criteria etc.

日常点

100 %

実習ノートや実習先の評価をベースに評価を行う。

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

## 教科書 / Textbooks

## 参考書 / Reference Books

書名 / Title

出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment

「ソーシャルワーク実習」

岡田まり他編／有斐閣／4-641-05541-6／

## 参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

## その他 / Others

## 社会福祉援助技術現場実習 SF

20250

担当者名 / Instructor 岡田 まり

単位数 / Credit 4

## 授業の概要 / Course Description

この授業は「社会福祉援助技術実習指導Ⅰ」で配属された施設・機関で実習を行う。夏期を中心に行うが、実習先の都合により後期セメスターに実習を行うこともある。

## 到達目標 / Focus and Goal

- ・社会福祉実践に対する十分な理解と認識
- ・実習先に関する十分な理解と認識
- ・福祉問題に関する十分な理解
- ・福祉制度・政策の十分な理解

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enrolle in, but not required to

本科目の履修にあたり、「社会福祉援助技術実習指導Ⅰ」の履修は必須となる。

## 授業スケジュール / Schedule

| 授業日 (第N回) | テーマ / Theme | キーワード / Key Word |
|-----------|-------------|------------------|
|           | 個別に指示する     |                  |

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

社会福祉施設や機関の見学やボランティア活動などを積極的に行い、自主的に問題意識を深めることが望まれる。

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

| 種別 / Kind | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc. |
|-----------|-----------------|-------------------------------|
| 日常点       | 100 %           |                               |

実習ノートや実習先の評価をベースに評価を行う。

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

## 教科書 / Textbooks

## 参考書 / Reference Books

| 書名 / Title   | 出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment |
|--------------|----------------------------------------------------------|
| 「ソーシャルワーク実習」 | 岡田まり他編／有斐閣／4-641-05541-6／                                |

## 参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

## その他 / Others

## 社会福祉援助技術現場実習 SG

20251

担当者名 / Instructor 峰島 厚

単位数 / Credit 4

## 授業の概要 / Course Description

この授業は「社会福祉援助技術実習指導Ⅰ」で配属された施設・機関で実習を行う。夏期を中心に行うが、実習先の都合により後期セメスターに実習を行うこともある。

## 到達目標 / Focus and Goal

- ・社会福祉実践に対する十分な理解と認識
- ・実習先に関する十分な理解と認識
- ・福祉問題に関する十分な理解
- ・福祉制度・政策の十分な理解

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enrolle in, but not required to

本科目の履修にあたり、「社会福祉援助技術実習指導Ⅰ」の履修は必須となる。

## 授業スケジュール / Schedule

授業日 (第N回)

テーマ / Theme

キーワード / Key Word

個別に指示する

## 学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## 大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

社会福祉施設や機関の見学やボランティア活動などを積極的に行い、自主的に問題意識を深めることが望まれる。

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind

割合 / Percentage

評価基準等 / Grading Criteria etc.

日常点

100 %

実習ノートや実習先の評価をベースに評価を行う。

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

## 教科書 / Textbooks

## 参考書 / Reference Books

書名 / Title

出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment

「ソーシャルワーク実習」

岡田まり他編／有斐閣／4-641-05541-6／

## 参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

## その他 / Others



## 社会福祉援助技術現場実習 SH

20252

担当者名 / Instructor 山本 隆

単位数 / Credit 4

## 授業の概要 / Course Description

この授業は「社会福祉援助技術実習指導Ⅰ」で配属された施設・機関で実習を行う。夏期を中心に行うが、実習先の都合により後期セメスターに実習を行うこともある。

## 到達目標 / Focus and Goal

- ・社会福祉実践に対する十分な理解と認識
- ・実習先に関する十分な理解と認識
- ・福祉問題に関する十分な理解
- ・福祉制度・政策の十分な理解

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enrolle in, but not required to

本科目の履修にあたり、「社会福祉援助技術実習指導Ⅰ」の履修は必須となる。

## 授業スケジュール / Schedule

| 授業日 (第N回) | テーマ / Theme | キーワード / Key Word |
|-----------|-------------|------------------|
|           | 個別に指示する     |                  |

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

社会福祉施設や機関の見学やボランティア活動などを積極的に行い、自主的に問題意識を深めることが望まれる。

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

| 種別 / Kind | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc. |
|-----------|-----------------|-------------------------------|
| 日常点       | 100 %           |                               |

実習ノートや実習先の評価をベースに評価を行う。

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

## 教科書 / Textbooks

## 参考書 / Reference Books

| 書名 / Title   | 出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment |
|--------------|----------------------------------------------------------|
| 「ソーシャルワーク実習」 | 岡田まり他編／有斐閣／4-641-05541-6／                                |

## 参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

## その他 / Others

## 社会福祉援助技術現場実習 SI

20253

担当者名 / Instructor 松田 亮三

単位数 / Credit 4

## 授業の概要 / Course Description

この授業は「社会福祉援助技術実習指導Ⅰ」で配属された施設・機関で実習を行う。夏期を中心に行うが、実習先の都合により後期セメスターに実習を行うこともある。

## 到達目標 / Focus and Goal

- ・社会福祉実践に対する十分な理解と認識
- ・実習先に関する十分な理解と認識
- ・福祉問題に関する十分な理解
- ・福祉制度・政策の十分な理解

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enrolle in, but not required to

本科目の履修にあたり、「社会福祉援助技術実習指導Ⅰ」の履修は必須となる。

## 授業スケジュール / Schedule

授業日 (第N回)

テーマ / Theme

キーワード / Key Word

個別に指示する

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

社会福祉施設や機関の見学やボランティア活動などを積極的に行い、自主的に問題意識を深めることが望まれる。

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind

割合 / Percentage

評価基準等 / Grading Criteria etc.

日常点

100 %

実習ノートや実習先の評価をベースに評価を行う。

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

## 教科書 / Textbooks

## 参考書 / Reference Books

書名 / Title

出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment

「ソーシャルワーク実習」

岡田まり他編／有斐閣／4-641-05541-6／

## 参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

## その他 / Others

## 社会福祉援助技術現場実習 SJ

20254

担当者名 / Instructor 生田 正幸

単位数 / Credit 4

## 授業の概要 / Course Description

この授業は「社会福祉援助技術実習指導Ⅰ」で配属された施設・機関で実習を行う。夏期を中心に行うが、実習先の都合により後期セメスターに実習を行うこともある。

## 到達目標 / Focus and Goal

- ・社会福祉実践に対する十分な理解と認識
- ・実習先に関する十分な理解と認識
- ・福祉問題に関する十分な理解
- ・福祉制度・政策の十分な理解

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enrolle in, but not required to

本科目の履修にあたり、「社会福祉援助技術実習指導Ⅰ」の履修は必須となる。

## 授業スケジュール / Schedule

授業日 (第N回)

テーマ / Theme

キーワード / Key Word

個別に指示する

## 学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## 大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

社会福祉施設や機関の見学やボランティア活動などを積極的に行い、自主的に問題意識を深めることが望まれる。

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind

割合 / Percentage

評価基準等 / Grading Criteria etc.

日常点

100 %

実習ノートや実習先の評価をベースに評価を行う。

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

## 教科書 / Textbooks

## 参考書 / Reference Books

書名 / Title

出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment

「ソーシャルワーク実習」

岡田まり他編／有斐閣／4-641-05541-6／

## 参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

## その他 / Others

## 社会福祉援助技術現場実習 SK

20247

担当者名 / Instructor 小川 栄二

単位数 / Credit 4

## 授業の概要 / Course Description

この授業は「社会福祉援助技術実習指導Ⅰ」で配属された施設・機関で実習を行う。夏期を中心に行うが、実習先の都合により後期セメスターに実習を行うこともある。

## 到達目標 / Focus and Goal

- ・社会福祉実践に対する十分な理解と認識
- ・実習先に関する十分な理解と認識
- ・福祉問題に関する十分な理解
- ・福祉制度・政策の十分な理解

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enrolle in, but not required to

本科目の履修にあたり、「社会福祉援助技術実習指導Ⅰ」の履修は必須となる。

## 授業スケジュール / Schedule

| 授業日 (第N回) | テーマ / Theme | キーワード / Key Word |
|-----------|-------------|------------------|
|           | 個別に指示する     |                  |

## 学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## 大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

社会福祉施設や機関の見学やボランティア活動などを積極的に行い、自主的に問題意識を深めることが望まれる。

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

| 種別 / Kind | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc. |
|-----------|-----------------|-------------------------------|
| 日常点       | 100 %           |                               |

実習ノートや実習先の評価をベースに評価を行う。

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

## 教科書 / Textbooks

## 参考書 / Reference Books

| 書名 / Title   | 出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment |
|--------------|----------------------------------------------------------|
| 「ソーシャルワーク実習」 | 岡田まり他編／有斐閣／4-641-05541-6／                                |

## 参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

## その他 / Others

## 社会福祉援助技術実習指導I SA S 社会福祉援助技術実習指導I SA

12423

担当者名 / Instructor 生田 正幸

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Description

この科目は、社会福祉士国家試験受験資格を取得するために履修しなければならない実習関連科目（3年次の「社会福祉援助技術現場実習」を中心とした「社会福祉援助技術現場実習Ⅰ」（2年次後期）、「社会福祉援助技術現場実習Ⅱ」「同Ⅲ」、「人間福祉演習Ⅲ」（3年次通年））のひとつとして、社会福祉現場の基礎及び実習への取り組みについて学ぶ。

## 到達目標 / Focus and Goal

- ・現場実習に向けた問題意識の明確化
- ・実習に関する課題の整理
- ・実習先（領域）の決定

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enrolle in, but not required to

- ・社会福祉士課程の必須科目。
- ・本科目の履修が、3年次の「社会福祉援助技術現場実習」の必要条件となる。
- ・2年次に本科目とあわせて「社会福祉援助技術論Ⅰ」「同Ⅱ」の履修が望まれる。

## 授業スケジュール / Schedule

| 授業日（第N回） | テーマ / Theme                      | キーワード / Key Word |
|----------|----------------------------------|------------------|
|          | ・大教室での講義と小クラスでの演習、個別面談により授業を進める。 |                  |
|          | ・施設見学実習、実習報告会など授業日程を変更する場合があります。 |                  |
| 1        | オリエンテーション                        |                  |
| 2        | 社会福祉現場について①                      |                  |
| 3        | 社会福祉現場について②                      |                  |
| 4        | 社会福祉現場について③                      |                  |
| 5        | 社会福祉現場について④                      |                  |
| 6        | 社会福祉現場について⑤                      |                  |
| 7        | 小クラス（演習）                         |                  |
| 8        | 小クラス（演習）                         |                  |
| 9        | 小クラス（演習）                         |                  |
| 10       | 実習先の決め方                          |                  |
| 11       | 実習報告会                            |                  |
| 12       | 小クラス（演習）                         |                  |
| 13       | 小クラス（演習）                         |                  |
| 14       | 実習先決定のためのヒアリング・現場技術基礎①           |                  |
| 15       | 実習先決定のためのヒアリング・現場技術基礎②           |                  |

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

- ・社会福祉施設や機関の見学やボランティア活動などを積極的に行い、自主的に問題意識を深めることが望まれる。

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

| 種別 / Kind | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc. |
|-----------|-----------------|-------------------------------|
| 日常点       | 100 %           |                               |

日常点評価は、ガイダンスや授業への出席、レポート等必要書類の提出をもって厳しく行う。欠席1回1点、遅刻0.5点、提出なし1点、提出遅れ0.5点で減点を行い、5点以上減点となった場合、機械的に不合格となるので注意すること。

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

## 教科書 / Textbooks

## 参考書 / Reference Books

| 書名 / Title   | 出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment |
|--------------|----------------------------------------------------------|
| 「ソーシャルワーク実習」 | 岡田まり他編／有斐閣／4-641-05541-6／                                |

参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

その他 / Others

## 社会福祉援助技術実習指導Ⅱ SA Ⅴ 社会福祉援助技術実習指導Ⅱ SA

12662

担当者名 / Instructor 津止 正敏

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Description

この授業は「人間福祉演習Ⅲ」と連動しており、実習に向けた事前学習を行う。実習先の現状や課題、機能、体制などの状況をより詳しく理解し、実習に対するイメージを明確にする。実習先となる社会福祉の現場理解を重視した授業内容とし、詳細については演習初日に説明する。

## 到達目標 / Focus and Goal

- ・実習先に関する十分な事前学習
- ・実習分野に関する問題状況の十分な理解
- ・実習分野に関係する制度・政策の十分な理解

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

本科目の履修にあたり、「社会福祉援助技術実習指導Ⅰ」の履修は必須となる。また、「社会福祉援助技術論Ⅰ」「同Ⅱ」の履修が望まれる。

## 授業スケジュール / Schedule

授業日 (第N回)      テーマ / Theme  
 演習初日に指示する

キーワード / Key Word

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

- ・社会福祉施設や機関の見学やボランティア活動などを積極的に行い、自主的に問題意識を深めることが望まれる。

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

| 種別 / Kind | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc. |
|-----------|-----------------|-------------------------------|
| 日常点       | 100 %           |                               |

- ・この授業はあらかじめクラス指定があるため科目登録の際は注意すること。4週間の福祉施設・機関・団体における実習の事前学習であるため、毎回必ず出席すること。また、実習先の事前学習や訪問学習についても必要に応じて提起するので毎週の演習以外にも時間を工面すること。出席状況等に問題がある場合は、現場実習を履修できない場合があるので注意すること。

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

## 教科書 / Textbooks

| 書名 / Title   | 出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment |
|--------------|----------------------------------------------------------|
| 「ソーシャルワーク実習」 | 岡田まり他編／有斐閣／4-641-05541-6／                                |

## 参考書 / Reference Books

## 参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

## その他 / Others

## 社会福祉援助技術実習指導Ⅱ SB Ⅴ 社会福祉援助技術実習指導Ⅱ SB

12663

担当者名 / Instructor 井上 公子

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Description

この授業は「人間福祉演習Ⅲ」と連動しており、実習に向けた事前学習を行う。実習先の現状や課題、機能、体制などの状況をより詳しく理解し、実習に対するイメージを明確にする。実習先となる社会福祉の現場理解を重視した授業内容とし、詳細については演習初日に説明する。

## 到達目標 / Focus and Goal

- ・実習先に関する十分な事前学習
- ・実習分野に関する問題状況の十分な理解
- ・実習分野に関係する制度・政策の十分な理解

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

本科目の履修にあたり、「社会福祉援助技術実習指導Ⅰ」の履修は必須となる。また、「社会福祉援助技術論Ⅰ」「同Ⅱ」の履修が望まれる。

## 授業スケジュール / Schedule

授業日 (第N回) テーマ / Theme  
演習初日に指示する

キーワード / Key Word

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

- ・社会福祉施設や機関の見学やボランティア活動などを積極的に行い、自主的に問題意識を深めることが望まれる。

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

| 種別 / Kind | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc. |
|-----------|-----------------|-------------------------------|
| 日常点       | 100 %           |                               |

- ・この授業はあらかじめクラス指定があるため科目登録の際は注意すること。4週間の福祉施設・機関・団体における実習の事前学習であるため、毎回必ず出席すること。また、実習先の事前学習や訪問学習についても必要に応じて提起するので毎週の演習以外にも時間を工面すること。出席状況等に問題がある場合は、現場実習を履修できない場合があるので注意すること。

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

## 教科書 / Textbooks

| 書名 / Title   | 出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment |
|--------------|----------------------------------------------------------|
| 「ソーシャルワーク実習」 | 岡田まり他編／有斐閣／4-641-05541-6／                                |

## 参考書 / Reference Books

## 参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

## その他 / Others



## 社会福祉援助技術実習指導Ⅱ SC Ⅴ 社会福祉援助技術実習指導Ⅱ SC

12664

担当者名 / Instructor 土屋 健弘

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Description

この授業は「人間福祉演習Ⅲ」と連動しており、実習に向けた事前学習を行う。実習先の現状や課題、機能、体制などの状況をより詳しく理解し、実習に対するイメージを明確にする。実習先となる社会福祉の現場理解を重視した授業内容とし、詳細については演習初日に説明する。

## 到達目標 / Focus and Goal

- ・実習先に関する十分な事前学習
- ・実習分野に関する問題状況の十分な理解
- ・実習分野に関係する制度・政策の十分な理解

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

本科目の履修にあたり、「社会福祉援助技術実習指導Ⅰ」の履修は必須となる。また、「社会福祉援助技術論Ⅰ」「同Ⅱ」の履修が望まれる。

## 授業スケジュール / Schedule

授業日 (第N回) テーマ / Theme  
演習初日に指示する

キーワード / Key Word

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

- ・社会福祉施設や機関の見学やボランティア活動などを積極的に行い、自主的に問題意識を深めることが望まれる。

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

| 種別 / Kind | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc. |
|-----------|-----------------|-------------------------------|
| 日常点       | 100 %           |                               |

- ・この授業はあらかじめクラス指定があるため科目登録の際は注意すること。4週間の福祉施設・機関・団体における実習の事前学習であるため、毎回必ず出席すること。また、実習先の事前学習や訪問学習についても必要に応じて提起するので毎週の演習以外にも時間を工面すること。出席状況等に問題がある場合は、現場実習を履修できない場合があるので注意すること。

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

## 教科書 / Textbooks

| 書名 / Title   | 出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment |
|--------------|----------------------------------------------------------|
| 「ソーシャルワーク実習」 | 岡田まり他編／有斐閣／4-641-05541-6／                                |

## 参考書 / Reference Books

## 参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

## その他 / Others

## 社会福祉援助技術実習指導Ⅱ SD Ⅴ 社会福祉援助技術実習指導Ⅱ SD

12665

担当者名 / Instructor 廣末 利弥

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Description

この授業は「人間福祉演習Ⅲ」と連動しており、実習に向けた事前学習を行う。実習先の現状や課題、機能、体制などの状況をより詳しく理解し、実習に対するイメージを明確にする。実習先となる社会福祉の現場理解を重視した授業内容とし、詳細については演習初日に説明する。

## 到達目標 / Focus and Goal

- ・実習先に関する十分な事前学習
- ・実習分野に関する問題状況の十分な理解
- ・実習分野に関係する制度・政策の十分な理解

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

本科目の履修にあたり、「社会福祉援助技術実習指導Ⅰ」の履修は必須となる。また、「社会福祉援助技術論Ⅰ」「同Ⅱ」の履修が望まれる。

## 授業スケジュール / Schedule

授業日 (第N回)      テーマ / Theme  
 演習初日に指示する

キーワード / Key Word

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

- ・社会福祉施設や機関の見学やボランティア活動などを積極的に行い、自主的に問題意識を深めることが望まれる。

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

| 種別 / Kind | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc. |
|-----------|-----------------|-------------------------------|
| 日常点       | 100 %           |                               |

- ・この授業はあらかじめクラス指定があるため科目登録の際は注意すること。4週間の福祉施設・機関・団体における実習の事前学習であるため、毎回必ず出席すること。また、実習先の事前学習や訪問学習についても必要に応じて提起するので毎週の演習以外にも時間を工面すること。出席状況等に問題がある場合は、現場実習を履修できない場合があるので注意すること。

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

## 教科書 / Textbooks

| 書名 / Title   | 出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment |
|--------------|----------------------------------------------------------|
| 「ソーシャルワーク実習」 | 岡田まり他編／有斐閣／4-641-05541-6／                                |

## 参考書 / Reference Books

## 参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

## その他 / Others

## 社会福祉援助技術実習指導Ⅱ SE S 社会福祉援助技術実習指導Ⅱ SE

12666

担当者名 / Instructor 池添 素

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Description

この授業は「人間福祉演習Ⅲ」と連動しており、実習に向けた事前学習を行う。実習先の現状や課題、機能、体制などの状況をより詳しく理解し、実習に対するイメージを明確にする。実習先となる社会福祉の現場理解を重視した授業内容とし、詳細については演習初日に説明する。

## 到達目標 / Focus and Goal

- ・実習先に関する十分な事前学習
- ・実習分野に関する問題状況の十分な理解
- ・実習分野に関係する制度・政策の十分な理解

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

本科目の履修にあたり、「社会福祉援助技術実習指導Ⅰ」の履修は必須となる。また、「社会福祉援助技術論Ⅰ」「同Ⅱ」の履修が望まれる。

## 授業スケジュール / Schedule

授業日 (第N回)      テーマ / Theme  
 演習初日に指示する

キーワード / Key Word

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

・社会福祉施設や機関の見学やボランティア活動などを積極的に行い、自主的に問題意識を深めることが望まれる。

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

| 種別 / Kind | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc. |
|-----------|-----------------|-------------------------------|
| 日常点       | 100 %           |                               |

・この授業はあらかじめクラス指定があるため科目登録の際は注意すること。4週間の福祉施設・機関・団体における実習の事前学習であるため、毎回必ず出席すること。また、実習先の事前学習や訪問学習についても必要に応じて提起するので毎週の演習以外にも時間を工面すること。出席状況等に問題がある場合は、現場実習を履修できない場合があるので注意すること。

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

## 教科書 / Textbooks

| 書名 / Title   | 出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment |
|--------------|----------------------------------------------------------|
| 「ソーシャルワーク実習」 | 岡田まり他編／有斐閣／4-641-05541-6／                                |

## 参考書 / Reference Books

## 参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

## その他 / Others

## 社会福祉援助技術実習指導Ⅱ SF S 社会福祉援助技術実習指導Ⅱ SF

12672

担当者名 / Instructor 山田 尋志

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Description

この授業は「人間福祉演習Ⅲ」と連動しており、実習に向けた事前学習を行う。実習先の現状や課題、機能、体制などの状況をより詳しく理解し、実習に対するイメージを明確にする。実習先となる社会福祉の現場理解を重視した授業内容とし、詳細については演習初日に説明する。

## 到達目標 / Focus and Goal

- ・実習先に関する十分な事前学習
- ・実習分野に関する問題状況の十分な理解
- ・実習分野に関係する制度・政策の十分な理解

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

本科目の履修にあたり、「社会福祉援助技術実習指導Ⅰ」の履修は必須となる。また、「社会福祉援助技術論Ⅰ」「同Ⅱ」の履修が望まれる。

## 授業スケジュール / Schedule

授業日 (第N回) テーマ / Theme  
演習初日に指示する

キーワード / Key Word

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

・社会福祉施設や機関の見学やボランティア活動などを積極的に行い、自主的に問題意識を深めることが望まれる。

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

| 種別 / Kind | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc. |
|-----------|-----------------|-------------------------------|
| 日常点       | 100 %           |                               |

・この授業はあらかじめクラス指定があるため科目登録の際は注意すること。4週間の福祉施設・機関・団体における実習の事前学習であるため、毎回必ず出席すること。また、実習先の事前学習や訪問学習についても必要に応じて提起するので毎週の演習以外にも時間を工面すること。出席状況等に問題がある場合は、現場実習を履修できない場合があるので注意すること。

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

## 教科書 / Textbooks

| 書名 / Title   | 出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment |
|--------------|----------------------------------------------------------|
| 「ソーシャルワーク実習」 | 岡田まり他編／有斐閣／4-641-05541-6／                                |

## 参考書 / Reference Books

## 参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

## その他 / Others

## 社会福祉援助技術実習指導Ⅱ SG Ⅴ 社会福祉援助技術実習指導Ⅱ SG

12674

担当者名 / Instructor 西村 清忠

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Description

この授業は「人間福祉演習Ⅲ」と連動しており、実習に向けた事前学習を行う。実習先の現状や課題、機能、体制などの状況をより詳しく理解し、実習に対するイメージを明確にする。実習先となる社会福祉の現場理解を重視した授業内容とし、詳細については演習初日に説明する。

## 到達目標 / Focus and Goal

- ・実習先に関する十分な事前学習
- ・実習分野に関する問題状況の十分な理解
- ・実習分野に関係する制度・政策の十分な理解

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

本科目の履修にあたり、「社会福祉援助技術実習指導Ⅰ」の履修は必須となる。また、「社会福祉援助技術論Ⅰ」「同Ⅱ」の履修が望まれる。

## 授業スケジュール / Schedule

授業日 (第N回)      テーマ / Theme  
 演習初日に指示する

キーワード / Key Word

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

- ・社会福祉施設や機関の見学やボランティア活動などを積極的に行い、自主的に問題意識を深めることが望まれる。

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

| 種別 / Kind | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc. |
|-----------|-----------------|-------------------------------|
| 日常点       | 100 %           |                               |

- ・この授業はあらかじめクラス指定があるため科目登録の際は注意すること。4週間の福祉施設・機関・団体における実習の事前学習であるため、毎回必ず出席すること。また、実習先の事前学習や訪問学習についても必要に応じて提起するので毎週の演習以外にも時間を工面すること。出席状況等に問題がある場合は、現場実習を履修できない場合があるので注意すること。

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

## 教科書 / Textbooks

| 書名 / Title   | 出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment |
|--------------|----------------------------------------------------------|
| 「ソーシャルワーク実習」 | 岡田まり他編／有斐閣／4-641-05541-6／                                |

## 参考書 / Reference Books

## 参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

## その他 / Others

## 社会福祉援助技術実習指導Ⅱ SH Ⅴ 社会福祉援助技術実習指導Ⅱ SH

12676

担当者名 / Instructor 十河 美子

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Description

この授業は「人間福祉演習Ⅲ」と連動しており、実習に向けた事前学習を行う。実習先の現状や課題、機能、体制などの状況をより詳しく理解し、実習に対するイメージを明確にする。実習先となる社会福祉の現場理解を重視した授業内容とし、詳細については演習初日に説明する。

## 到達目標 / Focus and Goal

- ・実習先に関する十分な事前学習
- ・実習分野に関する問題状況の十分な理解
- ・実習分野に関係する制度・政策の十分な理解

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

本科目の履修にあたり、「社会福祉援助技術実習指導Ⅰ」の履修は必須となる。また、「社会福祉援助技術論Ⅰ」「同Ⅱ」の履修が望まれる。

## 授業スケジュール / Schedule

授業日 (第N回)      テーマ / Theme  
 演習初日に指示する

キーワード / Key Word

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

・社会福祉施設や機関の見学やボランティア活動などを積極的に行い、自主的に問題意識を深めることが望まれる。

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

| 種別 / Kind | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc. |
|-----------|-----------------|-------------------------------|
| 日常点       | 100 %           |                               |

・この授業はあらかじめクラス指定があるため科目登録の際は注意すること。4週間の福祉施設・機関・団体における実習の事前学習であるため、毎回必ず出席すること。また、実習先の事前学習や訪問学習についても必要に応じて提起するので毎週の演習以外にも時間を工面すること。出席状況等に問題がある場合は、現場実習を履修できない場合があるので注意すること。

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

## 教科書 / Textbooks

| 書名 / Title   | 出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment |
|--------------|----------------------------------------------------------|
| 「ソーシャルワーク実習」 | 岡田まり他編／有斐閣／4-641-05541-6／                                |

## 参考書 / Reference Books

## 参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

## その他 / Others

## 社会福祉援助技術実習指導Ⅱ SI S 社会福祉援助技術実習指導Ⅱ SI

12678

担当者名 / Instructor 松井 信也

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Description

この授業は「人間福祉演習Ⅲ」と連動しており、実習に向けた事前学習を行う。実習先の現状や課題、機能、体制などの状況をより詳しく理解し、実習に対するイメージを明確にする。実習先となる社会福祉の現場理解を重視した授業内容とし、詳細については演習初日に説明する。

## 到達目標 / Focus and Goal

- ・実習先に関する十分な事前学習
- ・実習分野に関する問題状況の十分な理解
- ・実習分野に関係する制度・政策の十分な理解

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

本科目の履修にあたり、「社会福祉援助技術実習指導Ⅰ」の履修は必須となる。また、「社会福祉援助技術論Ⅰ」「同Ⅱ」の履修が望まれる。

## 授業スケジュール / Schedule

授業日 (第N回) テーマ / Theme  
演習初日に指示する

キーワード / Key Word

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

・社会福祉施設や機関の見学やボランティア活動などを積極的に行い、自主的に問題意識を深めることが望まれる。

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind 割合 / Percentage 評価基準等 / Grading Criteria etc.  
日常点 100 %

・この授業はあらかじめクラス指定があるため科目登録の際は注意すること。4週間の福祉施設・機関・団体における実習の事前学習であるため、毎回必ず出席すること。また、実習先の事前学習や訪問学習についても必要に応じて提起するので毎週の演習以外にも時間を工面すること。出席状況等に問題がある場合は、現場実習を履修できない場合があるので注意すること。

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

## 教科書 / Textbooks

書名 / Title 出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment  
「ソーシャルワーク実習」 岡田まり他編／有斐閣／4-641-05541-6／

## 参考書 / Reference Books

## 参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

## その他 / Others

## 社会福祉援助技術実習指導Ⅱ SJ S 社会福祉援助技術実習指導Ⅱ SJ

12680

担当者名 / Instructor 谷 勇男

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Description

この授業は「人間福祉演習Ⅲ」と連動しており、実習に向けた事前学習を行う。実習先の現状や課題、機能、体制などの状況をより詳しく理解し、実習に対するイメージを明確にする。実習先となる社会福祉の現場理解を重視した授業内容とし、詳細については演習初日に説明する。

## 到達目標 / Focus and Goal

- ・実習先に関する十分な事前学習
- ・実習分野に関する問題状況の十分な理解
- ・実習分野に関係する制度・政策の十分な理解

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

本科目の履修にあたり、「社会福祉援助技術実習指導Ⅰ」の履修は必須となる。また、「社会福祉援助技術論Ⅰ」「同Ⅱ」の履修が望まれる。

## 授業スケジュール / Schedule

授業日 (第N回) テーマ / Theme  
演習初日に指示する

キーワード / Key Word

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

- ・社会福祉施設や機関の見学やボランティア活動などを積極的に行い、自主的に問題意識を深めることが望まれる。

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind 割合 / Percentage 評価基準等 / Grading Criteria etc.  
日常点 100 %

- ・この授業はあらかじめクラス指定があるため科目登録の際は注意すること。4週間の福祉施設・機関・団体における実習の事前学習であるため、毎回必ず出席すること。また、実習先の事前学習や訪問学習についても必要に応じて提起するので毎週の演習以外にも時間を工面すること。出席状況等に問題がある場合は、現場実習を履修できない場合があるので注意すること。

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

## 教科書 / Textbooks

書名 / Title 出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment  
「ソーシャルワーク実習」 岡田まり他編／有斐閣／4-641-05541-6／

## 参考書 / Reference Books

## 参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

## その他 / Others



## 社会福祉援助技術実習指導Ⅱ SK S 社会福祉援助技術実習指導Ⅱ SK

12683

担当者名 / Instructor 小川 栄二

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Description

この授業は「人間福祉演習Ⅲ」と連動しており、実習に向けた事前学習を行う。実習先の現状や課題、機能、体制などの状況をより詳しく理解し、実習に対するイメージを明確にする。実習先となる社会福祉の現場理解を重視した授業内容とし、詳細については演習初日に説明する。

## 到達目標 / Focus and Goal

- ・実習先に関する十分な事前学習
- ・実習分野に関する問題状況の十分な理解
- ・実習分野に関係する制度・政策の十分な理解

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

本科目の履修にあたり、「社会福祉援助技術実習指導Ⅰ」の履修は必須となる。また、「社会福祉援助技術論Ⅰ」「同Ⅱ」の履修が望まれる。

## 授業スケジュール / Schedule

授業日 (第N回)      テーマ / Theme  
 演習初日に指示する

キーワード / Key Word

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

- ・社会福祉施設や機関の見学やボランティア活動などを積極的に行い、自主的に問題意識を深めることが望まれる。

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

| 種別 / Kind | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc. |
|-----------|-----------------|-------------------------------|
| 日常点       | 100 %           |                               |

- ・この授業はあらかじめクラス指定があるため科目登録の際は注意すること。4週間の福祉施設・機関・団体における実習の事前学習であるため、毎回必ず出席すること。また、実習先の事前学習や訪問学習についても必要に応じて提起するので毎週の演習以外にも時間を工面すること。出席状況等に問題がある場合は、現場実習を履修できない場合があるので注意すること。

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

## 教科書 / Textbooks

| 書名 / Title   | 出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment |
|--------------|----------------------------------------------------------|
| 「ソーシャルワーク実習」 | 岡田まり他編／有斐閣／4-641-05541-6／                                |

## 参考書 / Reference Books

## 参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

## その他 / Others

## 社会福祉援助技術実習指導Ⅲ SA S 社会福祉援助技術実習指導Ⅲ SA

12692

担当者名 / Instructor 津止 正敏

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Description

この授業は「人間福祉演習Ⅲ」と連動しており、実習の事後学習を基本とする。実習体験をフィードバックし、実習計画や実習課題がいかに行き届いたか、これらの課題は何かについて、個別あるいはグループ学習の中で報告・確認していく場とする。また各自の実習を振り返り、社会福祉現場の現状や課題、機能、体制などの状況をより深く理解するとともに、これからの社会福祉及び社会福祉従事者について考察する。詳細については授業初日に説明する。

## 到達目標 / Focus and Goal

- ・実習に関する総括
- ・社会福祉実践に対する十分な理解と認識
- ・実習先に関する十分な理解と認識
- ・福祉問題に関する十分な理解
- ・福祉制度・政策の十分な理解

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

本科目の履修にあたり、「社会福祉援助技術実習指導Ⅰ」の履修は必須となる。なお、あわせて「社会福祉援助技術論Ⅲ」「同Ⅳ」の履修が望まれる。

## 授業スケジュール / Schedule

| 授業日 (第N回) | テーマ / Theme | キーワード / Key Word |
|-----------|-------------|------------------|
|           | 演習初日に指示する   |                  |

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

社会福祉施設や機関の見学やボランティア活動などを積極的に行い、自主的に問題意識を深めることが望まれる。

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

| 種別 / Kind | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc. |
|-----------|-----------------|-------------------------------|
| 日常点       | 100 %           |                               |

この授業はあらかじめクラス指定があるため科目登録の際は注意すること。実習の事後学習として、この科目の履修が非常に重要であるため、毎回必ず出席すること。出席状況等に問題がある場合は、受験資格を取得できない場合があるので注意すること。

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

## 教科書 / Textbooks

## 参考書 / Reference Books

| 書名 / Title   | 出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment |
|--------------|----------------------------------------------------------|
| 「ソーシャルワーク実習」 | 岡田まり他編／有斐閣／4-641-05541-6／                                |

## 参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

## その他 / Others

## 社会福祉援助技術実習指導Ⅲ SB S 社会福祉援助技術実習指導Ⅲ SB

12693

担当者名 / Instructor 井上 公子

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Description

この授業は「人間福祉演習Ⅲ」と連動しており、実習の事後学習を基本とする。実習体験をフィードバックし、実習計画や実習課題がいかに関与したか、これらの課題は何かについて、個別あるいはグループ学習の中で報告・確認していく場とする。また各自の実習を振り返り、社会福祉現場の現状や課題、機能、体制などの状況をより深く理解するとともに、これからの社会福祉及び社会福祉従事者について考察する。詳細については授業初日に説明する。

## 到達目標 / Focus and Goal

- ・実習に関する総括
- ・社会福祉実践に対する十分な理解と認識
- ・実習先に関する十分な理解と認識
- ・福祉問題に関する十分な理解
- ・福祉制度・政策の十分な理解

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

本科目の履修にあたり、「社会福祉援助技術実習指導Ⅰ」の履修は必須となる。なお、あわせて「社会福祉援助技術論Ⅲ」「同Ⅳ」の履修が望まれる。

## 授業スケジュール / Schedule

| 授業日 (第N回) | テーマ / Theme | キーワード / Key Word |
|-----------|-------------|------------------|
|           | 演習初日に指示する   |                  |

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

社会福祉施設や機関の見学やボランティア活動などを積極的に行い、自主的に問題意識を深めることが望まれる。

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

| 種別 / Kind | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc. |
|-----------|-----------------|-------------------------------|
| 日常点       | 100 %           |                               |

この授業はあらかじめクラス指定があるため科目登録の際は注意すること。実習の事後学習として、この科目の履修が非常に重要であるため、毎回必ず出席すること。出席状況等に問題がある場合は、受験資格を取得できない場合があるので注意すること。

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

## 教科書 / Textbooks

## 参考書 / Reference Books

| 書名 / Title   | 出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment |
|--------------|----------------------------------------------------------|
| 「ソーシャルワーク実習」 | 岡田まり他編／有斐閣／4-641-05541-6／                                |

## 参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

## その他 / Others

## 社会福祉援助技術実習指導Ⅲ SC § 社会福祉援助技術実習指導Ⅲ SC

12694

担当者名 / Instructor 土屋 健弘

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Description

この授業は「人間福祉演習Ⅲ」と連動しており、実習の事後学習を基本とする。実習体験をフィードバックし、実習計画や実習課題がいかに関与したか、これらの課題は何かについて、個別あるいはグループ学習の中で報告・確認していく場とする。また各自の実習を振り返り、社会福祉現場の現状や課題、機能、体制などの状況をより深く理解するとともに、これからの社会福祉及び社会福祉従事者について考察する。詳細については授業初日に説明する。

## 到達目標 / Focus and Goal

- ・実習に関する総括
- ・社会福祉実践に対する十分な理解と認識
- ・実習先に関する十分な理解と認識
- ・福祉問題に関する十分な理解
- ・福祉制度・政策の十分な理解

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

本科目の履修にあたり、「社会福祉援助技術実習指導Ⅰ」の履修は必須となる。なお、あわせて「社会福祉援助技術論Ⅲ」「同Ⅳ」の履修が望まれる。

## 授業スケジュール / Schedule

| 授業日 (第N回) | テーマ / Theme | キーワード / Key Word |
|-----------|-------------|------------------|
|           | 演習初日に指示する   |                  |

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

社会福祉施設や機関の見学やボランティア活動などを積極的に行い、自主的に問題意識を深めることが望まれる。

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

| 種別 / Kind | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc. |
|-----------|-----------------|-------------------------------|
| 日常点       | 100 %           |                               |

この授業はあらかじめクラス指定があるため科目登録の際は注意すること。実習の事後学習として、この科目の履修が非常に重要であるため、毎回必ず出席すること。出席状況等に問題がある場合は、受験資格を取得できない場合があるので注意すること。

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

## 教科書 / Textbooks

## 参考書 / Reference Books

| 書名 / Title   | 出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment |
|--------------|----------------------------------------------------------|
| 「ソーシャルワーク実習」 | 岡田まり他編／有斐閣／4-641-05541-6／                                |

## 参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

## その他 / Others

## 社会福祉援助技術実習指導Ⅲ SD S 社会福祉援助技術実習指導Ⅲ SD

12695

担当者名 / Instructor 廣末 利弥

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Description

この授業は「人間福祉演習Ⅲ」と連動しており、実習の事後学習を基本とする。実習体験をフィードバックし、実習計画や実習課題がいかに関与したか、これらの課題は何かについて、個別あるいはグループ学習の中で報告・確認していく場とする。また各自の実習を振り返り、社会福祉現場の現状や課題、機能、体制などの状況をより深く理解するとともに、これからの社会福祉及び社会福祉従事者について考察する。詳細については授業初日に説明する。

## 到達目標 / Focus and Goal

- ・実習に関する総括
- ・社会福祉実践に対する十分な理解と認識
- ・実習先に関する十分な理解と認識
- ・福祉問題に関する十分な理解
- ・福祉制度・政策の十分な理解

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

本科目の履修にあたり、「社会福祉援助技術実習指導Ⅰ」の履修は必須となる。なお、あわせて「社会福祉援助技術論Ⅲ」「同Ⅳ」の履修が望まれる。

## 授業スケジュール / Schedule

| 授業日 (第N回) | テーマ / Theme | キーワード / Key Word |
|-----------|-------------|------------------|
|           | 演習初日に指示する   |                  |

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

社会福祉施設や機関の見学やボランティア活動などを積極的に行い、自主的に問題意識を深めることが望まれる。

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

| 種別 / Kind | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc. |
|-----------|-----------------|-------------------------------|
| 日常点       | 100 %           |                               |

この授業はあらかじめクラス指定があるため科目登録の際は注意すること。実習の事後学習として、この科目の履修が非常に重要であるため、毎回必ず出席すること。出席状況等に問題がある場合は、受験資格を取得できない場合があるので注意すること。

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

## 教科書 / Textbooks

## 参考書 / Reference Books

| 書名 / Title   | 出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment |
|--------------|----------------------------------------------------------|
| 「ソーシャルワーク実習」 | 岡田まり他編／有斐閣／4-641-05541-6／                                |

## 参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

## その他 / Others

## 社会福祉援助技術実習指導Ⅲ SE S 社会福祉援助技術実習指導Ⅲ SE

12696

担当者名 / Instructor 池添 素

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Description

この授業は「人間福祉演習Ⅲ」と連動しており、実習の事後学習を基本とする。実習体験をフィードバックし、実習計画や実習課題がいかに関達成されたか、これらの課題は何かについて、個別あるいはグループ学習の中で報告・確認していく場とする。また各自の実習を振り返り、社会福祉現場の現状や課題、機能、体制などの状況をより深く理解するとともに、これからの社会福祉及び社会福祉従事者について考察する。詳細については授業初日に説明する。

## 到達目標 / Focus and Goal

- ・実習に関する総括
- ・社会福祉実践に対する十分な理解と認識
- ・実習先に関する十分な理解と認識
- ・福祉問題に関する十分な理解
- ・福祉制度・政策の十分な理解

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enrolle in, but not required to

本科目の履修にあたり、「社会福祉援助技術実習指導Ⅰ」の履修は必須となる。なお、あわせて「社会福祉援助技術論Ⅲ」「同Ⅳ」の履修が望まれる。

## 授業スケジュール / Schedule

| 授業日 (第N回) | テーマ / Theme | キーワード / Key Word |
|-----------|-------------|------------------|
|           | 演習初日に指示する   |                  |

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

社会福祉施設や機関の見学やボランティア活動などを積極的に行い、自主的に問題意識を深めることが望まれる。

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

| 種別 / Kind | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc. |
|-----------|-----------------|-------------------------------|
| 日常点       | 100 %           |                               |

この授業はあらかじめクラス指定があるため科目登録の際は注意すること。実習の事後学習として、この科目の履修が非常に重要であるため、毎回必ず出席すること。出席状況等に問題がある場合は、受験資格を取得できない場合があるので注意すること。

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

## 教科書 / Textbooks

## 参考書 / Reference Books

| 書名 / Title   | 出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment |
|--------------|----------------------------------------------------------|
| 「ソーシャルワーク実習」 | 岡田まり他編／有斐閣／4-641-05541-6／                                |

## 参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

## その他 / Others

## 社会福祉援助技術実習指導Ⅲ SF S 社会福祉援助技術実習指導Ⅲ SF

12702

担当者名 / Instructor 山田 尋志

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Description

この授業は「人間福祉演習Ⅲ」と連動しており、実習の事後学習を基本とする。実習体験をフィードバックし、実習計画や実習課題がいかに関与したか、これらの課題は何かについて、個別あるいはグループ学習の中で報告・確認していく場とする。また各自の実習を振り返り、社会福祉現場の現状や課題、機能、体制などの状況をより深く理解するとともに、これからの社会福祉及び社会福祉従事者について考察する。詳細については授業初日に説明する。

## 到達目標 / Focus and Goal

- ・実習に関する総括
- ・社会福祉実践に対する十分な理解と認識
- ・実習先に関する十分な理解と認識
- ・福祉問題に関する十分な理解
- ・福祉制度・政策の十分な理解

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

本科目の履修にあたり、「社会福祉援助技術実習指導Ⅰ」の履修は必須となる。なお、あわせて「社会福祉援助技術論Ⅲ」「同Ⅳ」の履修が望まれる。

## 授業スケジュール / Schedule

| 授業日 (第N回) | テーマ / Theme | キーワード / Key Word |
|-----------|-------------|------------------|
|           | 演習初日に指示する   |                  |

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

社会福祉施設や機関の見学やボランティア活動などを積極的に行い、自主的に問題意識を深めることが望まれる。

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

| 種別 / Kind | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc. |
|-----------|-----------------|-------------------------------|
| 日常点       | 100 %           |                               |

この授業はあらかじめクラス指定があるため科目登録の際は注意すること。実習の事後学習として、この科目の履修が非常に重要であるため、毎回必ず出席すること。出席状況等に問題がある場合は、受験資格を取得できない場合があるので注意すること。

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

## 教科書 / Textbooks

## 参考書 / Reference Books

| 書名 / Title   | 出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment |
|--------------|----------------------------------------------------------|
| 「ソーシャルワーク実習」 | 岡田まり他編／有斐閣／4-641-05541-6／                                |

## 参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

## その他 / Others

## 社会福祉援助技術実習指導Ⅲ SG S 社会福祉援助技術実習指導Ⅲ SG

12704

担当者名 / Instructor 西村 清忠

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Description

この授業は「人間福祉演習Ⅲ」と連動しており、実習の事後学習を基本とする。実習体験をフィードバックし、実習計画や実習課題がいかに関与したか、これらの課題は何かについて、個別あるいはグループ学習の中で報告・確認していく場とする。また各自の実習を振り返り、社会福祉現場の現状や課題、機能、体制などの状況をより深く理解するとともに、これからの社会福祉及び社会福祉従事者について考察する。詳細については授業初日に説明する。

## 到達目標 / Focus and Goal

- ・実習に関する総括
- ・社会福祉実践に対する十分な理解と認識
- ・実習先に関する十分な理解と認識
- ・福祉問題に関する十分な理解
- ・福祉制度・政策の十分な理解

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

本科目の履修にあたり、「社会福祉援助技術実習指導Ⅰ」の履修は必須となる。なお、あわせて「社会福祉援助技術論Ⅲ」「同Ⅳ」の履修が望まれる。

## 授業スケジュール / Schedule

| 授業日 (第N回) | テーマ / Theme | キーワード / Key Word |
|-----------|-------------|------------------|
|           | 演習初日に指示する   |                  |

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

社会福祉施設や機関の見学やボランティア活動などを積極的に行い、自主的に問題意識を深めることが望まれる。

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

| 種別 / Kind | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc. |
|-----------|-----------------|-------------------------------|
| 日常点       | 100 %           |                               |

この授業はあらかじめクラス指定があるため科目登録の際は注意すること。実習の事後学習として、この科目の履修が非常に重要であるため、毎回必ず出席すること。出席状況等に問題がある場合は、受験資格を取得できない場合があるので注意すること。

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

## 教科書 / Textbooks

## 参考書 / Reference Books

| 書名 / Title   | 出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment |
|--------------|----------------------------------------------------------|
| 「ソーシャルワーク実習」 | 岡田まり他編／有斐閣／4-641-05541-6／                                |

## 参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

## その他 / Others



## 社会福祉援助技術実習指導Ⅲ SH S 社会福祉援助技術実習指導Ⅲ SH

12706

担当者名 / Instructor 十河 美子

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Description

この授業は「人間福祉演習Ⅲ」と連動しており、実習の事後学習を基本とする。実習体験をフィードバックし、実習計画や実習課題がいかに関与したか、これらの課題は何かについて、個別あるいはグループ学習の中で報告・確認していく場とする。また各自の実習を振り返り、社会福祉現場の現状や課題、機能、体制などの状況をより深く理解するとともに、これからの社会福祉及び社会福祉従事者について考察する。詳細については授業初日に説明する。

## 到達目標 / Focus and Goal

- ・実習に関する総括
- ・社会福祉実践に対する十分な理解と認識
- ・実習先に関する十分な理解と認識
- ・福祉問題に関する十分な理解
- ・福祉制度・政策の十分な理解

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

本科目の履修にあたり、「社会福祉援助技術実習指導Ⅰ」の履修は必須となる。なお、あわせて「社会福祉援助技術論Ⅲ」「同Ⅳ」の履修が望まれる。

## 授業スケジュール / Schedule

| 授業日 (第N回) | テーマ / Theme | キーワード / Key Word |
|-----------|-------------|------------------|
|           | 演習初日に指示する   |                  |

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

社会福祉施設や機関の見学やボランティア活動などを積極的に行い、自主的に問題意識を深めることが望まれる。

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

| 種別 / Kind | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc. |
|-----------|-----------------|-------------------------------|
| 日常点       | 100 %           |                               |

この授業はあらかじめクラス指定があるため科目登録の際は注意すること。実習の事後学習として、この科目の履修が非常に重要であるため、毎回必ず出席すること。出席状況等に問題がある場合は、受験資格を取得できない場合があるので注意すること。

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

## 教科書 / Textbooks

## 参考書 / Reference Books

| 書名 / Title   | 出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment |
|--------------|----------------------------------------------------------|
| 「ソーシャルワーク実習」 | 岡田まり他編／有斐閣／4-641-05541-6／                                |

## 参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

## その他 / Others

## 社会福祉援助技術実習指導Ⅲ SI S 社会福祉援助技術実習指導Ⅲ SI

12708

担当者名 / Instructor 松井 信也

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Description

この授業は「人間福祉演習Ⅲ」と連動しており、実習の事後学習を基本とする。実習体験をフィードバックし、実習計画や実習課題がいかに関与したか、これらの課題は何かについて、個別あるいはグループ学習の中で報告・確認していく場とする。また各自の実習を振り返り、社会福祉現場の現状や課題、機能、体制などの状況をより深く理解するとともに、これからの社会福祉及び社会福祉従事者について考察する。詳細については授業初日に説明する。

## 到達目標 / Focus and Goal

- ・実習に関する総括
- ・社会福祉実践に対する十分な理解と認識
- ・実習先に関する十分な理解と認識
- ・福祉問題に関する十分な理解
- ・福祉制度・政策の十分な理解

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

本科目の履修にあたり、「社会福祉援助技術実習指導Ⅰ」の履修は必須となる。なお、あわせて「社会福祉援助技術論Ⅲ」「同Ⅳ」の履修が望まれる。

## 授業スケジュール / Schedule

| 授業日 (第N回) | テーマ / Theme | キーワード / Key Word |
|-----------|-------------|------------------|
|           | 演習初日に指示する   |                  |

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

社会福祉施設や機関の見学やボランティア活動などを積極的に行い、自主的に問題意識を深めることが望まれる。

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

| 種別 / Kind | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc. |
|-----------|-----------------|-------------------------------|
| 日常点       | 100 %           |                               |

この授業はあらかじめクラス指定があるため科目登録の際は注意すること。実習の事後学習として、この科目の履修が非常に重要であるため、毎回必ず出席すること。出席状況等に問題がある場合は、受験資格を取得できない場合があるので注意すること。

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

## 教科書 / Textbooks

## 参考書 / Reference Books

| 書名 / Title   | 出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment |
|--------------|----------------------------------------------------------|
| 「ソーシャルワーク実習」 | 岡田まり他編／有斐閣／4-641-05541-6／                                |

## 参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

## その他 / Others

## 社会福祉援助技術実習指導Ⅲ SJ S 社会福祉援助技術実習指導Ⅲ SJ

12710

担当者名 / Instructor 谷 勇男

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Description

この授業は「人間福祉演習Ⅲ」と連動しており、実習の事後学習を基本とする。実習体験をフィードバックし、実習計画や実習課題がいかに関与したか、これらの課題は何かについて、個別あるいはグループ学習の中で報告・確認していく場とする。また各自の実習を振り返り、社会福祉現場の現状や課題、機能、体制などの状況をより深く理解するとともに、これからの社会福祉及び社会福祉従事者について考察する。詳細については授業初日に説明する。

## 到達目標 / Focus and Goal

- ・実習に関する総括
- ・社会福祉実践に対する十分な理解と認識
- ・実習先に関する十分な理解と認識
- ・福祉問題に関する十分な理解
- ・福祉制度・政策の十分な理解

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

本科目の履修にあたり、「社会福祉援助技術実習指導Ⅰ」の履修は必須となる。なお、あわせて「社会福祉援助技術論Ⅲ」「同Ⅳ」の履修が望まれる。

## 授業スケジュール / Schedule

| 授業日 (第N回) | テーマ / Theme | キーワード / Key Word |
|-----------|-------------|------------------|
|           | 演習初日に指示する   |                  |

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

社会福祉施設や機関の見学やボランティア活動などを積極的に行い、自主的に問題意識を深めることが望まれる。

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

| 種別 / Kind | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc. |
|-----------|-----------------|-------------------------------|
| 日常点       | 100 %           |                               |

この授業はあらかじめクラス指定があるため科目登録の際は注意すること。実習の事後学習として、この科目の履修が非常に重要であるため、毎回必ず出席すること。出席状況等に問題がある場合は、受験資格を取得できない場合があるので注意すること。

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

## 教科書 / Textbooks

## 参考書 / Reference Books

| 書名 / Title   | 出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment |
|--------------|----------------------------------------------------------|
| 「ソーシャルワーク実習」 | 岡田まり他編／有斐閣／4-641-05541-6／                                |

## 参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

## その他 / Others

## 社会福祉援助技術実習指導Ⅲ SK S 社会福祉援助技術実習指導Ⅲ SK

12712

担当者名 / Instructor 小川 栄二

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Description

この授業は「人間福祉演習Ⅲ」と連動しており、実習の事後学習を基本とする。実習体験をフィードバックし、実習計画や実習課題がいかに関与したか、これらの課題は何かについて、個別あるいはグループ学習の中で報告・確認していく場とする。また各自の実習を振り返り、社会福祉現場の現状や課題、機能、体制などの状況をより深く理解するとともに、これからの社会福祉及び社会福祉従事者について考察する。詳細については授業初日に説明する。

## 到達目標 / Focus and Goal

- ・実習に関する総括
- ・社会福祉実践に対する十分な理解と認識
- ・実習先に関する十分な理解と認識
- ・福祉問題に関する十分な理解
- ・福祉制度・政策の十分な理解

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

本科目の履修にあたり、「社会福祉援助技術実習指導Ⅰ」の履修は必須となる。なお、あわせて「社会福祉援助技術論Ⅲ」「同Ⅳ」の履修が望まれる。

## 授業スケジュール / Schedule

| 授業日 (第N回) | テーマ / Theme | キーワード / Key Word |
|-----------|-------------|------------------|
|           | 演習初日に指示する   |                  |

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

社会福祉施設や機関の見学やボランティア活動などを積極的に行い、自主的に問題意識を深めることが望まれる。

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

| 種別 / Kind | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc. |
|-----------|-----------------|-------------------------------|
| 日常点       | 100 %           |                               |

この授業はあらかじめクラス指定があるため科目登録の際は注意すること。実習の事後学習として、この科目の履修が非常に重要であるため、毎回必ず出席すること。出席状況等に問題がある場合は、受験資格を取得できない場合があるので注意すること。

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

## 教科書 / Textbooks

## 参考書 / Reference Books

| 書名 / Title   | 出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment |
|--------------|----------------------------------------------------------|
| 「ソーシャルワーク実習」 | 岡田まり他編／有斐閣／4-641-05541-6／                                |

## 参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

## その他 / Others

## 社会文化論 S S 社会行動論 I S

15007

担当者名 / Instructor 出口 剛司

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Description

批判理論における「理性による自然支配」テーゼを文化社会学的な視点から多面的に検討していく。われわれは、日常生活のなかであまりにも自明なものとして「食べる」「におう」「見る」「読む」「聞く」「感じる」などの身体的行動を繰り返している。また同時にこのような身体的経験を、個人の感覚・感情・好みに左右される最も私的なものと考えている。それに対して社会学は、日常生活にあふれる、一見主観的で個人的な感性的経験を社会や歴史のなかで抑圧的あるいは拘束的に形成されてきたものとして捉える。本講義では、このような「個人」の身体的経験とそれを「社会」にまとめあげるメディアの効果を考察することによって、近代社会のしくみやその変容過程について明らかにしていく。またそれらの考察をふまえて、ポスト近代社会にふさわしい倫理のあり方について、受講生とともに考えてみたい。

## 到達目標 / Focus and Goal

- ①近代社会の文化的特徴を理解し、われわれ自身の「文化」を批判的に相対化する能力を身に着ける。
- ②文化社会学及びそれに隣接する社会文化研究の基本概念、基本学説を理解する。
- ③批判理論における近代文化批判の課題と意義を理解する。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

基礎社会学、人間と文化の両コア科目を受講しておくことが望ましい。

## 授業スケジュール / Schedule

| 授業日(第N回) | テーマ / Theme                      | キーワード / Key Word           |
|----------|----------------------------------|----------------------------|
| 第1回      | 視覚的近代の成立(身体感覚の社会学のために)           | 視覚 理性中心主義 まなざしの地獄 フーコーの権力論 |
| 第2回      | 嗅覚の社会史Ⅰ(嗅覚とアロマ)                  | 嗅覚の復権                      |
| 第3回      | 嗅覚の社会史Ⅱ(公衆衛生と視覚・嗅覚の交差)           | 公衆衛生 アナール学派の社会史            |
| 第4回      | 食の歴史社会学Ⅰ(食・このおぞましくも魅惑的なもの)       | 身体感覚と欲望                    |
| 第5回      | 食の歴史社会学Ⅱ(テーブルマナーとガストロノミー)        | 礼儀作法 文明化の過程 ノルベルト・エリアスの社会学 |
| 第6回      | 食の歴史社会学Ⅲ(見えないコルセット=体重計)          | ダイエットの成立 食と近代社会の病理         |
| 第7回      | 食の歴史社会学Ⅳ(見えない体重計と魂のコルセット)        | 食と近代社会の病理                  |
| 第8回      | ファッションの文化社会学Ⅰ(ファッションと記号を求めるまなざし) | 記号論 資本主義と記号消費              |
| 第9回      | ファッションの文化社会学Ⅱ(ドレスとスーツの誕生)        | セクシュアリティ ジェンダー             |
| 第10回     | 文字と声の知識社会学Ⅰ(声の文化と文字の文化)          | オングとマクルーハン                 |
| 第11回     | 文字と声の知識社会学Ⅱ(書物の出現と文字の想像力)        | 書物の歴史 シャルチエと読書の社会史         |
| 第12回     | 読書の社会史Ⅰ(宗教改革とナショナリズム)            | ナショナリズムの成立 アンダーソンと想像の共同体   |
| 第13回     | 読書の社会史Ⅱ(スキャンダルとまなざしと聖性剥奪)        | 読書とフランス革命                  |
| 第14回     | 批判理論と文化批判への視座①                   | 近代社会の文化的批判 批判理論とモデルネ       |
| 第15回     | 批判理論と文化批判への視座②                   | 多文化主義と倫理の方へ                |

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

講義中、適宜指示する。

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

| 種別 / Kind                    | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc. |
|------------------------------|-----------------|-------------------------------|
| 定期試験                         | 100 %           | 講義内容の理解度及びその文化批判への応用能力を問う     |
| 講義終了後にコミュニケーションペーパーを作成してもらう。 |                 |                               |

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

具体的な講義内容を理解するだけでなく、そのことを通して、われわれが自明なものとみなしている文化そのものに対する批判的な視点をもつことが望ましい。

## 教科書 / Textbooks

原則としてプリントを配布し、それに基づいて講義を進める。  
教科書の指定はおこなわないが、適宜文献の紹介をおこなう。

## 参考書 / Reference Books

書名 / Title

出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment

フランクフルト学派の展開：20世紀思想の断層

徳永恂 / 新曜社 / 批判理論の歴史について

エーリッヒ・フロム：希望なき時代の希望

出口剛司 / 新曜社 / 多文化主義と倫理のあり方について

講義中、各テーマに即して関連文献の紹介をおこなう。

参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

その他 / Others

## 社会保障論 S S 社会保障論I S S 社会保障論 SG

11912

担当者名 / Instructor 芝田 英昭

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Description

現在、私たちの生活にとって「社会保障制度」は、必要不可欠な生活の条件となっていますが、その生成・発展の歴史を辿ることで、社会保障の理念・本質・機能について学びたいと思います。また、21世紀における福祉国家再生のための「社会保障のあり方」を考察します。

## 到達目標 / Focus and Goal

現在「社会保障」は、マスコミに取り上げられない日がないほどポピュラーになっています。しかし、学問として捉えると、難しいと敬遠されているのが現状です。そこでこの講義では、少しでも社会保障の体系や理念を学んで、社会保障を身近なものと感じ興味を持って頂こうと思います。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

現代と福祉、福祉政策論、福祉計画論、

## 授業スケジュール / Schedule

| 授業日 (第N回) | テーマ / Theme                         | キーワード / Key Word                                     |
|-----------|-------------------------------------|------------------------------------------------------|
| 第1回目      | 社会保障の理念の変遷とその意義                     | 所得保障、対人社会サービス、社会保障法 (アメリカ)、ニュージーランドの社会保障             |
| 第2回目      | 社会保障の理念の変遷とその意義                     | ILO、ベヴァリッジ・リポート、憲法第25条、社会保障制度審議会、セイフティー・ネット、総合社会保険構想 |
| 第3回目      | 社会保障のあゆみとダイナミクス・・・イギリスにおける社会保障の歴史   | 救貧法、本源の蓄積、ブース、ラウントリー                                 |
| 第4回目      | 社会保障のあゆみとダイナミクス・・・ドイツにおける社会保障の歴史    | 飴と鞭の政策、ビスマルク                                         |
| 第5回目      | 社会保障の基本原則と限界・・・社会保障の対象・財源           | 生活障害、生活危険、生活不能、生活の社会化、労働力の価値、社会保険方式、消費税              |
| 第6回目      | 社会保障の基本原則と限界・・・社会保障の資本主義的限界         | 社会的排除、第三の道、貧困                                        |
| 第7回目      | 公的年金制度の成立とその後の歴史                    | 国民年金、厚生年金、共済年金、積立金資金運用                               |
| 第8回目      | 年金制度改革の新提案                          | 女性と年金、基本年金構想                                         |
| 第9回目      | 保健・医療の社会的責任と課題・・・医療制度改革の流れ          | 健康の定義、医療の社会化、                                        |
| 第10回目     | 保健・医療の社会的責任と課題・・・地域共同体の力で健康を維持する    | 健康日本21、労働のあり方の転換、地域共同体の再生                            |
| 第11回目     | 社会福祉体系の成立と現段階                       | 社会福祉基礎構造改革、福祉元年、                                     |
| 第12回目     | 社会福祉サービスの将来像                        | 措置と契約、                                               |
| 第13回目     | 社会保障の一元化と将来像・・・「国民保険」構想の中身          | 国民保険、事業主負担、減免措置、ペナルティー                               |
| 第14回目     | 社会保障の一元化と将来像・・・「社会保障税」・「新しい社会保障」の提案 | 最低賃金、目的税、社会保障税                                       |

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

講義への学生参加を重視するので、教科書や参考書は事前に読んでおくようにしてください。

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

| 種別 / Kind | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc.  |
|-----------|-----------------|--------------------------------|
| 定期試験      | 58 %            | 出席点42点を、引いた分を定期試験の配点58点とする。    |
| その他       | 42 %            | 毎回質問紙を配布、回収し出席点とする。3点×14回＝42点。 |

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

毎回、コミュニケーション・ペーパーを配布・回収し、次週の講義冒頭10分程度で質問等に答えます。また、講義では班での議論形態を多用しますので、積極的に意見を述べてください。

## 教科書 / Textbooks

| 書名 / Title | 出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment |
|------------|----------------------------------------------------------|
| 新しい社会保障の設計 | 芝田 英昭／文理閣／／2006年6月発行予定                                   |

## 参考書 / Reference Books

| 書名 / Title     | 出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment |
|----------------|----------------------------------------------------------|
| 社会保障のダイナミクスと展望 | 芝田 英昭／法律文化社／4-589-02891-3／                               |

ニュージーランド福祉国家の再設計

芝田 英昭 (翻訳) / 法律文化社 / 4-589-02786-0 /

社会保障の基本原理と将来像

芝田 英昭 / 法律文化社 / 4-589-02724-0 /

参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

厚生労働省 <http://www.mhlw.go.jp>

その他 / Others



## 社会倫理学 S S 社会学理論II S

15009

担当者名 / Instructor 佐藤 春吉

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Description

私たちの人間社会には、多くの倫理的な問題が埋め込まれている。マクロなレベルでは近代社会の基本骨格を構成する自由、平等、友愛、所有といった社会的な倫理基準がある。これらの諸基準は、近代社会そのものの矛盾や現代社会のあらたな展開のなかでさまざまな問い直しを受けている。また、ミクロな日常的な行為のなかにもさまざまな日常倫理にかかわる問題があり、意図と結果の相違や自由と公正をめぐる問題が待ちかまえている。本講義では、出来るだけ社会学的な行為論や近代以降の社会の構造的な理解と重ね合わせながら、身近な事例をテーマに関連させて私たちの生活と社会における基本的な倫理問題を一緒に考える形の講義にしていきたい。この講義は、各テーマに関連して、受講者の声を反映した応答形式の授業を行う。その点では、受講者には、議論に参加するという積極的な姿勢を求めたい。授業では、基本的に毎回コミュニケーションペーパーを提出してもらい、これを授業内容に反映させる。また、これを出席票としても利用する予定である。受講に際して、特に倫理学についての予備知識は必要ないが、倫理的問題について真剣に考える姿勢と意欲が求められる。

評

## 到達目標 / Focus and Goal

社会生活における倫理的な問題の発生に謙虚に立ち向かう姿勢を養うこと。他者の同等の権利や生活の尊重、世界の共有の責任という基本的な倫理基準を深く受け止め、応用できる力を養うこと。倫理問題を、個人的視野からだけでなく、広く社会学的、社会科学的な目で見つめ社会的な背景のなかで考える視野を養うこと。事実認識と価値判断の区別と総合の視点をもって、問題を自ら考察できる力を養うこと。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enrolle in, but not required to

特に、特定の科目の履修を前提とはしないが、社会学、社会科学、倫理学、哲学などに関心をもっていること、ねばり強い論理的思考に耐える心構えと思考力を持つよう心がけること。

## 授業スケジュール / Schedule

| 授業日 (第N回) | テーマ / Theme                                                                                | キーワード / Key Word                         |
|-----------|--------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------|
| 第1回       | 社会倫理とはなにか、どのように倫理問題と社会科学(社会学)が関わっているのかを考える。社会的行為と倫理問題発生構造について解説する。本講義で何をどのように問題にするのかを概説する。 | 行為、意図せざる結果、事実と価値判断、世界の共有、責任、社会学と倫理学      |
| 第2回       | うその社会倫理学(その1); 問題提起; うそは無くすことができるか?                                                        | うそとは?                                    |
| 第3回       | うその社会倫理学(その2); うその定義、許されるうそと悪いうそ? うそはなぜ悪いのか?                                               | 善悪の基準、うそを定義することの前提、事実認識、価値判断、両者の区別、      |
| 第4回       | うその社会倫理学(その3); 行為論的哲学的再考察; 倫理学の前提としての認識論的問題と存在論的問題                                         | 価値自由、実在論的認識論、認識についての主観的基準の問題点、価値判断と責任    |
| 第5回       | 社会倫理学的思考の基本; 倫理的判断力の構成要素; 中間まとめ                                                            | 価値自由、責任倫理、世界の共有、他者の存在の意味                 |
| 第6回       | パターナリズムと行為のパラドックス                                                                          | パターナリズム、「善意」の問題性                         |
| 第7回       | 歴史と倫理(その1); 問題提起、行為と因果関係と責任                                                                | 行為の因果性、結果と責任                             |
| 第8回       | 歴史と行為(その2); 歴史認識の構造と歴史における倫理                                                               | 歴史認識における事実認識と価値判断、解釈学的知識の役割、歴史評価の自由と責任倫理 |
| 第9回       | 歴史と倫理(その3); 行為連関の複雑性、予期せざる結果、許しと約束                                                         | 許しと約束                                    |
| 第10回      | 自由という基本価値をめぐる問題; 自由主義とは何か、自由主義思想史にみる自由とその条件                                                | 自由、市民権、社会権                               |
| 第11回      | 自由主義とその問題性1; 二つの自由(バーリン)に潜む問題性                                                             | 積極的自由、消極的自由、他者との共生                       |
| 第12回      | 自由主義とその問題性2; 所有、自由と平等(リバタリアニズムの問題性)                                                        | 自由、所有、権利、平等、連帯                           |
| 第13回      | 正義論とその意味(正義とはなにか、現代正義論から)、自由と平等の基準を求めて                                                     | 正義                                       |
| 第14回      | 正義論とその限界                                                                                   | 論証的基礎づけの限界、                              |
| 第15回      | 公共圏、世界の共有、開かれた社会と民主主義                                                                      | 公共圏、討議民主主義、社会的連帯、世界の共有                   |

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

参考文献は、講義時に紹介するが、本を読むことと同時に、自分の頭で考えることが本講義の最も重要なねらいとなるので、普段に自分で責任をもって「考える」こと。答えを知ろうとか、覚えようとする態度を、本講義では覆す必要が出てくる。倫理問題は覚える問題ではなく、自分の問題として考える問題だからである。

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

| 種別 / Kind                                                                                                                                        | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc.                                          |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------|------------------------------------------------------------------------|
| レポート                                                                                                                                             | 60 %            | 最終レポートを課す。課題は、講義の内容に関連したものから提示                                         |
| 日常点                                                                                                                                              | 40 %            | コミュニケーションペーパーを使った応答を行う。こえは、ある種の日常的レポートである。これで参加の積極性や出席状況をはかり、評価の参考とする。 |
| その他                                                                                                                                              | 0 %             | 出席は、上記の日常点に入る。コミュニケーションペーパーは出席カードをかねるものとする。                            |
| コミュニケーションペーパーを使用し、簡単な授業の観想や意見、応答を書いてもらう。授業は、このコミュニケーションペーパーを使った応答形式を重視する。最終レポートも提出してもらい、総合判断する。コミュニケーションペーパーは、出席状況の把握の材料としても利用し、再評価はそれらの総合判断とする。 |                 |                                                                        |

#### 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

自分の頭で考えること、意見表明においてはあくまで自分の考えで書くこと、また人ごとではなく、そのい嫌悪結果を引き受ける責任意識をもって書いて欲しい。考える講義をめざしたい。

#### 教科書 / Textbooks

教科書は特に指定しない。授業では、レジュメを使用する。しかし、以下の文献は、本講義を理解する上で、大いに参考になるので、推奨したい。

M.ヴェーバー『社会科学と社会政策にかかわる認識の「客観性」』岩波文庫

M.ヴェーバー、マイヤー『歴史は科学か』みすず書房

カール・R・ポパー『果てしなき探求』上・下 岩波現代文庫

カール・R・ポパー『科学の目的と实在論』岩波書店

高橋哲也『歴史／修正主義』岩波書店

亀山純生『うその倫理学』大月書店

黒田亘『行為と規範』勁草書房

I.バーリン『自由論』みすず書房

吉崎祥司『リベラリズム』青木書店

井上達夫『共生の作法』創文社

ロールズ『公正としての正義』木鐸社

ハンナ・アーレント『人間の条件』ちくま文庫

J・ハーバーマス『公共性の構造転換』未来社

#### 参考書 / Reference Books

#### 参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

#### その他 / Others

## 障害者とコミュニケーション S S 障害者福祉論II S S 障害者とコミュニケーション SG

15108

担当者名 / Instructor 坂井田 美代子

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Description

私たちは日々コミュニケーションを重ねることで、人間関係を築き、広げ、豊かに創りだしている。また、コミュニケーションを通して、人として成長してゆく。コミュニケーションの入り口である、情報の伝達、情報の共有から阻害されてしまう聴覚障害者にとってコミュニケーションの課題はすべての生活の根元的な課題として表出している。故に聴覚障害者にとってコミュニケーション保障は基本的人権の保障といえる。また、聴覚障害に対する理解の不十分さやコミュニケーション手段等の相違からコミュニケーションの壁を作られやすく、人と人との係わり合いや社会参加に大きな制約を受けてしまう。情報保障の課題は聴覚障害者の社会生活全般に関わる、このことの解決なしには聴覚障害者の暮らしは発展しない。よって本講義では、聴覚障害・手話・聴覚障害者のコミュニケーション環境の実態・課題等を中心に講義を展開する。

## 到達目標 / Focus and Goal

- ・コミュニケーションの役割、聴覚障害者のコミュニケーションの現状、手段について理解する。
- ・耳の役割、聴覚障害、言葉の発達について理解する。
- ・聴覚障害者を取り巻く社会環境について、その歴史、現状や課題について理解する。
- ・バリアフリー調査を行い、実態や課題を理解する。
- ・当事者の経験を聞き、具体的に聴覚障害者が抱える課題や望みを理解する。
- ・聴覚障害関連福祉制度の概要を理解する。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

## 授業スケジュール / Schedule

| 授業日 (第N回) | テーマ / Theme                                           | キーワード / Key Word                                             |
|-----------|-------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------|
| 第1～2回目    | 聴覚障害者とコミュニケーション                                       | コミュニケーションの役割、聴覚障害とコミュニケーション、ことばの発達と聴覚障害                      |
| 第3回～4回目   | コミュニケーションの手段の決定要因                                     | 障害部位、聴力レベル、失調年齢、社会背景と生活環境                                    |
| 第5回目      | ゲスト講師 (当事者の体験から学ぶ)                                    | 障害の受容、コミュニケーション、情報保障、社会環境                                    |
| 第6回目      | 手話の成立と発展・創造                                           | 話しことば、社会環境の広がりと言語の発展、音声言語と視覚言語、聴覚障害者の暮らしと手話                  |
| 第7回目      | 聴覚障害者とコミュニケーション手段                                     | コミュニケーション成立の条件、聴覚障害者のコミュニケーション手段、特徴、実態                       |
| 第8回目      | 情報から阻害された聴覚障害者の実態「原爆は聞こえなかった」のビデオから学ぶ                 | 家族・近隣・友人など私的なコミュニケーション、行政等の公的な情報、コミュニケーションから閉ざされた実態、人生に及ぼす影響 |
| 第9回～10回目  | ろう運動の歴史と福祉制度                                          | お願い運動、権利運動、コミュニケーション施策の充実期、国民とともに、専門化とともに、これからのろう運動          |
| 第11回目     | 「調査課題レポートの作成「生活圏における聴覚障害者のバリアフリーの実態」を調査し課題や展望について考える。 | 身近な聴覚障害者のバリアフリー                                              |
| 第12～14回目  | 聴覚障害者を取り巻く社会環境の変遷、現状、課題、展望                            | コミュニケーション保障の歴史、聴覚障害者と労働、聴覚障害者と教育・参政権                         |
| 第15回目     | 聴覚障害者のコミュニケーション環境の整備                                  | 日本における手話通訳保障の歴史、手話通訳制度、手話通訳者の役割、                             |

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

- ・テキストなど文献のリーディングの指示
- ・レポート課題

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

| 種別 / Kind | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc.                  |
|-----------|-----------------|------------------------------------------------|
| レポート      | 60 %            | レポート課題の提出をもとめる。レポートの書き方、考察などを評価の視点とする。         |
| 日常点       | 40 %            | 毎回の授業終了時に、その授業内容に関するコメント (コミュニケーションレポート) を求める。 |

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

本講義は聴覚障害者のコミュニケーション環境を中心に展開する。ビデオ教材・ゲスト講師による当事者の体験、自分の生活圏における聴覚障害者のバリアフリー調査をとおして、コミュニケーションの意味、役割等、具体的な課題として実感的に学ぶ姿勢を大切にする事を望む。

## 教科書 / Textbooks

毎回の授業で詳細レジメ、資料を配布する。

## 参考書 / Reference Books

授業内容のキーワードを更に深めるために、講義の進行に合わせ参考書を紹介する。

**参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course**

<http://www.jfd.or.jp> ろうあ運動の歴史、障害者権利条約、など当事者団体の考え方、ろう運動の状況課題などの参考  
他、キーワードに関する理解を深めるために講義時に紹介する。

**その他 / Others**

## 障害者とスポーツ S

15078

担当者名 / Instructor 水谷 裕

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Description

テーマ「すべての障害のある人にスポーツを」

障害のある人とスポーツについて、今日まで講師の実践を通し体験してきたことを中心に、講義と「障害者スポーツ」等のビデオ画像を通して、障害のある人の現状を理解し、障害のある人のスポーツ活動における、より良きパートナーとして、「障害のある人に何が出来るかではなく、どうしたら出来るか」を考えられる力を育てて欲しいと考えています。

## 到達目標 / Focus and Goal

- \* 障害のある人々の概念や問題を幅広く理解できる。
- \* 障害のある人々のスポーツに関する概念や問題を幅広く理解できる。
- \* 障害のある人々のスポーツをとらえて社会のあり方を考えられる。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enrolle in, but not required to

特になし

## 授業スケジュール / Schedule

| 授業日 (第N回) | テーマ / Theme                    | キーワード / Key Word         |
|-----------|--------------------------------|--------------------------|
| 第1回       | 小レポート「障害のある人とスポーツ」について、ビデオ     | 障害のある人とスポーツに関する知識        |
| 第2回       | 講義「わが国における障害のある人の実態と福祉の概要」、ビデオ | 人数・傾向、戦後の歴史等             |
| 第3回       | 講義「障害について」、ビデオ                 | 原因・症状等                   |
| 第4回       | 講義「障害を考える」、ビデオ                 | 意味・とらえ方等                 |
| 第5回       | 講義「障害の受傷時期による相違」、ビデオ           | 葛藤、受容、心理等                |
| 第6回       | 講義「障害のある人との関わるための留意点」、ビデオ      | 言葉づかい・態度・考え方等            |
| 第7回       | 講義「障害のある人とスポーツ」、ビデオ            | スポーツ観・残存能力・訓練との相違等       |
| 第8回       | 講義「障害のある人に何故スポーツ?」、ビデオ         | 運動は動物存在の基礎条件等            |
| 第9回       | 講義「障害者スポーツの歴史」、ビデオ             | 時代的背景等                   |
| 第10回      | 講義「障害者スポーツの組織」、ビデオ             | 施設・団体等                   |
| 第11回      | 講義「障害のある人のスポーツ権」、ビデオ           | 背景にある<みんなのスポーツ運動>等       |
| 第12回      | 講義「障害のある人がスポーツをする意義」、ビデオ       | 身体的・精神的等                 |
| 第13回      | 講義「障害のある人のスポーツを行うにあたって」、ビデオ    | 阻害要因・視点等                 |
| 第14回      | 講義「障害のある人や家族の願いと今後の課題」、ビデオ     | 人間的平等・発達保障等、指導者・環境・現状把握等 |
| 第15回      | 最終講義日試験                        |                          |

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

テレビや新聞などの障害のある人のスポーツに関する番組や記事を見て、メディアひいては、社会の理解度を認識する。

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind 割合 / Percentage 評価基準等 / Grading Criteria etc.

日常点 100 % 1問 筆答とします。

最終講義日試験を重視します。特に言葉の言回しなど、障害のある人を理解できているかを基本に、出題されたことについて論点が押さえられているかどうかを問います。

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

- \* 授業は前の席にて受講すること。
- \* 講師は言語障害があるので、注意して聞くこと。
- \* 話の中にある意図を理解すること。

## 教科書 / Textbooks

- \* 特に決まったテキストは使用しません。
- \* 随時、コピー等を配布します。

**参考書 / Reference Books**

| 書名 / Title         | 出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment |
|--------------------|----------------------------------------------------------|
| 「障害者スポーツ」          | 日本リハビリテーション医学会スポーツ委員会編集／医学書院発行／／                         |
| 「障害者とスポーツ」         | 芝田徳造著／文理閣発行／／                                            |
| 「身体障害者のスポーツ指導の手引き」 | (財)日本障害者スポーツ協会編集／株式会社ぎょうせい発行／／                           |

**参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course**

- \* 日本障害者スポーツ協会WWWページ      \* 京都障害者スポーツ振興会WWWページ
- \* 京都市障害者スポーツセンターWWWページ      \* その他、障害者スポーツ関係WWWページ多数あり

**その他 / Others**

- \* 障害のある人のスポーツに興味を持ち、スポーツ活動を通して障害のある人の社会参加活動の理解ある良きパートナーを目指す学生なら誰でも歓迎します。
- \* 脳性マヒ等による四肢機能障害で、車いすを常用し、京都市障害者スポーツセンター勤務しています。
- \* 授業後、気軽に話しかけて来てほしいと思っています。

## 障害者福祉論 S S 障害者福祉論I S S 障害者福祉論 SG

11448

担当者名 / Instructor 峰島 厚

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Description

障害者福祉は今大きくかわろうとしている。とくに日本においては「同一年齢の他の国民と同等な生活を障害者に権利として保障する」ノーマライゼーションに逆行する動きが顕著となっている。この授業では、こうした転換内容を、歴史的にかつ現代的課題としてとりあげる。

## 到達目標 / Focus and Goal

措置制度から支援費制度に、さらに障害者自立支援法に、その後においては障害者福祉の介護保険との統合もすすめられようとしている。その制度展開の基本的方向を理解する。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

授業ではコミュニケーションペーパーによる質疑応答を重視する。聞くだけではなく、ともに考え意見交換できるようにしてほしい。

## 授業スケジュール / Schedule

| 授業日 (第N回)        | テーマ / Theme    | キーワード / Key Word    |
|------------------|----------------|---------------------|
| 1) 導入講義 (1)      | すすめかた          | 障害観の課題              |
| 2) 導入講義 (2)      | 障害観、発達観の変革     | 権利保障運動に学ぶ           |
| 3) 障害概念の検討 (1)   | 国際的動向          | 社会モデル、三層構造          |
| 4) 障害概念の検討 (2)   | 日本の制度対象である障害   | 手帳制度、支援費            |
| 5) 障害概念の検討 (3)   | 自立支援法の障害       | 利用手続き、障害認定          |
| 6) 障害者福祉の歴史 (1)  | 市民制社会以前の障害者問題  | 自給自足社会、奴隷制、身分制と障害者  |
| 7) 障害者福祉の歴史 (2)  | 産業革命時代の障害者問題   | 劣等処遇、分類処遇、隔離収容      |
| 8) 障害観の中間レポート    | 障害観に関するレポート    | 当事者、現場に聞く・触れる・見る    |
| 9) 障害者福祉の歴史 (3)  | 現代社会の障害者問題 (1) | 能力主義と障害             |
| 10) 障害者福祉の歴史 (4) | 現代社会の障害者問題 (2) | ノーマライゼーション、インクルージョン |
| 11) 障害者自立支援法 (1) | 政策的背景          | 福祉国家からの転換           |
| 12) 障害者自立支援法 (2) | 支援費制度からの転換     | 財源問題と介護保険統合問題       |
| 13) 障害者自立支援法 (3) | 制度の内容          | 施設・事業体系             |
| 14) 障害者自立支援法 (4) | 今後の課題          | 規制緩和                |

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

中間レポートは作成のための課題を提起し、1回分とする。

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

| 種別 / Kind                 | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc. |
|---------------------------|-----------------|-------------------------------|
| 定期試験                      | 80 %            | 基礎知識、論述                       |
| レポート                      | 20 %            | 障害観など                         |
| レポートは中間に実施 (何回目になるかは変更あり) |                 |                               |

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

対話を重視したいので、それによって進行具合は変わる。

## 教科書 / Textbooks

| 書名 / Title     | 出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment |
|----------------|----------------------------------------------------------|
| 障害者自立支援法の基本と運用 | 峰島・白沢・多田／全国障害者問題研究会出版部／06年5月発行予定、後半に使用                   |

障害者福祉制度改革なにが問題か

峰島・白沢・多田／全国障害者問題研究会出版部／／

授業の必要な個所で使用。

**参考書 / Reference Books****書名 / Title****出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment**

転換期の障害者福祉

峰島厚／全国障害者問題研究会出版部／／

支援費制度活用のすべて

峰島・白沢・多田／全国障害者問題研究会出版部／／

**参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course****その他 / Others**



## 消費者環境論 S S 現代消費論 S

15022

担当者名 / Instructor 竹濱 朝美

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Description

テーマ: 気候変動・環境保全と消費者

この講義では、気候変動・環境保全と消費生活とのかかわりについて、考察する。次の諸点を取り上げる。気候変動 (climate change、温暖化) が消費者の生活に及ぼす影響、温室効果ガス削減に対して消費者が果たすべき責任について考える。現代の大量消費スタイルから発生する環境負荷、食生活から発生する温暖化負荷の実態を学ぶ。危険な気候変動を緩和するためのemission pathway、温室効果ガスの削減量と削減期限、削減ペース、消費者部門における温室効果ガス削減対策を学ぶ。気候変動に関する消費者向け情報コミュニケーションについて考察する。

## 到達目標 / Focus and Goal

- ・「温室効果ガス削減は、なぜ、緊急かつ大量に必要なのか」、「気候変動の影響・被害に対する対策は、なぜ、緊急に必要なのか」、「climate changeは、なぜ、消費者政策として、重要な課題なのか」を理解することが、第一の目標である。
- ・学生一人一人が、気候変動は自らの生活に直接かつ深刻な影響を及ぼす問題として、自分のライフスタイルを振り返る契機にする。
- ・climate science、気候変動政策に関する英文の資料、英文の科学ニュースを読むことを通じて、EUで報じられる気候変動ニュースと日本のマスコミ報道の違いに気づく。
- ・climate change の現状、温室効果ガスの長期的影響、climate inertia に関する基礎的知識を得る。climate changeの影響、被害最小化の対応策について、基礎知識を獲得する。
- ・消費者部門から発生する環境負荷について、基礎的知識を獲得する。
- ・家庭部門における温室効果ガスの削減対策について、理解を深める。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enrolle in, but not required to

環境問題、特に、エネルギー政策および気候変動 (温暖化) に関連する科目を履修しておくことが望ましい。

## 授業スケジュール / Schedule

| 授業日 (第N回) | テーマ / Theme                               | キーワード / Key Word                                                                                          |
|-----------|-------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 第1回       | はじめに。なぜ、気候変動が消費者政策にとって重要か。                | 海外の気候変動ニュース                                                                                               |
| 第2回       | 温室効果ガスの長期的影響                              | 温室効果ガスの大気中寿命、温室効果ガス濃度の上昇と気温上昇のタイムラグ。                                                                      |
| 第3回       | 温度2℃上昇を回避するためには、温室効果ガスは、何ppm以下でなければならないか？ | 温室効果ガス安定化、EU目標。2度突破のリスク (a risk of overshooting 2 °C)                                                     |
| 第4回       | 温室効果ガス安定化シナリオ                             | 排出削減パス (emission pathways)。2度上昇を回避するのに必要な削減量と期限。京都議定書の意味。削減開始が遅れた場合の影響。現在の二酸化炭素濃度の意味。                     |
| 第5回       | 気温上昇の予測と被害予測                              | 先行研究による被害予測。日本地域における気候変動の影響。熱波、台風、集中豪雨の予測、高潮。健康・感染症。                                                      |
| 第6回       | 気候変動に関する科学ニュース、まとめ                        | 最近の異常気象ニュースより (海洋の熱エネルギー、グリーンランド氷河と海洋大潮流、世界の山岳氷河の融解とアジアのモンスーン、水資源など)                                      |
| 第7回       | 温暖化と熱波対策                                  | イギリスの熱波警報システム (Heat-Health-Watch)、熱波マニュアルの意味、どのような人がハイリスクか？日本各地の温度上昇                                      |
| 第8回       | まとめ                                       | 重要な用語の確認、これまでの復習                                                                                          |
| 第9回       | 消費生活から発生する温暖化負荷                           | 消費者部門における温室効果ガス排出の実態。自動車、家電製品、住宅暖房・照明、家電リサイクル法。                                                           |
| 第10回      | 食品のフード・マイルズと温暖化負荷                         | 食品の生産、流通、消費、廃棄、リサイクルにかかる環境負荷、温暖化負荷。輸入農産物のフード・マイルズ (Food Miles)。飲料水の温暖化負荷。食品リサイクル法                         |
| 第11回      | 農産物生産と気候変動                                | 気候変動によるコム、小麦生産の減少予測。食料自給率の低下の意味。温暖化による海洋の酸性化、水産資源への影響。食糧供給の不安定性と食品安全。                                     |
| 第12回      | 家庭部門における温室効果ガスの排出削減対策                     | 家電製品、暖房、住宅断熱性能、家庭用太陽光発電等に関する排出削減対策、日英比較。エコプロダクツと環境ラベル。家電製品の省エネ改善。                                         |
| 第13回      | 地球の歴史と大量生産・大量消費の歴史                        | 大量生産・マス・マーケティング・大量消費の歴史。地球歴史 (earth history) における大気形成。現在の大気が構成されるまで (二酸化炭素の形成、光合成と酸素の形成、酸素濃度の上昇、オゾン層の形成)。 |

## 第14回 質問とまとめ

排出削減パスが意味するもの。京都議定書の削減量、問題点と意義。EUの温室効果ガス削減目標。日本の削減状況。最近の気候変動ニュースが意味するもの。

## 第15回 最終講義日試験 (授業内レポート)

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

講義では、主に、気候変動に関する最近の英文ニュース、資料を積極的に使用する。授業中に配布する英文資料について、毎回、復習すること。十分な復習がなければ、授業内容を理解することは困難であろう。

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

| 種別 / Kind | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc.                                          |
|-----------|-----------------|------------------------------------------------------------------------|
| 日常点       | 100 %           | 授業中に、数回の小テストを行う。加えて、最終講義日に、最終講義日試験 (講義内レポート) を行う。評価は、小テストと最終講義日試験との合計。 |

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

授業中に使用する資料の大半は、英文資料を予定している。単位修得のためには、授業中に配布する英文資料を「毎回十分に復習する」ことが不可欠である。単に、講義を聞くだけでなく、自分自身で英文を読まない限り、理解は進まないことを承知してもらいたい。

これについては、各種の意見があると思われるが、次のような理由によっている。気候変動 (climate change、または温暖化) は既に、かなり進行しており、今後も、今世紀中、進行する。気候変動の現状がいかに深刻化しているかについて、消費者が正確に理解すること無しには、なぜ、緊急かつ大量に、温室効果ガス削減が必要か理解することができないであろう。温室効果ガスの削減を実行するためには、消費者が気候変動の現状について正確な知識を持つことが必要であり、climate science (気候変動科学) の基礎知識は不可欠である。このため、講義では、climate scienceに関するサイエンス情報、およびEUの政策文書、政策ニュースを積極的に取り上げる。これらの新しい情報は、おもに英語で発表されるため、英文資料を読むことは、単位修得上、不可欠である。

## 教科書 / Textbooks

英文のサイエンス・ニュース、政策文書については、授業中に配布する。

- ①和田武「持続可能な社会に向かって：移行の道筋を描く」、日本科学者会議公害問題研究会、環境展望編集会編、「環境展望」、Vol. 4、実教出版、2004、第1章。
- ②竹濱朝美、「地球温暖化の影響と家庭部門における二酸化炭素削減策」、呉世煌・西村多嘉子編、『消費経済学体系・3・消費者問題』、第9章、慶応義塾大学出版会、2005年。ISBN 4-7664-1211-7
- ③竹濱朝美、「気候変動をめぐる消費者向け環境情報——温暖化影響および家庭部門における二酸化炭素削減策——」『立命館産業社会論集』第41巻第2号、2005年12月。
- ④歌川学「これからどうなる？ 地球温暖化と京都議定書」、日本科学者会議公害問題研究会、環境展望編集会編、「環境展望」、Vol. 4、実教出版、2004、第9章。

## 参考書 / Reference Books

- ①日本科学者会議公害問題研究会、環境展望編集会編、「環境展望」、Vol. 2、実教出版、2002。
- ②日本科学者会議公害問題研究会、環境展望編集会編、「環境展望」、Vol. 3、実教出版、2003。
- ③IPCC, Climate Change 200: Synthesis Report, Summary for Policymakers.
- ④Mark Maslin, Global Warming: A very Short Introduction, Oxford, 2004. ISBN 0-19-284097-5
- ⑤Mohan Munasinghe and Rob Swart, 'Primer on Climate Change and Sustainable Development: Facts, Policy Analysis and Applications,' Cambridge University Press, 2005.
- ⑥DEFRA, 'Securing the Future: Delivering UK Sustainable Development Strategy,' 2003.
- ⑦Mark Lynas, High Tide, Harper Perennial, 2004.
- ⑧National Geographic: Global Warning: Bulletin from a Warmer World, September, 2004. (ナショナル・ジオグラフィック誌の特別号。近年の気候変動に関するカラー写真が多数掲載されているので、写真を見たい人に便利)。

## 参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

環境省、温暖化ホームページ (<http://www.env.go.jp/earth/index.html#ondanka>)  
The Intergovernmental Panel on Climate Change (IPCC) (<http://www.ipcc.ch>)

## その他 / Others

## 情報経済論 S

13043

担当者名 / Instructor 長澤 克重

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Description

情報ネットワークインフラの普及によって、社会的コミュニケーションのあり方、経済活動、社会活動に大きな変革が生じている。経済活動においては電子商取引が広がり、ビジネスの方法、企業組織、流通構造、産業構造も変わりつつある。また、電子商取引が引き起こすさまざまな問題に対する諸制度の整備、消費者の側でのリテラシー涵養も求められている。この講義では電子商取引を中心とするネットワーク経済の実態、電子商取引を支える技術的基盤の仕組み、社会制度面で必要となる環境整備の課題等について考察する。

## 到達目標 / Focus and Goal

- ・電子商取引の仕組み、構成、現状について理解できる
- ・電子商取引を支える技術的基盤の基本的しくみについて理解できる
- ・電子商取引がもたらす社会的影響について理解できる
- ・電子商取引に関わる法的問題、消費者保護の課題について理解できる

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

## 授業スケジュール / Schedule

| 授業日 (第N回) | テーマ / Theme                         | キーワード / Key Word                     |
|-----------|-------------------------------------|--------------------------------------|
| 第1回       | イントロダクション 情報ネットワーク化と経済活動            | 情報経済、情報化社会、IT革命、ユビキタスネットワーク社会        |
| 第2回       | 電子商取引 (EC、Electronic Commerce) とは何か | 電子商取引、定義、取引主体、市場規模                   |
| 第3回       | 企業・消費者間 (BtoC) のEC(1)               | ユーザー像、市場の実態、ビジネス・モデル、ビジネス・モデル特許      |
| 第4回       | 企業・消費者間 (BtoC) のEC(2)               | 中抜き、インフォメディアリ、メリット・デメリット             |
| 第5回       | 企業間 (BtoB) のEC                      | VAN、EDI、サプライチェーンマネジメント、e-マーケットプレイス   |
| 第6回       | デジタル・エコノミーと経済法則の変化                  | 経済性、取引費用、情報財、収穫逦増                    |
| 第7回       | ECの技術的基盤(1) 情報処理システムと通信ネットワーク       | コンピュータの処理形態、分散処理、広域系ネットワーク、構内系ネットワーク |
| 第8回       | ECの技術的基盤(2) インターネット                 | パケット通信、プロトコル、TCP/IP、インターネット利用の実態     |
| 第9回       | ECの技術的基盤(3) セキュリティ、暗号化と認証           | 暗号技術、デジタル署名、電子認証、電子公証、PKI            |
| 第10回      | 電子決済システム                            | ICカード型、ネットワーク型、プリペイド型                |
| 第11回      | ユビキタスネットワーク (1)                     | ユビキタス、u-Japan政策、RFID                 |
| 第12回      | ユビキタスネットワーク (2)                     | トレーサビリティ、トラッキング、プライバシー保護             |
| 第13回      | ECに関わる犯罪・トラブルと法的規制                  | 特定商取引法、電子契約法、オンラインマーク制度、プライバシーマーク    |
| 第14回      | 情報ネットワーク社会における個人情報保護                | 個人情報漏洩、個人情報、プライバシー、OECD8原則、個人情報保護法   |
| 第15回      | 試験                                  |                                      |

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

- ・理解を深めるために、参考文献 (あるいは同分野の書籍) を講義の前後に読んでおくこと。
- ・講義の中で取り上げられた事例をインターネット上で確認してみること。

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

| 種別 / Kind | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc.                      |
|-----------|-----------------|----------------------------------------------------|
| 定期試験      | 80 %            | 講義で取り上げた基本的な用語、概念、基本問題が正確に理解されているかを評価する。           |
| 日常点       | 20 %            | 講義で紹介した事例を実際に自分で調査・確認してもらう。第4回、第12回の講義のあとで課題を提示する。 |

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

- ・新聞やWebサイトから講義に関わる内容はかなり勉強することができるので、意識的に目を通すように。
- ・ネットショッピングの際に、サイトの取引規約・プライバシーポリシーなど、普段あまり目を通さない所を隅々までしっかりと読んでみよう。これだけでも勉強になる。

## 教科書 / Textbooks

特定の教科書は使用せず、授業中に配布するプリントを使用する。

**参考書 / Reference Books**

| 書名 / Title      | 出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment               |
|-----------------|------------------------------------------------------------------------|
| エレクトロニック・コマース入門 | 井上英也 / 日本経済新聞社 / 4532107571 / 電子商取引の全体像をざっと理解するのに便利である                 |
| IT経済入門          | 篠崎彰彦 / 日本経済新聞社 / 4532109426 / 第6回目の講義内容の理解が深まる                         |
| インターネット入門       | 尾家・後藤・小西・西尾 / 岩波書店 / 4000110519 / 第8回目の講義内容の理解が深まる                     |
| IT革命を読み解く       | 岩村充 / 技術評論社 / 4774113204 / 第1回～第5回の講義内容の理解が深まる                         |
| デジタルID革命        | 國領二郎、日経デジタルコアトレーサビリティ研究会 / 日本経済新聞社 / 4532311179 / 第11回・12回の講義内容の理解が深まる |
| 失敗しないネットショッピング  | 紀藤正樹 / 岩波書店 / 4007000050 / 第13回の講義内容の入門的理解に役立つ                         |
| インターネットと法 第3版   | 高橋和之, 松井茂記 / 有斐閣 / 4641129460 / 第13、14回の講義内容の理解が深まる                    |

**参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course**

次世代電子商取引推進協議会 <http://www.ecom.or.jp/>  
 日本通信販売協会 <http://www.jadma.org/>  
 総務省 <http://www.soumu.go.jp/>

**その他 / Others**

## 情報処理 SA

12973

担当者名 / Instructor 上出 浩

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Description

「ユビキタス社会」へと変遷していく中で、ネットワークを単なる情報源として受動的に捉えるのではなく、情報の発信やそのやりとりを含めたコミュニケーション・ツールとして活用していくことが求められている。本講義では、ここで求められる情報処理の実践として、情報倫理等も学習しながら、情報発信及びコミュニケーションの場としてのWebページを作成し、公表する。本講座では、AdobeのGoLiveを基本として用いる。他にも、Webページ作成講座があるが、この講義がソフトを用いた、最も初歩的なものである。従って、応用部分には入れないので注意すること。

## 到達目標 / Focus and Goal

情報倫理の習得。  
Webページの構造の理解。  
GoLive (ソフト) を用いたWebページ作成方法。  
プレゼンテーションとコミュニケーション能力の向上。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

情報リテラシー科目で基本を履修しておくこと更に理解しやすい。

## 授業スケジュール / Schedule

| 授業日 (第N回) | テーマ / Theme                           | キーワード / Key Word                  |
|-----------|---------------------------------------|-----------------------------------|
| 1         | オリエンテーション、Windowsおさらい、情報処理            | Windowsとその基礎知識、情報処理とは             |
| 2         | 情報倫理とネットワークの基礎知識                      | 「インターネット」、「ホーム・ページ」、NET、ネチケット、著作権 |
| 3         | 情報収集と整理、計画書提出                         | ネットサーフィン、著作権、プランニング               |
| 4         | 計画書修正と情報収集                            | ユーザビリティとデザイン                      |
| 5         | HTMLの基本とWeb Page作成方法、画像処理、GoLiveの基本操作 | ページとソース、HTMLとGoLive、文字と画像         |
| 6         | GoLiveによるWeb Page作成。                  |                                   |
| 7         | GoLiveによるWeb Page作成。                  |                                   |
| 8         | 中間チェックと修正                             |                                   |
| 9         | GoLiveによるWeb Page作成。                  |                                   |
| 10        | GoLiveによるWeb Page作成。                  |                                   |
| 11        | アップ・ロードと公開、修正                         | 公開、修正方法                           |
| 12        | プレゼンテーション                             | ページの紹介プレゼンテーションと評価                |
| 13        | プレゼンテーション                             | 同上                                |
| 14        | プレゼンテーションとまとめ、運営方法                    | コミュニケーション、運営、更新                   |

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment  
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

| 種別 / Kind | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc. |
|-----------|-----------------|-------------------------------|
| レポート      | 80 %            | 講義中作成するWebページ、プレゼンテーション、評価    |
| 日常点       | 20 %            | 計画書、中間チェック、出席状況               |

期限までのWebページ作成、公開、プレゼンテーション、評価まで全てが揃わなければ、単位取得はない。

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

Webページ作成に標準よりも時間がかかる場合、講義外にて作業を行う必要がある。  
USBフラッシュ・メモリ (128MB程度以上) あるいはこれに類するものが必要。

## 教科書 / Textbooks

必要に応じプリントなどを配布する予定である。

## 参考書 / Reference Books

講義中適宜紹介する。

## 参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

講義中適宜紹介する。

## その他 / Others

## 情報処理 SB

12980

担当者名 / Instructor 上出 浩

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Description

「ユビキタス社会」へと変遷していく中で、ネットワークを単なる情報源として受動的に捉えるのではなく、情報の発信やそのやりとりを含めたコミュニケーション・ツールとして活用していくことが求められている。本講義では、ここで求められる情報処理の実践として、情報倫理等も学習しながら、情報発信及びコミュニケーションの場としてのWebページを作成し、公表する。本講座では、AdobeのGoLiveを基本として用いる。他にも、Webページ作成講座があるが、この講義がソフトを用いた、最も初歩的なものである。従って、応用部分には入れないので注意すること。

## 到達目標 / Focus and Goal

情報倫理の習得。  
Webページの構造の理解。  
GoLive (ソフト) を用いたWebページ作成方法。  
プレゼンテーションとコミュニケーション能力の向上。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

情報リテラシー科目で基本を履修しておくこと更に理解しやすい。

## 授業スケジュール / Schedule

| 授業日 (第N回) | テーマ / Theme                           | キーワード / Key Word                  |
|-----------|---------------------------------------|-----------------------------------|
| 1         | オリエンテーション、Windowsおさらい、情報処理            | Windowsとその基礎知識、情報処理とは             |
| 2         | 情報倫理とネットワークの基礎知識                      | 「インターネット」、「ホーム・ページ」、NET、ネチケット、著作権 |
| 3         | 情報収集と整理、計画書提出                         | ネットサーフィン、著作権、プランニング               |
| 4         | 計画書修正と情報収集                            | ユーザビリティとデザイン                      |
| 5         | HTMLの基本とWeb Page作成方法、画像処理、GoLiveの基本操作 | ページとソース、HTMLとGoLive、文字と画像         |
| 6         | GoLiveによるWeb Page作成                   |                                   |
| 7         | GoLiveによるWeb Page作成                   |                                   |
| 8         | 中間チェックと修正                             | 進捗、デザイン                           |
| 9         | GoLiveによるWeb Page作成                   |                                   |
| 10        | GoLiveによるWeb Page作成                   |                                   |
| 11        | アップ・ロードと公開、修正                         | 公開、修正方法                           |
| 12        | プレゼンテーション                             | ページの紹介プレゼンテーションと評価                |
| 13        | プレゼンテーション                             | 同上                                |
| 14        | プレゼンテーションとまとめ、運営方法                    | コミュニケーション、運営、更新                   |

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

| 種別 / Kind | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc. |
|-----------|-----------------|-------------------------------|
| レポート      | 80 %            | 講義中作成するWebページ、プレゼンテーション、評価    |
| 日常点       | 20 %            | 計画書、中間チェック、出席状況               |

期限までのWebページ作成、公開、プレゼンテーション、評価まで全てが揃わなければ、単位取得はない。

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

Webページ作成に標準よりも時間がかかる場合、講義外にて作業を行う必要がある。  
USBフラッシュ・メモリ (128MB程度以上) あるいはこれに類するものが必要。

## 教科書 / Textbooks

必要に応じプリントなどを配布する予定である。

## 参考書 / Reference Books

講義中適宜紹介する。

## 参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

講義中適宜紹介する。

## その他 / Others

## 情報処理 SC

15082

担当者名 / Instructor 上出 浩

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Description

「ユビキタス社会」へと変遷していく中で、ネットワークを単なる情報源として受動的に捉えるのではなく、情報の発信やそのやりとりを含めたコミュニケーション・ツールとして活用していくことが求められている。本講義では、ここで求められる情報処理の実践として、情報倫理等も学習しながら、情報発信及びコミュニケーションの場としてのWebページを作成し、公表する。本講座では、AdobeのGoLiveを基本として用いる。他にも、Webページ作成講座があるが、この講義がソフトを用いた、最も初歩的なものである。従って、応用部分には入れないので注意すること。

## 到達目標 / Focus and Goal

情報倫理の習得。  
Webページの構造の理解。  
GoLive (ソフト) を用いたWebページ作成方法。  
プレゼンテーションとコミュニケーション能力の向上。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

情報リテラシー科目で基本を履修しておくこと更に理解しやすい。

## 授業スケジュール / Schedule

| 授業日 (第N回) | テーマ / Theme                           | キーワード / Key Word                  |
|-----------|---------------------------------------|-----------------------------------|
| 1         | オリエンテーション、Windowsおさらい、情報処理            | Windowsとその基礎知識、情報処理とは             |
| 2         | 情報倫理とネットワークの基礎知識                      | 「インターネット」、「ホーム・ページ」、NET、ネチケット、著作権 |
| 3         | 情報収集と整理、計画書提出                         | ネットサーフィン、著作権、プランニング               |
| 4         | 計画書修正と情報収集                            | ユーザビリティとデザイン                      |
| 5         | HTMLの基本とWeb Page作成方法、画像処理、GoLiveの基本操作 | ページとソース、HTMLとGoLive、文字と画像         |
| 6         | GoLiveによるWeb Page作成                   |                                   |
| 7         | GoLiveによるWeb Page作成                   |                                   |
| 8         | 中間チェックと修正                             | 進捗、デザイン                           |
| 9         | GoLiveによるWeb Page作成                   |                                   |
| 10        | GoLiveによるWeb Page作成                   |                                   |
| 11        | アップ・ロードと公開、修正                         | 公開、修正方法                           |
| 12        | プレゼンテーション                             | ページの紹介プレゼンテーションと評価                |
| 13        | プレゼンテーション                             | 同上                                |
| 14        | プレゼンテーションとまとめ、運営方法                    | コミュニケーション、運営、更新                   |

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

| 種別 / Kind | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc. |
|-----------|-----------------|-------------------------------|
| レポート      | 80 %            | 講義中作成するWebページ、プレゼンテーション、評価    |
| 日常点       | 20 %            | 計画書、中間チェック、出席状況               |

期限までのWebページ作成、公開、プレゼンテーション、評価まで全てが揃わなければ、単位取得はない。

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

Webページ作成に標準よりも時間がかかる場合、講義外にて作業を行う必要がある。  
USBフラッシュ・メモリ (128MB程度以上) あるいはこれに類するものが必要。

## 教科書 / Textbooks

必要に応じプリントなどを配布する予定である。

## 参考書 / Reference Books

講義中適宜紹介する。

## 参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

講義中適宜紹介する。

## その他 / Others

## 情報処理 SD

15087

担当者名 / Instructor 上出 浩

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Description

「ユビキタス社会」へと変遷していく中で、ネットワークを単なる情報源として受動的に捉えるのではなく、情報の発信やそのやりとりを含めたコミュニケーション・ツールとして活用していくことが求められている。本講義では、ここで求められる情報処理の実践として、情報倫理等も学習しながら、情報発信及びコミュニケーションの場としてのWebページを作成し、公表する。本講座では、AdobeのGoLiveを基本として用いる。他にも、Webページ作成講座があるが、この講義がソフトを用いた、最も初歩的なものである。従って、応用部分には入れないので注意すること。

## 到達目標 / Focus and Goal

情報倫理の習得。  
Webページの構造の理解。  
GoLive (ソフト) を用いたWebページ作成方法。  
プレゼンテーションとコミュニケーション能力の向上。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

情報リテラシー科目で基本を履修しておくこと更に理解しやすい。

## 授業スケジュール / Schedule

| 授業日 (第N回) | テーマ / Theme                           | キーワード / Key Word                  |
|-----------|---------------------------------------|-----------------------------------|
| 1         | オリエンテーション、Windowsおさらい、情報処理            | Windowsとその基礎知識、情報処理とは             |
| 2         | 情報倫理とネットワークの基礎知識                      | 「インターネット」、「ホーム・ページ」、NET、ネチケット、著作権 |
| 3         | 情報収集と整理、計画書提出                         | ネットサーフィン、著作権、プランニング               |
| 4         | 計画書修正と情報収集                            | ユーザビリティとデザイン                      |
| 5         | HTMLの基本とWeb Page作成方法、画像処理、GoLiveの基本操作 | ページとソース、HTMLとGoLive、文字と画像         |
| 6         | GoLiveによるWeb Page作成                   |                                   |
| 7         | GoLiveによるWeb Page作成                   |                                   |
| 8         | 中間チェックと修正                             | 進捗、デザイン                           |
| 9         | GoLiveによるWeb Page作成                   |                                   |
| 10        | GoLiveによるWeb Page作成                   |                                   |
| 11        | アップ・ロードと公開、修正                         | 公開、修正方法                           |
| 12        | プレゼンテーション                             | ページの紹介プレゼンテーションと評価                |
| 13        | プレゼンテーション                             | 同上                                |
| 14        | プレゼンテーションとまとめ、運営方法                    | コミュニケーション、運営、更新                   |

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

| 種別 / Kind | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc. |
|-----------|-----------------|-------------------------------|
| レポート      | 80 %            | 講義中作成するWebページ、プレゼンテーション、評価    |
| 日常点       | 20 %            | 計画書、中間チェック、出席状況               |

期限までのWebページ作成、公開、プレゼンテーション、評価まで全てが揃わなければ、単位取得はない。

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

"Webページ作成に標準よりも時間がかかる場合、講義外にて作業を行う必要がある。  
USBフラッシュ・メモリ (128MB程度以上) あるいはこれに類するものが必要。"

## 教科書 / Textbooks

必要に応じプリントなどを配布する予定である。

## 参考書 / Reference Books

講義中適宜紹介する。

## 参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

講義中適宜紹介する。

## その他 / Others



## 情報処理 SE

12974

担当者名 / Instructor 寺尾 洋子

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Description

この講義ではC言語によるプログラミングの基礎を実習を通して学ぶ。C言語はオペレーティングシステムUNIX、さまざまなソフトウェアを記述している言語である。また、通産省が行っている情報処理技術者試験で採用されているプログラム言語でもある。C言語を学ぶことにより、コンピュータのしくみや活用法をより深く理解することを目指す。

## 到達目標 / Focus and Goal

- ・基本的なC言語の文法を理解できる
- ・簡単なプログラムを作成できる
- ・指示に従って基本的なアルゴリズムを使ってプログラム作成できる

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enrolle in, but not required to

IDとパスワードはあらかじめ各自で確認しておくこと。  
自分用のフロッピーディスクまたはUSBメモリを持参すること。  
なお、最低限必要なスキルとして、以下の3点を求める。

1. タッチタイピングができること
2. ファイル管理ができること (ファイルのコピー、削除、移動、ファイル名の変更)
3. 複数のウィンドウを切り替えて操作できること。

## 授業スケジュール / Schedule

| 授業日 (第N回) | テーマ / Theme           | キーワード / Key Word     |
|-----------|-----------------------|----------------------|
| 1         | コンピュータスキルなどの基本知識を確認する |                      |
| 2         | コンピュータのしくみとプログラム言語    |                      |
| 3         | ソースファイル作成とコンパイル       |                      |
| 4         | C言語の基本ルール             |                      |
| 5         | 計算して表示する              |                      |
| 6         | 変数を利用する               |                      |
| 7         | 中間テスト                 |                      |
| 8         | プログラムの流れを変える 条件分岐     |                      |
| 9         | プログラムの流れを変える 反復       |                      |
| 10        | 配列を利用する               |                      |
| 11        | 最終課題に取り組む             | 6問から2問を選び、プログラムを作成する |
| 12        | 前回の継続                 |                      |
| 13        | 前回の継続                 |                      |
| 14        | プログラム発表会              |                      |

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

| 種別 / Kind | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc.    |
|-----------|-----------------|----------------------------------|
| 日常点       | 90 %            |                                  |
| その他       | 10 %            | 授業中の質疑応答に積極的に参加したか等の講義参加傾向を加味する。 |

日常点90%の内訳は、毎時の課題提出60%、中間テスト15%、最終課題15%である。課題提出による評価に重きを置くので、毎週の予習復習など、自主的な学習姿勢を持つことが必要である。

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

## 教科書 / Textbooks

| 書名 / Title | 出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment |
|------------|----------------------------------------------------------|
| Cの絵本       | アंक／翔泳社／4798101036／                                      |

## 参考書 / Reference Books

| 書名 / Title             | 出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment |
|------------------------|----------------------------------------------------------|
| パソコンプログラミング入門以前        | 伊藤華子／毎日コミュニケーションズ／4839907234／                            |
| C言語プログラミングレッスン入門編改訂第2版 | 結城浩／ソフトバンク／4797307579／                                   |
| プログラミング言語C             | B.W.カーニハン／D.M.リッチー／共立出版／4320026926／                      |

必要に応じて講義中に随時紹介もする。

参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

講義用のWebサイト

<http://www.ritsumeai.ac.jp/~ytt06067/>

その他 / Others

## 情報処理 SF

15096

担当者名 / Instructor 上出 浩

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Description

パソコン上で使用するソフトは、全てプログラムである。このプログラム作成の最基礎を学ぶのが本講座の目的である。

アプリケーション・ソフトを受動的に、与えられた通りに使用するのではなく、新たに機能を加えたり、あるいは新たなツールを作り出し、またそれを楽しむために、プログラミングの基本とその考え方を学んでいく。同時に、そこでは何が大切で、私たちの生活とどのように関わっているかを考えていく。

本講義では、プログラミング初心者でも、感覚的に分かりやすく、またパワフルな、Visual Basic .NETを用いる。

## 到達目標 / Focus and Goal

OSとアプリケーションの関係。

プログラミングとは。

プログラミングにおける考え方の基礎。

Microsoft Visual Basic .NET の基本。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

情報リテラシー科目で基本を履修しておくこと更に理解しやすい。

## 授業スケジュール / Schedule

| 授業日 (第N回) | テーマ / Theme                | キーワード / Key Word                           |
|-----------|----------------------------|--------------------------------------------|
| 1         | オリエンテーション、Windowsおさらい、情報処理 | Windowsとその基礎知識、情報処理とは                      |
| 2         | アプリケーション・ソフトとプログラミング       | OSとアプリケーション・ソフト、プログラミング、Visual Basic、.NET  |
| 3         | プログラミング演習1                 | Hello World!! : .NETの基本操作                  |
| 4         | プログラミング演習2                 | Hello2: 画像の使用、プログラムの発展                     |
| 5         | プログラミング演習3                 | Peace: アニメーションの基本1、移動によるアニメーション、条件、柔軟性     |
| 6         | プログラミング演習4                 | Wink: アニメーションの基本2、入れ替えによるアニメーション、シンプルさ     |
| 7         | プログラミング演習5                 | Culc: 簡単な計算、予期しない結果への対処                    |
| 8         | プログラミング演習6                 | Prime: 素数の発生、アルゴリズム1                       |
| 9         | プログラミング演習7                 | Prime: 素数の発生、アルゴリズム2、私たちのよく知っている世界とプログラミング |
| 10        | 予備日                        |                                            |
| 11        | 課題作成1                      |                                            |
| 12        | 課題作成2                      |                                            |
| 13        | 課題作成3                      |                                            |
| 14        | まとめ                        |                                            |

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

| 種別 / Kind | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc. |
|-----------|-----------------|-------------------------------|
| レポート      | 80 %            | 講義中に作成するプログラム＋最終レポートのプログラム    |
| 日常点       | 20 %            | 出席状況など                        |

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

"プログラム作成に標準よりも時間がかかる場合、講義外にて作業を行う必要がある。

USBフラッシュ・メモリ (128MB程度以上)あるいはこれに類するものが必要。"

## 教科書 / Textbooks

[参考書] の欄を必ず見ること。

## 参考書 / Reference Books

| 書名 / Title                                                       | 出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment |
|------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------|
| 『まなぶ・おしえるプログラミング (まなぶ編)』                                         | 上出 浩 / ふくろう出版 / 4-434-04018-9 /                          |
| 講義は、このテキストに基づき進める。必ず購入しなければならないものでもないが、プログラム・コードや操作などを詳しく掲載しているの |                                                          |

で、二人で1冊程度、共同で購入することを勧める。

参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

講義中適宜紹介する。

その他 / Others

## 情報処理 SG

13056

担当者名 / Instructor 寺尾 洋子

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Description

この科目では統計解析ソフトSPSSを学ぶことにより、社会調査等で得たデータを自分で解析する力を身につけることを目指す。大量のデータを処理する技術だけでなく、得られたデータの相関や散らばり、因果関係など社会的な意味を探究する力を身につけることをも目的とする。具体的には情報処理の基本概念を理解し、主要な計量モデルを概観する。その後、社会調査データを用いた解析と取り組む。

## 到達目標 / Focus and Goal

- ・SPSSを使って基本的な統計解析ができる
- ・解析結果を使ってレポートを作成できる

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enrolle in, but not required to

IDとパスワードはあらかじめ各自で確認しておくこと。  
 自分用のフロッピーディスクまたはUSBメモリを持参すること。  
 なお、最低限必要なスキルとして、以下の3点を求める。

1. タッチタイピングができること
2. ファイル管理ができること (ファイルのコピー、削除、移動、ファイル名の変更)
3. 複数のウィンドウを切り替えて操作できること。

## 授業スケジュール / Schedule

| 授業日 (第N回) | テーマ / Theme                                  | キーワード / Key Word |
|-----------|----------------------------------------------|------------------|
| 1         | イントロダクション: 社会調査と統計解析、統計ソフトSPSSの基礎            |                  |
| 2         | 記述統計量、計量モデルの概観                               |                  |
| 3         | 量的変数の関連: 相関係数                                |                  |
| 4         | 質的変数の関連: クロス表分析、カイニ乗検定                       |                  |
| 5         | 質的変数の関連: エラボレーション第3変数とは、コントロール、エラボレーションの考えかた |                  |
| 6         | 2群の差の検定: t検定                                 |                  |
| 7         | 多変量解析: 分散分析                                  |                  |
| 8         | 多変量解析: 因果分析(1)回帰分析                           |                  |
| 9         | 多変量解析: 因果分析(2)重回帰分析、パス解析                     |                  |
| 10        | 多変量解析: 因子分析(1)因子分析とは、因子数、回転                  |                  |
| 11        | 多変量解析: 因子分析(2)因子スコア                          |                  |
| 12        | 社会調査データを用いた分析(1)分析課題の設定とデータ分析、調査分析レポートの作成    |                  |
| 13        | 社会調査データを用いた分析(2)調査データの解析とレポートの作成             |                  |
| 14        | 社会調査データを用いた分析(3)解析結果のプレゼンテーション方法             |                  |

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

| 種別 / Kind | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc.   |
|-----------|-----------------|---------------------------------|
| レポート      | 30 %            | 社会調査データを自分なりに解析し、分析したレポートを求める   |
| 日常点       | 60 %            | 課題は毎回の講義で出題する                   |
| その他       | 10 %            | 授業中の質疑応答に積極的に参加したか等の講義参加傾向を加味する |

毎回実習を行い、課題提出を求めるので、遅刻・欠席は可能な限り避けること。それによる学習の遅れは自分で取り戻すことを原則とする。  
 また、課題をこなすためには自習が必要になるので自主的な学習姿勢を持つことが必要である。

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

## 教科書 / Textbooks

| 書名 / Title      | 出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment |
|-----------------|----------------------------------------------------------|
| SPSSでやさしく学ぶ統計解析 | 室淳子、石村貞夫／東京図書／4489006373／テキストに沿って講義を進めるので必ず購入すること        |

**参考書 / Reference Books**

| 書名 / Title              | 出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment |
|-------------------------|----------------------------------------------------------|
| 統計でウソをつく法―数式を使わない統計学入門  | ダレル・ハフ／講談社ブルーバックス／4061177206／                            |
| データ分析ははじめの一步            | 清水誠／講談社ブルーバックス／4062571455／                               |
| よくわかる統計解析の基本と仕組み―数学セミナー | 山口和範／秀和システム／479800913X／                                  |

**参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course**

講義用のWebサイト  
<http://www.ritsumeai.ac.jp/~ytt06067/>

**その他 / Others**

## 情報処理 SH S 情報処理I SH

12979

担当者名 / Instructor 寺尾 洋子

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Description

電子メールやWorld Wide Web(WWW)などで自分の意見を発信する機会が増え、簡潔で明瞭な文章を書く技術は現代人に必須の能力となっている。この講義ではそのような情報発信を行うために必要な文章技術とコンピュータ技術を養う。

なお、Webサイト作成には特定のソフトは使わない。Webページを記述する言語HTML (Hyper TextMarkup Language) の習得から始め、HTMLタグを直接使用してサイトを記述できるようになることを目的とする。

## 到達目標 / Focus and Goal

- ・数ページからなるWebサイトを企画できる
- ・基本的なHTMLの文法を理解し、それに従ってHTMLファイルを記述できる
- ・基本的なスタイルシートの文法を理解し、それに従ってCSSファイルを記述できる
- ・既存のWebサイトを評価できる

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enrolle in, but not required to

IDとパスワードはあらかじめ各自で確認しておくこと。

自分用のフロッピーディスクまたはUSBメモリを持参すること。

なお、受講するにあたって最低限必要なコンピュータスキルとして、以下の3点を求める。

1. タッチタイピングができること
2. ファイル管理ができること (ファイルのコピー、削除、移動、ファイル名の変更)
3. 複数のウィンドウを切り替えて操作できること。

## 授業スケジュール / Schedule

| 授業日 (第N回) | テーマ / Theme          | キーワード / Key Word |
|-----------|----------------------|------------------|
| 1         | コンピュータリテラシーについての知識確認 |                  |
| 2         | Webサイトを評価する          |                  |
| 3         | Webページ制作のプロセスを知る     |                  |
| 4         | 各自のWebページサイトの企画を立てる  |                  |
| 5         | HTML入門基本ルール          |                  |
| 6         | HTML入門基本的なHTMLタグ     |                  |
| 7         | スタイルシート入門            |                  |
| 8-13      | 個人Webサイト制作           |                  |
| 14        | 相互批評会                |                  |

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

| 種別 / Kind | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc.   |
|-----------|-----------------|---------------------------------|
| レポート      | 10 %            | インターネット上の様々な問題についての考察           |
| 日常点       | 80 %            | Webサイト構築と毎回の課題提出                |
| その他       | 10 %            | 授業中の質疑応答に積極的に参加したか等の講義参加傾向を加味する |

課題提出による評価に重きを置くので、自分のWebサイトを作成できなかった者は出席していても単位取得は難しい。なお、定期試験は行わない。

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

## 教科書 / Textbooks

| 書名 / Title | 出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment |
|------------|----------------------------------------------------------|
| 新インターネット講座 | 有賀妙子・吉田智子／北大路書房／76282416X／                               |

## 参考書 / Reference Books

講義中に随時紹介する

## 参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

講義用のWebサイト

<http://www.ritsume.ac.jp/~ytt06067/>

## その他 / Others

## 情報処理 SI S 情報処理II SI

15083

担当者名 / Instructor 寺尾 洋子

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Description

電子メールやWorld Wide Web(WWW)などで自分の意見を発信する機会が増え、簡潔で明瞭な文章を書く技術は現代人に必須の能力となっている。この講義ではそのような情報発信を行うために必要な文章技術とコンピュータ技術を養う。

なお、Webサイト作成には特定のソフトは使わない。Webページを記述する言語HTML (Hyper TextMarkup Language) の習得から始め、HTMLタグを直接使用してサイトを記述できるようになることを目的とする。

## 到達目標 / Focus and Goal

- ・数ページからなるWebサイトを企画できる
- ・基本的なHTMLの文法を理解し、それに従ってHTMLファイルを記述できる
- ・基本的なスタイルシートの文法を理解し、それに従ってCSSファイルを記述できる
- ・既存のWebサイトを評価できる

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enrolle in, but not required to

IDとパスワードはあらかじめ各自で確認しておくこと。

自分用のフロッピーディスクまたはUSBメモリを持参すること。

なお、受講するにあたって最低限必要なコンピュータスキルとして、以下の3点を求める。

1. タッチタイピングができること
2. ファイル管理ができること (ファイルのコピー、削除、移動、ファイル名の変更)
3. 複数のウィンドウを切り替えて操作できること。

## 授業スケジュール / Schedule

| 授業日 (第N回) | テーマ / Theme          | キーワード / Key Word |
|-----------|----------------------|------------------|
| 1         | コンピュータリテラシーについての知識確認 |                  |
| 2         | Webサイトを評価する          |                  |
| 3         | Webページ制作のプロセスを知る     |                  |
| 4         | 各自のWebページサイトの企画を立てる  |                  |
| 5         | HTML入門基本ルール          |                  |
| 6         | HTML入門基本的なHTMLタグ     |                  |
| 7         | スタイルシート入門            |                  |
| 8-13      | 個人Webサイト制作           |                  |
| 14        | 相互批評会                |                  |

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

| 種別 / Kind | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc.   |
|-----------|-----------------|---------------------------------|
| レポート      | 10 %            | インターネット上の様々な問題についての考察           |
| 日常点       | 80 %            | Webサイト構築と毎回の課題提出                |
| その他       | 10 %            | 授業中の質疑応答に積極的に参加したか等の講義参加傾向を加味する |

課題提出による評価に重きを置くので、自分のWebサイトを作成できなかった者は出席していても単位取得は難しい。なお、定期試験は行わない。

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

## 教科書 / Textbooks

| 書名 / Title | 出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment |
|------------|----------------------------------------------------------|
| 新インターネット講座 | 有賀妙子・吉田智子／北大路書房／76282416X／                               |

## 参考書 / Reference Books

講義中に随時紹介する

## 参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

講義用のWebサイト

<http://www.ritsume.ac.jp/~ytt06067/>

## その他 / Others



## 情報処理 SJ

20286

担当者名 / Instructor 松田 亜希

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Description

ホームページ作成の基礎を学ぶ。

講義の前半では「誰を対象に」「どんな情報を」「どういうイメージで」等を意識し、ホームページの全体構成を視覚化した「設計図」を作成する。設計図の完成後はHTMLの基礎技能の習得を目指す。またホームページを制作する上で不可欠な知識である「著作権」や「肖像権」等について理解を深める。

後半はフォトタッチソフトを使用して、画像加工の基本を学ぶ。加工した画像はホームページ素材として利用する。講義の進度を考慮し、余裕があればCSSについて学ぶ。

## 到達目標 / Focus and Goal

- ・HTMLの基本構造を理解する
- ・ネットワーク上の「著作権」「肖像権」について理解する
- ・画像加工の基礎を学び、ホームページの素材を作成する

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

## 授業スケジュール / Schedule

| 授業日 (第N回) | テーマ / Theme                   | キーワード / Key Word                                           |
|-----------|-------------------------------|------------------------------------------------------------|
| 第1回       | 設計図の作成                        | 対象者, テーマの設定, イメージ, 素材, 構成                                  |
| 第2回       | HTMLの基礎1: 構造                  | HTML, タグ, テキストエディタ, ブラウザ, 拡張子                              |
| 第3回       | HTMLの基礎2: 修飾, 色の変更            | < FONT > < /FONT >, < HR >, color属性                        |
| 第4回       | HTMLの基礎3: フレームの設定, ハイパーリンクの作成 | フレーム, target属性, ハイパーリンク, mailto属性                          |
| 第5回       | HTMLの基礎4: 表の作成                | < TABLE > < /TABLE >, < TR > < /TR >, < TD > < /TD >, 行, 列 |
| 第6回       | HTMLの基礎5: リスト                 | < UL > < /UL >, < OL > < /OL >, < LI >                     |
| 第7回       | HTMLの基礎6: 肖像権と著作権, アップロード     | 肖像権, 著作権, FTP                                              |
| 第8回       | 画像加工の基礎1: 画像形式とファイルサイズ        | フォトタッチソフト, 画像形式, トリミング, 範囲選択, 画像解像度                        |
| 第9回       | 画像加工の基礎2: 色調補正, 画像修正          | 明るさ, コントラスト, スタンプツール                                       |
| 第10回      | 画像加工の基礎3: レイヤーとフィルタ           | レイヤー, フィルタ                                                 |
| 第11回      | 素材としての画像・HTMLファイルへの挿入         | < IMG >, WIDTH属性, HEIGHT属性                                 |
| 第12~13回   | 中間報告                          | 設計図との照合, 進捗状況のチェック, 設計図の提出                                 |
| 第14回      | CSS1: 基本                      | スタイルシート, selector, property, value                         |
| 第15回      | CSS2: CSSファイルの参照              | 外部cssファイルの作成, スタイルの決定                                      |

 (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment  
 (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

- ・ページコンテンツの入力 (テーマにそった文章の作成)
- ・ページ素材となる写真の撮影 (カメラ付携帯電話やデジタルカメラ等が望ましい)

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

| 種別 / Kind | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc.                             |
|-----------|-----------------|-----------------------------------------------------------|
| レポート      | 20 %            | 課題の提出と同時に提出。課題を制作する際に工夫した点, 迷った点, 気づいた点等を明記したレポートの提出を求める。 |
| 日常点       | 10 %            | 中間報告の時点で「設計図」と制作状況を比較し, チェックを行う。設計図はこの時点で回収する。忘れずに持参すること。 |
| その他       | 70 %            | 課題 (設計図に従って作成したHTMLファイルおよび素材) の提出を求める。期限遵守。               |

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

初めてホームページを作成する初心者を対象に展開する予定であるが, 最低限必要な知識として「ファイルとフォルダ」の概念を理解していることが望ましい。また, 本講義ではホームページ作成支援ソフト等を利用せずに展開する。

## 教科書 / Textbooks

| 書名 / Title       | 出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment |
|------------------|----------------------------------------------------------|
| 30時間でマスターWebデザイン | 吉田 喜彦・影山 明俊 著 / 実況出版 / 4-407-30204-6 / HTMLの基礎を学ぶ際に使用する。 |

## 参考書 / Reference Books

・HTML&CSSビジュアル・リファレンス, シーズ, MdN, 4844357794  
講義で紹介しきれないタグと, その機能を知りたいときの参考書である.

参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

とほほのWWW入門 <http://www.tohoho-web.com/www.htm>

その他 / Others

## 情報処理 SK

20287

担当者名 / Instructor 上出 浩

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Description

「ユビキタス社会」へと変遷していく中で、情報処理の実践として、あるいは自己表現の実践として、コミュニケーション・ツールを積極的に作り出すことを目的とする。具体的には、ネットの基本や情報倫理の習得は勿論、これをベースとし、Webページを作成し、公開する。ソフトを用いず、いわゆるタグ書きをし、更により豊かなコミュニケーションを行うためによく利用されるJavaScriptの基本を学んでいく。上級者向けである。

## 到達目標 / Focus and Goal

情報倫理の習得。  
Webページの構造の理解。  
HTML (タグ書き) を用いたWebページ作成方法。  
JavaScriptの基本。  
プレゼンテーションとコミュニケーション能力の向上。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enrolle in, but not required to

情報リテラシー科目で基本を履修しておくこと更に理解しやすい。

## 授業スケジュール / Schedule

| 授業日 (第N回) | テーマ / Theme                | キーワード / Key Word                  |
|-----------|----------------------------|-----------------------------------|
| 1         | オリエンテーション、Windowsおさらい、情報処理 | Windowsとその基礎知識、情報処理とは             |
| 2         | 情報倫理とネットワークの基礎知識。          | 「インターネット」、「ホーム・ページ」、NET、ネチケット、著作権 |
| 3         | HTMLの基本1                   | Webページ、ソース、タグ                     |
| 4         | HTMLの基本2                   | タグの基本                             |
| 5         | JavaScriptの基本1             | HTMLとJavaScriptの関係                |
| 6         | JavaScriptの基本2             | JavaScript、関数、実行                  |
| 7         | サンプル作成1                    | JavaScriptのサンプル作成                 |
| 8         | サンプル作成2                    | JavaScriptのサンプル作成                 |
| 9         | サイト作成1                     | オリジナル・サイトの設計                      |
| 10        | サイト作成2                     | オリジナル・サイトの作成                      |
| 11        | サイト作成3                     | 中間チェック                            |
| 12        | サイト作成4                     | 公開と修正                             |
| 13        | サイト作成5                     | 公開と修正                             |
| 14        | プレゼンテーション (紹介)             | 更新とメンテナンス                         |

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment  
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

| 種別 / Kind | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc. |
|-----------|-----------------|-------------------------------|
| レポート      | 80 %            | 講義中作成するWebページ、プレゼンテーション、評価    |
| 日常点       | 20 %            | サンプル、中間チェック、出席状況              |

期限までのWebサイト作成、公開、プレゼンテーション、評価まで全てが揃わなければ、単位取得はない。

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

Webページ作成に標準よりも時間がかかる場合、講義外にて作業を行う必要がある。  
USBフラッシュ・メモリ (128MB程度以上)あるいはこれに類するものが必要。

## 教科書 / Textbooks

必要に応じプリントなどを配布する予定である。

## 参考書 / Reference Books

講義中適宜紹介する。

## 参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

講義中適宜紹介する。

## その他 / Others

## 情報処理 SL

20288

担当者名 / Instructor 上出 浩

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Description

情報リテラシーにて習得したExcelの知識をベースに、より発展的な利用を考えていく。

このクラスでは、基本的な関数を学んだ後、Excelのもう一つの機能である、データベース機能を、出来る限り実践的に学んでいく。情報リテラシーで学んだExcelの表計算機能と本講義で学ぶデータベース機能を習得することで、Excelをよりパワフルな総合ツールとして様々な場面で活用することが可能となる。

本講義修了で、Excelの中級者になることが出来る。

## 到達目標 / Focus and Goal

Excelの基礎の習得。

基本的な関数の習得。

データベースの基礎の習得。

データベース・ツールの習得。

データベース関数の習得。

実践的な使用への手がかりを掴むこと。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enrolle in, but not required to

情報リテラシー科目で基本を履修しておくこと更に理解しやすい。

## 授業スケジュール / Schedule

| 授業日 (第N回) | テーマ / Theme   | キーワード / Key Word                    |
|-----------|---------------|-------------------------------------|
| 1         | Excelの基本のおさらい | セル、シート、表、グラフ、関数、絶対参照                |
| 2         | Excelの基本のチェック |                                     |
| 3         | Excelの基本的な関数  | sum, average, max, min, count, ifなど |
| 4         | Excelの便利な関数   | 日付関数、文字列関数                          |
| 5         | データ・ベースとは     | データとデータ・ベース、データ・ベースの設計              |
| 6         | データ・ベース・ツール1  | 並び替え                                |
| 7         | データ・ベース・ツール2  | オートフィルタ                             |
| 8         | データ・ベース・ツール3  | フォーム・集計                             |
| 9         | データ・ベース・ツール4  | ピボット・テーブル                           |
| 10        | データ・ベース関数1    | 検索                                  |
| 11        | データ・ベース関数2    | その他                                 |
| 12        | データ・ベース作成演習1  | テーマと設計                              |
| 13        | データ・ベース作成演習2  |                                     |
| 14        | データ・ベース作成演習3  | まとめと評価                              |

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

| 種別 / Kind | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc. |
|-----------|-----------------|-------------------------------|
| レポート      | 60 %            | 最終データ・ベース作成課題                 |
| 日常点       | 40 %            | 小レポート、出席                      |

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

受講までに、Windows及びExcelの基礎を復習することが望ましい。

USBフラッシュ・メモリ (128MB程度以上)あるいはこれに類するものが必要。

## 教科書 / Textbooks

必要に応じプリントなどを配布する予定である。

## 参考書 / Reference Books

講義中適宜紹介する。

## 参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

講義中適宜紹介する。

## その他 / Others

## 情報処理 SM

20289

担当者名 / Instructor 上出 浩

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Description

情報リテラシーにて習得したExcelの知識をベースに、より発展的な利用を考えていく。

このクラスでは、基本的な関数を学んだ後、様々な処理を自動化するマクロ機能を学んでいく。マクロの基本を習得することで、Excelやその他Officeソフトを、より便利なツールとすることが出来る。簡単な「マクロの記録」から始め、それをカスタマイズする簡単なプログラミングまでを対象とし、Officeソフトをより便利に使うことを可能とする。

Officeソフトの中級者・上級者をめざす講義である。

## 到達目標 / Focus and Goal

Excelの基礎の習得。

基本的な関数の習得。

マクロ機能の基本の習得。

基本的なカスタマイズ方法の習得。

実践的な使用への手がかりを掴むこと。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enrolle in, but not required to

情報リテラシー科目で基本を履修しておくこと更に理解しやすい。

## 授業スケジュール / Schedule

| 授業日 (第N回) | テーマ / Theme        | キーワード / Key Word                    |
|-----------|--------------------|-------------------------------------|
| 1         | Excelの基本のおさらい      | セル、シート、表、グラフ、関数、絶対参照                |
| 2         | Excelの基本のチェック      |                                     |
| 3         | Excelの基本的な関数       | sum, average, max, min, count, ifなど |
| 4         | Excelの便利な関数        | 日付関数、文字列関数                          |
| 5         | マクロとは              | 処理の自動化とマクロ、「マクロの記録」、ソース             |
| 6         | マクロの記録             | 「値のみ貼り付け」、「数式の貼り付け」などのマクロ           |
| 7         | ショートカット・キーへの割付とボタン | ショートカット・キー、コントロール・オブジェクト            |
| 8         | マクロのカスタマイズ1        | 繰り返し、時間差                            |
| 9         | マクロのカスタマイズ2        | 条件による分岐1                            |
| 10        | マクロのカスタマイズ3        | 条件による分岐2                            |
| 11        | マクロのカスタマイズ4        | 組み合わせ                               |
| 12        | 復習                 |                                     |
| 13        | マクロによる課題作成1        |                                     |
| 14        | マクロによる課題作成2        |                                     |

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

| 種別 / Kind | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc. |
|-----------|-----------------|-------------------------------|
| レポート      | 60 %            | 最終マクロ作成課題                     |
| 日常点       | 40 %            | 小レポート、出席                      |

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

受講までに、Windows及びExcelの基礎を復習することが望ましい。

USBフラッシュ・メモリ (128MB程度以上)あるいはこれに類するものが必要。

## 教科書 / Textbooks

必要に応じプリントなどを配布する予定である。

## 参考書 / Reference Books

講義中適宜紹介する。

## 参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

講義中適宜紹介する。

## その他 / Others

## 情報法 G

20221

担当者名 / Instructor 大石 泰彦

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Description

情報法(情報流通の自由と規制にかかわる法制度)のうち、マス・メディア法制を中心とする「情報公法」について講義する。

## 到達目標 / Focus and Goal

マス・メディアがひきおこすさまざまな事件・問題について、単に印象批評や感情論ではなく理論的・学問的に考えることができるようになる。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enrolle in, but not required to

「憲法(特に人権論)」「ジャーナリズム論」と内容的に関連しており、これから履修・聴講しておくことが望ましい。

## 授業スケジュール / Schedule

| 授業日(第N回) | テーマ / Theme           | キーワード / Key Word |
|----------|-----------------------|------------------|
| 第1回      | ガイダンス                 |                  |
| 第2回      | 取材・報道の自由・総論(その1)      |                  |
| 第3回      | 取材・報道の自由・総論(その2)      |                  |
| 第4回      | 取材・報道の自由と国家秘密(その1)    |                  |
| 第5回      | 取材・報道の自由と国家秘密(その2)    |                  |
| 第6回      | 取材・報道の自由を裏打ちするもの(その1) |                  |
| 第7回      | 取材・報道の自由を裏打ちするもの(その2) |                  |
| 第8回      | 名誉毀損(その1)             |                  |
| 第9回      | 名誉毀損(その2)             |                  |
| 第10回     | プライバシー侵害(その1)         |                  |
| 第11回     | プライバシー侵害(その2)         |                  |
| 第12回     | 放送とインターネット(その1)       |                  |
| 第13回     | 放送とインターネット(その2)       |                  |
| 第14回     | 情報公開・個人情報保護とマス・メディア   |                  |
| 第15回     | テスト                   |                  |

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

講義期間開始前に、教科書を一読しておくこと。

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

| 種別 / Kind | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc. |
|-----------|-----------------|-------------------------------|
| 定期試験      | 50 %            |                               |
| 日常点       | 50 %            |                               |

最終講義時間に筆記試験を実施し、評価の基礎資料とする(約50%)。受験者数にもよるが、集中講義であることを考慮して、小レポートや受講態度にも相当の比重をおく方式で評価する。(約50%)

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

新聞(一般紙)を継続的に(毎日)まんべんなく読み、テレビ・ニュースを継続的に見るなど、「会社人」になるための地道な努力を怠らないこと。  
・「メディアの倫理」を考える授業にふさわしい「学生の倫理」を身につけること。

## 教科書 / Textbooks

| 書名 / Title                                       | 出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment |
|--------------------------------------------------|----------------------------------------------------------|
| メディアの法と倫理                                        | 大石 泰彦／嵯峨野書院、2004年／4-7823-0395-5／                         |
| 主として、予習(「授業外学習の指示」参照)・復習(「評価方法」参照)・小レポート(同)に用いる。 |                                                          |

## 参考書 / Reference Books

教科書16ページA欄に掲げる諸文献参照。

## 参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

特になし。

## その他 / Others

## 身体現象学 S

13017

担当者名 / Instructor 佐藤 勇一

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Description

「身体」というテーマは、現象学を中心テーマの一つですが、意識の哲学の呪縛から解放されてきたという経緯をもっています。長い哲学の歴史において、このテーマが、主題的に論じられるのは、20世紀の現象学者、メルロ＝ポンティを待たなければなりません。本講義では、1) まず、哲学の歴史において身体がどのように扱われてきたのか、時代を追って概観します。次いで、2) メルロ＝ポンティが身体についてどのように論じたのか、特に彼の著書『知覚の現象学』にのっとり検討します。

## 到達目標 / Focus and Goal

受講する学生は、次のことができるようになるでしょう。また、そうなるように、真剣に受講することを望みます。

- ・哲学史における基本概念を幅広く理解し、説明できる。
- ・メルロ＝ポンティの現象学において身体が中心テーマの一つであったことを、彼が論じた文脈において理解できる。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

特にありません。この講義は、哲学に関する予備知識がなくとも十分理解可能です。

## 授業スケジュール / Schedule

| 授業日 (第N回)                   | テーマ / Theme                                 | キーワード / Key Word                  |
|-----------------------------|---------------------------------------------|-----------------------------------|
| 第1回                         | 導入講義                                        |                                   |
| 第2回                         | 哲学史における身体 — 古代ギリシャ哲学 (1) 前ソクラテス期の哲学とソクラテス   | アルケー、元素、物活論、ピュシス、魂、等。             |
| 第3回                         | 哲学史における身体 — 古代ギリシャ哲学 (2) アテナイの哲学における主知主義的傾向 | イデア、エネルゲイア、エロス、共通感覚、デュナミス、等       |
| 第4回                         | 哲学史における身体 — ヘレニズム期の哲学、および、キリスト教             | アタラクシア、アパテイア、自然、受肉、ストア、目的論、等。     |
| 第5回                         | 哲学史における身体 — 近世の哲学 (1) デカルトにおける機械論的自然観       | 機械論、コギト、光学、情念、心身合一、心身二元論、普遍学、等。   |
| 第6回                         | 哲学史における身体 — 近世の哲学 (2) デカルト以後の合理論と経験論        | 印象、感覚、感覚主義、観念、経験論、合理論、自然的幾何学、等。   |
| 第7回                         | 哲学史における身体 — 近世の哲学 (3) カント                   | 習慣、超越論的主観性、判断力、批判、等。              |
| 第8回                         | 哲学史における身体 — ベルクソンとフランス・スピリチュアリズム            | 感覚、記憶、空間、時間、習慣、抵抗、等。              |
| 第9回                         | 現象学における身体 — フッサールと心理学 (1) ゲシュタルト心理学         | 感覚、恒常性仮説、心理学、反射、フィー現象、等。          |
| 第10回                        | 現象学における身体 — フッサールと心理学 (2) 現象学的還元            | 新しい道、事象、身体(Leib)、心理学主義、デカルト的道学的還元 |
| 第11回                        | 現象学における身体 — メルロ＝ポンティ (1) 哲学と心理学             | 経験論、主知主義、身体図式、手がかり、恒常性仮説、空間、等。    |
| 第12回                        | 現象学における身体 — メルロ＝ポンティ (2) 『知覚の現象学』をめぐる       | 感覚、現象野、注意、投射、判断、連合、等。             |
| 第13回                        | 現象学における身体 — メルロ＝ポンティ (3) 『知覚の現象学』をめぐる       | 幻影肢、世界内存在、代償行為、習慣、等。              |
| 第14回                        | 現象学における身体 — メルロ＝ポンティ (4) 『知覚の現象学』をめぐる       | 二重感覚、反省、等。                        |
| 第15回                        | 定期試験                                        |                                   |
| (講義の進行により、内容には変更の可能性があります。) |                                             |                                   |

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

授業中に指示した文献を学習するとよいでしょう。特に、哲学史に関する部分では、多くの参考文献がありますから、自習しておくことが理解が深まるはずです。

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

| 種別 / Kind | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc.                                              |
|-----------|-----------------|----------------------------------------------------------------------------|
| 定期試験      | 80 %            | 定期試験問題に対する適切な論述、回答が評価基準です。とりわけ、重要な概念 (語句) を説明できること、概念同士の連関を理解していることを重視します。 |
| 日常点       | 20 %            |                                                                            |

受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

教科書を用いない講義形式の授業ですから、毎回の講義内容を真剣に聞くことが大切です。

教科書 / Textbooks

用いません。

参考書 / Reference Books

メルロ＝ポンティ、『知覚の現象学』（みすず書房）  
ヴァルデンフェルス、『講義・身体の現象学―身体という自己―』（知泉書院）。  
マルク・リシール、『身体―内面性についての試論―』（ナカニシヤ出版）。  
『西洋哲学史―理性の運命と可能性―』（昭和堂）  
その他、授業中に指示します。

参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

その他 / Others



## 身体表現論 S S 身体表現論I S

12958

担当者名 / Instructor 遠藤 保子

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Description

我々の身体は、姿勢、しぐさ、動作などによって言語以上に雄弁にものを伝えることが可能である。こうした身体表現は、ことばならざることばであるところの非言語コミュニケーションと考えられ、コミュニケーションの重要な要素と考えられる。またその身体表現は、地理、歴史、社会・文化などと深くかかわって様式化された身体表現つまり舞踊として踊られている。この講義では、1. 身体表現の概念と諸相 2. 日本と世界各国におけるしぐさの相違、3. 日本と世界各国におけるさまざまな舞踊と社会文化とのかかわりを考察する。

## 到達目標 / Focus and Goal

身体表現とは何か、さらに身体表現は地理、歴史、社会・文化と深くかかわっていることを学ぶことによって、受講者の「身体表現と社会・文化を見る視点」を獲得することが期待される。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

芸術と社会にかかわる科目  
文化人類学

## 授業スケジュール / Schedule

| 授業日 (第N回) | テーマ / Theme     | キーワード / Key Word   |
|-----------|-----------------|--------------------|
| 1回        | 身体表現の概念         | 身体表現の諸相            |
| 2回        | しぐさの国際比較 I      | 日欧のしぐさ             |
| 3回        | しぐさの国際比較 II     | 世界各国のしぐさ           |
| 4回        | 様式化された身体表現 (舞踊) | 無文字社会 (特にアフリカ) の舞踊 |
| 5回        | 日本の舞踊 I         | 富山県こきりこ            |
| 6回        | 日本の舞踊 II        | 奥三河の花祭り            |
| 7回        | 中間のまとめ          | グループワーク、レポート提出     |
| 8回        | アジアの舞踊 I        | 韓国の伝統的舞踊           |
| 9回        | アジアの舞踊 II       | インドの伝統的舞踊          |
| 10回       | 欧米の舞踊 I         | フォークダンス、バレエ        |
| 11回       | 欧米の舞踊 II        | モダンダンス、コンテンポラリーダンス |
| 12回       | 現代の若者と舞踊 I      | よさこい祭り、盆踊り         |
| 13回       | 現代の若者と舞踊 II     | ストリートダンス、ヒップホップ    |
| 14回       | 総まとめ            | グループワーク、レポート提出     |
| 15回       | テスト             |                    |

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

指定教科書は事前に読解しておくこと。授業時に指示した文献 (レジュメを含む) を読解させる場合もある。期中に、2回の課題レポートを課し、グループワークを行う。

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

| 種別 / Kind | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc.  |
|-----------|-----------------|--------------------------------|
| 定期試験      | 60 %            | テキストおよび授業の理解度を評価する。            |
| レポート      | 40 %            | どの程度主体的に学習し、自ら考察しようとしたのかを判定する。 |

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

参考書や授業中に紹介した文献を可能な限り読解する。

## 教科書 / Textbooks

| 書名 / Title | 出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment |
|------------|----------------------------------------------------------|
| 舞踊学講義      | 舞踊教育研究会／大修館書店／4469261971／                                |

## 参考書 / Reference Books

| 書名 / Title  | 出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment |
|-------------|----------------------------------------------------------|
| 渡来の祭り 渡来の芸能 | 前田憲二／岩波書店／4-00-024123-0／                                 |
| 異界へのメッセンジャー | 姫野 翠／出帆新社／4-86103-016-1／                                 |

## 参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

その他 / Others

**授業の概要 / Course Description**

心理学があつかう広大な分野や活動領域における様々な現象、出来事、事例などに接してそれらに対するさまざまな見方を味わいながら、こころの世界に向かっての窓をできるだけ多く開ける。また自分の集団との関わり方、物事やコミュニケーションに対するアプローチと関わり方をさまざまなに試みながら、1) 心理(学)的なセンスを育て、2) 自分の内に宿る可能性を探り、3) (物事) や (事柄) そして (関わり) について吟味・検討する力を養う糸口を見つける。

**到達目標 / Focus and Goal**

上に掲げた事項に関してこれまでの学び方を徹底的的全面的に見直しなが、(こころ) について—それは (こころ) と (からだ) モノそして環境とのかかわりを考えることになるが— さまざまな学び方を模索しながら、自分にあった学び方を見つけ、学ぶ喜びの再発見をする。

**履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enrolle in, but not required to**

特になし。

**授業スケジュール / Schedule**

| 授業日 (第N回) | テーマ / Theme                                                             | キーワード / Key Word     |
|-----------|-------------------------------------------------------------------------|----------------------|
| 第1回       | こころとは何か？ 心理学とはなにか？ 学び方について、評価について                                       | キーワードについて：有用性と剥奪・阻害  |
| 第2回       | プログラム学習と発見学習 (以下3回以降に記載することは、スケジュールではなく、扱いたいと考えているテーマあるいは行いたいことの列挙)     | 自由と不自由、主体性 ソクラテスの教授法 |
| 第3回       | 選択試験 学びと心理的センス：どのような感じ方、関わり方、考え方が心を豊かに伸ばして行く                            |                      |
| 第4回       | 無気力と勉強嫌い：それらはどのように育ってしまうか？ 知的好奇心を復活させるには？ 感想・振り返り・吟味検討はいかにできるか？         |                      |
| 第5回       | 個性と性格：自分のパーソナリティはどのように気づくことができるか？それを育てることは何を意味するか？ どのようにしたらできるか？        |                      |
| 第6回       | 食べる・飲む・吸うこと：その生理と心理と病理について各自自分の日々の生活の観察から考えてみよう。                        |                      |
| 第7回       | 自立と依存：「大人」になるということはどういうことか？自分は何だけ大人になっているか？そも                           |                      |
| 第8回       | 自我とアイデンティティとコミットメント：自我の働きにはどういふことがあるか？ それらはどのように発達するか？アイデンティティとそれからの解放？ |                      |
| 第9回       | 集団のなかで生きることについて どのようにしたらその中で自分をつぶされなくて集団を活かせるか？                         |                      |
| 第10回      | 愛と憎しみと依存性：親密さと愛情と性愛とはどのように関連しているか？ それらはどのように変化し、発達したそれに失敗するか？           |                      |
| 第11回      | 嘘と騙し 日本人はなぜ簡単に騙されるか？ 嘘はこころにとってどのような意味があるか？ 悪いことだけなのか？ 成長に不可欠であるのはなぜか？   |                      |
| 第12回      | 宗教と神秘主義とマインドコントロール：日本人にとって宗教とは何か？ 宗教を求める気持ちと軽蔑する気持ちはどこから来るのか？           |                      |
| 第13回      | 失うことと死ぬこと：人は喪失にどのような対応をするのか？喪失体験が人を成長させるため条件は何か？                        |                      |
| 第14回      | グループ発表会                                                                 |                      |
| 第15回      | 全体の振り返り、吟味検討・フィードバック・反省と感想                                              |                      |

**(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment****(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style**

基本的に毎回の参加の度に、あったことややったことなどをじっくり振り返る作業を通して、心理学の面白さを身につけてもらいたいと考えている。「授業」後、他の場面での展開にさまざまな発見などがあり、それを重要な素材として報告してもらいたい。

**成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation**

| 種別 / Kind | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc. |
|-----------|-----------------|-------------------------------|
|-----------|-----------------|-------------------------------|

|      |      |
|------|------|
| 定期試験 | 40 % |
| レポート | 40 % |
| 日常点  | 60 % |
| その他  | 60 % |

上に挙げた数字は現在対象者がわからない時点で期待しているおよその考えにすぎず、実際の履修者・参加者が決まったところで別なやり方を示すことになる。基本的には、授業に対する係わり方（質疑応答・グループ討議など）と毎回の自主的な振り返りや「反想記録」さらに個人や小集団での研究と発表などによって評価したいと考えてはいる。しかし、望むところは、評価方法について学生と話し合うことだ。「評価」そのものについて考えることが、実は心理学の重要な課題にもなるからである。できれば、学生の「評価準備委員会」なるものをつくり、なんらかの評価作業に参加させたいとも考えている。

#### 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

この講義または授業でやること起き上がってくることは、多くの人にはこれまで受けてきた「授業」とは、大きく違ったものになり、違った展開になるかもしれない。この時、自分のなかに生じる驚きや当惑、感動や違和感などを、心理学を学ぶ上の第一素材として大切に扱ってほしい。それらがどこから来るのかをじっくり考えてほしい。そしてそれらを吟味検討できる力こそを、仲間と共に育ててほしいと願っている。

#### 教科書 / Textbooks

「授業」と「自分」の内と外とで語られたり生じたりすることこそが、解読すべきものが織り込まれている原典 (text) である。しかし、もちろん同じに解読のためには参考文献ばかりか、適宜、新聞や雑誌の記事、そしてできれば映画やドキュメンタリー・フィルム等を紹介する予定。

#### 参考書 / Reference Books

展開にしたがって関連のあるさまざまなものを次々に紹介する予定。書物ばかりでなく、新聞・雑誌の記事や映画を含めた映像資料、また講演会シンポジウムなどの催しなども紹介したい。

#### 参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

展開のなかで関連のサイトを紹介したい。受講者からも参考になるサイトを見つけたら、伝えてほしい。

#### その他 / Others

[重要]

必ず第1回目から出席のこと。この授業——実は「授業」とは別な名前を募集中——では、自分が関与した限りににおいて学ぶところがあるもので、できるだけ案をして単位取得のみを望む学生には向いていない。  
就職活動や部活などで、しばしば遅刻や欠席などがあり得る学生は基本的に履修できない。

## 心理検査法 S

15125

担当者名 / Instructor 目黒 朋

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Description

本講義では、テキストを用いて心理検査の基礎を学ぶ。心理検査の歴史と発展、その意義、心理検査における数量データのとらえ方について具体的に学習する。また、心理検査の実践について、知能検査法、発達検査法、人格検査法の中から代表的なものを取り上げ、それぞれの検査の意味と具体的手法について学び、教育・福祉分野においてどのように活用されるべきかを考察する力を養う

## 到達目標 / Focus and Goal

- ・心理検査の歴史、基礎となる考え方について正しく理解できる
- ・心理検査の数量的データの表す内容を考察できる
- ・心理検査の意義・特性を踏まえ、社会における活用法について考察することができる

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enrolle in, but not required to

## 授業スケジュール / Schedule

| 授業日 (第N回) | テーマ / Theme          | キーワード / Key Word           |
|-----------|----------------------|----------------------------|
| 第1回目      | 心理検査の種類と歴史           |                            |
| 第2回～第5回   | 心理検査におけるデータ          | 標準偏差 回帰分析 相関係数 ルート機能のついた電卓 |
| 第6回       | 心理検査の実践Ⅰ－知能検査法①      | 知能検査の開発と発展                 |
| 第7回       | 心理検査の実践Ⅰ－知能検査法②      | ウェクスラー式知能検査                |
| 第8回       | 心理検査の実践Ⅱ－発達検査法①      | 新版K式発達検査法                  |
| 第9回       | 心理検査の実践Ⅱ－発達検査法②      | 発達診断                       |
| 第10回      | 心理検査の実践Ⅱ－発達検査法③      | 発達相談                       |
| 第11回      | 心理検査の実践Ⅲ－性格検査法①      | 作業検査法                      |
| 第12回      | 心理検査の実践Ⅲ－性格検査法②      | 質問紙法                       |
| 第13回      | 心理検査の実践Ⅲ－性格検査法③      | 投影法                        |
| 第14回      | まとめ－心理検査の活用と心理検査者の倫理 |                            |

 (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment  
 (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

| 種別 / Kind | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc.                          |
|-----------|-----------------|--------------------------------------------------------|
| レポート      | 55 %            |                                                        |
| 日常点       | 45 %            | 毎回のコメントカードの提出状況および記述内容に見られる理解度や積極性。講義時間内に中間的に実施する小レポート |
| その他       | 0 %             | 最低3回以上の出席を有効評価の基礎条件とする                                 |

試験に代わるレポートとして実施する。日常点評価は小レポートにおいて講義の理解度を問うものと、毎回のコメントカードの提出状況および記述内容によって行う。出席を重視するので、出席が規定回数に満たない場合はレポートを受理しない。出席回数規定については第1回の講義で説明する。

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

心理学についての基礎的な知識を得ていることが望ましい。具体例を用いて参加型の講義を予定しているので、出席を重視します。主体的積極的に参加してほしい。データ処理の基礎について学習するので、平方根(ルート)機能のついた電卓を用意すること。いわゆる『心理ゲーム』のようなものは扱わないのでそのつもりで受講してほしい。

## 教科書 / Textbooks

| 書名 / Title           | 出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment |
|----------------------|----------------------------------------------------------|
| 心理検査法入門－正確な診断と評価のために | 渡部 洋／福村出版／／講義内で使用するため必携                                  |

## 参考書 / Reference Books

| 書名 / Title | 出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment |
|------------|----------------------------------------------------------|
| 心理検査の実践    | 水田善次郎 編／ナカニシヤ出版／／                                        |

## 参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

## その他 / Others

## 心理臨床論 S S 心理臨床 S

15094

担当者名 / Instructor 久松 睦典

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Description

“カウンセリング”や“心のケア”“臨床心理士”といった言葉がテレビや新聞に登場することが多くなってきました。皆さんはこうした言葉から、どのようなことを連想するでしょうか。災害や事件・事故の被害者への心理的支援はこれまでもないがしろにされてきたから大切なことだと考える人もいれば、あるいは心のケアなんて人の内面に土足で踏み入れるようなおせっかいなことなのではないかと感じる人もいるかもしれません。いずれにせよ、これほど個人の心に関心が向けられるようになったのは現代社会の大きな特徴なのです。

この講義は、心理的な対人援助とはどういう援助なのかということについて、事例や映像などの素材をもとにできるだけ具体的に考え、学ぶことを目的としています。グループで議論を行ったり、講義内にレポートを書いてもらうこともありますので、積極的に参加してください。

## 到達目標 / Focus and Goal

- (1) 臨床心理学の成立や発展の歴史を知る。
- (2) 臨床心理学の代表的な学派の人間観や理論を理解し、説明できる。
- (3) 心理学的な対人援助に関する基本的な知識を身につける。
- (4) 現代社会において心理臨床の果たす役割や、問題点を理解する。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

## 授業スケジュール / Schedule

| 授業日 (第N回) | テーマ / Theme    | キーワード / Key Word               |
|-----------|----------------|--------------------------------|
| 第1回       | 臨床心理学とは        | カウンセリング、心のケア、医学モデルと成長モデル、苦悩する力 |
| 第2回       | 悪魔祓いからカウンセリングへ | 神話的世界、物語、世界の脱魔術化               |
| 第3回       | 無意識の発見         | 近代的主体、心の内面化                    |
| 第4回       | 〈私〉ということ       | 意識と無意識、自我、アイデンティティ             |
| 第5回       | パーソナリティとは      | タイプ論、特性論                       |
| 第6回       | 心は測ることができるか    | 心理アセスメント、知能検査、性格検査             |
| 第7回       | 関係性を観る         | 人間関係、相互作用                      |
| 第8回       | 「秘密」と心の病い      | 精神病理、秘密                        |
| 第9回       | ライフサイクルと心理臨床   | 発達、ライフサイクル、思春期、死               |
| 第10回      | 心を言葉にする        | 精神分析、無意識の意識化                   |
| 第11回      | 人の心が変わるとき      | 関係性、共感、体験                      |
| 第12回      | 心理療法とイメージ      | 夢、描画、箱庭                        |
| 第13回      | 子どもの心理療法       | 遊び、親子関係                        |
| 第14回      | 事例から学ぶ         | 事例研究                           |
| 第15回      | 現代社会と心理臨床      | 心と社会、心理臨床という問題群                |

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

心理学の基礎的な知識を前もって身につけておくと、講義内容が理解しやすいと思います。心理学にまったく触れたことがないという人は、たとえば  
 ギリアン・バトラー／フリーダ・マクマナス著『心理学——PSYCHOLOGY (1冊でわかる) シリーズ』(山中康裕訳、岩波書店、2003年)  
 などの入門書に目を通しておいってください。

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

| 種別 / Kind | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc. |
|-----------|-----------------|-------------------------------|
| 定期試験      | 70 %            |                               |
| 日常点       | 30 %            | 講義内の課題への取り組みおよび小レポート          |

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

## 教科書 / Textbooks

| 書名 / Title                     | 出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment |
|--------------------------------|----------------------------------------------------------|
| 『臨床心理学入門: 理解と関わりを深める』<br>1998年 | 氏原寛・杉原保史編／培風館／4563056197／                                |

## 参考書 / Reference Books

**書名 / Title**

**出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment**

『「こころ」の本質とは何か』 2004年

滝川一廣／ちくま新書／4480059954／

『心理療法序説』 1992年

河合隼雄／岩波書店／4000026909／

他、講義中に適時紹介します。

**参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course**

**その他 / Others**

## スポーツ規範論 S S スポーツ文化論II S

15029

担当者名 / Instructor 草深 直臣

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Description

〔スポーツの構造と規範〕 スポーツ文化論で解明した問題の所在をふまえて、文化様式としての内容・構成要素を分析する。スポーツが単なる日常の身体活動と異なる最大の理由は、それが“ルール”によって設定された虚構空間としての特殊な活動であるからである。では、スポーツ・ルールはどのような意味を持つのか、それはどんな原則から成り立つのか、変化は何故起こるのかについて、解明する。第二に、スポーツは一つのシンボルであり、メッセージである。それはどんな意味と理念をもつものなのか、を解明することを通じて、“ルール”に隠された規範のあり方を解明する。そして、そのことを通じてプロとアマ、エリートとマスに分裂した多元的スポーツ観を問い直し、スポーツ競技の意味と評価のあり方を展望する。

## 到達目標 / Focus and Goal

スポーツにルールがあることは、だれもが知っている。しかし、ルールの原則と意味を理解しているものは少ない。スポーツのビジネス化の中で、変貌を遂げている現代スポーツをルールに焦点をあて、スポーツ精神のありようを吟味する。したがって、ルールの原則にかかわる基礎的知識を理解し、スポーツ精神に込められた規範を捉え直す論理力を身につけるとともに、現代スポーツの深部を洞察する力を養う。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enrolle in, but not required to

「スポーツ文化論」を基本に、「余暇論」「レジャー・スポーツ社会学」「レジャー・スポーツ史」「比較スポーツ論」を履修しておくことが望ましい。

## 授業スケジュール / Schedule

| 授業日 (第N回) | テーマ / Theme                                                         | キーワード / Key Word |
|-----------|---------------------------------------------------------------------|------------------|
| 第1週       | (序) スポーツ・ルールの意味: (1) 時事問題からルールを探る                                   |                  |
| 第2週       | (2) ルールの意味空間と技の構成: Wrestling/角力/相撲                                  |                  |
| 第3週       | (I) 2つのルール: (1) 慣習からの明文化 (2) ルールの性質: 明示性と暗示性                        |                  |
| 第4週       | (II) 明示的ルール (1) 明示的ルールの5つの原則                                        |                  |
| 第5週       | 同上                                                                  |                  |
| 第6週       | (II) (2) 明示的ルールの性格と役割: 不変性と可変性 (3) 明示的ルールの構成                        |                  |
| 第7週       | (II) (4) ルールの変化と要件: 変化の8要因                                          |                  |
| 第8週       | 小テスト: 第II章明示的ルールに関する基礎知識                                            |                  |
| 第9週       | (III) ルールの暗示性とスポーツ規範 (1) ルールを支えるモラル: 「禁止されていない」プレイと「許されていない」プレイの逆進性 |                  |
| 第10週      | (2) スポーツマンの行動綱領 (3) スポーツマンシップとフェアプレイ: 「競うことの正義」                     |                  |
| 第11週      | (4) 日本的スポーツ精神と武士道的倫理 (5) 欧州会議「フェアプレイ宣言」                             |                  |
| 第12週      | (IV) 現代スポーツ規範の動揺とドーピング問題: (1) ドーピング問題の社会的基盤                         |                  |
| 第13週      | (2) ドーピングの禁止根拠とスポーツモラル: 生命の自己決定権と普遍的人間性                             |                  |
| 第14週      | (V) スポーツの競争と交流 (1) 競争の序列と結果主義 (2) 「競い合い」かたの美学                       |                  |
| 第15週      | (3) スポーツの価値と観賞 (4) 虚構の中の真実                                          |                  |

## 学部科目 / Undergraduate Courses 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## 大学院科目 / Graduate Courses 授業の方法 / Course Style

マスコミから流れるスポーツ情報に鋭く反応し、その言説の深部を探り当てるように感性を研ぎ澄ますこと。

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

| 種別 / Kind | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc. |
|-----------|-----------------|-------------------------------|
| 定期試験      | 80 %            | スポーツモラルの基本を理解し、現実を洞察する論理力。    |
| その他       | 20 %            | 小テスト: 基礎的知識                   |

小テストを受けられないものについては、定期試験の「論述式」で救済を考慮する。

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

スポーツ知識は「常識」のようであるが、その「常識」を疑うことから始めること。『ルール』を覚え、守るのではなく、考え、変えていく立場で現実を見据えること。



**教科書 / Textbooks**

テキストは使用しない。

**参考書 / Reference Books**

| 書名 / Title    | 出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment |
|---------------|----------------------------------------------------------|
| スポーツの自由と現代 下巻 | 草深直臣他編著 / 青木書店 / /                                       |
| スポーツ・ルールの社会学  | 中村敏雄 / 有斐閣 / /                                           |
| スポーツのモラルを考える  | 近藤良享 / 大修館 / /                                           |

参考文献・資料については、レジュメに明記する。

**参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course****その他 / Others**

- 1) レジュメは、資料を含めて章・節ごとに教室でのみ配布する。
- 2) 解らないことはその場で質問すること。解った気にならないこと。

## スポーツ行動論 S

15081

担当者名 / Instructor 谷口 雅子

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Description

現在のジェンダー論では、性差に関する本質主義的な考えを退け、身体的な差異と言われてきたものそれ自体も、言説により構築されたものであるという議論がなされている。その一方で、たとえばスポーツ場面において、そのような理念の正当性よりも身体感覚に依存する選択がなされている現状がある。本講義では、スポーツとジェンダーをとらえる視点を提示しながら、このような理念と感覚のズレが生じている要因と今後の展望について考える。

## 到達目標 / Focus and Goal

- ・スポーツとジェンダーをとらえる視点について理解できる。
- ・スポーツにおけるジェンダーについて問題意識を持ち、自分の考えを示すことができる。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enrolle in, but not required to

## 授業スケジュール / Schedule

| 授業日 (第N回) | テーマ / Theme         | キーワード / Key Word     |
|-----------|---------------------|----------------------|
| 第1回       | 本講義の目的と流れ           |                      |
| 第2回       | ジェンダー研究の流れ          | セックス、ジェンダー、本質主義、構築主義 |
| 第3～6回     | スポーツとジェンダーについて考える視点 | 規範、身体、妥当性            |
| 第7回       | スポーツとジェンダーに関する問題点   | 「あたりまえ」を見直す          |
| 第8～9回     | 明治・大正期のスポーツとジェンダー   | 性別役割分担、暴力の抑制、規律・訓練   |
| 第10～13回   | 現代のスポーツとジェンダー       | 自由の拡大、多様性の尊重         |
| 第14回      | まとめ                 |                      |
| 第15回      | 定期試験                |                      |

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

| 種別 / Kind | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc.               |
|-----------|-----------------|---------------------------------------------|
| 定期試験      | 70 %            | 本講義で取り上げた視点を理解し、自分の言葉で論じることができているかどうかを評価する。 |
| 日常点       | 30 %            | 授業内レポートや、授業内容に関するコメントの提出を随時求め、総合的に評価する。     |

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

## 教科書 / Textbooks

## 参考書 / Reference Books

| 書名 / Title     | 出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment |
|----------------|----------------------------------------------------------|
| スポーツ文化を学ぶ人のために | 井上俊・亀山佳明他／世界思想社／／                                        |
| 女であることの希望      | 吉澤夏子／勁草書房／／                                              |
| <身体>は何を語るのか    | 見田宗介他編／新世社／／                                             |

## 参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

## その他 / Others

## スポーツ産業論 S S スポーツ産業論I S

13031

担当者名 / Instructor 海老島 均

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Description

市場主義者のイデオロギーであるグローバリゼーションという世界観に席捲されているスポーツの世界では、ビッグマネーの力で上方統合され、ローカルな組織の経済的統制力が骨抜きにされている。そこで敢えて「地域社会」というキーワードでスポーツ産業論を論じることは意義があるとの判断から本講義を構成した。

## 到達目標 / Focus and Goal

スポーツが持つ「地域」を活性化させる可能性、市場社会において消費されるスポーツなど、「産業」をキーワードにスポーツを取り巻く現代社会の様相を理解すること。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

## 授業スケジュール / Schedule

| 授業日 (第N回) | テーマ / Theme                       | キーワード / Key Word                     |
|-----------|-----------------------------------|--------------------------------------|
|           | イントロダクションースポーツ産業論の視点              | 消費財としてのスポーツ、スポーツ科学とスポーツ産業            |
|           | グローバリゼーションとスポーツ産業①                | グローバリゼーション、統括団体、スポーツ関連企業、マスメディア      |
|           | グローバリゼーションとスポーツ産業②                | グローバリゼーション、伝統文化、多国籍企業、スウェットショップ      |
|           | 国内のプロスポーツとスポーツ産業                  | プロ野球、Jリーグ、スポーツの公共性、プロスポーツ経営、セカンドキャリア |
|           | スポーツファンの文化とメディア                   | 消費者、スポーツの公共性、市場、マスメディア               |
|           | 国内のスポーツ振興と地域社会に関する諸問題             | スポーツ振興基本計画、総合型地域スポーツクラブ、地域振興         |
|           | 総合型地域スポーツクラブとスポーツNPO              | 総合型地域スポーツクラブ、スポーツNPO、PFI、指定管理者制度     |
|           | 諸外国におけるスポーツ振興と地域社会① (イギリス)        | 地域のアイデンティティ、ウィンブルドン選手権、プレミアリーグ、ラグビー  |
|           | 諸外国におけるスポーツ進行と地域社会② (ドイツ)         | 地域クラブ、ブンデスリーグ、企業とスポーツ振興              |
|           | 諸外国におけるスポーツ振興と地域社会③ (アイルランド)      | アイリッシュ・スポーツ・カウンシル、GAA、ローカル対グローバル     |
|           | スポーツとギャンブル                        | スポーツのギャンブル性、公営ギャンブルとスポーツ振興           |
|           | スポーツ産業と近代スポーツの臨界点 (ドーピング、環境破壊問題等) | ドーピング、スポーツ科学、環境問題、近代スポーツの臨界点         |
|           | まとめとスポーツ産業の将来像                    | スポーツの公共性、スポーツ文化                      |
|           | 試験                                |                                      |

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

| 種別 / Kind        | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc.  |
|------------------|-----------------|--------------------------------|
| 定期試験             | 50 %            | 講義内容に関する理解度およびそれぞれのテーマに関しての洞察力 |
| 日常点              | 50 %            | 講義へのコミットメントの度合い                |
| 日常点と試験から総合的に評価する |                 |                                |

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

## 教科書 / Textbooks

特定のテキストは使用しない。

## 参考書 / Reference Books

佐伯年詩雄著『現代企業スポーツ論』不昧堂出版 (2004)  
 黒須・水上編著『ジグソーパズルで考える総合型地域スポーツ社会』大修館書店 (2002)  
 佐伯聡夫編著『スポーツイベントの展開と地域社会形成』不昧堂 (2000)

## 参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

必要に応じて授業で紹介する

その他 / Others

国内外のスポーツが抱える問題について、広く問題意識を強く持っていて欲しい。

## スポーツ社会学 S S スポーツ社会学I S

15194

担当者名 / Instructor 山下 高行

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Description

「スポーツを社会学する」とはどのようなことだろうか。そうすることで何が見えてくるのだろうか。本講義では、この問いに答えるためこれまで研究されてきたスポーツ社会学の代表的研究や理論の紹介を通し、何が、どのように見えてくるのかを示すこととしたい。またこの講義では、その応用問題にあたるが、今日のスポーツを、スポーツ社会学はどのように捉え、何を問題として見ようとしているのか説明することとしたい。

## 到達目標 / Focus and Goal

- ・スポーツを社会的に見るとはどのようなことか、そのことによって得られる新しいスポーツに対する見方とはどのようなものなのかを理解することを目的とします。
- ・そのことを通して、現代のスポーツの問題を、各自が「社会的文脈」と関連づけてとらえることができるようになることを、最終的な目的とします。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enrolle in, but not required to

・スポーツ社会学は文字通り「社会学」の一つです。従って、社会学の基礎理論の科目をあらかじめ、または並行して受講することで理解が深まると思います。

## 授業スケジュール / Schedule

| 授業日 (第N回) | テーマ / Theme                               | キーワード / Key Word               |
|-----------|-------------------------------------------|--------------------------------|
| 第一回       | スポーツ社会学とは; 歴史と研究状況                        |                                |
| 第二回       | スポーツの社会化                                  | 社会化、エージェント                     |
| 第三回       | スポーツ・バーナウトの構造                             | バーナウト、ドロップアウト、トランスファー          |
| 第四回       | 役割期待のアンヴィバレンス                             | 組織、役割                          |
| 第五回       | 組織構造とパフォーマンス                              | P機能、M機能、権限構造                   |
| 第六回       | 小集団の凝集性                                   | ソシオメトリー、FIRO-B                 |
| 第七回       | 「日本的」スポーツ組織の構造                            | 属性原理、業績原理                      |
| 第八回       | スポーツ社会学の代表的理論 (1) ブルデューとフランススポーツ社会学       | スポーツの選択原理、階級                   |
| 第九回       | スポーツ社会学の代表的理論 (2) カルチュラル・スタディーズと英国スポーツ社会学 | 表象分析、ジェンダー、階級                  |
| 第十回       | スポーツ社会学の代表的理論 (3) ナショナリズムとスポーツ            | 開会式、国民                         |
| 第十一回      | スポーツ社会学の代表的理論 (4) エリアス「文明化の過程」とスポーツ       | 近代文化、情動の制御                     |
| 第十二回      | スポーツ社会学の代表的理論 (4) グローバルスポーツの展開            | スポーツ=メディアコンプレックス、スポーツ移民、スポーツ商品 |
| 第十三回      | 日本社会の変容とスポーツ (1) スポーツの産業化とスポーツの社会的基盤の変化   | 第二臨調・行革、プラザ合意、スポーツビジネス         |
| 第十四回      | 日本社会の変容とスポーツ (2) スポーツの場の反転                | Jリーグ、サポーター、地域                  |
| 第十五回      | まとめ: スポーツの新しい可能性                          |                                |

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

各授業前後に指示することとしたい。

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

| 種別 / Kind | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc.                             |
|-----------|-----------------|-----------------------------------------------------------|
| 定期試験      | 80 %            | 1. 授業内容の理解度 (概念の正しい理解が主となる)。2. 自身の問題設定の仕方。                |
| 日常点       | 20 %            | 理解度をどうレポート作成を授業中に数回課することとしたい。評価は基本的に提出の有無、および内容の評価によって行う。 |

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

なるべく身近な例を取り上げ、理解を促すようにしたい。また可能な限り、スポーツの現場に携わるゲストスピーカーを招聘することも予定したい。

## 教科書 / Textbooks

教科書は使用しないが、授業時にテーマに関わるプリント資料を毎回配布することとしたい。

## 参考書 / Reference Books

日本語文献では現在各テーマを網羅するようなものがないので、各授業時にテーマに沿って各々指示する。

参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

[www.jsss.jp](http://www.jsss.jp) (日本スポーツ社会学会公式ホームページ)、[www.spo-sun.gr.jp](http://www.spo-sun.gr.jp) (日本スポーツ産業学会ホームページ)

その他 / Others

## スポーツ文化論 S S スポーツ文化論I S

12960

担当者名 / Instructor 草深 直臣

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Description

2005年は、国連の「体育・スポーツ国際年」であった。スポーツは単なる身体運動として存在するのではなく、人間の創り上げた文化様式として、また国境を越える世界文化として益々注目されている。そのために、学生諸君が持っているスポーツの固定観念をうち破り、スポーツの概念を歴史的にたどりながら、その社会的背景を捉えることを重視する。更に、その概念から構想されるスポーツ機構 (Institution) の意味と問題点に焦点を当て、スポーツ文化を構造的に把握し、その構成要素と基本的枠組みを提示し、スポーツ諸科学との関係を明らかにする。

## 到達目標 / Focus and Goal

多くの人が経験的に持つスポーツ観念を打ち破り、スポーツを文化として成り立たせている要素を抽出し、人間-スポーツ-社会の枠組みでスポーツの総体を把握する方法論の基礎を身に着ける。概念史、理論史を踏まえることによって、現代スポーツの諸問題にアプローチする方法を理解する。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

教養科目「スポーツと現代社会」「スポーツの歴史と発展」を事前に履修しておくことが望ましい。

## 授業スケジュール / Schedule

| 授業日 (第N回) | テーマ / Theme                                                        | キーワード / Key Word                           |
|-----------|--------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------|
| 第1週       | 序章：(1)体験としてのスポーツと意識・感覚言語とスポーツ用語 体験からの脱却                            |                                            |
| 第2週       | (2)グローバル化とスポーツ。世界文化としてのスポーツ                                        |                                            |
| 第3週       | I 章 スポーツ概念の変遷 (1) スポーツの語源                                          | (2) 英語圏                                    |
| 第4週       | (3) ドイツ語圏・フランス語圏、中国語圏と日本語圏                                         | (4) スポーツ概念の特徴：行為本性説と目的価値的規定。(5) スポーツの外延と内包 |
| 第5週       | II 章 スポーツ機構説の土台 (1) 競技志向とプレイへの注目                                   | (2) ホイジンガ”ホモ・ルーデンス”、(3) カイヨワ”2極4領域”説       |
| 第6週       | III 章 スポーツ機構説の確立 (1) ロイのカイヨワ批判                                     | (2) スポーツの多層的把握                             |
| 第7週       | (3) 機構化の指標：a) 組織 b) 技術 c) シンボル d) 教育                               |                                            |
| 第8週       | (4) 社会機構としてのスポーツ：a) プレイヤー・ノートコントロール (Edward) b) 管轄機構の支配力 c) 機構の問題点 |                                            |
| 第9週       | (5) 社会状況としてのスポーツ                                                   | (6) ロイ「スポーツ機構」説の特徴と問題点                     |
| 第10週      | IV 章 スポーツ機構説の展開：(1) 佐伯「スポーツ体系説」                                    |                                            |
| 第11週      | (2) 多々納「スポーツ・シンボル」説                                                | (3) 構造-機能主義の問題点                            |
| 第12週      | V 章 スポーツの構造的把握にむけて (1) プレイ論の主観主義                                   | (2) 客観的実在としてのスポーツ                          |
| 第13週      | (3) 草深「2層3領域」説の提示                                                  |                                            |
| 第14週      | (4) スポーツ構造における機構の主導性                                               |                                            |
| 第15週      | (5) 競技と交流：結果と過程 (6) 応援と観賞                                          |                                            |

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

マスコミにおけるスポーツ言説に惑わされずに、人間にとってスポーツとは何か、スポーツ現象を支える社会機構を見抜くように、リテラシー感覚を磨くこと。

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

| 種別 / Kind | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc.  |
|-----------|-----------------|--------------------------------|
| 定期試験      | 100 %           | 基礎的知識の理解、理論的展開の総合的把握、現実の論理的分析力 |

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

スポーツ・ゲームを体験的、固定的に理解せず、社会的影響によって変化・変質する文化構造を多角的に捉える観点に注視して欲しい。出欠は取らないが、出席しないと理解できないし、高回生配当科目の位置づけも明確にならない。

## 教科書 / Textbooks

教科書は指定しない。

## 参考書 / Reference Books

| 書名 / Title    | 出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment |
|---------------|----------------------------------------------------------|
| スポーツの自由と現代、上下 | 伊藤高弘・草深直臣他編／青木書店／／                                       |

スポーツの概念

体育原理分科会編／不昧堂／／

スポーツ文化を学ぶために

スポーツ社会学会編／世界思想社／／

その他、参考文献は各章毎にレジユメに明記する。

参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

その他 / Others

- 1) 解らないことは、できる限りその場で質問すること。
- 2) レジユメは区切りの良い章、または節ごとに、教室でのみ配布する。レジユメ配布は予告する。



## スポーツメディア論 S § スポーツ・メディア論 I S

15190

担当者名 / Instructor 川口 晋一

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Description

本講義では、スポーツイベントとメディアがどのような関係にあるのか、スポーツ番組がどのように構成されているのか、視聴者や読者がどのような状況に置かれているのかといった問題を、スポーツ文化それ自体の特性(メディア性)をふまえて考察していく。

## 到達目標 / Focus and Goal

スポーツの意味や価値が自明のものではなく、様々な力関係もとで、一定の仕掛けを経て創り出されていること、「メディアスポーツ」が政治・経済や権力と深く結びついたものであることを主要なテーマとして追求する。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

「スポーツと現代社会」

## 授業スケジュール / Schedule

| 授業日(第N回) | テーマ / Theme                 | キーワード / Key Word |
|----------|-----------------------------|------------------|
| 1        | スポーツとメディアに関する研究—領域と課題       |                  |
| 2        | テレビにおける映像変形の原理              |                  |
| 3        | スポーツ番組のプロデュース—その一例          |                  |
| 4        | 「利用と満足」研究とスポーツ視聴の「多様性」      |                  |
| 5        | 「メディアスポーツ」の構造—その生産・流通・消費の過程 |                  |
| 6        | 中間まとめ                       |                  |
| 7        | 「レビュー番組」の構造と役割              |                  |
| 8        | メディアがつくる物語—その提示と修正について      |                  |
| 9        | 「メディアイベント論」とスポーツ            |                  |
| 10       | 高校野球の発展と新聞の社会面の役割           |                  |
| 11       | 武道の普及とメディアの役割               |                  |
| 12       | 「文化装置」としての国民体育大会            |                  |
| 13       | メディアによる分節・接合                |                  |
| 14       | まとめ：作り手の意図と読み手の多様性          |                  |
| 15       | 定期試験                        |                  |

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

| 種別 / Kind | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc. |
|-----------|-----------------|-------------------------------|
| 定期試験      | 80 %            | 備考欄参照                         |
| 日常点       | 20 %            | 備考欄参照                         |

数度にわたって授業内レポートあるいは小テストを予告なしで課す予定である。定期試験のみで合格ラインの60点以上を取る受講生が例年少数である状況からして、20%分の日常点を稼ぐことなしの合格は難しいと理解してもらう必要があるだろう。日頃から授業に出席して勉強してもらいたい。

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

## 教科書 / Textbooks

教科書は使用しない。

## 参考書 / Reference Books

適宜授業の中で紹介する。

## 参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

## その他 / Others

受講を検討する際に、本講義が、メディアの制作現場のハウ・トゥーものや単なる現場の現状分析でないことに十分注意してもらいたい。また、他学部受講を考えている学生は、本講義が産業社会学部の専門科目であることを十分考慮に入れる必要があり、単にスポーツに関心があるという理由で受講すべき科目ではない。他学部受講生の合格率は低い。

## 生活構造論 S

15177

担当者名 / Instructor 西田 心平

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Description

生活構造論とは近代日本の生活の構造や変動を扱ってきた議論の総称です。本講義では生活構造論の蓄積をくわしく紹介し、その上で現代の具体的な生活問題について考えていきます。

## 到達目標 / Focus and Goal

- ・生活の変動を近代から現代の幅広い流れの中で解釈することができる。
- ・現代の生活問題をその流れの中に位置づけて捉えることができる。
- ・その問題の本質を自分なりの言葉で論じることができる。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

とくにありません。

## 授業スケジュール / Schedule

| 授業日 (第N回) | テーマ / Theme  | キーワード / Key Word     |
|-----------|--------------|----------------------|
| 第1回       | 本講義のガイダンスと導入 |                      |
| 第2回～第5回   | 生活構造論の基礎理論   | 生活研究、国民生活、履歴現象、      |
| 第6回～第9回   | 近代日本の生活変動    | 貧困、生活様式、社会階層、        |
| 第10回      | 中間的まとめ       |                      |
| 第11回～第14回 | 現代の生活問題の考察   | 新たな貧困、フレキシビリティ、不安定就労 |
| 第15回      | 全体的まとめ       |                      |

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

とくにありません。

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

| 種別 / Kind | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc.        |
|-----------|-----------------|--------------------------------------|
| 定期試験      | 80 %            | 講義内容の理解度や受講生の見解について論述問題等を通じて評価する。    |
| 日常点       | 20 %            | 講義の進度に合わせて、何度が理解度を確認するための簡単なレポートを課す。 |

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

板書はありません。ポイントを自分なりにノートすることで理解は深まります。もちろん毎回出席されることが前提です。

## 教科書 / Textbooks

特定のテキストは使用せず、講義毎にレジュメを配布します。なお、講義においてVTR等の視聴覚教材を用いることもあります。

## 参考書 / Reference Books

参考文献については講義の流れの中で随時紹介していきます。

## 参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

参考になるWWWページについては講義の流れの中で随時紹介していきます。

## その他 / Others

講義のスケジュール (進度やトピック) については若干の変更があり得ます。

## 生活福祉論 S S 都市生活特論 S

15033

担当者名 / Instructor 西田 心平

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Description

政治・経済のグローバル化、人口の減少、格差の拡大といった変動にともなって、これまで社会福祉の対象であった「住民」像がそれほど均質のものではなくなってきている。この講義では、私たちの身近な地域社会を構成している生活主体 (=「住民」) とは誰か? という問いかけを軸としながら、その主体の多様性から見てくる現代福祉の問題点と可能性について検討する。

## 到達目標 / Focus and Goal

- ・生活主体の多様性と福祉との関係について理解できる
- ・それがマクロな変動とどのように関わっているのか考察できる。
- ・具体的な生活主体をとりあげ、それをめぐる福祉の問題点を論じることができる。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enrolle in, but not required to

社会学の基本的な知識が求められる。

## 授業スケジュール / Schedule

| 授業日 (第N回) | テーマ / Theme  | キーワード / Key Word    |
|-----------|--------------|---------------------|
| 第1回       | 本講義のガイダンスと導入 | 生活福祉の視点             |
| 第2-4回     | 家族問題と福祉      | 生活変動 家族機能 ジェンダー     |
| 第5-7回     | 高齢者世帯と福祉     | 生活格差、単身者化 家族と介護     |
| 第8回       | 中間まとめ        |                     |
| 第9-11回    | 外国人労働者と福祉    | エスニシティ 定住化と参加 多文化主義 |
| 第12-14回   | ホームレスと福祉     | 低所得者 社会的セーフネット 若者問題 |
| 第15回      | 全体まとめ        |                     |

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

とくにありません。

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

| 種別 / Kind | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc.        |
|-----------|-----------------|--------------------------------------|
| 定期試験      | 80 %            | 講義内容の理解度や受講生の見解について論述問題等を通じて評価する。    |
| 日常点       | 20 %            | 講義の進度に合わせて、何度か理解度を確認するための簡単なレポートを課す。 |

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

詳細な板書はしません。ポイントを自分なりにノートすることで理解は深まります。もちろん毎回出席されることが前提です。

## 教科書 / Textbooks

特定のテキストは使用せず、テーマ毎にレジュメを配布する予定です。なお、講義においてVTR等の視聴覚教材を用いることがあります。

## 参考書 / Reference Books

| 書名 / Title    | 出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment |
|---------------|----------------------------------------------------------|
| 『人間らしく生きる福祉学』 | 加藤直樹ほか編著／ミネルヴァ書房／／                                       |
| 『日本都市の生活変動』   | 中川清／勁草書房／／                                               |
| 『リスク社会を生きる』   | 橋本俊昭編／岩波書店／／                                             |

## 参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

参考になるWWWページについては講義の流れの中で随時紹介していきます。

## その他 / Others

講義のスケジュール (進度やテーマ) については若干の変更があり得ます。

## 生活文化論 S S 生活文化論I S

12203

担当者名 / Instructor 中村 治

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Description

環境破壊の原因を思想に求めるのではなく、暮らしの変化に求める。そして戦後に暮らしの大きな変化が起こるまで、どのように暮らしが営まれていたのか、それがどのような過程を経て変化し、その結果、どのような問題が起こってきたのか。昔の暮らしぶりを写した写真を見ることにより、身近な暮らしの変化から、現代社会がかかえる諸問題を考察する。

## 到達目標 / Focus and Goal

自分の身近なところで起こっている変化を見つめ、その変化の原因について考え、その変化と自分とのかかわりについて考える力を養う。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

## 授業スケジュール / Schedule

| 授業日 (第N回) | テーマ / Theme                                                           | キーワード / Key Word                           |
|-----------|-----------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------|
| 第1回       | 環境破壊の原因はキリスト教にあるのではないかというリン・ホワイトによる問題提起                               | リン・ホワイト、聖書、創世記                             |
| 第2回       | アウグスティヌス、トマス・アキナス、ニコル・オレーム、フランシス・ベーコン、デカルトらの説を見ることによって、リン・ホワイトの説を検証する | アウグスティヌス、トマス・アキナス、ニコル・オレーム、フランシス・ベーコン、デカルト |
| 第3回       | ヨーロッパ中世の産業革命を見ることにより、自然に対する人間の支配力が増大していった様子を見る                        | 農業革命、馬、水力利用、毛織物業                           |
| 第4回       | 暮らしの変化が始まる前の京都近郊農家の一年                                                 | 米、麦、野菜、豆、自給自足                              |
| 第5回       | 食                                                                     | 地産地消                                       |
| 第6回       | 農作業の機械化                                                               | 購入費用、保管場所                                  |
| 第7回       | 暮らしの機械化                                                               | 電化                                         |
| 第8回       | 運搬方法の変化                                                               | 汽車、電車、バス、トラック、車                            |
| 第9回       | 燃料の問題                                                                 | 山林荒廃、地球温暖化                                 |
| 第10回      | 廃水処理の問題                                                               | 電動ポンプ、水道、すいも、下水処理、水質悪化                     |
| 第11回      | 子どもの暮らしの変化                                                            | 地域共同体、地域の目                                 |
| 第12回      | 冠婚葬祭の変化                                                               | 地域共同体、葬列                                   |
| 第13回      | 小学校卒業写真に見る暮らしと風俗の変化                                                   | 洋服、学生服、髪型、戦争                               |
| 第14回      | 地域と障害者                                                                | 精神病者家族的看護、岩倉、大雲寺                           |
| 第15回      | 学生による発表                                                               |                                            |

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

古い写真を家族、親戚、知人から借りて、コピーし、その写真が暮らしの変化においてどのような意味を持っているのか聞いて、発表すること。

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

| 種別 / Kind | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc.          |
|-----------|-----------------|----------------------------------------|
| 定期試験      | 10 %            | 小テスト。                                  |
| レポート      | 50 %            | 身近な問題を取り上げること。独自の資料を集めること。聞き取りをしていること。 |
| 日常点       | 20 %            | 身近な問題にどれだけ関心を持っているか。                   |
| その他       | 20 %            | 写真についての聞き取りの成果の発表。                     |

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

自分の身近なところで起こっている変化に注意し、その変化の原因について考え、その変化と自分との関係において考える力を養うこと。

## 教科書 / Textbooks

| 書名 / Title        | 出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment |
|-------------------|----------------------------------------------------------|
| 『あこのろ京都の暮らし』2004年 | 中村治／世界思想社／ISBN4-7907-1095-5／                             |

## 参考書 / Reference Books

- 『京都洛北の原風景』、中村治、世界思想社、2000年、ISBN4-7907-0816-0。  
 『癒しの里・洛北岩倉』、中村治・青山純、岩倉の歴史と文化を学ぶ会、2000年。  
 『京都府レッドデータブック』下巻(地形・地質・自然生態系編)、京都府企画環境部企画課、2002年。  
 『洛北岩倉研究』第1号～第7号、岩倉の歴史と文化を学ぶ会、1997年～2003年。  
 『卒業写真で見る暮らしと風俗の変化』、中村治、岩倉の歴史と文化を学ぶ会、2003年。

『古写真で語る京都—映像資料の可能性—』、京都映像資料研究会編、淡交社、2004年、ISBN4-473-03149-7。

参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

その他 / Others

## 精神分析論 S S 精神分析論I S

15060

担当者名 / Instructor 村本 邦子

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Description

フロイトによる精神分析の基礎を学び、人間理解を深めるとともに、精神分析が、私たちの文化や社会に与えてきた影響を考察することを目的とする。講義では、フロイトの生きた時代的背景について学んだ後、フロイトの主要論文と概念を取り上げ、解読していく。途中、精神分析を扱った映画なども参照する。最後に、批判を含め、フロイト以降の精神分析の発展を概観する。

## 到達目標 / Focus and Goal

精神分析の基礎概念を学び、精神分析が与えた現代文化への影響を批判的に見れるようになる。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

とくになし

## 授業スケジュール / Schedule

| 授業日 (第N回) | テーマ / Theme                  | キーワード / Key Word |
|-----------|------------------------------|------------------|
| 10月2日     | フロイトの生い立ちと時代背景               | 1個人的背景と精神分析      |
| 10月9日     | 精神分析と映画①                     |                  |
| 10月16日    | ヒステリー入門                      | 誘惑理論、カタルシス       |
| 10月23日    | 精神分析の確立：誘惑理論からエディプス・コンプレックスへ | エディプスコンプレックス     |
| 10月30日    | 夢判断                          | 夢、願望充足           |
| 11月6日     | 精神分析と映画②                     |                  |
| 11月13日    | 日常生活の精神病理                    | 錯誤行為             |
| 11月20日    | 神経症総論                        | 抑圧、抵抗、転移         |
| 1月27日     | 精神分析と映画③                     |                  |
| 12月4日     | 続精神分析                        | 自我、超自我、エス        |
| 12月11日    | フロイトの死と世界観                   | 死の欲動             |
| 12月18日    | 精神分析と映画④                     | 喪失と服喪            |
| 12月25日    | フロイトまとめ                      |                  |
| 1月15日     | フロイト以後                       |                  |

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

| 種別 / Kind | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc.            |
|-----------|-----------------|------------------------------------------|
| 定期試験      | 80 %            | 教科書、ノートなど持ち込み可                           |
| 日常点       | 20 %            | 授業への積極的参加を評価する (コミュニケーションカードやWeb CTへの参加) |

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

## 教科書 / Textbooks

| 書名 / Title      | 出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment |
|-----------------|----------------------------------------------------------|
| 『援助者のためのフロイト入門』 | 村本邦子／三学出版／／                                              |

## 参考書 / Reference Books

| 書名 / Title | 出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment |
|------------|----------------------------------------------------------|
| フロイト全集     | ／人文書院/教文社／／                                              |

## 参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

## その他 / Others

## 精神保健福祉援助演習 S

14106

担当者名 / Instructor 生田 正幸、岡田 まり

単位数 / Credit 4

## 授業の概要 / Course Description

精神保健福祉援助実習と連動しながら、ソーシャルワーカーの専門性(価値・倫理、知識、技術)を培うことを目的とする。ゲームやディベート、グループワーク、ロールプレイといった様々な演習活動を通して、ソーシャルワーク専門職の理念や職業倫理、視点、そしてアセスメント・計画の策定・介入・評価・報告といった一連の実践のプロセスと方法を習得することを目指す。

## 到達目標 / Focus and Goal

- ・精神障害者の状況とニーズを、社会の動向や環境との相互作用に着目しながら理解し、説明することができる。
- ・精神保健福祉士の役割と実践の方法・プロセスについて述べるができる。
- ・精神保健福祉援助における課題と可能性について述べるができる。
- ・専門性を身につけるために今後、自らが取り組むべき課題について述べるができる。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enrolle in, but not required to

精神保健福祉援助演習は本科目と同時に履修しなければならない。  
他の精神保健福祉士課程専門科目をできるだけ事前に、もしくは本科目と同時に履修する必要がある。

## 授業スケジュール / Schedule

| 授業日(第N回)  | テーマ / Theme     | キーワード / Key Word                    |
|-----------|-----------------|-------------------------------------|
| 第1回       | オリエンテーション       | アイスブレイキング、グループワーク                   |
| 第2回       | ソーシャルワークとは      | KJ法                                 |
| 第3回       | ソーシャルワーク実践のプロセス | アセスメント、計画、介入、評価                     |
| 第4回       | コミュニケーション・スキル   | 観察、面接、記録                            |
| 第5回       | 支援の原理・原則        | ソーシャルワークの倫理綱領、バISTEックの7原則、ロジャースの3要件 |
| 第6回       | アセスメント          | 理論・モデルの応用、ICF、ガイドライン                |
| 第7回       | 計画              | 目標、課題、評価                            |
| 第8回       | 社会資源の活用         | 資源活用に関わる方針、既存の資源の発見・活用、新たな資源の開発     |
| 第9回～第10回  | 自己覚知            | 自分の長所・短所、ニーズ、希望、思考や行動の傾向            |
| 第11回～第13回 | ソーシャルワーク実践・事例検討 | アセスメント、計画、介入、評価                     |
| 第14回      | 様々な場面への対応       | SST                                 |
| 第15回      | 中間まとめ           | 学んだこと、今後の課題                         |
| 第16回～第17回 | グループワーク         | 実習、現場、利用者、職員、自己                     |
| 第18回～第23回 | スーパービジョン        | 状況把握、支援方法、自己覚知                      |
| 第24回～第26回 | 各領域でのソーシャルワーク   | 実習報告                                |
| 第27回～第29回 | 困難場面への対応        | SST                                 |
| 第30回      | まとめ             | 学んだこと、今後の課題                         |

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

授業で行った演習の内容を、授業時間外の様々な場面においても応用することで、スキルの習得がより効果的かつ確実にできる。試行錯誤しながらになるであろうが、意識的に活用しようとするのが大切。

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

| 種別 / Kind | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc. |
|-----------|-----------------|-------------------------------|
| 日常点       | 100 %           | 演習活動への参加、課題への取り組みなどを総合的に評価する。 |

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

## 教科書 / Textbooks

## 参考書 / Reference Books

## 参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

## その他 / Others

## 精神保健福祉援助技術各論Ⅰ S

13105

担当者名 / Instructor 知名 純子

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Description

精神障害者を中心とした援助技法の基礎について学び、また演習によってこれを体験することで、社会福祉援助活動の「価値」について総合的に理解する。

## 到達目標 / Focus and Goal

ケースワーク、グループワークの概略を説明し、その理解のための演習を行う。  
精神保健福祉分野における直接援助技術の基礎知識を習得すると共に、自己覚知を目指したい。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

どなたの受講も大歓迎ですが、精神障害及び精神疾患については学んでおられることを前提に講義致しますのでご了承ください。

## 授業スケジュール / Schedule

| 授業日 (第N回) | テーマ / Theme                  | キーワード / Key Word                             |
|-----------|------------------------------|----------------------------------------------|
|           | オリエンテーション                    | 交流分析、アサーショントレーニング                            |
|           | 精神障害者を対象としたケースワークとはⅠ         | 面接の意味と目的                                     |
|           | 精神障害者を対象としたケースワークとはⅡ         | 面接技法と演習                                      |
|           | 精神障害者を対象としたケースワークとはⅢ         | 記録の内容と演習                                     |
|           | 精神障害者を対象としたケースワークの実例Ⅰ        | 援助過程                                         |
|           | 精神障害者を対象としたケースワークの実例Ⅱ        | 援助計画                                         |
|           | 精神障害者を対象としたケースワークにおける具体的事例検討 | 事例に基づくケアマネジメント計画                             |
|           | 精神障害者を対象としたグループワークとは         | 「グループワークはなぜ必要か」① グループワークを体験することで、目的と意味を理解する。 |
|           | 精神障害者を対象としたグループワークの実例        | 精神科デイケアについて                                  |
|           | 精神障害者を対象としたグループワークの目的        | さまざまなレベルの目的、事前評価                             |
|           | 精神障害者を対象としたグループワーク準備         | メンバーの選択、メンバーの準備、ワーカーの準備、グループの大きさ             |
|           | 精神障害者を対象としたグループワークの始めかた      | メンバーへの不安の対処、プログラム活動、望ましい規範の形成                |
|           | 精神障害者を対象としたグループワークの発展段階      | グループの構造、グループへの介入、グループの葛藤                     |
|           | 精神障害者を対象としたグループワークの評価と終結     | 評価の重要性、評定尺度表、終結の重要性、メンバーによる評価、喪失感への対処        |

 (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment  
 (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

| 種別 / Kind                                                            | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc.        |
|----------------------------------------------------------------------|-----------------|--------------------------------------|
| レポート                                                                 | 40 %            | 期末に課題を提示します。                         |
| 日常点                                                                  | 30 %            | 授業の各回ごとにグループワークを行うか、もしくは感想を書いてもらいます。 |
| その他                                                                  | 30 %            | 出席、授業態度など                            |
| * 日常点評価<br>出席状況 (15%)、授業態度 (15%)、小レポート (30%)、期末レポート (40%) により総合評価する。 |                 |                                      |

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

## 教科書 / Textbooks

特に指定しない。

## 参考書 / Reference Books

授業で紹介します。

## 参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

精神保健福祉・精神障害者福祉に関するホームページ <http://www.005.upp.so-net.ne.jp/smtm/>  
日本精神保健福祉士協会 <http://www.mmjp.or.jp/psw/>

## その他 / Others



## 精神保健福祉援助技術各論Ⅱ S

15229

担当者名 / Instructor 知名 純子

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Description

精神障害者の生活支援を行うにあたって基本となる個別援助技術、集団援助技術を踏まえたうえで、コミュニティワークの実践の質をより深めるために必要な間接援助技術やその他関連援助技術のあり方について学ぶ。

## 到達目標 / Focus and Goal

コミュニティワークについて概略を説明し、その理解のための演習を行う。  
また、地域の社会復帰関連施設での見学・実習の体験を通して、精神障害者福祉分野のコミュニティワークについての理解を深め、コミュニティワーカーの役割を考える。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

どなたの受講も大歓迎ですが、精神障害や精神疾患について、及び個別援助技術・集団援助技術の基礎については、すでに学んでおられることを前提に講義致しますのでご了承ください。

## 授業スケジュール / Schedule

| 授業日 (第N回) | テーマ / Theme                       | キーワード / Key Word                 |
|-----------|-----------------------------------|----------------------------------|
|           | オリエンテーション                         | 理論の性格・・・時代に応じた概念の変化              |
|           | 間接援助技術の内容と機能Ⅰ                     | 地域援助技術、ソーシャルワーク・リサーチ             |
|           | 間接援助技術の内容と機能Ⅱ                     | ソーシャル・プランニング、関連する技術              |
|           | 関連専門援助技術について                      | 心理療法、家族療法、面接技法、SST               |
|           | 地域福祉の枠組み                          | 地域福祉をめぐる考え方の違い                   |
|           | これからの地域福祉                         | ボランティア・セルフヘルプグループへの支援            |
|           | エコロジカル・ソーシャルワーク                   | 適応、ストレス、コーピング、内的資源と外的資源、ハビタット    |
|           | 1) コミュニティ・ディベロップメント               | イネープリング、セツルメントとパターンリズム、ラジカル・ワーカー |
|           | 2) ポリティカル・エンパワメント                 | 多元的世界観、マイノリティの参加と社会の安定           |
|           | 3) プランニング                         | 新しいプランニング理論                      |
|           | 4) プログラム・ディベロップメント                | インターグループワーク、多元主義と資源配分            |
|           | 5) コミュニティ・リエゾン                    | ボランティアリズム、当事者参加促進策               |
|           | コミュニティワークの将来                      | 理論のまとめ、社会変革の理想                   |
|           | 見学実習 (授業期間中に最低1ヵ所の見学実習を体験してもらいます) | 地域の中の施設見学                        |

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment  
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

| 種別 / Kind                                                           | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc. |
|---------------------------------------------------------------------|-----------------|-------------------------------|
| レポート                                                                | 40 %            |                               |
| 日常点                                                                 | 30 %            |                               |
| その他                                                                 | 30 %            | 出席状況、授業態度                     |
| *日常点評価<br>出席状況 (15%)、授業態度 (15%)、小レポート (30%)、期末レポート (40%) により総合評価する。 |                 |                               |

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

## 教科書 / Textbooks

特に指定しない。

## 参考書 / Reference Books

(社) 全国精神障害者社会復帰施設協会編「精神障害者の生活支援の理念と方法」、中央法規  
久保絃章編著「精神障害者地域リハビリテーション実践ガイド」、日本評論社  
授業の中で紹介していきます。

## 参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

精神保健福祉・精神障害者福祉に関するホームページ <http://www005.upp.so-net.ne.jp/smtm/>  
日本精神保健福祉士協会 <http://www.mmjp.or.jp/psw/>



## 精神保健福祉援助技術総論Ⅰ S

20224

担当者名 / Instructor 石神 文子

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Description

精神保健福祉援助活動における専門的援助技術の体系と、効果的な実践を生み出す専門的援助技術について理解させる。

## 到達目標 / Focus and Goal

精神障害者の社会生活を支援するための「生活支援」について、個別・集団・地域のすべてにわたって、精神保健福祉士に課せられた役割を理解し、技術を会得すること。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

社会福祉原論

## 授業スケジュール / Schedule

| 授業日 (第N回) | テーマ / Theme              | キーワード / Key Word   |
|-----------|--------------------------|--------------------|
| 1         | 精神障害者に対する社会福祉サービス        | 社会福祉援助の対象としての精神障害者 |
| 2         | 精神障害者への社会福祉サービスと援助活動 (1) | 制度                 |
| 3         | 精神障害者への社会福祉サービスと援助活動 (2) | 政策                 |
| 4         | 精神障害者への社会福祉サービスと援助活動 (3) | 方法                 |
| 5         | 精神障害者への社会福祉援助活動 (1)      | 目的                 |
| 6         | 精神障害者への社会福祉援助活動 (2)      | 価値                 |
| 7         | 精神障害者への社会福祉援助活動 (3)      | 倫理                 |
| 8         | 精神障害者への社会福祉援助活動 (4)      | 原則                 |
| 9         | 精神障害者への社会福祉援助活動 (5)      | 方法                 |
| 10        | 精神障害者への社会福祉援助活動 (6)      | 過程                 |
| 11        | 精神障害者への社会福祉援助活動 (7)      | 共通課題               |
| 12        | 精神障害者への専門的援助技術           | 内容と機能の概要           |
| 13        | 精神障害者への専門的援助技術の内容と機能 (1) | ケースワーク             |
| 14        | 精神障害者への専門的援助技術の内容と機能 (2) | グループワーク            |

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

- (1) 精神障害者の地域での生活に触れるため、作業所などの社会復帰施設でのボランティア活動を薦める。ただし精神障害者に限らず、障害児や要援護 老人への施設なども有意義である。
- (2) 後期に以下の参考書aを読み、レポートを作成する。
- (3) 当事者講師を招待する。

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

| 種別 / Kind | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc. |
|-----------|-----------------|-------------------------------|
| 定期試験      | 50 %            | 講義内容の理解の程度とそれを発展させる能力         |
| レポート      | 30 %            | 参考書一冊を読破する                    |
| 日常点       | 10 %            | 授業態度の積極性の程度                   |
| その他       | 10 %            | 社会的な関心の向け方など                  |

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

福祉は実践が理論化されるものであって、現場に触れることが最も理解や実践への熱意を呼び覚ますものである。そして多くの場合障害者の人権は侵害されており、支援者は人権擁護の認識を深めることが何より求められる。

## 教科書 / Textbooks

| 書名 / Title        | 出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment |
|-------------------|----------------------------------------------------------|
| 『精神保健福祉援助技術総論』第5巻 | 精神保健福祉士養成セミナー (改定第3版) / へるす出版 /                          |

## 参考書 / Reference Books

| 書名 / Title             | 出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment                                                           |
|------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 『精神障害福祉の実践～当事者主体の視点から』 | 石神文子・遠塚谷富美子・真野元四郎編著 / ミネルヴァ書房 / 精神障害者に対する援助の歴史や人権問題を理論的に整理し、加えてコミュニティア・就労支援・住居問題・街づくり・ケアマネジメントなど、実践に基づく活動が記録されている。 |

|                             |                                                                                                                                                   |
|-----------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 『生活支援』                      | 谷中輝雄著／やどかり出版／／精神障害者の生活支援とは何かをはじめて解き明かした貴重な冊子である。                                                                                                  |
| 『戦後精神保健行政と精神病者の生活～精神保健福祉序論』 | 岡村正幸著／法律文化社／／精神障害者の生活を、精神病院や保健所(行政) がどのように守ろうとしてきたかを歴史的に考察しながら、脱施設化を阻む我が国の特質が精神障害者の生活困難をもたらしている実態を、多くの資料を基に鋭く追及している。                              |
| 『わたしの生涯』                    | ヘレン・ケラー著 岩橋武夫訳／角川文庫／／重度障害者であるヘレンが、家庭教師として彼女の教育に携わったサリバン先生と共に過ごした年月を語っている。障害を持ちながらも自立し、障害者救済運動を世界的に展開したヘレンの人生を支援したサリバン先生は、ソーシャルワークをその原点から実践したのである。 |

参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

その他 / Others

## 精神保健福祉援助技術総論Ⅱ S

15243

担当者名 / Instructor 石神 文子

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Description

精神保健福祉援助活動における専門的援助技術の体系と、効果的な実践を生み出す専門的援助技術について理解させる。

## 到達目標 / Focus and Goal

精神障害者の社会生活を支援するための「生活支援」について、個別・集団・地域のすべてにわたって、精神保健福祉士に課せられた役割を理解し、技術を会得すること。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

社会福祉原論

## 授業スケジュール / Schedule

| 授業日 (第N回) | テーマ / Theme              | キーワード / Key Word |
|-----------|--------------------------|------------------|
| 1         | 精神障害者への専門的援助技術の内容と機能 (3) | 地域援助技術-a         |
| 2         | 精神障害者への専門的援助技術の内容と機能 (3) | 地域援助技術-b         |
| 3         | 精神障害者への専門的援助技術の内容と機能 (4) | リサーチとプランニング      |
| 4         | 関連専門技術 (1)               | チームワーク           |
| 5         | 関連専門技術 (2)               | 心理面接             |
| 6         | 関連専門技術 (3)               | 家族療法             |
| 7         | 精神保健福祉士の専門的援助技術 (1)      | チームアプローチ         |
| 8         | 精神保健福祉士の専門的援助技術 (2)      | 精神障害者の尊厳の回復      |
| 9         | 精神保健福祉士の専門的援助技術 (3)      | 自己決定の尊重          |
| 10        | 精神保健福祉士の専門的援助技術 (4)      | 生活支援-a           |
| 11        | 精神障害者社会復帰施設 (1)          | 種類               |
| 12        | 精神障害者社会復帰施設 (2)          | 機能               |
| 13        | 精神障害者の就労支援 (1)           | 生活支援と就労          |
| 14        | 精神障害者の就労支援 (2)           | 地域におけるネットワーク     |

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

- (1) 精神障害者の地域での生活に触れるため、作業所などの社会復帰施設でのボランティア活動を薦める。ただし精神障害者に限らず、障害児や要援護 老人への施設なども有意義である。
- (2) 後期に以下の参考書aを読み、レポートを作成する。
- (3) 当事者講師を招待する。

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

| 種別 / Kind | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc. |
|-----------|-----------------|-------------------------------|
| 定期試験      | 50 %            | 講義内容の理解の程度とそれを発展させる能力         |
| レポート      | 30 %            | 参考書一冊を読破する                    |
| 日常点       | 10 %            | 授業態度の積極性の程度                   |
| その他       | 10 %            | 社会的な関心の向け方など                  |

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

福祉は実践が理論化されるものであって、現場に触れることが最も理解や実践への熱意を呼び覚ますものである。そして多くの場合障害者の人権は侵害されており、支援者は人権擁護の認識を深めることが何より求められる。

## 教科書 / Textbooks

| 書名 / Title        | 出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment |
|-------------------|----------------------------------------------------------|
| 『精神保健福祉援助技術総論』第5巻 | 精神保健福祉士養成セミナー (改定第3版) / へるす出版 /                          |

## 参考書 / Reference Books

| 書名 / Title             | 出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment                                                           |
|------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 『精神障害福祉の実践～当事者主体の視点から』 | 石神文子・遠塚谷富美子・真野元四郎編著 / ミネルヴァ書房 / 精神障害者に対する援助の歴史や人権問題を理論的に整理し、加えてコミュニティア・就労支援・住居問題・街づくり・ケアマネジメントなど、実践に基づく活動が記録されている。 |

|                             |                                                                                                                                                   |
|-----------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 『生活支援』                      | 谷中輝雄著／やどかり出版／／精神障害者の生活支援とは何かをはじめて解き明かした貴重な冊子である。                                                                                                  |
| 『戦後精神保健行政と精神病者の生活～精神保健福祉序論』 | 岡村正幸著／法律文化社／／精神障害者の生活を、精神病院や保健所(行政) がどのように守ろうとしてきたかを歴史的に考察しながら、脱施設化を阻む我が国の特質が精神障害者の生活困難をもたらしている実態を、多くの資料を基に鋭く追及している。                              |
| 『わたしの生涯』                    | ヘレン・ケラー著 岩橋武夫訳／角川文庫／／重度障害者であるヘレンが、家庭教師として彼女の教育に携わったサリバン先生と共に過ごした年月を語っている。障害を持ちながらも自立し、障害者救済運動を世界的に展開したヘレンの人生を支援したサリバン先生は、ソーシャルワークをその原点から実践したのである。 |

参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

その他 / Others

## 精神保健福祉援助実習 S

14111

担当者名 / Instructor 生田 正幸、岡田 まり

単位数 / Credit 4

## 授業の概要 / Course Description

精神医療・精神保健福祉の現場での実習をとおして、精神保健福祉士としての専門性（価値・倫理、知識、技術）を培うことを目的とする。通年の授業および指定施設での180時間以上の現場実習から構成されている。前期は、現場実習にむけての準備として事前学習、実習計画作成、および自己覚知に取り組む。後期は、実習を振り返り、体験を共有しながら、精神障害者とその家族、地域社会、支援のあり方と方法について理解を深め、専門職としてのスキル向上を目指す。なお、実習を通して知り得た個人情報については守秘義務があるので、その点についての指示には必ず従う必要がある。

## 到達目標 / Focus and Goal

- ・精神障害者の状況とニーズを、社会の動向や環境との相互作用に着目しながら理解し、説明することができる。
- ・精神保健福祉士の役割と実践の方法・プロセスについて述べるができる。
- ・精神保健福祉援助における課題と可能性について述べるができる。
- ・専門性を身につけるために今後、自らが取り組むべき課題について述べるができる。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enrolle in, but not required to

精神保健福祉援助演習は本科目と同時に履修しなければならない。  
他の精神保健福祉士課程専門科目をできるだけ事前に、もしくは本科目と同時に履修する必要がある。

## 授業スケジュール / Schedule

| 授業日 (第N回) | テーマ / Theme     | キーワード / Key Word                            |
|-----------|-----------------|---------------------------------------------|
| 第1回       | オリエンテーション       | 実習の目的、意義、年間スケジュール                           |
| 第2回       | 事前学習の方法と内容      | グループワーク、KJ法                                 |
| 第3回       | 実習計画の立て方        | 目的、意義、目標、課題、評価方法                            |
| 第4回       | コミュニケーション・スキル   | 観察、面接、記録                                    |
| 第5回～第8回   | 事前学習の発表         | 利用者と家族、法律、施設の理念・組織運営、サービス内容、支援の方法とプロセス、倫理など |
| 第9回～第10回  | 実習計画            | 実習目的、目標、課題、評価方法                             |
| 第11回～第13回 | 精神保健福祉士の視点と実践   | 事例検討、ケースメソッド、ロールプレイ                         |
| 第14回      | 実習生の心得          | 倫理、課題、スーパービジョン                              |
| 第15回      | 実習直前ガイダンス       | 手続き、必要書類、様々な状況への対処                          |
| 第16回～第17回 | 実習の振り返り         | 利用者、職員、サービス、自分自身                            |
| 第18回～第23回 | 実習報告 (個人・グループ)  | 実習施設、実習内容、学んだこと、今後の課題                       |
| 第24回～第26回 | 実習報告会           | 報告の準備、報告                                    |
| 第27回～第29回 | 共通課題についてのグループ演習 | 視点、対処法、倫理、自己覚知など                            |
| 第30回      | まとめ             | 学んだこと、今後の課題                                 |

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

実習前に、実習施設を訪問し、オリエンテーションを受けるとともに、実習計画について相談する。  
前期には、実習に関連する事前学習を行い、その内容の発表準備とレポート作成が必要。また、実習計画書の作成は必須。後期には、実習についてのクラス発表の準備、実習報告会の準備、実習報告書の作成を行う。

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

| 種別 / Kind | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc.           |
|-----------|-----------------|-----------------------------------------|
| 日常点       | 50 %            | 演習活動への参加、事前学習レポート、実習計画、実習報告などを総合的に評価する。 |
| その他       | 50 %            | 現場実習での取り組み (実習ノートを含む) を総合的に評価する。        |

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

何よりも受講生の主体的な取り組みが肝心である。しかしながら、実習は単に勉強すればよいものではない。現場で困難な状況に直面したり、自己を問われて、混乱や不安を感じ、悩むことも多い。クラスの仲間と支え合い、共に学ぶ姿勢をもつこと、また施設および大学の実習指導者とよくコミュニケーションをとることが、学習を効果的に進めるうえで役立つだろう。

## 教科書 / Textbooks

## 参考書 / Reference Books

| 書名 / Title         | 出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment |
|--------------------|----------------------------------------------------------|
| 実習生のためのPSW実習ハンドブック | 牧野田恵美子、吉川公章、荒田寛編／へるす出版／／                                 |
| ソーシャルワーク実習         | 岡田まり、柏女霊峰、深谷美枝、藤林慶子／有斐閣／／                                |

参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

その他 / Others



## 生命倫理 (人間学) S

15114

担当者名 / Instructor 鶴田 尚美

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Description

この授業では、生命倫理学の中で重要な生と死に関する諸問題を扱う。

本年度は、一般的に境界事例と見なされる胎児、遷延性植物状態の患者、人間以外の動物の道徳的地位について考える。

## 到達目標 / Focus and Goal

1. 問題に取り組む上で必要な知識を習得すること。
2. 倫理的な諸問題を批判的に考える態度を身につける。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

## 授業スケジュール / Schedule

| 授業日 (第N回) | テーマ / Theme            | キーワード / Key Word       |
|-----------|------------------------|------------------------|
| 1         | 生命倫理学の概要と問題設定          |                        |
| 2         | 基本的な倫理原則               | 功利主義、カント、権利論、四原理       |
| 3         | 人工妊娠中絶(1) ビデオ          | プロライフ/プロチョイス、ロウ対ウェイド裁判 |
| 4         | 人工妊娠中絶(2) プロライフ派の主張    |                        |
| 5         | 人工妊娠中絶(3) プロチョイス派の主張   |                        |
| 6         | 人工妊娠中絶(4) 出生前診断        |                        |
| 7         | 安楽死・治療停止(1)            | 自発的安楽死/非自発的安楽死、尊厳死     |
| 8         | 安楽死・治療停止(2)            |                        |
| 9         | 安楽死・治療停止(3)            |                        |
| 10        | 動物(1) ビデオ              | 医学実験、畜産                |
| 11        | 動物(2) 動物解放論、動物の権利論者の主張 |                        |
| 12        | 動物(3)                  |                        |
| 13        |                        |                        |

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

| 種別 / Kind | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc.                                 |
|-----------|-----------------|---------------------------------------------------------------|
| レポート      | 80 %            | 期末に2000字程度のレポートを課す。講義で取り上げたテーマの中から自由に選択し、それについて自分の考えを論理的に述べる。 |
| 日常点       | 20 %            | コミュニケーションペーパーの提出を出席点と見なす。                                     |

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

## 教科書 / Textbooks

教科書は使用しない。

## 参考書 / Reference Books

参考文献は授業レジュメに記載する。

## 参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

## その他 / Others

## 専門特殊講義 SA

12941

担当者名 / Instructor 神保 哲生

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Description

ビデオジャーナリズム論。ビデオジャーナリズムについての全般的な理論を学びます。

履修内容はジャーナリスト自らがビデオ機材を操作して映像表現を行うビデオジャーナリズムの理論、ビデオジャーナリスト登場の背景にあるテレビの構造的特徴と問題点とは、日本のメディアの特徴と問題点とは、ビデオジャーナリズムとは何か、ビデオジャーナリストの登場でメディアはどう変わるのか、インターネット時代のビデオジャーナリズムの役割とは何か等。

授業は基本的には講義方式で、講師と受講生間のやり取りや、受講生同志のやり取りがあります。また、ディベート形式をとることもあります。ビデオジャーナリストの制作した映像を資料として使用する場合もあります。

ジャーナリスト志望はもとより、ジャーナリズムやメディア全般に関心のある方の受講を歓迎します。

## 到達目標 / Focus and Goal

ビデオジャーナリズムとは何かを学ぶこと。また、それを通じて、その登場の背景にある、テレビというメディアの特徴と問題点、ひいては日本のメディア全体の特徴と問題点を理解すること。そうしたメディアリテラシーの向上を通じて、ニュースの見方、接し方を学び、ニュースへの関心を高めること。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

特に無し。

## 授業スケジュール / Schedule

| 授業日 (第N回) | テーマ / Theme      | キーワード / Key Word |
|-----------|------------------|------------------|
| 1         | ビデオジャーナリズムとは     |                  |
| 2         | ビデオジャーナリストの誕生    |                  |
| 3         | 日本のテレビの特徴と構造問題   |                  |
| 4         | 日本のメディアの特徴と構造問題  |                  |
| 5         | ビデオジャーナリズムの理論1   |                  |
| 6         | ビデオジャーナリズムの理論2   |                  |
| 7         | ディベート1           |                  |
| 8         | ビデオジャーナリズムの文法1   |                  |
| 9         | ビデオジャーナリズムの文法2   |                  |
| 10        | 現代のメディアが直面する問題1  |                  |
| 11        | 現代のメディアが直面する問題2  |                  |
| 12        | なぜ今ビデオジャーナリズムなのか |                  |
| 13        | ディベート2           |                  |
| 14        | 総まとめ             |                  |

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

できる限り毎日新聞を読み、テレビのニュースを見ること。そこで見たニュースについて、報道内容を鵜呑みにせずに、考える癖をつけること。

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

| 種別 / Kind | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc.        |
|-----------|-----------------|--------------------------------------|
| レポート      | 70 %            | 授業テーマの習熟度を評価対象とします                   |
| 日常点       | 30 %            | 授業への出席、授業中の積極的な発言、プレゼンテーションを評価対象とします |

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

## 教科書 / Textbooks

| 書名 / Title  | 出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment |
|-------------|----------------------------------------------------------|
| ビデオジャーナリズム論 | 神保哲生 / 明石書店 / 2006年3月発売予定                                |
| 痛快憲法学       | 小室直樹 / 小学館インターナショナル / 4797670312 /                       |

## 参考書 / Reference Books

| 書名 / Title    | 出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment |
|---------------|----------------------------------------------------------|
| ビデオジャーナリストの挑戦 | 神保哲生 / ほんの木 / 4938568608 /                               |
| ジャーナリズムの可能性   | 筑紫哲也他 / 岩波書店 / 4000264001 / p163-173                     |
| ジャーナリズムの原則    | コバッチ、ローゼンタール / 日本経済評論社 / 4818814474 /                    |

参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

<http://www.videonews.com>

<http://www.jimbo.tv>

その他 / Others

## 専門特殊講義 SB S 専門特殊講義I SB

20095

担当者名 / Instructor 神谷 雅子

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Description

映画は、文化であり商品でもあります。映画産業は、商品としての映画を提供しているわけですが、文化としての映画を、どのように捉えてきたのか。日本の映画産業の成り立ち、日本映画の古里と言われる「京都」と映画産業との関係、映画産業の構造や、各国の映画振興政策など、映画産業を、トータルにみていきます。

## 到達目標 / Focus and Goal

映画とは何か、映画の歴史、映画産業の実像、観客が果たす重要な役割、などの理解を深める。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

## 授業スケジュール / Schedule

| 授業日 (第N回) | テーマ / Theme                          | キーワード / Key Word     |
|-----------|--------------------------------------|----------------------|
| 第1回       | 映画とはなにか。この授業における基本的な映画、文化についての考え方の提示 | 映画、文化                |
| 第2回       | 映画の発明 19世紀の近代化が準備した発明が、動く写真、映画である。   | キネトスコープ、シネマトグラフ      |
| 第3回       | 日本の映画産業の形成                           | 稲畑勝太郎                |
| 第4回       | 日本独自の映画制作のはじまり                       | マキノ省三                |
| 第5回       | 戦争と映画産業                              | メディアとしての記録映画         |
| 第6回       | 日本初の女性映画監督 坂根田鶴子のこと                  | 満洲映画協会               |
| 第7回       | 世界の女性監督                              | ロッチ・ライニガー            |
| 第8回       | 現代の戦争と映画                             | ベトナム戦争、ボスニア戦争、9.11以後 |
| 第9回       | 映画産業の構造                              | 製作、配給、興行             |
| 第10回      | 映画館とは                                | シネコンとアートシアター         |
| 第11回      | 映画における宣伝戦略                           | ヒット作とは               |
| 第12回      | 日本の映画振興政策 文化庁と経済産業省                  |                      |
| 第13回      | 韓国の映画振興政策 フランスの映画振興政策                | スクリーンクォーター制など        |
| 第14回      | まとめ                                  |                      |
| 第15回      | 定期試験                                 |                      |

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

話題の映画は、なるべく映画館で見て欲しい。

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

| 種別 / Kind | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc. |
|-----------|-----------------|-------------------------------|
| 定期試験      | 90 %            |                               |
| 日常点       | 10 %            |                               |

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

## 教科書 / Textbooks

## 参考書 / Reference Books

「京都の映画80年のあゆみ」(京都新聞社1980)「シネマがやってきた！日本映画事始め」(都築政昭著 小学館)「幻のキネマ満映」(山口猛 平凡社)「ヒトラーと映画」(岩崎昶 朝日選書)「映画をつくった女たち」(松本侑子 シネマハウス) v

## 参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

キネマ旬報データベース <http://www.walkerplus.com/movie/kinejun/>  
 ・日本映画製作者連盟 <http://www.eiren.org/>

## その他 / Others

## 専門特殊講義 SC S 専門特殊講義II SC

20096

担当者名 / Instructor 白石 憲二

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Description

取材から紙面構成まで、日々届けられる新聞はどんな過程と論議をへてつくられるのか。「特ダネ」の条件とは、「良い記事」「悪い記事」の基準はあるのか。事件、事故、政治、経済、イベントなど。一つひとつのニュースの背景には、過去から現在につながる歴史の「縦軸」と、グローバル化が進む同時代の広がり示す「横軸」との交差の中で、そのメディアが選り取った様々な意味(メッセージ)が隠されている。新聞メディアが発信しているその意味を、社内で交わされている「紙面論議」を手がかりに同時進行的に紹介、解析していく。同時に、新聞メディア側の意図がどれだけ正確に読者側に伝わっているのかを検証する一つの手段として、受講生に一定期間に読んだ新聞のなかで「感銘した記事」「分からなかった記事」をあげてもらい、それを素材に講義の中で双方向のメディア論議を深めていきたい。

## 到達目標 / Focus and Goal

新聞だけでなく広くニュースメディア全体について、発信している媒体のねらいなどが客観的に理解できる。  
バランスのとれた視点から、記事などのすぐれた点や不十分な点を指摘できる。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

## 授業スケジュール / Schedule

| 授業日 (第N回) | テーマ / Theme                | キーワード / Key Word |
|-----------|----------------------------|------------------|
| 第1回       | はじめに。新聞はどう作られているのか。「特ダネ」とは |                  |
| 第2回       | 事件報道と人権 (匿名・実名問題など)        |                  |
| 第3回       | 事件報道と人権 (被害者報道、過熱取材など)     |                  |
| 第4回       | 事件報道と人権 (歴史的的重大事件、報道協定など)  |                  |
| 第5回       | 司法取材の現場から (無罪判決など)         |                  |
| 第6回       | 調査報道とは (リクルート事件など)         |                  |
| 第7回       | スクープと誤報                    |                  |
| 第8回       | 権力との距離 (発表ジャーナリズムと記者クラブ問題) |                  |
| 第9回       | 新聞の違い (とくに社説について)          |                  |
| 第10回      | 憲法改正 (9条、自衛隊についての論調)       |                  |
| 第11回      | 国旗、国歌問題について                |                  |
| 第12回      | 政治・国際問題報道について              |                  |
| 第13回      | 生活ニュースについて                 |                  |
| 第14回      | 読者参加の試み (投稿欄、ブログ紙面批評)      |                  |

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

| 種別 / Kind | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc.    |
|-----------|-----------------|----------------------------------|
| レポート      | 60 %            | 課題についての理解度、論旨の構成や説得力を重視する。       |
| 日常点       | 40 %            | 数回おきにミニレポートを課し、学習への取り組み、理解度をはかる。 |

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

できるかぎり新聞を読むこと。とくに興味のあるテーマについて継続的に推移をウォッチし、他の新聞との論調を比べてみる。大きな判決があった場合、判決要旨を読んで、自分ならどう本記(判決の中身を伝える記事)を書くか、試してみる。読解力と文章力を書く力がつく。

## 教科書 / Textbooks

## 参考書 / Reference Books

## 参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

<http://www.pressnet.or.jp/> 日本新聞協会プレスネット、週一回更新の「紙面展望」。加盟新聞社の社説の論調をテーマ別に紹介している。

## その他 / Others

## 専門特殊講義 SD

20097

担当者名 / Instructor 坂田 謙司, 赤井 正二

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Description

「NHK講座」では、NHKの番組制作取材や技術の最前線で活躍している方々やOBを講師に迎え、日頃それぞれの現場で何を考え追いつめているのか、理念と現実等について語ってもらいます。こうしたメディアの最前線を多角的に紹介し、多様なメディアから噴出するさまざまな情報を主体的に読み解き、参加する能力を養うことを目的としています。

本講座は「双方向授業」「国際報道の視点」「映像制作技術を駆使した番組づくり」を三つの柱に据え、展開します。また、本講座はNHK京都局の企画にもとづいて、「キャンパスプラザ京都」において行われます。

## 到達目標 / Focus and Goal

講師の話聞くことでテレビメディアの現状を理解し、双方向授業への参加によって積極的な学習能力を身につけられる。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

## 授業スケジュール / Schedule

| 授業日 (第N回) | テーマ / Theme                                                | キーワード / Key Word |
|-----------|------------------------------------------------------------|------------------|
|           | 2006年度の講師及び日程 (予定) は次のとおりです (2006年4月4日更新)。                 |                  |
| 4月8日 (土)  | 今井義典／NHK解説主幹 [テーマ] グローバル時代のメディアとジャーナリスト                    |                  |
| 4月15日 (土) | 山本隆之／経済・社会情報番組センターデスク [テーマ] リーダー達の頭脳を解剖する～「プロフェッショナル」制作現場～ |                  |
| 4月22日 (土) | 大加章雅／ドラマ番組CP [テーマ] 大河ドラマはこうしてつくられる～キャスティングから時代考証まで～        |                  |
| 4月29日 (土) | 休講                                                         |                  |
| 5月6日 (土)  | 光井正人／京都放送局長 [テーマ] 地上デジタル時代の地域放送                            |                  |
| 5月13日 (土) | 柏木敦子／アニメーション室CP [テーマ] テレビアニメの世界                            |                  |
| 5月20日 (土) | 中元秀俊／京都局制作デスク [テーマ] 双方向授業① 番組制作の基本・提案課題設定                  |                  |
| 5月27日 (土) | 藤田浩之／京都局ニュースデスク [テーマ] 記者の緊急取材最前線 (南極越冬取材体験も交え)             |                  |
| 6月3日 (土)  | 中谷日出／NHK解説委員 [テーマ] プレゼンテーション術～自己アピール法～                     |                  |
| 6月10日 (土) | 中元秀俊／京都局制作デスク [テーマ] 双方向授業② 提案の秘訣・制作作品プレゼンテーション ※ 2時限連続授業   |                  |
| 6月17日 (土) | 桜井勝之／大阪局制作技術CE (カメラマン) [テーマ] 心に響く映像とは～本質を撮る～               |                  |
| 6月24日 (土) | 福井純子／音響デザイン職員 [テーマ] 音と映像のはざままで～感性を磨く～                      |                  |
| 7月1日 (土)  | 松本和也／アナウンサー [テーマ] 「英語でしゃべらナイト」からみるコミュニケーション論               |                  |
| 7月8日 (土)  | 中元秀俊／京都局制作デスク (上野デスク・大森CP) [テーマ] 双方向授業③ 制作体験報告 (作品上映と意見交換) |                  |
| 7月15日 (土) | 橋本元一／NHK会長 [テーマ] 公共放送の存在意義とNHKの進路                          |                  |

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

| 種別 / Kind | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc.  |
|-----------|-----------------|--------------------------------|
| 日常点       | 100 %           | 日常点評価 (講義時に提出するレポート等により評価を行う。) |

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

その他 / Others

授業は4月8日(土)から始まります。授業時間帯は午後2時から午後3時30分、会場は京都駅前のキャンパスプラザ京都 第2講義室(6月10日のみ第1講義室)です。

## 専門特殊講義 SE

20100

担当者名 / Instructor 反畑 誠一、筒井 淳也

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Description

デジタル技術の内容の進歩によるインターネット等のIT(情報技術)産業は、急成長かつ多様化し、当然、コンテンツ産業界へも波及したことで、構造的な変革が起きている。放送と通信の融合や携帯電話、携帯型再生プレーヤーの普及に伴う「音楽・映像配信」は、その典型例であろう。本講座は、激動するコンテンツ産業界において、最前線の実務に就かれておられる方々を講師にお迎えし、著作権保護等の現状と直面している課題や今後の展望を講義していただく、貴重な内容で構成されている。前・後期に二分されているが、音楽、映像、放送、出版などカテゴリー別にテーマを設定しており、通年で受講することで、全体像と核心が習得できるよう配慮した。

なお、本講義は、キャンパスプラザ京都で行われます(授業時間:11:00~12:30)

## 到達目標 / Focus and Goal

- 国際的視野で、コンテンツ産業の実態を学ぶ。
- 過去を知り、知識を蓄積する。
- 今を知り、現実を認識、把握する。
- 明日を考え、展望を持つ。
- 叡智と感性と想像力を培う。
- 自己の研究課題を見つける。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enrolle in, but not required to

## 授業スケジュール / Schedule

| 授業日(第N回) | テーマ / Theme<br>(前期スケジュール)                                                 | キーワード / Key Word |
|----------|---------------------------------------------------------------------------|------------------|
| 4/15     | 開講式 丸山茂雄氏(株式会社に・よん・なな・みゅーじっく代表取締役) テーマ:日本のコンテンツ産業概論                       |                  |
| 4/22     | 垂石 克哉氏(オリコン・エンタテインメント株式会社代表取締役社長) テーマ:音楽・映像ソフトのマーケティング                    |                  |
| 5/6      | 渡辺 聡氏(社団法人日本音楽著作権協会(JASRAC)送信部長)                                          |                  |
| 5/13     | 白井勝也氏(株式会社小学館専務取締役) テーマ:コミック誌の歴史・アニメコンテンツと著作権                             |                  |
| 5/20     | 田村光博氏(株式会社エフエム東京 MPX事業推進室長) テーマ:放送と通信の融合 IPマルチキャスト放送と有線放送                 |                  |
| 5/27     | 須藤 晃氏(カリント・ファクトリー代表・音楽プロデューサー) テーマ:デジタル時代の音楽ソフトの創作とアーティストの存在              |                  |
| 6/3      | 稲垣博司氏(エイベックス・マーケティング・コミュニケーションズ株式会社代表取締役会長) テーマ:日本レコード産業史と課題              |                  |
| 6/10     | 中村和則氏(株式会社オフィス・ヘンミ取締役、テレビ土曜劇場「事件」プロデューサー) テーマ:テレビ番組・水戸黄門 にみる時代劇コンテンツと権利関係 |                  |
| 6/17     | 朝妻一郎氏(社団法人音楽出版協会会長、株式会社フジパシフィック音楽出版 代表取締役会長) テーマ:音楽出版社の存在と権利ビジネス          |                  |
| 6/24     | 柳 珍桓氏(駐日韓国大使館韓国文化院院長) テーマ:韓国のコンテンツ産業戦略                                    |                  |
| 7/1      | 山崎芳人(株式会社キョードー東京社長) テーマ:ライブ・コンサートのマネジメント・ビジネスの実情と国際契約                     |                  |
| 7/8      | 白川隆三氏(九州大学教授、元ソニー・ミュージックエンタテインメント(SME)取締役) テーマ:日本のアニメ映画産業と欧米市場            |                  |
| 7/15     | まとめ                                                                       |                  |
|          | 授業スケジュールの詳細については随時更新していきます。                                               |                  |

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation



| 種別 / Kind | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc. |
|-----------|-----------------|-------------------------------|
| 日常点       | 100 %           | (出席点・レポートなどで総合的に評価します)        |

受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

JASRACホームページ: <http://www.jasrac.or.jp/>

その他 / Others

## 専門特殊講義 SF

20101

担当者名 / Instructor 反畑 誠一、筒井 淳也

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Description

デジタル技術の内容の進歩によるインターネット等のIT(情報技術)産業は、急成長かつ多様化し、当然、コンテンツ産業界へも波及したことで、構造的な変革が起きている。放送と通信の融合や携帯電話、携帯型再生プレーヤーの普及に伴う「音楽・映像配信」は、その典型例であろう。本講座は、激動するコンテンツ産業界において、最前線に就かれておられる方々を講師にお迎えし、著作権保護等の現状と直面している課題や今後の展望を講義していただく、貴重な内容で構成されている。前・後期に二分されているが、音楽、映像、放送、出版などカテゴリー別にテーマを設定しており、通年で受講することで、全体像と核心が習得できるよう配慮した。

なお、本講義は、キャンパスプラザ京都で行われます(授業時間:11:00~12:30)

## 到達目標 / Focus and Goal

- 国際的視野で、コンテンツ産業の実態を学ぶ。
- 過去を知り、知識を蓄積する。
- 今を知り、現実を認識、把握する。
- 明日を考え、展望を持つ。
- 叡智と感性と想像力を培う。
- 自己の研究課題を見つける。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enrolle in, but not required to

## 授業スケジュール / Schedule

| 授業日(第N回) | テーマ / Theme                   | キーワード / Key Word                                                   |
|----------|-------------------------------|--------------------------------------------------------------------|
| 1        | 9/30(開講式)「著作権行政の最新課題」         | 甲野正道氏(文化庁長官官房著作権課長)                                                |
| 2        | 10/7「中国における通信カラオケビジネス」        | 横澤優氏(株式会社BMB 海外事業本部中国事業推進室長)(カラオケ機種「UGA」などを中心に通信カラオケ事業を展開している会社です) |
| 3        | 10/14「アーティストの発掘、マネージメントとビジネス」 | 堀義貴氏(株式会社ホリプロ 代表取締役社長)                                             |
| 4        | 10/21「ヒットの理由」                 | 亀田誠治氏(音楽プロデューサー。椎名林檎、スピッツなどのアーティストを手がけられています)                      |
| 5        | 10/28「音楽・映像ソフト、レンタルビジネスの課題」   | 増田宗昭氏(カルチュア・コンビニエンス・クラブ代表取締役社長)('TSUTAYA'を運営している会社です)              |
| 6        | 11/4「音楽・映像、放送コンテンツと国際市場」      | 黒水則顯氏(株式会社WOWOW 常務取締役)                                             |
| 7        | 11/11「ライブ・エンタテインメントの著作権」      | 福井健策氏(弁護士(骨董通り弁護士事務所)、ニューヨーク州弁護士)                                  |
| 8        | 11/18「ゲームソフトの開発と世界市場」         | 鶴之澤伸氏(株式会社バンダイナムコゲームス代表取締役副社長)                                     |
| 9        | 11/25「生涯教育と無店舗販売」             | 品川恵保氏(株式会社ユーキャン代表取締役会長)                                            |
| 10       | 12/2「テレビドラマは死んだのか?」           | 田代冬彦氏(株式会社TBSテレビ取締役編成制作本部制作局長)                                     |
| 11       | 12/9「広告会社のキャスティング業務の昨日・今日・明日」 | 後藤順一氏(株式会社博報堂 キャスティング&エンタテインメント局長)                                 |
| 12       | 12/16「音楽配信ビジネスの現状と展望」         | 今野敏博氏(株式会社レーベルゲート代表取締役社長)                                          |
| 13       | 1/6「J-POPとは何か」                | 烏賀陽弘道氏(音楽評論家)                                                      |
| 14       | 1/13 後期総括                     | 反畑誠一氏(音楽評論家、立命館大学客員教授)                                             |

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

| 種別 / Kind | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc. |
|-----------|-----------------|-------------------------------|
| 日常点       | 100 %           | (出席点・レポートなどで総合的に評価します)        |

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

## 教科書 / Textbooks

## 参考書 / Reference Books

## 参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

JASRACホームページ: <http://www.jasrac.or.jp/>



## 専門特殊講義 SG 5 専門特殊講義III SG

20102

担当者名 / Instructor 斎藤 喬

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Description

テーマ: 21世紀の世界とジャーナリズム

イラク戦争とその後の戦後復興をめぐる、米英とドイツ、フランス、ロシアが対立、その間を縫うように多発するテロ事件など世界は混迷を深めています。アジアに目を転じて中国の経済発展に伴う階層の分裂、北朝鮮の核問題、各国で猛威を振るう鳥インフルエンザなど多難な問題が山積みしています。日本でも自衛隊イラク復興支援部隊をめぐる国民の意見は分裂、マスコミの対応にも違いが大きくなりはじめています。この世界の現在と未来をどう読み解くのか、読売テレビと読売新聞のリーダーと第一線の記者らが講義します。

## 到達目標 / Focus and Goal

激動の社会の中でメディアが何を考え、どう行動しているかを十分に把握して欲しい

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

## 授業スケジュール / Schedule

| 授業日 (第N回) | テーマ / Theme                                 | キーワード / Key Word |
|-----------|---------------------------------------------|------------------|
| 第01回      | メディア多様化時代とジャーナリズム 老川 祥一・読売新聞大阪本社代表取締役社長     |                  |
| 第02回      | テレビの現在と未来 高田 孝治・読売テレビ代表取締役社長                |                  |
| 第03回      | 報道と国際協力 織田 峰彦・読売新聞大阪本社論説委員長                 |                  |
| 第04回      | テレビジャーナリズムの現場から 岩田 公雄・読売テレビ東京報道部長兼解説委員      |                  |
| 第05回      | 展覧会をつくる—どうやって心と美を伝えるか 白石 喜和・読売新聞大阪本社取締役事業局長 |                  |
| 第06回      | ドキュメンタリーの目線 石黒 新・読売テレビアナウンス部長               |                  |
| 第07回      | 事件報道の今 植松 実・読売新聞大阪本社社会部長                    |                  |
| 第08回      | デジタル時代のコンテンツ 西垣 慎一郎・読売テレビコンテンツ開発事業局長        |                  |
| 第09回      | 新感染症時代 吉島 一彦・読売新聞大阪本社調査研究室長兼編集委員            |                  |
| 第10回      | 言論の自由のために知っておくべきこと 幸坊 治郎・読売テレビ解説委員          |                  |
| 第11回      | ジャーナリズムと社論 朝倉 敏夫・読売新聞東京本社常務取締役論説委員長         |                  |
| 第12回      | 記者レポート論 森岡 啓人・読売テレビ執行役員報道局長                 |                  |
| 第13回      | 報道といのち 河内 鏡太郎・読売新聞大阪本社取締役編集局長               |                  |
| 第14回      | テレビ報道の現状と課題 春川 正明・読売テレビ報道部長                 |                  |

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

| 種別 / Kind | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc. |
|-----------|-----------------|-------------------------------|
| レポート      | 100 %           |                               |

成績の評価: 毎授業終了時提出してもらうアンケート用紙への回答を日常点として評価します。  
また2,000字程度の「レポート」を出題する予定です。  
講義はレジュメを配布、折々の新聞記事やテレビ番組や新聞記事、ビデオなどを使って行います。

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

## 教科書 / Textbooks

## 参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

その他 / Others

マスコミ(テレビ・新聞)に関心がある学生、マスコミ界を目指している人で、日々のニュースに興味を持って見ている人が対象。

## 専門特殊講義 SH S 専門特殊講義III SH

20103

担当者名 / Instructor 斎藤 喬

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Description

テーマ: 読売マスコミ講座2～ジャーナリズムの現場～

現場の取材活動のなかで、何が行われているか、また取材における問題関心はどういったところに向けられているかなど、現場で活躍している専門記者の方々が、各分野にそくした現状等を講義します。

※講義スケジュールについては、変更される場合があります。

## 到達目標 / Focus and Goal

激動の社会の中でメディアが何を考え、どう行動しているかを十分に把握して欲しい

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enrolle in, but not required to

## 授業スケジュール / Schedule

| 授業日 (第N回) | テーマ / Theme                               | キーワード / Key Word |
|-----------|-------------------------------------------|------------------|
| 第01回      | テレビのデジタル化と情報伝達 脇浜 紀子・読売テレビアナウンサー          |                  |
| 第02回      | 新聞づくりの現場 西田 裕美・読売新聞大阪本社編成部主任              |                  |
| 第03回      | 報道TVカメラマンが見たこと 千原 徹・読売テレビ報道カメラマン          |                  |
| 第04回      | 事件報道の現場 松尾 徳彦・読売新聞大阪本社社会部次長               |                  |
| 第05回      | 平成言葉事情 道浦 俊彦・読売テレビアナウンサー                  |                  |
| 第06回      | 最新ファッション事情 西本 知佐子・読売新聞大阪本社生活情報部記者         |                  |
| 第07回      | ニュース番組～制作現場の実態～ 相島 良樹・読売テレビプロデューサー        |                  |
| 第08回      | 近づく東南海・南海地震～M8に備える 川西 勝・読売新聞大阪本社科学部記者     |                  |
| 第09回      | 犯罪被害者報道 堀川 雅子・読売テレビ報道部記者                  |                  |
| 第10回      | 関西経済活性化のために 向野 晋・読売新聞大阪本社経済部記者            |                  |
| 第11回      | テレビ報道の現場 高岡 達之・読売テレビ報道部デスク                |                  |
| 第12回      | プロ野球～取材の苦労と楽しさ 田村 建・読売新聞大阪本社運動部主任         |                  |
| 第13回      | 「ズームイン!」という情報番組 近藤 五郎・読売テレビプロデューサー        |                  |
| 第14回      | キャンペーン報道～「安心のまちづくり」など 常松 建一・読売新聞大阪本社社会部次長 |                  |

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

| 種別 / Kind | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc. |
|-----------|-----------------|-------------------------------|
| レポート      | 100 %           |                               |

成績の評価: 毎授業終了時提出してもらうアンケート用紙への回答を日常点として評価します。  
また2,000字程度の「レポート」を出題する予定です。  
講義はレジュメを配布、折々の新聞記事やテレビ番組や新聞記事、ビデオなどを使って行います。

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

## 教科書 / Textbooks

## 参考書 / Reference Books

## 参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

その他 / Others

マスコミ(テレビ・新聞)に関心がある学生、マスコミ界を目指している人で、日々のニュースに興味を持って見ている人が対象。

## 専門特殊講義 SI

20104

担当者名 / Instructor 奥川 櫻豊彦

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Description

京都市役所における地方自治体行政に関する実務の最前線を学生に紹介しつつ、受講生が自治体行政についてのより客観的な視野を深め、そして行政担当者と討論できる機会を提供するのが本科目のねらいである。

平成18年度は、少子高齢化の急速な進展や環境問題の深刻化、国・地方の財政危機など、激動と不安の時代の中で、市民の生活を守る基礎的自治体として、京都市における諸取組について、現場で陣頭指揮を執っている各局課長グループが、リレー講義を行う。なお、この授業は、京都市と大学がコラボレーとしたモデル事業である。

## 到達目標 / Focus and Goal

一方的な聞き流しにならないように、受講生が関心のある分野を選び、建設的な政策づくりを提案できるようにもっていくことが目標のひとつ。それについて、行政マンと懇談できるような機会も模索したい。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

## 授業スケジュール / Schedule

| 授業日 (第N回) | テーマ / Theme                                                     | キーワード / Key Word |
|-----------|-----------------------------------------------------------------|------------------|
| 第1回       | オリエンテーション (立命館大学 産業社会学部 奥川 櫻豊彦教授) 「京都市都市経営戦略」(京都市 総合企画局長 上原 任氏) |                  |
| 第2回       | 「京都市の総合計画」(総合企画局 政策推進室 政策企画課長 鈴木知史氏)                            |                  |
| 第3回       | 「個人情報保護制度のあらまし～あなたの個人情報を守ります～」(総務局 総務部 行政改革課長 住吉睦生氏)            |                  |
| 第4回       | 「京都市財政のあらまし」(理財局 財務部 主計課長 高城順一氏)                                |                  |
| 第5回       | 「京都市における地球温暖化」(環境局 地球環境政策部 地球温暖化対策課長 岡田憲和氏)                     |                  |
| 第6回       | 「悪質商法の手口と対処法」(文化市民局 市民生活部 市民総合相談課長 奥村崇氏)                        |                  |
| 第7回       | 「5000万人観光都市・京都市」の実現を目指して」(産業観光局 観光部 観光企画課長 川淵 正和氏)              |                  |
| 第8回       | 「みやこユニバーサルデザインをみんなで考え、進めよう！」(保健福祉局 保健福祉部 保健福祉総務課長 浅野信之氏)        |                  |
| 第9回       | 「市街地景観の保全」(都市計画局 都市景観部 都市景観課長 寺本健三氏)                            |                  |
| 第10回      | 「京都市の放置自転車等対策」(建設局 道路部 放置車両対策課長 澤田忠明氏)                          |                  |
| 第11回      | 「なぜ？なに？京都の地震」(消防局 防災危機管理室 課長)                                   |                  |
| 第12回      | 「交通局における経営健全化の取組み」(交通局 企画総務部 企画課長 佐伯康介氏)                        |                  |
| 第13回      | 「安全な水道水をお届けするために」(上下水道局 水質管理センター所長 野村克己氏)                       |                  |
| 第14回      | 「市民とともにすすめる京都市の教育改革」(教育委員会 総務部 総務課長 中氷健志氏)                      |                  |
|           | *講師の都合により、講義の順番等が変更になる場合があります。                                  |                  |

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

| 種別 / Kind | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc. |
|-----------|-----------------|-------------------------------|
| レポート      | 50 %            | レポート内容に関しては、授業で知らせる。          |
| 日常点       | 50 %            | 毎週の講義に関する「コメントカード」記入          |

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research



**教科書 / Textbooks**

**参考書 / Reference Books**

**参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course**

**その他 / Others**

立命館大学産業社会学部＝専門科目

立命館大学他学部・他大＝(財) 大学コンソーシアム京都単位交換コーディネート科目

一般社会人等＝京都市シティーカレッジ科目

## 専門特殊講義 SJ

20105

担当者名 / Instructor 是枝 裕和

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Description

「今回は人数を絞り込んだ形のゼミ形式を選択した。学生の皆さん自身によるより積極的な「対話」を期待したい。対話を重ねて行く中で、メディアの如何を問わず映像における「演出」とは何か？ということについて考えてみたい。」

シラバス詳細は別途指示

## 到達目標 / Focus and Goal

履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

## 授業スケジュール / Schedule

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

| 種別 / Kind | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc. |
|-----------|-----------------|-------------------------------|
| 日常点       | 100 %           |                               |

受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

## 教科書 / Textbooks

## 参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

## その他 / Others

## 専門特殊講義 SK

20106

担当者名 / Instructor 岩下 恭士

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Description

近年、バリアフリーに代わる新たな概念として「ユニバーサルデザイン」、「インクルーシブデザイン」、「デザイン・フォー・オール」が注目されている。これらはいずれも(専用)としての製品開発やサービスを目指すバリアフリーを超えて、障害や年齢、性別や国籍にかかわらず、すべての人が利用できる製品・サービスの開発、すべての人が参加できる社会の実現を目指す考え方である。

講義では、特にITの目覚ましい進展によるユビキタス社会の到来をにらみつつ、(電子化された)情報を活用した、誰もが参加できる福祉社会のあり方を模索する。

## 到達目標 / Focus and Goal

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

インターネットやコンピューター技術に関する情報処理系の科目、経済学、社会学、政治学、英語

## 授業スケジュール / Schedule

| 授業日(第N回) | テーマ / Theme                                          | キーワード / Key Word |
|----------|------------------------------------------------------|------------------|
| 第1回      | IT革命とデジタルディバイド                                       |                  |
| 第2回      | 障害について                                               |                  |
| 第3回      | 視覚障害者の文字コミュニケーション「点字」                                |                  |
| 第4回      | 商品開発におけるバリアフリーとユニバーサルデザイン                            |                  |
| 第5回      | IT機器とアクセシビリティ: パソコンとスクリーンリーダー                        |                  |
| 第6回      | 交通バリアフリーを巡る問題: JR東日本のタッチパネル式券売機、つくばエクスプレスのユニバーサルデザイン |                  |
| 第7回      | 米国の法規制: ADAとリハビリテーション法セクション508                       |                  |
| 第8回      | ウェブアクセシビリティ: W3Cのガイドライン                              |                  |
| 第9回      | 日本における情報アクセシビリティ: JIS X 8341 (障害者・高齢者等配慮設計指針)        |                  |
| 第10回     | ユーザー中心の設計思想: ユーザーテストの実践(DVD)                         |                  |
| 第11回     | 映画、マルチメディア: 米国公共放送WGBHの取り組み                          |                  |
| 第12回     | ユビキタス社会とモバイルテクノロジー: ドコモ、らくらくホンのコンセプトとauのフレンドリーデザイン   |                  |
| 第13回     | 活字文化のユニバーサルデザイン: 電子書籍、DAISY図書、著作権                    |                  |
| 第14回     | まとめ                                                  |                  |

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

| 種別 / Kind | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc. |
|-----------|-----------------|-------------------------------|
| レポート      | 50 %            |                               |
| その他       | 50 %            |                               |

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

インターネットの検索機能を活用して「ユニバーサルデザイン」や「アクセシビリティ」をキーワードにして情報を集めてみよう。

## 教科書 / Textbooks

教科書はない。ユニバーサロンから学んで欲しい。  
講義の中で適宜プリント資料を配布する。

## 参考書 / Reference Books

- ・「The Weblog Handbook」、Rebecca Blood／著、2003年
- ・「新・ユニバーサルデザイン～ユーザーバリティ中心のものづくりマニュアル～」、ユニバーサルデザイン研究会編、日本工業出版株式会社、2005年
- ・「ポッドキャスト入門」、kj/manolin／著、翔泳社、2006年
- ・「Accessible XHTML TM and CSS Web Sites」、Jon Duckett／著、Wiley Publishing, Inc., 2005年
- ・「ユニバーサルデザイン～超高齢社会に向けたものづくり...」、ユニバーサルデザイン研究会／編、日本工業出版、2002年
- ・「ITのユニバーサルデザイン—ISO 13407、JIS X 8341などへの対応」、三樹弘之／編著 細野直恒／編著、丸善株式会社、2005年

- ・「こんなデザインが使いやすさを生むー商品開発のためのユーザビリティ評価ー」、三菱電機(株)デザイン研究所／編、工業調査会、2001年
- ・「ウェブ戦略としての「ユーザーエクスペリエンス」ー5つの段階で考えるユーザー中心デザイン」、Jesse James Garrett／著 ソシオメディア株式会社／翻訳、毎日コミュニケーションズ、2005年
- ・「ユーザビリティテストーユーザ中心のものづくりに向けて」、黒須 正明／著、共立出版、2003年
- ・「Beyond Ada: A Guide to Universal Design」、Lagarce／著、John Wiley & Sons Inc
- ・「Accessibility for Everybody: Understanding the Section 508 Accessibility Requirements (Books for Professionals by Professionals)」、John Mueller／著、Apress社、2003年
- ・「Access By Design: A Guide To Universal Usability For Web Designers」、Sarah Horton／著、New Riders Pub社、2005年
- ・「Rapid Contextual Design: A How-To Guide to Key Techniques for User-Centered...」、Karen Holtzblatt, Jessamyn Burns Wendell, Shelley Wood／著、Ap Professional社、2004年
- ・「Inclusive Design Guidelines for Hci」、Julio Abascal, Colette Nicolle／編集、Taylor & Francis社、2001年
- ・「Accessible to All」、Stephanie Thornton／著、Redemptorist Publications社、2003年
- ・「Designing a More Inclusive World」、Simeon Keates, John Clarkson, Patrick Langdon, Peter Robinson／編集、Springer Verlag社、2004年
- ・「The Handbook of Human Rights Law: An Accessible Approach to the Issues and Principles」、M. T. W. Arnheim／著、Kogan Page Ltd、2004年
- ・「Design And Usability Of Digital Libraries: Case Studies In The Asia Pacific」、Yin-Leng Theng, Schubert Foo／編集、Information Science Pub、2005年
- ・「Maximum Accessibility: Making Your Web Site Usable for Everyone」、John M. Slatin, Sharron Rush／著、Addison-Wesley (C)、2002年

#### 参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

毎日新聞社ユニバーサロン <http://www.mainichi.co.jp/universalon/>

#### その他 / Others

政策科学特殊講義 PA § 法政特殊講義 JI § 専門特殊講義 SL § 特殊講義 (各部門共通) I RD § 人文科学総合講座特 16129  
義 I LI

担当者名 / Instructor 勝村 誠

単位数 / Credit 2

### 授業の概要 / Course Description

本講義では、毎回の授業にゲスト講師として全国の都道府県知事を迎える。まず冒頭に各知事から、それぞれの都道府県が抱える具体的な政策課題に対して、どのような判断を下し、どのような政策を展開しているかを、現場にそくして生き生きと講演していただく。抱える課題はそれぞれの地域の実情に応じて異なるであろうし、語られる内容も知事により自ずと異なるであろうが、授業のねらいは、中間自治体の首長としての知事が、中央政府と基礎自治体との間に位置する立場でどのようなヴィジョンを立て、どのような役割を果たしているかを考えていくことにある。講演を受けた後は、担当者のコーディネイトによりできるだけ双方向的に討論を進めていきたい。

### 到達目標 / Focus and Goal

日本の地方自治と政府間関係(中央政府と地方政府の関係)について総合的に理解を深めることが目標である。知事の講演を受動的に聞いて満足することなく、自分で問いを立てて知事と擬似的に対話するぐらいのつもりで授業に望んでほしい。

### 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enrolle in, but not required to

政治学、行政学、行政法、地方自治、地方財政、地域政策、地域研究、地域経済など、なんらかの関わりのある科目と主体的に関連づけること。

### 授業スケジュール / Schedule

| 授業日 (第N回) | テーマ / Theme                            | キーワード / Key Word             |
|-----------|----------------------------------------|------------------------------|
| 4月11日     | (1) 福岡県・麻生渡知事                          | [演題: 西風を起こす]                 |
| 4月18日     | (2) 兵庫県・井戸敏三知事                         | [演題: 元気な兵庫をつくる－分権改革の課題と展望－]  |
| 5月2日      | (3) 神奈川県・松沢成文知事                        | [演題: 神奈川から日本を変える]            |
| 5月9日      | (4) 岡山県・石井正弘知事                         | [演題: 分権型国土創造論～三海二山の力 (パワー)～] |
| 5月16日     | (5) 滋賀県・国松善次知事                         | [演題: 自治改革－地域主権への挑戦と実践－]      |
| 5月23日     | (6) 講義: 地方自治における首長の権限と役割               |                              |
| 5月30日     | (7) 日本再生研究会代表 梶原 拓 氏 (前全国知事会会長・前岐阜県知事) | [演題: 市民の時代]                  |
| 6月6日      | (8) 新潟県・泉田裕彦知事                         | [演題: 地方分権改革の方向をめぐって]         |
| 6月13日     | (9) 大阪府・太田房江知事                         | [演題: 地域主権の大阪づくり～にぎわいの創造と発信～] |
| 6月20日     | (10) 静岡県・石川嘉延知事                        | [演題: 行革の特効薬「新公共経営」－静岡県の実践－]  |
| 6月27日     | (11) 茨城県・橋本 昌知事                        |                              |
| 7月4日      | (12) 調整中                               |                              |
| 7月11日     | (13) 沖縄県・稲嶺恵一知事                        |                              |
| 7月18日     | (14) 徳島県・飯泉嘉門知事                        |                              |
| 7月25日     | 定期試験                                   |                              |

### (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

### (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

各自の関心にそくして地方自治・地方行財政・地域政策などにかかわる書籍、論文、資料、新聞記事、各都道府県のウェブサイトなどに目を通しておくこと。

### 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

| 種別 / Kind | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc. |
|-----------|-----------------|-------------------------------|
| 定期試験      | 60 %            | 記述問題と論述問題                     |
| 日常点       | 40 %            | 毎週の出席と授業後に提出する小レポート           |

毎週小レポートの提出を義務づけます。毎週採点し日常点評価をします。小レポートは翌週月曜日の午後5時までに大学教育開発・支援センター(学而館1階)に提出して下さい。BKCと他大学学生はFAXで送信して下さい。FAX:075-465-8318。

### 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

知事の講演は毎回独立したものであるとして語られるので、受動的に知事の話の聞いているだけではこの講義の獲得目標を達成することは難しい。受講生自身が地方行財政、地方自治、地域政策などにかんする自分の関心にそくして問いかけながら知事の講演を聞くことが大事になる。基本的な文献をある程度独習する必要があることを理解しておいてほしい。また、毎回提出する小レポートにも独習の成果を反映させることが望ましい。小レポートの用紙にて、知事への質問も事前に受け付けるので、積極的に活用してほしい。知事の講演に対する質問や意見も積極的に寄せてほしい。

### 教科書 / Textbooks

書名 / Title

概説 日本の地方自治 [第2版]

出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment

新藤宗幸・阿部育／東京大学出版会／ISBN4-13-032038-6／

**参考書 / Reference Books**書名 / Title

知事が日本を変える

出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment

浅野史郎・橋本大二郎・北川正恭／文春新書／ISBN4-16-660238-1／

『地方が変わる、日本を変える 全国知事リレー講座』(全7巻)

読売新聞社編／ぎょうせい／／

テキストブック地方自治

村松岐夫編／東洋経済新報社／ISBN4-492-21159-4／

**参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course****その他 / Others**

## 専門特殊講義 SM 5 発達福祉特論 SM

20108

担当者名 / Instructor 黒田 学

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Description

本講義では、アジア太平洋地域の発展途上諸国における障害者問題について、ベトナムの障害者問題を通じて障害者の権利、福祉と教育を考え、検討する。発展途上国の障害者問題は、歴史的経緯や社会的文化的背景が異なっても、福祉と教育の施策が遅れ、様々な課題を抱えている。第二次アジア太平洋障害者の十年(2003-2012年)の意義と障害者施策の動向を踏まえ、ベトナムを中心に福祉と教育の課題を検討することとする。

## 到達目標 / Focus and Goal

障害者問題を国内だけでなく、国際的な権利保障の課題として理解し、思考する力を養う。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

発達保障論、障害者福祉論

## 授業スケジュール / Schedule

| 授業日(第N回) | テーマ / Theme                              | キーワード / Key Word                        |
|----------|------------------------------------------|-----------------------------------------|
| 第1回      | 発展途上国の人権保障と社会問題(戦争と貧困、福祉課題) その①          | ユニセフ、UNDP、人間の安全保障、人間開発                  |
| 第2回      | 発展途上国の人権保障と社会問題(戦争と貧困、福祉課題) その②          | ユニセフ、UNDP、人間の安全保障、人間開発                  |
| 第3回      | 発展途上国の人権保障と社会問題(戦争と貧困、福祉課題) その③          | ユニセフ、UNDP、人間の安全保障、人間開発                  |
| 第4回      | 第二次アジア太平洋障害者の十年(2003-2012年)と障害者施策の動向 その① | UNESCAP、障害概念、ノーマライゼーション、BMF、中国、タイ、マレーシア |
| 第5回      | 第二次アジア太平洋障害者の十年(2003-2012年)と障害者施策の動向 その② | UNESCAP、障害概念、ノーマライゼーション、BMF、中国、タイ、マレーシア |
| 第6回      | 第二次アジア太平洋障害者の十年(2003-2012年)と障害者施策の動向 その③ | UNESCAP、障害概念、ノーマライゼーション、BMF、中国、タイ、マレーシア |
| 第7回      | 第二次アジア太平洋障害者の十年(2003-2012年)と障害者施策の動向 その④ | UNESCAP、障害概念、ノーマライゼーション、BMF、中国、タイ、マレーシア |
| 第8回      | ベトナムの障害者問題 その①                           | ベトナムの略史、ドイモイ、障害者の生活実態、枯れ葉剤、専門家養成        |
| 第9回      | ベトナムの障害者問題 その②                           | ベトナムの略史、ドイモイ、障害者の生活実態、枯れ葉剤、専門家養成        |
| 第10回     | ベトナムの障害者問題 その③                           | ベトナムの略史、ドイモイ、障害者の生活実態、枯れ葉剤、専門家養成        |
| 第11回     | ベトナムの障害者問題 その④                           | ベトナムの略史、ドイモイ、障害者の生活実態、枯れ葉剤、専門家養成        |
| 第12回     | ベトナムの障害者問題 その⑤                           | ベトナムの略史、ドイモイ、障害者の生活実態、枯れ葉剤、専門家養成        |
| 第13回     | ベトナムの障害者問題 その⑥                           | ベトナムの略史、ドイモイ、障害者の生活実態、枯れ葉剤、専門家養成        |
| 第14回     | ベトナムの障害者問題 その⑦                           | ベトナムの略史、ドイモイ、障害者の生活実態、枯れ葉剤、専門家養成        |
| 第15回     | まとめ                                      |                                         |

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

各自、教科書や参考書、さらに図書館の諸資料やインターネット(HP)などを通じて、アジアの障害者問題について主体的に学習してもらいたい。

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

| 種別 / Kind | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc.       |
|-----------|-----------------|-------------------------------------|
| レポート      | 60 %            | 文献および講義を踏まえた考察、および論理的かつ明確な自己の見解の記述。 |
| 日常点       | 40 %            | VTR視聴に関する自己の見解が論理的かつ明確かどうか。         |

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

日常から発展途上諸国の障害者問題に関心を持って頂きたい。単に出席するだけでなく、積極的な受講を望む。

## 教科書 / Textbooks

| 書名 / Title                       | 出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment |
|----------------------------------|----------------------------------------------------------|
| 『ベトナムの障害者と発達保障』(2006年5月刊行<br>予定) | 黒田学／文理各／／                                                |

#### 参考書 / Reference Books

| 書名 / Title       | 出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment |
|------------------|----------------------------------------------------------|
| 『世界の社会福祉年鑑』各年版   | 仲村優一他／旬報社／／                                              |
| 『胎動するベトナムの教育と福祉』 | 黒田学・向井啓二・津止正敏・藤本文朗編／文理閣／ISBN:4892594350／                 |
| 『人間の安全保障』        | アマルティア・セン／集英社新書／ISBN:408720328X／                         |

#### 参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

障害保健福祉研究情報システム (<http://www.dinf.ne.jp/index.html>)

#### その他 / Others



特殊講義 (各部門共通) I RA S 日本外交論 J S 国際公共政策特殊講義 PB S 専門特殊講義 SN S 人文科学総合講座 20263  
講義 LH S 特殊講義 (基礎) 1 (日本外交論) C

担当者名 / Instructor 大平 和之

単位数 / Credit 2

### 授業の概要 / Course Description

『日本外交論』

本講義の目指すものは、日本外交の実態を外務省の現役の方々に講義に来ていただき、現在の外交問題を論じてもらうことにより、各地域における外交や、国連外交など国際機関を通じた諸問題や協力の実態に理解を深めることである。

### 到達目標 / Focus and Goal

#### 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

国際関係学部全コース共通の特殊講義として開講する。コースの固有専門科目である。法学部学生にとっては、日本外交論として開講する。文学部学生は人文科学総合講座特殊講義 I として開講する。(ただし国際 P の学生は特殊講義) こうした日本外交を担う人々の生の声を聞ける機会はあまり無い。外交問題に興味がある学生はこうした機会を見逃さぬ受講登録することを奨める。

### 授業スケジュール / Schedule

| 授業日 (第N回) | テーマ / Theme                                                         | キーワード / Key Word |
|-----------|---------------------------------------------------------------------|------------------|
| 1         | 夏季集中講義で行なう。日時・内容は、現在外務省と調整中である。決定次第、発表予定。(昨年度は、9月12日から9月17日に開催された。) |                  |

### (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

### (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

### 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

| 種別 / Kind | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc. |
|-----------|-----------------|-------------------------------|
| その他       | 100 %           |                               |

\* 講義最終日 (土曜日) に試験を実施。

\* 日常点評価を試験成績に加味することもあり得る。

### 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

### 教科書 / Textbooks

特になし。適時講師作成の資料を配布予定。

### 参考書 / Reference Books

外務省「外交青書」各年版、外務省のホームページから入手可能です。

### 参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

外務省 <<http://www.mofa.go.jp/mofaj/>>

### その他 / Others

時間割は、外務省講師の都合により変則になる可能性があるので注意すること。

## 専門特殊講義 SO 5 専門特殊講義II SO

20110

担当者名 / Instructor 白石 憲二

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Description

「新聞があぶない」「新聞は生き残れるか」。少子高齢化社会とともに若者の活字離れが進む中で、新聞事業に北風が吹き続けている。背景の一つにインターネットや携帯電話といった双方向メディアの急速な普及があり、「ネットが新聞を殺すのか」「新聞がなくなる日」というタイトルの本も書店に並んでいる。新聞を中核としたマスメディアは、本当にIT産業にのみこまれてしまうのか。万人が万人に発信できるインターネットの挑戦と拡大。それは人間社会や民衆主義に何をもたらすのか。一方、情報の質と多様性と深みを生命線とする伝統的なジャーナリズムを担うマスメディア側は、どんな対抗策を講じようとしているのか。システム化・コスト削減を通じての人員のスリム化、総合情報産業への脱皮を目指した多角化、過去にとらわれない企業間協力・提携の模索など。紙面、販売、広告、電子電波、それぞれの局面での地殻変動の現状を過去とのつながりの絡みを含めて立体的に読み解いていく中で、新聞をはじめとするジャーナリズム企業の行方を探る。テーマによってはゲスト講師を招くこともある。

## 到達目標 / Focus and Goal

メディアが多様化する中で、新聞企業に何が求められているのかがわかる。  
ネット社会の未来についてのおおまかな青写真が描ける。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

## 授業スケジュール / Schedule

| 授業日 (第N回) | テーマ / Theme          | キーワード / Key Word |
|-----------|----------------------|------------------|
| 第1回       | はじめに                 |                  |
| 第2回       | 日本と世界の新聞メディアグループの現状① |                  |
| 第3回       | 日本と世界の新聞メディアグループの現状② |                  |
| 第4回       | 部数競争・広告シェア争いの現状と行方①  |                  |
| 第5回       | 部数競争・広告シェア争いの現状と行方②  |                  |
| 第6回       | 活字離れと閲読率向上の取り組み      |                  |
| 第7回       | 新聞の連携と地方紙            |                  |
| 第8回       | 日本の電子・電波メディアの現状と行方①  |                  |
| 第9回       | 日本の電子・電波メディアの現状と行方②  |                  |
| 第10回      | ミニコミ紙やフリーペーパーの挑戦     |                  |
| 第11回      | 開かれた新聞への取り組み         |                  |
| 第12回      | 新聞経営の合理化にかかわる諸問題     |                  |
| 第13回      | 電子新聞の可能性など技術革新の動き    |                  |
| 第14回      | 2007年の新聞界展望          |                  |

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

| 種別 / Kind | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc.      |
|-----------|-----------------|------------------------------------|
| レポート      | 60 %            | 講義の内容についての理解度、レポートの論旨の構成や説得力を重視する。 |
| 日常点       | 40 %            | 数回おきにミニレポートを課し、学習への取り組み、理解度をはかる。   |

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

## 教科書 / Textbooks

## 参考書 / Reference Books

## 参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

## その他 / Others

政策科学特殊講義 PB S 専門特殊講義 SP S 特殊講義 (各部門共通) RJ S 人文科学総合講座特殊講義 LJ S 法政特 16134  
義 JK

担当者名 / Instructor 勝村 誠

単位数 / Credit 2

### 授業の概要 / Course Description

本講義では、毎回の授業にゲスト講師として全国の都道府県知事を迎える。まず冒頭に各知事から、それぞれの都道府県が抱える具体的な政策課題に対して、どのような判断を下し、どのような政策を展開しているかを、現場にそくして生き生きと講演していただく。抱える課題はそれぞれの地域の実情に応じて異なるであろうし、語られる内容も知事により自ずと異なるであろうが、授業のねらいは、中間自治体の首長としての知事が、中央政府と基礎自治体との間に位置する立場でどのようなヴィジョンを立て、どのような役割を果たしているかを考えていくことにある。講演を受けた後は、担当者のコーディネイトによりできるだけ双方向的に討論を進めていきたい。

### 到達目標 / Focus and Goal

日本の地方自治と政府間関係(中央政府と地方政府の関係)について総合的に理解を深めることが目標である。知事の講演を受動的に聞いて満足することなく、自分で問いを立てて知事と擬似的に対話するぐらいのつもりで授業に望んでほしい。

### 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enrolle in, but not required to

政治学、行政学、行政法、地方自治、地方財政、地域政策、地域研究、地域経済など、なんらかの関わりのある科目と主体的に関連づけること。

### 授業スケジュール / Schedule

| 授業日 (第N回) | テーマ / Theme                           | キーワード / Key Word     |
|-----------|---------------------------------------|----------------------|
| 9月26日     | (1) 和歌山県・木村 良樹                        |                      |
| 10月3日     | (2) 岸本幸子 (特定非営利活動法人パブリックリソースセンター事務局長) | 「公共と市民」ーNPOの役割と将来の展望 |
| 10月10日    | 調整休講                                  |                      |
| 10月17日    | (3) 北海道・高橋はるみ知事                       |                      |
| 10月24日    | (4) 群馬県・小寺弘之知事                        |                      |
| 10月31日    | (5) 奈良県・柿本善也知事                        |                      |
| 11月7日     | (6) 穂坂邦夫氏 (地方自立政策研究所代表)               |                      |
| 11月14日    | (7) 山形県・斎藤弘知事                         |                      |
| 11月21日    | (8) 中間まとめ                             |                      |
| 11月28日    | (9) 京都府・山田啓二知事                        |                      |
| 12月5日     | (10) 川勝平太氏 (国際日本文化研究センター教授)           |                      |
| 12月12日    | (11) 三重県・野呂昭彦知事                       |                      |
| 12月19日    | (12) 佐賀県・古川康知事                        |                      |
| 1月9日      | (13) 秋田県・寺田典城知事                       |                      |
| 1月16日     | (14) 島根県・澄田信義知事                       |                      |
| 1月下旬      | 定期試験                                  |                      |

### (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

### (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

各自の関心にそくして地方自治・地方行財政・地域政策などにかかわる書籍、論文、資料、新聞記事、各都道府県のウェブサイトなどに目を通しておくこと。

### 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

| 種別 / Kind                                                                  | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc. |
|----------------------------------------------------------------------------|-----------------|-------------------------------|
| 定期試験                                                                       | 60 %            |                               |
| 日常点                                                                        | 40 %            | 毎回の小レポートを4点満点で加点していく          |
| 毎回の講義について、翌週の月曜日までに小レポートを提出してもらいます。レポートには、ふだんから関心を持っていることや独習の成果を反映させてください。 |                 |                               |

### 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

知事の講演は毎回独立したものとして行われます。ですから、受動的に知事の話の聞いているだけではこの講義の獲得目標を達成することは難しいと言わざるをえません。受講生自身が地方行財政、地方自治、地域政策などにかんする自分の関心にそくして問いかけながら知事の講演を聞くことが大事になります。教科書をよく利用し、その他の基本的な参考文献を独習しておく必要があることを理解しておいてください。

### 教科書 / Textbooks

| 書名 / Title       | 出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment |
|------------------|----------------------------------------------------------|
| 概説 日本の地方自治 [第2版] | 新藤宗幸・阿部育／東京大学出版会／ISBN4-13-032038-6／                      |

**参考書 / Reference Books**

| 書名 / Title                    | 出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment |
|-------------------------------|----------------------------------------------------------|
| 地方が変わる、日本を変える 全国知事リレー講座 (全7巻) | 読売新聞社編／ぎょうせい／／                                           |
| テキストブック日本の地方自治                | 村松岐夫編／東洋経済新報社／ISBN4-492-21159-4／                         |
| 疾走12年 アサノ知事の改革白書              | 浅野史郎／岩波書店／ISBN4-00-023421-8／                             |

**参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course****その他 / Others**

## 専門特殊講義 SQ

20098

担当者名 / Instructor 反畑 誠一

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Description

放送と通信の融合など、デジタル時代におけるメディアの多様化が進み、その構造の急激な変革に伴う機能への波及と特性の変化を正確には把握、理解し、適宜に運用する必要性が不可欠になった。本講座では、産業社会学の見地から、活字メディア、ラジオ・テレビ等放送メディア、ブロードバンド(高速・大容量)のインターネット、モバイル(携帯)web、パッケージ、ノンパッケージメディアに至るまで、歴史と現況とビジネスモデルや今後の展望を表象的ではあるがカテゴリー別に学び、現代メディア運営研究の基礎を構築する。

## 到達目標 / Focus and Goal

国際的視野を持った創造性豊かな実践型の人材育成を目指す。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

マスコミ論、コンテンツ産業論

## 授業スケジュール / Schedule

| 授業日(第N回) | テーマ / Theme                         | キーワード / Key Word           |
|----------|-------------------------------------|----------------------------|
| 第1回      | 「メディアと環境①」=インターネットの歴史、機能、特性         | 「ブロードバンド」                  |
| 第2回      | 「メディアと環境②」=活字メディア(新聞・雑誌)の歴史、機能、特性   | 「報道と権利」                    |
| 第3回      | 「メディアと環境③」=放送メディア(テレビ、ラジオ)の歴史、機能、特性 | 「サイマル」「IPマルチキャスト放送」        |
| 第4回      | 「メディアと環境④」=パッケージメディア(DVD)の機能、特性     | 「著作権・人格権」「著作隣接権」           |
| 第5回      | 「メディアと環境⑤」=ノンパッケージメディア(音楽配信)        | 「私的録音・録画補償金」「貸与権」「公衆送信権」   |
| 第6回      | 「メディアと環境⑥」=次世代デジタル機器と技術保護           | 「PtoP」「違法ファイル交換」           |
| 第7回      | 「メディアとコンテンツ①」=レコード産業の歴史と音楽著作権       | 「音楽ソフト」                    |
| 第8回      | 「メディアとコンテンツ②」=アメリカの映画産業の舞台裏         | 「ハリウッド映画」                  |
| 第9回      | 「メディアとコンテンツ③」=劇場と権利ビジネス             | 「カーネギーホール」「演奏権」            |
| 第10回     | 「メディアとコンテンツ④」=東南アジアのメディア事情と著作権      | 「相互関係契約」                   |
| 第11回     | 「メディアの応用①」=広報と広告                    | 「advertising agency」「PR会社」 |
| 第12回     | 「メディアの応用②」=プロモーション                  | 「予算管理」「PV」                 |
| 第13回     | 「マルチメディアの応用③」=組織づくりと運営・管理           | 「プロデューサー」「A & R」           |
| 第14回     | 「マルチメディアの応用④」=情報マネジメント              | 「情報の真贋」「チェック機能」            |

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

| 種別 / Kind | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc. |
|-----------|-----------------|-------------------------------|
| レポート      | 70 %            |                               |
| 日常点       | 20 %            |                               |
| その他       | 10 %            |                               |

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

- 環境が刻々と変化するので、新聞等活字メディアからの情報収集を怠りなく行うように。
- テーマが多岐にわたるので、継続的な聴講、学習を期待します。

## 教科書 / Textbooks

「著作権法の解説」(千野直邦、尾中普子共著)一橋出版 660円の購入を望みます。

## 参考書 / Reference Books

## 参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

(社)日本音楽著作権協会、(社)日本レコード協会、(社)音楽出版社協会、(社)著作権情報センター等コンテンツ産業関連のホームページを随時参考にするよう薦めます。

## その他 / Others

## ターミナル・ケア論 S

20223

担当者名 / Instructor 藤腹 明子

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Description

私たちは一生の間に必ず人の死を看取り、そしていつの日にか、自身も誰かに看取られることになります。より良い看取りを実践し、また自分らしい最期を迎えるために最も大切なことは、一人ひとりが生死観を育んでいくことだと考えます。本講義では、生死観を育むことの意義がわかるとともに、看取り(ターミナルケア)を実践するうえで必要と思われる基本的知識、技術についての理解を深めることを目指しています。

## 到達目標 / Focus and Goal

- ①人が人を看取り、また看取られるうえでなぜ生死観が大切なのかがわかる。
- ②看取りを実践する上で必要な基本的知識、技術について理解できる。
- ③看取り、看取られるための心得と作法について考える。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enrolle in, but not required to

## 授業スケジュール / Schedule

| 授業日(第N回) | テーマ / Theme                              | キーワード / Key Word                                     |
|----------|------------------------------------------|------------------------------------------------------|
| 第1回      | ターミナルケアに関する基本的理念・用語の解説                   | ターミナルケア、ホスピスケア、緩和ケア、ビハラーケア、看取り                       |
| 第2回      | ターミナルケアと生死観                              | 生死観、死生観、いのち観、生死観と宗教、デス・エデュケーション                      |
| 第3回      | 死に向かう人と家族のニーズと配慮の視点                      | 基本的欲求に伴うニーズ、身体的側面のニーズ、内的側面のニーズ、社会的側面のニーズ、生活面のニーズ     |
| 第4回      | 病名・病状・予後の説明(病名告知)                        | 病名告知、がん告知、インフォームドコンセント、病名告知の現状と課題、知る権利、知らないでいく権利、QOL |
| 第5回      | 現代人と死                                    | 死亡の動向、死因の概要、死ぬ時、死に方、死に場所                             |
| 第6回      | 望ましい臨終・死、望ましくない臨終・死                      | よき死、望ましい臨終・死、望ましくない臨終・死、エンディングノート、安楽死、尊厳死、セデーション     |
| 第7回      | ターミナルケアの基本姿勢                             | 感性、知性、理性、悟性、セーバー、ウバスターナ、共語                           |
| 第8回      | 看取り、看取られるための心得と作法                        | 心得、作法                                                |
| 第9回      | ターミナルケアにおけるスピリチュアルケア                     | スピリチュアリティ、スピリチュアルニード、スピリチュアルペイン、スピリチュアルケア、霊性         |
| 第10回     | ターミナルケアと生命倫理                             | 生命倫理、安楽死、尊厳死、セデーション                                  |
| 第11回     | 危篤・臨終・死後処置時の心得と作法                        | 危篤、臨終、命終、死後の処置                                       |
| 第12回     | 人が死んでから墓に入るまで                            | 死後の手続き、葬儀の段取りと経費、グリーフワーク                             |
| 第13回     | がん患者さんからのメッセージ(ゲストの講義、ゲストと受講生とのディスカッション) |                                                      |
| 第14回     | がん患者さんからのメッセージ(ゲストの講義、ゲストと受講生とのディスカッション) |                                                      |

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

講義内容に関連して適宜ミニレポートを課します。

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

| 種別 / Kind | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc.                    |
|-----------|-----------------|--------------------------------------------------|
| レポート      | 60 %            | レポート試験とする。レポート課題に対して、自分の言葉で論じることができているかどうかを評価する。 |
| 日常点       | 40 %            | 出席状況、授業内容に関するコメントやミニレポートの提出等で成績評価を行う。            |
| その他       | 0 %             | 3分の2以上の出席を有効評価の基礎条件とする。                          |

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

本科目は夏期集中講義です。その間、授業に参加される一人ひとりが自身の生死の問題にきちんと対峙し、考えてくださることを大切にしたいと思います。したがって、休まず受講してくださることを希望いたします。

## 教科書 / Textbooks

| 書名 / Title    | 出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment |
|---------------|----------------------------------------------------------|
| 看取りの心得と作法17カ条 | 藤腹明子／青海社／4-902249-10-3／毎回の授業で使用予定                        |

テキストはできるだけ購入してくださることを希望いたしますが、プリントでの資料も準備しています。

**参考書 / Reference Books****書名 / Title**

系統看護学講座別巻10ターミナルケア

臨終行儀-日本のターミナルケアの原点

**出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment**

柏木哲夫・藤腹明子編集／医学書院／4-260-35503-1／ターミナルケアに関する基本的知識、技術の理解を深めたいときの参考書である。

神居文彰・田宮仁・長谷川匡俊・藤腹明子／北辰堂／4-89287-091-9／より日本的なターミナルケアのあり様について考える際の参考になる本である。

**参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course****その他 / Others**

## 大衆表現論 S S 大衆芸能論 S

13013

担当者名 / Instructor 上柴 とおる

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Description

長年にわたる放送(ラジオ中心) & 音楽業界での現場体験を生かして(今も現役ですが)、皆さんが身近なところから大衆芸能～文化に興味・関心を抱けるような、そして自身で問題点や研究課題を見出してもらえるような、そんなきっかけになる授業ができればと考えております。難しい言葉は使いません(私自身がニガ手です)。時には映像や音源も使用する予定です。将来、マスコミ関連の仕事を目指す皆さんにとっても何らかの参考になればと思います。

## 到達目標 / Focus and Goal

皆さんの多くが生まれた1980年代は経済状況も良く、芸能・文化も華やかさを増し活況を呈しておりました。ラジオや音楽を軸にそこまで至る戦後からのおおまかな流れがつかめるようになっていただければと思っています。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enrolle in, but not required to

## 授業スケジュール / Schedule

| 授業日(第N回) | テーマ / Theme                                                | キーワード / Key Word                                    |
|----------|------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------|
| 1        | イントロダクション～ラジオ & 音楽をとりまく現状認識                                | 自己紹介、講座概要                                           |
| 2        | ‘ラジオ・ネーム’は必要か！？                                            | 個人情報保護法、メール、ファックス、葉書、リクエスト、メッセージ                    |
| 3        | ゴールデン・ラジオ・デイズ(1)～民放ラジオの歴史と大衆文化との相関関係                       | AMラジオ、娯楽、ヒット・パレード、映画音楽                              |
| 4        | ゴールデン・ラジオ・デイズ(2)～FMの発展によってもたらされたもの                         | ステレオ、カセット、エア・チェック、ウォークマン、FM誌                        |
| 5        | その成功過程に見るFM802の表現特性                                        | No.1、ファンキー、ステッカー、グッズ                                |
| 6        | 若者の‘文化大革命’～ビートルズとプレスリーの決定的な相違                              | ロックン・ロール、ロック、不良、反体制                                 |
| 7        | 戦後日本のポピュラー音楽史                                              | 78回転、45回転、33回転、コンパクト・ディスク                           |
| 8        | タイトルの訴求力～邦題ひとつでヒットが生み出された時代                                | 原題、レコード・ディレクター                                      |
| 9        | 放送禁止！？～かつて葬り去られた楽曲たち                                       | エロティック、侮蔑、差別、政治的                                    |
| 10       | メッセージ・ソングにおける表現方法                                          | プロテスト、人種差別、反戦                                       |
| 11       | 80年代という時代特性                                                | ビジュアル、ビデオ・クリップ                                      |
| 12       | マドンナ vs シンディ・ローパーという図式に見る80年代の女性像                          | マリリン・モンロー、松田聖子                                      |
| 13       | 関西ロック黄金時代と漫才ブームの相関関係                                       | 誰がカバやねんロックンロールショー、8.8. ROCK D AY、上方演芸               |
| 14       | その時、ラジオは～非常時の番組・ゲスト・スピーカー＝黒田有紀子(元Kiss-fm編成部/現fm cocolo編成部) | 阪神淡路大震災                                             |
| 15       | 日本からはなぜ出ない？世界的なポップ・スター                                     | スキヤキ、YMO、ピンク・レディー、ピチカート・ファイヴ、SEIKO、少年ナイフ、UTADA、パフィー |

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

| 種別 / Kind | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc. |
|-----------|-----------------|-------------------------------|
| レポート      | 100 %           | 自身の考えがいかにか反映されているか。           |

授業内容に沿っていくつか課題を出しますので、その中から選択してもらいます。参考に出るような書籍等ありませんので毎回きちんと聴講しましょう(そうでないとおそらく書けません)。文章の巧さを求めるわけでも、またそつなくまとめられた意見を求めているわけでもありません。若い皆さん自身の考察に基づくレポートに期待しております。私自身も勉強させていただきます♪

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

## &lt;授業中の留意事項&gt;

- 携帯電話にはさわらないこと(通話やメール & 携帯通話のため授業中に教室を出入りすることは厳禁！)。
- 私語は極力慎むこと。

私も「産社」の卒業生です。↑‘先輩’のいうことはちゃんと聞くように！

## 教科書 / Textbooks



参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

その他 / Others

## 多文化共生論 S S 文化論 I S S 多文化共生論 I

13092

担当者名 / Instructor 小澤 亘

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Description

新たな社会モデルとして、「多文化共生社会」が模索されている。本講義では、異なる文化の間に生じる激しい軋轢や摩擦の現状を見極めながら、いかにして、そうした困難を乗り越え、ひとびとが、文化の違いを、むしろ、「生き方の多様性＝豊かさ」として捉え返していけるのか、参加者とともに考えていきたい。

## 到達目標 / Focus and Goal

- 1) 多文化性について理解する。
- 2) 自分とはいったい何者かという問いを出発点として、他文化に接近する方法を理解する。
- 3) 多文化共生問題の本質を理解する。
- 4) 問題を乗り越えていく視点を獲得する。
- 5) 具体的に提案する力を身に付ける。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enrolle in, but not required to

期中に4回ほどレポートを課す。授業への参加姿勢をできるだけ評価したい。問題領域は、社会学・福祉問題・文化に関する学・NPO論など広範囲にわたる。

## 授業スケジュール / Schedule

| 授業日 (第N回) | テーマ / Theme               | キーワード / Key Word               |
|-----------|---------------------------|--------------------------------|
| 第1回       | イントロダクション: 映画『12人の怒れる男』鑑賞 | 映画分析                           |
| 第2回       | 多文化共生問題へのアプローチ            | 「共生」という概念 エスニシティとは何か?          |
| 第3回       | ネイションとは何か?                | TST分析について 「想像の共同体」 「民族という名の宗教」 |
| 第4回       | 文化摩擦の事例研究                 | 「イスラムのヴェール事件」                  |
| 第5回       | 国民国家とは何か? I               | リヴァイアサンの登場 フランス共和制の構造          |
| 第6回       | 国民国家とは何か? II              | 普遍主義のジレンマ 「相互性」の変質             |
| 第7回       | 新たな国民国家像への挑戦              | 多文化主義のジレンマ 文化的ネットワークの必要性       |
| 第8回       | 差別問題へのアプローチ               | ビデオ『青い目、茶色い目』 差別の普遍性           |
| 第9回       | 文化的再生産の理論                 | 文化にもとづく差別の構造化                  |
| 第10回      | 日本におけるエスニシティ問題 I          | 新屋英子『身世打鈴』                     |
| 第11回      | 日本におけるエスニシティ問題 II         | 在日問題 東九条マダン                    |
| 第12回      | 外国籍住民の政治参加                | 外国人市民会議の可能性                    |
| 第13回      | 多文化共生に向けた社会形成             | NPOの役割                         |
| 第14回      | 日本において多文化共生社会は可能か?        | ディスカッション                       |

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

期中に4～5回ほどレポートを課す。

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

| 種別 / Kind | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc. |
|-----------|-----------------|-------------------------------|
| レポート      | 100 %           | 期中に、4～5回ほど課すレポートによって評価する。     |

ただし、受講生数によっては、レポートと定期試験の併用型へ変更する可能性もある。

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

最初に、『12人の怒れる男』(右記の作品紹介を参照されたい)を視聴する。単調な映画で、しんどいと思ひの方は、この授業の受講自体を再検討されたい。なぜなら、こうした映画を最後まで見ることができるか、いなか。それが、「多文化共生」という困難なテーマに立ち向かう皆さんの潜在能力を計る試金石となるからです。

## 教科書 / Textbooks

教科書は使用しない。

## 参考書 / Reference Books

授業中に適時紹介していく。

## 参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

## その他 / Others

## 多文化コミュニケーション論ⅠⅡ 人間文化特論ⅠⅡ

15104

担当者名 / Instructor 奥川 櫻豊彦

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Description

人びとは自文化の枠組みに沿って物事の処理方法を自然に身につけ、無意識のうちに自文化のモードにしたがって時間、空間の概念を培っている。同時に、人びとは母語として身につけた特定言語において、その言語固有のコミュニケーションスタイルや非言語コミュニケーションスタイルが当然のモードであると暗黙のうちに認識し、さりとて疑問に思わない。しかし、国内外を問わず、異文化と実際に接触する過程において、当然のモードとして身につけた中身がさまざまなかたちでアレルギー反応を起こすのを経験して「けしからん!」とムカッ腹を立てたり、「なんで?」と、自問自答を試みたりすることがある。このような問題意識に立ち、映像文化やスポーツ文化などを通じ、エドワード・T・ホールによる文化コンテキスト論を軸に韓国、中国、台湾、ドイツ、アメリカとの比較文化分析を試みる。

## 到達目標 / Focus and Goal

多文化の領域で日常茶飯事に起こっているギモンについて、「文化のコンテキスト論」を応用し、第三者に説明し、納得してもらえる文化感性を養うことが目標。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

## 授業スケジュール / Schedule

| 授業日 (第N回) | テーマ / Theme                 | キーワード / Key Word                    |
|-----------|-----------------------------|-------------------------------------|
| 1         | 科目ガイダンス、担当教員の自己紹介、受講生データの記入 | 「ガイアの夜明け」(テレビ東京制作)からの問題提起をどう受けとめるか? |
| 2         | モノクロニック・ポリクロニックの時間概念        | 「マージナル・マン」(社会学概念)と日本社会              |
| 3         | モノクロニック・ポリクロニックの概念          | 「ペーパー課題」(全体の成績評価の50%)についてのガイダンス     |
| 4         | 連続体としての「文化コンテキスト」の概念        | 高⇄低コンテキスト文化の理解、二分法概念との比較相違          |
| 5         | 連続体としての「文化コンテキスト」の概念(つづき)   | 松井秀喜がNYヤンキースの初シーズンで体験したこと           |
| 6         | 空間概念の文化的差異                  | エレベーターの中で、玄関ドアの比較文化                 |
| 7         | ドイツからみた日本文化・社会の七不思議         | 日本からみたドイツ文化・社会の七不思議                 |
| 8         | 中国からみた日本文化・社会の七不思議          | 日本からみた中国文化・社会の七不思議                  |
| 9         | 韓国からみた日本文化・社会の七不思議          | 日本からみた韓国文化・社会の七不思議                  |
| 10        | 中間試験(全体の成績評価の50%)           | [受講生の都合による日取りの変更は行ないません]            |
| 11        | アメリカと日本の文化比較                | 「ペーパー課題」の提出→口頭発表の日取りと順番の決定          |
| 12        | ペーパー課題の口頭発表(1)              |                                     |
| 13        | ペーパー課題の口頭発表(2)              |                                     |
| 14        | ペーパー課題の口頭発表(3)              |                                     |

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

| 種別 / Kind                                   | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc.    |
|---------------------------------------------|-----------------|----------------------------------|
| レポート                                        | 50 %            | うち25%は口頭発表(ただし、ペーパーの提出者のみ発表資格あり) |
| 日常点                                         | 50 %            | 中間試験                             |
| 1. 文化のコンテキスト論、時間と空間に関する概念構造までの範囲で中間テスト(30%) |                 |                                  |
| 2. 比較文化の分析に関するペーパー(30%) 締切日以降は受け付けない。       |                 |                                  |
| 3. 期末試験40%                                  |                 |                                  |

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

第1回目の授業で、「受講生データ」に記入し、提出すること。「文化比較のペーパー課題」を提出したけれども、口頭報告しない受講生は30%減となる。

## 教科書 / Textbooks

- エドワード・T・ホール他『かくれた差異』(メディアハウス出版会, 1986年).  
生協書籍部に販売
- 奥川櫻豊彦『文化のコンテキスト』立命館産業社会論集 1994年(30巻3号).  
希望者のみに教室にてプリント配布

## 参考書 / Reference Books

尾関周二他編著『国際化時代に生きる日本人』(青木書店, 1992年).

若林正丈『台湾の台湾語人・中国語人・日本語人』(朝日選書,1997年).  
関川夏央『ソウルの練習問題』(新潮文庫、1989年)  
直塚玲子『欧米人が沈黙するとき』(大修館書店、1980年)

参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

その他 / Others

地域活性化ボランティア S S 専門特殊講義 SR S 地域活性化ボランティア J S 特殊講義 (自由選択) I (地域活性化VT) T 20462  
 地域活性化ボランティア P S 特殊講義 (基礎) 1 CD

担当者名 / Instructor 桜井 政成

単位数 / Credit 2

### 授業の概要 / Course Description

ボランティアセンターでは複数の地域と連携し、ボランティア活動を通じて地域に貢献しつつ、参加者にとって地域社会の一員としての自覚と能力を育成し、専門知識の応用的な理解を促す機会となる「地域活性化ボランティアプログラム」を実施している。これは、お祭りやまちづくりの支援活動、里山保全活動、子育て、災害援助活動など、さまざまな地域のさまざまな課題に対して取り組むものである。活動の期間は2日から1週間程度の集中的な活動から、半年近く活動するものまで様々である。

この「地域活性化ボランティアプログラム」に所定の時間以上参加し、なおかつ事前学習・事後学習に参加し、さらに所定の提出物を提出したもののについて、単位を認定する。

### 到達目標 / Focus and Goal

ボランティア活動を通じて地域に貢献しつつ、地域社会の一員としての自覚と能力を育成し、自身の学問的専門領域への関心を高めること。

### 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

「地域参加活動入門」(教養科目・前期2単位)

### 授業スケジュール / Schedule

| 授業日 (第N回) | テーマ / Theme   | キーワード / Key Word                                               |
|-----------|---------------|----------------------------------------------------------------|
|           | 事前学習1(1)      | 講義形式。ボランティア活動とボランティア教育の基本理念、意義、効果について学習する。                     |
|           | 事前学習1(2)      | 演習形式。ボランティア活動の基本理念、意義、効果について理解を深める。                            |
|           | 事前学習1(3)      | 講義形式。地域に参加するにあたっての注意事項、マナー、リスクマネジメントについて学習する。                  |
|           | 事前学習1(4)      | 演習形式。地域に参加するにあたっての注意事項、マナー、リスクマネジメントについて理解を深める。                |
|           | 事前学習2(1)      | 講義形式。ボランティア活動を行うために必要な地域状況および地域課題についてのレクチャー                    |
|           | 事前学習2(2)      | 演習形式。レクチャーを受けて、ボランティア活動経験が自己および専攻学問にどうつながるかについて、ディスカッション等で深める。 |
|           | 事前学習2(3)      | 講義・演習形式。活動に向けて必要な準備事項、リスクマネジメントについての理解を深める。                    |
|           | 地域活性化ボランティア活動 | ボランティアセンターが主催するボランティアプログラムへの参加。合計40時間以上活動をする。                  |
|           | 事後学習(1)       | 演習形式。ボランティア活動経験と自己ならびに専攻学問とのかかわりについて学習を深める。                    |
|           | 事後学習(2)       | 演習形式。本授業を通じて得た学びについてまとめる(プレゼンテーションの準備)                         |
|           | 事後学習(3)       | 演習形式。本授業を通じて得た学びについてのプレゼンテーション                                 |

### (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

### (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

### 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

| 種別 / Kind | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc.                                               |
|-----------|-----------------|-----------------------------------------------------------------------------|
| レポート      | 30 %            | 修了レポートの提出                                                                   |
| 日常点       | 70 %            | 活動記録への記入、ボランティア活動や事前・事後学習での取組態度などを勘案する。何よりも自身にとっての学びが何であったかが明らかであることが重要となる。 |

### 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

詳しくは受講ガイダンスで説明する。

### 教科書 / Textbooks

特に指定はしない。

### 参考書 / Reference Books

特に指定はしない。

**参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course**

ボランティアセンターのホームページに「地域活性化ボランティアプログラム」の説明があるので、よく読んでおくこと。

**その他 / Others**

受講方法、評価方法については、詳しくは受講ガイダンスで伝える。開催予定については、ボランティアセンターホームページ (上記) や、学部事務室の掲示などをよく見ておくこと。

## 地域社会論 S

15189

担当者名 / Instructor 高橋 伸一

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Description

日常生活が展開される具体的な空間としての「地域」を多様な視点から考えてみる。

授業の展開は、戦後の地域社会の変遷を概観したうえで、現代の地域社会の特質や問題点について、具体的な事例を踏まえて考察をおこなう。生活の「個人別化」がすすむ現代社会において、人と人を結びつける必要とその可能性を考える。情報化の進展やグローバル化という近未来の視点からの論考も大事にしたい。

## 到達目標 / Focus and Goal

- ・戦後の地域社会の変遷が理解できる。
- ・地域がかかえる具体的な問題を把握する。
- ・地域課題に対する自分なりの判断と解決能力を培う。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

基礎的な社会学の知識が必要であるが、初学者でも理解できるように講義したい。

## 授業スケジュール / Schedule

| 授業日 (第N回) | テーマ / Theme      | キーワード / Key Word        |
|-----------|------------------|-------------------------|
| 第1回       | 地域社会を考える         | 近代化 都市的生活様式 地縁・血縁       |
| 第2回       | 都市と農村            | 故郷喪失 土着型社会 流動型社会 社会移動   |
| 第3回       | コミュニティ行政         | 都市問題 共同と協同 住民自治の空洞化     |
| 第4回       | 地域と産業            | 企業城下町 労働と家族             |
| 第5回       | 地域と住民            | 時間意識 関心空間 帰属意識          |
| 第6回       | 地域と行政            | 広域行政 市町村合併 住民参加         |
| 第7回       | 情報化と地域           | 社会変動 知識社会 人間関係の省略       |
| 第8回       | 情報化とくらし          | 変化するプライバシー ネットワーク社会 情報縁 |
| 第9回       | 情報化とコミュニケーション    | 仮想現実 メディア特性 コミュニティ放送    |
| 第10回      | グローバル化とローカルティ    | グローバリゼーション 地球村 文化生産     |
| 第11回      | 地域社会とまちづくり       | まちづくりの系譜 地域活性化 地方自治体    |
| 第12回      | まちづくりを考える (レポート) | 商店街 むらおこし メディアの利用       |
| 第13回      | コミュニティ形成の課題      | 人間形成 新しい人間関係 地域の課題      |
| 第14回      | コミュニティ形成の展望      | 私社会の歪み 専門家する管理 住民自治の再生  |
| 第15回      | 地域社会研究の動向        |                         |

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

| 種別 / Kind | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc.    |
|-----------|-----------------|----------------------------------|
| 定期試験      | 50 %            | 基本的な概念を理解し、自分の意見を組み立てることができるかどうか |
| レポート      | 10 %            | データの収集方法と考察の深さを評価する              |
| 日常点       | 40 %            | 毎回の授業では、授業内容に対するコメント提出を求める       |

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

日常的に身近なところで生起する諸課題に敏感になっていただきたい。具体的には、地域の問題に関する新聞記事などをファイルすることをおすすめします。コミュニティを考えるには、あなたの住んでいる地域の自治会や町内会の活動をイメージするとわかりやすいと思います。「住み心地」「住み続けたい」という住民意識を問い続ける姿勢が大切です。

## 教科書 / Textbooks

教科書は使いません。毎回レジュメを用意します。

## 参考書 / Reference Books

1. 布施鉄治他編著『現代日本の地域社会』青木書店 1983年
2. 阿部潔著『公共圏とコミュニケーション』ミネルヴァ書房 1998年
3. 庄司興吉編著『共生社会の文化戦略』梓出版社 1999年
4. 鈴木弘監修『地域社会学の現在』ミネルヴァ書房 2002年

## 参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

授業中に提示します。





## 地域福祉論 S S 地域福祉論 SG

10821

担当者名 / Instructor 津止 正敏

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Description

地域福祉とは何か。この一見単純な問いかけに一言で答える事はそれほど容易ではない。老人福祉法や児童福祉法などといった根拠法をもつ分野別福祉とは違ってその領域・対象確定が難しいこと、分野・領域というよりむしろ関連領域とのネットワークやシステム化、組織化といった方法論に特徴をもつこと、ボランティアなど制度を補完し、あるいは先導する市民の自主的活動により深くコミットすること、さらにはその活動を通して市民の福祉に対する価値観や態度、ひいては法制度など社会システムの変容すら課題とすること、などという地域福祉の特質がその理解をことさらに難しくしている要因かもしれない。そして、「地域福祉の推進」を柱にして2000年6月に成立した社会福祉法が新たな地域福祉理解を提起していることもその理解をより複雑にしている。この講義で現実の地域福祉プログラムの臨床研究を通して「地域福祉とは何か」に迫ってみようと思う。

## 到達目標 / Focus and Goal

高齢・児童・障害等各分野別福祉との比較検討による地域福祉の固有の構造と領域、方法について理解する。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

児童、老人、障害の各分野別福祉論並びに社会福祉概論、社会福祉援助技術論等は事前に履修しておくことが望ましい。この講義は、具体的な地域福祉活動の臨床研究を中心に展開するが、全体を通して「地域福祉とは何か」を問う講義となる予定である。

## 授業スケジュール / Schedule

| 授業日 (第N回) | テーマ / Theme                     | キーワード / Key Word              |
|-----------|---------------------------------|-------------------------------|
| 1         | イントロダクションー地域福祉論スケッチー            | 地域福祉 ボランティア 地域 家族             |
| 2         | 地域福祉プログラムの臨床研究①ー在宅介護と地域福祉ー      | 高齢者 介護 家族 施設 専門職              |
| 3         | 地域福祉プログラムの臨床研究②ー在宅介護と地域福祉2ー     | 高齢者 介護 施設 専門職                 |
| 4         | 地域福祉プログラムの臨床研究③ー障害児放課後ケアと地域福祉ー  | 障害児 放課後保障 ボランティア              |
| 5         | 地域福祉プログラムの臨床研究④ー障害児放課後ケアと地域福祉2ー | 障害児 放課後保障 ボランティア              |
| 6         | 地域福祉プログラムの臨床研究⑤ー子育て支援と地域福祉ー     | 子育て支援 子育てサークル 当事者             |
| 7         | 地域福祉プログラムの臨床研究⑥ー子育て支援と地域福祉2ー    | 子育て支援 子育てサークル 当事者             |
| 8         | 地域福祉プログラムの臨床研究⑦ーボランティアとコミュニティー  | ボランティア コミュニティ 社会資源            |
| 9         | 地域福祉プログラムの臨床研究⑧ーボランティアとコミュニティ2ー | ボランティア コミュニティ 社会資源            |
| 10        | 地域福祉の方法①ーコミュニティワークー             | ソーシャルワーク コミュニティワーク 間接援助技術     |
| 11        | 地域福祉の方法②ーコミュニティワーク2ー            | ソーシャルワーク コミュニティワーク 間接援助技術     |
| 12        | 地域福祉の機関と担い手①ー社会福祉協議会ー           | 社会福祉協議会 民生委員 ボランティア           |
| 13        | 地域福祉の機関と担い手②ー社会福祉施設ー            | 社会福祉施設 施設の社会化 脱施設化            |
| 14        | まとめー地域福祉とは何かー                   | 地域福祉 分野別福祉 住民主体 関係性 当事者性 社会運動 |

## (学教科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

地域福祉活動やボランティア活動についての体験があれば、講義内容の理解が容易であると思われる。実際に活動に参加・体験してみたり、友人知人の体験談や活動実施機関・団体等のレポートなどにも目を通しておくことを薦める。ゲストスピーカーも予定し、毎回簡単な感想／意見(コミュニケーションペーパー)を求め、可能な限り教員学生の双方向の授業実現に努めたい。毎回の出席が学びの達成に直結するよう進めていく。

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

| 種別 / Kind | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc. |
|-----------|-----------------|-------------------------------|
| 定期試験      | 40 %            | 講義内容に即した地域福祉理解について評価する        |
| レポート      | 30 %            | 2～3回の中間レポートを課す                |
| 日常点       | 30 %            | 講義時のコミュニケーションペーパーを活用する        |

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

本講義は、2回生以上の配当科目ではあるが、各分野別福祉論(児童、障害、老人、など)を受講後の方が望ましいし、その方が講義理解を容易にすると思われる。各分野別福祉との比較検討の中で地域福祉固有の構造や領域、方法について具体的に講義していく予定なので、3回生以

上に受講を勧めたい。

#### 教科書 / Textbooks

教科書としては特に指定はないが、講義中にその都度適宜紹介する。また、社会福祉士受験を予定しているものは、本講義では特にその受験対策は行わないために、該当テキストによって自学自習すること。

#### 参考書 / Reference Books

| 書名 / Title     | 出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment |
|----------------|----------------------------------------------------------|
| 子育てサークル共同のチカラ  | 津止正敏他 / 文理閣 //                                           |
| 働きざかり 男が介護するとき | 津止正敏他 / 文理閣 //                                           |
| 障害児の放課後白書      | 津止正敏他 / クリエイツかもがわ //                                     |

#### 参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

#### その他 / Others

## 地域保健論 S

15136

担当者名 / Instructor 松田 亮三

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Description

健康は誰もが関心のあることであり、人生の重要な資源である。この講義では、地域社会で暮らす人々—子どもも大人も、若者も高齢者も、男性も女性もすべて含んだすべての人々を視野にいれて、その人びとの健康を保持・増進するための総合的予防戦略を形成する理論を、受講者それぞれがある特定の地域の健康問題を検討することを通じて獲得する。

## 到達目標 / Focus and Goal

この科目を終了した学生は、次のことができるよう期待されている。

1. 健康概念と地域の健康アセスメント、疾病のリスクモデル、予防戦略の理論、地域資源の活用法などをふまえて、住民の健康問題に関して検討し、総合的な予防戦略を立案できる思考の枠組みを獲得すること。
2. 総合的な予防戦略形成に関わる主要概念を具体的な例をあげて説明できること。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enrolle in, but not required to

特にないが、地域社会論、地域福祉論、現代人とヘルスケア、などとあわせて受講することで理解が深まるであろう。

## 授業スケジュール / Schedule

| 授業日 (第N回) | テーマ / Theme                            | キーワード / Key Word                                                 |
|-----------|----------------------------------------|------------------------------------------------------------------|
| 1回        | はじめに 地域保健へのいざない                        | 地域、人口、健康、公衆衛生、地域保健、健康づくり                                         |
| 2-4回      | 地域における健康問題の具体的検討 (子どもの健康、喫煙、精神保健などを予定) | 保健統計、保健行動、疾病負担、死亡率                                               |
| 5-7回      | 地域の健康把握に向けて                            | 健康の定義、積極的健康観、動的な健康観、健康の次元、疫学、死亡率、罹患率、有病率、主観的健康感、地域保健アセスメント、リスク評価 |
| 8回        | 中間総括                                   |                                                                  |
| 9-10回     | 健康のリスクと疾病モデル                           | 疾病モデル、健康リスク、リスク評価                                                |
| 11-12回    | 予防戦略論                                  | 予防の3段階 (1次予防、2次予防、3次予防)、人口戦略、高リスク戦略                              |
| 13-14回    | 地域健康資源論                                | 地域の健康資源、保健組織、医療制度                                                |
| 15回       | 総括と質疑応答                                |                                                                  |

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment  
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

5回目の授業からは、受講生は、それぞれに、念頭におく人口と健康問題を想定して、具体的に検討しながら学習をすすめていくこと。試験での記述問題にそなえて、あらかじめ重要概念を咀嚼し、レポートを作成していくこと。  
したがって、5回目の授業までは、新聞や雑誌、ウェブ等を調べつつ、自らを振り返り、自らの興味を持てる、ある特定の人口における健康問題を探しあてることが課題となる。

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

| 種別 / Kind | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc.                          |
|-----------|-----------------|--------------------------------------------------------|
| 定期試験      | 80 %            | 総合的な予防戦略作成に重要概念を具体的に運用できるような水準で理解できているかどうか、である。持ち込み不可。 |
| 日常点       | 20 %            | 総合的な予防戦略作成に向けた作業を段階的に課題として与える                          |

評価は定期試験を中心に行うが、授業中に提示する課題を確実にこなしていくことが獲得目標に到達するためには必要である。  
評価は、回生等とはまったく無関係に厳密に行うことを徹底しているので、留意されたい。

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

授業はパワーポイントを使いながら行う。資料はウェブCTで配布するほか、教室でも可能な限り配布する (欠席して資料を入手できなかった場合は、ウェブCTをまずみる)。なお、著作権の関係で教室でしか配布できない資料もあるので注意されたい。また、原則として欠席した場合の資料は後日配布しないので、各自他の受講生に依頼するなどして入手すること。  
授業は基本的に教員のプレゼンと問題提起、受講生の討議ないしワーク、さらには事前に与えた課題をもとにグループ・ワークを行う。積極的な参加を望む。  
かなり詳細な「学習ガイド」を1-2回目の授業のときに配布するので、それを参考にしながら学習をすすめること。

## 教科書 / Textbooks

| 書名 / Title                | 出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment |
|---------------------------|----------------------------------------------------------|
| シンプル衛生・公衆衛生学              | 鈴木庄亮・久道茂 / / /                                           |
| その他授業で提示するとともに、ウェブCTに掲載する |                                                          |

## 参考書 / Reference Books

書名 / Title

健康づくりと社会環境

出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment

松田亮三他／法律文化社／／

その他授業で提示するとともに、ウェブCTに掲載する

参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

(行政)

厚生労働省(<http://www.nih.go.jp/eiken/index.html>)

健康日本21 <http://www.kenkounippon21.gr.jp/>

(研究機関)

国立健康・栄養研究所(<http://www.nih.go.jp/eiken/index.html>)

国立保健医療科学院(<http://www.niph.go.jp/>)

電子図書館からは、『保健医療科学』(かつての『公衆衛生研究』)が読める

<http://www.niph.go.jp/toshokan/denshi-toshokan.htm>

厚生労働科学研究のデータベースもある

<http://www.niph.go.jp/wadai/mhlw/index.htm>

(ポータルサイト)

健康ネット <http://www.health-net.or.jp/> (健康に関連したNGO)

その他 / Others

## 伝統芸能論 S

15142

担当者名 / Instructor 森西 真弓

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Description

日本には、国の重要無形文化財の指定を受けている能、狂言、歌舞伎、文楽、舞踊、音楽などの伝統芸能があります。中世生まれの能、狂言はその特性を伝統として現在に継承してきました。また、近世生まれの歌舞伎、文楽は先行芸能である能、狂言の影響を受けながら、独自の作品や表現様式を確立させました。これらの芸能は、歌舞性を特色とするともに、音楽、舞踊を独立したジャンルとして成立させています。本科目は、適宜、映像資料を用いながら、日本の伝統芸能の多様性を講義します。

## 到達目標 / Focus and Goal

各芸能ジャンルの成立過程、特色、代表的な演者、作品、作者などの基礎知識を身につけます。また、作品からは日本人の心性を読み取るとともに、時代、社会と人との関わりについて考察します。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enrolle in, but not required to

## 授業スケジュール / Schedule

| 授業日 (第N回) | テーマ / Theme             | キーワード / Key Word |
|-----------|-------------------------|------------------|
| 第1回目      | ガイダンスー伝統芸能の概念と国の文化財保護政策 |                  |
| 第2回目      | 能の歴史と特色                 |                  |
| 第3回目      | 能の作品                    |                  |
| 第4回目      | 「道成寺」                   | ※映像資料を視聴します      |
| 第5回目      | 狂言の特色                   |                  |
| 第6回目      | 狂言の作品                   |                  |
| 第7回目      | 歌舞伎の歴史                  |                  |
| 第8回目      | 歌舞伎の特色                  |                  |
| 第9回目      | 歌舞伎の作品                  |                  |
| 第10回目     | 文楽の歴史と特色                |                  |
| 第11回目     | 近松門左衛門                  |                  |
| 第11回目     | 三大名作と人形の三人遣い            |                  |
| 第12回目     | 「曾根崎心中」                 | ※映像資料を視聴します      |
| 第13回目     | 音楽と舞踊                   |                  |
| 第14回目     | まとめと質疑応答                |                  |

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

| 種別 / Kind | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc. |
|-----------|-----------------|-------------------------------|
| 定期試験      | 100 %           | 持ち込みなしの筆記試験を期末に実施します。         |

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

## 教科書 / Textbooks

## 参考書 / Reference Books

## 参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

## その他 / Others

## 都市政策論 S S 都市政策論 G

13080

担当者名 / Instructor リム・ボン

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Description

都市政策とは、われわれが日常生活の場で直面する種々の都市問題を解決するための社会工学的取り組みに他ならない。本講義では、主として京都市を事例としつつ、都市のグランドデザインと局所的な地域デザインとの相互関係を分析する。このような作業を通じて、都市政策における基本コンセプトの構築方法とそれを具現化するための技術的アプローチの体系のあり方を考察する。

## 到達目標 / Focus and Goal

都市の地域特性の把握方法、地域特性に対応した政策立案の実例についての知識、政策技法のトレーニング

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

「都市論」

## 授業スケジュール / Schedule

| 授業日 (第N回) | テーマ / Theme                        | キーワード / Key Word                      |
|-----------|------------------------------------|---------------------------------------|
| 第1回       | 景観問題とコミュニティ ー崩れゆく歴史街ー              | 鉦町のマンション問題、町並み保全、都市計画、規制と誘導           |
| 第2回       | 景観法と京都の町並み保全政策                     | 景観法、景観保全地区、景観機構、ランドマーク、京町家、国家戦略       |
| 第3回       | 歴史都市の再生                            | パリ、パッサージュ、京都の袋路、細街路、密集市街地、建築基準法       |
| 第4回       | 人権コミュニティの創造                        | 京都、被差別部落、人権、文化、近代化遺産、保存運動、まちづくり、京都再生  |
| 第5回       | 都市の危機管理① 阪神大震災の教訓                  | 自然災害、人災、復興計画、マンション建て替え問題、コミュニティ       |
| 第6回       | 都市の危機管理② 9・11同時多発テロ                | ニューヨーク、消防隊、ナショナリズム                    |
| 第7回       | 都市の危機管理③ グラウンド・ゼロの復興をめぐる攻防         | 建築家、コンペ、政治、闘争、妥協                      |
| 第8回       | 都市の危機管理④ 犯罪都市の増加と対策                | ロンドン、犯罪、監視カメラ、移民排斥運動、コミュニティ、ネットワーク    |
| 第9回       | リサーチデイ                             | フィールドワーク                              |
| 第10回      | まちづくりとNPO                          | 第二次ハーレムルネッサンス、タイムズスクエア、コモングラウンド、自治体行政 |
| 第11回      | 安心・安全まちづくりと魅力アップまちづくり(京都・木屋町まちづくり) | 歓楽街、犯罪、治安回復、木屋町、都市再生モデル調査、市民自治の可能性    |
| 第12回      | 欠陥住宅と耐震強度偽装問題                      | 建築基準法、建築設計、建築指導行政、性善説と性悪説、犯罪の多発       |
| 第13回      | 町衆企業とコミュニティ                        | 京都鉦町、東京神田、大阪船場、地域住民、企業市民              |
| 第14回      | 変貌する公共事業                           | 市町村合併、地域経済、汚職、談合、政治家、官僚、天下りの功罪        |

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

| 種別 / Kind | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc. |
|-----------|-----------------|-------------------------------|
| レポート      | 100 %           | 政策提起モデルの作成、その緻密性、具体性、表現性      |

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

京都市役所が発行している各種計画(たとえば、行政区別基本計画)にアクセスすると面白い。

## 教科書 / Textbooks

授業中に適宜紹介する。

## 参考書 / Reference Books

授業中に適宜紹介する。

## 参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

授業中に適宜紹介する。

## その他 / Others

## 都市論 S

12966

担当者名 / Instructor リム・ボン

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Description

古代から未来までの時間軸で都市の歴史の変遷過程を通時的に捉え、同時に、各時代断面ごとにみられる都市の地域間特性を共時的に概観する。誰もが同意できるような「都市の定義」というものは今もって確立してはいないが、本講義では、これまでの都市づくりの実践例とその背景にある諸学説とを学ぶ作業を通じて、われわれの身近にある都市の風俗や空間のコンテキストを解読する能力を養うことを目的としている

## 到達目標 / Focus and Goal

歴史都市の概念の把握、都市の基本構造の理解、京都を舞台としたフィールドワークの実践力の獲得

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

特になし

## 授業スケジュール / Schedule

| 授業日 (第N回) | テーマ / Theme                 | キーワード / Key Word                    |
|-----------|-----------------------------|-------------------------------------|
| 第1回       | 歴史都市の光と影                    | 歴史都市、京都、ニューヨーク、プラハ、フィレンツェ、北京、空間、建築  |
| 第2回       | 京都の近代化と都市政策                 | 明治維新、遷都、都市再生、町衆、番組小学校、先端技術、伝統と革新の融合 |
| 第3回       | 京都の地下水脈と都市文化                | 水上都市、伝統産業、下賀茂神社、上賀茂神社、風水思想          |
| 第4回       | 竜安寺の石庭と京都文化                 | 仏教、石庭、被差別部落、襖絵、ニューヨーク、中国            |
| 第5回       | ニューヨーク①・マンハッタン誕生から現在まで      | 氷河、先住民、移民、貿易港、都市計画、摩天楼              |
| 第6回       | ニューヨーク②・マンハッタンの20世紀         | ボヘミアン、経済の隆盛、都市文化の開花、ハーレム・ルネッサンス     |
| 第7回       | ニューヨーク③・第二次ハーレムルネッサンス       | アフリカン・アメリカン、ハーレム、スラム、都市再生、NPO       |
| 第8回       | ニューヨーク④・国連ビルの建築をめぐる建築家たちの攻防 | ル・コルビュジエ、建築家、デザイン、権力闘争              |
| 第9回       | リサーチデイ                      | フィールドワーク                            |
| 第10回      | ベルリン①・都市文化の紹介               | ドイツ、東西冷戦、建築、都市構造、食文化、経済             |
| 第11回      | ベルリン②・都市構造                  | 古地図、ヒトラー、近代都市計画、統一ドイツ、労働者           |
| 第12回      | 上海の都市と建築                    | 外国人租界、経済成長、未来都市、再開発、住民の立ち退き         |
| 第13回      | 北京の都市文化                     | 首都機能、都市設計、四合院の建築、オリンピック、再開発         |
| 第14回      | 韓国の都市文化                     | ソウル、釜山、植民地経営、近代化遺産、日本町、保存と再生、清溪川の再生 |
| 第15回      |                             |                                     |

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

| 種別 / Kind | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc.  |
|-----------|-----------------|--------------------------------|
| レポート      | 100 %           | 京都を舞台としたフィールドワーク結果の緻密性、具体性、表現性 |

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

世界の都市のガイドブックや写真集になるべく多く目を通してください。

## 教科書 / Textbooks

授業中に適宜紹介する。

## 参考書 / Reference Books

授業中に適宜紹介する。

## 参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

授業中に適宜紹介する。

## その他 / Others

## 日常性の社会学 S S 社会病理学 II S

15044

担当者名 / Instructor 宝月 誠

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Description

逸脱とコントロールの作用を手掛かりにして、日常生活の秩序を構成し、再生産している社会的メカニズムを考える。こうした基本的な問題の検討に加えて、現代社会の主要な逸脱(街頭犯罪・ホワイトカラー犯罪)を取り上げ、共同体のインフォーマルなコントロールやフォーマルな制度のあり方を検討する。

## 到達目標 / Focus and Goal

テキストと講義を十分に理解すること。学んだことを参考にして、具体的な逸脱やコントロールの事例を自ら調べてみる。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

基本的な社会学の視点を学んでいることが望ましい。

## 授業スケジュール / Schedule

| 授業日(第N回) | テーマ / Theme             | キーワード / Key Word          |
|----------|-------------------------|---------------------------|
| 1        | 逸脱とコントロールを主題にする意義       | 日常世界・制度・秩序                |
| 2        | 逸脱に対する考え方(1):デュルケムの理論   | 集合意識・犯罪・刑罰                |
| 3        | 逸脱に対する考え方(2):アメリカ社会学の場合 | シカゴ学派・アノミー論・ラベリング論・合理的選択論 |
| 4        | 逸脱とは何か(1)               | 構造論・相互作用論・行為者論            |
| 5        | 逸脱とは何か(2)               | 定義の社会的構築・適用過程             |
| 6        | なぜ逸脱するのか(1)             | 社会解体論・アノミー論               |
| 7        | なぜ逸脱するのか(2)             | 差別的接触論・ラベリング論             |
| 8        | なぜ逸脱するのか(3)             | 社会的絆論・合理的選択論              |
| 9        | なぜ逸脱するのか(4)             | 統合理論                      |
| 10       | コントロールの考え方              | コントロールの存在根拠・機能            |
| 11       | コントロールの目的               | 応報・抑止・治療・和解               |
| 12       | インフォーマルなコントロール          | 社会資本・世論                   |
| 13       | フォーマルなコントロール            | 統制機関・遂行過程・裁量              |
| 14       | 監視社会                    | アサイラム・日常の監視               |
| 15       | コントロールの有効性              | だれにとって有効か                 |

 (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment  
 (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

| 種別 / Kind | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc. |
|-----------|-----------------|-------------------------------|
| 定期試験      | 80 %            |                               |
| レポート      | 20 %            |                               |

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

## 教科書 / Textbooks

| 書名 / Title    | 出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment |
|---------------|----------------------------------------------------------|
| 逸脱とコントロールの社会学 | 宝月 誠／有斐閣／4-641-1227-x／                                   |

## 参考書 / Reference Books

## 参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

## その他 / Others



## 日本経済論 S S 現代経済論II S

20122

担当者名 / Instructor 松葉 正文

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Description

現代日本経済分析をテーマとし、1990年以降のバブル崩壊不況における国民生活の諸相について、文字通りの「現局面」分析を行なう。

本科目は、もちろん独立した科目であるが、私のもう1つの担当科目「現代経済論」と連結しておりその後半部分にあたる。

## 到達目標 / Focus and Goal

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enrolle in, but not required to

## 授業スケジュール / Schedule

| 授業日 (第N回) | テーマ / Theme  | キーワード / Key Word |
|-----------|--------------|------------------|
| 1.        | はじめにー日本経済の概況 |                  |
| 2.        | 市民社会と企業社会    |                  |
| 3.        | 大企業体制の2類型    |                  |
| 4.        | 国家財政の動向      |                  |
| 5.        | 勤労者層の賃金構造    |                  |
| 6.        | 同上. 労働諸条件    |                  |
| 7.        | 外国人労働者問題の現状  |                  |
| 8.        | 農民層の経済生活条件   |                  |
| 9.        | 中小企業経営の現状    |                  |
| 10.       | 国民の所得構成      |                  |
| 11.       | 同上. 資産構成     |                  |
| 12.       | 社会保障の現状と問題点  |                  |
| 13.       | 住宅・土地問題      |                  |
| 14.       | まとめ          |                  |
| 15.       | 定期試験         |                  |

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

| 種別 / Kind | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc. |
|-----------|-----------------|-------------------------------|
| 定期試験      | 100 %           |                               |

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

## 教科書 / Textbooks

松葉正文『現代日本経済論：市民社会と企業社会の間』晃洋書房。

## 参考書 / Reference Books

授業中に適時紹介する。

## 参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

## その他 / Others

## 乳幼児心理学 S S 認知発達論 S

13041

担当者名 / Instructor 清水 民子

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Description

テーマ: 「乳幼児発達の見取り図」

概要: 出生から就学まで (0 - 6 歳、胎生期を含む) の時期の発達について、主として発達心理学分野の知見・研究資料にもとづいて概説する。前半 (7回) は、胎生期、乳児期、幼児期の各発達段階を追って、発達の特徴の概略を述べる。後半 (7回) は運動機能、認知機能と操作、感情と社会性、人格発達と生活様式など、領域・機能ごとの研究状況を紹介します。最後に研究方法の発展について考察する。

## 到達目標 / Focus and Goal

- 1) 乳幼児への関心を高め、その生活と発達をとらえる視点を明確化する。
- 2) 乳幼児の観察記録や行動測定資料の読み取り、分析、考察に習熟する。
- 3) 乳幼児の発達に影響する環境要因や保育・教育過程の意義を考察する理論状況を知る。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

## 授業スケジュール / Schedule

| 授業日 (第N回) | テーマ / Theme               | キーワード / Key Word         |
|-----------|---------------------------|--------------------------|
| 4月7日      | 乳幼児の発達の概略、時期区分と生涯発達における位置 | 発達の時期区分、年齢の目やす           |
| 4月14日     | 胎生期の発達                    | 胎生期の時期区分、先天異常            |
| 4月21日     | 新生児期の発達                   | 胎内から胎外へ、新生児の能力、初期育児      |
| 4月28日     | 乳児期前期の発達                  | 姿勢、把握、微笑、生活リズム           |
| 5月12日     | 乳児期後期の発達                  | 座位、匍匐、対象操作、愛着、離乳         |
| 5月19日     | 幼児期前期の発達                  | 歩行、道具操作、言語、日課、身辺自立       |
| 5月26日     | 幼児期後期の発達                  | 運動の随意性、造形表現、役割遊び、集団生活    |
| 6月2日      | 運動機能の発達                   | 運動発達基準、動きと表現、運動的遊び       |
| 6月9日      | 手操作の発達と対象活動               | 手操作の巧緻性、対象構成、描画、造形       |
| 6月16日     | 認知の発達: 空間、もの、ひと、心         | 空間認知、色、形、構成、分割、予期、心の理論   |
| 6月23日     | 言語発達と表現の発達                | 発声、記号化、語彙、文型、対話、思考、ことば遊び |
| 6月30日     | 感情と社会性の発達                 | 感情の分化、愛着、対人行動、遊び         |
| 7月7日      | 乳幼児の人格発達と生活様式             | 依存、自立、個性、生活時間、生活空間、文化    |
| 7月14日     | 乳幼児発達の研究方法                | 観察、検査、調査、発達連関、要因連関       |
| 7月        | 定期試験                      |                          |

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

| 種別 / Kind | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc. |
|-----------|-----------------|-------------------------------|
| 定期試験      | 95 %            | 試験問題で提示した資料の読み取り、分析、考察する力を問う。 |
| その他       | 0 %             | 講義中、講義後の質問、意見発表など、積極的アピールを評価。 |

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

## 教科書 / Textbooks

## 参考書 / Reference Books

| 書名 / Title | 出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment |
|------------|----------------------------------------------------------|
| 育ちあう乳幼児心理学 | 心理科学研究会／有斐閣／4-641-07634-0／保育実践関連                         |
| 教育の段階      | M.ドボス／岩波書店／4-00-000383-6／青年期までの見通しのなかで                   |
| 乳幼児の心理     | 麻生武／サイエンス社／／発達研究の状況と理論                                   |

## 参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

## その他 / Others

## 人間コミュニケーション論 S S コミュニケーション心理学 S

15052

担当者名 / Instructor 団 士郎

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Description

対人コミュニケーションには言語的なものと、非言語的なものがあります。そして人は圧倒的に多く言語的コミュニケーションを使います。そこではしばしば上手、下手の意識が生まれます。その結果ついつい、「他人とのコミュニケーションは苦手…」などという説明を自分に貼り付けてしまいます。また一方で、得意な人も苦手な人も、非言語的コミュニケーションについて自覚することは少ないものです。自分の態度が他者の目にどのように映っているのか。気にはなるけれども、明らかにされる機会はありません。ここにも焦点を当てます。

対人コミュニケーションにおいては「技術」と「内容」の二つの課題が存在します。当然のことですが、良好なコミュニケーションはコンテンツ(伝える内容)とプロセス(伝達的手段技術)の両者がうまく備わってこそです。この授業では、大学の講義としては馴染みの少ない、毎回の実習形式でこれらの課題に各自挑戦してもらいます。

## 到達目標 / Focus and Goal

まず、対人コミュニケーションにおける自身の特徴を自覚する事から始まります。そしてそこで発見される課題に各自が取り組みます。エクササイズは毎回提示されますが、どう取り組むかは受講生に委ねられます。教室は知的情報取得の場ではなく、コミュニケーションスキルに関する、スポーツジムに近い感覚になります。到達目標はそれぞれのコミュニケーション能力の一步前進です。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

## 授業スケジュール / Schedule

| 授業日(第N回) | テーマ / Theme                                  | キーワード / Key Word |
|----------|----------------------------------------------|------------------|
| 0410     | イントロダクション 15回の進め方 第一回の実習 ミニレポート(記述・提出)       |                  |
| 0417     | 前回のレポート振り返り(レクチュア)・今日の課題実習・今日のフィードバック(記述・提出) |                  |
| 0424     | 前回のレポート振り返り(レクチュア)・今日の課題実習・今日のフィードバック(記述・提出) |                  |
| 0501     | 前回のレポート振り返り(レクチュア)・今日の課題実習・今日のフィードバック(記述・提出) |                  |
| 0508     | 前回のレポート振り返り(レクチュア)・今日の課題実習・今日のフィードバック(記述・提出) |                  |
| 0515     | 前回のレポート振り返り(レクチュア)・今日の課題実習・今日のフィードバック(記述・提出) |                  |
| 0522     | 前回のレポート振り返り(レクチュア)・今日の課題実習・今日のフィードバック(記述・提出) |                  |
| 0529     | 前回のレポート振り返り(レクチュア)・今日の課題実習・今日のフィードバック(記述・提出) |                  |
| 0605     | 前回のレポート振り返り(レクチュア)・今日の課題実習・今日のフィードバック(記述・提出) |                  |
| 0612     | 前回のレポート振り返り(レクチュア)・今日の課題実習・今日のフィードバック(記述・提出) |                  |
| 0619     | 前回のレポート振り返り(レクチュア)・今日の課題実習・今日のフィードバック(記述・提出) |                  |
| 0626     | 前回のレポート振り返り(レクチュア)・今日の課題実習・今日のフィードバック(記述・提出) |                  |
| 0703     | 非言語コミュニケーション実習・今日のフィードバック(記述・提出)             |                  |
| 0710     | 前回のレポート振り返り(レクチュア)・今日の課題実習・                  |                  |
| 0717     | 課題レポート                                       |                  |

 (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment  
 (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

| 種別 / Kind | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc. |
|-----------|-----------------|-------------------------------|
| レポート      | 50 %            |                               |
| 日常点       | 50 %            | 毎週、ミニレポートの提出があります。            |

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

半分以上出席できそうにない者は登録しないでください。ミニレポートだけ出しに来るような対応も承認しません。

**教科書 / Textbooks****参考書 / Reference Books****書名 / Title**

家族の練習問題

不登校の解法—家族のシステムとは何か—

**出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment**

団士郎／ホンプロック／／マンガです。家族のコミュニケーションに焦点をあてた新刊です。

団士郎／文春新書／／読みやすい新書です。家族システム論の視点から、親子のコミュニケーションをテーマに書いています。

**参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course****その他 / Others**

## 人間発達論 S S 人格発達論 S

15046

担当者名 / Instructor 加藤 直樹

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Description

人格の発達についての基礎的な解説と21世紀の担い手に求められるものは何かという観点から人格発達のための課題を論じる。

## 到達目標 / Focus and Goal

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enrolle in, but not required to

## 授業スケジュール / Schedule

| 授業日 (第N回) | テーマ / Theme                                                      | キーワード / Key Word |
|-----------|------------------------------------------------------------------|------------------|
|           | 1.現代社会における人格発達の課題                                                |                  |
|           | 1.1「人格を考える」 1.2人格をめぐる今日の課題 1.3人格発達の「危機」の                         |                  |
|           | 1.3.1高度成長期がもたらしたもの (1) 1.3.2高度成長期がもたらしたもの (2)                    |                  |
|           | 2.21世紀の担い手のために                                                   |                  |
|           | 2.1現代社会における自立を考える                                                |                  |
|           | 2.1.1「自立の時代」と自立をめぐる二つの潮流 「自立の時代」「義務としての自立」と「権利としての自立」            |                  |
|           | 2.1.2新しい自立論とその主張 「依存적自立」「全人格的自立」＝ 経済的自立、生活技術的自立、精神的自立 目標概念としての自立 |                  |
|           | 2.1.3自立 「自律」＝自己コントロール 自己教育力                                      |                  |
|           | 2.2自己教育力とその形成 (その1)                                              |                  |
|           | 2.2.1自己意識・自己認識・自覚 2.2.2もうひとりの自分との葛藤 2.2.3自己肯定の定義                 |                  |
|           | 2.3自己教育力とその形成 (その2)                                              |                  |
|           | 2.3.1目標・希望・展望 2.3.2信頼・共感・連帯                                      |                  |
|           | 2.4人格と集団                                                         |                  |
|           | 2.4.1人格形成における集団の意味 2.4.2集団の発展と人格発達                               |                  |

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment  
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

| 種別 / Kind           | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc. |
|---------------------|-----------------|-------------------------------|
| 定期試験                | 100 %           |                               |
| 試験を行うほか小テスト結果を加味する。 |                 |                               |

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

## 教科書 / Textbooks

特に設けない

## 参考書 / Reference Books

加藤直樹「障害者の自立と発達保障」全国障害者問題研究会出版部1997

## 参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

## その他 / Others

随時小テストを実施する。

## 人間福祉演習Ⅲ SA

12599

担当者名 / Instructor 津止 正敏

単位数 / Credit 4

## 授業の概要 / Course Description

この授業は「社会福祉援助技術実習指導Ⅱ」「同Ⅲ」「社会福祉援助技術現場実習」と連動する。前期では実習の事前学習、後期では実習後の振り返り学習を中心に行う。

## 到達目標 / Focus and Goal

(前期)

- ・実習先に関する十分な事前学習
- ・実習分野に関する問題状況の十分な理解
- ・実習分野に関係する制度・政策の十分な理解

(後期)

- ・実習に関する総括
- ・社会福祉実践に対する十分な理解と認識
- ・実習先に関する十分な理解と認識
- ・福祉問題に関する十分な理解
- ・福祉制度・政策の十分な理解

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enrolle in, but not required to

本科目の履修にあたり、「社会福祉援助技術実習指導Ⅰ」の履修は必須となる。  
なお、あわせて「社会福祉援助技術論Ⅰ～Ⅳ」の履修が望まれる。

## 授業スケジュール / Schedule

授業日 (第N回)

テーマ / Theme

キーワード / Key Word

演習初日に指示する

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

社会福祉施設や機関の見学やボランティア活動などを積極的にに行い、自主的に問題意識を深めることが望まれる。

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind

割合 / Percentage

評価基準等 / Grading Criteria etc.

日常点

100 %

この授業はあらかじめクラス指定があるため科目登録の際は注意すること。実習の事前・事後学習として、この科目の履修が非常に重要であるため、毎回必ず出席すること。出席状況等に問題がある場合は、現場実習を履修できない場合、受験資格を取得できない場合があるので注意すること。

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

## 教科書 / Textbooks

## 参考書 / Reference Books

書名 / Title

出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment

「ソーシャルワーク実習」

岡田まり他編／有斐閣／4-641-05541-6／

## 参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

## その他 / Others

## 人間福祉演習Ⅲ SB

12600

担当者名 / Instructor 井上 公子

単位数 / Credit 4

## 授業の概要 / Course Description

この授業は「社会福祉援助技術実習指導Ⅱ」「同Ⅲ」「社会福祉援助技術現場実習」と連動する。前期では実習の事前学習、後期では実習後の振り返り学習を中心に行う。

## 到達目標 / Focus and Goal

(前期)

- ・実習先に関する十分な事前学習
- ・実習分野に関する問題状況の十分な理解
- ・実習分野に関係する制度・政策の十分な理解

(後期)

- ・実習に関する総括
- ・社会福祉実践に対する十分な理解と認識
- ・実習先に関する十分な理解と認識
- ・福祉問題に関する十分な理解
- ・福祉制度・政策の十分な理解

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enrolle in, but not required to

本科目の履修にあたり、「社会福祉援助技術実習指導Ⅰ」の履修は必須となる。  
なお、あわせて「社会福祉援助技術論Ⅰ～Ⅳ」の履修が望まれる。

## 授業スケジュール / Schedule

授業日 (第N回)

テーマ / Theme

キーワード / Key Word

演習初日に指示する

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

社会福祉施設や機関の見学やボランティア活動などを積極的にに行い、自主的に問題意識を深めることが望まれる。

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind

割合 / Percentage

評価基準等 / Grading Criteria etc.

日常点

100 %

この授業はあらかじめクラス指定があるため科目登録の際は注意すること。実習の事前・事後学習として、この科目の履修が非常に重要であるため、毎回必ず出席すること。出席状況等に問題がある場合は、現場実習を履修できない場合、受験資格を取得できない場合があるので注意すること。

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

## 教科書 / Textbooks

## 参考書 / Reference Books

書名 / Title

出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment

「ソーシャルワーク実習」

岡田まり他編／有斐閣／4-641-05541-6／

## 参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

## その他 / Others

## 人間福祉演習Ⅲ SC

12601

担当者名 / Instructor 土屋 健弘

単位数 / Credit 4

## 授業の概要 / Course Description

この授業は「社会福祉援助技術実習指導Ⅱ」「同Ⅲ」「社会福祉援助技術現場実習」と連動する。前期では実習の事前学習、後期では実習後の振り返り学習を中心に行う。

## 到達目標 / Focus and Goal

(前期)

- ・実習先に関する十分な事前学習
- ・実習分野に関する問題状況の十分な理解
- ・実習分野に関係する制度・政策の十分な理解

(後期)

- ・実習に関する総括
- ・社会福祉実践に対する十分な理解と認識
- ・実習先に関する十分な理解と認識
- ・福祉問題に関する十分な理解
- ・福祉制度・政策の十分な理解

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enrolle in, but not required to

本科目の履修にあたり、「社会福祉援助技術実習指導Ⅰ」の履修は必須となる。  
なお、あわせて「社会福祉援助技術論Ⅰ～Ⅳ」の履修が望まれる。

## 授業スケジュール / Schedule

授業日 (第N回)

テーマ / Theme

キーワード / Key Word

演習初日に指示する

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

社会福祉施設や機関の見学やボランティア活動などを積極的にに行い、自主的に問題意識を深めることが望まれる。

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind

割合 / Percentage

評価基準等 / Grading Criteria etc.

日常点

100 %

この授業はあらかじめクラス指定があるため科目登録の際は注意すること。実習の事前・事後学習として、この科目の履修が非常に重要であるため、毎回必ず出席すること。出席状況等に問題がある場合は、現場実習を履修できない場合、受験資格を取得できない場合があるので注意すること。

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

## 教科書 / Textbooks

## 参考書 / Reference Books

書名 / Title

出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment

「ソーシャルワーク実習」

岡田まり他編／有斐閣／4-641-05541-6／

## 参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

## その他 / Others



## 人間福祉演習Ⅲ SD

12602

担当者名 / Instructor 廣末 利弥

単位数 / Credit 4

## 授業の概要 / Course Description

この授業は「社会福祉援助技術実習指導Ⅱ」「同Ⅲ」「社会福祉援助技術現場実習」と連動する。前期では実習の事前学習、後期では実習後の振り返り学習を中心に行う。

## 到達目標 / Focus and Goal

(前期)

- ・実習先に関する十分な事前学習
- ・実習分野に関する問題状況の十分な理解
- ・実習分野に関係する制度・政策の十分な理解

(後期)

- ・実習に関する総括
- ・社会福祉実践に対する十分な理解と認識
- ・実習先に関する十分な理解と認識
- ・福祉問題に関する十分な理解
- ・福祉制度・政策の十分な理解

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enrolle in, but not required to

本科目の履修にあたり、「社会福祉援助技術実習指導Ⅰ」の履修は必須となる。  
なお、あわせて「社会福祉援助技術論Ⅰ～Ⅳ」の履修が望まれる。

## 授業スケジュール / Schedule

授業日 (第N回)

テーマ / Theme

キーワード / Key Word

演習初日に指示する

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

社会福祉施設や機関の見学やボランティア活動などを積極的にに行い、自主的に問題意識を深めることが望まれる。

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind

割合 / Percentage

評価基準等 / Grading Criteria etc.

日常点

100 %

この授業はあらかじめクラス指定があるため科目登録の際は注意すること。実習の事前・事後学習として、この科目の履修が非常に重要であるため、毎回必ず出席すること。出席状況等に問題がある場合は、現場実習を履修できない場合、受験資格を取得できない場合があるので注意すること。

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

## 教科書 / Textbooks

## 参考書 / Reference Books

書名 / Title

出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment

「ソーシャルワーク実習」

岡田まり他編／有斐閣／4-641-05541-6／

## 参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

## その他 / Others

## 人間福祉演習Ⅲ SE

12603

担当者名 / Instructor 池添 素

単位数 / Credit 4

## 授業の概要 / Course Description

この授業は「社会福祉援助技術実習指導Ⅱ」「同Ⅲ」「社会福祉援助技術現場実習」と連動する。前期では実習の事前学習、後期では実習後の振り返り学習を中心に行う。

## 到達目標 / Focus and Goal

(前期)

- ・実習先に関する十分な事前学習
- ・実習分野に関する問題状況の十分な理解
- ・実習分野に関係する制度・政策の十分な理解

(後期)

- ・実習に関する総括
- ・社会福祉実践に対する十分な理解と認識
- ・実習先に関する十分な理解と認識
- ・福祉問題に関する十分な理解
- ・福祉制度・政策の十分な理解

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enrolle in, but not required to

本科目の履修にあたり、「社会福祉援助技術実習指導Ⅰ」の履修は必須となる。  
なお、あわせて「社会福祉援助技術論Ⅰ～Ⅳ」の履修が望まれる。

## 授業スケジュール / Schedule

授業日 (第N回)

テーマ / Theme

キーワード / Key Word

演習初日に指示する

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

社会福祉施設や機関の見学やボランティア活動などを積極的にに行い、自主的に問題意識を深めることが望まれる。

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind

割合 / Percentage

評価基準等 / Grading Criteria etc.

日常点

100 %

この授業はあらかじめクラス指定があるため科目登録の際は注意すること。実習の事前・事後学習として、この科目の履修が非常に重要であるため、毎回必ず出席すること。出席状況等に問題がある場合は、現場実習を履修できない場合、受験資格を取得できない場合があるので注意すること。

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

## 教科書 / Textbooks

## 参考書 / Reference Books

書名 / Title

出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment

「ソーシャルワーク実習」

岡田まり他編／有斐閣／4-641-05541-6／

## 参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

## その他 / Others

## 人間福祉演習Ⅲ SF

12604

担当者名 / Instructor 山田 尋志

単位数 / Credit 4

## 授業の概要 / Course Description

この授業は「社会福祉援助技術実習指導Ⅱ」「同Ⅲ」「社会福祉援助技術現場実習」と連動する。前期では実習の事前学習、後期では実習後の振り返り学習を中心に行う。

## 到達目標 / Focus and Goal

(前期)

- ・実習先に関する十分な事前学習
- ・実習分野に関する問題状況の十分な理解
- ・実習分野に関係する制度・政策の十分な理解

(後期)

- ・実習に関する総括
- ・社会福祉実践に対する十分な理解と認識
- ・実習先に関する十分な理解と認識
- ・福祉問題に関する十分な理解
- ・福祉制度・政策の十分な理解

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enrolle in, but not required to

本科目の履修にあたり、「社会福祉援助技術実習指導Ⅰ」の履修は必須となる。  
なお、あわせて「社会福祉援助技術論Ⅰ～Ⅳ」の履修が望まれる。

## 授業スケジュール / Schedule

授業日 (第N回)

テーマ / Theme

キーワード / Key Word

演習初日に指示する

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

社会福祉施設や機関の見学やボランティア活動などを積極的にに行い、自主的に問題意識を深めることが望まれる。

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind

割合 / Percentage

評価基準等 / Grading Criteria etc.

日常点

100 %

この授業はあらかじめクラス指定があるため科目登録の際は注意すること。実習の事前・事後学習として、この科目の履修が非常に重要であるため、毎回必ず出席すること。出席状況等に問題がある場合は、現場実習を履修できない場合、受験資格を取得できない場合があるので注意すること。

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

## 教科書 / Textbooks

## 参考書 / Reference Books

書名 / Title

出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment

「ソーシャルワーク実習」

岡田まり他編／有斐閣／4-641-05541-6／

## 参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

## その他 / Others

## 人間福祉演習Ⅲ SG

12605

担当者名 / Instructor 西村 清忠

単位数 / Credit 4

## 授業の概要 / Course Description

この授業は「社会福祉援助技術実習指導Ⅱ」「同Ⅲ」「社会福祉援助技術現場実習」と連動する。前期では実習の事前学習、後期では実習後の振り返り学習を中心に行う。

## 到達目標 / Focus and Goal

(前期)

- ・実習先に関する十分な事前学習
- ・実習分野に関する問題状況の十分な理解
- ・実習分野に関係する制度・政策の十分な理解

(後期)

- ・実習に関する総括
- ・社会福祉実践に対する十分な理解と認識
- ・実習先に関する十分な理解と認識
- ・福祉問題に関する十分な理解
- ・福祉制度・政策の十分な理解

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enrolle in, but not required to

本科目の履修にあたり、「社会福祉援助技術実習指導Ⅰ」の履修は必須となる。  
なお、あわせて「社会福祉援助技術論Ⅰ～Ⅳ」の履修が望まれる。

## 授業スケジュール / Schedule

授業日 (第N回)

テーマ / Theme

キーワード / Key Word

演習初日に指示する

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

社会福祉施設や機関の見学やボランティア活動などを積極的にに行い、自主的に問題意識を深めることが望まれる。

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind

割合 / Percentage

評価基準等 / Grading Criteria etc.

日常点

100 %

この授業はあらかじめクラス指定があるため科目登録の際は注意すること。実習の事前・事後学習として、この科目の履修が非常に重要であるため、毎回必ず出席すること。出席状況等に問題がある場合は、現場実習を履修できない場合、受験資格を取得できない場合があるので注意すること。

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

## 教科書 / Textbooks

## 参考書 / Reference Books

書名 / Title

出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment

「ソーシャルワーク実習」

岡田まり他編／有斐閣／4-641-05541-6／

## 参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

## その他 / Others

## 人間福祉演習Ⅲ SH

12606

担当者名 / Instructor 十河 美子

単位数 / Credit 4

## 授業の概要 / Course Description

この授業は「社会福祉援助技術実習指導Ⅱ」「同Ⅲ」「社会福祉援助技術現場実習」と連動する。前期では実習の事前学習、後期では実習後の振り返り学習を中心に行う。

## 到達目標 / Focus and Goal

(前期)

- ・実習先に関する十分な事前学習
- ・実習分野に関する問題状況の十分な理解
- ・実習分野に関係する制度・政策の十分な理解

(後期)

- ・実習に関する総括
- ・社会福祉実践に対する十分な理解と認識
- ・実習先に関する十分な理解と認識
- ・福祉問題に関する十分な理解
- ・福祉制度・政策の十分な理解

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enrolle in, but not required to

本科目の履修にあたり、「社会福祉援助技術実習指導Ⅰ」の履修は必須となる。  
なお、あわせて「社会福祉援助技術論Ⅰ～Ⅳ」の履修が望まれる。

## 授業スケジュール / Schedule

授業日 (第N回)

テーマ / Theme

キーワード / Key Word

演習初日に指示する

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

社会福祉施設や機関の見学やボランティア活動などを積極的にに行い、自主的に問題意識を深めることが望まれる。

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind

割合 / Percentage

評価基準等 / Grading Criteria etc.

日常点

100 %

この授業はあらかじめクラス指定があるため科目登録の際は注意すること。実習の事前・事後学習として、この科目の履修が非常に重要であるため、毎回必ず出席すること。出席状況等に問題がある場合は、現場実習を履修できない場合、受験資格を取得できない場合があるので注意すること。

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

## 教科書 / Textbooks

## 参考書 / Reference Books

書名 / Title

出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment

「ソーシャルワーク実習」

岡田まり他編／有斐閣／4-641-05541-6／

## 参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

## その他 / Others

## 人間福祉演習Ⅲ SI

12607

担当者名 / Instructor 松井 信也

単位数 / Credit 4

## 授業の概要 / Course Description

この授業は「社会福祉援助技術実習指導Ⅱ」「同Ⅲ」「社会福祉援助技術現場実習」と連動する。前期では実習の事前学習、後期では実習後の振り返り学習を中心に行う。

## 到達目標 / Focus and Goal

(前期)

- ・実習先に関する十分な事前学習
- ・実習分野に関する問題状況の十分な理解
- ・実習分野に関係する制度・政策の十分な理解

(後期)

- ・実習に関する総括
- ・社会福祉実践に対する十分な理解と認識
- ・実習先に関する十分な理解と認識
- ・福祉問題に関する十分な理解
- ・福祉制度・政策の十分な理解

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enrolle in, but not required to

本科目の履修にあたり、「社会福祉援助技術実習指導Ⅰ」の履修は必須となる。  
なお、あわせて「社会福祉援助技術論Ⅰ～Ⅳ」の履修が望まれる。

## 授業スケジュール / Schedule

授業日 (第N回)

テーマ / Theme

キーワード / Key Word

演習初日に指示する

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

社会福祉施設や機関の見学やボランティア活動などを積極的にに行い、自主的に問題意識を深めることが望まれる。

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind

割合 / Percentage

評価基準等 / Grading Criteria etc.

日常点

100 %

この授業はあらかじめクラス指定があるため科目登録の際は注意すること。実習の事前・事後学習として、この科目の履修が非常に重要であるため、毎回必ず出席すること。出席状況等に問題がある場合は、現場実習を履修できない場合、受験資格を取得できない場合があるので注意すること。

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

## 教科書 / Textbooks

## 参考書 / Reference Books

書名 / Title

出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment

「ソーシャルワーク実習」

岡田まり他編／有斐閣／4-641-05541-6／

## 参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

## その他 / Others

## 人間福祉演習Ⅲ SJ

12608

担当者名 / Instructor 谷 勇男

単位数 / Credit 4

## 授業の概要 / Course Description

この授業は「社会福祉援助技術実習指導Ⅱ」「同Ⅲ」「社会福祉援助技術現場実習」と連動する。前期では実習の事前学習、後期では実習後の振り返り学習を中心に行う。

## 到達目標 / Focus and Goal

(前期)

- ・実習先に関する十分な事前学習
- ・実習分野に関する問題状況の十分な理解
- ・実習分野に関係する制度・政策の十分な理解

(後期)

- ・実習に関する総括
- ・社会福祉実践に対する十分な理解と認識
- ・実習先に関する十分な理解と認識
- ・福祉問題に関する十分な理解
- ・福祉制度・政策の十分な理解

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enrolle in, but not required to

本科目の履修にあたり、「社会福祉援助技術実習指導Ⅰ」の履修は必須となる。  
なお、あわせて「社会福祉援助技術論Ⅰ～Ⅳ」の履修が望まれる。

## 授業スケジュール / Schedule

授業日 (第N回)

テーマ / Theme

キーワード / Key Word

演習初日に指示する

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

社会福祉施設や機関の見学やボランティア活動などを積極的にに行い、自主的に問題意識を深めることが望まれる。

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind

割合 / Percentage

評価基準等 / Grading Criteria etc.

日常点

100 %

この授業はあらかじめクラス指定があるため科目登録の際は注意すること。実習の事前・事後学習として、この科目の履修が非常に重要であるため、毎回必ず出席すること。出席状況等に問題がある場合は、現場実習を履修できない場合、受験資格を取得できない場合があるので注意すること。

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

## 教科書 / Textbooks

## 参考書 / Reference Books

書名 / Title

出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment

「ソーシャルワーク実習」

岡田まり他編／有斐閣／4-641-05541-6／

## 参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

## その他 / Others

## 人間福祉演習Ⅲ SK

12609

担当者名 / Instructor 小川 栄二

単位数 / Credit 4

## 授業の概要 / Course Description

この授業は「社会福祉援助技術実習指導Ⅱ」「同Ⅲ」「社会福祉援助技術現場実習」と連動する。前期では実習の事前学習、後期では実習後の振り返り学習を中心に行う。

## 到達目標 / Focus and Goal

(前期)

- ・実習先に関する十分な事前学習
- ・実習分野に関する問題状況の十分な理解
- ・実習分野に関係する制度・政策の十分な理解

(後期)

- ・実習に関する総括
- ・社会福祉実践に対する十分な理解と認識
- ・実習先に関する十分な理解と認識
- ・福祉問題に関する十分な理解
- ・福祉制度・政策の十分な理解

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enrolle in, but not required to

本科目の履修にあたり、「社会福祉援助技術実習指導Ⅰ」の履修は必須となる。  
なお、あわせて「社会福祉援助技術論Ⅰ～Ⅳ」の履修が望まれる。

## 授業スケジュール / Schedule

授業日 (第N回)

テーマ / Theme

キーワード / Key Word

演習初日に指示する

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

社会福祉施設や機関の見学やボランティア活動などを積極的にに行い、自主的に問題意識を深めることが望まれる。

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind

割合 / Percentage

評価基準等 / Grading Criteria etc.

日常点

100 %

この授業はあらかじめクラス指定があるため科目登録の際は注意すること。実習の事前・事後学習として、この科目の履修が非常に重要であるため、毎回必ず出席すること。出席状況等に問題がある場合は、現場実習を履修できない場合、受験資格を取得できない場合があるので注意すること。

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

## 教科書 / Textbooks

## 参考書 / Reference Books

書名 / Title

出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment

「ソーシャルワーク実習」

岡田まり他編／有斐閣／4-641-05541-6／

## 参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

## その他 / Others



## 人間論 S S 人間論I S

12970

担当者名 / Instructor 佐藤 嘉一

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Description

人間の社会との「かかわり」の歴史を「民話」や「小説」を題材にして社会的に論じます。伝統社会に生きる「あかずきんちゃん」、モダンソサエティの到来とロビンソン・クルーソー、変貌する大都会ペテルブルグに生きるアルカイジ青年などの生き方にみる「人格形成と社会構造」の問題を論じます。

## 到達目標 / Focus and Goal

社会学や経済学、精神分析や言語倫理などの学習をとおして「社会の動きと自己アイデンティティの形成」に関するものの見方の習得をめざします。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

一回生科目「基礎社会学」、同「人間と文化」、二回生科目「文化理論」の履修を薦めます。

## 授業スケジュール / Schedule

| 授業日 (第N回) | テーマ / Theme                                         | キーワード / Key Word                                  |
|-----------|-----------------------------------------------------|---------------------------------------------------|
| 第1回       | 社会とアイデンティティ 問題を「物語」によって語るわけ                         | アウグスチヌス『告白』、ルソー『告白』、自己論、ポスト・モダンという時代！？ わたくし語りの歴史  |
| 第2回       | 「わたくし」という現象—宮沢賢治の詩を読む：「自分をさがす」とはどのようなことを考えてみる       | 「わたくし」という現象、一人称単数で語る、現実は多元的である、現象学的社会学            |
| 第3回       | 「あかずきんちゃん」にみるアイデンティティと社会：民話の世界から「むら社会」(伝統的共同社会)に生き  | あかずきんちゃん、共同体、口承、構造優位、むらとり、民話                      |
| 第4回       | 「恩」の構造：日本のプレモダンの共同社会を生きる「伝統的パースナリティ」の特徴を「恩を返すはなし」   | 「契約における非契約的要素の問題」、「読み直す」ということ                     |
| 第5回       | グリム童話「蛙の王様」と「鶴の恩返し」—物語にみるヨーロッパの「プレモダン」と日本の「プレモダン」   | グリム童話、日本昔話、内発・能動と外発・受動、象徴動物—蛙と鶴・亀                 |
| 第6回       | 『ロビンソン・クルーソー』におけるアイデンティティと社会—社会学者や社会学者によるこの物語の読み方   | 一人称単数「わたし」の視点、構造の視点、理解社会学の行為の視点、経済的カテゴリー、理念型      |
| 第7回       | 夏目漱石の『ロビンソン・クルーソー』論—イギリス留学を体験した漱石の目から見た18世紀のイギリス社会  | ロビンソン型人間類型と漱石型人間類型、内発・能動、外発・受動 漱石のイギリス体験          |
| 第8回       | 「わたくし語り」とドストエフスキー：小説『未成年』をよむ—ドストエフスキーの物語世界を「わたくし」語  | 「盤根錯節」問題、ドストエフスキーの創作ノ、地下室の主人公、自然的態度の現象学           |
| 第9回       | 「わたくし語り」とドストエフスキー(続き)：「わたくし語り」のコンポジション：伝達・表現・叙述の3つ  | 直接世界、他者のあらわれ、私の身体のアラわれ、私の                         |
| 第10回      | 「わたくし語り」とドストエフスキー(続き)：今ここへ「内向する」語りと今ここを「超える」語り      | 意味連関のモザイク模様、類型化される意味世界、類型化される時間、類型化される空間、類型化される人格 |
| 第11回      | 「わたくし語り」とドストエフスキー(結び)：「わたし語り」というテーマによって「物語」のなにがどのよう | われわれ関係、汝が関係した私、語る私、「内世界的間主観性」、ポストモダンの自己アイデンティティ問題 |
| 第12回      | 「からだ・こころ・他者」について—「社会とアイデンティティの問題」をめぐる若干の基本カテゴリーについて | 肖像画を描く画家の目、文学者の目としての「異化」の方法、日常生活のリズムをとめる、サルトル     |
| 第13回      | サルトルの「からだ・こころ・他者」を読み直す—「存在と無」からだの4つの位相論             | 状況の中からのからだ、役割演技、カフェイのボーイ、眼差しの地獄、サディズムとマゾヒズム       |
| 第14回      | 自己論への道程—ヤヌスの課題を背負って：物語論にみられる「社会とアイデンティティ」問題の三つの視座   | 社会科学・社会学・文学の間、現場に居合わせる、社会構造と個人、ドロシー・エメット          |
| 第15回      | まとめ 物語における社会とアイデンティティ論の射程                           |                                                   |

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

| 種別 / Kind | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc.                |
|-----------|-----------------|----------------------------------------------|
| 定期試験      | 80 %            | 授業全体の理解度や基礎概念の学習度などを主に考査する                   |
| レポート      | 20 %            | 授業で学んだ「社会とアイデンティティ」問題を各自が創造的に再構築する作業として位置づける |

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

レポートを書くことは問題を整理し、理解を早めるばかりでなく、自分の新しい考え方に気づく自己発見の場となります。必ずレポートを書くようにしましょう。

## 教科書 / Textbooks

**書名 / Title**

物語のなかの社会とアイデンティティ

**出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment**

佐藤 嘉一／晃洋書房／4-7710-1525-2／

**参考書 / Reference Books****書名 / Title****出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment**

『未成年』

ドストエフスキー／岩波文庫／／授業の理解を深めるために

『春と修羅』

宮沢賢治／岩波文庫／／授業の理解を深めるために

『ロビンソン・クルーソー』

ダニエル・デフォー／岩波文庫／／授業の理解を深めるために

**参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course****その他 / Others**

## ネットワーク論 S

15079

担当者名 / Instructor 堀 孝弘

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Description

ITネットワークではなく、市民活動（特に環境活動）における人づくり、組織運営、ネットワーク構築について原則および実践事例を紹介する。学校生活だけでなく社会に出てもおおいに役立つ内容である。また、人と人をつなぎ議論を深めるうえで、情報のもつ意味は大きく、講師自らの活動経験も含めて、国内外の環境活動の最新事例を講義の後半で紹介し、受講者の視野を広げ市民のもつ力を実感してもらう。受講者参加ワークも実施する。

## 到達目標 / Focus and Goal

学園内、学外を問わず、また将来にわたり活用できる人的ネットワーク構築のための基本スキルを修得する。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enrolle in, but not required to

## 授業スケジュール / Schedule

| 授業日 (第N回) | テーマ / Theme                                             | キーワード / Key Word                     |
|-----------|---------------------------------------------------------|--------------------------------------|
| 1         | 本講義の目的、持続可能な社会づくりに必要な市民・市民団体間のネットワーク、市民・事業者・行政のパートナーシップ | 日本における環境活動の発展                        |
| 2         | 人を育て活かす技術 市民活動におけるコーディネーターの重要性                          | コーチングの基礎 閉じた質問を開いた質問に NGOの人材活用法      |
| 3         | 重要性人を育て活かす技術 市民活動のリーダーに求められるもの                          | 緊急性と重要性、問題と課題の把握 あなたのタイプ             |
| 4         | NGOの活動構築 課題設定、目標の立て方、ミッションと目標の違い                        | 問題対処型活動から課題解決型活動へ                    |
| 5         | 会議の進め方「レジュメをつくらう」 会議の合意形成の基本                            | 議論の引き出し、整理をどうするか                     |
| 6         | ネットワーク形成の留意点 ネットワークはなぜ組むのか                              | 企画の立て方、マーケティング・ポテンシャル分析              |
| 7         | 議論を高めるための情報 日本の自然の豊かさ現状                                 | 環境保護と環境保全の違い ミティゲーションの考え方            |
| 8         | 自然のネットワーク 自然を残し、つなぎ、再生する                                | 自然と人の共生 復元と再生                        |
| 9         | 議論を高めるための情報 モノの循環、動脈と静脈、リユースとリサイクル                      | 循環する社会 日本の容器包装リサイクル制度の問題             |
| 10        | 環境ネットワークの実例1 グリーンコンシューマー全国ネットワーク                        | ごみ削減、省エネ推進は、出口対策から入口の取り組みへ           |
| 11        | 環境ネットワークの実例2 海外のNGOの活動                                  | ごみ・リサイクル、目指すものは何か 海外先進事例と日本との比較      |
| 12        | 議論を高めるための情報 エネルギーの明るい未来                                 | 効率の向上、電力の自由化、新エネ活用などによる脱原発のビジョン      |
| 13        | 環境ネットワークの実例3 京都でがんばる様々な団体・ネットワーク                        | 気候ネットワーク、京都グリーンファンド、省エネラベル協議会、エコトーン他 |
| 14        | 環境ネットワークの実例4 環境首都コンテスト全国ネットワーク                          | ネットワークがなぜ必要なのか 今後の可能性 年間ふりかえり        |
| 15        | 期末試験                                                    |                                      |

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

| 種別 / Kind | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc.      |
|-----------|-----------------|------------------------------------|
| 定期試験      | 60 %            | 講師が各回提示・提供した情報等を、応用でき得よう咀嚼・理解しているか |
| レポート      | 3 %             |                                    |
| 日常点       | 37 %            | 授業への参加度と理解。各回提出の「授業感想」により判断する      |

講師・堀は社会で活動実践している者である。そのため、受講生にも社会人として最低限の礼は求めさせていただきたい。

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

## 教科書 / Textbooks

## 参考書 / Reference Books

| 書名 / Title | 出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment |
|------------|----------------------------------------------------------|
|------------|----------------------------------------------------------|

『大好き京都 環境市民の遊びかた・暮らしかた』 環境市民／環境市民／ISBN4-9902874-0-1／

-----  
必須ではないが、授業の理解を深めるものとして紹介したい。

**参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course**

講師堀が事務局長を務める「NPO法人環境市民」は、国内でも活動内容のユニークさや先進性で注目されている団体である(2004年度グリーン購入大賞・環境大臣賞受賞、2005年度京都府環境トップランナー賞受賞、京都新聞2005年元旦社説でも紹介された等)。ホームページの閲覧をすすめる。 <http://www.kankyoshimin.org>

**その他 / Others**

## 農村環境計画論 S S 都市・農村計画論I S

11977

担当者名 / Instructor 深井 純一

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Description

受講生諸君の大部分は、京阪神大都市圏または他県の比較的大きな都市で生まれ育っている。その意味で農業農村に疎いと言えるが、近年これらの都会出身者も農業農村に関心を持ち始めている。食料・環境などの面で農業農村とのつながりを求め始めている。都市と農村の提携というテーマを多角的に検討する。

## 到達目標 / Focus and Goal

農業農村の問題を身近にとらえ、現地見学や農作業体験に気軽に出かけていける基礎知識を身につけてほしい。  
最近ではマスコミにも農業農村問題の番組・記事は増えている。それらを理解し、批判する力量をめざしてほしい。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

他の環境論の諸科目。

## 授業スケジュール / Schedule

| 授業日 (第N回) | テーマ / Theme                                                                    | キーワード / Key Word                                                                                                      |
|-----------|--------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 第1回       | 開講に当たって 教師と学生は対等、果たして正しいかと疑いながら受講を! 期末レポートの出題と作成上の注意事項、成績評価の基準と方法の提案、期末に協議して決定 | 批判的精神、教育は対等の関係で                                                                                                       |
| 第2回       | ドキュメンタリービデオ上映『段々畑の歳月—太田部耕地の40年』、感想・質問のアンケート実施                                  | 秩父太田部耕地とは? 林業・畑作の衰退、若者の流出、山村住民の高齢化、過疎問題、                                                                              |
| 第3回       | 先週のビデオ・アンケートの質問に答える                                                            |                                                                                                                       |
| 第4回       | 序論・都市にとっての農村の役割は何か、過疎問題と過疎対策                                                   | 単なる人口減少ではない、人口減に伴う地域社会の衰退・解体、原因は山村の産業問題                                                                               |
| 第5回       | 森林と木の文化                                                                        | 山紫水明・治山治水の意味、広葉樹林の貯水・砂防機能、不可欠だった里山の林産資源と多様な利用法 ヨーロッパの石造家屋と日本の木造家屋を比較する、なぜ針葉樹林と皆伐方式に変わったのか                             |
| 第6回       | ドキュメンタリー・ビデオ上映『杉山崩壊 いま日本の森林は』、感想・質問のアンケート実施                                    |                                                                                                                       |
| 第7回       | ビデオ・アンケートに答える                                                                  |                                                                                                                       |
| 第8回       | かつての農業—半自給的生活と個別複合経営、なぜそれは崩壊して現代的農業に取って代わられるに至ったか                              | 成り立っていた資源の循環と節約、安い生活費、旬を大切にした栽培、現在の遠隔地大量生産と大量流通・大量消費、農業の大量使用はなぜ必要になったのか、畜産公害と家畜の病気多発の原因は?                             |
| 第9回       | 産直のあり方を考える                                                                     | 産直とは何の略称? 真の産直とは? 産直の3原則、生産者と消費者の結びつき、相互信頼まで進んでいるか、産直運営の困難とその打開策                                                      |
| 第10回      | 食料農産物と肥料となる廃棄物の交換—都市と農村の根源的関係                                                  | 高床式の床下に豚、「家」の字体の源、庭先の池に伸びた細い板は? いまも残る近郊農家の振り売り—かつては都市のし尿と野菜を交換していた、西欧でもし尿の肥料化                                         |
| 第11回      | コメ文化と水田の多面的機能                                                                  | 河川と結びついた農村集落の立地、稲作の宿命、水田による地下水貯留と浄化、棚田に典型的に示される砂防機能、広大な水田による環境調節、水田景観の役割。                                             |
| 第12回      | ドキュメンタリー・ビデオ上映『えりも岬に春を呼べ—砂漠を緑に』感想・質問のアンケート実施                                   |                                                                                                                       |
| 第13回      | ビデオ・アンケートに答える                                                                  |                                                                                                                       |
| 第14回      | 閉講に当たって、成績評価の基準と方法に関して協議・決定、14回の講義内容と方法に関する感想・批判の総括アンケート                       | 成績評価において期末レポートと中間の5回の提出物のウエイト、4回生以上の就職活動への配慮をどうするか、期末レポートにおいて参考文献の明記と引用・要約個所の明示、手書き、現地見学・図書館探検の過程を末尾にまとめる件などの是非を論議する。 |

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

期末レポートの作成に早くから取り組み、現地へ見学に出かけ、学内外の図書館を利用して文献を見つける。

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind 割合 / Percentage 評価基準等 / Grading Criteria etc.

|      |     |                                                                                          |
|------|-----|------------------------------------------------------------------------------------------|
| レポート | 0 % | 3回生以下は70%、4回生以上は85% (ただし受講生と協議して最終決定)                                                    |
| その他  | 0 % | 3回のビデオアンケート、特別講義の感想、全体の総括アンケート合わせて5回の中間提出物に、3回生以下は30%、4回生以上は15%を配点する。(ただしこの点も受講生と協議して最終決 |

#### 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

出来るだけ詳しいレジメ・参考資料を配布するので、ノートすることに追われず、内容を疑いながら聞くこと。

講義内容も参考文献の内容も仮説に過ぎない。挙手発言してほしいが、せめてアンケート類に率直な自分の意見・反論を書いてほしい。謙虚にお答えするつもり。批判の自由を全面的に保障する

#### 教科書 / Textbooks

ハンドブック・さんしゃ』に収録された私の「図書館探検法」を参考にして自分で探すこと。苦勞して見つけた宝物は読んでみようかという気になるものだ。

#### 参考書 / Reference Books

上記に同じく。

#### 参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

私は書物派。大変便利だが、インターネットは予習の手がかりに過ぎない。本を探して読む習慣を手放すな。

#### その他 / Others

## 発達障害論 S S 身体発達論I S

15100

担当者名 / Instructor 荒木 穂積

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Description

発達障害の概念、発生・成立のメカニズム、診断、予後および療育・指導方法などについて、人間の発達段階と関わらせて論じる。乳児期、幼児期においては早期発見・早期対応・早期療育などの課題と関わらせて、学童期・青年期においては学校教育・集団活動などの視点から発達支援の課題と関わらせて考えていきたい。

本講義では、人間発達の過程において発達の質的転換期（例えば、「階層-段階」理論など）との関わりで発達障害をとらえていく。

## 到達目標 / Focus and Goal

発達障害の基礎的知識や用語を知る。発達障害の発生・成立のメカニズムを知る。人間発達における質的転換期と発達障害の関係について理解を深める。発達障害児・者への支援の実践について学ぶ。

事前に履修しておくことが望まれる科目

乳幼児心理学、児童青年の心理、人間コミュニケーション論、障害者福祉論

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

## 授業スケジュール / Schedule

| 授業日 (第N回) | テーマ / Theme                                | キーワード / Key Word                      |
|-----------|--------------------------------------------|---------------------------------------|
| 第1回       | 1. 発達障害とは (1) - 基礎的用語と定義の説明 -              | 発達、障害、発達障害、学習障害、自閉症、                  |
| 第2回       | 発達障害とは (2) - 歴史・現状 -                       | 障害者数、発達障害者数、発達障害者支援法、障害の定義            |
| 第3回       | 2. 人間発達と発達障害 (1) - ヒトの誕生まで -               | 系統発生と障害の発生、人間進化、動物福祉学                 |
| 第4回       | 人間発達と発達障害 (2) - ヒトの誕生以降 -                  | ヒトの誕生、ネアンデルタール人、共同社会、社会の進歩と障害者        |
| 第5回       | 3. 発達の「階層-段階」と発達障害 (1) - 胎生期 (その1) -       | 卵体期、胎芽期、遺伝病、染色体異常                     |
| 第6回       | 発達の「階層-段階」と発達障害 (2) - 胎生期 (その2) -          | 胎児期、脳の発達、先天異常                         |
| 第7回       | 発達の「階層-段階」と発達障害 (3) - 周生期 -                | 未熟児、低体重児、仮死、アプガー指数                    |
| 第8回       | 発達の「階層-段階」と発達障害 (4) - 乳児期前半 -              | 原始反射、親と子の絆、運動発達、笑顔の獲得                 |
| 第9回       | 発達の「階層-段階」と発達障害 (4) - 乳児期後半 -              | 移動、コミュニケーション、注意共有機構 (SAM) 喃語の獲得、模倣と学習 |
| 第10回      | 発達の「階層-段階」と発達障害 (4) - 幼児期 -                | 歩行、道具の操作、言語の獲得、遊びと学習                  |
| 第11回      | 4. 広汎性発達障害をめぐって (1) - 自閉症 (その1) -          | 自閉症、早期発見、早期療育                         |
| 第12回      | 広汎性発達障害をめぐって (1) - 自閉症 (その2) -             | 思春期・青年期、二次障害、社会参加、障害の自己認識             |
| 第13回      | 広汎性発達障害をめぐって (1) - 自閉症スペクトラムまたはアスペルガー症候群 - | 社会性の発達、イメージの発達、こだわりと個性、インクルーシブな社会     |
| 第14回      | 広汎性発達障害をめぐって (1) - 自閉症スペクトラムまたはアスペルガー症候群 - | いじめ、不登校、非行                            |
| 第15回      | 定期試験                                       |                                       |

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

中間レポートで指定図書または資料を読んで発達障害への理解を深めてもらう予定である。

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

| 種別 / Kind | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc. |
|-----------|-----------------|-------------------------------|
| 定期試験      | 50 %            | 配点によって採点する。                   |
| レポート      | 50 %            | 事実と自分の意見・感想が区別して述べられているか。     |

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

発達障害への基礎知識の習得をすすめる。日頃、耳にする用語や概念を正確に理解してほしい。視聴覚教材を適宜もちいる。

## 教科書 / Textbooks

レジュメを配布する

## 参考書 / Reference Books

| 書名 / Title      | 出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment |
|-----------------|----------------------------------------------------------|
| 発達障害の基礎         | 熊谷公明・栗田広・有馬正高(編集)／日本文化科学社／／                              |
| 発達障害の臨床         | 熊谷公明・栗田広・有馬正高(編集)／日本文化科学社／／                              |
| 発達障害の豊かな世界      | 杉山登志郎／日本評論社／／                                            |
| 自閉症スペクトラムの発達と理解 | 別府哲・奥住秀之・小淵隆司／全国障害者問題研究会出版部／／                            |

#### 参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

日本自閉症協会: <http://www.autism.or.jp/>  
 日本ダウン症ネットワーク: <http://jdsn.gr.jp/>  
 日本知的障害者福祉連盟: <http://www13.ocn.ne.jp/~jlid/>  
 日本発達障害者ネットワーク: <http://jddnet.jp/>  
 全国障害者問題研究会: <http://www.nginet.or.jp/>  
 文部科学省: <http://www.mext.go.jp/>  
 厚生労働省: <http://www.mhlw.go.jp/>

#### その他 / Others



## 発達保障論 S

15028

担当者名 / Instructor 荒木 穂積

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Description

発達保障とは、社会福祉や保育・教育、医療などの実践や理論と関わる、人権や社会保障を根底から成り立しめるためにうまれてきた権利保障の思想と科学である。人間が一生をかけて自己実現を成し遂げるためには、生まれてから死をむかえるまでのライフサイクルをとおして、人生のそれぞれの時期にどのような人間的自由を獲得し、人間発達が保障される中で、人格の拡大・充実・発展を成し遂げるかを考える学問である。

本年度は、特に子ども、障害者（児）、教育の視点から発達保障の諸課題を取り上げる。人間発達の阻害状況とともに、子どもや障害をもつ人たちの発達の可能性とそれを保障するための理論と実際について考察していく。

## 到達目標 / Focus and Goal

発達保障の成り立ってきた歴史的背景、現代社会における人間発達の阻害状況、およびそれを発達の契機として築きあげてこられた人間の発達を保障するための諸理論と実践についての理解を深める。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enrolle in, but not required to

社会保障論、人格発達論、障害者福祉論、現代人権論、ライフサイクル論

## 授業スケジュール / Schedule

| 授業日 (第N回) | テーマ / Theme                             | キーワード / Key Word                                      |
|-----------|-----------------------------------------|-------------------------------------------------------|
| 1         | 第1章 発達保障とは何か (1)                        | 歴史的経緯、構成要素、3つの系                                       |
| 2         | 発達保障とは何か (2)                            | この子らを世の光に、階層段階－理論、糸賀一雄、田中昌人                           |
| 3         | 第2章 人権と発達保障の歴史 (1)                      | 自由権 (第1世代の人権)、社会権 (第2世代の人権)、平和権・環境権・健康権・発達権 (第3世代の人権) |
| 4         | 人権と発達保障の歴史 (2)                          | 人権と国際年、宣言から行動計画の策定へ                                   |
| 5         | 第3章 子どもの権利と発達保障 (1)－「子どもの世紀」－           | 生物進化、人間の発達、子ども学の誕生、エレン・ケイ                             |
| 6         | 子どもの権利と発達保障 (2)－保護から権利へ－                | 子どもの権利宣言 (ジュネーブ宣言)、ヤヌシュ・コルチャック、ホロコースト、                |
| 7         | 子どもの権利と発達保障 (3)－「子どもの権利宣言」から「子どもの権利条約」へ | 子どもの権利条約、発達主体、意見表明、学習の権利                              |
| 8         | 子どもの権利と発達保障 (4)－発展途上国と先進国の子ども－          | 乳幼児死亡、不就学、児童労働、子ども期の喪失、子どものストレス                       |
| 9         | 第4章 障害者の権利と発達保障 (1)－ノーマライゼーションと発達保障－    | バンク＝ミッケルセン、ノーマライゼーション、平等の権利、障害者の権利宣言                  |
| 10        | 障害者の権利と発達保障 (2)－重症心身障害者と発達保障－           | 重症心身障害者、夜明け前の子どもたち、自立 (self-reliance)                 |
| 11        | 障害者の権利と発達保障 (3)－戦争と障害者－                 | 国際障害者年、障害発生最大の原因、アジア太平洋障害者の10年                        |
| 12        | 第5章 教育の権利と発達保障 (1)－学習の権利－               | 学習権宣言、読み書きの能力 (識字)、パウロ・フレイレ                           |
| 13        | 教育の権利と発達保障 (2)－日本の教育の現実 (その1)           | 学力、体力、学びからの逃走、過度な競争、高額費                               |
| 14        | 教育の権利と発達保障 (3)－日本の教育の現実 (その2)－          | いじめ、不登校、ストレス、非行                                       |
| 15        | 定期試験                                    |                                                       |

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

中間レポートで指定図書または資料を読んでもらう予定である。

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

| 種別 / Kind | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc.                          |
|-----------|-----------------|--------------------------------------------------------|
| 定期試験      | 50 %            | 配点にそって採点する。                                            |
| レポート      | 50 %            | 課題にそって論旨が展開されているか。論理的な記述になっているか。資料や文献の読み込みがしっかりできているか。 |

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

新しく生まれつつある発達保障という科学と思想を学びとってほしい。

視聴覚教材を適宜もちいる。

**教科書 / Textbooks**

特に定めない

**参考書 / Reference Books**

| 書名 / Title              | 出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment |
|-------------------------|----------------------------------------------------------|
| 発達保障の探求                 | 田中昌人・清水寛／全国障害者問題研究会出版部／／                                 |
| 障害のある人びとと創る人間教育         | 田中昌人／大月書店／／                                              |
| 復刻この子らを世の光に―近江学園二十年の願い― | 糸賀一雄／NHK出版／／                                             |

**参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course**

UNDP: <http://www.undp.org/>  
 UNICEF: <http://www.unicef.org/>  
 国連広報センター: <http://www.unic.or.jp/>  
 日本ユニセフ協会: <http://www.unicef.or.jp/>  
 全国障害者問題研究会: <http://www.nginet.or.jp/>  
 文部科学省: <http://www.mext.go.jp/>  
 厚生労働省: <http://www.mhlw.go.jp/>

**その他 / Others**

## パブリックアクセス論 S S マス・コミュニケーション論II S

14997

担当者名 / Instructor 津田 正夫

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Description

デジタル化の到来によって、多メディア・多チャンネル化は現実となり、インターネットなどによる市民の発信機会は増えている。アメリカでは一般市民が、1000以上のテレビチャンネルをもっているし、ヨーロッパやアジアでも市民がメディアに参加することは常識である。しかし日本ではマス・メディアへのアクセス権は保障されていない。市民社会での相互理解、自己決定、合意形成などの基本的システムとして、どのようにメディアへのアクセス権、言論の公共圏を形成してゆけるのか、アクセス権の生成、世界の現状から日本での今後の課題を考える。

## 到達目標 / Focus and Goal

- ・言論・表現の自由と公共圏の成立といわゆる構造転換が理解できること
- ・現代的市民社会の成立の過程でのメディア・アクセスの歴史を知ること
- ・アメリカ型/ヨーロッパ型/アジア型のパブリック・アクセスの比較
- ・日本の市民メディアの現況と課題

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

ジャーナリズムの歴史  
市民社会論

## 授業スケジュール / Schedule

| 授業日 (第N回) | テーマ / Theme           | キーワード / Key Word |
|-----------|-----------------------|------------------|
| 1         | なぜパブリック・アクセスか         |                  |
| 2         | パブリック・フォーラムの成立と変質     |                  |
| 3         | 誤報・不公平への反論・名誉回復       |                  |
| 4         | 人権侵害と名誉回復             |                  |
| 5         | メディア規制のルールと現状         |                  |
| 6         | アクセス権の拡大              |                  |
| 7         | アメリカ/カナダのパブリック・アクセス制度 |                  |
| 8         | アメリカのパブリック・アクセス 背景と課題 |                  |
| 9         | ヨーロッパのオープン・チャンネル1     |                  |
| 10        | ヨーロッパのオープン・チャンネル2     |                  |
| 11        | 日本のパブリック・アクセスの成立      |                  |
| 12        | パブリック・アクセスの現場から       |                  |
| 13        | さまざまなパブリック・アクセス番組     |                  |
| 14        | パブリック・アクセスの課題と政策      |                  |

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

- ・マスメディアはもちろん、メディア発信の現場への関心をもち、自分でもメディアへのアクセス活動、発信活動に参加してみると、市民社会におけるメディアの環境や課題がよく認識できると思います。
- ・講義を越えた自主的研究の成果は高く評価します。詳しくは授業で説明します。

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

| 種別 / Kind | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc. |
|-----------|-----------------|-------------------------------|
| 定期試験      | 70 %            |                               |
| 日常点       | 30 %            |                               |

\* 定期試験として実施時に応じて実施する小テストおよび期末テストによる。受講生自身のメディアへの積極的なアクセス実践や、具体的な事例の研究・調査の発表やレポートなども高く評価する。

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

この講義は主にマス・メディアへのアクセスの理論、自ら表現する思想や実践を学ぶものであることから、日頃から「市民とメディアの関係」に積極的に関心をもち、メディアに働きかける習慣を持つようにすると、実践的な理解が深まる。

## 教科書 / Textbooks

| 書名 / Title            | 出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment |
|-----------------------|----------------------------------------------------------|
| 新版 パブリック・アクセスを学ぶ人のために | 津田正夫・平塚千尋編／世界思想社／／生協扱い                                   |

## 参考書 / Reference Books

| 書名 / Title | 出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment |
|------------|----------------------------------------------------------|
| パブリック・アクセス | 津田正夫・平塚千尋編／リベルタ出版／／                                      |

メディア・アクセスとNPO 津田正夫／リベルタ出版／／

アクセス権とは何か 堀部政男／岩波新書／／

市民メディア論 松野良一／ナカニシヤ出版／／

新版・地域メディア 竹内郁郎・田村紀雄／日本評論社／／

**参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course**

<http://access.tcp.jp/>

<http://www.tunagu.gr.jp/c-media-net/>

<http://www.medekiku.jp/gwtv/kanagawa.shtml>

<http://www.tcc117.org/fmyy/>

**その他 / Others**

## バリアフリー論 S S 生体機構論I S

13048

担当者名 / Instructor 斎藤 正一

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Description

バリアフリーという言葉は、最近いろいろなところで耳にします。バリアフリー住宅にバリアフリー施設。バリアフリーがもっと一般化してユニバーサルデザインと各種商品にも記載され登場しています。しかし本当のバリアーとは一体何でしょう。私は、日々業務柄考えさせられることがあります。

バリアフリーには、物の障害だけではなく身体・精神・心・環境・施設・人といったように様々なバリアーが存在します。今年度の講義では、昨年度まで講義していた人間福祉工学の内容も組み込みながら新たな分野・情報を取り入れ進めて行きたいと思います。

講師は、現在も病院で実際に体の不自由な方と共に機能回復の援助を行う理学療法士です。現場で感じてきた各種の問題を学生諸子にも知っていただき今後社会に出て何らかの役に立てていただければと考えています。

## 到達目標 / Focus and Goal

- 1: 各種のバリアフリーを知る
- 2: バリアーが影響するその実態を自分の身体で心で感じ取る
- 3: 障害の実際を知る

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

基本的に何も知らなくても良いと思いますがもし知っているなら

医学・建築・社会福祉制度

ただし上記に卓越されている方は、当講義受講は不要かと存じます。

## 授業スケジュール / Schedule

| 授業日 (第N回) | テーマ / Theme             | キーワード / Key Word                       |
|-----------|-------------------------|----------------------------------------|
| 第1講義      | 導入 バリアフリー論について 講義の概要    | バリアフリー リハビリテーション PT OT ST              |
| 第2～4講義    | 第一章 身体障害のバリアフリー 各疾患     | 脳血管障害 脊髄損傷 リウマチ パーキンソン病 高齢者に多い骨折 廃用症候群 |
| 第5～6講義    | 第二章 精神のバリアフリー           | 認知症 高次脳機能 人の心理 障害受容                    |
| 第7～8講義    | 第三章 体験                  | 本当の車椅子体験 障害者の気持ち                       |
| 第9～11講義   | 第四章 環境のバリアフリー           | 都市環境 住環境 福祉用具                          |
| 第12～14講義  | 第五章 人・制度のバリアフリー         | 地域社会 ボランティア 社会福祉制度 行政機関 民間活力           |
| 第15講義     | 最終章 障害者の限界 バリアフリーって何だろう | パラリンピック                                |

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

| 種別 / Kind | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc.                        |
|-----------|-----------------|------------------------------------------------------|
| 定期試験      | 80 %            | 授業で学んだことを正しく理解できているか評価します。                           |
| 日常点       | 20 %            | 毎回の授業終了時に授業の感想や自分の考えを記載してもらいます。感想がなく名前だけの者は出席と認めません。 |

＊定期試験として実施

講義に一度も出席しない方の単位を出す事は不可能です。

基本的に講義をまじめに聞いて頂ければ合格点は取れると思います。

ただ全講義出席していても定期試験で間違った答に点数を出すなどのことは致しません。

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

テキストは配布いたしますが基本事項のテキストです。講義の中で講師がお話する事を学生自身でテキストの余白に記入して完全なテキストにして下さい。

## 教科書 / Textbooks

基本テキストは、毎回講義のときに配布いたします。

## 参考書 / Reference Books

| 書名 / Title        | 出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment |
|-------------------|----------------------------------------------------------|
| 目で見えるリハビリテーションの実際 | 上田 敏／東京大学出版／／                                            |

## 参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

<http://yagi.doshisha.ac.jp/bf/guide/guide-top.htm> <車椅子で回れる京都観光ガイド>  
<http://www.jaiec.or.jp/hyk/index.htm> <ひとにやさしい建築・住宅推進協議会>  
<http://www.kansai-fukushi.net/> <関西福祉ネット>  
<http://ruazealand.com/html/index.html> <ルアジーランド流山>

<http://www.normanet.ne.jp/~JSCF/SIRYOU/s-seido/s-mokuji.htm> <福祉制度: 障害者制度集>  
<http://www.hcr.or.jp/> <国際福祉機器展>  
<http://www.dinf.ne.jp/doc/japanese/intl/icf/icf.html> <国際生活機能分類>  
<http://wwwsoc.nii.ac.jp/jpta/menu.htm> <日本理学療法士協会>  
<http://www.jaot.or.jp/> <日本作業療法士協会>  
[http://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/chousa/shisetu/009/toushin/04031903.htm](http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shisetu/009/toushin/04031903.htm) <学校施設バリアフリー化推進指針>  
[http://www.jsad.or.jp/2004athen/athen\\_top.htm](http://www.jsad.or.jp/2004athen/athen_top.htm) <日本障害者スポーツ協会>  
<http://www.asahi-net.or.jp/~ve9k-nkk/toukyuuhyou.htm> <身体障害者障害程度等級表>  
<http://akatan.cool.ne.jp/index.html> <赤の他人のホントのわたし>  
<http://www.bfa.gr.jp/> <バリアフリー協会>  
<http://members.jcom.home.ne.jp/1653895301/top.html> <バリアフリー住宅>  
<http://www.mlit.go.jp/sogoseisaku/barrier/mokuji.html> <交通バリアフリー>  
<http://www.mlit.go.jp/barrierfree/barrierfree.html> <国土交通省のバリアフリー・ユニバーサルデザイン>  
<http://www.universal-design.gr.jp/> <ユニバーサルデザインフォーラム>

#### その他 / Others

## 比較ジェンダー論 S

15019

担当者名 / Instructor 中川 順子

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Description

ジェンダー論を事前に学習していることを前提とする。現在、家庭・地域・職場や学校といった生活拠点となる場面で、まだまだ男女の「働き方」は異なっている。男女の作られた性差－ジェンダーによって、個々人の生き方が規定される状況が依然として存在する。その状況をまず具体的に知ることを目標とする。この状況は世界各地で宗教や歴史的経過やグローバリゼーションの過程での国際関係などによって、一様ではない。近年の欧米諸国のみならずアジア・中南米などでの関連調査を手がかりに、まず多様なジェンダー状況を「知る」ことを試みたい。そして、その多様性をいくつかの指標で評価し、その国・地域のジェンダー状況の特性をおさえる一歩にしたいと考えている。まず、日本のジェンダー状況を主に「男女共同参画社会」の進捗状況として抑え、各国のジェンダー状況との比較し、日本の特徴を抑えるからはじめる。手がかりは、男女共同参画局による「影響調査」などである。理論ベースとしてはコンネルの『ジェンダーと権力』三交社1993をおく。これらは、目標であり、講義自体はできるだけゆっくり進みたい。したがって、下記の授業スケジュールは、講義の進度により相当代わることがある。コミュニケーション・ペーパーに関する応答やビデオなどを適宜挿入することもある。

## 到達目標 / Focus and Goal

まずは、身の回りの様々な場面を、ジェンダー状況という視点で見なおすことのできる力量を身につけることである。同時に、その状況を国際比較の視点で見直す力量を身につけることである。

事前に履修しておくことが望まれる科目

一般教養科目ジェンダー論、その他に家族社会学、現代家族論など。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

## 授業スケジュール / Schedule

| 授業日 (第N回) | テーマ / Theme                                                  | キーワード / Key Word                   |
|-----------|--------------------------------------------------------------|------------------------------------|
| 第1回       | 導入：国連データにみる各国における女性の地位－                                      | ジェンダー・エンパワメント                      |
| 第2回       | 日本のジェンダー状況と男女共同参画社会 その1 －男女共同参画基本法制定の背景・意義・問題点－              | ジェンダー・少子化                          |
| 第3回       | 日本のジェンダー状況と男女共同参画社会 その2 －男女共同参画計画の概要（一次・二次）－                 | 地域福祉 育児支援 働きかたの見直し                 |
| 第4回       | 欧米諸国のジェンダー状況 その1 －ジェンダー視点からみた福祉国家類型論・エスピン・アンデルセンの所論を巡って－     | 福祉レジーム 家族・国家・市場による福祉供給のあり方とジェンダー状況 |
| 第5回       | 欧米諸国のジェンダー状況 その2 社会民主主義的福祉レジームの具体例として 北欧諸国                   | 社会民主主義的福祉レジーム                      |
| 第6回       | 欧米諸国のジェンダー状況 その3 －ビデオ「スウェーデンの結婚と家族」(予定)－                     | 個人の生き方に中立的政策 個人単位社会                |
| 第7回       | 欧米フェミニストによるエスピン・アンデルセンのレジームへの批判的対案の検討 その1                    |                                    |
| 第8回       | 欧米フェミニストによるエスピン・アンデルセンのレジームへの批判的対案の検討 その2                    |                                    |
| 第9回       | グローバリゼーションとジェンダー その1 各国の女性と家族の現状をジェンダー視点で読む －各国の女性労働をてがかりに－① | 福祉国家レジーム・女性労働・家族                   |
| 第10回      | グローバリゼーションとジェンダー その2 各国の女性と家族の現状をジェンダー視点で読む －各国の女性労働をてがかりに－② | 福祉国家レジーム・女性労働・家族                   |
| 第11回      | グローバリゼーションとジェンダー その3 途上国とジェンダー状況 －マリア・ミースの所論を手がかりに－          | グローバリゼーション 開発 ジェンダー                |
| 第12回      | グローバリゼーションとジェンダー その4 途上国とジェンダー状況 －アジア－                       | 開発と移民                              |
| 第13回      | グローバリゼーションとジェンダー その4 途上国とジェンダー状況 －中南米－                       | 開発と移民                              |
| 第14回      | 男女共同参画計画の見直しをめぐる－何が変わったのか－                                   |                                    |
| 第15回      | 講義のまとめ (予備日)                                                 |                                    |

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

下記の文献をできるだけ目を通して欲しい。 男女共同参画局HPを参考にしてほしい。

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

| 種別 / Kind | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc.    |
|-----------|-----------------|----------------------------------|
| 定期試験      | 50 %            | 60点以上を合格とする。                     |
| レポート      | 30 %            | コミュニケーション・ペーパーと小レポートを定期試験の補完とする。 |
| 日常点       | 20 %            | コミュニケーション・ペーパーによる出席状況把握として活用する。  |

#### 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

新聞に目を通して、現実の変化を追ってほしい。

#### 教科書 / Textbooks

特になし。下記の参考文献を活用。

#### 参考書 / Reference Books

大沢真理『21世紀、ローカルからグローバルへ』松香堂  
 ロバート・W・コンネル『ジェンダーと権力』三交社1993  
 宮本・岡沢『比較福祉国家論－ゆらぎとオルタナティブ－』法律文化社 1997  
 マリア・ミース『世界システムと女性』藤原書店1995、『国際分業と女性』日本経済評論社1997  
 柴山・藤井・守屋編『世界の女性労働』ミネルヴァ書房、2005  
 『男女共同参画白書』各年 関連調査結果など。

#### 参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

男女共同参画局での「国際比較」については  
 『男女共同参画に関する国際比較調査』平成15年度調査  
<http://www.gender.go.jp/imtl-compare/mokuji.html>  
 『少子化と男女共同参画に関する社会環境の国際比較報告書』  
<http://www.gender.go.jp/danjo-kaigi/syosika/houkoku/index-kokusai.html>

#### その他 / Others



## 比較宗教論 S S 比較宗教論I S

14995

担当者名 / Instructor 永都 軍三

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Description

キリスト教が伝わる以前のギリシア人の死生観・来世観。古代ギリシアのいわゆる多神教世界において、生や死がどのようにみられたか、また死後の世界がどのように考えられたかを、ギリシアの叙事詩・悲劇・喜劇などの古典文献、さらに考古学的知見を援用しながら究明していきたい。その際、できるだけキリスト教やイスラム教などとの比較をはさもうと思っている。

## 到達目標 / Focus and Goal

- ・多神教と一神教における死生観・来世観の類似点と相違点の的確な理解。
- ・さまざまな考え方を絶えず比較検討する精神的態度の確立。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enrolle in, but not required to

## 授業スケジュール / Schedule

| 授業日 (第N回) | テーマ / Theme   | キーワード / Key Word |
|-----------|---------------|------------------|
| 1         | 古代ギリシアの歴史 (1) |                  |
| 2         | 古代ギリシアの歴史 (2) |                  |
| 3         | ホメロスとヘシオドス    |                  |
| 4         | オリュポスの神々 (1)  | ゼウス              |
| 5         | オリュポスの神々 (2)  | アポロン             |
| 6         | 冥界の神々 (1)     | ハデス              |
| 7         | 冥界の神々 (2)     | ヘルメス             |
| 8         | 来世観 (1)       | ハデスの国            |
| 9         | 来世観 (2)       | エーリュシオンの野、幸福者の島  |
| 10        | 死後の審判の思想 (1)  | ホメロス、ヘシオドス       |
| 11        | 死後の審判の思想 (2)  | プラトン             |
| 12        | 宗教否定論         | エウリピデス、エピクロス     |
| 13        | ギリシア人の死生観     |                  |
| 14        | ギリシア宗教の特質     |                  |
| 15        | 最終講義日試験       |                  |

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

| 種別 / Kind | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc.  |
|-----------|-----------------|--------------------------------|
| 日常点       | 100 %           | 出席状況、小テスト (以上4割)、最終講義日試験 (6割)。 |

評価について。1. 原則として毎回出欠をとる。3分の2以上の出席を最低必要条件とする。2. 期間中何回かの小テストをおこなう。3. 最終講義日試験をおこなう。

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

## 教科書 / Textbooks

## 参考書 / Reference Books

## 参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

## その他 / Others

## 比較スポーツ論 S S 比較スポーツ論I S

15020

担当者名 / Instructor 金井 淳二

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Description

『スポーツに込められた社会の思い = いかにしてスポーツは生み出され展開されてきたか』

様々な国で様々な展開されるスポーツは、それぞれかつてに生み出されてきたのではない。自国から生みだしたにせよ、また他国から受け入れてきたにせよ、それぞれの時代的背景がある。そのことが、スポーツに独特な思想と制度を付与させていくことになる。英・米・日のスポーツについて、その競技形態・ルールや規範・組織機構などを、そのスポーツを生み出した社会・経済的基礎とあわせて比較し、今後のスポーツ受け入れ・交流のあり方を考えていく。

## 到達目標 / Focus and Goal

この授業の中で、まず自分なりの問題意識を発見することが必要です。そして、比較を通じてどう違うかだけでなくなぜ違うのかが考えられるようになることが必要です。最終的には「スポーツとはこういうものだ」といった自分なりのスポーツ観を明確にもてるようになることをめざします。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

産業社会学部に開講されているスポーツ関連専門科目をできるだけ多く受講し、それらと関連づけて学習してほしい。少なくとも教養科目のスポーツ方法論やスポーツと現代社会、およびスポーツの歴史と発展は履修していることが望ましい。

## 授業スケジュール / Schedule

| 授業日 (第N回) | テーマ / Theme        | キーワード / Key Word           |
|-----------|--------------------|----------------------------|
| 第1回       | 比較スポーツへの視角         | 脱工業化社会／文化比較法／比較の枠組         |
| 第2回       | 近代オリンピックに見る今日の比較課題 | 巨大化／商業化／アマチュアリズム／プロ化       |
| 第3回       | スポーツの母国イギリス (その1)  | 市民革命とブルジョアジー／資本主義と民衆スポーツ   |
| 第4回       | スポーツの母国イギリス (その2)  | 近代スポーツの階級性／スポーツの私事性と公共性    |
| 第5回       | スポーツの母国イギリス (その3)  | アマチュアリズム／近代オリンピック          |
| 第6回       | スポーツの母国イギリス (まとめ)  |                            |
| 第7回       | スポーツの王国アメリカ (その1)  | 植民時代／プロテスタンティズム            |
| 第8回       | スポーツの王国アメリカ (その2)  | 南北戦争／産業革命／労働力過剰／能力主義       |
| 第9回       | スポーツの王国アメリカ (その3)  | アメリカ的スポーツ／アメリカ主義           |
| 第10回      | スポーツの王国アメリカ (まとめ)  |                            |
| 第11回      | 日本的スポーツ (その1)      | スポーツの日本的受容／学校教育とスポーツ       |
| 第12回      | 日本的スポーツ (その2)      | 農耕祭祀／封建権力／武術と武道            |
| 第13回      | 日本的スポーツ (その3)      | スポーツにおける日本的なもの／日本的スポーツの国際化 |
| 第14回      | 日本的スポーツ (まとめ)      |                            |
| 第15回      | 全体のまとめ             |                            |

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

スポーツ学は学際的であるので、授業の中で関係があると思ったらスポーツ関係の書籍だけでなく、歴史・経済・文化その他の書籍を幅広く読み、理解を深めてほしい。また、新聞のスポーツ欄ばかりでなく政治や経済・文化欄にも常日頃から目を向けておいてほしい。

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

| 種別 / Kind | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc. |
|-----------|-----------------|-------------------------------|
| レポート      | 70 %            | 独自の考察視点がもてているか                |
| 日常点       | 30 %            | 授業内容理解度                       |

日常点は毎回授業終了後の授業内容についてのコメント提出でおこないます。レポートは講義の適当な節目にそれまでの授業内容にかかわって2～3回程度提出してもらう予定です。

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

## 教科書 / Textbooks

教室でレジュメ・資料を配布する。とくにテキストとなるようなものは使用しない。

## 参考書 / Reference Books

参考文献は授業の中で紹介して行く。とりあえず、創文企画から出版されている“スポーツ文化シリーズ”のいくつかを読んで欲しい。

## 参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

## その他 / Others

## 比較政治論 S S 現代政治論II S

15067

担当者名 / Instructor 國廣 敏文

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Description

人類はこれまで様々な政治制度や体制を経験してきた。だがこれまでに試みられてきたどの政治制度も、飢餓や貧困、紛争や差別、エネルギー・食料問題など、人々の生活を十全な形で、平和で公平で安定したものとするには成功していない。本講義は、こうした状況を踏まえ、主要先進国の政治システムの構造・機能・動態を相互に比較・考察することによって各国政治の特質と問題点を抽出し、21世紀に相応しい政治の在り方＝"新しい政治"の在り方を模索することを目的とする。その際、何よりも事実に基づく分析によって、各国政治に関する正確で具体的な知識の取得とそれらを昇華させた形で日本政治改革への視点を得ることも視野に入れたい。

## 到達目標 / Focus and Goal

- ・比較政治の方法と意義を理解する。
- ・それらを踏まえ、各国政治の歴史と特質を知る。
- ・自分の国ならびに社会の諸問題を考える視点と材料を発見する。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

グローバルな視点から国家と社会を見るために、「現代政治論」をあわせて履修することが望ましい。

## 授業スケジュール / Schedule

| 授業日 (第N回) | テーマ / Theme                        | キーワード / Key Word |
|-----------|------------------------------------|------------------|
| 第1回       | I. 比較政治学の方法                        |                  |
|           | 歴史—アリストテレス、モンテスキュー、アロン—            | 比較政治学            |
| 第2回       | 比較政治学の現代的アプローチ—歴史と構造—              | 現代の比較政治学の方法と課題   |
| 第3回       | 比較の指標                              | 比較政治の指標          |
| 第4回       | II. 各国政治の制度的特質と現状—憲法、中央・地方自治、改革の現状 |                  |
|           | アメリカ合衆国建国の歴史と憲法の特質                 | 連邦主義と立憲主義        |
| 第5回       | アメリカ合衆国の政治—大統領制—                   | 現代アメリカ合衆国の政治     |
| 第6回       | カナダ政治の歴史と特質                        | カナダ政治            |
| 第7回       | イギリスの建国と歴史                         | イギリス政治           |
| 第8回       | イギリスの政治—議院内閣制—                     | 議院内閣制            |
| 第9回       | フランス建国の歴史                          | フランス政治           |
| 第10回      | フランスの政治—半大統領制—                     | 半大統領制            |
| 第11回      | ドイツ建国の歴史                           | ドイツ              |
| 第12回      | ドイツ政治の歴史と特質                        | ドイツ政治            |
| 第13回      | イタリア政治の歴史と特質                       | イタリア政治           |
| 第14回      | ヨーロッパ小国の政治                         | スイス、ベルギー、オランダ    |
| 第15回      | III. まとめ                           |                  |
|           | 新しい政治の在り方を求めて—日本の課題—               | 日本政治の課題          |

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

普段から新聞やニュース、各国のHPに目配りしておくこと。

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

| 種別 / Kind | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc.      |
|-----------|-----------------|------------------------------------|
| 定期試験      | 70 %            | 講義の内容への理解度と学習の到達度を確認する             |
| レポート      | 20 %            | 講義内容に関わるレポート、あるいは特定のテーマでのレポート課題を課す |
| 日常点       | 10 %            | 出席点を加味する                           |

\*定期試験として実施 成績評価＝単位認定は、セメスター終了時の論述試験を中心としつつ、レポートと出席点も加味して総合的に判定する。

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

内容が盛りだくさんなので、授業のスピードは速い。したがって、テキストを事前に読んでおくこと、授業終了後には、得た知識や視点を振り返って、更なる学習をすることが望ましい。

## 教科書 / Textbooks

| 書名 / Title   | 出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment |
|--------------|----------------------------------------------------------|
| 『新版 比較政治制度論』 | 田口富久治・中谷義和編 / 法律文化社 / /                                  |

授業に際してレジュメを配布するとともに、参考文献等を適宜紹介するので、事前・事後の学習に役立てて欲しい。

**参考書 / Reference Books**

**参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course**

授業の際に紹介する。

**その他 / Others**

「私語」は、自の学習権の放棄であると同時に、他人のそのの侵害であるので、厳禁する。

## 比較文化論 S

13066

担当者名 / Instructor 小林 康正

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Description

「文化」とは、ひとつの概念、つまりモノの見方に過ぎない。その効用は、我々の日常の自明性を剥奪することにある。それは「異文化」を自らの可能性として引き受けることでもある。比較文化という手法に意味が生じるのは、日常の自明性と未知の異形性を一挙に観照しようとする態度においてしかありえない。本講義では、こうした観点から、人間に対する認識のなどを取り上げる。

（日本の近世から近代に至る人相・観相・骨相・家相・易・九星術、とくに「姓名判断」や「手相」を中心にした占いの諸実践やそれらに対する社会の取り扱いをみることで、日本社会における「人間」、あるいは、「人格」「運命」「性格」などの概念の系譜を辿ること）—これが本講義の目的である。

## 到達目標 / Focus and Goal

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enrolle in, but not required to

## 授業スケジュール / Schedule

| 授業日 (第N回) | テーマ / Theme                                                         | キーワード / Key Word |
|-----------|---------------------------------------------------------------------|------------------|
|           | 講義への招待 — 比較文化の可能性と意義 —                                              |                  |
|           | 問題系としての人間 — そこに「人間」はいたのか —                                          |                  |
|           | 人的属性指標という概念について                                                     |                  |
|           | 日本近世における占いの概観                                                       |                  |
|           | 日本近代における占いの概観                                                       |                  |
|           | 日本近世における名前の吉凶① — 「韻鏡」と「反切」 —                                        |                  |
|           | 日本近世における名前の吉凶② — 「名乗」の庶民化 —                                         |                  |
|           | 名前の御一新 — 「国民改姓」と市民社会の誕生 —                                           |                  |
|           | 国家と名前 — 「家名」としての姓                                                   |                  |
|           | 「姓名学」の誕生 — 立身出世の社会史                                                 |                  |
|           | 「姓名学」の誕生 — 政治テクノロジーとしての姓名                                           |                  |
|           | 「姓名学」の誕生 — 「家庭」とメディア社会の登場                                           |                  |
|           | 「姓名学」の誕生 — 「活字」の呪力                                                  |                  |
|           | 現代の名前 — 「個性」という信仰                                                   |                  |
|           | 定期試験実施                                                              |                  |
|           | 講義の進行予定は、上記のようであるが、ビデオ教材等<br>を利用することも考えているので、変更がありえる。了承<br>をお願いしたい。 |                  |

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

| 種別 / Kind | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc. |
|-----------|-----------------|-------------------------------|
| 定期試験      | 70 %            |                               |
| 日常点       | 30 %            |                               |

講義には実験的方法を用いるので、その経験が重要である。したがって、授業への出席は重視する。また、講義時に提出してもらった批評感想を評価の対象にする。

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

## 教科書 / Textbooks

講義時に適宜指示する。

## 参考書 / Reference Books

講義時に適宜紹介する。

## 参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

講義時に紹介する。

## その他 / Others

遅刻厳禁。授業開始15分後の入室と途中退室の禁止。私語・メール厳禁。

## ヒューマンサービス実習 S

16003

担当者名 / Instructor 津止 正敏

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Description

本実習は、社会福祉援助技術現場実習のアドバンスト科目であり、社会福祉実践あるいは研究のためのより高度な知識と技法の習得をめざす。本実習は資格取得の対象科目ではなく、純粋に専門性向上のためのものである。したがって、実習先は社会福祉実践が行われている組織全般であり、社会福祉実習指定施設に限定されない。そのため、実習先は社会福祉法人からNPOまで多様である。また、実習期間、時期、内容などは、受講生、担当教員、実習組織の三者で協議しながら決める。実習施設・機関の開拓・調整にあたっては、受講生の積極的な参加を条件とする。授業では、受講生の主体的な取り組みを重視しつつ、実習前の準備と実習後のフォローアップを行う。

## 到達目標 / Focus and Goal

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enrolle in, but not required to

社会福祉援助技術現場実習を履修済みの4年生であること。明確な実習目的をもち、実習先の選定・確保についても主体的に取り組む姿勢と意欲を持っていること。

## 授業スケジュール / Schedule

| 授業日 (第N回) | テーマ / Theme       | キーワード / Key Word |
|-----------|-------------------|------------------|
| 1         | 実習の目的・意義の確認       |                  |
| 2~4       | 実習の事前学習           |                  |
| 5~6       | 実習計画作成            |                  |
|           | 現場実習              |                  |
| 7~9       | 個別およびグループスーパービジョン |                  |
| 10~12     | 実習の報告             |                  |
| 13~14     | 実習の事後学習           |                  |
| 15        | 評価                |                  |

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

| 種別 / Kind | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc.  |
|-----------|-----------------|--------------------------------|
| レポート      | 40 %            | 実習レポート。期末にレポートを提出させ、評価する       |
| 日常点       | 30 %            | 実習状況と態度。受講生が主体的に実習を行っているかを評価する |
| その他       | 30 %            | 実習先が受講生に対する評価を行う               |

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

## 教科書 / Textbooks

事前学習の中で社会と福祉に関する図書を読んでみようと思う。図書名については事前に指示する。

## 参考書 / Reference Books

講義中に指示する

## 参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

## その他 / Others

## ヒューマンリサーチ SA

13046

担当者名 / Instructor 峰島 厚

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Description

社会福祉の現場から学ぶ入門科目である。社会福祉を学ぶ意欲・課題意識形成の源泉になるものは、当事者や家族、現場職員などが、現実と格闘している姿やそこに込められている思いへの共感にある。社会福祉施設で働く職員の姿や思いを、観察し聞き取り、現場から学ぶ手法を体験的に学習する。これらをととして専門学習への出発点となる課題意識形成をはかる。

## 到達目標 / Focus and Goal

- ・現場学習のための常識も身につける。
- ・小人数の集団学習も身につける。
- ・参加実習はしない。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enrolle in, but not required to

現場の実態に関する学習。

## 授業スケジュール / Schedule

| 授業日 (第N回)       | テーマ / Theme         | キーワード / Key Word |
|-----------------|---------------------|------------------|
| (1) 導入講義        | 授業形態の説明             |                  |
| (2) グループ編成      | 観察・聞き取り対象別の編成       |                  |
| (3) 現場の観察方法     | ビデオを予定              |                  |
| (4) 対象の事前学習-1   | 文献による               |                  |
| (5) 対象の事前学習-2   | 対象の選定など             |                  |
| (6) 対象の事前学習-3   | 依頼状の作成など            |                  |
| (7) 観察・聴取-1 回目  | 現場を訪問、2回の授業間で実施     |                  |
| (8) 観察・聴取-1 回目  |                     |                  |
| (9) 報告と再依頼      | 観察結果の報告と再観察の課題設定    |                  |
| (10) 観察・聴取-2 回目 | 再度同じ現場を訪問、2回の授業間に実施 |                  |
| (11) 観察・聴取-2 回目 |                     |                  |
| (12) 報告書の作成-1   | 報告および報告書作成          |                  |
| (13) 報告書の作成     | グループで報告書作成          |                  |
| (14) 報告会        | グループで発表・提出          |                  |

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

相手の都合があり、進度は柔軟に考える。

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

| 種別 / Kind | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc. |
|-----------|-----------------|-------------------------------|
| レポート      | 80 %            | 観察・聴取レポート                     |
| 日常点       | 20 %            | グループ学習の状況                     |
| 特になし      |                 |                               |

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

小人数のグループ学習なので欠席はグループで管理してもらう。形態は柔軟にする。

## 教科書 / Textbooks

特になし。

## 参考書 / Reference Books

特になし。

参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

特になし。

その他 / Others



## ヒューマンリサーチ SB

12952

担当者名 / Instructor 鉄川 重利

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Description

複雑・多様化する福祉問題のニーズに対する支援を目指すための、対人援助実践の基本的な視点と援助者として自らを問い高めるための基礎的な学習と体験に取り組む。児童福祉現場での実践体験をベースにケース事例検討や児童ケースワークと心理診断の講義を実施。同時に将来の福祉現場での対人援助に不可欠な自己認知と豊かな感性を身に付け、自己形成のための動機づけにつながる体験学習的に取り組む。この授業は対人援助に関する知識や理論以前の援助者としての主体の膨らみをめざしている。

## 到達目標 / Focus and Goal

- ・対人援助の基礎的な知識と基本技術を身に付ける。
- ・それらを実践で生かす援助者としての資質・感性について問い直す。
- ・今後の本格的な専門ゼミや福祉施設実習等に連動し生かすようにする。
- ・心の問題は複雑かつ微妙な問題を内在するが、自分自身を知り問い直す機会とする。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

社会福祉現場での専門家をめざし、社会福祉士資格などに必要な科目を履修していることが望ましい。しかし、対人援助以外の業務をめざす場合でも、自己形成に役立つ側面もあり、主体的に授業に参加すれば事前の修得科目については特定しない。

## 授業スケジュール / Schedule

| 授業日 (第N回) | テーマ / Theme               | キーワード / Key Word           |
|-----------|---------------------------|----------------------------|
| 第1回       | はじめのセッション～授業計画とその動機づけ～    | 出会い・自己紹介・自己開示・グループ構成       |
| 第2回       | 子どもの問題行動の理解と援助・指導技術Ⅰ      | インテークと児童ケースワーク             |
| 第3回       | 子どもの問題行動の理解と援助・指導技術Ⅱ      | 面接・観察・心理テスト・効用と限界          |
| 第4回       | ケース検討Ⅰ (グループ討議)           | 不登校・痛みの深層・家族システム           |
| 第5回       | ケース検討Ⅱ (グループ討議)           | 虐待・善意と真意・共感と受容             |
| 第6回       | 体験学習Ⅰ～ブラインドウォーク～          | 見えない力・信頼と恐怖・新鮮な体験・気づきと発見   |
| 第7回       | わたしの心理テスト体験Ⅰ              | Y-G・バウム・P-Fスタディ・SCT        |
| 第8回       | わたしの生育・生活歴シートづくり          | 育ち・生活の軌跡・プラス＆マイナス体験        |
| 第9回       | 体験学習Ⅱ～応答構成トレーニングづくり①～     | イマジネーションの富化・言語化・感受性        |
| 第10回      | 体験学習Ⅱ～応答構成トレーニングづくり②～     | イマジネーションの富化・言語化・感受性        |
| 第11回      | 体験学習Ⅱ～応答構成トレーニングづくり③～     | イマジネーションの富化・言語化・感受性        |
| 第12回      | ビデオ学習～ドキュメンタリー「親子むすび」に学ぶ～ | 親と子の絆・親子関係をつくる・里親と実親       |
| 第13回      | 体験学習Ⅲ～癒しのコラージュ作品づくり～      | 写真・雑誌・新聞・ハサミ・のり・切り貼りの中のわたし |
| 第14回      | おわりのセッション～授業の総振り返り～       | 出会い・触れ合い・わたしの思い・わたしはわたし    |

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

- ☐ 第4～5回のケース検討については事例を事前配布する(自宅で見学)
- ☐ 授業では取り上げないケース事例(思春期危機・性同一性障害)も配布自習
- ☐ その他にも参考資料については配布して自宅学習の中で生かしてもらう。

\*なお、課外授業として希望者があれば女優参加の施設見学も計画したい。(昨年は乳児院・児童養護施設・特別養護老人ホーム・児童相談所などに9月に2回実施し9名の学生が参加した)

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

| 種別 / Kind | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc.                       |
|-----------|-----------------|-----------------------------------------------------|
| レポート      | 100 %           | ・自らを問い直し気づきと感性を身につける(目標)・建て前より本音・理屈より感性・正直な自分との出会いを |
| その他       | 0 %             | ・7割以上の出席が基準で特に体験学習は継続参加が望ましい                        |

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

特別な事情がない限り出席を期待するが、特に体験学習の授業には出来るだけ継続的な参加を望みたい。また、自己形成につながるように主体的な学習姿勢を期待する。

## 教科書 / Textbooks

テキストは使用せず、担当者が作成したレジュメを事前(前週)・当日配布する。

## 参考書 / Reference Books

\*必要に応じ授業の中で紹介することもある。

## 参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course



## ヒューマンリサーチ SC

13047

担当者名 / Instructor 中根 成寿

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Description

本講義では、大学で調査研究を行うために必要なスキルを習得することを目標とする。本講義は、2回生前期に配置されているので、後期の人間福祉演習、社会福祉援助技術実習指導Ⅰにつながるような講義を行う。大学で調査研究・レポートや論文の執筆を行うための基本的なスキルとは、1.テーマに即した文献を発見するスキル、2.文献を読みこなすスキル、3.文献を要約するスキル、4.先行研究から問いを発見するスキル、5.問いが明らかになるような調査計画を立案するスキル、6.調査を実施するスキル、7.得られたデータを分析するスキル、8.得られたデータを元に論文を執筆するスキル、9.自分で書いた論文をプレゼンテーションするスキル、10.他者の評価を元に研究を進化させるスキル、などが必要となる。つまり「読む」「書く」「話す」の技術である。本講義では、これらのスキルを習得するために、①文献レビュー、②プレゼンテーション、③簡単な調査の実施、④結果の分析、⑤結果の報告などを行う。大学で学ぶ「お作法」を身につけたい学生の受講を望む。

## 到達目標 / Focus and Goal

上記の通り。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

本講義は受講生が主体的に学ぶことが求められる。オリエンテーションに出席し、納得した上での受講をすること。グループで作業をすることは多いが、評価や報告は個人単位を基本とする。調査のテーマは参加学生の興味や到達レベルによって教員が提供することもある。

## 授業スケジュール / Schedule

| 授業日 (第N回) | テーマ / Theme                              | キーワード / Key Word |
|-----------|------------------------------------------|------------------|
|           | 1.オリエンテーション 講義の進め方と評価について、参加者の相互紹介、文献の指示 |                  |
|           | 2.文献レビューとプレゼンテーション①                      |                  |
|           | 3.文献レビューとプレゼンテーション②                      |                  |
|           | 4.文献レビューとプレゼンテーション③                      |                  |
|           | 5.問いの設定と調査計画策定①                          |                  |
|           | 6.問いの設定と調査計画策定②                          |                  |
|           | 7.調査の実施①                                 |                  |
|           | 8.調査の実施②                                 |                  |
|           | 9.調査結果の分析①                               |                  |
|           | 10.調査結果の分析②                              |                  |
|           | 11.報告書の作成①                               |                  |
|           | 12.報告書の作成②                               |                  |
|           | 13.報告／プレゼンテーション①                         |                  |
|           | 14.報告／プレゼンテーション②                         |                  |

 (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment  
 (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

| 種別 / Kind | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc.     |
|-----------|-----------------|-----------------------------------|
| レポート      | 40 %            | 講義で作成する報告書で評価を行う。                 |
| 日常点       | 30 %            | 出席やコミュニケーションペーパーでの質問の質によって評価を加える。 |
| その他       | 30 %            | 文献レビューを課すので、その到達度によって評価を行う。       |

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

## 教科書 / Textbooks

## 参考書 / Reference Books

適宜講義内で指示する。

## 参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

ソキウス 著作+制作 野村一夫

<http://socius.jp>

ソシオリウム [社会学の学習展示室]

社会学の作法・初級編 [改訂版]

社会学的リテラシー構築のためのレッスン

<http://www.socius.jp/manner/index.html>



## ヒューマンリサーチ SD

12953

担当者名 / Instructor 黒川 章子

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Description

近年、社会福祉研究において不可欠な要素となっているNPO・ボランティア団体の活動について考察する。

NPO・ボランティア団体とその活動の成立、意義、公との関係等について学ぶが、このことは社会福祉にとどまらず、社会全体のシステムを新たな視点で捉えなおすことでもある。文献学習と並行して、各自の研究テーマ（児童・高齢者・障害者・ホームレス・地域等）に沿ってグループでNPO・ボランティア団体でのフィールドワークを行い、その具体的な活動を知ると同時にフィールドワークの技法、まとめ方についても学ぶ。

## 到達目標 / Focus and Goal

- ①NPOの意義、役割、具体的な活動について知る。
- ②フィールドワークの技法について学ぶ。
- ③フィールドワークのまとめ、報告、討議を行い、各自の研究テーマに関して新たな知見を得る。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enrolle in, but not required to

各自の研究テーマに関する科目

## 授業スケジュール / Schedule

| 授業日 (第N回) | テーマ / Theme                                   | キーワード / Key Word |
|-----------|-----------------------------------------------|------------------|
| 第1回       | オリエンテーション (自己紹介・授業計画・グループ構成)                  |                  |
| 第2回       | フィールドワークの技法 ①                                 |                  |
| 第3回       | フィールドワークの技法 ②                                 |                  |
| 第4回       | フィールドワークの技法 ③                                 |                  |
| 第5回       | 社会福祉とNPO・ボランティア団体の活動 ①-イギリスを中心として (ボランティアの誕生) |                  |
| 第6回       | 社会福祉とNPO・ボランティア団体の活動 ② (ボランティア活動から社会福祉へ)      |                  |
| 第7回       | 社会福祉とNPO・ボランティア団体の活動 ③ (NPO・ボランティア団体の活動の意義)   |                  |
| 第8回       | 社会福祉とNPO・ボランティア団体の活動 ④ (活動の具体例 ビデオ学習)         |                  |
| 第9回       | 日本におけるNPO・ボランティア団体の活動 ① (その起源と歴史)             |                  |
| 第10回      | 日本におけるNPO・ボランティア団体の活動 ② (活動の具体例)              |                  |
| 第11回      | ゲストスピーカー (地域におけるボランティア活動)                     |                  |
| 第12回      | 各グループのフィールドワークの報告 ①                           |                  |
| 第13回      | 各グループのフィールドワークの報告 ②                           |                  |
| 第14回      | まとめ                                           |                  |

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

- ①文献学習 (まとめ・報告)
- ②フィールドワークのまとめ

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

| 種別 / Kind | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc. |
|-----------|-----------------|-------------------------------|
| レポート      | 40 %            | 「文献学習」と「フィールドワークの報告」          |
| 日常点       | 40 %            | 発表・グループ活動・討議への参加              |
| その他       | 20 %            | 出欠状況・遅刻                       |

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

フィールドワークを単なる「体験」としないように、文献学習および各自の研究テーマを深める作業をすることを望む。

## 教科書 / Textbooks

テキストとしては特定せず、資料・レジュメ等を配布する。

## 参考書 / Reference Books

授業時に紹介する。

参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

その他 / Others

講義スケジュールは、受講生数、ゲストスピーカーの予定等により、変更の可能性もある。

## ヒューマンリサーチ SE

12948

担当者名 / Instructor 太田 美帆

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Description

人々の福祉を向上させるための実践的なアプローチとして、「社会開発 (social development)」という考え方が国際的に注目されています。この考え方は、第三世界の開発において、1960年代と1970年代にも用いられていました。この考え方が近年、再び注目を集めることになったきっかけは、1990年に提起された国連開発計画 (UNDP) による人間開発 (human development) という考え方や、1995年に開催された国連世界社会開発サミットでの議論です。講義では、社会開発アプローチとその他のアプローチの特徴を明らかにしながら、主に第三世界の社会状況と開発の変遷について考えてゆきたいと思います。

## 到達目標 / Focus and Goal

開発に関する基本的な考え方を身につけること。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enrolle in, but not required to

特にありません。

## 授業スケジュール / Schedule

| 授業日 (第N回) | テーマ / Theme       | キーワード / Key Word |
|-----------|-------------------|------------------|
| 第1回目      | 第三世界の社会状況         |                  |
| 第2回目      | 経済開発と社会開発         |                  |
| 第3回目      | 冷戦下の第三世界          |                  |
| 第4回目      | 開発と文化             |                  |
| 第5～6回目    | ベーシック・ニーズ・アプローチ   | 個人、再分配           |
| 第7～8回目    | 住民参加アプローチ         | 政府から地域社会へ        |
| 第9回目      | 持続可能な開発へ          |                  |
| 第10回目     | ソーシャル・キャピタル・アプローチ |                  |
| 第11回目     | 第三世界での取り組み例       | 総合開発型社会福祉プログラム   |
| 第12回目     | 先進国での取り組み例        | 農村開発、都市部の貧困地域    |
| 第13回目     | 政府の役割             | 社会計画、社会的介入       |
| 第14回目     | まとめ               |                  |

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

開発に関するニュースや記事、イベント情報に日頃から関心を持ち、情報収集しておいて下さい。

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

| 種別 / Kind | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc.                                   |
|-----------|-----------------|-----------------------------------------------------------------|
| レポート      | 50 %            | 開発に関する基本的な考え方が身に付いているか、また、具体的な事例を開発の考え方をを用いて考察することができているかを評価する。 |
| 日常点       | 50 %            | 出席状況と小テストで判断する。小テストでは、講義内容の理解度を確認する。                            |

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

国際機関やNGOの機関誌やウェブサイトなどを通して、問題を身近なものとして考えられるようになって下さい。

## 教科書 / Textbooks

授業中に適宜、指示します。なお、講義ではレジュメを配布します。

## 参考書 / Reference Books

| 書名 / Title | 出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment |
|------------|----------------------------------------------------------|
| 社会開発の福祉学   | ジェームス・ミッジリィ／旬報社／4-8451-0818-6／                           |
| 開発と文化      | 岡本真佐子／岩波書店／4-00-004436-2／                                |

## 参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

United Nations (<http://www.un.org/>)、国際連合広報センター (<http://www.unic.or.jp/>)  
 Unicef (<http://www.unicef.org/>)、日本ユニセフ協会 (<http://www.unicef.or.jp/>)  
 United Nations Development Programme (<http://www.undp.org/>)  
 国連開発計画 東京事務所 (<http://www.undp.or.jp/>)  
 World Health Organization (<http://www.who.int/en/>)  
 WHO神戸センター (<http://www.who.or.jp/indexj.html>)

The World Bank (<http://www.worldbank.org/>)、世界銀行 東京事務所 (<http://www.worldbank.or.jp/>)  
International Monetary Fund (<http://www.imf.org/>)

その他 / Others



## ヒューマンリサーチ SF

13004

担当者名 / Instructor 福住 節子

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Description

人間福祉に関わる専門的分野の一端として、この授業では、社会福祉の主に実践的内容についての「これまで(経過)」と「これから(方向)」について学び、その現状と課題を考察する。それをふまえて、その具体的実践のあり方としてのさまざまな活動(とりわけ、NGO・NPOなどの各種ネットワーク)に着目し、リサーチを試みたい。授業は次の3つの内容で構成する。①文献学習(主にNPO・NGOの活動について理解する)②フィールドワーク(調査・訪問等)③まとめ(各自の課題を、「今後の関心分野」と関連させて設定し、まとめて報告する)

## 到達目標 / Focus and Goal

- ・社会福祉実践の「これまで(経過)」と「これから(方向)」を文献から学び、その現状と課題を理解する。
- ・選んだ文献(担当者から数冊を提示する)の学習に取り組み、発表(レジュメ作成)する。
- ・グループでのフィールドワークに積極的に参加し、その報告・討論を通して、各自の関心ある分野を探索する。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

- ・社会福祉の入門的科目

## 授業スケジュール / Schedule

| 授業日(第N回) | テーマ / Theme                            | キーワード / Key Word |
|----------|----------------------------------------|------------------|
| 1        | オリエンテーションー学習内容と授業を受けるにあたっての伝達事項(文献提示)。 |                  |
| 2        | 社会福祉実践の「これまで」と現状を概観し、「これから」を考える。       |                  |
| 3        | 文献学習①(分担報告と討論)                         |                  |
| 4        | 文献学習②(分担報告と討論)                         |                  |
| 5        | 文献学習③(分担報告と討論)                         |                  |
| 6        | 3文献に共通するテーマでの討論ーフィールドワーク分野(訪問先)決定      |                  |
| 7        | ゲストスピーカー(予定)                           |                  |
| 8        | フィールドワーク(全体で)                          |                  |
| 9        | フィールドワーク(グループで)                        |                  |
| 10       | フィールドワークの報告と討論①                        |                  |
| 11       | フィールドワークの報告と討論②                        |                  |
| 12       | フィールドワークの報告と討論③                        |                  |
| 13       | フィールドワークの報告と討論④                        |                  |
| 14       | 今後の学習・実践分野についての受講者からのプレゼンテーションとまとめ     |                  |

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

- ・文献を読みまとめる。(授業で報告)
- ・フィールドワークのまとめ

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

| 種別 / Kind | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc.  |
|-----------|-----------------|--------------------------------|
| レポート      | 50 %            | 「文献学習」と「フィールドワーク」のレポート         |
| 日常点       | 50 %            | 討論・グループ活動・文献学習とフィールドワークの報告・出席等 |

・フィールドワークへの参加や討論等において、主体的参加を望む

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

2回生後期からの専門ゼミや社会福祉実習先の選定に向けて、今日の社会状況や社会福祉の現状を、現象のみではなく構造的に捉えられる機会として文献学習やフィールドワークによるリサーチ・討論等での探究に取り組みたいと考えているので、それぞれの課題を持ちながら(あるいは模索しながら)積極的に臨んでもらいたい。

## 教科書 / Textbooks

指定せず、適宜資料プリント等を配布する。

## 参考書 / Reference Books

授業時に適宜紹介する。

## 参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

・さまざまなNPO・NGOのサイトなど。

#### その他 / Others

・「授業スケジュール」は、受講者数によって変更になる場合がある。

## 表現の自由論Ⅰ S 言語表現論Ⅱ S

15084

担当者名 / Instructor 白石 憲二

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Description

戦前のような表現行為にたいする公権力の抑圧機構（規制体系）は現在の日本にほとんど存在していない。とくに新聞紙法や出版法などマスコミをしばってきた規制はなくなり、「マスコミの自由」は拡大した。だが、マスコミから発信される大量の情報の受け手である国民の側の「表現の自由」がどのように拡大したのか、については別の観点から議論する必要がある。高度情報化社会が進行するなかで、「表現の自由」から派生するマスメディアらが担う「報道の自由」にたいする市民からの目は厳しくなり、ネット情報の氾濫など負の側面も強調されるようになっている。また、「表現の自由」と「法と秩序」との対立関係のなかでの新たな摩擦（事件）も起きている。新聞、電子・電波の世界で今論議されている「表現の自由」にかかわる諸問題をてがかりに、広く市民社会の言論状況を点検し、あるべき表現方法とそれを実現していくための条件を考察する。

## 到達目標 / Focus and Goal

「表現の自由」をめぐるトラブルで、何が問題になっているのかを提示できる。  
利害の対立する双方の言い分を整理したうえで、一定の解決策を提案することができる。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

## 授業スケジュール / Schedule

| 授業日 (第N回) | テーマ / Theme                 | キーワード / Key Word |
|-----------|-----------------------------|------------------|
| 第1回       | はじめに。いま、世界の「表現の自由度」は        |                  |
| 第2回       | 「表現の自由」を求めて——権力との対立の歴史 (世界) |                  |
| 第3回       | 「表現の自由」を求めて——戦前から戦後へ        |                  |
| 第4回       | プレスコード (抑えられた原爆報道)          |                  |
| 第5回       | ベトナム・イラク戦争報道                |                  |
| 第6回       | 取材の自由とその制約1——取材源の秘匿         |                  |
| 第7回       | 取材の自由とその制約2——取材資料の目的外使用     |                  |
| 第8回       | 取材の自由とその制約3——公務員の守秘義務とのかかわり |                  |
| 第9回       | 記事の捏造・盗用                    |                  |
| 第10回      | 表現の自由とプライバシー権——個人情報保護法      |                  |
| 第11回      | 名誉毀損訴訟の変遷——賠償額の高額化          |                  |
| 第12回      | 出版の差し止めをめぐる                 |                  |
| 第13回      | 差別語・差別発言など                  |                  |
| 第14回      | ネット情報の氾濫と法規制                |                  |

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

| 種別 / Kind | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc.    |
|-----------|-----------------|----------------------------------|
| レポート      | 60 %            | 課題についての理解度、論旨の構成や説得力を重視する。       |
| 日常点       | 40 %            | 数回おきにミニレポートを課し、学習への取り組み、理解度をはかる。 |

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

## 教科書 / Textbooks

## 参考書 / Reference Books

「新聞社襲撃——テロリズムと対峙した15年」(朝日新聞社116号事件取材班、岩波書店、2002年8月)

## 参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

## その他 / Others

## フィランソロピー論 S

15208

担当者名 / Instructor 松田 弘

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Description

フィランソロピーとは「企業等の慈善活動やボランティア活動」のことでしたが、現在では「企業等の社会的責任」すなわち「CSR」にまで波及して広義に定義します。この講義は会社人間OBで現在の「淡海フィランソロピーネット」の代表発起人が語る「現場の企業等の社会責任論」です。実学の「フィランソロピー論」ですから、これから企業等の研究や就職活動をはじめようとする諸君に格好な講義です。

## 到達目標 / Focus and Goal

- フィランソロピーの概念を実学として説明できる。
- 歴史的な背景や経緯から昨今のフィランソロピーを論述できる。
- フィランソロピーからCSRについて言及ができる。
- 資本市場におけるCSRを社会学的な立場から意見を述べるができる。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enrolle in, but not required to

## 授業スケジュール / Schedule

| 授業日 (第N回) | テーマ / Theme                    | キーワード / Key Word |
|-----------|--------------------------------|------------------|
| 第1回       | 講義のオリエンテーション。 自己紹介カードの提出。      |                  |
| 第2回       | フィランソロピーの実例を学ぶ                 |                  |
| 第3回       | フィランソロピーの実例研究と宿題実施             |                  |
| 第4回       | フィランソロピーの歴史                    |                  |
| 第5回       | フィランソロピーの宿題オーディションと講評総括        |                  |
| 第6回       | フィランソロピーの実態統計調査等から課題の検証        |                  |
| 第7回       | フィランソロピーからCSR                  |                  |
| 第8回       | NPOと企業等の協働を考察                  |                  |
| 第9回       | 企業等のCSR報告書実例からレポート(宿題)         |                  |
| 第10回      | 大学等をCSR論から考察                   |                  |
| 第11回      | CSR報告書の宿題オーディションと講評総括          |                  |
| 第12回      | CSR論でのSRを研究                    |                  |
| 第13回      | 資本市場からCSRの現実を探る                |                  |
| 第14回      | 企業評価諸説からCSRとフィランソロピーを再検証(講義総括) |                  |

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

| 種別 / Kind | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc. |
|-----------|-----------------|-------------------------------|
| レポート      | 40 %            | 講義の理解度と実学的な自己意見を求める           |
| 日常点       | 60 %            | 講義時間中の宿題提出状況と積極的な発表姿勢の評価      |

実学の講義ですから、講義回数の3分の2以上の出席がないと単位認定をしません。毎回の講義に30分以上の遅刻学生はその日の講義出席認定は致しません。したがって、4回生以上で講義期間中に就活のために欠席が多い学生には薦めません。

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

初回講義(オリエンテーション)に必ず出席してください。講義の進め方、受講上の注意、成績評価について説明します。このオリエンテーションに欠席すると不利になります。

## 教科書 / Textbooks

## 参考書 / Reference Books

| 書名 / Title                      | 出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment |
|---------------------------------|----------------------------------------------------------|
| CSR入門                           | 岡本享二／日経文庫／4-532-11040-8／                                 |
| 社会責任投資の基礎知識                     | 秋山をね・菱山隆二／岩波アクティブ新書／4-00-700108-1／                       |
| 参考書は購入するか、極力一読を薦める。講義の時間中に多用する。 |                                                          |

## 参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

[www.nikkei.co.jp/csr](http://www.nikkei.co.jp/csr)

## その他 / Others

出席条件を厳正にします。全講義回数の3分の2以上の出席学生にのみ単位評価認定をします。

## 福祉行財政論 S

15059

担当者名 / Instructor 村上 真

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Description

現在、社会福祉は主に市町村の事務となっている。国は全国的な視点から市町村に社会福祉の取り組みを奨励し、市町村はこれを受けて住民のニーズに直接的に対応している。とはいえ、両者の関係は時期により異なるし現在も変化しつつある。また各施策分野間にも差異がみられる。本年度は、基本的な行財政の仕組みを把握するとともに、このような変化や差異がうみだされる理由を探ることとしたい。

## 到達目標 / Focus and Goal

- ・社会福祉における行財政制度が理解できる。
- ・制度構築の基礎となる原理等が理解できる。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

## 授業スケジュール / Schedule

| 授業日 (第N回) | テーマ / Theme             | キーワード / Key Word        |
|-----------|-------------------------|-------------------------|
|           | 社会福祉行政とは何か              | 公共、公共部門                 |
|           | 社会福祉行政の歩み (1)           | 組織の形成、意思決定              |
|           | 社会福祉行政の歩み (2)           | 利害関係者、取引コスト             |
|           | 社会福祉行政の歩み (3)           | プロフェッション、ニューパブリックマネジメント |
|           | 小括                      |                         |
|           | 国と地方の関係                 | 中央政府、地方政府、政府間関係         |
|           | わが国の社会福祉における国と地方の関係     | 縦割り、財源                  |
|           | 諸外国の社会福祉における国と地方の関係 (1) | 〃                       |
|           | 諸外国の社会福祉における国と地方の関係 (2) | 〃                       |
|           | 小括                      |                         |
|           | 改革をめぐって—政府間関係           | 地方分権一括法                 |
|           | 改革をめぐって—組織間関係           | 外部委託                    |
|           | 改革をめぐって—組織内関係           | 経営管理                    |
|           | 残された問題                  |                         |

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

授業後にはテキストの対象箇所を目を通し、全体の流れのなかでの位置づけを把握すること。

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

| 種別 / Kind | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc.         |
|-----------|-----------------|---------------------------------------|
| 定期試験      | 90 %            | 基本的概念・用語が本講義のテーマに沿って理解できているかを問う。      |
| 日常点       | 10 %            | 授業中にテーマに関する意見などを書いたペーパーを提出してもらうことがある。 |

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

社会福祉はもとより、社会経済全般や政治の動向についての報道にも広く関心をもってほしい。

## 教科書 / Textbooks

| 書名 / Title | 出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment |
|------------|----------------------------------------------------------|
| 福祉行財政論     | 山本隆／中央法規／4-8058-2307-0／テキストの記述の理解が最低限要求される。              |

## 参考書 / Reference Books

| 書名 / Title     | 出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment |
|----------------|----------------------------------------------------------|
| 組織論            | 桑田・田尾／有斐閣／4-641-12049-8／幅広く参照する。                         |
| その他授業中に適宜紹介する。 |                                                          |

## 参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

## その他 / Others

## 福祉経営論 S

15188

担当者名 / Instructor 廣末 利弥

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Description

社会保障構造改革のもとで、福祉事業が産業化され民間営利企業の参入が著しい。その中であって、真に国民の期待に応え、憲法に示される生活権を保障するに値する福祉事業の運営と経営のあり方を考える。その為に、社会福祉とはなにか、社会福祉事業とは何か。福祉施設、福祉事業は誰のため、何のために存在するか、を学び、考え、21世紀の社会福祉の方向性を見出すことを目的とする。

## 到達目標 / Focus and Goal

社会福祉、社会福祉事業の役割と使命を理解する。その上で、公的責任のもとでの福祉事業と市場化された事業経営の実態を学び、非営利である社会福祉法人の運営、経営のあり方と役割使命について理解する。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

経営ということについては現実的なイメージが困難なため、講義を聴いて考える力を養うことを重視している。従って欠席のないように努めること。事前学習としては、社会保障論や各種の福祉制度論及び社会福祉法は事前に学習しておくこと。

## 授業スケジュール / Schedule

| 授業日 (第N回) | テーマ / Theme                   | キーワード / Key Word |
|-----------|-------------------------------|------------------|
| 1         | 総括的導入講義。詳細は別途掲示等で案内。          |                  |
| 2         | 福祉経営論を学ぶ視点                    | 福祉とは。経営とは。       |
| 3         | 社会福祉の歴史と福祉理念。福祉実践の到達と課題。      | 福祉の一般化、普遍化。      |
| 4         | 老人福祉の施策と理念、実際を理解する。           | 老人福祉の権利性         |
| 5         | 社会福祉法と社会福祉法人の運営と特徴            | 社会福祉法人、社会福祉事業    |
| 6         | 社会福祉法人の設立と運営                  | 社会福祉法人の定款        |
| 7         | 社会福祉法人の設立要件と許認可、指導監督          | 基本財産、事前規制と事後規制   |
| 8         | 福祉事業における財源                    | 措置制度、措置費         |
| 9         | 措置費の仕組みと算定                    | 基本額、加算、措置費の財源構成  |
| 10        | 保険制度のもとでの経営                   | 介護保険制度、経営原則      |
| 11        | 福祉経営における収入                    | 出来高払い、減算、効率化     |
| 12        | 民間営利企業の参入による福祉現場の実態           | 規制緩和、福祉と営利、不正受給  |
| 13        | 福祉経営における支出管理＝労働者を取りまく各種制度と人件費 | 労働基準法、就業規則、給与規則  |
| 14        | 福祉労働の専門性と身分、給与                | 福祉労働             |
| 15        | 社会福祉法人のアイデンティティを守り発展させるために    | 社会福祉法人の役割、使命     |

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

できれば福祉の事業所 (いわゆる福祉施設等) を見学しておくことが望ましい。

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

| 種別 / Kind | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc. |
|-----------|-----------------|-------------------------------|
| レポート      | 30 %            | 指定したテーマによるレポート。論点の明確化         |
| 日常点       | 30 %            | コミュニケーションペーパーでの意見、問題意識の明確化    |
| その他       | 40 %            | 出席                            |

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

## 教科書 / Textbooks

## 参考書 / Reference Books

| 書名 / Title    | 出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment |
|---------------|----------------------------------------------------------|
| 民間社会福祉事業と公的責任 | 福祉労働福祉経営共同研究会／かもがわ出版／4-87699-731-4／                      |
| 転換期の社会福祉事業と経営 | 石倉康次他／かもがわ出版／4-87699-651-2／                              |
| 社会福祉辞典        | 同編集委員会／大月書店／4-272-36040-x／                               |

## 参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

## その他 / Others

## 福祉計画論 S S 社会福祉援助技術論IV SG S 社会福祉援助技術論IV S

11446

担当者名 / Instructor 峰島 厚、岡田 まり

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Description

本講義は、ソーシャルワーク論の続編である。ミクロレベルでの実践(個人、家族、グループへの支援)の意義と方法を踏まえたうえで、プログラムを開発したり、地域社会によりよい変化をもたらすマクロレベルでの実践において重要となる計画に焦点をあてる。行政や民間団体の実際の計画を例として取り上げながら、計画の意義と目的について理解できるようにするとともに、モデルや理論に基づいて計画策定を行うための基礎的な知識と技術を習得することをめざす。そして、生活問題の解決・発生予防のためには、さまざまなレベルでの取り組みが必要であることを認識し、状況に応じて適切な援助技術を選んで活用する力をつけたい。

## 到達目標 / Focus and Goal

- ・計画の意義と重要性について自分の言葉で説明できる。
- ・計画策定・実施・評価のプロセスと方法およびその留意点について説明できる。
- ・行政や民間団体が策定した計画およびその実施について、短所と長所を指摘することができる。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

ソーシャルワーク論を事前に履修しておくことが望ましい。また、社会福祉士課程の指定科目をできるだけ履修しておくことが、本科目での理解を深めるのに役立つ。

## 授業スケジュール / Schedule

| 授業日(第N回) | テーマ / Theme           | キーワード / Key Word                 |
|----------|-----------------------|----------------------------------|
| 第1回      | ソーシャルワークのマクロレベルでの実践とは | プログラム開発、地域介入                     |
| 第2回      | 計画とは①                 | 意義と目的、プロセス                       |
| 第3回      | 計画とは②                 | ゴールドプラン、エンゼルプラン、障害者プラン、高齢者保健福祉計画 |
| 第4回      | 計画のモデル                | PRECEDE-PROCEED モデル              |
| 第5回      | 計画策定①                 | 社会診断                             |
| 第6回      | 計画策定②                 | 疫学・生活問題診断                        |
| 第7回      | 計画策定③                 | 行動・環境診断                          |
| 第8回      | 計画策定④                 | 教育・組織診断                          |
| 第9回      | 計画策定⑤                 | 運営・政策診断                          |
| 第10回     | 計画の実施①                | 実施主体、参加者、期間、予算、到達課題、プログラム内容、共有化  |
| 第11回     | 計画の実施②                | 実施主体、参加者、期間、予算、到達課題、プログラム内容、共有化  |
| 第12回     | 計画実施の評価               | プロセス評価(モニタリング)、結果評価              |
| 第13回     | さまざまな地域における計画         | グループでの情報の共有化                     |
| 第14回     | まとめ                   |                                  |
| 第15回     | 予備日                   |                                  |

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

授業前に指定の文献・HPを必ず読んでくること。授業は、受講生がそれらを読んだことを前提として行う。

課題レポートは、受講生が生活する地域について、①地域の概要、②関心のある福祉領域に関する社会資源、③地方自治体が行っている計画についての批評、の3点をまとめたものであり、その作成のためには役所や図書館などを訪問する必要がある。

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

| 種別 / Kind | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc.                                 |
|-----------|-----------------|---------------------------------------------------------------|
| 定期試験      | 60 %            | 各回で取り上げた内容について理解し、自分の言葉で説明することができるか、また、それらの内容を実際に活用できるかを評価する。 |
| 日常点       | 40 %            | 課題レポートおよびコミュニケーション・ペーパーをとおして、理解が深まっているか確認する。                  |

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

授業では、講義だけでなくグループ演習も行うので、主体的な参加が重要。

## 教科書 / Textbooks

なし

## 参考書 / Reference Books

ソーシャルワーク実践とシステム、黒木保博・小林良二・坂田周一・森本佳樹編、有斐閣、4-641-05527-0、



社会福祉実践のシステムレベルでの活動に焦点を当て、基礎的な知識と技法について概説したもの。「2章ソーシャルワークのための調査論」「3章ソーシャルワーカーと計画」などを授業の参考文献として使う予定。

**参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course**

日本社会福祉士会 <http://www.jacsw.or.jp/>  
国際ソーシャルワーカー連盟 <http://www1.ifsw.org/>  
厚生労働省 <http://www.mhlw.go.jp/>

**その他 / Others**

## 福祉産業論 S

12962

担当者名 / Instructor 今井 久人

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Description

テーマ「福祉産業論」

福祉産業論と一口に言っても、現状を見る限り自動車産業や鉄鋼産業などの天下国家を支えるほど巨大なものではない。また、明確な共通イメージがあるわけでもない。一般的なイメージでは保健・医療・福祉など日常生活部面で提供されているサービスが多く見られるところである。少子高齢社会の到来とともに保健・医療・福祉など、それぞれの分野で市場が形成また拡大されつつあり、今後のこれらの分野の成長が見込まれることから既存の産業の参入が図られているところである。本講義では、その現状を見ながらこの分野の将来性とその成長が市民生活にどう寄与するかを見る。

## 到達目標 / Focus and Goal

保健・医療・福祉といった生活関連産業のそれぞれの分野の特徴や具体的な事業展開例から、福祉産業を俯瞰的に広く理解するレベルに達すること。さらにその理解の上で、今後、社会人として生活の様々な場面で利用するであろう保健・医療・福祉などのサービスを、供給側・受給側など視点を変えながらその抱える諸課題や産業としての発展性や可能性を探るレベルまでに高めること。

(マラソンで言えば完走が最低限の目的で、さらにいえば2時間を切るような好タイムを期待する)

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enrolle in, but not required to

基本的な社会福祉概論、老人福祉論、障害者福祉論、児童福祉論などを踏まえ、日頃から新聞や雑誌から時事的な話題に関心を持つことが大事である。特に2006年度は、介護保険の改正、高齢者医療制度の改正など大きな変化がある。そのような背景のなか、既存の事業から新規に参入する企業やその商品などを生活実践から学び取る姿勢が大事である。

## 授業スケジュール / Schedule

| 授業日 (第N回) | テーマ / Theme            | キーワード / Key Word                             |
|-----------|------------------------|----------------------------------------------|
| 1         | 総括的導入講義                |                                              |
| 2         | 福祉産業とは何か (講義の概要)       | 生活関連産業と暮らし                                   |
| 3~4       | 医療産業の市場と課題             | 日本の医療 (医療機関) の現状<br>厚生動向 医療保険制度 高齢者医療制度 診療報酬 |
| 5~6       | 医療産業の市場現状と課題           | 日本の医療 (医療周辺産業) の<br>医療機器 医薬品 医療廃棄物           |
| 7~8       | 健康産業市場                 | 日本の健康産業の現状と課題<br>健康日本21 ヘルスプロモーション           |
| 9         | 健康産業の市場                | 日本の健康増進ビジネス<br>フィットネスクラブ サプリメント市場 健康グッズ      |
| 10~11     | 福祉産業の市場 介護保険制度 支援費制度など | 介護保険制度 介護報酬 介護ビジネス 紙おむつ<br>介護機器 高齢者住宅        |
| 12~13     | 福祉産業の市場 介護保険制度 支援費制度など | 介護事業事例 (訪問介護、通所介護、施設介護)                      |
| 14        | 少子化と保育ビジネス             | 出生率 育児支援制度 ベビーシッター 保育園                       |
| 15        | 総括 (まとめ)               |                                              |

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

| 種別 / Kind | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc.             |
|-----------|-----------------|-------------------------------------------|
| レポート      | 50 %            | 定期試験に代わるものとして全体の講義を通して、理解度と全体的な視点、気づきを問う。 |
| 日常点       | 40 %            | 中間に数回的小レポートの提出を求め、関心事や理解の深さを確認する。         |
| その他       | 10 %            | 出席に替えてコメントシートを利用しながら、授業内容のコメントの提出を求める。    |

定期試験は実施しないが、日頃の受講態度から福祉産業に関する関心事や興味など、視野の広がりや知識の習得度合いを見るため、期間中に数回の課題を与えて小レポートを提出してもらう。そのため、毎回の出席に占める比重は高い。また、全体のまとめとしての到達度合を期末レポートの提出を求める。

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

## 教科書 / Textbooks

比較的新たな分野であり、テキストは指定しない。講義の都度、保健・医療・福祉分野関連の雑誌や新聞などから作成した独自資料を配布または紹介する。

## 参考書 / Reference Books

| 書名 / Title       | 出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment |
|------------------|----------------------------------------------------------|
| 日本を元気にする健康サービス産業 | 島田晴雄／東洋経済新報社／／                                           |
| シルバーサービス論        | 川村匡由／ミネルヴァ書房／／                                           |

日経ヘルスケア21

／日経BP社／／

参考文献は多くないが、日常から新聞等の関連記事に注意を払うこと。

参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

厚生労働省のHP・経済産業省等のHP

その他 / Others

## 福祉住環境論 S S 居住福祉論 S

12981

担当者名 / Instructor 蔵田 力

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Description

テーマ「高齢者・障害者が住まいで地域で安心して住み続けられるために」我国の急速に進む高齢社会において、障害を持つ高齢者も増え続けている。高齢者・障害者が住まいで、地域で人間らしく安心して住み続けられる環境はどうあるべきか。日本の住宅政策、福祉政策を先進の北欧等の国々と歴史的に比較しながら考察していく。また、国連においての「居住の権利」宣言等の最近の動きも学びながら、「住まうことは基本的人権」であることを確認する。なお現在、世界および日本の各地で取り組まれている住民と各分野の専門家及び行政の連携による「住まいの環境改善」や「福祉のまちづくり」の実践例を学ぶ。

## 到達目標 / Focus and Goal

世界的な流れである「住まいは福祉の基盤」「住まいは人権」を理解する。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enrolle in, but not required to

高齢者・障害者の福祉および「住まい」「まちづくり」に対して興味を持っていること。又、将来それらに関わることを目指している。

## 授業スケジュール / Schedule

| 授業日 (第N回) | テーマ / Theme                      | キーワード / Key Word |
|-----------|----------------------------------|------------------|
| 第 1 回     | 講義概要、流れ、到達目標等説明                  |                  |
| 第 2 回     | 住宅総論 I 「住まい」とは                   |                  |
| 第 3 回     | 住宅総論 II 「居住の権利宣言」を学ぶ             |                  |
| 第 4 回     | 住宅総論 III 日本、世界の住宅政策と福祉政策         |                  |
| 第 5 回     | 住宅各論 I バリアフリーの考え方                |                  |
| 第 6 回     | 住宅各論 II -1 「住まいの環境改善」のあり方        |                  |
| 第 7 回     | 住宅各論 II -2 「住まいの環境改善」における専門家の連携  |                  |
| 第 8 回     | 住宅各論 II -3 事例研究                  |                  |
| 第 9 回     | 住宅各論 III 「住まい」と家族                |                  |
| 第 10 回    | 住宅各論 IV 「住まい」と健康                 |                  |
| 第 11 回    | 住宅各論 V ホームレス問題                   |                  |
| 第 12 回    | 地域論 I 日本と世界の都市政策                 |                  |
| 第 13 回    | 地域論 II -1 高齢者・障害者が住み続けられる“まちづくり” |                  |
| 第 14 回    | 地域論 II -2 生活圏構想                  |                  |
| 第 15 回    | まとめ                              |                  |

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

配布資料および参考書のポイントを復習、また事前に配布された資料の予習

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

| 種別 / Kind | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc.        |
|-----------|-----------------|--------------------------------------|
| レポート      | 80 %            | 講義の理解度および与えられたテーマに対して、主体的にどう深めたのかを評価 |
| 日常点       | 20 %            | コミュニケーションカードの講義に対する感想等で評価            |

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

- (1) 配布資料は必ず整理し、毎回の講義に持参する。
- (2) コミュニケーションカードには、積極的に感想、意見を述べる。

## 教科書 / Textbooks

| 書名 / Title | 出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment |
|------------|----------------------------------------------------------|
| 「居住福祉」     | 早川和男／岩波新書／／大学生協等で各自購入                                    |

## 参考書 / Reference Books

| 書名 / Title  | 出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment |
|-------------|----------------------------------------------------------|
| 「住宅の権利・誓約集」 | 監修・中林 浩／日本住宅会議／／日本住宅会議が注文販売                              |

## 参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course



## 福祉情報論 S

12967

担当者名 / Instructor 生田 正幸

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Description

介護保険制度の導入は、介護・福祉分野におけるコンピュータ活用のあり方を大きく変えた。社会福祉施設や在宅サービス機関においても、パソコンや情報システム、情報ネットワークがごく当たり前の存在となり、サービスの利用と提供を支える重要な役割を担っている。さらに、社会福祉法の施行によって、情報の開示・提供、苦情解決、サービス評価など情報に関わる事柄が、利用者のサービス選択を保障しサービスの質を高めていく重要なファクターとして位置づけられるようになった。

また、情報の入手や利用、発信の障壁（バリア）に直面する「情報弱者」の問題が顕在化し、先端的なIT（情報技術）を駆使した情報バリアフリー、情報のユニバーサルデザインへの取り組みが展開されている。福祉情報機器を用いた様々な自立支援システムなど支援技術（Assistive Technology）の発達と普及も著しい。

社会全体が、ITと情報への依存を強めようとしている中で、介護・福祉分野も例外ではなく、今や、介護・福祉の立場からの主体的な取り組みが強く求められている。

この講義では、福祉情報化とは何か、何をすることなのかについて、福祉の立場からあきらかにするとともに、福祉における情報化とコンピュータ利用のあり方について、コンピュータ実習をはさみながら考えていくことにする。

## 到達目標 / Focus and Goal

- ・福祉・介護分野におけるIT化・情報化の実態と考え方を知る。
- ・福祉・介護に関する情報を利用するための基礎的な知識と方法を身につける。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enrolle in, but not required to

「情報リテラシー」を履修し、メール、Web閲覧、ワープロ操作など、基礎的なパソコン操作を的確に行えることが望ましい。

## 授業スケジュール / Schedule

| 授業日 (第N回) | テーマ / Theme     | キーワード / Key Word    |
|-----------|-----------------|---------------------|
| 第1回       | イントロダクション       | 福祉情報論がめざすもの         |
| 第2回       | インターネットと福祉情報(1) | 福祉の情報資源を使いこなす part1 |
| 第3回       | インターネットと福祉情報(2) | 福祉の情報資源を使いこなす part2 |
| 第4回       | 福祉と情報(1)        | なぜ、情報を提供するのか        |
| 第5回       | 福祉と情報(2)        | 福祉が変わる、情報が変わる       |
| 第6回       | 福祉情報をどう使うのか(1)  | 探す・評価する・選択する        |
| 第7回       | 福祉情報をどう使うのか(2)  | 福祉のための情報システムと情報機器   |
| 第8回       | 福祉情報をどう使うのか(3)  | 共有する・発信する・結びつける     |
| 第9回       | 福祉情報とは何か(1)     | 情報は便利なのか？           |
| 第10回      | 福祉情報とは何か(2)     | 福祉情報の体系と構造          |
| 第11回      | 福祉情報化とは(1)      | 誰のための情報化なのか         |
| 第12回      | 福祉情報化とは(2)      | 情報化とは何をすることなのか      |
| 第13回      | 福祉情報化の課題と展望(1)  | 様々な課題               |
| 第14回      | 福祉情報化の課題と展望(2)  | 新しい福祉への戦略           |
| 第15回      | 試験              |                     |

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

| 種別 / Kind | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc. |
|-----------|-----------------|-------------------------------|
| 定期試験      | 70 %            | 理解の程度を評価します。                  |
| 日常点       | 30 %            | 毎回出席をとります。                    |

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

## 教科書 / Textbooks

講義の要点は『社会福祉情報論へのアプローチ』（生田正幸著・ミネルヴァ書房）に記載されているので必要に応じて購入すること。（ISBN4-623-03054-7）

## 参考書 / Reference Books

## 参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

WAM NET (<http://www.wam.go.jp/>)、厚生労働省 (<http://www.mhlw.go.jp/>) など。その他、必要に応じて授業中に紹介する。

## その他 / Others

## 福祉政策論 S S 福祉政策論 SG

11979

担当者名 / Instructor 芝田 英昭

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Description

2005年度総選挙における各政党「マニフェスト」の福祉政策を基に、各政党別に班を構成(学生の希望を聞いては班を決定します)し、「福祉政策策定の背景」「福祉政策の内容」を検討することで、福祉政策策定のプロセスや政策立案スキルを学んでいきたい。また、講義の後半においては各班で「現代社会に適した福祉政策」を提案して頂きます。

## 到達目標 / Focus and Goal

福祉政策の分析、福祉政策立案能力の醸成。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

社会保障論。福祉行財政論。

## 授業スケジュール / Schedule

| 授業日(第N回) | テーマ / Theme                        | キーワード / Key Word         |
|----------|------------------------------------|--------------------------|
| 第1回目     | 福祉政策の概要                            | 社会福祉、マニフェスト、政党           |
| 第2回目     | 自民党2005年総選挙公約(マニフェスト)における福祉政策の紹介   | 社会保障の一体的改革、憲法改正          |
| 第3回目     | 公明党2005年総選挙公約(マニフェスト)における福祉政策の紹介   | 児童手当の拡充、バリアフリー、医療介護の予防重視 |
| 第4回目     | 民主党2005年総選挙公約(マニフェスト)における福祉政策の紹介   | 年金一元化、消費税の社会福祉目的税化       |
| 第5回目     | 日本共産党2005年総選挙公約(マニフェスト)における福祉政策の紹介 | 国家財政支出の見直し、大企業の大分の負担     |
| 第6回目     | 社会民主党2005年総選挙公約(マニフェスト)における福祉政策の紹介 | ニート、法人課税の強化、年金制度の一元化     |
| 第7回目     | 各政党別班編成、各班による政策分析(各班での討議)          | 学生の希望を聞いて班編制を行う          |
| 第8回目     | 各班による政策分析(各班での討議)                  | 討議、分析                    |
| 第9回目     | 各班による政策分析(各班での討議)                  | 討議、分析                    |
| 第10回目    | 各班による政党別政策分析発表                     | 思想と福祉政策の違い、プレゼンテーション能力   |
| 第11回目    | 各班による現代社会に適した福祉政策の策定(各班での討議)       | 福祉政策の現況分析、政策立案           |
| 第12回目    | 各班による現代社会に適した福祉政策の策定(各班での討議)       | 福祉政策の現況分析、政策立案           |
| 第13回目    | 各班による現代社会に適した福祉政策の発表               | 実現可能性                    |
| 第14回目    | 各班による現代社会に適した福祉政策の発表               | 実現可能性                    |

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

講義時間だけでは、充分には討議できないので、空き時間等を利用して班での討議をして下さい。

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

| 種別 / Kind | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc.    |
|-----------|-----------------|----------------------------------|
| 定期試験      | 58 %            | 出席点42点を引いた分を定期試験の配点58点とする。       |
| その他       | 42 %            | 毎回出席カードを配布、回収し出席点とする。3点×14回＝42点。 |

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

班での討議を重視しますので、議論ができるように事前学習を充分にしておいてください。

## 教科書 / Textbooks

教科書は使いませんが、資料をその都度提示します。

## 参考書 / Reference Books

| 書名 / Title       | 出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment |
|------------------|----------------------------------------------------------|
| 社会保障の基本原理と将来像    | 芝田 英昭 / 法律文化社 / 4-589-02724-0 /                          |
| 社会保障のダイナミクスと展望   | 芝田 英昭 / 法律文化社 / 4-589-02891-3 /                          |
| ニュージーランド福祉国家の再設計 | 芝田 英昭(翻訳) / 法律文化社 / 4-589-02786-0 /                      |

参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

自民党 <http://www.jimin.jp/>  
公明党 <http://www.komei.or.jp/>  
民主党 <http://www.dpj.or.jp/>  
日本共産党 <http://www.jcp.or.jp/>  
社会民主党 <http://www5.sdp.or.jp/>

その他 / Others



## 福祉調査・統計論 S

20120

担当者名 / Instructor 中根 成寿

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Description

本講義は、ソーシャルワーク、対人援助領域などの福祉領域を対象とした、調査・統計の実際を学ぶ。量的データの読み取り、ならびに質的データの分析方法や処理の方法についても具体的データをもとに論じる。量的調査は、方法論の充実や数字による説得力など社会調査の花形として、発展してきた一方で、質的調査は方法論や分析方法が「職人芸」としてブラックボックス化されてきた。本講義では質的調査の方法論や認識論を展開することで、量的調査が無条件に客観的ではないこと、質的調査の科学性について論じる。ソーシャルワークや対人援助領域でも、経験や職人技ではなく、エビデンス (Evidence) をもとに実践できる人材が求められている。方法を真摯に学ぶことのできる受講態度を望む。

## 到達目標 / Focus and Goal

量的調査に基づいてかかれた研究論文を読みこなすことができるレベル  
質的データの分析、結果を利用することができるレベル

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enrolle in, but not required to

本講義は、大半を質的調査分析の手法や認識論について費やす。量的調査に関しては、調査結果 (論文) の読み方を概説するだけにとどめるので、量的調査の方法を詳しく学びたい場合は、「社会調査情報処理」や「社会調査論」、「社会統計学」を履修すること。

## 授業スケジュール / Schedule

| 授業日 (第N回) | テーマ / Theme                               | キーワード / Key Word |
|-----------|-------------------------------------------|------------------|
|           | 1.オリエンテーション 本講義の位置づけ、内容紹介、評価方法について        |                  |
|           | 2.ソーシャルワークと科学的方法／調査研究用語の理解                |                  |
|           | 3.量的データの説得力と魅力、陥穽について                     |                  |
|           | 4.調査票の作り方                                 |                  |
|           | 5.クロス集計の仕方                                |                  |
|           | 6.多変量解析／重回帰分析／主成分分析などの量的調査の手法について         |                  |
|           | 7.中間テスト                                   |                  |
|           | 8.質的データ分析について                             |                  |
|           | 9.エスノメソドロジー／ライフストーリー                      |                  |
|           | 10.GTA (Grounded theory Approach) について(1) |                  |
|           | 11.GTA (Grounded theory Approach) について(2) |                  |
|           | 12.テキストマイニングについて (質的データを量化する一方法)          |                  |
|           | 13.フィールドワークすることについてのお話(1) 成功と失敗           |                  |
|           | 14.フィールドワークすることについてのお話(2) フィールドワーカーの寿命    |                  |

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment  
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

| 種別 / Kind | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc.            |
|-----------|-----------------|------------------------------------------|
| 定期試験      | 60 %            | 基本用語の確認、統計資料の読み取り、簡単な質的分析などを試験として予定している。 |
| 日常点       | 20 %            | 毎回コミュニケーションペーパーを回収する。その内容に評価を加える。        |
| その他       | 20 %            | 講義中に中間テストを実施する。                          |

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

## 教科書 / Textbooks

## 参考書 / Reference Books

| 書名 / Title             | 出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment        |
|------------------------|-----------------------------------------------------------------|
| 『ソーシャルワーカーのための社会福祉調査法』 | 平山尚・武田丈・呉裁喜・藤井美和・李政元 (共著) / ミネルヴァ書房 / 4-623-03831-9 / 基本用語などの確認 |
| 『社会学的フィールドワーク』         | 好井裕明・三浦耕吉郎編 / 世界思想社 / 4-7907-1043-2 / フィールドワークする自分を見る視点について     |

『グラウンデッド・セオリー・アプローチの実践-質的研究への誘い』

木下康仁／弘文堂／4-335-55089-8／グラウンデッドセオリーの基本の教科書

『建築デザイン・福祉心理のためのSPSSによる統計処理』

廬志和・石村貞夫著／東京図書／4-489-00707-8／SPSSによる統計処理の基本書として

『体験と経験のフィールドワーク』

宮内洋／北大路書房／4-7628-2476-3／フィールドワーカーとしての生き方の視点について

参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

その他 / Others

## 福祉臨床論 S

12471

担当者名 / Instructor 西村 清忠

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Description

複雑化する社会福祉の現状を、公的機関における相談内容から現場の実践をとおして考察する。  
福祉事務所における住民の抱えている福祉ニーズ把握と問題解決について、援助実践の過程や技術、臨床事例をもとに論じる。  
問題解決に向けて、関係機関との連携、社会資源の活用方法がどのように生かされているか、問題解決のプロセスから具体的事例をもとに論じる。

## 到達目標 / Focus and Goal

具体的事例にもとづいて、社会福祉の現状を把握する。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

特になし。

## 授業スケジュール / Schedule

| 授業日 (第N回) | テーマ / Theme          | キーワード / Key Word   |
|-----------|----------------------|--------------------|
| 第1回       | オリエンテーション            |                    |
| 第2回       | 公的扶助を中心に仕組と過程を理解する   | 生活保護法・社会福祉法        |
| 第3回       | 公的扶助における現在の貧困問題を考察する | 生活保護法・時事問題事例       |
| 第4回       | 公的扶助における現在の貧困問題を考える  | 生活保護法・時事事例問題       |
| 第5回       | 公的扶助における現在の貧困問題を考える  | 生活保護法・時事事例問題       |
| 第6回       | 高齢者福祉における事例から        | 施設福祉・地域福祉          |
| 第7回       | 高齢者福祉における事例から        | 地域福祉・介護保険制度        |
| 第8回       | 児童福祉における事例から         | 地域福祉・児童福祉法・民生児童委員  |
| 第9回       | 児童福祉における事例から         | 地域福祉・児童福祉法         |
| 第10回      | 障害者(児)福祉における事例から     | 障害者福祉法             |
| 第11回      | 障害者(児)福祉における事例から     | 知的障害者福祉法           |
| 第12回      | 障害者福祉における事例から        | 精神保健福祉法            |
| 第13回      | 児童福祉、母子世帯の事例から       | ジェンダー問題            |
| 第14回      | 児童福祉、母子世帯の事例から       | 公的扶助・児童福祉法・母子寡婦福祉法 |
| 第15回      | まとめ・補足               |                    |

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment  
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

特になし

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

| 種別 / Kind | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc. |
|-----------|-----------------|-------------------------------|
| 定期試験      | 40 %            | 筆記試験、持ち込み不可                   |
| レポート      | 20 %            | 未提出は減点対象                      |
| 日常点       | 40 %            |                               |

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

学習資料は、授業ごとに配布

## 教科書 / Textbooks

特に指定をしない

## 参考書 / Reference Books

授業の中で紹介する

## 参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

## その他 / Others

## 福祉労働論 S

12954

担当者名 / Instructor 石倉 康次

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Description

社会福祉領域の仕事には多様な分野がある。社会福祉施設、福祉事務所、児童相談所、医療機関、社会福祉協議会などの場所で、保育や養護を必要とする児童、障害をもった人、介護を要する高齢者、経済生活で困窮状態にある人、地域社会の一般住民などを対象に、相談・面談をし、生活や日課の活動の支援する一方、地域ネットワークづくりも行う。また事業の運営と経営に関わる業務もある。講義では、福祉労働の外見的なレベルから出発し共通の特徴や原則を探し当てる試みを行う。

## 到達目標 / Focus and Goal

福祉労働における合理性についての理解を深め、福祉労働発展の条件について客観的に捉える眼を獲得する。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

社会学、経済学関連の科目を軽視しないでほしい。

## 授業スケジュール / Schedule

| 授業日 (第N回) | テーマ / Theme                    | キーワード / Key Word |
|-----------|--------------------------------|------------------|
| 1         | 導入                             |                  |
| 2         | 社会のなかでの福祉的営みの意義を考える            | 社会、福祉            |
| 3         | 「福祉労働」とは何だろう                   | 三つの合理性           |
| 4         | 対象者のかかえる問題と発達の課題をとらえる科学的合理性    | 科学的合理性、社会科学      |
| 5         | 福祉労働の規範的合理性をめぐる (拘束廃止宣言)       | 規範的合理性           |
| 6         | 社会福祉における理念と現実のズレ               | 理念と現実            |
| 7         | 福祉労働におけるコミュニケーションの合理性 (養護施設から) | コミュニケーションの合理性    |
| 8         | 福祉労働における「理解」をめぐる (塀の中の少女達)     | 理解               |
| 9         | 社会学における社会的行為論と「合理性」論から         | ウェーバー            |
| 10        | 転換期における社会的行為の諸類型を考える           | 社会的行為の三類型        |
| 11        | 続・転換期における社会的行為の諸類型を考える         | 社会的行為の三類型        |
| 12        | 認知症による障害を持つ人のケアから学ぶ福祉労働の合理性    | 三つの合理性           |
| 13        | 社会福祉事業の経営と福祉労働者                | 経営、場             |
| 14        | 当事者・家族・市民の福祉力・民主的力量と福祉労働       | 地域民主主義           |
| 15        | 試験                             |                  |

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

テレビの福祉番組に注意してほしい。

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

| 種別 / Kind | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc. |
|-----------|-----------------|-------------------------------|
| 定期試験      | 80 %            | 講義内容の理解度合い                    |
| レポート      | 20 %            | 問題・課題の考察力                     |

講義でビデオをたくさん観るが、内容はきっと印象に残るはず。これを観るだけでも学習になるよ。

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

講義に出席して、毎回提示する小レポートにとりくめば、単位は取得できるはず。

## 教科書 / Textbooks

## 参考書 / Reference Books

| 書名 / Title      | 出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment |
|-----------------|----------------------------------------------------------|
| 『福祉のひろば』        | 総合社会福祉研究所／総合社会福祉研究所／／                                    |
| 『形成期の痴呆老人ケア』    | 石倉康次他／北大路書房／／                                            |
| 『転換期の社会福祉事業と経営』 | 石倉康次他／かもがわ出版／／                                           |
| 社会保障社会福祉大事典     | 事典刊行委員会／旬報社／／                                            |
| 私は誰になっていくの      | クリスティーン・ブライデン／クリエイツかもがわ／／                                |

テキストは使用せず、適宜配布する資料、ビデオ等をもとに講義を行う。

**参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course**

厚生労働省: <http://www.mhlw.go.jp/index.html> 呆け老人をかかえる家族の会: <http://www2f.biglobe.ne.jp/~boke/boke2.htm> 日本障害者センター: <http://shogaisha.jp/> 総合社会福祉研究所: <http://www.jfast1.net/~sosyaken/> 保育研究所: <http://www.hoiku-zenhoren.org/kenkai/index.html> 全国老人福祉問題研究会: <http://members3.jcom.home.ne.jp/0376228901/romonken/> 全国障害者問題研究会: <http://www.nginet.or.jp/> 全国児童養護問題研究会: <http://www.ne.jp/asahi/yomon/ken/>

**その他 / Others**

## 文化経済論 S S 経済学II S

13027

担当者名 / Instructor 金武 創

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Description

文化経済学の基礎的理解

これまで相反するものと思われがちであった、「文化」と「経済」の関係を捉えなおし、これからの企業やNPO、政府・地方自治体のあり方を考える。授業では、可能な限り、理論／実証研究の解説と関連話題（VTRや新聞）の提供という組み合わせで進めていきたい。以下のテーマを順番にすべてやるわけではないが、できるだけふれていきたいと思う。

## 到達目標 / Focus and Goal

文化経済学の基本問題や概念を幅広く理解できる。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

特にありません

## 授業スケジュール / Schedule

| 授業日 (第N回) | テーマ / Theme     | キーワード / Key Word     |
|-----------|-----------------|----------------------|
| 1         | 芸術作品とオークション     | オークション               |
| 2         | 芸術文化と市場         | 価格、需要と供給             |
| 3         | 文化的価値と経済的価値     | 支払い意思                |
| 4         | 芸術文化の消費         | 1980年代の消費文化          |
| 5         | 芸術文化の生産         | 高層建築とデザイン            |
| 6         | 芸術文化と情報         | 出版とブログ               |
| 7         | 文化資本の考え方        | 伝統文化と大衆文化、世界遺産登録運動   |
| 8         | 文化支援と文化政策       | まちづくり、地域文化           |
| 9         | 慈善活動のためのギャンブル   | サッカーくじ               |
| 10        | 競争と協働のネットワーク    | 温泉観光、情報の非対称問題        |
| 11        | 埋蔵文化財の文化経済学     | 文化遺産、町並み保存、世界遺産      |
| 12        | ブレイクするJ-POP     | 音楽CD、ミリオンセラー         |
| 13        | スポーツNPOの経済的利点   | 規模の経済と範囲の経済、障害者スポーツ  |
| 14        | 公共財としてのパブリックアート | Young British Artist |
| 15        | 試験              |                      |

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

授業の順番は変更するかもしれない。

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

| 種別 / Kind | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc. |
|-----------|-----------------|-------------------------------|
| 定期試験      | 100 %           |                               |

受講人数によって、定期試験でなく、レポートにすることもありうる。成績評価方法については授業中に指示するので注意してほしい。

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

## 教科書 / Textbooks

| 書名 / Title | 出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment |
|------------|----------------------------------------------------------|
| 文化経済論      | 金武創 阪本崇／ミネルヴァ書房／／                                        |

## 参考書 / Reference Books

## 参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

## その他 / Others

## 文化人類学 S S 人間文化特論I SA

15186

担当者名 / Instructor 橘 健一

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Description

「個」から「世界」へー文化人類学的アプローチ

こんにち私たちの暮らす社会では、何がよいことなのか分り難くなっているといわれる。また、同時に「私の肥大化」や「自分探し」などの言葉が溢れ、「個の過剰」や「意味の問題」が起きているといわれる。そうした問題の解決策として「個」や「私」よりも地域や共同体、国家や「伝統」を重視して生きるべきだという主張がおこなわれるが、それらはしばしば「自由」や「人権」を重視する主張と対立する。本講義では、文化人類学的な立場から、そのような「個の過剰」や「意味の問題」、「伝統」と「自由」の対立が起きる背景について考察し、それらの問題を乗り越えていくための道筋を探っていく。

## 到達目標 / Focus and Goal

意味と文化の関係について理解する。構造主義以降の文化人類学の理論的な展開を理解する。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

特になし。

## 授業スケジュール / Schedule

| 授業日 (第N回) | テーマ / Theme | キーワード / Key Word |
|-----------|-------------|------------------|
|           | 総括的導入講義     |                  |
|           | 講義のテーマと目的   | 意味の問題            |
|           | 文化人類学について   | 進化論、機能主義、構造主義    |
|           | 意味を考える      | 表現と内容、秩序         |
|           | 意味を与えるもの    | 神話               |
|           | 意味を与えるもの    | 儀礼               |
|           | 意味を与えるもの    | 身体加工             |
|           | 意味を与えるもの    | 交換               |
|           | 軽くなる意味      | 貨幣、市場、資本主義       |
|           | 軽くなる意味      | ファッション           |
|           | 軽くなる意味      | 市民革命、国民国家、教育     |
|           | 軽くなる意味      | 産業化社会            |
|           | 軽くなる意味      | 複製文化             |
|           | 新たな意味はどこに   | 文化相対主義           |
|           | まとめ         | 世界               |

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

参考文献を適宜紹介する。

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

| 種別 / Kind | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc. |
|-----------|-----------------|-------------------------------|
| 定期試験      | 100 %           | 講義内容に関する理解を問う                 |

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

具体的な事例を豊富に扱うが、議論そのものは抽象的なので、自ら考えることが重要になる。

## 教科書 / Textbooks

## 参考書 / Reference Books

| 書名 / Title  | 出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment |
|-------------|----------------------------------------------------------|
| 同時代世界の人類学   | マルク・オジェ／藤原書店／／                                           |
| レヴィ＝ストロース入門 | 小田亮／ちくま新書／／                                              |

## 参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

## その他 / Others

## 文化理論 S S 文化論II S

15133

担当者名 / Instructor 佐藤 嘉一

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Description

「文化を生きる」という観点から、代表的とおもわれる「文化理論」を紹介し整理して「生きること」と文化との関わりを「社会的」に明らかにします。

## 到達目標 / Focus and Goal

どのような関心に誘われて「文化」の問題に出会うのか。「生の形成」としての「文化」にまつわる興味深い問題を1.文学、2.文化人類学者、3.精神分析、4.文化社会学などの様々な切り口から「生活のなかの文化」を明らかにする。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

## 授業スケジュール / Schedule

| 授業日 (第N回) | テーマ / Theme                                                         | キーワード / Key Word                                           |
|-----------|---------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------|
| 第1回       | 文化の定義:文化についての見方・語り方①想像力としての文化②インタビューとしての文化③生活を見直す。                  | 大江健三郎、ルース・ベネデクト、ジャン・ポール・サルトル、想像力の問題                        |
| 第2回       | 文化の採集:民話はどこいきている・民話の採集の1事例バリ島の「闘鶏王のはなし」                             | 採集、地方(じかた)の知、日本の昔話、関敬吾、クリフォード・ギアーツ                         |
| 第3回       | 文化の解釈(1)文化を語る複数の視座、異文化・自文化のクロスロード                                   | 文化の観察・解釈、文化を観察する(研究者)、文化を生活する(生活者=行為者)、複眼の目、文化研究の4         |
| 第4回       | 文化の解釈(2) Saying something of something アリストテレス:闘鶏はバリ島人にとって1種の「詩学」   | ソシュール、見えるもの/見えないもの 意味するもの/意味されるもの 社会の力学と社会の意味論 文化の解        |
| 第5回       | 文化の機能(1)プロニスロー・マリノフスキー著『西太平洋の遠洋航海者たち』を読む                            | 孤立した事実、有機的全体という仮説、機能主義的人類学、クラ、クラの呪術、装置としての文化               |
| 第6回       | 文化の機能(2):マリノフスキーの文化理論が「機能主義」と呼ばれるわけ                                 | 民族学的事実としてのクラ、ムワリ(白い貝の腕輪)とソウラヴァ(赤い貝の首飾り)、ヴァイグワ交換の制度         |
| 第7回       | 文化の構造(1)レヴィ=ストロース『悲しき熱帯』を読む:顔面塗飾について「人間であるためには」                     | カデューボ族の女の絵画芸術、顔面・身体塗飾、ボロロ族のケジャラ村の平面図、ボロロ族の神話、構造主義          |
| 第8回       | 文化の構造(2)土井健郎『「甘え」の構造』を読む:文化人類学的「関心」から一異文化の「解釈」「機能」                  | 自明性の喪失、カルチャーショック、ベネデクトがよくわかる、「甘え」の発見、「ことば」の解釈を矢面に、         |
| 第9回       | 文化の構造(3):土井健郎『「甘え」の構造』を読む(つづき) 日本文化にどのようにむきあうのか、文化                  | 甘えの社会関係、間柄の「同心円」的パースペクティヴ、義理と人情、他人と遠慮、うちとそと、同一化と摂取         |
| 第10回      | 文化の構造(4):丸鬼周造『「いき」の構造』を読む「構造」とはなにか、土井と丸鬼の「構造」論の類似                   | 「いき」の構造、「いき」の意味的構造(内包と外延)、媚態・意気地・諦め、言語と民族、事象の世界と意味         |
| 第11回      | 文化の構造(5):翻訳という文化問題 大江健三郎の実験「ここに魂というものがあって」                          | 『取りかえっ子—チェンジリング』、外国語と日本語の比較対照                              |
| 第12回      | 文化の構造(6)土井健郎『漱石の心的世界』を読む 精神分析医が読解する漱石の「こころ」の構造を例に                   | 「恩に着る」「つまり世の中が悪いのだ」「なぜ嫉妬なさるんです」「世の仲にかたづくなんて殆どありゃしな         |
| 第13回      | 文化理論の基礎付け(1)文化と言語:文化の問題を「生の形式」としての言語から考える                           | 文化としての言語、生活、意識哲学、言語哲学、文化装置としての言語、非言語的行為、言語的行為、言語ゲーム、「文法規則」 |
| 第14回      | 文化理論の基礎付け(2)これまで論じてきた文化の「定義」、「採集」、「観察」、「解釈」、「機能」、「構造」等の基礎概念や理論のおさらい | ヴィトゲンシュタイン、シュッツ、言語、行為、意味、生の形式、生の内容、各私的体験、間主観的経験            |

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

「文化」理解には、映画や絵画や音楽などに親しむことも大事ですし、とりわけ文学作品に親しむことも大事です。本講義ではたとえば大江健三郎や夏目漱石、ドストエフスキーなどを読むことを薦めます。

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

| 種別 / Kind | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc.                              |
|-----------|-----------------|------------------------------------------------------------|
| 定期試験      | 80 %            | 文化研究の理論と方法、基礎概念などの学習到達度をテストします                             |
| レポート      | 20 %            | 講義で学んだテーマを具体的事例にどのように応用し、また学問的な方法によって適切に言い表すことができるかをテストします |

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

教室で指示します

## 教科書 / Textbooks



用いない

**参考書 / Reference Books**

以下の文献を読むことを薦めます。土居健郎『「甘え」の構造』ルース・ベネデクト『菊と刀』マリノフスキー『西太平洋の遠洋航海者』レヴィ＝ストロース『悲しき熱帯』現象学に関する入門書、ソシュールに関する入門書

**参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course**

**その他 / Others**

## 文章表現技法 SA

10379

担当者名 / Instructor 乾 亨

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Description

小学校から高校までの作文教育では、社会で役立つ実践的な文章は書けない。社会で求められるのは、自分の日常生活や感情を表現する文章ではなく、事実を報告したり意見を述べたり他人を説得したりする文章だからである。そのような文章は、いずれも論理的な構造をもっていて、一定の手順のもとに作られるものである。

この授業では、大学での学習・研究に必要な不可欠なレポート・論文の作成に必要な知識と技術を解説し、理論的な文章作成法を身に付けることを目指す。

## 到達目標 / Focus and Goal

「内容把握力」、「文章構成力」、「文章表現力」、「文章作成力」、を総合的に高め、日本語文章能力検定2級程度の力を付けることを目標とする。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

## 授業スケジュール / Schedule

| 授業日 (第N回) | テーマ / Theme            | キーワード / Key Word |
|-----------|------------------------|------------------|
| 第1回       | 講義の意義と目標               |                  |
| 第2回       | 文章の部分が持つ役割をとらえる        | 事実を客観的に述べる       |
| 第3回       | 文章の部分の役割と全体の関係を認識する    | 文の役割の意味          |
| 第4回       | 文章の部分の役割と全体の関係を認識する    | 段落の役割の意味         |
| 第5回       | 文章の部分の役割と全体の関係を認識する    | 要旨と文章展開の関係       |
| 第6回       | わかりやすい文章を書く            | 執筆、推敲のための基礎知識    |
| 第7回       | 材料を集めるための技法を見に付ける      | ブレイン・ストーミング      |
| 第8回       | 材料集めから主題を見つける          |                  |
| 第9回       | 主題を分析して材料を集める          |                  |
| 第10回      | レポート・小論文の型を知る          |                  |
| 第11回      | 意見文・論説文の型を知る           |                  |
| 第12回      | 書簡文・通信文についての基本を身につける   |                  |
| 第13回      | 文章能力達成度評価テスト実施         |                  |
| 第14回      | 文章能力達成度テストの解説、授業全体のまとめ |                  |

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

| 種別 / Kind | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc.           |
|-----------|-----------------|-----------------------------------------|
| 日常点       | 100 %           | 出席点 (30%)、課題提出 (30%)、文章能力達成度評価テスト (40%) |

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

## 教科書 / Textbooks

| 書名 / Title            | 出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment |
|-----------------------|----------------------------------------------------------|
| 産業社会学部で学ぶ (産社ハンドブック)  | ///                                                      |
| 文章表現ワークシート (受講生全員に配布) | ///                                                      |

## 参考書 / Reference Books

| 書名 / Title         | 出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment |
|--------------------|----------------------------------------------------------|
| 「日本語文章能力検定2級徹底解明」  | 日本語文章能力検定協会 // ISBN4-87116-053-X /                       |
| 「日本語文章能力検定準2級徹底解明」 | 日本語文章能力検定協会 // ISBN4-87116-054-8 /                       |

## 参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

文章能力検定協会ホームページ <http://www.kentei.co.jp/bunken/index.html>

## その他 / Others

前期定期試験期間中に「文章能力プレテスト」を実施予定。1回生は全員受験すること。

## 文章表現技法 SB

10380

担当者名 / Instructor 乾 亨

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Description

小学校から高校までの作文教育では、社会で役立つ実践的な文章は書けない。社会で求められるのは、自分の日常生活や感情を表現する文章ではなく、事実を報告したり意見を述べたり他人を説得したりする文章だからである。そのような文章は、いずれも論理的な構造をもっていて、一定の手順のもとに作られるものである。

この授業では、大学での学習・研究に必要な不可欠なレポート・論文の作成に必要な知識と技術を解説し、理論的な文章作成法を身に付けることを目指す。

## 到達目標 / Focus and Goal

「内容把握力」、「文章構成力」、「文章表現力」、「文章作成力」、を総合的に高め、日本語文章能力検定2級程度の力を付けることを目標とする。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enrolle in, but not required to

## 授業スケジュール / Schedule

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

## 教科書 / Textbooks

書名 / Title

出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment

産業社会学部で学ぶ (産社ハンドブック)

///

## 参考書 / Reference Books

## 参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

文章能力検定協会ホームページ <http://www.kentei.co.jp/bunken/index.html>

## その他 / Others

## 文章表現技法 SC

10381

担当者名 / Instructor 乾 亨

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Description

小学校から高校までの作文教育では、社会で役立つ実践的な文章は書けない。社会で求められるのは、自分の日常生活や感情を表現する文章ではなく、事実を報告したり意見を述べたり他人を説得したりする文章だからである。そのような文章は、いずれも論理的な構造をもっていて、一定の手順のもとに作られるものである。

この授業では、大学での学習・研究に必要な不可欠なレポート・論文の作成に必要な知識と技術を解説し、理論的な文章作成法を身に付けることを目指す。

## 到達目標 / Focus and Goal

「内容把握力」、「文章構成力」、「文章表現力」、「文章作成力」、を総合的に高め、日本語文章能力検定2級程度の力を付けることを目標とする。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enrolle in, but not required to

## 授業スケジュール / Schedule

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

## 教科書 / Textbooks

書名 / Title

出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment

産業社会学部で学ぶ(産社ハンドブック)

///

## 参考書 / Reference Books

## 参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

文章能力検定協会ホームページ <http://www.kentei.co.jp/bunken/index.html>

## その他 / Others

## 文章表現技法 SD

10534

担当者名 / Instructor 文 楚雄

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Description

小学校から高校までの作文教育では、社会で役立つ実践的な文章は書けない。社会で求められるのは、自分の日常生活や感情を表現する文章ではなく、事実を報告したり意見を述べたり他人を説得したりする文章だからである。そのような文章は、いずれも論理的な構造をもっていて、一定の手順のもとに作られるものである。

この授業では、大学での学習・研究に必要な不可欠なレポート・論文の作成に必要な知識と技術を解説し、理論的な文章作成法を身に付けることを目指す。

## 到達目標 / Focus and Goal

「内容把握力」、「文章構成力」、「文章表現力」、「文章作成力」、を総合的に高め、日本語文章能力検定2級程度の力を付けることを目標とする。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enrolle in, but not required to

## 授業スケジュール / Schedule

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

## 教科書 / Textbooks

書名 / Title

出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment

産業社会学部で学ぶ (産社ハンドブック)

///

## 参考書 / Reference Books

## 参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

文章能力検定協会ホームページ <http://www.kentei.co.jp/bunken/index.html>

## その他 / Others

## 文章表現技法 SE

10535

担当者名 / Instructor 文 楚雄

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Description

小学校から高校までの作文教育では、社会で役立つ実践的な文章は書けない。社会で求められるのは、自分の日常生活や感情を表現する文章ではなく、事実を報告したり意見を述べたり他人を説得したりする文章だからである。そのような文章は、いずれも論理的な構造をもっていて、一定の手順のもとに作られるものである。

この授業では、大学での学習・研究に必要な不可欠なレポート・論文の作成に必要な知識と技術を解説し、理論的な文章作成法を身に付けることを目指す。

## 到達目標 / Focus and Goal

「内容把握力」、「文章構成力」、「文章表現力」、「文章作成力」、を総合的に高め、日本語文章能力検定2級程度の力を付けることを目標とする。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enrolle in, but not required to

## 授業スケジュール / Schedule

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

## 教科書 / Textbooks

書名 / Title

出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment

産業社会学部で学ぶ (産社ハンドブック)

///

## 参考書 / Reference Books

## 参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

文章能力検定協会ホームページ <http://www.kentei.co.jp/bunken/index.html>

## その他 / Others

## 文章表現技法 SF

10536

担当者名 / Instructor 文 楚雄

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Description

小学校から高校までの作文教育では、社会で役立つ実践的な文章は書けない。社会で求められるのは、自分の日常生活や感情を表現する文章ではなく、事実を報告したり意見を述べたり他人を説得したりする文章だからである。そのような文章は、いずれも論理的な構造をもっていて、一定の手順のもとに作られるものである。

この授業では、大学での学習・研究に必要な不可欠なレポート・論文の作成に必要な知識と技術を解説し、理論的な文章作成法を身に付けることを目指す。

## 到達目標 / Focus and Goal

「内容把握力」、「文章構成力」、「文章表現力」、「文章作成力」、を総合的に高め、日本語文章能力検定2級程度の力を付けることを目標とする。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

## 授業スケジュール / Schedule

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

## 教科書 / Textbooks

書名 / Title

出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment

産業社会学部で学ぶ (産社ハンドブック)

///

## 参考書 / Reference Books

## 参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

文章能力検定協会ホームページ <http://www.kentei.co.jp/bunken/index.html>

## その他 / Others

## 放送メディア論 S S 電波メディア論 S S 電波メディア論 G

13001

担当者名 / Instructor 奥村 信幸

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Description

テレビ放送が開始されてこの半世紀余りの、ラジオ・テレビ、発展型としてのインターネットの社会的な位置付けの変化や、それに伴って生じた問題点に理解を深める。番組の制作・取材の現場の実際を踏まえて、映像や音声などが重層的に構成されるメッセージのインパクトを分析する。さらにマルチメディア化が進み情報が氾濫する現代で生じている「表現の自由」の危機や、如何に精度の高い情報を得るかという問題なども議論したい。

## 到達目標 / Focus and Goal

特にテレビ情報の社会的影響について時に無頓着で、時に意図的に「利用」する制作者らの「隠れた意図」を発見できる「洞察力」を養う訓練をしたい。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

## 授業スケジュール / Schedule

| 授業日 (第N回) | テーマ / Theme                              | キーワード / Key Word        |
|-----------|------------------------------------------|-------------------------|
| 第1回       | 「導入：テレビ・ラジオのことば」                         | 差別用語・放送禁止用語             |
| 第2回       | 「表現の自由とテレビ・ラジオのジャーナリズム (1)」              | 米憲法修正第1条 日本国憲法第21条 知る権利 |
| 第3回       | 「表現の自由とテレビ・ラジオのジャーナリズム (2)」              | ジャーナリズム 編集権             |
| 第4回       | 「民放とNHK (1)」                             | コマーシャル 受信料              |
| 第5回       | 「民放とNHK (2)」                             | 公共放送 BBC                |
| 第6回       | 「番組ができるまで (1) 番組を企画する」                   | 編成 視聴率戦争                |
| 第7回       | 「番組ができるまで (2) 制作と取材の実際」                  | 商業主義 著作権                |
| 第8回       | 「テレビ報道の問題 (1) 政治とテレビ」 (ゲストスピーカー予定)       | テレポリティクス 記者クラブ          |
| 第9回       | 「テレビ報道の問題 (2) ニュースショーの功罪」                | メディア・スクラム               |
| 第10回      | 「テレビ報道の問題 (3) 世界で起きていること」                | イラク戦争 CNN効果             |
| 第11回      | 「放送をチェックする仕組み」                           | 国境なき記者団 BRC             |
| 第12回      | 「放送は今も夢を与えられるか？世相を映しているか？」               | ドラマ バラエティ               |
| 第13回      | 「デジタル化の功罪 (1) 地上波デジタル時代を前に」              | BS 薄型テレビ                |
| 第14回      | 「デジタル化の功罪 (2) ブロードバンドと『表現の自由の未来』とまとめの議論」 | インターネット セキュリティ          |
| 第15回      | クラス内テスト (記述式)                            |                         |

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

リーディング・アサインメントに基づいて、ディスカッション・グループを編成し、討論の結果を発表してもらいます。

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

| 種別 / Kind | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc.     |
|-----------|-----------------|-----------------------------------|
| 定期試験      | 50 %            | 放送に関する諸問題について実例に基づいた議論が展開できるかを問う。 |
| レポート      | 30 %            | 実例を分析、論評する課題をクラス内で発表する。           |
| 日常点       | 20 %            | 小グループによる討論とクラスでの発表、個人レポートの提出を課す。  |
| その他       | 0 %             | 意味のある質問やコメントは積極的に評価する。            |

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

- ・新聞を最低1紙は購読すること。クラス内ニュースの議論をするため前提となる事実関係は知っておくように。
- ・定期的に視聴しているテレビやラジオの番組を持ち、自分の興味はどこにあるか説明ができるように。

## 教科書 / Textbooks

- ・クラス開始時に「リーディング・アサインメント (宿題)」として指示する。

## 参考書 / Reference Books

- ・クラス開始時に指示する。

## 参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

## その他 / Others



## ボランティア入門 S

15212

担当者名 / Instructor 桂 良太郎

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Description

ボランティア活動、NPO活動に関連したコンセプト(概念)をわかりやすく解説しながら、こうした活動がいかにこれからの国際交流や国際協働において重要であるかについてさまざまな実践的事例を紹介しながら、学としての「ボランティア学」の再構築をめざしたい。NPO学会やボランティア学会の研究成果をまじえながら、実践科学としてのボランティア活動の現状と課題について考察を深めたい。

## 到達目標 / Focus and Goal

さまざまなボランティア活動にまつわる主要コンセプトを理解することが本講座の主要な目標であるが、机の勉強だけでなく、じっさいにさまざまなボランティア活動に関わることによって、経験したなかから、ボランティアとは何かを考えることが大切である。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enrolle in, but not required to

できるだけ、社会学的なものの見方や考え方をしっかりおさえておくことの講義が非常にわかりやすくなる。また普段から新聞記事をおおく読みこなし、ボランティア活動に関する情報収集を行っておくことによって、はばひろいボランティア論が展開できる。

## 授業スケジュール / Schedule

| 授業日(第N回) | テーマ / Theme                           | キーワード / Key Word                                   |
|----------|---------------------------------------|----------------------------------------------------|
| 第1回目     | オリエンテーションー講義のすすめかた、目標等についてー           | ボランティア                                             |
| 第2回目     | ボランティアとはそもそも何ぞや！                      | ボランティア、市民、市民活動、市民社会、NPO、NGO                        |
| 第3回目     | ボランティア・市民活動の歴史                        | 社会福祉、環境、国際、人権、青少年                                  |
| 第4回目     | ボランティア活動・市民活動の鍵概念                     | 共生、自治・分権・参加、持続可能性(サステナビリティ)、協働、多元主義と補完性の原則、ボランティアリ |
| 第5回目     | 市民活動の法制度                              | 公益法人制度、NPO支援税制                                     |
| 第6回目     | ボランティア活動の経営と運営、個人支援・運動展開・組織運営の方法(その1) | エンパワメント、市民参加・参画、ボランティアグループの運営                      |
| 第7回目     | ボランティア活動の経営と運営、個人支援・運動展開・組織運営の方法(その2) | NPOの組織経営、ボランティアマネージメント、コミュニティ・ディベロップメント            |
| 第8回目     | ボランティア・NPOの支援システム(その1)                | インターメディアリー、ボランティアコーディネーター、助成財団                     |
| 第9回目     | ボランティア・NPOの支援システム(その2)                | 市民活動の評価、企業の社会的貢献活動、行政の市民活動振興政策、情報支援                |
| 第10回目    | ボランティア・NPOの担い手                        | 児童・生徒、青年・学生、高齢者、女性、勤労者、セルフヘルプ                      |
| 第11回目    | ボランティア活動の分野、対象、領域ーボランティア・NPOの領域(その1)  | 社会福祉、医療・保健、環境                                      |
| 第12回目    | ボランティア活動の分野、対象、領域ーボランティア・NPOの領域(その2)  | 国際、人権、まちづくり                                        |
| 第13回目    | ボランティア活動の分野、対象、領域ーボランティア・NPOの領域(その3)  | 教育、文化、スポーツ・レクリエーション、災害                             |
| 第14回目    | 諸外国の状況について                            | 諸外国の状況                                             |
| 第15回目    | まとめ                                   | 総括                                                 |

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

講義だけでなく、実際にさまざまなボランティア活動にかかわり、積極的にリサーチしたことがらなどをレポートにしてほしい。実際に体をうごかしながら、ボランティア活動とはなにかを学ぶ姿勢をのぞみたい。

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

| 種別 / Kind | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc.                                     |
|-----------|-----------------|-------------------------------------------------------------------|
| レポート      | 20 %            | 実際にボランティア活動にかかわったり、講義から関心をもったテーマを調べたりしたことをレポートにして提出すること。新聞切抜きも評価。 |
| 日常点       | 20 %            | 毎回の講義のまとめをしっかりとノートにまとめておくように、最後にノートの提出あり。                         |
| その他       | 60 %            | 6割以上の出席が原則。                                                       |

第13回目あたりにノートの提出をしてもらいます。毎回の講義をどれだけ要領よくまとめたかを知るためである。(大学ノートB5版かルーズリーフ等は表紙をつけて提出すること)

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

テキスト、講義専用のノート(B5版大学ノート)、そしてファイル(講義中に配布した資料等をファイルするため)は毎回必ず講義時に持参すること。

と。

**教科書 / Textbooks****書名 / Title****出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment**

ボランティア・NPO用語事典

大阪ボランティア協会、岡本栄一他／中央法規／ISBN4-8058-2427-1／

**参考書 / Reference Books**

参考文献は講義のなかで紹介する。

**参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course****その他 / Others**

## メディア技術史 S S 情報技術論 S

15070

担当者名 / Instructor 宮下 晋吉

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Description

ケータイ・携帯電話やデジタルハイビジョン放送などメディアの技術進歩は日進月歩である。本講は、マクルーハンなどのメディア論をふまえ、中世のグーテンベルクの活版印刷術の発明から、今日のインターネット、ケータイ、ヨビキタスまで、メディア技術がどのように発展してきたのかを具体的に明らかにする。

## 到達目標 / Focus and Goal

次の3点をめざす。

第一に、メディア技術史全体の流れの理解

第二に、歴史に登場した各メディア技術の社会的意味を検討、考察すること

第三に、写真、映画、テレビ等の映像メディア技術をはじめ歴史的に最も重要なメディア技術の原理の基礎の理解

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

「現代とメディア」は履修していることが望ましい。

## 授業スケジュール / Schedule

| 授業日 (第N回) | テーマ / Theme       | キーワード / Key Word                 |
|-----------|-------------------|----------------------------------|
|           | メディア・技術・社会        | ケータイをめぐって、メディアとは、メディア技術史とは       |
|           | グーテンベルクの銀河系 (その1) | 「42行聖書」、M. マクルーハン、マクルーハンのメディア論   |
|           | グーテンベルクの銀河系 (その2) | J. グーテンベルク、紙とインク、ブックの誕生、活版印刷術の発明 |
|           | 電子メディアの誕生         | テレコミュニケーション技術としての電信と電話           |
|           | 電子とは、電波とは？        | エーテルのさざ波？                        |
|           | 写真と映画の発明          | 映像メディアテクノロジーの誕生                  |
|           | エジソンと音の複製         | フォノグラフからグラモフォンへ                  |
|           | テレビの発明            | 「最後の国民化メディア」はどこへ？                |
|           | コンピュータの誕生         | コンピュータの起源、ノイマン型コンピュータ            |
|           | シリコンバレーの一粒の麦      | 電子部品の発達、トランジスタからIC、マイクロプロセッサへ    |
|           | インターネットヒストリー      | パソコンの発明とインターネット                  |
|           | ヨビキタスとヨビキタス社会     | コンピュータとメディアの未来を考える               |
|           | マクルーハン再論          | メディア技術史の時代区分、メディアのライフサイクル？       |

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

授業中に指示する参考文献を学習することが望まれる。

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

| 種別 / Kind | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc.         |
|-----------|-----------------|---------------------------------------|
| 定期試験      | 80 %            |                                       |
| 日常点       | 20 %            | 授業中に実施するミニレポートやコミュニケーションペーパーなどから評価する。 |

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

理論的ベースに関わるテキストのエッセンス、必要最小限の部分は、講義資料として配付するのでそれをよく読むこと、また各メディア技術の原理の基礎に関しては、授業中にできるだけいねいに解説することを心がけるが、不明の点があればその次の回の授業のときに質問すること。

## 教科書 / Textbooks

| 書名 / Title               | 出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment |
|--------------------------|----------------------------------------------------------|
| メディア論 人間の拡張の諸相           | M. マクルーハン／みすず書房／ISBN4-622-01897-7／                       |
| グーテンベルクの銀河系 活字人間の形成      | M. マクルーハン／みすず書房／ISBN-4-622-01896-9／                      |
| 複製技術時代の芸術                | W. ベンヤミン／晶文社／ISBN4-7949-1266-8／                          |
| 20世紀のメディア①エレクトリックメディアの近代 | 水越伸典／ジャストシステム／ISBN4-88309-081-7／                         |

毎回それに添って授業を進めるという意味でのテキストではないが、授業の理論的ベースに関わるテキストとして

## 参考書 / Reference Books

| 書名 / Title | 出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment |
|------------|----------------------------------------------------------|
|------------|----------------------------------------------------------|

|                        |                                        |
|------------------------|----------------------------------------|
| 新版電気の技術史               | 山崎俊雄、木本忠昭／オーム社／ISBN4-274-12914-4／      |
| 目で見えるデジタル計算の道具史        | キトウェル、セルージ／ジャストシステム／ISBN4-88309-096-5／ |
| グーテンベルク聖書の行方           | 富田修二／図書出版社／ISBN4-8099-0504-7-C0090／    |
| 起業家エジソン 知的財産・システム・市場開発 | 名和小太郎／朝日新聞社／ISBN4-02-259771-2／         |
| 電子立国日本の自叙伝             | 相田洋／NHK出版／ISBN4-14-084007-2他／          |

**参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course**

映画 (キネマトグラフ) や蓄音機 (フォノグラフ) の発明者エジソンについて : <http://edison.rutgers.edu/papers.htm>

**その他 / Others**

## メディア社会論 S S 情報産業論II S

12955

担当者名 / Instructor 筒井 淳也

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Description

「情報化」とはそもそも何なのでしょう？ この言葉が盛んに使われるようになったのは、電子ネットワークが登場する時期になってからです。しかし、インターネットが登場するはるか以前から、情報化は徐々に進展し、人々の生活と社会の全体的な構造を大きく変えてきたのです。印刷技術、マスメディア、インターネットは、それぞれ根底的に社会の構造を変える働きを持ってきました。

このような時代時代のメディアのかたちを、一貫した視点からしっかりとみつめるために、まずはメディアの社会理論を学びます。社会学と社会心理学、そして経済学は、メディアについての洞察力を身につけるための様々な道具を用意してくれています。その枠組みを利用して、様々なメディアと社会との関係を「読み解いて」いくのが授業の目標です。

また、授業は、毎回一つの「疑問」を最初にテーマとして提示し、それに答えるかたちで進めていきます。こうすることで、みなさんがどこに問題意識を持ってほしいのかをはっきりさせることができると考えます。

## 到達目標 / Focus and Goal

- ・メディアと情報化に関する様々な現象を考える際に使える、一貫した視点を身につけることができます。
- ・マス・メディア（新聞や放送）について考える際の基本的な思考枠組みを身につけることができます。
- ・インターネットの特性についての基本的な知識を身につけることができます。
- ・インターネットが社会をどのように変えていくのか、についての見方を学ぶことができます。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

## 授業スケジュール / Schedule

| 授業日 (第N回) | テーマ / Theme                                                    | キーワード / Key Word |
|-----------|----------------------------------------------------------------|------------------|
| 第1回       | メディアの社会理論：「コミュニケーションが成立する」ために何が必要か？                            | 社会理論、相互行為        |
| 第2回       | メディアと社会理論 (1)：メディアについて学ぶ前に、「社会の仕組み」について短く学ぶ                    | 社会理論、相互行為        |
| 第3回       | メディアと社会理論 (2)：産業化にはメディアが必要だった --- 社会の中のメディアの働き                 | 取引コスト、情報管理       |
| 第4回       | マスメディアが変える社会：印刷技術が歴史を変えた --- 印刷された聖書が促進した宗教改革                  | 印刷技術             |
| 第5回       | 通信メディア黎明期：慣れないメディアにとまどう人々 --- メディアが変えるコミュニケーションの「文法」           | メディアの文法          |
| 第6回       | 産業としてのマス・メディア：増大するマス・メディアの役割と影響力 --- 「メディアは中立なのか？」という問いの意味を考える | 出版、印刷            |
| 第7回       | メディアの制度分析：「市民」は「メディア消費者」となる --- メディア産業の独占構造                    | メディア産業           |
| 第8回       | マルチ・メディアの隘路：普及しなかったマルチ・メディア ~ 「キャプテン・システム」「Lモード」にみる失敗メディア事例    | マルチ・メディア         |
| 第9回       | マスメディアとインターネット：「インターネットは旧来のマスメディアを駆逐する」は本当か？                   | インターネットと情報改革     |
| 第10回      | 公共性とインターネット：インターネットはほんとうに「公共空間」なのか？ インターネットの上の多様な相互行為形式        | 公共性              |
| 第11回      | メディアと社会変容：インターネットを通じて、メディアをめぐる生産者と消費者の力関係が変わっている               | 情報化とコスト構造        |
| 第12回      | インターネット社会：結局のところ、インターネットは何を変えて、何を変えていないのか？                     | 信頼・権威・中抜き        |
| 第13回      | パーソナル・メディアの復権：携帯電話にみるメディアの個人化 ~ 携帯電話世代のコミュニケーション文法 ~           | 携帯電話             |
| 第14回      | ディスカッションと総括：決められたテーマをもとに、スモールグループディスカッションを行う                   | ディスカッション         |
| 第15回      | 定期試験                                                           |                  |

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

授業外での補足学習（追加参考文献の紹介）、フィードバック、質問、連絡などを、ブログ(Weblogシステム)を利用して行います。受講生は定期的にブログにアクセスすることを勧めます。

**成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation**

| 種別 / Kind | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc.                         |
|-----------|-----------------|-------------------------------------------------------|
| 定期試験      | 70 %            | 論述問題 (4～5問程度) に論理的に明確に答えているかどうかを評価します。                |
| レポート      | 20 %            | 授業期間中に一回だけレポート課題を提示します。                               |
| 日常点       | 10 %            | ランダムに2, 3回、質問の時間を設けます。授業に貢献できる質問をしてくれた受講生には、日常点を与えます。 |

**受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research**

この講義は知識より視点を身につけることを求められます。受講に当たって予備知識は必要ではありませんが、講義で学んだことをほんとうに理解するためには、自分で「枠組みを事例に当てはめて解釈する」という作業が必要です。事例を思いつくために、普段からメディアにふれてアンテナをのばしておくのがよいでしょう。

**教科書 / Textbooks**

市販の教科書は使用しません。教官によるオリジナルテキストを準備します。

**参考書 / Reference Books**

| 書名 / Title                       | 出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment |
|----------------------------------|----------------------------------------------------------|
| 『印刷革命』                           | E.アイゼンシュタイン／みすず書房／ (ISBN: 4622018993) ／                  |
| 『古いメディアが新しかった時：19世紀末社会と電気テクノロジー』 | C.マーヴィン／新曜社／ (ISBN: 4788508680) ／                        |
| 『電話するアメリカ：テレフォンネットワークの社会史』       | C.フィッシャー／NTT出版／ (ISBN: 4757140185) ／                     |
| 『マス・コミュニケーション (リーディングス日本の社会学)』   | 竹内郁郎他編／東京大学出版会／ (ISBN: 4130550705) ／                     |
| 『CODE: インターネットの合法・違法・プライバシー』     | L.レッシング／翔泳社／ (ISBN: 4881359932) ／                        |

**参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course**

教官のウェブサイト (URLは後日連絡する) に、毎回の授業のポイントおよび講義資料 (オリジナルテキスト) を載せます。

**その他 / Others**

## メディア制作I SA S メディア制作研究I SA

13073

担当者名 / Instructor 奥村 信幸

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Description

- ・テレビにおけるジャーナリズムの基本理念と問題点を理解する。
- ・ニュースの制作過程を実際に体験し、ニュースの分析力を高めることを目標とする。  
(1～2分程度のニュース・ストーリーを作る実習をしてもらいます)
- ーテーマの「公共性」とは何か。
- ーつとめて「客観的」な構成や表現手法とは何か。

## 到達目標 / Focus and Goal

履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enrolle in, but not required to

## 授業スケジュール / Schedule

| 授業日 (第N回) | テーマ / Theme                       | キーワード / Key Word |
|-----------|-----------------------------------|------------------|
| 第1回       | 導入とクラスの目的について。                    |                  |
| 第2回       | 映像が持つ意味・ことばとのコンビネーション             |                  |
| 第3回       | ニュースのサブスタンスとは                     |                  |
| 第4回       | テーマを選ぶ・公共性、客観性とは                  |                  |
| 第5回       | 映像の基本 (1) 撮影技術の初歩                 |                  |
| 第6回       | 映像の基本 (2) 効果的な撮影の技術               |                  |
| 第7回       | 映像の基本 (3) 編集と映像効果                 |                  |
| 第8回       | 構成・演出・理解してもらう工夫 (1) 事例研究をもとに      |                  |
| 第9回       | 構成・演出・理解してもらう工夫 (2) 事例研究をもとに      |                  |
| 第10回      | 実習 (1) テーマを選ぶ・リサーチをする / インタビューの基本 |                  |
| 第11回      | 実習 (2) 構成を固める・取材の準備 / インタビューの基本   |                  |
| 第12回      | 実習 (3) 中間発表                       |                  |
| 第13回      | 実習 (4) 発表と討論                      |                  |
| 第14回      | 実習 (5) 発表と討論                      |                  |
| 第15回      | (6) 発表と討論 まとめの議論: 映像の見方が変わりましたか?  |                  |

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

編集ソフトの基本的な操作については、TAによる課外講習を行い習得をしてもらう予定。

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

| 種別 / Kind | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc. |
|-----------|-----------------|-------------------------------|
| レポート      | 40 %            | テーマはクラス内で発表する。                |
| 日常点       | 60 %            | 実習 (写真、作文、映像)、クラス内討論での発言に基づく。 |

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

- ・カメラ、ビデオカメラ、編集ソフトの操作に慣れておくことが望ましい。
- ・ニュースの内容はディスカッションのネタにするので、新聞を読み、ニュースをきちんと見ておくように。

## 教科書 / Textbooks

- ・授業開始時にリーディング・アサインメントとして指示する。

## 参考書 / Reference Books

- ・授業開始時に指定する。

## 参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

## その他 / Others

## メディア制作I SB

13101

担当者名 / Instructor 神保 哲生

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Description

ビデオジャーナリズム・ワークショップ1。

ビデオジャーナリズムの実技を、実際にカメラとパソコン編集機を使って学びます。

受講生はビデオジャーナリズムの基本理論とビデオの操作を学んだ後、実際にビデオを持って取材に出ます。そして、取材で撮影した映像を編集し、レポートを制作します。

基本的にはその繰り返しになりますが、毎回少しずつ難易度の高いテーマにチャレンジすることになります。

基本的には授業以外の時間帯に事務室より機材を借り出し、課題となる取材や編集を行い提出します。授業ではその成果を受講生とともに論評し、次の課題に活かしていくことになります。

注意点は以下の通り。

- 1) 前期後期を通じた通年での履修に限定されます。(後期のみの履修、前期のみの履修は基本的にはできません)
- 2) 授業と授業の間に取材、撮影、編集などの課題が出ます。
- 3) 貸し出せる機材に限りがあるため、履修者数に制限があります。
- 4) 専門特殊講義SA(ビデオジャーナリズム論)を履修していることが望ましい。

## 到達目標 / Focus and Goal

ビデオを使った表現方法を実地で学ぶことで、ビデオ表現のノウハウを習得すると同時に、映像メディアに対するリテラシーを育てる。

また、報道の面白さ、難しさを学ぶ。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

専門特殊講義SA(ビデオジャーナリズム論)

ワークショップは実技が中心となるため、専門特殊講義SAでビデオジャーナリズムの理論を学んでおくことが望まれる。

## 授業スケジュール / Schedule

| 授業日(第N回) | テーマ / Theme         | キーワード / Key Word |
|----------|---------------------|------------------|
| 1        | ビデオジャーナリズムとは        |                  |
| 2        | ビデオ機材を知る            |                  |
| 3        | 撮影の基本               |                  |
| 4        | ビデオで表現すること          |                  |
| 5        | 表現意図を持つ・その1         |                  |
| 6        | 表現意図を持つ・その2         |                  |
| 7        | 5W1H・その1            |                  |
| 8        | 5W1H・その2            |                  |
| 9        | 立ち位置、サイズ、アングル・その1   |                  |
| 10       | 立ち位置、サイズ、アングル・その2   |                  |
| 11       | カット、セグメント、ストーリー・その1 |                  |
| 12       | カット、セグメント、ストーリー・その1 |                  |
| 13       | 最終課題のための個別指導        |                  |
| 14       | 最終課題発表会             |                  |

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

テレビのニュースを見て、映像表現を学ぶ。

授業外の時間にできる限りビデオ機材の使い方やパソコン編集機の基本的な操作方法は覚えておくこと。

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

| 種別 / Kind | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc. |
|-----------|-----------------|-------------------------------|
| レポート      | 70 %            | 課題の完成度、習熟度                    |
| 日常点       | 30 %            | 提出物の期日内の提出、その習熟度と完成度          |

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

ビデオ表現を楽しみましょう。

テレビのニュースを毎日見る癖をつけましょう。また、テレビのニュースを批判的な目で見える力を養いましょう。

## 教科書 / Textbooks

| 書名 / Title  | 出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment |
|-------------|----------------------------------------------------------|
| ビデオジャーナリズム論 | 神保哲生／明石書店／2006年3月発売予定                                    |

## 参考書 / Reference Books



書名 / Title

ジャーナリズムの原則

出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment

コバッチ、ローゼンタール／日本経済評論社／4818814474／

参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

<http://www.videonews.com>

<http://www.jimbo.tv>

その他 / Others

## メディア制作II SA S メディア制作研究II SA

15210

担当者名 / Instructor 小泉 秀昭

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Description

テーマ:「広告プランニング実習」

本講義では、企業の広告コミュニケーション活動に影響を及ぼす外部的要因および内部的要因の分析から広告表現、媒体戦略、販売促進活動、イベントプランの立案まで幅広い内容をカバーし、グループ単位でトータル広告プランを立案しプレゼンテーションまで行う。

## 到達目標 / Focus and Goal

企業およびその他組織が行う広告活動に則し、広告表現開発、媒体プラン等を作成できる知識の習得を目指す。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

広告論を履修していることが望まれる

## 授業スケジュール / Schedule

| 授業日 (第N回) | テーマ / Theme                      | キーワード / Key Word |
|-----------|----------------------------------|------------------|
| 1         | 講義内容の説明 (サンプルプランの解説)             |                  |
| 2         | 広告活動に関わる内部・外部環境の分析               |                  |
| 3         | 広告を行なうブランドの分析、ポジショニング分析／SWOT分析など |                  |
| 4         | ブランドを取り巻く課題の分析                   |                  |
| 5         | 広告調査 (広告定性調査)                    |                  |
| 6         | ケーススタディ(ニーズ分析)                   |                  |
| 7         | 中間プレゼンテーション                      |                  |
| 8         | 広告表現戦略析・クリエイティブブリーフの作成           |                  |
| 9         | 広告表現制作 (TVストーリーボード・プリントラフスケッチ等)  |                  |
| 10        | 媒体戦略立案                           |                  |
| 11        | トータル広告プランの整理                     |                  |
| 12        | グループごとのプレゼンテーションと討議              |                  |
| 13        | グループごとのプレゼンテーションと討議              |                  |
| 14        | グループごとのプレゼンテーションと討議              |                  |
| 15        | 全体的な講義の総括・個人課題のチェック              |                  |

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

グループおよび個人の課題が多く、授業外での作業時間のとりにくい学生には不向き。

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

| 種別 / Kind | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc.              |
|-----------|-----------------|--------------------------------------------|
| レポート      | 60 %            | グループごとの広告プランの提出およびプレゼンテーションの内容および個人のプランで評価 |
| 日常点       | 10 %            | 授業中のプレゼンテーションや討議に参加したかなど、積極性について評価         |
| その他       | 30 %            | 毎回出席を取り、出席の状況での評価                          |

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

理論的な説明後、グループでの作業が中心となる。最終のプレゼンテーションの他にも数回その回の内容についてプレゼンテーションを行い討議する。プランは一連の流れがあり、出席が十分にできない場合には個人の課題の提出は困難と思われる。またグループおよび個人の課題が多く、授業外での作業時間のとりにくい学生には不向き。

## 教科書 / Textbooks

特になし。毎回オリジナルの教材を配布

## 参考書 / Reference Books

必要に応じて授業内で参考文献を解説する

## 参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

特になし

## その他 / Others

特になし

## メディア制作II SB

15218

担当者名 / Instructor 神保 哲生

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Description

ビデオジャーナリズム・ワークショップ2。

ビデオジャーナリズムの実技を、実際にカメラとパソコン編集機を使って学びます。

後期は特に1本の長編リポート(ドキュメンタリー)に挑戦します。

受講生はビデオジャーナリズムの基本理論とビデオの操作を学んだ後、実際にビデオを持って取材に出ます。そして、取材で撮影した映像を編集し、リポートを制作します。

基本的にはその繰り返しになりますが、毎回少しずつ難易度の高いテーマにチャレンジすることになります。

後期は企画書の書き方や台本の書き方なども学びます。

基本的には授業以外の時間帯に事務室より機材を借り出し、課題となる取材や編集を行い提出します。授業ではその成果を受講生とともに論評し、次の課題に活かしていくことになります。

注意点は以下の通り。

- 1) 前期・後期を通じた通年での履修に限定されます。(後期のみの履修、前期のみの履修は基本的にはできません)
- 2) 授業と授業の間に取材、撮影、編集などの課題が出ます。
- 3) 貸し出せる機材に限りがあるため、履修者数に制限があります。
- 4) 専門特殊講義SA(ビデオジャーナリズム論)を履修していることが望ましい。

## 到達目標 / Focus and Goal

ビデオを使った表現方法を実地で学ぶことで、ビデオ表現のノウハウを習得すると同時に、映像メディアに対するリテラシーを育てる。

また、報道の面白さ、難しさを学ぶ。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enrolle in, but not required to

専門特殊講義SA(ビデオジャーナリズム論)

ワークショップは実技が中心となるため、専門特殊講義 SAでビデオジャーナリズムの理論を学んでおくことが望まれる。

## 授業スケジュール / Schedule

| 授業日(第N回) | テーマ / Theme                | キーワード / Key Word |
|----------|----------------------------|------------------|
| 1        | 前期の反省と後期の課題                |                  |
| 2        | ビデオジャーナリズムの制作工程(企画書から台本まで) |                  |
| 3        | 取材1                        |                  |
| 4        | 取材2                        |                  |
| 5        | 取材3                        |                  |
| 6        | 取材4                        |                  |
| 7        | 制作1                        |                  |
| 8        | 制作2                        |                  |
| 9        | 編集1                        |                  |
| 10       | 編集2                        |                  |
| 11       | 最終課題企画案しめきり                |                  |
| 12       | 最終課題のための個別指導               |                  |
| 13       | 最終課題のための個別指導               |                  |
| 14       | 最終課題優秀作品発表会                |                  |

## (学) 学科科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大) 大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

テレビのニュースを見て、映像表現を学ぶ。

授業外の時間にできる限りビデオ機材の使い方やパソコン編集機の基本的な操作方法は覚えておくこと。

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

| 種別 / Kind | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc. |
|-----------|-----------------|-------------------------------|
| レポート      | 70 %            |                               |
| 日常点       | 30 %            |                               |

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

ビデオ表現を楽しみましょう。

テレビのニュースを毎日見る癖をつけましょう。また、テレビのニュースを批判的な目で見える力を養いましょう。

## 教科書 / Textbooks

| 書名 / Title  | 出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment |
|-------------|----------------------------------------------------------|
| ビデオジャーナリズム論 | 神保哲生／明石書店 ／／2006年3月発売予定                                  |

**参考書 / Reference Books**

書名 / Title

出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment

ジャーナリズムの原則

コバッチ、ローゼンタール／日本経済評論社／4818814474／

---

**参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course**

<http://www.videonews.com>

<http://www.jimbo.tv>

**その他 / Others**

## メディア調査法 S S メディア認知論II S

14993

担当者名 / Instructor 松田 亜希

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Description

本講義では、メディアに関連する調査について学習するが、メディア調査結果の読み方やそこに潜む政治性の発見、あるいは調査の方法論にも重点をおいてゆく。また、メディアが行っている調査を調査対象とすることで、調査する側とされる側の関係性や、メディアが調査した結果がメディアを通じて伝えられる意味を問い直してゆく。講義は大きく3つのパートに分かれている。パート1では、メディア調査の方法論を学ぶにあたって必要な理論の紹介、過去に行われたさまざまな調査事例を紹介する。パート2では、実際の調査に際しての技法として準備段階からメディア別の調査方法までを取りあげる。パート3では、世論調査や視聴率調査などメディアが行っている調査を分析し、読み解いてゆく。

## 到達目標 / Focus and Goal

- ・それぞれのメディアが持つ特性について理解し、調査方法との関連性を見出す
- ・クリティカルな視点でメディアによる調査を分析する
- ・実際に行われている調査の実態を把握し、理解を深める

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

## 授業スケジュール / Schedule

| 授業日 (第N回) | テーマ / Theme             | キーワード / Key Word |
|-----------|-------------------------|------------------|
| 第1回       | メディア調査を学ぶとは何か           |                  |
| 第2回       | メディア調査の方法論1 (理論を学ぶ)     | 理論とマス・メディア       |
| 第3回       | メディア調査の方法論2 (量的調査)      | 数量を調査・分析         |
| 第4回       | メディア調査の方法論3 (質的調査)      | 内容を調査・分析         |
| 第5回       | メディア調査の方法論4 (その他)       | フィールド、インタビューなど   |
| 第6回       | メディア調査の技法1 (準備編)        | 調査の前に必要な事柄       |
| 第7回       | メディア調査の技法2 (放送編)        | 放送メディアを調査        |
| 第8回       | メディア調査の技法3 (通信編)        | 通信メディアを調査        |
| 第9回       | メディア調査の技法4 (活字編)        | 活字メディアを調査        |
| 第10回      | メディアの調査を調査する1 (世論調査)    | 世論調査を読む          |
| 第11回      | メディアの調査を調査する2 (視聴率調査)   | 視聴率調査を読む         |
| 第12回      | メディアの調査を調査する3 (新聞独自の調査) | 新聞調査を読む          |
| 第13回      | メディアの調査を調査する4 (その他)     | その他の調査を読む        |
| 第14回      | まとめ メディアの調査から見えてくるもの    |                  |
| 第15回      | 試験の実施                   |                  |

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

特になし

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

| 種別 / Kind | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc.                 |
|-----------|-----------------|-----------------------------------------------|
| 定期試験      | 70 %            | 最終講義の時間で実施する予定だが、変更の可能性もある。講義中や掲示板等で必ず確認すること。 |
| 日常点       | 30 %            | それぞれのパートの終了時 (合計3回) に、理解度を知るためコメントの提出を求める。    |

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

- ・講義開始から30分経過した時点でレジュメ等の配布を中止する。以後、一切配布しない。
- ・評価方法に変更が生じた場合は、講義中に連絡する。必ず確認すること。

## 教科書 / Textbooks

不要。レジュメを使用する。

## 参考書 / Reference Books

講義中に適宜紹介する。

## 参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

講義中に適宜紹介する。

## その他 / Others

## メディア文化論 S S 情報文化論 S

15169

担当者名 / Instructor 小泉 秀昭

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Description

テーマ:「現代広告論」

本講義では、広告論での広告の基礎知識を前提として、広告の文化的な側面、グローバルな視点での広告、また広告の効果など幅広い内容をカバーする。文化的な側面での解説では比較的多くビデオテープを使用し、実際のTV広告等を鑑賞し、自分の目で広告の良さを判断することも学ぶ。

## 到達目標 / Focus and Goal

受講する学生には、広告の送り手、そして受け手としてのメディアリテラシーを身につけることを期待する。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

広告論Iを履修していることが望まれる

## 授業スケジュール / Schedule

| 授業日 (第N回) | テーマ / Theme                | キーワード / Key Word |
|-----------|----------------------------|------------------|
| 1         | 総括的導入講義、江戸・明治期の広告          |                  |
| 2         | 視聴率を検証する                   |                  |
| 3         | ユーモア広告                     |                  |
| 4         | 時代と広告 (大正から戦時中)            |                  |
| 5         | 広告効果1                      |                  |
| 6         | 広告効果2                      |                  |
| 7         | 時代と広告(1950年代～70年代)         |                  |
| 8         | コンシューマーインサイト               |                  |
| 9         | 広報と広告                      |                  |
| 10        | CSRと広告                     |                  |
| 11        | 広告を考える(クリエイティブディレクター杉山登志)  |                  |
| 12        | グローバル広告とは／カンヌ映画祭の受賞作品の解説   |                  |
| 13        | 広告主と広告代理店の新しい関係／広告代理店の報酬制度 |                  |
| 14        | 講義の総括・時代と広告(1980年代～2000年代) |                  |
| 15        | 定期試験                       |                  |

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

毎回配布するレジュメでの復習

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

| 種別 / Kind | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc. |
|-----------|-----------------|-------------------------------|
| 定期試験      | 60 %            | 教科書およびノートなどの持込は不可             |
| 日常点       | 40 %            | 不定期に授業内で課題を課す                 |

課題は7～8回は行う予定のため出席が難しい学生には不向き。課題は講義の始めに行う場合もある。

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

空欄のあるレジュメを毎回配布し、またビデオを見て課題等をおこなうため、遅刻をせず出席すること

## 教科書 / Textbooks

特に市販のテキスト等は使用しない。オリジナルに作成した資料を使用。

## 参考書 / Reference Books

特になし

## 参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

特になし

## その他 / Others

特になし

## メディアリテラシー論 S S メディア・リテラシー論I S S メディア・リテラシー論I G

12997

担当者名 / Instructor 鈴木 みどり

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Description

今日のメディア社会を主体的に生きるうえで不可欠な能力といえるメディア・リテラシーとその取り組みについて、理論に基づいて体系的に学ぶ。とくに本科目では、メディア・リテラシーの目標、基本概念、メディア研究モデル、学びの場の作り方、などの基本的枠組みを自ら行うメディア分析を通して実践的に理解し、メディアの社会的文脈を批判的かつ主体的に読み解くことができるようになることに力点を置く。グループ学習活動としてのメディア分析と討論、個人によるメディアログ（メディア分析レポート）の提出、クラス全体での発表と対話、という運営方式を基本に、文献を使いながら行う講義を織り交ぜ、全体として参加型の授業を行う。

## 到達目標 / Focus and Goal

- ・メディア・リテラシーの目標、基本概念、メディア研究モデル、学びの場の作り方、などの基本的枠組みを理解できる。
- ・批判的なメディア分析の方法をグループ学習によって実践的に学ぶ。
- ・以上を踏まえ、メディアの社会的文脈を批判的かつ主体的に読み解くことができるようになる。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

## 授業スケジュール / Schedule

| 授業日 (第N回) | テーマ / Theme                    | キーワード / Key Word                               |
|-----------|--------------------------------|------------------------------------------------|
| 第1週       | 総括的導入講義                        | キーワード: メディア社会、メディア・リテラシー                       |
| 第2週       | Introduction / メディア社会を生きる私たち   | キーワード: メディア社会、メディア・リテラシー                       |
| 第3週       | メディア・リテラシーをどう学ぶか               | キーワード: 基本概念、学びのスタイル、メディア研究モデル                  |
| 第4週       | メディアは構成されている                   | キーワード: リプレゼンテーションrepresentation、スポーツとメディア      |
| 第5週       | メディアが構成する「現実」とは                | キーワード: 「エンコーディング／デコーディング」モデル、スポーツと政治とメディア      |
| 第6週       | メディアが構成する「現実」とニュースバリュー         | キーワード: 社会的制度としてのメディア、ニュースバリュー                  |
| 第7週       | テレビCMで学ぶ映像言語                   | キーワード: 映像言語、メディア言語、映像技法、音声技法                   |
| 第8週       | CMが提示する価値観                     | キーワード: メディアの広告機能、価値観・イデオロギー                    |
| 第9週       | 広告がつくりだす文化                     | キーワード: 産業としてのメディア、広告文化                         |
| 第10週      | 広告がつくりだす文化とアクティブ・オーディエンス       | キーワード: カルチャー・ジャマー、アクティブ・オーディエンス                |
| 第11週      | メディアの表現とオーディエンス                | キーワード: ジェンダー、ジェンダー化するメディア、オーディエンス              |
| 第12週      | ジェンダー化するメディア: オーディエンスをどう捉えているか | キーワード: ジェンダー、メディアのジェンダー化、アクティブ・オーディエンス         |
| 第13週      | 地球市民: 子どものメディア環境を考える (1)       | キーワード: 社会的制度としてのメディア、子どもの権利条約、「メディアと子ども」をめぐる議論 |
| 第14週      | 地球市民: 子どものメディア環境を考える (2)       | キーワード: 社会的制度としてのメディア、オーディエンスの申し立て制度、メディアの自主的規律 |
| 第15週      | コミュニケーションをつくりだす / 全体のまとめ       | キーワード: 批判的分析から創造性の育成へ (C=C)                    |

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

- 第3週 教科書: 第1章「メディア・リテラシーをどう学ぶか」  
 第4週 参考書『Study Guideメディア・リテラシー[ジェンダー編]』第2章の1回目「ニュース報道は構成されている」  
 第5週 教科書: 第5章の3回目「ニュース番組に登場する人びと」／メディアログ課題1を出す予定  
 第6週 教科書: 第5章「ニュース報道を読み解く」の2回目「なぜ、3大ニュースなのか」  
 ⇒メディアログ課題2 (予定)  
 第7週 教科書: 第3章「テレビ・コマーシャルとは何か」の2回目「CMで学ぶ映像言語」  
 第8週 教科書: 第3章「テレビ・コマーシャルとは何か」の4回目「CMが提示する価値観」  
 第9週 メディアログ課題3 (予定)  
 第10週 メディアログ課題4 (予定)  
 第11週 参考書『Study Guideメディア・リテラシー[ジェンダー編]』の資料編  
 第12週 メディアログ課題5 (予定)  
 第14週 メディアログ課題6 (予定)

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

| 種別 / Kind | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc.                           |
|-----------|-----------------|---------------------------------------------------------|
| 日常点       | 60 %            | 授業中に課すメディアログを2本以上 (30%×2)                               |
| その他       | 40 %            | 単なる出席ではなく、グループ活動によるメディア分析を中心とするので、このグループ活動への参加の度合を重視する。 |

評価は授業への出席・グループ活動などへの参加の度合い (40%)、授業中に課すメディアログ (30%×2=60%) による。なお個人で提出するメディアログ (メディア分析レポート) は、授業の進行に沿って随時だす課題のなかから選び、授業の前半で1本、後半で1本、計2本を執筆し、原則として、それぞれの課題がでる翌週に提出すること。(メディアログの書き方:A4でヨコ書き、ワープロ入力、枚数は自由)

#### 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

グループ学習活動としてのメディア分析と討論、個人によるメディアログ (メディア分析レポート) の提出、クラス全体での発表と対話、という運営方式を基本に、文献を使いながら行う講義を織り交ぜ、全体として参加型の授業を行う。したがって、授業への能動的参加が受講条件といえる。

#### 教科書 / Textbooks

| 書名 / Title                     | 出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment         |
|--------------------------------|------------------------------------------------------------------|
| 『新版Study Guideメディア・リテラシー[入門編]』 | 鈴木みどり編／リベルタ出版、2004／4-947637-59-5／毎回の授業までに該当の章を予習し、授業日には教科書を持参する。 |

#### 参考書 / Reference Books

| 書名 / Title                      | 出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment |
|---------------------------------|----------------------------------------------------------|
| 『Study Guideメディア・リテラシー[ジェンダー編]』 | 鈴木みどり編／リベルタ出版、2003／4-947637-80-3／教科書に準じて使用する。            |
| 『メディア・リテラシーの現在と未来』              | 鈴木みどり編／世界思想社／ISBN4-7907-0896-9／教科書に準じて使用する。              |

#### 参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

メディア・リテラシーの世界 (Media Literacy Research Institute) <http://www.mlpj.org/>

#### その他 / Others



## メディア理論 S § コミュニケーション論 II S

13084

担当者名 / Instructor 鈴木 隆

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Description

この講義では、メディアを、人が集団もしくはシステムを形成する際の不可欠の媒体として考えていく...と言うと大げさなのだが、要するに、太古の時代、我々の祖先が肉声で情報を交換し、その肉声が届く範囲で一つの集団を作ったのに始まって、新たなコミュニケーションメディアが出現する毎に、人が形成する集団の規模も形態も、大きく変わって行ったのであって、まずは、その歴史を簡単にたどった上で、可能な限り、技術的な専門用語を敬遠した上で、現代社会という一つの巨大化したシステムと、その統合に不可欠となったメディアとの関係、そしてその狭間に浮遊する我々の存在について論じたいと思う。

## 到達目標 / Focus and Goal

IT社会とか高度情報化社会と言うと、あたかも通信技術とコンピューターが引き起こしたものであるかのごとくにイメージしてしまうものなのだが、実はそうではなくて、「現代社会」という、この社会の統合のあり方が、情報化を引き起こしたのだという関係と、その経緯を理解すること。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

情報、メディア系の講義を他にも聴いているにこしたことはないが、予備知識を必要とするような講義にするつもりはない。1. 歴史、とりわけ、近代史、現代史に興味を持ち、2. マクルーハンが、「メディア論」でどんなことを言っているか（表現はユニークだが、内容は難解）を知っていると得をするかも知れない。

## 授業スケジュール / Schedule

| 授業日 (第N回) | テーマ / Theme                                              | キーワード / Key Word                                    |
|-----------|----------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------|
| 第 1 回目    | クロマニヨン人が生き残りネアンデルタール人が絶滅した本当の原因                          | 社会・言語・システム／意思疎通と共感                                  |
| 第 2 回目    | シンボルと表象－その1／古代壁画の解釈についての最新の仮説                            | 投影＝projection                                       |
| 第 3 回目    | シンボルと表象－その2／宗教的指導者が最初の政治的支配者となった...その理由                  | 後光＝オーラ (aura)                                       |
| 第 4 回目    | 文字と古代国家／文字の出現なしに、国家は成立しない...その理由                         | ライブ／外部メモリー／人の記憶力を超えた情報の保存                           |
| 第 5 回目    | 富の存在様式／現物形態と貨幣形態...尾崎紅葉「金色夜叉」について                        | ライブ／数量としての富／媒体に対する欲望としての「金銭欲」                       |
| 第 6 回目    | システム統合の媒体としての「貨幣」                                        | システム／同期化                                            |
| 第 7 回目    | システム革命・交通革命・通信革命－1／長篠の合戦で「鉄砲の三段撃ち」は不可能                   | インテグレーションとシンクロナイゼーション／工場の定義／ラジオ体操                   |
| 第 8 回目    | 完成した工場としてのフォード／チャップリン「モダン・タイムズ」とベルト・コンベア                 | 巨大化する分業体制とシンクロナイゼーション                               |
| 第 9 回目    | 通信技術の発達とシステム革命／第二次大戦は通信技術によるシステム統合を限界まで進めた               | モルトケとプロイセン軍／バッジ・システムと Battle of Britain／ミッドウェー海戦と情報 |
| 第10回目     | コンピューター開発の経緯－その1／ドレスデン空襲とレーダー                            | 「情報処理」という言葉に惑わされるな／通信技術と情報処理技術の区別                   |
| 第11回目     | コンピューター開発の経緯－その2／汎用コンピューター・システム360                       | コンピューター ソフトがなければただの箱                                |
| 第12回目     | オンライン・コミュニケーションの三要素                                      | 端末・メディア・ID／遠距離恋愛とネカマ                                |
| 第13回目     | ハイテク戦争とバーチャルリアリティ／「ターミネーター II」の最後のセリフ「人は何故泣くのか今わかった」について | ゲーム感覚と共感／人は「類」である                                   |
| 第14回目     | 巨大な管理社会としての高度情報化社会                                       | ネアンデルタール人の脳と巨大コンピューター社会                             |
| 第15回目     | まとめ、もしくは予備日                                              | 救済を約束する愛と慈悲                                         |

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

とくになし

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

| 種別 / Kind | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc.    |
|-----------|-----------------|----------------------------------|
| 定期試験      | 100 %           | 講義で提示するいくつかのキーワードが理解されているかどうかを問う |

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

講義は、メディアとコミュニケーションを歴史物語風に辿るという構成にしたいと思っている。可能な限り、映像資料を用意したいと考えているのであるけれども、目で見える歴史物語のようなものとして、リラックスして聞いてほしい。また、テキストは使用せず、講義資料の先行配布を心がけるつもりであるが、「配付資料の棒読み」のような講義をするつもりは全くない。

**教科書 / Textbooks**

教科書は使用しない。

**参考書 / Reference Books****書名 / Title**

現代社会の理論

**出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment**

見田宗介／岩波書店／4-00-430465-2／情報革命が情報化社会をもたらしたのではなく、現代社会が情報化を引き起こしたのだということを理解する上で、読んでおいてもいいかも知れないという程度。

-----

**参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course**

資料は豊富に用意するので、各自が関心を持った項目、用語で好き勝手に検索することが出来るインターネットである。

**その他 / Others**

## 余暇・スポーツ史 S S スポーツ文化史 I S

15005

担当者名 / Instructor 有賀 郁敏

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Description

不幸にして「余暇」と訳されてしまった狭義の非労働時間は、この言葉から派生するやや消極的な意味とは裏腹に、われわれの生活に固有の意味を付与する非常に大きな価値をもっていると思われる。なぜなら「余暇」を欠落させた生活を考えることは、現状ではもはやリアリティを欠いているからである。日本とヨーロッパの生活史をひもとくなら、「余暇」が娯楽性のみならず、民衆にとって多様で重要な意味をもっていたことに気づく。じつは、この民衆の「余暇」活動をいかにして管理してゆくのかは国家をはじめとした諸権力にとっても非常に重要な課題であったのである。本講義では広範囲にわたる「余暇」活動のなかから、幾つかのサブテーマを選び取り、「余暇」の実相と権力との関連に迫りたい。

## 到達目標 / Focus and Goal

- ① 歴史から現代の諸問題のありようを捉える
- ② 文化・スポーツと諸権力の関係を理解する

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enrolle in, but not required to

## 授業スケジュール / Schedule

| 授業日 (第N回) | テーマ / Theme                      | キーワード / Key Word              |
|-----------|----------------------------------|-------------------------------|
| 第1回       | オリエンテーション                        | オリエンテーション、講義の進め方、評価           |
| 第2回       | 近代イギリスの「合理的娯楽」運動①                | 民衆娯楽、賭け、アニマルスポーツ              |
| 第3回       | 近代イギリスの「合理的娯楽」運動②                | カウンター・アトラクション                 |
| 第4回       | ビデオ鑑賞                            | 労働者文化、「プラス」                   |
| 第5回       | 「ハリウッド・ポスター」の世界：パブリックスクールと近代サッカー | パブリックスクール、アーノルド、「自由と規律」       |
| 第6回       | ドイツにおけるアソシエーション①                 | アソシエーション、結社運動                 |
| 第7回       | ドイツにおけるアソシエーション②                 | 男性合唱協会、体操協会、自主消防団             |
| 第8回       | ナチズムと娯楽                          | 歓喜力行団、未来社会、ヘゲモニー              |
| 第9回       | 博覧会とオリンピック                       | 博覧会、オリンピック、国民国家、民族運動、オリエンタリズム |
| 第10回      | 近代日本における近代化政策と民衆娯楽①              | 日本における「公私関係」                  |
| 第11回      | 近代日本における近代化政策と民衆娯楽②              | 運動会の歴史①                       |
| 第12回      | 近代日本における近代化政策と民衆娯楽③              | 運動会の歴史②                       |
| 第13回      | 近代日本における近代化政策と民衆娯楽④              | スポーツの国家管理と民衆運動                |
| 第14回      | まとめ                              |                               |
| 第15回      | セメスター期間中の休講の補講とする                |                               |

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

自学自習を課題 (そして評価項目) として受講生に要請する。

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

| 種別 / Kind | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc.         |
|-----------|-----------------|---------------------------------------|
| 定期試験      | 60 %            | 講義の理解度                                |
| 日常点       | 30 %            | 講義中に実施するミニレポート (5回程度) : 講義内容に把握と問題の発見 |
| その他       | 30 %            | 自学自習の成果物                              |

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

自学自習をしっかりと実施すること。

## 教科書 / Textbooks

特に使用しない。

## 参考書 / Reference Books

- \* 英国社会の民衆娯楽、R.マーカムソン、平凡社
- \* 近代日本スポーツ史の底流、高津勝、創文企画
- 参考文献は多数存在するが、詳細はオリエンテーション時に配布する。

## 参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

## その他 / Others

## 余暇論 S S 現代余暇論 S

15050

担当者名 / Instructor 棚山 研

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Description

本講義では、近年の余暇活動の全体的状況を概観し、さらにグリーンツーリズムや「まちづくり」活動などの「新しい余暇活動」に注目していく。そして、そのような余暇活動がいかなる社会的背景を持った人々によって支えられているのか、また、そこから照らし出される「労働」の現代的なあり様について論じたい。

## 到達目標 / Focus and Goal

労働(あるいはカネ)だけではなく、余暇・自由時間もまた現代の人間と社会にとって、必要不可欠かつ固有の意義を持っていることを理解する。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

「現代と社会」、「産業社会学」、「労働社会学」、「余暇・スポーツ史」(「スポーツ文化史」)、「現代生活論」(「生活経済論」)

## 授業スケジュール / Schedule

| 授業日 (第N回) | テーマ / Theme                             | キーワード / Key Word                      |
|-----------|-----------------------------------------|---------------------------------------|
| 第1回       | 講義ガイダンス                                 |                                       |
| 第2回       | 余暇論の概略・コンセプト—余暇の人間の意義について               | 肉体的疲労 精神的疲労 レクリエーション                  |
| 第3回       | 古代・中世的余暇と近・現代的余暇—余暇を論じることの文化的・未来社会論的意義  | スコレー、オティム、ハイカルチャー 消費文化 フォーディズム        |
| 第4回       | 現代日本の余暇活動(1)—労働時間問題を国際比較を中心に            | 年総労働時間 週休2日制 有給休暇                     |
| 第5回       | 現代日本の余暇活動(2)—余暇活動の実態と余暇に関する意識、          | 「カネか時間か」                              |
| 第6回       | 現代日本の余暇活動(3)—レジャー産業の動向から見る              | 「薄利多売」                                |
| 第7回       | 日本における余暇政策の展開 (1)                       | 「36協定」 「前川リポート」                       |
| 第8回       | 日本における余暇政策の展開 (2)                       | リゾート・ブーム グリーン・ツーリズム バカンス              |
| 第9回       | 現代日本の余暇活動 (4)—「新しい余暇活動」のトレンド、『レジャー白書』より | 「いやし」「自分への投資」「まじわり」「社会性余暇」「スロー」IT化 地域 |
| 第10回      | 「新しい余暇活動」について (1)—グリーンツーリズムをめぐって        | 「いやし」「まじわり」「スロー」 農村 都会 農業 地域振興 産地交流   |
| 第11回      | 「新しい余暇活動」について (2)—「まちづくり」など「社会性余暇」を中心に  | 「社会性余暇」 ボランティア 公共事業 地域資源              |
| 第12回      | 「新しい余暇活動」について (3)—「新しい余暇活動」と市民社会        | 「縁」 楽しみ 公共性                           |
| 第13回      | 「余暇社会」の可能性について考える—環境問題、情報化との関わりで        | 想像力                                   |
| 第14回      | まとめ                                     |                                       |
| 第15回      | 定期試験に替える                                |                                       |

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

何よりも日本の余暇問題は労働時間問題である。授業では簡単に触れるに留めるが、他の授業などを通じて、労働時間についての基本的知識(国際比較など)を持っておくことが望ましい。

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

| 種別 / Kind | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc.                                      |
|-----------|-----------------|--------------------------------------------------------------------|
| 定期試験      | 100 %           | 「これが正解」というものを求める授業ではないので、試験もレポートに準じたものとして、余暇・自由時間についての考え方を問うものになる。 |
| その他       | 0 %             | 「余暇に関する適当なテーマ」で個人発表の時間を設ける。発表した人には、原則として単位認定する予定。下記「その他」参照。        |

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

主として、データを掲載した資料・レジュメと、板書を使用した講義となる。特にデータの解説の要点は板書するが、詳細は口頭になるので注意すること。例年、受講生が多いので、やり取りはコミュニケーションペーパーを使う予定。

## 教科書 / Textbooks

使用しない。

## 参考書 / Reference Books

書名 / Title出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment

『余暇生活論』

一番ヶ瀬康子ほか / 有斐閣 //

『自由時間』

内田弘 / 有斐閣 //

『大真面目に休む国ドイツ』

福田直子 / 平凡社 (新書) //

『レジャー白書』2001、2003年版

社会経済生産性本部編 //

『働きすぎの時代』

森岡孝二 / 岩波書店 (新書) //

その他、適宜指示する。

参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

適宜紹介する。

その他 / Others

その他、学生参加の授業携帯を予定している。授業中、希望者を募り「余暇に関する適当なテーマ」で個人発表の時間を設ける。発表した人には、原則として単位認定する予定。第1回目の授業で希望者を募り、報告日程を決める(日程は講義日日程後半に設定する)。詳しくは授業中に説明する。

## ライフサイクル論 S

15151

担当者名 / Instructor 櫻谷 真理子

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Description

人間が社会の中で生まれ、育ち、老いていく過程を概説し、自己形成および人格発達について考察する。なお、各ライフステージにおける心理的危機について注目し、その背景や要因を探り、心理的援助、福祉の課題を明らかにする。

## 到達目標 / Focus and Goal

- ・ライフサイクルの基本問題や概念を理解できる。
- ・人間発達についての理解を深める。
- ・個人の発達を支えるための社会的制度、福祉的援助について問題意識を持ち、解決の方向を探る。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

## 授業スケジュール / Schedule

| 授業日 (第N回) | テーマ / Theme                   | キーワード / Key Word               |
|-----------|-------------------------------|--------------------------------|
| 1         | 総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。 |                                |
| 2         | ライフサイクルとは何か                   | 人生周期                           |
| 3         | 乳児期の発達特徴                      | 心と身体の発達、基本的信頼感の形成、アタッチメント、愛着障害 |
| 4         | 幼児期の発達特徴 (3 歳児)               | 自我の芽生え、甘えと自立                   |
| 5         | 幼児期の発達特徴 (4 歳児)               | 自制心の育ち、人格発達の土台                 |
| 6         | 幼児期の発達特徴 (5 歳児)               | 仲間の中で育つおもいやり、意欲、自発性            |
| 7         | 学童期の発達と心理的危機                  | 学級崩壊、競争教育                      |
| 8         | 思春期、青年期の危機と成長                 | アイデンティティの形成                    |
| 9         | 親との葛藤と自立                      | 侵入する母、親からの自立                   |
| 10        | レビンソンによる成人期の発達                | 生活構造の変化                        |
| 11        | 成人前期の発達課題                     | 職業選択、結婚、出産                     |
| 12        | 中年期の心理的特徴—中年期の心身の変化           | 人生の転換期、衰退と充実                   |
| 13        | 中年期の諸相、アイデンティティの問い直し          | 仕事と家庭、ボランティア、空の巣症候群            |
| 14        | ライフサイクルの中の老い                  | 老いの受容、人格の統合、絶望                 |
| 15        | まとめ                           |                                |

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

| 種別 / Kind | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc.                                                                                                 |
|-----------|-----------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 定期試験      | 60 %            | 発達段階、発達課題に関する基本的な理解がなされたのか、また、それぞれの段階で生じる問題を克服するために必要な社会的支援についての考察が深まったのか把握するための試験です。なお、レポート等の提出が無く、試験だけ受けても、合格点に満たない場合があります。 |
| レポート      | 20 %            | 数回、レポートを書いてもらいます。                                                                                                             |
| 日常点       | 20 %            | コミュニケーションカードで出席把握をし、評価に加えます。                                                                                                  |

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

人間の一生について概観し、さまざまな問題を扱うため、問題意識が拡散するかもしれません。そこで、授業内で紹介する文献をよみ、理解を深める努力をしてください。

## 教科書 / Textbooks

特に指定しません。

## 参考書 / Reference Books

| 書名 / Title       | 出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment |
|------------------|----------------------------------------------------------|
| 子育て支援の現在         | 垣内国光・櫻谷真理子共編／ミネルヴァ書房／4-623-03643-xc3336／                 |
| ライフサイクルの臨床心理学    | 馬場禮子・永井徹共編／培風館／563-05610-3／                              |
| 女性のためのライフサイクル心理学 | 岡本祐子・松下美知子編／福村出版／571-20051-x／                            |

## 参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course



## ライフデザイン論 S S 人間発達論 S

15076

担当者名 / Instructor 中村 正

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Description

自己決定の尊重、生活の質(QOL)の確保、市民社会の自律性、NPO・NGOへの期待、公共圏の再構築、持続可能な社会創造など、生活の仕方や価値にかかわる新しい問題群が、新しい社会システム形成の必要性や実践と関わって議論されている。これらは多様なレベルの協働の創造であり、共生を具体化する動きである。これらの諸課題をライフデザインの変容という視点から体系的に把握する。とくにケアとサービスの関係に焦点をあて、私的領域と公的領域が急速に再編成されていることについて講義する。人間の生き方や他者との関わり方が変容する時代の「A Way of Life」の諸相を明確にしたい。

## 到達目標 / Focus and Goal

- 1) 人間関係、家族関係、コミュニティのあり方が急速に変化していることをライフデザインの変容として把握し、変化の基礎的理解をめざす。
- 2) ライフコース、ケアリング、ヒューマンサービス、ボランティアセクターなどの基礎的概念の理解をめざす。
- 3) 社会学の基礎的な概念を具体的な社会生活の場面において応用して理解できることをめざす。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

社会学の基礎を扱う諸科目

## 授業スケジュール / Schedule

| 授業日 (第N回) | テーマ / Theme                       | キーワード / Key Word                  |
|-----------|-----------------------------------|-----------------------------------|
| 第1回       | ライフデザイン論への導入ーライフデザインの社会的学的研究についてー | アイデンティティ、社会的役割、生=政治(ライブラリーポリティクス) |
| 第2回       | ライフデザインの変容(1)ー家族関係の変化ー            | 少子高齢社会、ユニットとシステム、個人化              |
| 第3回       | ライフデザインの変容(2)ーライフコースの変化ー          | ライフコース、ライフサイクル、世代(ジェネレーション)       |
| 第4回       | ライフデザインの変容(3)ージェンダーとライフデザインー      | ジェンダー、再生産領域、私的領域、M字型就労            |
| 第5回       | ライフデザインの変容(4)ーエイジングとライフデザインー      | エイジング、制度的役割と非制度的役割、公私関係           |
| 第6回       | ライフデザインの変容(5)ーコミュニティという視点ー        | 共同性、メゾレベル(中間的領域)、関心のコミュニティ        |
| 第7回       | 中間的なまとめー私的領域と公的領域の再編成ー            |                                   |
| 第8回       | ケアとサービスの諸相(1)ー老いをめぐるケアの変化ー        | 自宅でない在宅、介護の社会化、脱家族ケア              |
| 第9回       | ケアとサービスの諸相(2)ー障害と援助付き自立ー          | 自立支援、環境の障害性、対人援助                  |
| 第10回      | ケアとサービスの諸相(3)ーコミュニティによる社会的包摂ー     | 社会的排除、社会的包摂、同化と異化                 |
| 第11回      | ケアとサービスの諸相(4)ー社会的企業・非営利事業によるサービスー | NPO、非営利事業、社会的起業、コミュニティビジネス        |
| 第12回      | ケアとサービスの諸相(5)ーボランティアな領域の可能性ー      | エコマネー、つながり、ボランティア、自発的領域           |
| 第13回      | ケアとサービスの諸相(6)ー自己決定をささえるヒューマンサービス  | 社会倫理、自己決定、ヒューマンサービス、QOL           |
| 第14回      | ライフデザイン研究の課題ーまとめとしてー              | ネットワーク、ネオリベラリズム、スローライフ            |

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

新聞などで接することの多い話題が多くなります。そうした話題を体系化して理解する社会学の基礎概念を講義します。授業で話しをすることを日常生活にひきつけて理解しようとする姿勢が重要です。新聞などをよく読んでください。また、授業で適時紹介する文献で自習をしてください。

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

| 種別 / Kind | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc. |
|-----------|-----------------|-------------------------------|
| レポート      | 60 %            |                               |
| 日常点       | 40 %            |                               |

日常点とは、コミュニケーションペーパーによる授業への応答を意味します。単元のまとめり毎にコミュニケーションペーパーを使って実施する予定です。受講生数にもよりますが、数回程度になります。

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

## 教科書 / Textbooks

テキストは使用しません。授業でその都度配布するレジュメにもとづきすすめます。関連する資料もその都度配布します。なお、その資料を読んでおくように指示することがあります。さらに、その主題にあわせて参考文献も紹介します。授業外で自習するためのものです。

## 参考書 / Reference Books



担当者の書いたものとして、『ドメスティック・バイオレンスと家族の病理』（作品社）、『家族のゆくえ』（人文書院）、『「男らしさ」からの自由』（かもがわ出版）、『なぜ夫は、愛する妻を殴るのか』（ダットン著中村正訳、作品社）、『家族の暴力をのりこえる』（かもがわ出版）、『京都発NPO最前線』（京都新聞社）などがあります。

参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

その他 / Others

## リハビリテーション論Ⅰ S リハビリテーション論Ⅱ S

12297

担当者名 / Instructor 宮崎 博子

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Description

リハビリテーションは、理念的には「全人間的復権」を目的とし、従来の「疾患を対象とし、治癒を目的とした」医学とは異なり、障害を対象とするという特徴を持つ。医療の現場ではこの従来の医学とリハビリテーション医学の両方が求められている。また高齢化がすすみ、介護保険が施行された時代にあつて、リハビリテーションは医療と福祉をつなぐ重要な役割を持っている。本講義は、医療を中心としたリハビリテーションの現場の諸問題をとりあげ、リハビリテーションの理念とともに、現場で役立つ知識をえることを目的とする。

## 到達目標 / Focus and Goal

障害者の置かれている状況や心情などが理解出来る。  
 リハビリテーションの概念と手法が理解できる。  
 個々の分野におけるリハビリテーションがイメージ出来、対応が分る。  
 今、医療・福祉の現場で、何が求められているかが理解出来る。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enrolle in, but not required to

本講義の詳細なスケジュール(確定版)は最初の講義時に提示する。以下に記載するのは講義の基本的内容で、これを押さえた内容で行うが、講義順序などや詳細は変更することがある(暫定版)。社会福祉士などの取得をめざし、将来医療・福祉の現場で働くことを希望する学生が、現場をイメージできるように、ビデオ、スライドなどを利用して施行する。

## 授業スケジュール / Schedule

| 授業日(第N回)  | テーマ / Theme                   | キーワード / Key Word |
|-----------|-------------------------------|------------------|
| 9月28日     | リハビリテーション総論、雇用障害について          |                  |
| 10月5日     | 障害の概念の変遷                      |                  |
| 10月12日    | 心理的障害、障害受容について                |                  |
| 10月19日    | 脳血管障害および脳外傷のリハビリテーション         |                  |
| 10月26日    | 小児のリハビリテーション、教育的リハビリテーション     |                  |
| 11月2日     | 神経・筋疾患のリハビリテーション              |                  |
| 11月9日     | トピックス：障害者の外出                  |                  |
| 11月16日    | 地域リハビリテーション、社会的リハビリテーション、介護保険 |                  |
| 11月23日(祝) | 予備日                           |                  |
| 11月30日    | 切断、装具のリハビリテーション               |                  |
| 12月7日     | 摂食嚥下障害のリハビリテーション              |                  |
| 12月14日    | 排尿障害のリハビリテーション                |                  |
| 12月21日    | 運動器のリハビリテーション                 |                  |
| 1月11日     | 精神科疾患のリハビリテーション               |                  |
| 1月18日     | 内部障害のリハビリテーション                |                  |

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

| 種別 / Kind                | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc.   |
|--------------------------|-----------------|---------------------------------|
| 定期試験                     | 80 %            | 基本的概念を理解し、自分の言葉で表現出来ているかを、評価する。 |
| 日常点                      | 20 %            | 学習意欲や態度を評価する。                   |
| 試験は、講義プリント、参考書、他、持ち込み自由。 |                 |                                 |

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

## 教科書 / Textbooks

教科書はなし。授業に必要なプリントを作ります。

## 参考書 / Reference Books

| 書名 / Title           | 出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment |
|----------------------|----------------------------------------------------------|
| リハビリテーション医療入門        | ／医学書院／／                                                  |
| 目で見えるリハビリテーション医学 第2版 | ／東京大学出版会／／                                               |
| 脳卒中のリハビリテーション        | ／医歯薬出版株式会社／／                                             |
| 狭心症、心筋梗塞のリハビリテーション   | ／南江堂／／                                                   |

参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

その他 / Others

## 臨床社会学 S S 現代人権論 S

13067

担当者名 / Instructor 中村 正

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Description

ひきこもり、不登校、非行と犯罪、家庭内暴力、薬物依存やアルコール依存などの社会病理がある。これらに対して多様な臨床的な援助が試みられている。そこに社会学はどのように貢献できるのか。社会行動や相互作用の諸過程を分析する社会学の方法は臨床実践に「関係性」という視点から有益な知見を提供できる。そうすると、その射程は社会それ自体の病理性をも扱うこととなる。逸脱的行動を個人の問題に還元しない方法で理解し、問題を解決するための臨床の諸課題を把握する社会学的な方法を可能な限り多くの主題を扱いながら講義する。

## 到達目標 / Focus and Goal

- 1) 臨床社会学についての基礎的知識、基本概念を正確に把握する。
- 2) 臨床社会的なものの見方や考え方ができるようになる。
- 3) 社会病理の諸現象について社会構造的な観点から判断ができるようになる。
- 4) 臨床的な援助実践についての基礎的な理解を得る。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

社会学の基礎を扱っている諸科目

## 授業スケジュール / Schedule

| 授業日 (第N回) | テーマ / Theme                       | キーワード / Key Word                             |
|-----------|-----------------------------------|----------------------------------------------|
| 第1回       | 臨床社会学への導入                         | 羅生門の現実、社会構築主義、行動化、相互作用                       |
| 第2回       | 臨床社会学の対象と方法 (その1)                 | 逸脱行動、境界性、マージナル、社会規範、社会秩序                     |
| 第3回       | 臨床社会学の対象と方法 (その2)                 | 社会的自己、関係的自己、行動問題、パッシング、スティグマ、ラベリング           |
| 第4回       | 臨床社会学の視界 (1) - いじめと共同性の病理         | いじめ、同調、沈黙する第三者                               |
| 第5回       | 臨床社会学の視界 (2) - アディクションとライフスタイルの歪み | アディクション、依存症、共依存、習慣的行動、学習                     |
| 第6回       | 臨床社会学の視界 (3) - ジェンダーの病い           | ジェンダー、構造的暴力、女性性と男性性、ハラスメント                   |
| 第7回       | 臨床社会学の視界 (4) - ひきこもりと脱青年期の課題      | 脱青年期、社会的ひきこもり、就労支援、自立                        |
| 第8回       | 臨床社会学の視界 (5) - 家庭内暴力と親密さ          | 子ども虐待、ドメスティック・バイオレンス、老人虐待者、親密圏               |
| 第9回       | 臨床社会学の視界 (6) - 修復的司法と少年非          | 被害者の権利、厳罰化、修復的司法                             |
| 第10回      | 臨床社会学の視界 (7) - 治療共同体と更生           | 治療的司法、更生、社会内処遇                               |
| 第11回      | 臨床社会学の視界 (8) - 社会的差別              | 社会的差別、インクルージョン (社会的排除)、ソーシャルインクルージョン (社会的包摂) |
| 第12回      | 臨床社会学の応用 (1) - 死をめぐる社会病理          | 尊厳死、自殺、QOL                                   |
| 第13回      | 臨床社会学の応用 (2) - 臨床化する社会 -          | リスク、社会管理、社会の臨床化                              |
| 第14回      | 臨床社会学の可能性 - まとめとして -              | 対人援助学、当事者、質的記述                               |

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

テキストは使用しません。授業でその都度配布するレジュメにもとづきすすめます。関連する資料もその都度配布します。なお、その資料を読んでおくように指示することがあります。さらに、その主題にあわせて参考文献も紹介します。授業外で自習するためのものです。

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

| 種別 / Kind | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc. |
|-----------|-----------------|-------------------------------|
| レポート      | 60 %            |                               |
| 日常点       | 40 %            |                               |

日常点とは、コミュニケーションペーパーによる授業への応答を意味します。単元のまとまり毎にコミュニケーションペーパーを使って実施する予定です。受講生数にもよりますが、数回程度になります。

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

メディアで報道されることの多い話題が臨床社会学には多いのですが、メディアの報道を批判的に読み解くことが必要です。新聞などをよく読むことをおすすめします。臨床社会学で扱う主題はどのように報じられ、関心を持たれているのについて、批判的に吟味するように心がけておく、授業の内容が身近になると思います。

## 教科書 / Textbooks

## 参考書 / Reference Books

**書名 / Title****出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment**

ドメスティック・バイオレンスと家族の病理

中村 正／作品社／／

その他、担当者の書いたものとして、『家族のゆくえ』（人文書院）、『「男らしさ」からの自由』（かもがわ出版）、『なぜ夫は、愛する妻を殴るのか』（ダットン著中村正訳、作品社）、『家族の暴力をのりこえる』（かもがわ出版）、『京都発NPO最前線』（京都新聞社）などがあります。

**参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course****その他 / Others**

## 老人福祉論 S S 老人福祉論 I S S 老人福祉論 SG

10773

担当者名 / Instructor 高橋 正人

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Description

わが国の高齢者福祉制度、サービスに関する基礎知識とそこにおける問題点について講じる。また高齢者の介護問題を中心にして、在宅福祉の展開過程をたどりながら、わが国の高齢者福祉のあり方を福祉先進国といわれる諸外国の高齢者福祉事情と比較しながら検討する。とくに公的介護保険制度の導入にかかわる諸動向について述べ、そこにおける問題点や課題を明らかにする。

## 到達目標 / Focus and Goal

わが国の高齢者福祉施策の史的展開について学び、かつ諸外国との比較の視点より高齢者福祉の現状をとらえる。さらにそれらを通して高齢者福祉の現代的課題が文化・社会・政治・経済などと連関する社会問題であることを理解する。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

## 授業スケジュール / Schedule

| 授業日 (第N回) | テーマ / Theme      | キーワード / Key Word |
|-----------|------------------|------------------|
| 1         | 高齢者福祉の考え方        | 福祉ニーズと資源         |
| 2         | 人口高齢化と高齢者問題の予見   | 高齢化の日本の特殊性       |
| 3         | 家族変化と高齢者問題の現出    | 「家」制度と核家族化       |
| 4         | 高齢者福祉制度の成立       | 高度経済成長と老人福祉法制定   |
| 5         | 高齢者福祉制度と福祉見直し論   | 経済停滞と日本型福祉社会論    |
| 6         | 高齢者福祉と在宅福祉の考え方   | ノーマライゼーションの潮流    |
| 7         | 高齢者福祉と在宅福祉の展開    | 在宅福祉サービス         |
| 8         | 高齢者福祉と施設         | 施設福祉サービス         |
| 9         | 高齢者福祉と地域         | 自助化、多元化、分権化      |
| 10        | 高齢者保健福祉推進10ヶ年戦略  | 高齢者福祉施策と税財源      |
| 11        | 高齢者福祉と介護保険の成立    | 福祉理念と財源          |
| 12        | 高齢者福祉と介護保険の問題点   | 「介護の社会化」の課題      |
| 13        | 高齢者福祉と介護保険の課題・展望 | 政治・経済と高齢者福祉      |
| 14        | 高齢者福祉の未来         | 市民社会と高齢者福祉       |

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

新聞・雑誌等に掲載される高齢者福祉関連の記事に関心をもつこと。自分の住んでいる地域の高齢者福祉について調べたりすること。

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

| 種別 / Kind | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc. |
|-----------|-----------------|-------------------------------|
| 定期試験      | 70 %            |                               |
| レポート      | 10 %            |                               |
| 日常点       | 20 %            |                               |

定期試験は講義でとりあげた範囲内から出題されるので、各回の講義における課題をよく把握すること。

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

「老い」というものを想像し、「自分の問題」としてほしい。

## 教科書 / Textbooks

## 参考書 / Reference Books

| 書名 / Title               | 出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment |
|--------------------------|----------------------------------------------------------|
| 社会福祉士養成講座 (第2巻) 「老人福祉論」  | ／中法法規出版／／標準的な構成と内容をもつテキスト                                |
| 最新介護福祉全書 (8巻) 「老人の心理と援助」 | ／メジカルフレンド社／／標準テキストだが、すこし個性的な内容をもつ                        |
| 体験ルポ世界の高齢者福祉             | 山野井和則／岩波新書／／わかりやすい高齢者福祉のレポート                             |
| 高齢者医療と福祉                 | 岡本祐三／岩波新書／／福祉と医療の視野をあわせもつ高齢者の本                           |

## 参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

## その他 / Others

## 労働社会学 S S 労働社会学I S

13029

担当者名 / Instructor 辻 勝次

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Description

私たちの働く世界は目下大きな転換期を迎えている。これまで日本の経営と労働を根本的に規定していた年功制と長期雇用の枠組みは修正と変容を迫られ、成果主義と短期雇用に変わりつつある。この局面でニート、フリーター、非正規雇用などの社会問題が発生している。このような労働・勤労・職業世界の大転換期をどう乗り越えていくか、個人の職業能力とキャリアという概念を中心に考えていく。

## 到達目標 / Focus and Goal

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

## 授業スケジュール / Schedule

| 授業日 (第N回) | テーマ / Theme             | キーワード / Key Word          |
|-----------|-------------------------|---------------------------|
| 第1回       | 講義の目的と到達目標              | 労働 職業 仕事                  |
| 第2回       | 今何が起きているのか 1 新しい働き方     | フリーター 派遣 請負 非正規雇用         |
| 第3回       | 今何が起きているのか 2 新しい賃金形態    | 成果主義 能力主義 自己啓発            |
| 第4回       | これまでの働き方 1 年功制          | 年功賃金 OJT 年功昇進 会社任せのキャリア形成 |
| 第5回       | これまでの働き方 2 長期(終身)雇用     | 企業社会の人生設計管理 人生の標準時間表      |
| 第6回       | 1990年代の変化 1 労働市場の流動化    | 企業内階層分化 正規社員と非正規社員        |
| 第7回       | 1990年代の変化 2 成果主義賃金の登場   | 成果主義の実施とその失敗 富士通の場合       |
| 第8回       | 個人と職業 1 キャリアとは何か        | 職業能力と職業経歴                 |
| 第9回       | 個人と職業 2 キャリアパターン        | 安定したキャリアと不安定なキャリア         |
| 第10回      | ホワイトカラーの職業生涯 事務員の場合     | 職業能力の一貫性 キャリア・アンカー        |
| 第11回      | ホワイトカラーの職業生涯 技術者の場合     | 領域への固執と挑戦                 |
| 第12回      | ブルーカラーの職業生涯 自動車組み立て工の場合 | 努力と適応                     |
| 第13回      | 女子事務員の職業生涯 結婚退職に逆らって    | ジェンダーと職域分業                |
| 第14回      | よい仕事を求めて                | 職業の3要素 主体的なキャリア形成         |
| 第15回      | 全体の総括                   | 今何が起きているのか 何をすべきなのか       |

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

新聞は多種多様な雇用、労働、職業事情を報道している。それらの記事を切り抜いて、内容についての短い感想をまとめてみることを勧めたい。また父親や友人の仕事についての話をきかせてもらうのがよい。

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

定期試験 100%  
レポート なし  
日常点 出席はとらない  
その他 なし

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

就活は目前に迫っている。この講義を通じてよい仕事とは何か、どうしたら手にできるか考えることにしよう。

## 教科書 / Textbooks

使用しない。代わりに毎回レジュメを配布する。

## 参考書 / Reference Books

- ・現代と社会の教科書 立命館大学現代社会研究会編『21世紀の日本を見つめる』晃洋書房 2004年
- ・飯田哲也編『基礎社会学講義』学文社 第3章「職業と職場関係」
- ・その他の参考書は教室で指示する。

## 参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

## その他 / Others

## 老年社会学 S S 老人福祉論II S S 老年社会学 SG

10382

担当者名 / Instructor 高橋 正人

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Description

高齢化にともなう社会変化は多様である。高齢化社会の問題に対するアプローチも人口、雇用・就業、家族、医療保健、社会福祉、社会活動・生涯学習、生きがい等と多様である。本講義では高齢化社会の問題を諸データを通じて多角的にとらえつつも、そこに通底する意味を探る。その際、高齢期の問題が世代をこえた課題として実感される接点を提示する。また現代の「老い」の意味を探ることをめざし、社会学的幸福論を主テーマとしたい。

## 到達目標 / Focus and Goal

社会学的視点にたち、高齢期に関する諸問題現象を科学的なデータを用いて考察し、その因果的連関を説明する。さらには現代社会における「老いて生きる」ことの意味を自分の問題として探求する。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enrolle in, but not required to

老人福祉論

## 授業スケジュール / Schedule

| 授業日 (第N回) | テーマ / Theme      | キーワード / Key Word |
|-----------|------------------|------------------|
| 1         | 「老い」を想像する        | 言語性能力と動作性能力      |
| 2         | 高齢期のこころと身体       | 個人差、「老い」の多様性     |
| 3         | 高齢期の世代的特性        | 無限定性、世代性         |
| 4         | 高齢期の健康生活と認知症     | アルツハイマー型、脳血管性    |
| 5         | 高齢期の経済生活と年金      | 階層格差、年金の社会的機能    |
| 6         | 高齢期の家族生活と老親扶養慣行  | 「家」規範と家族変化       |
| 7         | 高齢ねたきりと介護問題      | 人口高齢化と介護ニーズ      |
| 8         | 高齢期の無為と生きがい・社会活動 | 喪失のライフイベント       |
| 9         | 高齢期の孤独・孤立        | 社会的疎外            |
| 10        | 高齢期の自殺と虐待        | 自殺率と社会類型         |
| 11        | エイジズム            | 「老い」の価値観、「老い」の神話 |
| 12        | 高齢期の社会的役割        | 活動性と離脱性、受容とあきらめ  |
| 13        | 高齢期の社会的寄与        | 「世代性」            |
| 14        | 「老い」の意味を考える      | 発達と回帰            |

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

日常生活の中で、高齢者や高齢者にかかわる事柄に関心をむける。また新聞・雑誌等の高齢者に関する記事を読む際は、「高齢者がどのような生活をしているのか」「高齢者に何が起きているか」を探索しながら読む。

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

| 種別 / Kind | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc. |
|-----------|-----------------|-------------------------------|
| 定期試験      | 70 %            |                               |
| レポート      | 10 %            |                               |
| 日常点       | 20 %            |                               |

定期試験は講義でとりあげた範囲内から出題されるので、各回の講義における課題をよく把握すること。

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

「老い」というものを想像し、「老い」に関する問題を「自分の問題」としてとらえてほしい。

## 教科書 / Textbooks

## 参考書 / Reference Books

| 書名 / Title | 出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment |
|------------|----------------------------------------------------------|
| エイジングの社会学  | ／日本評論社／／「老い」に関する社会学的な視点を確保するのに役立つ                        |
| 図説高齢者白書    | ／全国社会福祉協議会／／「老い」に関する諸現象の客観データをみることができる                   |

## 参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

## その他 / Others



## 経済学入門 N S 経済学 I N

11198

担当者名 / Instructor 深澤 敦

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Description

最近の「ホリエモン」の華々しい登場と本年1月における彼の逮捕という衝撃的な事件によって今日の日本の証券や金融市場の諸問題が一般の人々の強い関心の的となっています。しかし、経済の中でも金融現象はなかなか理解の難しい問題であり、また今日いわゆる「実体経済」からますます乖離する傾向があります。しかも、経済のグローバル化の飛躍的進展とともに、その影響をよりまともに受けやすいのが金融の領域です。

この経済学入門では、このような金融現象を基本から理解できるようにするために、そもそも「貨幣」とは何かから始まって証券市場と金融機関の関係などに至るまでの基礎的理論を学ぶことができるような講義にする予定です。

## 到達目標 / Focus and Goal

- ・まず経済学の基礎的な概念に関する理解を深めること。
- ・その上で今日の経済現象一般を把握するのに必要な最低限の知識を習得すること。
- ・さらに金融現象という難しい問題にも尻込みせずに取り組めるような分析力を養うこと。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

入門科目ですから事前に履修しておくことが望まれるような科目は特別にありませんが、日々のテレビや新聞などで報道されている経済関係のニュースには常に注目しておくことが望めます。

## 授業スケジュール / Schedule

| 授業日 (第N回) | テーマ / Theme               | キーワード / Key Word           |
|-----------|---------------------------|----------------------------|
| 1         | I) 経済学の基礎的理論 1) 商品・貨幣とは何か | 貨幣、通貨、紙幣                   |
| 2         | 2) 国際基軸通貨ドルの凋落            | 固定相場制、ニクソン・ショック、変動相場制      |
| 3         | 3) バブルの経済学                | ブラザ合意、ドル安・円高、転換社債          |
| 4         | 4) 平成不況の経済学               | 価格破壊、流通革命、三つの過剰            |
| 5         | II) 金融の経済学 1) 金融とは何か      | 資金の融通、信用創造機能、実体経済          |
| 6         | 2) 信用収縮の現象                | アジア通貨・経済危機、貸し渋り、貸し剥し       |
| 7         | 3) 銀行の機能と役割               | 銀行券、預金通貨、預金創造              |
| 8         | 4) 銀行貸出の機能と役割             | 手形割引、商業信用、銀行信用             |
| 9         | 5) 銀行信用の「架空性」と「現実性」       | 貨幣請求権、支払約束、無準備の預金債務        |
| 10        | 6) 金融市場の構造と機能             | 有担保コール、無担保コール、オープン市場       |
| 11        | 7) 短期金融市場の発展              | 債権現先市場、CD市場、TB・FB市場        |
| 12        | 8) インターバンク市場              | 気配値制、オファー・ビッド制、無担保コール市場    |
| 13        | 9) 証券市場と金融機関              | 証券保管振替制度、証券価格、擬制資本         |
| 14        | 10) 証券業者の制度的機構            | ディーラー業務、ブローカー業務、アンダーライター業務 |
| 15        | 定期試験                      |                            |

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

上述のように日々の経済ニュースに常に注目するとともに、それらの経済現象について疑問点などをノートにとって考える習慣をつけること。

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

| 種別 / Kind | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc.               |
|-----------|-----------------|---------------------------------------------|
| 定期試験      | 80 %            | 講義の理解度と経済問題の分析力を評価                          |
| レポート      | 10 %            | 各自に関心のある経済テーマについてのレポートを提出してもらい、その明解さによって評価  |
| 日常点       | 10 %            | コミュニケーション・ペーパーなどを日常的に提出してもらい、その思考力の深さによって評価 |

成績評価は定期試験を中心としますが、講義の際に提出してもらったレポートやコミュニケーション・ペーパーなども加味して評価しますので、日常的にも講義に積極的に参加することが求められます。

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

経済学は難しいという「偏見」にとらわれずに初歩的なことから確実に学習するという粘り強い精神力を持って下さい。

## 教科書 / Textbooks

教科書・テキストとしては特別に指定しません。毎回の講義毎にレジュメと資料を配布します。

## 参考書 / Reference Books

| 書名 / Title    | 出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment |
|---------------|----------------------------------------------------------|
| 金融規制はなぜ始まったのか | 安部悦生[編著] / 日本経済評論社、2003年 /                               |

貨幣・金融論の現代的課題

建部政義 著／大月書店、1997年／／

現代の金融[上] 現代金融の制度と理論

谷田庄三・野田正穂・久留間健 編／大月書店、1992年／／

最近、ハウツウものを初めとして金融関係の本は大変多く出版されていますが、金融の基礎的理論と歴史に関する上記の著作は大変参考になります。

**参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course**

<http://www.meti.go.jp/>  
<http://www.nikkei.co.jp/>  
<http://www.oecd.org/>

**その他 / Others**

夜間遅くの授業で出席すること自体がかなりの困難を伴うと思いますが、その分できるだけ楽しい雰囲気の中で双方向の講義になるようお互いに努力することが重要だと思います。

## 現代社会入門 N S 現代社会 N

11156

担当者名 / Instructor 森重 拓三

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Description

授業の前半は、「人と社会はつくりつつ、つくられる関係にある」という社会学の基本的な考え方を、M.ウェーバー及びE.デュルケームの著作から学ぶ。後半は、それらの方法を応用する形で現代社会の諸相の理解を目指す。

## 到達目標 / Focus and Goal

現代社会を理解するための社会的な視点の獲得を目指す。具体的には、1.M.ウェーバーとE.デュルケームの方法論を理解すること、2.それらの方法に基づき受講生それぞれが任意で選んだ社会現象を考察すること。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

## 授業スケジュール / Schedule

| 授業日 (第N回) | テーマ / Theme          | キーワード / Key Word              |
|-----------|----------------------|-------------------------------|
| 第1回       | 社会学の領域               | 社会の概念                         |
| 第2回       | 社会学の応用の流れ            | 社会現象 (考察対象) の選択、定義、説明方針の設定、考察 |
| 第3～7回     | 社会実在論・デュルケームの考え方     | 社会的事実、社会的事実としての自殺             |
| 第8～11回    | 社会名目論・ウェーバーの考え方      | 社会的行為、社会的行為としての職業労働           |
| 第11～13回   | 社会実在論と社会名目論の社会現象への応用 | 日本の職業倫理、日本の選抜試験制度             |
| 第14回      | まとめ                  |                               |

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

| 種別 / Kind | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc. |
|-----------|-----------------|-------------------------------|
| レポート      | 50 %            | 社会学的方法の社会現象への応用の適切さ           |
| 日常点       | 50 %            | 社会学的方法の理解度 (授業内でのレポート)        |

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

## 教科書 / Textbooks

## 参考書 / Reference Books

| 書名 / Title            | 出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment |
|-----------------------|----------------------------------------------------------|
| 自殺論                   | E. デュルケーム / 中公文庫 // 社会実在論の考え方とその応用方法を学ぶ                  |
| プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神 | W. ウェーバー / 岩波文庫 // 社会名目論の考え方とその応用方法を学ぶ                   |
| 物語のなかの社会とアイデンティティ     | 佐藤嘉一 / 晃洋書房 // 応用社会学の理解を深める                              |
| 日本のメロクラシー             | 竹内洋 / 東京大学出版会 // 実在論的な考えの現代社会現象への応用の理解を深める               |
| 日本人の職業倫理              | 嶋田あき子 / 有斐閣 // 名目論的な考えの社会現象への応用の理解を深める                   |

## 参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

## その他 / Others

## 社会学入門 N S 社会学概論I NA

11178

担当者名 / Instructor 尾場瀬 一郎

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Description

- ・学説的知識よりも、社会的な考え方、ものの見方を身につける
- ・授業で扱うトピックなど：マルクス、ウェーバー、デュルケイム等の基本的考え方を紹介するとともに、教育問題や現代日本の社会状況等を、議論しながら考えていきたい

## 到達目標 / Focus and Goal

社会学説の理解や社会的諸問題の把握を通じて、社会的なものの見方を習得する

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

哲学や社会思想に関する科目

## 授業スケジュール / Schedule

| 授業日 (第N回) | テーマ / Theme     | キーワード / Key Word                                                  |
|-----------|-----------------|-------------------------------------------------------------------|
| 第1回       | 社会問題と社会学の役割     | 生活 実存的課題 社会問題 社会学 マルクス<br>ウェーバー デュルケイム                            |
| 第2回       | 社会学的想像力とはなにか？   | チャールズ・ライト・ミルズ 「社会学的想像力」 異としての社会制度 カール・マンハイム 「イデオロギーとユートピア」 心理主義批判 |
| 第3回       | マルクスの課題と方法      | 「ドイツ・イデオロギー」 史的唯物論 「経済学批判」 序言 土台 上部構造                             |
| 第4回       | マルクスの近代社会批判     | 疎外 物象化 資本主義 市場 階級 イデオロギー 社会主義                                     |
| 第5回       | ウェーバーの課題と方法     | 価値自由 客観性 価値判断 理念型 方法論的個人主義 理解社会学                                  |
| 第6回       | ウェーバーの合理化批判     | 「プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神」 エートス 合理化 計算可能性 予測可能性 意図せざる結果 末人 ニーチェ      |
| 第7回       | レポートの書き方について    | レポート 作文 論文                                                        |
| 第8回       | デュルケイムの課題と方法    | 「社会学的方法の基準」 実証主義 モノとしての社会学 方法論的全体主義                               |
| 第9回       | デュルケイムの近代社会観    | 「自殺論」 アノミーの自殺 自己本位的自殺 集団本位的自殺 宿命的自殺                               |
| 第10回      | 現代人の不安と孤独       | ウェーバー プロテスタンティズム 世界の脱魔術化 神の死 サルトル 実存主義                            |
| 第11回      | 能力主義の陥穽         | 道具的理性 であること すること 自己責任 自助努力                                        |
| 第12回      | 近代社会における学校の機能   | ブルデュー 「再生産」 文化資本 学歴主義 個性 教育基本法「改正」                                |
| 第13回      | 企業社会と労使関係       | 会社本位主義 日本的経営 バブル崩壊 トヨタイズム 年功主義 能力主義管理                             |
| 第14回      | 新自由主義とファシズムの芽   | フロム 「自由からの逃走」 市場絶対主義 安心のファシズム ブチ・ナショナリズム                          |
| 第15回      | グローバリゼーションとその帰結 | グローバリゼーション 福祉社会 構造改革 格差社会 新たな階級社会                                 |

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

理論への関心をもつと同時に、現代の社会状況に敏感であってほしい

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

| 種別 / Kind | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc.             |
|-----------|-----------------|-------------------------------------------|
| レポート      | 60 %            | 2,000字の期末レポート(一回) ＊中間レポートを出していない人は、提出できない |
| 日常点       | 20 %            | 200字の感想レポート(2回ほど)                         |
| その他       | 20 %            | 400字の中間レポート(一回)                           |

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

- ・スケジュールは、大雑把な流れ程度に考えておいて欲しい
- ・また本講義では、理解を促進するために適宜、ビデオ等を使用する

・本講義は双方向性を重視するため、聴講生の主体的参加、および発言の機会を多く設けたい

**教科書 / Textbooks**

基本的に使用しない(毎回、レジュメを配布する)

**参考書 / Reference Books**

| 書名 / Title | 出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment |
|------------|----------------------------------------------------------|
| 『社会学的想像力』  | ミルズ／(紀伊国屋書店)／／                                           |
| 『自由からの闘争』  | フロム／(東京創元社)／／                                            |
| 『市場独裁主義批判』 | ブルデュー／(藤原書店)／／                                           |

**参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course**

特になし

**その他 / Others**

\*一回目の講義の欠席、あるいは就職活動を理由にした、中間レポートの不提出等については、一切考慮しない。

## 社会文化論入門 N S 文化論I N

11215

担当者名 / Instructor 池田 知加

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Description

文化とはあまりにも「あたりまえ」すぎて、ふだんは意識しないために、かえって目にみえにくくなるものです。この講義では、自己、家族など日常的な事柄を出発点に社会学的な分析を加えることによって、今まで「あたりまえ」と思っていたことの背後にある文化のあり方を再発見していくことを目標とします。

## 到達目標 / Focus and Goal

社会学的な視点から、現代の社会文化現象について独自に問いを立て、解釈、分析できるようになること。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

## 授業スケジュール / Schedule

| 授業日 (第N回) | テーマ / Theme                       | キーワード / Key Word |
|-----------|-----------------------------------|------------------|
| 第1回       | イントロダクション                         |                  |
| 第2回       | 近代社会と個人                           | E.フロム 自由からの逃走    |
| 第3回       | 人生目標-1 人生目標の変遷                    | 立身出世主義 個性主義      |
| 第4回       | 人生目標-2 個性的な人生目標の問題点               | 個性               |
| 第5回       | 人生目標-3 フリーターという生き方                | フリーター 失業         |
| 第6回       | 人生目標-4 若者の危機と家族                   | パラサイト・シングル 自立    |
| 第7回       | 家族-1 「家族」とは？：「近代家族」の誕生と戦後日本の家族    | 近代家族             |
| 第8回       | 家族-2 戦後日本家族のゆらぎ①「男性稼ぎ主型」家族のリスク    | 性別役割分業 日本型福祉社会   |
| 第9回       | 家族-3 戦後日本家族のゆらぎ②近代家族を支える「愛情」の意味変容 | 愛情 ジェンダー         |
| 第10回      | 家族-4 家族の個人化                       | 個人化 U.ベック        |
| 第11回      | 現代文化-1 「もの」から「こころ」へ               | 脱物質主義            |
| 第12回      | 現代文化-2 宗教の社会的機能                   | 世俗化 新新宗教         |
| 第13回      | 現代文化-3 都市とメディア                    | R.セネット J.ハーバーマス  |
| 第14回      | まとめ                               |                  |

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

| 種別 / Kind | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc.            |
|-----------|-----------------|------------------------------------------|
| レポート      | 60 %            | 授業で扱ったテーマから自由に選択して、独自の考察を加えて論述する。4000字程度 |
| 日常点       | 40 %            | 討論、コメントなど総合的に評価する。                       |

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

参考文献については、毎回の講義で指示します。

## 教科書 / Textbooks

教科書はなし。レジュメを使用します。

## 参考書 / Reference Books

| 書名 / Title                 | 出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment |
|----------------------------|----------------------------------------------------------|
| 『希望格差社会』                   | 山田昌弘／筑摩書房／4480863605／                                    |
| 『若者が「社会的弱者」に転落する』          | 宮本みち子／洋泉社新書／4896916786／                                  |
| 『人生相談「ニッポン人の悩み」 幸せはどこにある？』 | 池田知加／光文社新書／4334032966／                                   |

## 参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

## その他 / Others

授業は基本的に講義形式ですすめる予定ですが、受講生からのコメントも多く求めます。

## 社会のひずみ N S 社会病理学I N

10678

担当者名 / Instructor 崎山 治男

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Description

本講では、多々ある社会問題をオムニバス形式で取り上げる。その中で、社会の問題と個人の問題とが交錯する現代社会への諸問題への洞察を深めることを目的とする。パート1では、主に差別問題を取り上げながら、それを生み出す社会的背景と、克服する際に持ち出される心をめぐる諸言説を検討する。社会と個人のひずみが重なり合う中で現代の差別がなされていることを示す。パート2では、主に現代社会に生きる私たちが、感情労働を行い、自分らしい「心」を求めてしまう心性を、社会背景を踏まえながら検討する。その中で、社会や個人のひずみを正そうとする知によって社会統制がなされていることを示す。パート3では、主にNPO・ボランティア活動を取り上げながら、その中で一見すると「正しい」と見なされがちな他者への支援を再検討する。これらを通して、社会のひずみを正す他者との共生を考察する。

## 到達目標 / Focus and Goal

- ・現在、この国で起きている様々な病理現象について理解を深める。
- ・病理現象を産み出している「社会のひずみ」についての社会的な見方を身につける。
- ・どのような「支援」が可能なのか、構想力を身につける。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

社会問題だけではなく、個人の「心」の問題や、他者の支援・介助にも関心を持つ受講生の履修を期待する。専門科目「社会病理学」、「社会福祉論」等への橋渡しとなる。

## 授業スケジュール / Schedule

| 授業日 (第N回) | テーマ / Theme                                           | キーワード / Key Word |
|-----------|-------------------------------------------------------|------------------|
| 第1回       | イントロダクション                                             |                  |
| 第2回       | Part1:現代「社会」のひずみ・「日本」という境界とは？：沖縄における基地問題をめぐって         |                  |
| 第3回       | 生まれた所が持つ意味：部落差別と人種差別                                  |                  |
| 第4回       | 「普通」と「異常」の境界とは？：障害者差別をめぐって                            |                  |
| 第5回       | 「家族」を背負うこと：トラウマと現在                                    |                  |
| 第6回       | Part2:現代社会の「個人」のひずみ・なぜ「家族」に問題を求めるのか？：アダルト・チルドレンという生き方 |                  |
| 第7回       | 「心」を操作する私たち：感情管理に見る心のひずみ                              |                  |
| 第8回       | 「笑顔」・「優しさ」を商品にすること：感情労働と感情知の生産                        |                  |
| 第9回       | 「優しさ」に疲れる時：ケアと感情労働                                    |                  |
| 第10回      | 「心」への囚われ／「心」への解放：「本当の」自分を巡るゲーム                        |                  |
| 第11回      | Part3:共生への実践・「支え合う」社会が来ているのか？：ボランティア活動と「親切」を巡る言説      |                  |
| 第12回      | 他者を支えること・他者に支えられること：ボランティア活動の展開                       |                  |
| 第13回      | 「助け合う」ことの難しさ：被害者化過程での家族・友人・社会                         |                  |
| 第14回      | 「愛情」の落とし穴：愛情という名の支配                                   |                  |
| 第15回      | まとめ：他者を「支える」こととは何か？                                   |                  |

## 学部科目 / Undergraduate Courses 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## 大学院科目 / Graduate Courses 授業の方法 / Course Style

- ・毎回、参考文献を提示するので、それを読むこと。
- ・パート毎に、自分なりの考えを纏めること。

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

| 種別 / Kind | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc. |
|-----------|-----------------|-------------------------------|
| レポート      | 70 %            | 3つのパートについての自分なりの考えによって評価する。   |
| 日常点       | 30 %            | 出席2/3程度で単位への影響を考慮する。          |

・授業形態等は、夜間講義であるので受講生を見て勘案する。

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

- ・社会病理は社会そのものを映し出す鏡である。本講義で取り上げるものばかりではなく、新聞・ニュース等で様々な社会病理を「知る」こと。

**教科書 / Textbooks**

特に指定しない。レジュメ、資料 (映像資料も含む) を適宜配布する。

**参考書 / Reference Books**

各回ごとのテーマに即して紹介するが、各パートでの纏まった考察として、  
栗原彬編『講座差別の社会学1～4』弘文堂  
拙著『心の時代と自己』勁草書房  
三井さよ『ケアの社会学』勁草書房  
安積遊歩他『生の技法』藤原書店  
を挙げておく

**参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course****その他 / Others**



## 歴史と人間 N S 社会史I N

12290

担当者名 / Instructor 有賀 郁敏

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Description

授業の概要 講義のテーマ: 歴史における民衆と身体文化、シンボルと記憶、公と私

本講義では数ある歴史事象のなかから、身体文化をめぐる問題を題材に数名の歴史上の人物を選びだし、これらの人物が時代のなかでなした営為について、その歴史的な意味を考察していく。また同時に、通常、歴史叙述には固有名詞としてはほとんど登場しない社会の下層階級、女性など、総じて民衆と言われている人々の活動にも光をあて、こうした人々の歴史における意義も併せて考えてみたい。また、歴史のなかでシンボルや記憶が果たす役割についても考察する。近年、公と私の問題が様々な領域で議論されているが、本講義では歴史のなかで公と私の問題が、どのように理解されてきたのかについても論及する。

## 到達目標 / Focus and Goal

- ① 歴史から現代の諸問題のありようを捉える
- ② 身体と諸権力の関係を理解する

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

## 授業スケジュール / Schedule

| 授業日 (第N回) | テーマ / Theme                        | キーワード / Key Word       |
|-----------|------------------------------------|------------------------|
| 第1回       | オリエンテーション                          | オリエンテーション、講義の進め方、評価    |
| 第2回       | 「歴史としての身体」—R.ポーターらによる歴史と身体文化の関連を軸に | R.ポーター、ニューヒストリー、身体史    |
| 第3回       | プラトンと身体文化:「身体・知・道徳」                | プラトン、カロカガディア           |
| 第4回       | ヨーロッパ啓蒙主義の身体文化①:医学・病理学史から見えてくるもの   | 啓蒙主義、医学、伝染病、規律         |
| 第5回       | ヨーロッパ啓蒙主義の身体文化②:フランス革命と身体          | フランス革命、ルソー、フーコー、エリアス   |
| 第6回       | 歴史におけるシンボルと記憶                      | モニュメント、祝祭空間、民族、ナショナリズム |
| 第7回       | アソシエーションの成立と公共性①                   | アソシエーション、公共性、親密圏       |
| 第8回       | アソシエーションの成立と公共性②                   | 結社運動、国民国家、対抗運動         |
| 第9回       | 日本における公と私                          | 公、私、行政国家、世間            |
| 第10回      | 近代日本の国家と身体①:近代学校の成立                | 産育、教育、公益、公衆            |
| 第11回      | ビデオ                                | 森有礼、運動会、修学旅行           |
| 第12回      | 近代日本の国家と身体②:衛生                     | 衛生、後藤新平                |
| 第13回      | 近代日本の民衆文化                          | 通俗道徳、出口なお、村の遊び日        |
| 第14回      | 戦間期における身体観                         | 厚生省、体力章検定、体力の時代        |
| 第15回      | まとめ                                |                        |

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

自学自習を課題 (そして評価項目) として受講生に要請する。

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

| 種別 / Kind | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc.        |
|-----------|-----------------|--------------------------------------|
| レポート      | 40 %            | 定期試験に代るレポート: 講義全体の把握、問題意識の提示         |
| 日常点       | 30 %            | 講義中に実施するミニレポート (5回程度): 講義内容に把握と問題の発見 |
| その他       | 30 %            | 自学自習の成果物                             |

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

自学自習をしっかりと実施すること。

## 教科書 / Textbooks

特に使用しない

## 参考書 / Reference Books

- \* 日本の近代化と民衆思想、安丸良夫、平凡社ライブラリー、4-582-76306-5
  - \* 啓蒙の世紀と文明観、弓削尚子、山川出版、4-634-34880-2
- 参考文献は多数存在するが、詳細はオリエンテーション時に配布する。

## 参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course



## アイデンティティ論 N S 人間論I N

12291

担当者名 / Instructor 立岩 真也

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Description

人の何が気にされたり、使われたり、捨てられりするの、それがうれしくない人がいるとして、それをやめることができるのか、できないとしたらかわりに何ができるのか、そんなこと、等、について、考えてきたこと、まだきちんと考えられていないことを、お話しする。

## 到達目標 / Focus and Goal

おもしろいと思えることがあるとよいと思います。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

とくになし。

## 授業スケジュール / Schedule

| 授業日 (第N回) | テーマ / Theme    | キーワード / Key Word |
|-----------|----------------|------------------|
|           | 異なりについて        |                  |
|           | できる／できないについて・1 |                  |
|           | できる／できないについて・2 |                  |
|           | 主体になる・1        |                  |
|           | 主体になる・2        |                  |
|           | 働くこと・1         |                  |
|           | 働くこと・2         |                  |
|           | 決めること・1        |                  |
|           | 決めること・2        |                  |
|           | 姿について・1        |                  |
|           | 姿について・2        |                  |
|           | 差別について・1       |                  |
|           | 差別について・2       |                  |
|           | 肯定について・1       |                  |
|           | 肯定について・2       |                  |

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

TAE01303@nifty.ne.jpに履修する人は氏名とアドレスを記したメールをください。予習・復習のためのメールを出します。その多くは、HP内のファイルにリンクされていて、それを読んでもらい、参考にしてもらいます。(以上「教員との連絡方法」の欄の記載と重複。)

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

| 種別 / Kind | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc. |
|-----------|-----------------|-------------------------------|
| レポート      | 100 %           |                               |

レポートを書いてもらいます。1つでよいですが、たくさん書きたい人はたくさん書いてくてもよいです。自分の考えを書いてもらってもよいですが、この科目に関連する本の紹介などでもよいです。後者については、基本的にHPに掲載し、他の人たちの役に立ててもらいます(匿名可、掲載辞退ももちろん可)。

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

たぶん出席はとらないと思いますが、続けて聞かないと、「この人はいったい何をしゃべっているのだろう」と思うかもしれません。

## 教科書 / Textbooks

立岩真也『闘争と遊行』(仮題、2006、青土社)が後期開始までには出版されていると思うので、出版されていればそれを使うと思います。

## 参考書 / Reference Books

| 書名 / Title | 出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment |
|------------|----------------------------------------------------------|
| 『生の技法』     | 安積純子他／藤原書店／489434016X／まず第1章、安積「＜私＞へ」を読んでください。            |
| 『私的所有論』    | 立岩真也／勁草書房／4326601175／高い本です。                              |
| 『弱くある自由へ』  | 立岩真也／青土社／4791758528／介護・介助や障害のことを考えたかったらどうぞ。              |
| 『自由の平等』    | 立岩真也／岩波書店／4000233874／難しいと言う人とわかりやすい言う人がいます。              |
| 『ALS』      | 立岩真也／医学書院／4260333771／買ってください。                            |

とりあえず上には私が書いたもの、共著で書いたものだけ載せさせてもらいました。他はメールとホームページで紹介します。

**参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course**

arsvi.comというHPを運営しています (<http://www.arsvi.com/>)。「立岩真也」で検索すると一番目に出てきます。参考にしてください。この講義に関わらせての使い方については下記「教員との連絡方法」をご覧ください。

**その他 / Others**

とくになし。

## 異文化コミュニケーション N S 比較文化論 N

11803

担当者名 / Instructor ETZRODT CHRISTIAN

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Description

このコースでは、行為者の文化的背景に関連するコミュニケーション理論を提示する。講義では、主に二人の行為者間のコミュニケーションに焦点を当てるが、後半では、コミュニケーションの失敗がもたらした社会問題についても検討する。

## 到達目標 / Focus and Goal

コミュニケーションの理論の基本問題や概念を幅広く理解できる。様々な概念の理論的な関係を述べることができる。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

## 授業スケジュール / Schedule

| 授業日 (第N回) | テーマ / Theme            | キーワード / Key Word                                      |
|-----------|------------------------|-------------------------------------------------------|
|           | 異文化コミュニケーションの基本概念①     | コミュニケーション                                             |
|           | 異文化コミュニケーションの基本概念②     | 文化                                                    |
|           | 異文化コミュニケーション           | インターエスニック・コミュニケーション、インターナショナル・コミュニケーション               |
|           | 外国人の理解                 | 文化パターンの多様性                                            |
|           | 実例: シュッツのThe Stranger  | 経験の多様性                                                |
|           | 実例: シュッツのThe Homecomer | 帰国の経験                                                 |
|           | 異文化間の知覚                | 選択的知覚、ステレオタイプ、偏見                                      |
|           | 言語によるメッセージ             | 言語                                                    |
|           | 非言語によるコミュニケーション        | 身体行動、空間、時間、沈黙                                         |
|           | より効果的なコミュニケーション        | 感情移入、フィードバック                                          |
|           | 多文化主義と文化多元主義           | 多文化主義 (multiculturalism) と文化多元主義 (cultural pluralism) |
|           | 文化的問題に関する国内の事例         | 差別、アノミー                                               |
|           | 文化的問題に関する国際的な事例        | 自民族中心主義                                               |
|           | グループの発表                |                                                       |

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

| 種別 / Kind | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc. |
|-----------|-----------------|-------------------------------|
| レポート      | 50 %            | グループの発表                       |
| 日常点       | 50 %            | 出席と参加                         |
| その他       | 0 %             | 3分の2以上の出席を有効評価の基礎条件とする。       |

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

## 教科書 / Textbooks

| 書名 / Title                | 出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment |
|---------------------------|----------------------------------------------------------|
| 異文化間コミュニケーション入門：国際人養成のために | L.A.サモバー[ほか]著；西田司他訳／聖文社／／                                |
| 異文化とコミュニケーション             | マイケル・H.プロッサー著；岡部朗一訳／東海大学出版会／／                            |

## 参考書 / Reference Books

| 書名 / Title      | 出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment |
|-----------------|----------------------------------------------------------|
| 国際化と異文化理解       | 算文生、飛田就一編／法律文化社／／                                        |
| 異文化コミュニケーション・入門 | 池田理知子、E.M.クレーマー著／有斐閣／／                                   |

## 参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

## その他 / Others

## 家族論 N S 現代家族論 N

11199

担当者名 / Instructor 鈴木 未来

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Description

現代日本の家族生活におけるさまざまな問題状況を、「全体としての家族」の実態から捉える力を養うことを目的とする。具体的には戦後の家族生活の変化動向を踏まえたうえで、さまざまな家族論が家族生活の変化動向をどのように説明しているのかを考察する。そして今日提起されている家族論が、現代の家族生活における具体的現実をどのように反映させるかたちで論じられているかを、「全体としての家族」の実態をふまえながら検討し、家族生活の将来を展望する。

## 到達目標 / Focus and Goal

現代日本の家族生活のトータルな把握とそれに基づく特定の家族のかたちに限定されない家族問題の説明がおこなえるようになること。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

家族社会学

## 授業スケジュール / Schedule

| 授業日 (第N回) | テーマ / Theme                    | キーワード / Key Word       |
|-----------|--------------------------------|------------------------|
| 第1回       | イントロダクション (1) 本講義の概要           | 批判 ゆたかさ                |
| 第2回       | イントロダクション (2) 多様な家族論           | 多様化 画一化                |
| 第3回       | 現代日本の家族生活の変化 (1)               | 戦後復興期 民主化              |
| 第4回       | 現代日本の家族生活の変化 (2)               | 高度経済成長期 集団分化           |
| 第5回       | 現代日本の家族生活の変化 (3)               | ポスト成長期 生活の社会化 休火山的問題状況 |
| 第6回       | 家族論の流れ (1)                     | 民主化課題 家族社会学            |
| 第7回       | 家族論の流れ (2)                     | 内部分析 家族病理 家族問題         |
| 第8回       | 家族論の流れ (3)                     | 生活構造論 女性               |
| 第9回       | 現代日本における家族論1—家族社会学の視点から (1)    | 思想 現実認識 核家族論 核家族       |
| 第10回      | 現代日本における家族論1—家族社会学の視点から (2)    | 女性論 主婦論争               |
| 第11回      | 現代日本における家族論2—新たな視点の取り入れ (1)    | <近代家族>パラダイム 女性学 フェミニズム |
| 第12回      | 現代日本における家族論2—新たな視点の取り入れ (2)    | 現実 理論 実践 家族政策          |
| 第13回      | 家族生活の将来を展望する (1) —「全体としての家族」とは | 本質 現実的意味               |
| 第14回      | 家族生活の将来を展望する (2) —理論の必要        | 物質的条件 意識的条件 共同性        |
| 第15回      | まとめ                            |                        |

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

| 種別 / Kind | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc. |
|-----------|-----------------|-------------------------------|
| 定期試験      | 70 %            | 小レポートで記した内容をふまえた、未解決な部分の考察度合い |
| レポート      | 30 %            | 各章が終わるごとに提出 (計3回) 授業内容の整理が主   |

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

レポート採点の際は、授業内容の考察・批判が盛り込まれているかどうかが重要となるので、できる限り連続して出席のこと。

## 教科書 / Textbooks

| 書名 / Title        | 出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment |
|-------------------|----------------------------------------------------------|
| 『第二版 現代日本家族論』2001 | 飯田哲也／学文社／ISBN:4-7620-1039-1／                             |

## 参考書 / Reference Books

| 書名 / Title                 | 出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment |
|----------------------------|----------------------------------------------------------|
| 『第三版 家族と家庭・望ましい家庭を求めて』2003 | 飯田哲也／学文社／ISBN: 4-7620-1175-4／                            |

## 参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

## その他 / Others

## 環境社会論 N S リサイクル論 N

11157

担当者名 / Instructor 竹濱 朝美

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Description

気候変動 (climate change、温暖化) の影響、温室効果ガス削減に対して消費者が果たすべき責任について考える。危険な気候変動を緩和するためのemission pathway、温室効果ガスの削減量と削減期限、削減ペースについて学ぶ。温室効果ガス削減策について、交通部門、家庭部門、エネルギー部門の削減策などを学ぶ。講義を通じて、気候変動はすでに重大な事態にあること、温室効果ガス削減は差し迫ったものであることを学ぶ。

## 到達目標 / Focus and Goal

- ①気候変動は、単なる学習対象ではなく、学生一人一人の生活に直接影響を及ぼすものである。気候変動は、自らの生活に直接かつ深刻な影響を及ぼす問題として、自分のライフスタイルの環境負荷を振り返る契機にすることが、この授業の第一の目標である。
- ②climate science、気候変動政策に関する英文の資料、英文の科学ニュースを読むことを通じて、EUで報じられる気候変動ニュースと日本のマスコミ報道の違いに気づく。
- ③気候変動の現状、温室効果ガスの長期的影響に関する基礎的知識を得る。
- ④気候変動の影響、被害対策について、基礎的知識を獲得する。
- ⑤エネルギー部門、交通部門、家庭部門、に関する温室効果ガスの削減対策について、理解を深める

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enrolle in, but not required to

環境問題、特に、エネルギー政策および気候変動 (温暖化) に関連する科目を履修しておくことが望ましい。気候変動サイエンスに関する用語については、授業中に繰り返し説明するので、特別な理科学的知識は要求しない。

## 授業スケジュール / Schedule

| 授業日 (第N回) | テーマ / Theme                                                              | キーワード / Key Word     |
|-----------|--------------------------------------------------------------------------|----------------------|
| 第1回       | はじめに：学習方法の案内                                                             |                      |
| 第2回       | 最近の気候変動ニュース1。グリーンランド氷河、シベリア永久凍土、南極アイスシート、最近の二酸化炭素濃度。                     |                      |
| 第3回       | 最近のニュース 2。「High Tide」、山岳氷河の融解と水資源枯渇の予測。ハリケーンその他。Tipping Points。          | 質問とまとめ               |
| 第4回       | 温室効果ガスの長期的影響。climate inertia (慣性)。気温上昇のタイムラグ。海洋における熱エネルギー。重要なthresholds  |                      |
| 第5回       | 温室効果ガス安定化シナリオ。2℃上昇回避のための温室効果ガス濃度。2度突破のリスク。必要な削減量。ピーキングの期限。               |                      |
| 第6回       | 質問とまとめ                                                                   |                      |
| 第7回       | 日本地域における気候変動予測。熱波、台風、集中豪雨、高潮。                                            |                      |
| 第8回       | イギリスの熱波警報システム (heat-health-watch)。熱波対策、熱波マニュアル、災害対策。                     | 質問とまとめ               |
| 第9回       | 京都議定書、各国の温室効果ガス削減量、エネルギー構造の国際比較                                          |                      |
| 第10回      | 自然エネルギーへの転換。風力発電の意義と取り組み。バイオディーゼル・エネルギーの意義と問題点。パーム・オイル農園開発と森林破壊          |                      |
| 第11回      | 質問とまとめ                                                                   |                      |
| 第12回      | イギリスにおける温室効果ガス削減政策。日本とイギリスにおける比較 (交通部門、家庭部門)。                            |                      |
| 第13回      | フード・マイルズ (Food Miles)。食生活の温暖化負荷、国産農産物と輸入農産物、有機農産物と非有機のフード・マイルズ、二酸化炭素排出量。 |                      |
| 第14回      | 質問とまとめ                                                                   | 地球と大気の歴史、宇宙からみた地球環境。 |
| 第15回      | 最終講義日試験 (講義内レポート)                                                        |                      |

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

講義では、日本語による気候変動政策に関する文献のほか、気候変動に関する最近の英文ニュースを数多く使用する。英語文献の使用が基本となる。授業中に配布する英文資料については、毎回、十分に復習すること。十分な復習がなければ、単位習得は困難である。

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

| 種別 / Kind | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc.                                                |
|-----------|-----------------|------------------------------------------------------------------------------|
| 日常点       | 100 %           | 授業中に、数回の小テストを行う。加えて、最終講義日に、最終講義日試験を行う。評価は、小テストと最終講義日試験（講義中レポート）との合計によって判定する。 |

#### 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

講義では、気候変動に関する最近の英文ニュースを数多く使用する。英語文献が中心になるので、十分復習すること、英文の気候変動ニュースに馴染むこと。

#### 教科書 / Textbooks

- ①和田武「持続可能な社会に向かって：移行の道筋を描く」、日本科学者会議公害問題研究会、環境展望編集会編、「環境展望」、Vol. 4、実教出版、2004、第1章。
- ②歌川学「これからどうなる？ 地球温暖化と京都議定書」、日本科学者会議公害問題研究会、環境展望編集会編、「環境展望」、Vol. 4、実教出版、2004、第9章。
- ③竹濱朝美、「地球温暖化の影響と家庭部門における二酸化炭素削減策」、呉世煌・西村多嘉子編、『消費経済学体系・3・消費者問題』、第9章、慶応義塾大学出版会、2005年。ISBN 4-7664-1211-7
- ④竹濱朝美、「気候変動をめぐる消費者向け環境情報——温暖化影響および家庭部門における二酸化炭素削減策——」『立命館産業社会論集』第41巻第2号、2005年12月。

#### 参考書 / Reference Books

- ①竹濱朝美、「気候変動をめぐる消費者向け環境情報——温暖化影響および家庭部門における二酸化炭素削減策——」『立命館産業社会論集』第41巻第2号、2005年12月。
- ②日本科学者会議公害問題研究会、環境展望編集会編、「環境展望」、Vol. 2、実教出版、2002。
- ③日本科学者会議公害問題研究会、環境展望編集会編、「環境展望」、Vol. 3、実教出版、2003。
- ④日本科学者会議公害問題研究会、環境展望編集会編、「環境展望」、Vol. 4、実教出版、2004。（以上、3冊の「環境展望」には、気候変動・温暖化に関する論文が多数掲載されている。）

#### 参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

国立環境研究所: <http://www.nies.go.jp/>  
 IPCC: [www.ipcc.ch](http://www.ipcc.ch)

#### その他 / Others



## 芸術と社会 N S 芸術社会論I N

11158

担当者名 / Instructor 田中 不二夫

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Description

1950年代に入り日本映画は第二の黄金時代を迎える。戦後の復興と占領体制の終焉とともに日本映画は戦前の活況を取り戻し、娯楽の殿堂としての地位を不動のものとする。また、溝口健二、小津安二郎、黒澤明などの国際的に評価される作家たちが輩出する。講義では、時代劇映画、文芸映画などのジャンル映画が担っていた社会的・時代的な意味に検討を加えた上で、これらの作家たちの作品の独自性や魅力を検証していく。

## 到達目標 / Focus and Goal

履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

## 授業スケジュール / Schedule

| 授業日 (第N回) | テーマ / Theme     | キーワード / Key Word |
|-----------|-----------------|------------------|
|           | 講義のガイダンス        |                  |
|           | 占領体制下の日本映画      |                  |
|           | 占領体制下の日本映画      |                  |
|           | 黒澤明の台頭          |                  |
|           | 黒澤明の台頭          |                  |
|           | 黒澤明の台頭          |                  |
|           | 占領体制の終焉と日本映画の変容 |                  |
|           | 占領体制の終焉と日本映画の変容 |                  |
|           | 時代劇の復活と溝口健二     |                  |
|           | 時代劇の復活と溝口健二     |                  |
|           | 時代劇の復活と溝口健二     |                  |
|           | 小津安二郎           |                  |
|           | 小津安二郎           |                  |
|           | 小津安二郎           |                  |
|           | 定期試験            |                  |

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

| 種別 / Kind | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc. |
|-----------|-----------------|-------------------------------|
| 定期試験      | 100 %           | 基礎的な知識が修得できたかを問います。           |

受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

## 教科書 / Textbooks

## 参考書 / Reference Books

| 書名 / Title | 出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment |
|------------|----------------------------------------------------------|
| 日本映画史100年  | 四方田犬彦／集英社新書／／                                            |

参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

## その他 / Others

## 現代コミュニケーション論 N § コミュニケーション論I N

10672

担当者名 / Instructor 藤田 博文

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Description

テーマ:「創造的なコミュニケーションの可能性の条件——記号、権力、そして自己実践」

本講義では、創造的なコミュニケーションの可能性の条件、言い換えれば、いかにして創造的なコミュニケーションは可能かという問題を探求していく。その際に、社会学的な思考を土台としつつ、「記号」と「権力」という観点からコミュニケーションの概念と機能について考察していく。そしてこの考察を踏まえ、現代社会の諸特徴を明らかにすることを通して、自律的な「主体」形成の可能性についての模索を試み、本講義のテーマにせまっていく。

## 到達目標 / Focus and Goal

- (1) 現代社会におけるコミュニケーション機能の重要性について理解できる。
- (2) 社会学的観点から「個人」についての考察を深めることができる。
- (3) 社会学の理論的テーマについての理解を深めることができる。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enrolle in, but not required to

## 授業スケジュール / Schedule

| 授業日 (第N回) | テーマ / Theme              | キーワード / Key Word                 |
|-----------|--------------------------|----------------------------------|
| 第1回目      | イントロダクション                |                                  |
| 第2回目      | 「社会」の指示性。                | 社会。                              |
| 第3回目      | 社会学の理論的テーマ               | 社会統合、19世紀ヨーロッパ。                  |
| 第4回目      | 社会学の基礎概念                 | 社会化、規範、サンクション。                   |
| 第5回目      | 社会学と「自我」                 | 自我、地位、役割、コンフリクト。                 |
| 第6回目      | 「コミュニケーション」の概念と機能 (1)    | コミュニケーション、コミュニケーション・モデル、コード。     |
| 第7回目      | 「コミュニケーション」の概念と機能 (2)    | 記号表現、記号内容。                       |
| 第8回目      | 「コミュニケーション」の概念と機能 (3)    | 言語 (記号) の恣意性。                    |
| 第9回目      | 「コミュニケーション」と権力 (1)       | コード、恣意性、権力、イラク戦争とメディア (VTR視聴予定)。 |
| 第10回目     | 「コミュニケーション」と権力 (2)       | フーコー、規律 (権力)、記号。                 |
| 第11回目     | 「コミュニケーション」と権力 (3)       | フーコー、規律 (権力)、記号。                 |
| 第12回目     | 「コミュニケーション」と権力 (4)       | ベンサム、パノプティコン、監視 (VTR視聴予定)。       |
| 第13回目     | 自律的な「主体」形成をめざして          | 自己への配慮、自己の実践、自己の技術。              |
| 第14回目     | まとめ—創造的なコミュニケーションの可能性の条件 |                                  |
| 第15回目     | 試験                       |                                  |

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

| 種別 / Kind                       | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc.           |
|---------------------------------|-----------------|-----------------------------------------|
| 日常点                             | 100 %           | 最終講義日試験で評価する。内容理解や論理的思考力などを規準に総合的に評価する。 |
| この講義の登録者が多い時は、「定期試験」に変更する場合がある。 |                 |                                         |

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

本講義全体がひとつの一貫した論理によって構成されているため、継続的な出席を必要とする。

## 教科書 / Textbooks

講義レジュメを配布する。

## 参考書 / Reference Books

## 参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

## その他 / Others

## 現代産業社会論 N S 産業社会学I N S 現代産業社会論 GA

11200

担当者名 / Instructor 伊藤 武夫

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Description

戦後の日本は、高度経済成長期を経て、大企業を中心としたいわゆる「企業社会」が形成され、1973年以降の低成長期においても、協調的な労使関係等を背景に、長期雇用と年功型賃金を柱とした雇用システムを維持しつつ、高い水準で国際競争力を保持し続けた。その反面、企業社会は「過労死」に象徴されるさまざまな社会病理を生み出してきた。さらに90年代以降の不況と急速なグローバル化の進展のなかで、変化する内外の様々な条件に対応すべく、日本の経済・社会もまた、その変革を迫られるようになった。先進工業国を覆う「新自由主義」の潮流が、日本社会にも浸透し社会は大きく変容しつつある。この講義では、企業社会の構造を生み出した歴史的・構造的要因について理解を深め、新自由主義的な競争原理ではなく、社会的連帯に基づく社会形成の可能性について展望したい。

## 到達目標 / Focus and Goal

戦後日本の経済・社会構造の諸段階を具体的に理解し、語る力をつけること。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enrolle in, but not required to

特になし。

## 授業スケジュール / Schedule

| 授業日 (第N回) | テーマ / Theme            | キーワード / Key Word                      |
|-----------|------------------------|---------------------------------------|
| 4月12日     | 戦後日本社会の見方              | 大衆社会 高度経済成長 企業社会                      |
| 4月19日     | 経済システムの分析枠組み           | 方法 外生的条件 2つにシステム (明治・大正期と戦後高度成長期)     |
| 4月26日     | 明治・大正期経済のメカニズム         | 大株主主導 上からの開発 地域経済圏と中央のリンク             |
| 5月10日     | 戦後復興から高度成長へ            | 計画化 日本型企業システム 銀行中心の金融システム             |
| 5月17日     | 高度成長期経済システム            | 財政・金融における中央集権体制 春闘方式 現局・業界団体システム 政党政治 |
| 5月24日     | 高度成長期経済メカニズムの成果とエートス   | 所得再分配のメカニズム 新中間階級                     |
| 5月27日     | 低成長期の減量経営と雇用の確保        | 減量経営 オートメーション 雇用の確保                   |
| 5月31日     | 1980年代のME化と国際競争        | ME化 サービス化 貿易摩擦 海外企業進出                 |
| 6月7日      | 臨調行革路線とマネタリズム          | 新自由主義 国鉄・専売の民営化 金融の自由化                |
| 6月14日     | バブル経済の諸相               | マネーゲーム 土地投機 経済大国化                     |
| 6月21日     | バブル経済の崩壊と国際的な大競争時代の到来  | 平成不況 不良債権 経営の効率化 失業率の増大               |
| 6月28日     | 新自由主義とシステム改革の方向        | 政府と民間の関係 政府対市場の関係                     |
| 7月5日      | グローバル化のもとでの民間部門のシステム改革 | 日本型経営の変容 新しい技術革新 IT革命                 |
| 7月12日     | ソフト化・サービス化再考           | 環境 福祉 医療 教育 メディア市場 グローバル化と世界都市・東京     |
| 7月19日     | 新しい経済システムとは 本講義のまとめ    |                                       |

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

適宜、課題を出し、各自調べてきたことを発表する機会を講義のなかで設ける。積極的に文献の読破をするように。

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

| 種別 / Kind            | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc. |
|----------------------|-----------------|-------------------------------|
| 定期試験                 | 70 %            |                               |
| その他                  | 30 %            | 調べてきたことを各自発表した場合、それを評価し点数化    |
| 質問紙による応答を3, 4回実施したい。 |                 |                               |

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

## 教科書 / Textbooks

講義は、毎回レジュメを配布。テキストは指定しない。

## 参考書 / Reference Books

| 書名 / Title  | 出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment |
|-------------|----------------------------------------------------------|
| 『日本の経済システム』 | 寺西重郎／岩波書店／4-00-024216-4／通読を進める                           |
| 『戦後史』       | 中村正則／岩波新書／4-00-430955-7／手軽に読める通史，必読                      |

講義のなかで, 適宜, 紹介する。

参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

講義のなかで, 適宜, 紹介する。

その他 / Others

## 現代都市論 N S 都市論 N

11179

担当者名 / Instructor 久保 和洋

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Description

## 講義の内容・テーマ

日本の都市は無秩序で、その姿を頻繁になえていきます。欧米の都市は歴史的空間を維持し、良好な景観を保っているとされます。なぜこのような違いが同じ「都市」でありながら生じるのか？都市が形成される原理には大きく見て二つあるようです。一つは支配権力の権力実現の場として、二つは生活者の自治の場としてです。前者の例として、古代都市と現代都市、後者の例として中世の都市、そして現代の「まちづくり」運動ですが、に見られる都市形成の動きです。当講義では、都市の一般原理を検討したうえで、主に1200年の歴史をもつ「京都」を取り上げ、それぞれの時代の都市の諸構造と現代的課題を考えていきたいと思います。

## 到達目標 / Focus and Goal

都市の形成のされ方の二つのパターンと、その都市の様相を理解し、その上で、特に今日の日本の都市が抱えている課題を考えてもらいたい。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enrolle in, but not required to

## 授業スケジュール / Schedule

| 授業日 (第N回) | テーマ / Theme                    | キーワード / Key Word |
|-----------|--------------------------------|------------------|
| 第一回       | 都市の一般理論－M・ウェーバー等を中心に－          |                  |
| 第二回       | 文明と古代都市、その諸構造                  |                  |
| 第三回       | 自治都市－古代アテネを例にして－               |                  |
| 第四回       | 自治都市－中世イタリア・シエナを例にして(ビデオ鑑賞あり)－ |                  |
| 第五回       | 日本の古代都市－藤原京は日本の最初の古代都市か－       |                  |
| 第六回       | 京都・中世自治都市－平安京から「町」へ－           |                  |
| 第七回       | 都市と祭り－祇園祭と都市自治－                |                  |
| 第八回       | 「町家」－生活自治都市の都市建築－              |                  |
| 第九回       | 近代京都の「都市計画」の特性－歴史都市・近隣住区－      |                  |
| 第十回       | 近代京都の「都市計画」の特性－都市交通と生活都市－      |                  |
| 第十一回      | 画一化された現代の日本都市－国土計画、都市計画－       |                  |
| 第十二回      | 道路・自動車が都市を衰退させる                |                  |
| 第十三回      | 今日の「まちづくり」運動と「都市・市街地の再生」の論理    |                  |
| 第十四回      | まとめ                            |                  |

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

| 種別 / Kind | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc. |
|-----------|-----------------|-------------------------------|
| レポート      | 80 %            | 講義についての理解を基本に、論理性・独自性を評価      |
| その他       | 20 %            | 小レポート                         |

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

## 教科書 / Textbooks

特にテキストは定めません。レジメを配布します。また必要な参考文献は適宜紹介します

## 参考書 / Reference Books

## 参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

## その他 / Others

## 現代メディア論 N S マス・コミュニケーション論 I N

12280

担当者名 / Instructor 鈴木 隆

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Description

この講義の主題はマス・メディアなのであるが、最低限必要な知識として、我々の祖先が集団を作、マンモス狩りを始めた時から、IT 社会と言われる現代までの、メディアの歴史を物語風に話しておきたいと思う。そして主題であるマス・メディアについては、電波と映像メディアが引き起こしたいくつかの事件（火星人襲撃事件、ルドルフ・バレンチノ、春団次事件、千の丘ラジオ事件など）を紹介しながら、＜シンクロナイゼーション＞と＜疑似イベント＞という2つの概念を手がかりとして、論じて行きたいと思う。そして、この講義の落ちネタとしては、我が国の現在の繁栄の起点となった高度成長期、テレビという媒体が消費を先導することによって、豊かな消費社会が開花したのであるけれども、実は、この過剰な消費志向が、我が国の高齢化＝少子化傾向を加速させてしまったのだという議論を用意したいと思う。

## 到達目標 / Focus and Goal

現代社会とは、精密に統合され、あたかも一つの巨大なマシンであるかのごとくにして、全体が精密に連動して動くシステムであるというイメージすることが出来るのであるが、工場とか学校とかという場面ではなく、人々の生活の全体をシステムに連動させるという現代社会の特徴的な局面において、マス・メディアがどういう役割を果たしたのか、これを「消費文化」という角度から理解すること。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enrolle in, but not required to

歴史に関する科目、特に、近代と現代の歴史。

## 授業スケジュール / Schedule

| 授業日 (第N回) | テーマ / Theme                                                | キーワード / Key Word                          |
|-----------|------------------------------------------------------------|-------------------------------------------|
| 第 1 回目    | 人だけが何故、言語を発達させ、社会を形成しなければならなかったのか                          | 血縁集団と社会／分節化した言語／クロマニヨン人とネアンデルタール人の運命の分かれ目 |
| 第 2 回目    | メディアの3類型／直接表現メディア「伝言ゲーム」の頼りなさ                              | 「ライブ」ということ／記憶による情報の保存                     |
| 第 3 回目    | メディアの3類型／代行表現メディア「文字」の出現が引き起こした革命                          | 外部メモリー                                    |
| 第 4 回目    | メディアの3類型／機械表現メディア「その1:印刷技術」                                | 機械の定義／テクノロジーということ／複製「技術」／情報の大量生産と商品化      |
| 第 5 回目    | メディアの3類型／機械表現メディア「その2:通信技術」                                | トランス・ポーターションとテレ・ポーターション                   |
| 第 6 回目    | 補論 システム統合と工場の原理／数量化された時間／長篠の合戦で鉄砲の三段撃ちは有り得なかった             | シンクロナイゼーション／時計                            |
| 第 7 回目    | マスメディアの出現／新聞小史                                             | 報道と言論の区別／議会制度と直接民主主義のメディア                 |
| 第 8 回目    | 日本新聞小史                                                     | 自由民権論争／白虹事件／普通選挙法と治安維持法                   |
| 第 9 回目    | 現代資本主義と消費社会／労働者を「消費者」と位置づけなければならなかった2つの理由                  | 労使協調／幸福の見かけとしての過剰消費                       |
| 第10回目     | ベル・エポックとラジオ：ラジオの出現とアメリカ社会／日本のラジオ放送                         | 消費の媒体としてのラジオ／国家統制の媒体としてのラジオ               |
| 第11回目     | 火星人襲撃事件とゾルゲ事件                                              | シンクロナイゼーション／疑似イベント                        |
| 第12回目     | ゲッペルスのプロパガンダ理論                                             | 自由からの逃走                                   |
| 第13回目     | 高度成長とテレビ：日本のテレビ小史－幻の東京オリンピックから、映画「ゴジラ」、そして皇太子結婚パレードの実況放送まで | 高度経済成長と消費／国家イベントに隠されたテレビを買い替える陰謀          |
| 第14回目     | 高齢化＝少子化社会の正体／What have you done to the Children?           | 家族の五つの機能と消費による代替                          |
| 第15回目     | まとめ、もしくは予備日                                                | 救済を約束する慈悲と愛                               |

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

とくにない。

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

| 種別 / Kind | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc.                                              |
|-----------|-----------------|----------------------------------------------------------------------------|
| 定期試験      | 100 %           | 講義内容の理解のポイントとなるキーワードもしくは、キー概念を講義中にいくつか、提示するつもりであるが、それらがどの程度、理解出来ているかを重視する。 |

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

テキストは使用せず、詳細な資料を配付する。ただし、これは「教科書」と位置づけするものではなく、また、この資料を棒読みするような講義をするつもりもない。また、教材として、可能な限り、映像資料を用意する予定である。また講義資料とは、例えて言えば、楽譜のようなものであ

て、ごく一部の専門家以外は、楽譜からメロディーを鑑賞することは出来ず、大抵は、メロディーを聴いたことがあるから、その楽譜が分るのが普通である。そういうわけで、資料とかノートのコピーを入手すれば何とかするという甘い期待を抱かないこと。

**教科書 / Textbooks**

教科書は使用しない。

**参考書 / Reference Books****書名 / Title**

現代社会の理論

**出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment**

見田宗介／岩波書店／4-00-430465-2／この講義を受講するに際して、この程度の現代史についての本を読んでおいてもいいかも知れないという程度の位置づけである。

**参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course**

資料は豊富に用意するので、各自が関心を持った項目、用語で好き勝手に検索することが出来てのインターネットである。

**その他 / Others**

## 心のケア N S カウンセリング論 N

11789

担当者名 / Instructor 松島 京

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Description

近年、私たちは「心のケア」という言葉をよく耳にする。そもそも、「心」とは何か、そしてその心をケアするとはどういうことなのだろうか。本講義では、「心のケア」とは何かということをいろいろな角度から考えていく。その際には、臨床心理学的な視点だけでなく、相互作用や関係性の病理といった社会学的な視点も組み込んでいく。

「心のケア」というテーマは、臨床の専門的な現場の実践だけに関わることではない。私たちの日常生活にも関わるものである。このことを、本講義を通して受講生が考える場となれば、と考えている。

## 到達目標 / Focus and Goal

社会学的な視点から「心のケア」について考えることができる。  
自己と他者の関係性を「ケア」という視点から考察することができる。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

## 授業スケジュール / Schedule

| 授業日 (第N回) | テーマ / Theme         | キーワード / Key Word                   |
|-----------|---------------------|------------------------------------|
| 第1回       | はじめに: 心とは? ケアとは?    |                                    |
| 第2回       | 心のケアに関わる歴史的背景 (1)   | PTSD、戦闘神経症、ベトナム戦争、性暴力・家庭内暴力、フェミニズム |
| 第3回       | 心のケアに関わる歴史的背景 (2)   | 阪神・淡路大震災、地下鉄サリン事件、被災者への心のケア、心の健康   |
| 第4回       | 災害や事故 (犯罪被害) と PTSD | トラウマ、災害とストレス、性暴力被害                 |
| 第5回       | 暴力・虐待と複雑性 PTSD      | 長期的・反復的トラウマ、ドメスティック・バイオレンス、子ども虐待   |
| 第6回       | 「語る」ということ           | 安心・安全の確保、物語の再構築                    |
| 第7回       | 「聴く」ということ           | 共感、受容、エンパワメント                      |
| 第8回       | 「心」と「ケア」            | 相互作用、配慮と責任、他者性                     |
| 第9回       | 回復するということ～実践事例 (1)  | カウンセリング、セラピー                       |
| 第10回      | 回復するということ～実践事例 (2)  | セルフ・ヘルプ・グループ                       |
| 第11回      | 回復するということ～実践事例 (3)  | 身近にある回復                            |
| 第12回      | 当事者とケアする人との関係 (1)   | ケアの非対称性、依存する／される、支配／被支配            |
| 第13回      | 当事者とケアする人との関係 (2)   | 二次受傷、共感疲労、バーンアウト、対等性               |
| 第14回      | おわりに: 私たちと心のケア      |                                    |

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment  
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

| 種別 / Kind | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc.                                       |
|-----------|-----------------|---------------------------------------------------------------------|
| レポート      | 80 %            | 講義の総括としてのレポート。2000字～4000字程度。講義内容について総合的に理解し、自分の考えを持つことができているかを評価する。 |
| 日常点       | 20 %            | 講義内容に関わる中間小レポート。                                                    |

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

講義スケジュールは目安である。現代的なテーマを持つ講義なので、時事問題を組み込んでいくことにより、若干変動する場合もある。

受講生数・参加人数によっては、受講生の意見も尊重した上で、参加者と議論をしながら内容を深めていくスタイルに変更することもある。

## 教科書 / Textbooks

指定しない。必要な資料は講義中に適宜配布する。

## 参考書 / Reference Books

講義中に必要に応じて紹介する。

## 参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

講義中に必要に応じて紹介する。

## その他 / Others



## 自治と参加 N S 住民自治論 N

11217

担当者名 / Instructor 長澤 高明

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Description

市民とは何かということを常に念頭に置きながら、自らを治めるとはということか、また代議制民主主義の下で政治に参加するとはということか、などについて皆さんとともに考えるのが本講義の目的です。一回ごとにテーマを設定します。テキストは使用しませんので、毎回レジュメを配付します。

## 到達目標 / Focus and Goal

政治学と社会学の基本概念の習得を目標とします。受講生には本講義で得た知識を使って、時事問題を分析する力量をつけてもらいます(資料はこちらで用意します)。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

## 授業スケジュール / Schedule

| 授業日 (第N回) | テーマ / Theme         | キーワード / Key Word                |
|-----------|---------------------|---------------------------------|
| 1         | 日本の政治文化と自治意識        | キーワード: 同調                       |
| 2         | 市民とは何か: 市民社会概念の変遷   | キーワード: 市民社会                     |
| 3         | 議会制民主主義の歴史          | キーワード: 国民代表                     |
| 4         | 自由とは何か              | キーワード: 市民的自由                    |
| 5         | 権力とはなにか             | キーワード: 社会権力、政治権力                |
| 6         | 地方自治と地方議会           | キーワード: 直接請求権、住民投票               |
| 7         | 市民による政策作成           | キーワード: 行政的公共性、市民的公共性            |
| 8         | 市民運動の諸類型            | キーワード: 告発、抵抗、参加                 |
| 9         | 政党政治と市民参加           | キーワード: 無党派、二党制、多党制              |
| 10        | 圧力政治                | キーワード: 公共圧力団体、新しい社会運動           |
| 11        | 各種選挙制度の意味           | キーワード: 小選挙区、大選挙区、比例代表制          |
| 12        | 衆議院・参議院および地方議会の選挙制度 | キーワード: 小選挙区比例代表並立制、拘束名簿式、非拘束名簿式 |
| 13        | マスコミと世論             | キーワード: 世論操作                     |
| 14        | 現代国家と市民             | キーワード: 小さな政府、新自由主義              |

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

日頃から新聞の社会欄・政治欄に目を通す習慣をつけてください。用語辞典を手元において引く習慣を身につけてください。

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

| 種別 / Kind | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc.                                 |
|-----------|-----------------|---------------------------------------------------------------|
| レポート      | 50 %            | テーマは自由。どの程度講義内容を深められたかを見ます。A4横書きで3000字程度。最終講義時までに担当者に直接手渡すこと。 |
| 日常点       | 30 %            | 小テストを5回実施します。専門用語の定義を正確にできるかどうかを見ます。                          |
| その他       | 20 %            | 出席点です。                                                        |

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

## 教科書 / Textbooks

## 参考書 / Reference Books

| 書名 / Title | 出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment |
|------------|----------------------------------------------------------|
| 実践の政治学     | 畑山敏夫・平井一臣編 / 法律文化社 / 4-589-02726-7 /                     |
| かかわりの政治学   | 平井一臣編 / 法律文化社 / 4-589-02851-4 /                          |
| 政治・行政の考え方  | 松下圭一 / 岩波書店 / 4-00-430552-7 /                            |

## 参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

## その他 / Others

## 市民社会と企業 N S 企業社会論I N

11216

担当者名 / Instructor 牧野 泰典

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Description

近代社会形成過程における市民社会の位置づけ  
産業社会、市民社会、企業社会の特徴

## 到達目標 / Focus and Goal

日本型企業社会が海外の市民社会とどのような相違点を持つかを理解する。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

社会科学概論、産業社会学

## 授業スケジュール / Schedule

| 授業日 (第N回) | テーマ / Theme                                    | キーワード / Key Word                                |
|-----------|------------------------------------------------|-------------------------------------------------|
| 第1回       | 授業の概要                                          |                                                 |
| 第2回       | 社会の形成過程                                        | 農耕型社会、軍事型社会、産業社会                                |
| 第3回       | 各国の産業社会の特色                                     | 欧米型産業社会(市民社会)、日本型産業社会(企業社会)、新興工業国型産業社会(BRICs)   |
| 第4回       | 欧米における産業社会の発展過程                                | イギリスの産業革命、アメリカのフォード型生産システムによる大量生産・大量消費体制        |
| 第5回       | 欧米型産業社会における労働者の生きがい、仕事観                        | 産業化における労働疎外(R.ブラウナー)、J.ゴールドソープの「本来主義志向」「手段主義志向」 |
| 第6回       | 日本型産業社会(企業社会)の特色                               | 労働時間と私生活時間の未分離、企業社会による労働者と家族、地域の統制的管理           |
| 第7回       | 市民社会の基本概念から考察する日本型産業社会の課題                      | 集団主義、査定などの雇用慣行による労働者としての個人の拘束                   |
| 第8回       | 小テスト(1)                                        | 前半の重要概念の解答                                      |
| 第9回       | 集団論、組織論から考察する各国の産業社会の特色                        | C.H.ケリーの「第一次集団」「第二次集団」の概念と、日本型産業社会の私生活管理        |
| 第10回      | 日系企業の増加にともなう日本型産業社会の海外への展開                     | Japanization と称される現象は、海外の現地労働者にどのような影響をもたらすか    |
| 第11回      | 欧米型、日本型、新興工業国型のすべての産業社会がもたらす課題(1) グローバリゼーション   | 大量生産・大量消費、環境問題、ゴミ問題                             |
| 第12回      | 欧米型、日本型、新興工業国型のすべての産業社会がもたらす課題(2) 格差社会         | 産業化の主役となる大企業(多国籍企業)が、格差社会を国際的に拡大させることについて       |
| 第13回      | 産業化が拡大するなかで、市民社会をどのように普及・定着させるべきか              | ヨーロッパの労使関係における社会民主主義、産業民主主義について                 |
| 第14回      | 市民社会を守るために必要な概念とは 商業主義から生活空間(地域)を守るにはどうしたらよいのか | J.ハーバーマスの「戦略的道具的合理性」「コミュニケーション的合理性」から考察         |
| 第15回      | 小テスト(2)                                        | 後半の重要概念についての解答                                  |

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment  
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

| 種別 / Kind | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc. |
|-----------|-----------------|-------------------------------|
| 定期試験      | 70 %            | 授業内容すべてから試験範囲を設定する            |
| 日常点       | 20 %            | 小テストを実施する                     |
| その他       | 10 %            | 出席調査を実施する                     |

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

## 教科書 / Textbooks

特に指定しない

## 参考書 / Reference Books

牧野 泰典「小集団活動の機能と役割」八千代出版

## 参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course



## 社会思想論 N S 社会思想I N

12308

担当者名 / Instructor 尾場瀬 一郎

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Description

- ・思想を社会問題、日常生活とつなげて講義する
- ・ルソーやヘーゲル、マルクスやウェーバー等の思想だけではなく、ネオリベリズム、教育問題等、具体的な問題にも触れたい

## 到達目標 / Focus and Goal

主要な社会思想とその流れを理解しながら、今日の社会状況を反省的に認識する

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

哲学や社会学の理論に関する科目

## 授業スケジュール / Schedule

| 授業日 (第N回) | テーマ / Theme       | キーワード / Key Word                                         |
|-----------|-------------------|----------------------------------------------------------|
| 第1回       | 思想とは何か？           | ヘーゲル 経験 言語 概念 哲学 思想                                      |
| 第2回       | 日常生活と思想、哲学        | グラムシ 「獄中ノート」 日常生活 常識 良識 哲学 思想                            |
| 第3回       | 社会思想論の考え方         | 思想史 思想論 丸山真男 カール・マンハイム 「イデオロギーとユートピア」                    |
| 第4回       | 資本主義と市場主義         | アダム・スミス 「諸国民の富」 市場 神の見えざる手 予定調和                          |
| 第5回       | 近代的思惟の範型          | デカルト 「方法序説」 ベーコン 「ノヴムオルガヌム」 ヴィーコ 共通感覚 賢慮                 |
| 第6回       | 反啓蒙主義と啓蒙主義        | ルソー 「学問芸術論」 カント 「啓蒙とは何か」 文明 野蛮                           |
| 第7回       | レポートの書き方について      | レポート 作文 論文                                               |
| 第8回       | 実証主義と歴史の進歩について    | コント 実証主義 進歩 ヘーゲル 「歴史哲学」 理性の狡知                            |
| 第9回       | 資本主義と社会主義をめぐって    | マルクス 「共産党宣言」 疎外 イデオロギー 史的唯物論                             |
| 第10回      | 近代社会と合理化          | ウェーバー 「プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神」 計算可能性 理解社会学 社会主義           |
| 第11回      | 近代資本主義、近代科学とファシズム | アドルノ ホルクハイマー 「啓蒙の弁証法」 権威主義的パーソナリティ ナチズム                  |
| 第12回      | グローバリゼーションと新自由主義  | ネオ・リベリズム ネオ・ナショナリズム 反グローバリズム アメリカ 戦争                     |
| 第13回      | 教育の現在と能力主義の批判     | アルチュセール 国家のイデオロギー装置 抑圧装置 ブルデュー 「再生産」 文化資本 能力主義 教育基本法「改正」 |
| 第14回      | 現代日本の思想状況         | 西部・佐伯 戦後民主主義 であること すること 丸山 真男 大塚久雄                       |
| 第15回      | 社会思想と社会学          | 日常生活 社会問題 社会思想 事実認識 価値理念 討議                              |

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

流行思想をかじり読みするのではなく、古典的著作を自分の頭を使って、批判的に読んでほしい

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

| 種別 / Kind | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc.             |
|-----------|-----------------|-------------------------------------------|
| レポート      | 60 %            | 2,000字の期末レポート(一回) ＊中間レポートを出していない人は、提出できない |
| 日常点       | 20 %            | 200字の感想レポート(2回ほど)                         |
| その他       | 20 %            | 400字の中間レポート(一回)                           |

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

- ・スケジュールは、大雑把な流れ程度に考えておいて欲しい
- ・また本講義では、理解を促進するために適宜、ビデオ等を使用する
- ・本講義は双方向性を重視するため、聴講生の主体的参加、および発言の機会を多く設けたい

**教科書 / Textbooks**

使用しない(毎回、レジュメを配布する)

**参考書 / Reference Books**

授業のなかでその都度紹介する

**参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course**

特にない

**その他 / Others**

＊一回目の講義の欠席、あるいは就職活動を理由にした、中間レポートの不提出等については、一切考慮しない。

## 社会と福祉 N S 社会福祉論 I N

12307

担当者名 / Instructor 秋葉 武

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Description

本講義では「社会で暮らす生活者の視点から」、社会福祉というものをみていく。近年、社会福祉の専門化が叫ばれるなかで、逆に個別のサービス提供ばかりが強調される傾向にある。しかしサービス利用者にとって、そのサービスは「人生の一部」に過ぎない。彼らは基本的に、家族・地域・労働・社会階層等に規定される「生活者」である。こうした視点から、社会福祉学を学んでいく。講義では毎回ビデオを使用し、1-2度ゲストスピーカーを招く予定である。

## 到達目標 / Focus and Goal

- ・社会福祉の基本概念を理解する
- ・「福祉国家」から「福祉社会」への流れを理解する
- ・新しいアクター(NPO、企業)の役割を捉える

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enrolle in, but not required to

特にありません

## 授業スケジュール / Schedule

| 授業日 (第N回) | テーマ / Theme  | キーワード / Key Word  |
|-----------|--------------|-------------------|
|           | ガイダンス        | 授業の趣旨、達成目標、成績評価方法 |
|           | 社会福祉の概要      | 私的領域と公的領域         |
|           | 社会福祉の概要②     | 私的領域と公的領域         |
|           | 福祉問題の発見      | 日常生活              |
|           | 福祉問題の発見②     | 日常生活              |
|           | ゲストスピーカーの講演  | 定住外国人支援の現場から      |
|           | 福祉のニード       | ライフサイクル           |
|           | 福祉のニード②      | ライフサイクル           |
|           | 福祉の供給主体の多元化  | ガバメントからガバナンスへ     |
|           | 福祉の供給主体の多元化② | ガバメントからガバナンスへ     |
|           | ゲストスピーカーの講演  | 障害者支援の現場から        |
|           | 福祉と市場経済      | 市場メカニズム           |

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

| 種別 / Kind                                                                                                                        | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc.               |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------|---------------------------------------------|
| レポート                                                                                                                             | 40 %            | 与えられたテーマについて、試験に代わるレポートを提出し、教員はそれを評価します。    |
| 日常点                                                                                                                              | 60 %            | 毎回、出席を兼ねたコミュニケーションペーパーを配布し、教員は出席、記述内容を評価します |
| 必ずガイダンスに出席し、納得した上で受講登録してください。講義は社会福祉学の基本的内容を含んでおり、授業の難易度が「易し過ぎる」と感じる受講者がいるかもしれません。出席重視ですので、ガイダンスに出た上で、納得した上で受講登録をするのがよいと思います。    |                 |                                             |
| なお、下記の行為をする受講生は「F」評価となる可能性があるため、留意してください。①他の受講生の受講権の侵害・授業中の私語、大幅な遅刻、頻繁な途中入退室など ②マナーの欠如(携帯電話の時計以外の目的での使用など)、レポートの記述の不適切な表現(タメ口など) |                 |                                             |

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

社会福祉を取り巻く環境が大きく変わりつつあるので、新聞等で最新情報をチェックして下さい

## 教科書 / Textbooks

| 書名 / Title         | 出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment |
|--------------------|----------------------------------------------------------|
| ウェルビーイングタウン 社会福祉入門 | 岩田正美ほか編 / 有斐閣 / //                                       |

## 参考書 / Reference Books

## 参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

随時紹介します

## その他 / Others

新しい視野が開かれることを期待します

## 宗教と人間 N S 比較宗教論 I N

12743

担当者名 / Instructor 森本 一彦

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Description

日本の民俗宗教を対象として、「人間にとって宗教とは何か」を考えていく。民俗宗教は人間の生活と密接に関わって形成されており、民衆の思想を知る手がかりとなると考えられる。本講義では、年中行事、通過儀礼、先祖祭祀、生業などを通して民俗宗教のあり方を検討する。その折に、社会学・民俗学などの視点から民俗宗教が形成される背景の社会に注目するとともに、歴史的視点からも民俗宗教の変遷にも言及していきたい。

## 到達目標 / Focus and Goal

日本の民俗宗教についての基礎知識を身に付けるとともに、日本の民俗宗教の特徴を理解する。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

## 授業スケジュール / Schedule

| 授業日 (第N回) | テーマ / Theme   | キーワード / Key Word  |
|-----------|---------------|-------------------|
| 第1回       | はじめに：民俗宗教とは何か | 民俗宗教 民間信仰         |
| 第2回       | 神仏習合          | 神道 仏教             |
| 第3回       | 神社と信仰集団       | 氏子 宮座             |
| 第4回       | 寺院と檀家制        | キリスト教取締り 宗門改め 檀家制 |
| 第5回       | 正月と盆—年中行事     | 年中行事 双分制          |
| 第6回       | 通過儀礼          | 出産 結婚 葬送          |
| 第7回       | 先祖祭祀          | 墓 位牌 家 半檀家        |
| 第8回       | 屋敷の信仰         | 間取り 屋敷神           |
| 第9回       | 生業と信仰         | 稲作儀礼 畑作儀礼         |
| 第10回      | 旅と信仰          | 伊勢参り 巡礼 遍路        |
| 第11回      | 村の境界と中心       | 境界 広場             |
| 第12回      | 異界へのまなざし      | 妖怪 幽霊             |
| 第13回      | 流行神           | 流行神 祀り捨て          |
| 第14回      | 生き神・まとめ       | 生き神 御霊信仰          |
| 第15回      | 定期試験          |                   |

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

| 種別 / Kind | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc. |
|-----------|-----------------|-------------------------------|
| レポート      | 80 %            | レポートにより評価。                    |
| 日常点       | 20 %            | 出席および授業態度によって評価する。            |

受講生が少数のために成績評価を定期試験からレポートに変更。また、日常点については授業中の小レポートとしていたものを授業態度によると変更した。また、授業進度についても受講生の理解にあわせて適宜変更する。(11月17日)

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

## 教科書 / Textbooks

教科書は特に決めず、授業ごとにプリントを配布する。

## 参考書 / Reference Books

随時紹介する。

## 参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

## その他 / Others

## 消費とマーケティング N S 現代消費論 N

10665

担当者名 / Instructor 竹濱 朝美

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Description

環境マーケティングまたは、企業の環境対応の先進事例について、取り上げる。各種の環境規制とそれに対応する企業の製品開発、環境対応の事例を学ぶ。これを通じて、企業の環境対応の意義と限界点を学ぶ。気候変動の現状について、最新の科学ニュースを読む。これを通じて、温室効果ガス削減にむけた取り組みが企業にもとめられていることを理解する。

## 到達目標 / Focus and Goal

- ①環境配慮製品または企業の環境対応の先進事例について、環境配慮対応と、背景にある環境規制の基礎知識を学ぶ。
- ②環境ラベルの役割について、基礎知識を学ぶ。
- ③大量生産とマス・マーケティングの歴史について基礎知識を得る。
- ④気候変動の現状と、これに対応する企業の環境対応について、基礎知識を学ぶ。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

無し

## 授業スケジュール / Schedule

| 授業日 (第N回) | テーマ / Theme                  | キーワード / Key Word                                                                       |
|-----------|------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------|
| 第1回       | はじめに                         | マス・マーケティングから環境マーケティング、                                                                 |
| 第2回       | 環境規制と環境配慮製品 1                | 家電リサイクル法と環境配慮製品、食品リサイクル法と企業対応、自動車リサイクル法と企業対応                                           |
| 第3回       | 環境規制と環境配慮製品 2                | フロン規制とノンフロン製品、EUの有害物質規制、ライフサイクル・エネルギー、ライフサイクル・アセスメント、環境配慮設計 (省エネ性能改善、有害物質削減、エネルギー効率改善) |
| 第4回       | 事例分析                         | まとめ・作業。環境配慮製品の開発とマーケティングをめぐる最近の事例分析。                                                   |
| 第5回       | 環境ラベル 1                      | エコマーク、エコリーフ、EUエコラベルと製品事例                                                               |
| 第6回       | 環境ラベル 2                      | 日本およびEUにおける省エネ性能表示、住宅の断熱性能表示。待機電力から発生するエネルギー消費の大きさ、まとめ                                 |
| 第7回       | 気候変動の現状                      | 加速化する気候変動、tipping points、最近のニュース                                                       |
| 第8回       | 温度2度突破のリスク                   | 2度回避のための温室効果ガス安定化濃度、総排出量のピーキング期限、排出削減パス (emission pathway)、最近の二酸化炭素濃度が意味するもの。          |
| 第9回       | まとめ。                         | 投資情報としての気候変動リスクを要求する動きについて。                                                            |
| 第10回      | 地球の歴史と大量生産の歴史、環境マーケティングの限界   | 地球の歴史 (earth history) における大気形成。二酸化炭素と酸素の濃度、現在の大気が構成されるまで。大量生産・大量消費、マス・マーケティングの歴史。      |
| 第11回      | 自然エネルギーをめぐる技術とマーケティング        | 風力、太陽光パネル、バイオマス、バイオディーゼル・オイルの意義、バイオディーゼルのめぐるマーケティングと農園開発・森林破壊                          |
| 第12回      | まとめ                          |                                                                                        |
| 第13回      | 交通・自動車のマーケティングと温暖化負荷         | 自動車の燃費改善は温室効果ガス削減につながるか、飛行機利用の急増と規制の動き                                                 |
| 第14回      | 外食ビジネスとフード・マイルズ (Food Miles) | 食生活をめぐる温暖化負荷。輸入農産物のフード・マイルズ、二酸化炭素排出量、有機農産物のマーケティング、飲料水のマーケティングとフード・マイルズ。               |
| 第15回      | 最終講義日試験 (講義内レポート)            |                                                                                        |

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

授業中には、英語文献、および英語による環境ニュースを使用する。授業中に配布する英文資料については、単位修得上、「毎回十分に復習する」ことが不可欠である。

気候変動 (climate change、または温暖化) は既に、かなり進行しており、今後も、今世紀中、進行する。気候変動については、最新ニュースは英語で発表されるため、英語で発表される資料を読むことは、重要である。

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation



| 種別 / Kind | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc.                                       |
|-----------|-----------------|---------------------------------------------------------------------|
| 日常点       | 100 %           | 授業中に、数回の小テストを行う。加えて、最終講義日に、最終講義日試験を行う。評価は、小テストと最終講義日試験との合計によって判定する。 |

#### 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

授業中に配布する英文資料については、単位修得上、「毎回十分に復習する」ことが不可欠である。単に、講義を聞くだけでなく、自分自身で英文を読まない限り、理解は進まないことを承知してもらいたい。

気候変動については、積極的に英語文献を使用する。気候変動 (climate change、または温暖化) は既に、かなり進行しており、今後も、今世紀中、進行する。気候変動の現状について正確な知識を持つこと、英語で発表される資料を読むことは、単位修得上、不可欠である。

環境配慮製品および企業の環境対応について、日ごろからニュースを読むこと。

#### 教科書 / Textbooks

| 書名 / Title             | 出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment |
|------------------------|----------------------------------------------------------|
| 『消費経済学体系・3・消費者問題』2005年 | 呉世煌・西村多嘉子編／慶応義塾大学出版会／ISBN 4-7664-1211-7／                 |

#### 参考書 / Reference Books

英語文献については、授業中に配布する。

①竹濱朝美、「気候変動をめぐる消費者向け環境情報——温暖化影響および家庭部門における二酸化炭素削減策——」『立命館産業社会論集』第41巻第2号、2005年12月。

②渡辺好章「消費経済学体系・2・流通・マーケティング」慶応義塾大学出版会、2005年。

③日本科学者会議公害問題研究会、環境展望編集会編、「環境展望」、Vol. 2、実教出版、2002。

④日本科学者会議公害問題研究会、環境展望編集会編、「環境展望」、Vol. 3、実教出版、2003。

⑤日本科学者会議公害問題研究会、環境展望編集会編、「環境展望」、Vol. 4、実教出版、2004。(以上、3冊の「環境展望」には、気候変動・温暖化に関する論文が多数掲載されている。)

⑥稲生勝・岩佐茂、他「市民と教師の環境読本・環境リテラシー」リベルタ出版、2003。

#### 参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

Carbon Trust: <http://www.thecarbontrust.co.uk/carbontrust/>

環境省: <http://www.env.go.jp/>

環境省リサイクル関連ページ: <http://www.env.go.jp/recycle/recycling/>

省エネルギーセンター: <http://www.eccj.or.jp/>

環境技術情報ネットワーク: [http://e-tech.eic.or.jp/navi/03\\_chi.html](http://e-tech.eic.or.jp/navi/03_chi.html)

#### その他 / Others

## 情報化社会論 N S 情報文化論 N

11807

担当者名 / Instructor 池田 知加

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Description

情報化社会とは、上から政策的に導入されたり、ビジネスチャンスの到来といった経済的な効果が期待されたりするだけでなく、人々の社会文化的な営みによってもまた展開されるものです。この講義ではテレビ、パソコン、ケータイなど日常的なメディア使用に焦点を当てながら、情報メディアを使用する人間の経験的な側面を中心に情報化社会について考察していきます。

## 到達目標 / Focus and Goal

自らのメディア経験をふりかえりながら、情報化社会について分析・解釈すること。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

## 授業スケジュール / Schedule

| 授業日 (第N回) | テーマ / Theme                                            | キーワード / Key Word         |
|-----------|--------------------------------------------------------|--------------------------|
| 第1回       | イントロダクション                                              |                          |
| 第2回       | メディアの歴史 「声」としての言葉・「文字」としての言葉                           | メディア                     |
| 第3回       | マス・コミュニケーション論-1 マスメディアの効果論(1)ラジオ                       | 効果研究 強力効果説               |
| 第4回       | マス・コミュニケーション論-2 マスメディアの効果論(2)テレビ                       | 限定効果説                    |
| 第5回       | マス・コミュニケーション論-3 マスメディアの効果論(3)テレビ                       | 新効果論                     |
| 第6回       | マス・コミュニケーション論-4 マスメディアの効果について実践的に考える                   | 沈黙の螺旋                    |
| 第7回       | 補論: 擬似現実論                                              | D.ブーアスティン J.ボードリヤール      |
| 第8回       | マス・コミュニケーション論-5 マスメディア論の特徴と限界                          | カルチュラル・スタディーズ メディア・リテラシー |
| 第9回       | CMC (computer mediated communication) 論-1 電子メディアと空間の変容 | メイロウィッツ                  |
| 第10回      | CMC論-2 ヴァーチャル・リアリティとは何か?                               | ヴァーチャル・リアリティ             |
| 第11回      | CMC論-3 情報化と監視社会                                        | パノプティコン                  |
| 第12回      | CMC論-4 電子ネットワークと新しい政治                                  | サブ政治                     |
| 第13回      | CMC論-5 メディアと公的空間・ケータイと都市空間                             | 都市                       |
| 第14回      | まとめ                                                    |                          |

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

| 種別 / Kind | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc.            |
|-----------|-----------------|------------------------------------------|
| レポート      | 60 %            | 授業で扱ったテーマから自由に選択して、独自の考察を加えて論述する。4000字程度 |
| 日常点       | 40 %            | 討論、コメントなど総合的に評価する。                       |

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

## 教科書 / Textbooks

レジュメを使用します。

## 参考書 / Reference Books

| 書名 / Title                     | 出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment |
|--------------------------------|----------------------------------------------------------|
| 『メディア社会の歩き方—その歴史と仕組み』          | ／世界思想社／4790710572／                                       |
| 『場所感の喪失(上) 電子メディアが社会的行動に及ぼす影響』 | ジョシュア・メイロウィッツ／新曜社／4788508699／                            |
| 『「情報社会」を読む』                    | フランク・ウェブスター／青土社／4791759052／                              |

## 参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

総務省「情報通信白書」<http://www.johotsusintokei.soumu.go.jp/whitepaper/ja/cover/index.htm>

## その他 / Others

受講生の人数などによっては、講義形式ではなく演習形式ですめることもあります。

## 身体コミュニケーション論 N S 身体表現論I N

10680

担当者名 / Instructor 遠藤 保子

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Description

身体動作をコミュニケーションの媒体として取り扱う分野について、特にノンバーバルコミュニケーション、様式化された身体表現である舞踊といった場において、実際に起こっている動き、リズム、関係性に着目したコミュニケーションの見方を検討する。文献や研究論文からの講義とともに、ビデオ資料の鑑賞や受講者自身が実際にコミュニケーションを体験する課題などを通して、受講者の「身体」においても理解を深めてほしい。

## 到達目標 / Focus and Goal

身体コミュニケーションとは何か、さらに身体コミュニケーションは地理、歴史、社会・文化と深くかかわっていることを学ぶことによって、受講者の「身体コミュニケーションと社会・文化を見る視点」と「効果的な自己表現の仕方」を獲得することが期待される。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

コミュニケーションにかかわる科目

## 授業スケジュール / Schedule

| 授業日 (第N回) | テーマ / Theme      | キーワード / Key Word |
|-----------|------------------|------------------|
| 1回        | 身体コミュニケーション概論    | 概念、分類            |
| 2回        | ノンバーバルコミュニケーションⅠ | 日欧におけるしぐさ        |
| 3回        | ノンバーバルコミュニケーションⅡ | 世界におけるしぐさ        |
| 4回        | ノンバーバルコミュニケーションⅢ | 空間性、色彩性          |
| 5回        | ノンバーバルコミュニケーションⅣ | 時間性              |
| 6回        | ノンバーバルコミュニケーションⅤ | 自己表現と実習          |
| 7回        | 中間のまとめ           | グループワーク、レポート提出   |
| 8回        | 様式化された身体表現としての舞踊 | 舞踊の概念、意味         |
| 9回        | 日本の舞踊Ⅰ           | 民俗舞踊             |
| 10回       | 日本の舞踊Ⅱ           | 芸術舞踊             |
| 11回       | 世界の舞踊Ⅰ           | フォークダンス、バレエ      |
| 12回       | 世界の舞踊Ⅱ           | モダンダンス、ポストモダンダンス |
| 13回       | 世界の舞踊Ⅲ           | 舞踏、コンテンポラリーダンス   |
| 14回       | 総まとめ             | グループワーク、レポート提出   |
| 15回       | テスト              |                  |

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

指定教科書は事前に読解しておくこと。授業時に指示した文献(レジュメを含む)を読解させる場合もある。期中に、2回の課題レポートを課す。

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

| 種別 / Kind | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc.  |
|-----------|-----------------|--------------------------------|
| 定期試験      | 60 %            | テキスト及び授業の理解度を評価する。             |
| レポート      | 40 %            | どの程度主体的に学習し、自ら考察しようとしたのかを判定する。 |

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

参考書や授業中に紹介した文献を可能な限り読解する。

## 教科書 / Textbooks

| 書名 / Title | 出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment |
|------------|----------------------------------------------------------|
| 舞踊学講義      | 舞踊教育研究会／大修館書店／4469261971／                                |

## 参考書 / Reference Books

| 書名 / Title              | 出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment |
|-------------------------|----------------------------------------------------------|
| 文化を超えて (Beyond Culture) | E.T. Hall / TBSブリタニカ / 4484921359 /                      |
| 舞踊と社会                   | 遠藤保子 / 文理閣 / 89259-375-3 /                               |
| 夢の衣装・記憶の壺               | 國吉和子 / 新書館 / 4-403-12012-1 /                             |

## 参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

その他 / Others

## 生活と経済 N S 生活経済論 N

11771

担当者名 / Instructor 竹濱 朝美

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Description

テーマ: 食料経済と環境

主に、次の三つの内容を取り上げる。

- ①食糧供給の事情について、途上国における飢餓、食糧不足、栄養不足、貧困と、日本および先進国における肥満、糖尿病などの栄養過多の状況を概観する。これを通じて、日本の食生活を振り返る。
- ②日本のフードシステムの問題点を考える。輸入食品への依存、特定国に傾斜した食料調達の不安定性、加工食品の増加、食料自給率の低下、輸入食品の安全性確保などの問題点を考察する。
- ③日本の食生活から発生する環境負荷、温暖化負荷を考察する。
- ④気候変動 (climate change) が食糧供給に与える影響を考察する。気候変動ニュースを通じて、米および穀物生産に与える影響について理解する。

## 到達目標 / Focus and Goal

- ①世界の食糧供給について、途上国における飢餓、食糧不足、栄養不足の状況を学ぶ。これを通じて、自ら食生活を振り返る。
- ②食糧事情について、国際統計および英文のニュース、農業白書の統計に馴染む。
- ③日本の食料自給率の問題点を理解する。
- ④気候変動による農産物生産への影響を理解する。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

特になし

## 授業スケジュール / Schedule

| 授業日 (第N回) | テーマ / Theme                                                                | キーワード / Key Word |
|-----------|----------------------------------------------------------------------------|------------------|
| 第1回       | はじめに: 講義概要学習方法の指示、あなたが大学で学ぶ意味と責任                                           |                  |
| 第2回       | 世界の食糧供給: 途上国の飢餓、食糧不足、栄養不良、貧困。先進国の肥満、糖尿病、栄養過多。日本の飽食                         |                  |
| 第3回       | 質問と討議、中間まとめ: 食糧と人口問題                                                       |                  |
| 第4回       | 気候変動と食糧事情1: 主な温室効果ガス、二酸化炭素濃度、気温上昇予測、2度上昇、気候のinertia                        |                  |
| 第5回       | 気候変動と食糧事情2: 温室効果ガス安定化濃度。thresholds, グリーンランド氷河                              |                  |
| 第6回       | 気候変動と食糧事情 3: 食糧供給への影響予測 (米・穀物生産への影響)。国立環境研究所のレポート、                         |                  |
| 第7回       | 質問とまとめ: 気候変動が食糧生産に与える影響、最近のニュースより                                          |                  |
| 第8回       | 日本のフードシステム 1: 輸入食品への依存、特定国に集中する食料調達先、加工食品の増加、食の外部化、開発輸入の増加、加工食品輸入。         |                  |
| 第9回       | 日本のフードシステム 2: 輸入食品への依存、食料自給率の低下、食料自給率の国際比較。農業白書。                           |                  |
| 第10回      | 日本のフードシステム 3: 輸入食品の増加と安全性の確保。アグリビジネス、JAS生産履歴情報の開示制度、牛・牛肉のトレーサビリティ制度。       |                  |
| 第11回      | 質問、討議、中間まとめ: 地産地消の意義、自給率低下と気候変動の意味。                                        |                  |
| 第12回      | 気候変動と食糧事情 4: 国産農産物と輸入農産物のフード・マイルズ (food miles): 輸入食品の温暖化負荷 (CO2 emissions) |                  |
| 第13回      | 気候変動と食糧事情 5: 海洋の酸性化と水産資源の死滅リスク。山岳氷河の融解と水資源の枯渇。                             |                  |
| 第14回      | 質問とまとめ、討議                                                                  | 日本の食生活の問題点       |
| 第15回      | 最終講義日試験 (講義内レポート)                                                          |                  |

## 学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## 大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

授業中に課す小レポートに解答できるよう、授業中に配布した資料は、英文、日本文ともに、復習すること。特に、自分で統計データの数値が読めるようにすること。単位修得のためには、英文資料は、自分自身で読み返し、十分に復習することが必要である。

**成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation**

| 種別 / Kind | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc.                                              |
|-----------|-----------------|----------------------------------------------------------------------------|
| 日常点       | 100 %           | 授業中に小テストまたは講義内レポートを課す。最終講義日には、最終講義日試験（講義内レポート）を行う。評価は、小テストと最終講義日試験の合計で評価する |

**受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research**

講義で使用する文献の50%は、英文の資料である。配布された英文資料について、自分自身で読み、復習することが必要である。授業中に講義内レポートを数回行なう。これは、基礎的理解を確認するためのもの。

**教科書 / Textbooks**

- ① 竹濱朝美、「地球温暖化の影響と家庭部門における二酸化炭素削減策」、呉世煌・西村多嘉子編、『消費経済学体系・3・消費者問題』、第9章、慶応義塾大学出版会、2005年。ISBN 4-7664-1211-7

**参考書 / Reference Books**

- ① Rob Bowden, Food Supply, Our Impact on the Planet, Hodder Wayland.  
 ② Rob Bowden, World Poverty, 2002, Heinemann Library.  
 ③ 日本科学者会議公害問題研究会、環境展望編集会編、『環境展望』、Vol. 4、実教出版、2004。  
 ④ 大賀圭治、「食料と環境」、岩波書店、2004。  
 ⑤ 橋本卓爾、大西敏夫、他、「食と農の経済学：現代の食料・農業・農村を考える」、ミネルヴァ書房。  
 ⑥ 黒柳俊雄、「消費者と食料経済」、中央経済社  
 ⑦ 'Street Children, Our Lives Our Worlds,' New Internationalist, April 2005.  
 ⑧ World Food Programme, 'Facts & Figures,' [http://www.wfp.org.aboutwfp/facts/hunger\\_facts.asp](http://www.wfp.org.aboutwfp/facts/hunger_facts.asp),  
 ⑨ The Atlas of Food, Who Eats What, Where and Why, Erik Millstone and Tim Lang, Earthscan, 2003。  
 ①、②、③は、市民向けに書かれた向けに書かれた小冊子であるが、平易な文章、明快・簡潔な解説となっており、入門書として読むには手ごろな内容となっている。  
 授業では、これらの文献から、必要な箇所を取り上げて、考察する。貧困、飢餓、食糧供給については、関連するホームページから、適宜、新しいデータ、資料を補って、授業を進める。

**参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course**

Food and Agricultural Organization: <http://www.fao.org>  
 World Food Programme: <http://www.wfp.org>

**その他 / Others**

## 大衆文化論 N S 大衆芸能論 N

10656

担当者名 / Instructor 相原 進

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Description

本講義では、現代文化における身近な諸事象を手がかりとし、文化・社会・生活の関係についての考察を行なうための視点を提供することを目的としている。全15回の講義は、大きく分けて下記の5つのパートからなる。

講義の進行 (括弧内の数字は授業日)

## I. 導入 (1・2)

初回講義では本講義の概要について述べ、第2回講義では、本講義における基本的な視点や概念についての説明を行なう。

## II. 大衆文化の諸相 (3～6)

大衆文化に関わる諸事象を取り上げ、文化と社会との関連についての講義を行なう。

## III. 文化へのアプローチ (7～10)

文化を考察する上で重要となる視点を毎回1つ取り上げ、現代文化を事例としつつ理解を深める。

## IV. 文化をめぐる条件と人間 (11～13)

文化をめぐる条件として都市や地域を取り上げ、それらと文化との関連についての講義を行なう。

## V. 総括 (14・15)

第14回講義ではこれまでの講義全体に関わるテーマについて述べ、最終回は講義の総括と、本講義と期末試験についての質疑応答を行なう。

## 到達目標 / Focus and Goal

自分に身近な大衆文化を手がかりとし、文化と人間の生活、そしてそれらをめぐる諸条件との関連を把握できるような視点の習得を目標とする。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enrolle in, but not required to

必修の科目は特にないが、文化や社会学についての基礎を学べる科目をあらかじめ受講しておくほうが講義の理解が深まると思われる。

## 授業スケジュール / Schedule

| 授業日 (第N回) | テーマ / Theme                   | キーワード / Key Word          |
|-----------|-------------------------------|---------------------------|
| 第1回       | イントロダクション                     | 講義の概要・評価方法などに関するイントロダクション |
| 第2回       | 大衆文化を考えるために                   | 生活と文化／文化をめぐる諸条件           |
| 第3回       | 歌は世につれ——大衆音楽の変化と時代            | 歌詞志向からサウンド志向へ／メディアの多様化    |
| 第4回       | 大衆文化とコンテンツ産業——世界商品を作るために      | コンテンツ産業／知的財産              |
| 第5回       | 「笑い」をめぐる文化と権力——万歳から漫才へ        | 文化と権力の関係／批判と統制            |
| 第6回       | 路上から文化は始まる——大道芸人の実践           | 芸能の場／座                    |
| 第7回       | 下位文化論——ギャルサーたちの街角             | 下位文化論                     |
| 第8回       | アメリカ文化との付き合い方——ディズニーとマクドナルド   | グローバリズム／マクドナルド化           |
| 第9回       | 異文化へのまなざし——『SAYURI』のオリエンタリズム  | オリエンタリズム                  |
| 第10回      | スポーツと芸術——フィギュアスケートと相撲、どちらが強い？ | 芸能・スポーツ・芸術の関係／審美の基準       |
| 第11回      | 文化と都市——「輝く都市」から「萌える都市」へ       | 近代都市計画／誰が都市を作るのか          |
| 第12回      | 地域文化をめぐる今日的課題——民俗芸能を事例に       | 地域文化／地域活動                 |
| 第13回      | ネット文化論序説——ミク民たちの社交場           | ネット空間と都市のアナロジー／人間性        |
| 第14回      | 文化の街へ——文化を生み出す人間と街とは          | 生活／文化／地域                  |
| 第15回      | 総括                            | 本講義のまとめと質疑応答、定期試験について。    |

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

特になし

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

| 種別 / Kind | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc.                                            |
|-----------|-----------------|--------------------------------------------------------------------------|
| 定期試験      | 80 %            | 期末レポート試験にて評価を行なう。レポートにおいては、講義の理解度と、各自が講義から何を学んだのかを評価基準とする。               |
| レポート      | 20 %            | レポートでは、各回の講義の中から各自で任意の1つを取り上げ、講義内容をもとにしたレポートの提出を求める。提出は1回のみで、講義終了後に受領する。 |
| 日常点       | 0 %             | 講義中にコミュニケーションペーパーの提出を求める場合があるが、出席点評価としては一切加味しない。                         |

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research



講義では現代の大衆文化を取り上げるので、日常から雑誌・テレビ・インターネットなどで、文化をめぐる今日の状況がある程度把握しておく講義の理解が深まるものと思われる。また、本講義では文化に関する基礎理論よりも、具体的な文化事象を取り上げる方針を採っている。よって、本講義では手薄になりがちな文化の基礎理論に関する書籍の購読も勧めたい。

#### 教科書 / Textbooks

毎回、資料を配布する。

#### 参考書 / Reference Books

配布資料の中で何冊か紹介する。

#### 参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

講義の概要紹介や、すでに講義を行なった回の資料の配布 (PDF ファイルをダウンロード) などを、オンラインシラバスおよび下記の私の個人ホームページで行なう。

<http://www2u.biglobe.ne.jp/~musasabi/kougi.htm>

#### その他 / Others

## パーソナリティ論 N S 人間発達論 N

12292

担当者名 / Instructor 山田 重樹

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Description

G.H.Meadの理論を中心に自我論を検討する。S.Freudとの対比を通して、日常的な人間関係に基点を置いたパーソナリティ形成のあり方を考察してゆく。

## 到達目標 / Focus and Goal

日常生活世界で繰り広げられる出来事を「パーソナリティ論」的視角から分析してゆく能力の獲得を目指す。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enrolle in, but not required to

Freudの「精神分析」に関する講義を受講されていることが望ましい。ただし、必須というわけではないので、初学者でも十分理解してゆけると思います。

## 授業スケジュール / Schedule

| 授業日 (第N回) | テーマ / Theme | キーワード / Key Word |
|-----------|-------------|------------------|
| 第1回目      | こころ         | 機能論              |
| 第2～4回目    | 知覚と本能       | ゲシュタルト, 無意識      |
| 第5～7回目    | 行為と自我       | 思考と行為, 「I」と「me」  |
| 第8～10回目   | 生活世界        | 情況, 演技           |
| 第11～15回目  | アイデンティティ    | キャリア, 社会的役割      |

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

他者認知における社会的属性 (職業, 地位, ファッション, ことば...) がどのような意味合いを持っているのかを、日常的に考察してゆくこと。

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

| 種別 / Kind | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc. |
|-----------|-----------------|-------------------------------|
| 定期試験      | 90 %            | 社会的出来事の心理的分析能力                |
| 日常点       | 10 %            |                               |

各授業の後半で「対話」を試みてゆきたいので積極的な参加を望んでいる。

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

人々の行動をよく観察する「マン・ウォッチング」の姿勢を持つこと。

## 教科書 / Textbooks

教科書という適当なものがないので、参考文献を適宜授業の中で紹介する

## 参考書 / Reference Books

| 書名 / Title | 出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment |
|------------|----------------------------------------------------------|
| 精神分析入門     | フロイト／角川文庫／他の出版社でもよい                                      |

## 参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

## その他 / Others

## 労働と余暇 N S 労働社会学I N

12317

担当者名 / Instructor 牧野 泰典

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Description

日本企業における超長時間労働の実態を理解する  
サービス残業や未払い賃金について  
アルバイトの長時間労働の実態について

## 到達目標 / Focus and Goal

余暇志向を高める労働者と長時間労働を課す企業・経営者の意識の乖離を理解する。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

## 授業スケジュール / Schedule

| 授業日 (第N回) | テーマ / Theme                                          | キーワード / Key Word                      |
|-----------|------------------------------------------------------|---------------------------------------|
| 第1回       | 授業の概要                                                |                                       |
| 第2回       | 余暇の概念と何か                                             | 労働時間と私生活の時間                           |
| 第3回       | 日本と海外の労働時間と余暇の比較                                     | レジャー白書、厚生労働省の各種資料を紹介                  |
| 第4回       | 日本の企業社会による長時間労働の要因 (1) 企業の教育訓練制度                     | OJT Off-JT 必須教育、希望制教育、指名選抜教育による労働者の選別 |
| 第5回       | 日本の企業社会による長時間労働の要因 (2) 各種レクリエーション制度                  | 人間関係諸活動といわれるレクリエーションと出席率ごとの労働者評価      |
| 第6回       | 日本の企業社会による長時間労働の要因 (3) 小集団活動                         | 品質管理を行う小集団活動が残業や労働密度の強化につながるについて      |
| 第7回       | 日本の長時間労働を是認する労使関係・労務管理 (1)                           | 企業の人事考課査定制度                           |
| 第8回       | 日本の長時間労働を是認する労使関係・労務管理 (2)                           | 企業別組合による脆弱な労使関係                       |
| 第9回       | 労働時間・労働環境に考慮した海外企業・日系企業の小集団活動 (1)                    | アメリカ企業、アメリカ日系企業の労働環境に配慮した活動事例         |
| 第10回      | 労働時間・労働環境に考慮した海外企業・日系企業の小集団活動 (2)                    | イギリス、イタリア、ブラジル、中国、フランス、カナダなどの各事例      |
| 第11回      | Japanization といわれる海外企業・日系企業が日本型の生産システム・経営システムを導入する現象 | 日本型生産システム・経営システムの変容、日本国内の企業経営への影響     |
| 第12回      | 小テスト                                                 | 前半の内容について                             |
| 第13回      | 長時間労働の事例紹介 (1)                                       | 正社員の長時間労働について紹介する                     |
| 第14回      | 長時間労働の事例紹介 (2)                                       | アルバイトの長時間労働について紹介する                   |
| 第15回      | 望ましい余暇形態とはなにか アメリカ、ヨーロッパの余暇から考察する日本の課題               | 有給休暇、リフレッシュ休暇、アニバーサリー休暇の取得が少ない日本企業の課題 |

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

| 種別 / Kind | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc. |
|-----------|-----------------|-------------------------------|
| レポート      | 59 %            | 期末レポート                        |
| 日常点       | 31 %            | 小テストとレポート構想                   |
| その他       | 10 %            | 出席調査 2回                       |

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

あえて変則的な評価点としたのは、出席せずレポート提出のみでは単位は取得できないこととするため。  
前半でテキストを読み込み、後半で事例研究や各種資料の興味深いデータを紹介する

## 教科書 / Textbooks

牧野 泰典「小集団活動の機能と役割」八千代出版

## 参考書 / Reference Books

## 参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

## その他 / Others

## (教) カウンセリング論Ⅰ N S カウンセリング論Ⅰ N

11168

担当者名 / Instructor 安田 一之

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Description

教育現場では、非行、不登校、怠学などの不適応行動や精神病理学現象が多発しており、それらに対応するための臨床面での心理的知見や有効な治療技法が強く要請されている。ここでは子供達の示す問題行動や情緒の問題について、どのように理解し、そしてどのように対応すべきかを、適応と不適応の心理機制を明らかにする中で考察を進めていく。

## 到達目標 / Focus and Goal

- 1、カウンセリングの考え方が理解できる。
- 2、問題行動や情緒的問題を心理的側面から理解できる。
- 3、治療方法が理解できる。
- 4、自己理解を深める。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

- ・発達心理学
- ・教育心理学

## 授業スケジュール / Schedule

| 授業日 (第N回) | テーマ / Theme     | キーワード / Key Word      |
|-----------|-----------------|-----------------------|
| 1         | ガイダンス           | 講義全体の流れの説明            |
| 2         | カウンセリングの基本的な考え方 | カウンセリングとはどのようなことをするのか |
| 3         | カウンセラーの基本的な態度   | 聴くことの意味               |
| 4         | カウンセリングの理論Ⅰ     | フロイトの理論 精神分析 (その1)    |
| 5         | カウンセリングの理論Ⅰ     | フロイトの理論 精神分析 (その2)    |
| 6         | カウンセリングの理論Ⅱ     | ユングの理論 分析心理学 (その1)    |
| 7         | カウンセリングの理論Ⅱ     | ユングの理論 分析心理学 (その2)    |
| 8         | カウンセリングの理論Ⅲ     | ロジャーズの理論 来談者中心療法      |
| 9         | カウンセリング実習       | 受講者の実習                |
| 10        | カウンセリングの理論Ⅳ     | ゲシュタルト療法 (実習をまじえて)    |
| 11        | 自己理解            | 心理テストを通して             |
| 12        | 事例研究Ⅰ           | 発達障害に関して              |
| 13        | 事例研究Ⅱ           | 適応障害に関して              |
| 14        | 死を考える           | 最も基本的で究極の問題           |
|           | 予備日             |                       |

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

適宜指示する。

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

| 種別 / Kind | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc. |
|-----------|-----------------|-------------------------------|
| 定期試験      | 60 %            | 講義内容の理解及び自己研究の程度を問う           |
| レポート      | 20 %            | 子どもの心理的問題に対する理解及び自分自身についての理解  |
| 日常点       | 20 %            | ・講義終了時の感想文及び自分の意見 ・出席重視       |

時々講義後に感想や講義内容についての意見を求める。それを日常点 (出席時数や受講態度) の参考にする。

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

## 教科書 / Textbooks

| 書名 / Title     | 出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment |
|----------------|----------------------------------------------------------|
| こころの教育とカウンセリング | 山本昌輝 編著 / 八千代出版 / 4-8429-1271-5 /                        |

参考図書を随時紹介する。

## 参考書 / Reference Books

講義内容に即してその都度書籍を紹介する。

## 参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course



## 神話学I N

10661

担当者名 / Instructor 中尾 瑞樹

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Description

(祭儀とシャーマンと精霊の神話学)

神話には巨大竜蛇・ドラゴンや悪鬼といった想像上の怪物、魔物の類や熊や猿や大蛇などの山や森の動植物の精霊が登場し、これらが神話上の英雄によって退治されたり、また逆に英雄を助けたりという物語が展開するものがある。これらは現代のファンタジー小説や映画に再現されたりもする題材だが、こうしたいわば精霊的あるいは怪物的存在が登場する神話とは、どのようにして生み出されてくるものなのであろうか。

この講義では、こうした精霊や怪物的存在の神話が生み出されてくる生々しい製造工場が古代社会や世界各地の民俗(民族)社会における祭儀や祭儀を支えるシャーマニズムの世界なのであると考え、そうした祭儀とシャーマニズムの視点から問題を掘り下げたい。

祭儀のなかで人々はどんな精霊や怪物や魔物や不可思議な神々と出会うのか。またシャーマンはどのような神話的体験をそこでするのか。

本講義では、現実と非現実の境界線を行き交うようなシャーマンの世界の中で精霊・怪物の神話が生まれてくる状況やプロセスや仕組みを世界各地の祭儀の映像資料や精霊および神々の図像資料などを通して具体的に解き明かしていきたい。

## 到達目標 / Focus and Goal

- ・神話学上の重要な問題について十分に理解し、またそれを自分の言葉で説明できる。
- ・神話学およびシャーマニズムの基本的概念について正確に説明できる。
- ・神話学上の具体的事例について自ら分析し、論理的な説明を与えることができる。
- ・講義の内容を自分なりに消化し、そこから興味のあるテーマや題材を導き出し、独自の取材を通して、レポートにまとめあげることができる。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

## 授業スケジュール / Schedule

| 授業日(第N回) | テーマ / Theme                   | キーワード / Key Word           |
|----------|-------------------------------|----------------------------|
| 4月10日    | 祭儀・シャーマン・精霊の神話学へのアプローチ(ガイダンス) |                            |
| 4月17日    | 中南米の祭儀・シャーマンと精霊の神話(1)         | 祭儀の見方、シャーマンの祖先霊、ペヨーテハント    |
| 4月24日    | 中南米の祭儀・シャーマンと精霊の神話(2)         | シャーマンと大蛇、アヤファスカセッション       |
| 5月1日     | 沖縄の祭儀・シャーマンと精霊の神話(1)          | ニライカナイ、ユタ、ツカサ、ノロ、御嶽、離島     |
| 5月8日     | 沖縄の祭儀・シャーマンと精霊の神話(2)          | 来訪神の儀礼、海上他界、神聖な森、聖域        |
| 5月15日    | 沖縄の祭儀・シャーマンと精霊の神話(3)          |                            |
| 5月22日    | 中国の祭儀・シャーマンと精霊・魔物の神話(1)       | 中国の森の精霊、ピモ、少数民族の神話         |
| 5月29日    | 中国の祭儀・シャーマンと精霊・魔物の神話(2)       | 鬼祓い儀礼、スニ                   |
| 6月5日     | インド・東南アジアの祭儀・シャーマンと怪物の神話(1)   | ヒンドゥー神話、古代叙事詩、ナーガ、アンコールワット |
| 6月12日    | インド・東南アジアの祭儀・シャーマンと怪物の神話(2)   |                            |
| 6月19日    | ヨーロッパのドラゴン・怪物の神話(1)           | ドラゴン、魔法使い、英雄               |
| 6月26日    | ヨーロッパのドラゴン・怪物の神話(2)           |                            |
| 7月3日     | 日本の祭儀・シャーマンと精霊・魔物の神話(1)       | 竜神、蛇神、荒神、修験道、神楽、いざなぎ流      |
| 7月10日    | 日本の祭儀・シャーマンと精霊・魔物の神話(2)       | 鬼、天狗、花祭り、花太夫               |
| 7月17日    | シャーマンのイニシエーションと精霊・怪物の神話       | イニシエーション、怪物退治、守護精霊         |

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

講義中に紹介した参考文献については積極的に読み進めてもらいたい。

また世界各地の神話についても活字化されているものについては、なるべく多くを読み、鑑賞して、神話そのものに対する興味を深めていることが望ましい。

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

| 種別 / Kind | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc.                     |
|-----------|-----------------|---------------------------------------------------|
| 定期試験      | 50 %            | 毎回の講義内容の理解と知識について問います。また講義中に使用する映像資料からの出題も一部あります。 |
| レポート      | 50 %            | 講義の内容に密着したテーマに限定します。2000字以上。                      |

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

レポートに関して、書き方がよく分からないなどの要望に対しては、出来る限りサポート・アドバイスしますので、着実に取り組みながら最終的に良いものが出来上がるよう頑張ってください。

## 教科書 / Textbooks

教科書は用いない。講義の性格上、ビデオ映像などの視聴覚教材を重視し、これらのヴィジュアル資料の分析・解説を中心とする。  
また必要に応じて適宜プリントを配布する。

**参考書 / Reference Books**

参考文献については講義中に適宜指示する。

**参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course**

**その他 / Others**

## 地域論特殊講義I N

11170

担当者名 / Instructor 安倉 良二

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Description

「都市の生活・産業をめぐる地理学的研究のトピック」

都市地理学のテーマの中でも、日常生活および産業（特に第三次産業）に関わる地理学的研究の基本概念と具体的な研究事例に則したトピックの提示を目的とする。

## 到達目標 / Focus and Goal

1. 都市地理学の基本的な概念を身につけることができる
2. 都市地理学で取り上げられているテーマがきわめて今日的なものであることが理解できる

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

都市地理学, 経済地理学

## 授業スケジュール / Schedule

| 授業日 (第N回) | テーマ / Theme                             | キーワード / Key Word                               |
|-----------|-----------------------------------------|------------------------------------------------|
| 第1回       | ガイダンス・受講者アンケートおよび都市の地理的概念               | 昼間人口, 夜間人口, DID                                |
| 第2回       | 都市構造 (1) - 欧米と日本における都市内部構造モデルの比較 -      | バージェスモデル, 扇形モデル, 多核心モデル, 城下町, Edge City        |
| 第3回       | 都市構造 (2) - 都市地理学からみた「平成の大合併」 -          | 都市合併, DID                                      |
| 第4回       | 都市化 - 景観面からみた土地利用変化 -                   | スプロール現象, 都市化, 立体化, 土地利用変化, 土地区画整理事業            |
| 第5回       | 大都市圏の基本概念                               | 大都市圏, 構造変容, 『国勢調査報告』, 通勤・通学流動                  |
| 第6回       | 都市の生活と居住 (1) - 郊外住民の生活行動と就業の関係 -        | 時間地理学, 時空間プリズム, 郊外就業, ホワイトカラー, ブルーカラー          |
| 第7回       | 都市の生活と居住 (2) - 住宅開発と居住地選択 -             | 住宅団地, ミニ開発, 公営住宅, ハウジング, 住宅双六, ライフステージ         |
| 第8回       | 都市の生活と居住 (3) - 「ニュータウン」の今昔 -            | ニュータウン, 田園都市, オールドタウン, 近隣住区論, 高齢化, バリアフリー      |
| 第9回       | 都市の生活と居住 (4) - 都心部におけるマンションの立地に伴う人口回帰 - | マンション, 地価, 人口回帰                                |
| 第10回      | 都市再開発 - インナーシティの変容を中心に -                | インナーシティ, ジェントリフィケーション, ウォーターフロント, 権利変換         |
| 第11回      | 都市群システム - 都市階層 -                        | 都市群システム, 都市階層, 広域中心都市, テリトリー, 本社, 支所, 中枢管理機能   |
| 第12回      | オフィス立地の変容 - 情報化の進展を視点に -                | 情報化社会, 事業所サービス業, オフィスビル, ヘッドオフィス, サテライトオフィス    |
| 第13回      | 商業 (1) - 中心商業地の衰退とその活性化 -               | 中心商業地, 大型店, 郊外型ショッピングセンター, ロードサイドショップ, まちづくり3法 |
| 第14回      | 商業 (2) - コンビニエンスストアの立地メカニズム -           | コンビニエンスストア, ドミナント展開, マイクロマーケティング, 小商圏          |

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

復習を兼ねて、授業で取り上げた論文ならびに参考文献に目を通しておくのが望ましい。

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

| 種別 / Kind                                                 | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc. |
|-----------------------------------------------------------|-----------------|-------------------------------|
| 定期試験                                                      | 100 %           | 用語説明およびテーマに関する論述問題をする予定。      |
| 試験での持ち込みは不可。ただし、毎回の授業で提示されるレジュメの内容が理解できれば十分に解答ができるよう配慮する。 |                 |                               |

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

都市に関する身近な地域トピックをつかんでおくと、内容の理解も容易になると思われる。

## 教科書 / Textbooks

書名 / Title 出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment

///

///



特定のテキストは使用しないが、下記の参考書や論文・単行本を適宜活用して作成したレジュメを用いて授業を進める。可能な限り、近年の研究事例を積極的に紹介したい。

#### 参考書 / Reference Books

| 書名 / Title    | 出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment |
|---------------|----------------------------------------------------------|
| 現代都市地域論       | 林 上／原書房(2003)／4-562-09077-4 /                            |
| 現代都市地理学       | 北川建次編／古今書院(2004)／4-7722-3044-0／                          |
| 20世紀の日本の都市地理学 | 阿部和俊／古今書院(2003) /4-7722-6013-7 /                         |
| 図説・大都市圏       | 富田和暁・藤井正編／古今書院(2001) /4-7722-4027-6 /                    |
| 都市サービス地域論     | 林 上／原書房(2005)／4-562-09106-1／                             |

上に示した参考書は、近年発行された日本の都市地理学全般を扱った入門書・総説の一部である。もちろん、これ以外にも各分野にテーマを絞った専門書は数多くあるので、講義の中で随時紹介したい。

#### 参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

#### その他 / Others

## 地域論特殊講義II N

11192

担当者名 / Instructor 徳安 浩明

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Description

テーマ: 「山村」の歴史地理学的アプローチ

日本列島の約7割が山地であるにもかかわらず、「山村」の研究は遅れてきた。しかし、「水田中心史観」の見直しが求められている中で、山村に対する歴史地理学的アプローチの意義は高まっている。そこで、近世村落像・百姓像に関する隣接分野の研究動向を確認したうえで、山村の歴史地理学的アプローチを試みる。具体的には、近世以降の山地資源に依拠した生業(砂鉄製錬業のタタラ製鉄や、木地屋による木器の生産、焼畑、マタギによる狩猟・採集ほか)とそれらの生業が営まれてきた日本の集落について検討していく。

## 到達目標 / Focus and Goal

- ・従来の「常識」にとらわれない地域に対する見方・考え方を習得する。
- ・既往の研究の動向を把握する意義・重要性を理解し、能動的な課題設定ができるようになる。
- ・過去の山村の姿を正しく理解し、適切に国土を認識する能力を養う。
- ・卒業論文執筆にむけて、地域研究を進めるための課題設定、方法などを身につける。
- ・地域研究における史・資料の入手および利用方法を習得する。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

## 授業スケジュール / Schedule

| 授業日(第N回)   | テーマ / Theme                                 | キーワード / Key Word             |
|------------|---------------------------------------------|------------------------------|
| 2006.09.26 | 村落研究の課題と山村の歴史地理学的アプローチ                      | 村落地理学 隠田百姓村 照葉樹林文化 ブナ(ナラ)林文化 |
| 2006.10.03 | 近世村落像・百姓像に関する近世史・民俗学・歴史人口学からの再考(水田中心史観の見直し) | 近世の百姓 水田中心史観 歴史人口学 複合生業論     |
| 2006.10.10 | タタラ製鉄による鉄生産の概要                              | タタラ製鉄 鉄山                     |
| 2006.10.17 | 鉄穴流し(砂鉄採取法)とその諸問題                           | 砂鉄採取 鉄穴流し 比重選鉱法              |
| 2006.10.24 | 鉄穴流しと濁水紛争(鉱害問題)                             | 濁水紛争 吉井川流域 日野川流域 水害          |
| 2006.10.31 | 鉄山労働者の社会的性格とその見直し                           | 山内労働者 隷属性 閉鎖性 鉄山必用記事         |
| 2006.11.07 | 鉄山の集落構成と農林業集落への再編成 岡山県上斎原村遠藤の事例             | 栄金山鉄山 集落の二次的分散               |
| 2006.11.14 | 鉄山経営者による耕地開発と集落形成 大山南麓宮市原の事例                | 地籍図 近藤家 分散錯圖制                |
| 2006.11.21 | タタラ製鉄と稼業地域との関係                              | 兼業 生業複合 駄賃稼 為替米制度            |
| 2006.11.28 | 木地屋による木器の生産と木地屋起源集落                         | ろくろ 惟喬親王伝説 氏子狩               |
| 2006.12.05 | 焼畑農業と焼畑村 ①九州椎葉の事例 ②上信越秋山郷の事例                | 椎葉 農書 秋山郷 鈴木牧之 秋山記行          |
| 2006.12.12 | 積雪高冷地における狩猟と採集                              | マタギ 狩猟 奥三面 ぜんまい              |
| 2006.12.19 | 絹織物工業と山村 関東甲信越地方の事例                         | 畑作村 神奈川県愛川町半原 絹織物(紬) 撚糸      |
| 2007.01.09 | 最終講義日テスト。現代山村の現状と課題。まとめ。                    | 高原野菜 スキー集落                   |

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

多数の文献を紹介することになるので、興味・関心を感じた文献を直接読んでほしい。

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

| 種別 / Kind | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc.              |
|-----------|-----------------|--------------------------------------------|
| 定期試験      | 40 %            | 講義全体の理解度を確認する(最終講義日に実施)                    |
| レポート      | 30 %            | ほぼ毎回課すもの(講義の感想や受講者の考えなどを述べてもらう)            |
| 日常点       | 30 %            | 地図への着色作や課題に対するとりくみ方                        |
| その他       | 0 %             | 上記の提出物の提出状況が思わしくない(概ね4分の3未満)場合、単位の認定はできない。 |

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

近世史料(読み下し文)を読むこともある(経験なしでも構わない)。写真や地図を多数提示し、地形図への図作業を行うこともある(色エンピツを準備しておくこと)。

## 教科書 / Textbooks

書名 / Title 出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment

///

**参考書 / Reference Books**

| 書名 / Title         | 出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment |
|--------------------|----------------------------------------------------------|
| 日本の山村              | 藤田佳久／地人書房／／山村研究の動向が把握できる                                 |
| たたら製鉄の技術と構造の考古学的研究 | 河瀬正利／溪水社／／たたら製鉄に関する基本的文献                                 |
| 越後三面山人記            | 田口洋美／農山漁村文化協会／／地域調査の手本として一読を薦める                          |
| 日本近世・近代の畑作地域史研究    | 溝口常俊／名古屋大学出版／／山村の歴史地理学的研究の集大成                            |
| 中・近世山村の景観と構造       | 米家泰作／校倉書房／／山村の歴史地理学的研究の集大成                               |
| 知られざる日本・山村の語る歴史世界  | 白水智／NHKブックス／／歴史学における最新の山村研究                              |

**参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course****その他 / Others**

## 日本演劇論 L

13543

担当者名 / Instructor 森西 真弓

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Description

我が国は、中世から近世にかけて、能、狂言、歌舞伎、文楽など、現在「伝統芸能」と呼ばれる複数の演劇文化を生み出してきました。その後、明治維新による近代化に伴って、さらに新たな演劇芸術を誕生させていきます。具体的には、新派、近代劇、喜劇、宝塚歌劇、新国劇、新劇、ミュージカルなどです。本科目は、適宜、映像資料を用いながら、これら近代生まれの演劇の特色を講義します。

## 到達目標 / Focus and Goal

各演劇ジャンルの成立過程、特色、代表的な演者、作者、作品などの基礎知識を身につけます。また、作品からは日本人の心性を読み取るとともに、時代や社会と人との関わりを考察します。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

## 授業スケジュール / Schedule

| 授業日 (第N回) | テーマ / Theme           | キーワード / Key Word |
|-----------|-----------------------|------------------|
| 第1回目      | ガイダンスー伝統芸能と現代演劇の各ジャンル |                  |
| 第2回目      | 伝統芸能概論                |                  |
| 第3回目      | 壮士芝居から新派へ             |                  |
| 第4回目      | 新派と旧派                 |                  |
| 第5回目      | 大正・昭和の新派              |                  |
| 第6回目      | 川上音二郎と近代劇             |                  |
| 第7回目      | 女優誕生と女性芸能者            |                  |
| 第8回目      | 女形と女優                 | ※映像資料を視聴します      |
| 第9回目      | 俄から喜劇へ                |                  |
| 第10回目     | 小林一三と宝塚歌劇             |                  |
| 第11回目     | 沢田正二郎と新国劇             |                  |
| 第12回目     | 現代演劇の変遷               |                  |
| 第13回目     | ミュージカルの誕生             |                  |
| 第14回目     | まとめ・質疑応答              |                  |

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

| 種別 / Kind | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc. |
|-----------|-----------------|-------------------------------|
| 定期試験      | 100 %           | 持ち込みなしの筆記試験を期末に実施します。         |

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

芸能や演劇に対するこれまでの知識の有無は問いませんが、日本演劇とそれに関わる事象や人物に興味や関心を抱き、学修意欲のある学生の積極的な受講に期待します。

## 教科書 / Textbooks

## 参考書 / Reference Books

## 参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

## その他 / Others

## 日本政治史 U

14838

担当者名 / Instructor 福井 純子

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Description

この講義では、各種の史料を通して、開国から日清戦争まで、すなわち19世紀後半の日本政治史を、世界資本主義の動向や東アジアの政治状況を視野に入れながら概観しようと思う。そこで注目するのは、政治権力の移行、政治主体としての国民の形成である。

## 到達目標 / Focus and Goal

基本的な政治史の流れを整理し、日本社会と国際社会との関係を客観的に捉える視点を養う。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

## 授業スケジュール / Schedule

| 授業日 (第N回) | テーマ / Theme  | キーワード / Key Word          |
|-----------|--------------|---------------------------|
| 1.        | 開国とその衝撃      | アヘン戦争、ペリー来航、攘夷論と開国論       |
| 2.        | 自由貿易の開始      | 世界資本主義、世直し一揆              |
| 3.        | 明治維新と文明開化    | 大政奉還、戊辰戦争、廃藩置県、岩倉使節団、士族反乱 |
| 4.        | 自由民権運動とその転換  | 愛国社、私擬憲法、明治14年政変          |
| 5.        | 憲法発布と帝国議会の開設 | 憲法調査、欽定憲法、初期議会、教育勅語と君が代   |
| 6.        | 日清戦争と国民      | 文明と野蛮                     |

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

高校で日本史を勉強していない受講生もいるだろうが、図書館には、多数の関連図書やVTRが所蔵されている。これらを活用し、積極的に講義に参加してほしい。講義の内容から、自らの興味や関心を伸ばしてくれるとうれしい。

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

| 種別 / Kind | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc.    |
|-----------|-----------------|----------------------------------|
| 定期試験      | 100 %           | 政治史の流れを理解し、自分の言葉で説明できるかどうかを評価する。 |

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

講義の中では時にVTRや図版、音源を使用する。これも重要なポイントなので、必要と思われることは、メモを取ること。

## 教科書 / Textbooks

教科書は用いない。毎回プリントを配布する。

## 参考書 / Reference Books

| 書名 / Title  | 出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment |
|-------------|----------------------------------------------------------|
| はじめて学ぶ日本近代史 | 大日方純夫／大月書店／／高校で日本近代史を勉強していない学生のための入門的なテキスト               |
| 国際政治下の近代日本  | 宮地正人／山川出版社／／高校で日本近代史を勉強した学生のためのワンステップうへのテキスト             |

このほかにも講義の中で随時紹介する。

## 参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

## その他 / Others

## 民間文芸学 N

11188

担当者名 / Instructor 三浦 俊介

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Description

「日本民話の研究」

日本の文芸の流れには、古代より現代に至るまで、文字による記載の文芸と並行して、昔話や伝説などの多様な民間文芸の水脈がある。民間文芸は長い年月、民間の様々な民俗文化と深く関わり合いながら、口承によって伝えられ育まれ、人々の精神生活を豊かにしてきた。また、記載文芸とも常に密接な交渉を持ち、文芸を培う一翼を担ってきた。昔話・伝説・世間話などの民話は、今日でも多くの人々の心を惹きつける魅力に満ちている。

本講義では、「民話」を中心に民間文芸の諸相とその深層に迫り、民衆の間で伝承され育てられてきた文化の一面を探る。アジアや世界の伝承、日本の古文献も引用する予定である。

## 到達目標 / Focus and Goal

- ・民間の伝承文化と、文字の文化との相違を認識する。
- ・声による伝承・身体による伝承・モノを利用する伝承などの重要性を理解する。
- ・民間文芸全般や民話の本質・種類を把握する。
- ・日本昔話各話から日本人の自然観・世界観・信仰などを読みとる。
- ・日本昔話各話の構造・構成・表現・地域性・歴史的変遷などを分析する。
- ・伝承や説話の発生や伝播、変容のダイナミズムを実感する。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

民俗学・神話学・文化人類学・児童文化論などが最も関連深い科目である。あわせて受講することが望ましい。

## 授業スケジュール / Schedule

| 授業日 (第N回) | テーマ / Theme | キーワード / Key Word        |
|-----------|-------------|-------------------------|
| 1回目       | 民間文芸の種類     | 神の言葉・ウタ・なぞなぞ・命名・民話      |
| 2回目       | 民話の種類       | 神話・伝説・昔話・世間話・現代伝説       |
| 3回目       | 鳥と人間        | オノマトペ・鳥の鳴き声・動物の由来・前世の物語 |
| 4回目       | 一寸法師ほか      | 異常誕生・申し子・死と再生・蛙         |
| 5回目       | 力太郎と桃太郎     | 異常誕生・異能の仲間・異郷訪問・三の魅力    |
| 6回目       | 猿蓑入り        | 異類婚姻譚・東西日本の文化差・猿        |
| 7回目       | 食わず女房       | 厄難克服・年中行事由来・蜘蛛          |
| 8回目       | 三枚のお札       | 厄難克服・鬼と山姥・呪符・境界・異郷      |
| 9回目       | 継子いじめ       | 実母と継母・DV・通過儀礼 (成人式)     |
| 10回目      | 伝説の特徴と分類    | 伝説                      |
| 11回目      | 世間話の地域的展開   | 浦島説話・竜宮城・寺社縁起           |
| 12回目      | 世間話の特徴と分類   | 世間・世間話・現代伝説・都市伝説        |
| 13回目      | 世間話の歴史的展開   | マレビト軟待・弘法伝説・異人殺し・夏目漱石   |
| 14回目      | 「蛇蓑入り」は昔話か  | 話型・神話・伝説・昔話・世間話         |

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

| 種別 / Kind | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc.          |
|-----------|-----------------|----------------------------------------|
| 定期試験      | 80 %            | 各回で講じた基本的な事項について正しく理解し、応用できるかどうかを評価する。 |
| 日常点       | 20 %            | 毎回、出席を取る。8回以上欠席した者は不可とする。              |

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

私語厳禁。私語をした者には退室を命じる。

## 教科書 / Textbooks

テキストは使わない。毎回プリントを配布する。

## 参考書 / Reference Books

| 書名 / Title    | 出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment |
|---------------|----------------------------------------------------------|
| 日本の民話を学ぶ人のために | 福田晃・常光徹・斉藤寿始子／世界思想社／4-7907-0839-X／                       |
| 日本昔話ハンドブック    | 稲田浩二・稲田和子／三省堂／4-385-41041-0／                             |
| 日本の世間話        | 野村純一／東京書籍／4-487-72238-1／                                 |

図説日本の昔話

石井正己／河出書房新社／4-309-76032-5／

別冊太陽 カタリの世界

西川照子／平凡社／4-582-92129-9／

参考文献は多岐におよぶため、毎回必要に応じて紹介する。

参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

その他 / Others

## 民俗学I N

12284

担当者名 / Instructor 根井 浄

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Description

日本の民俗学の育ての親といわれる柳田国男、歩く巨人といわれた宮本常一、仏教民俗学を樹立した五来重たちの学問業績を踏まえ、民俗学の基本用語、具体的事例を概論する。例えば、五月五日の習慣、七夕行事と盆行事、桃太郎の昔話、山椒太夫の口承文芸などについて紹介する。民俗学はもっとも「やさしい」ようで、もっとも「むずかしい」学問である。本講義によって民衆の視点から見た日本の歴史、社会、思想、文学、宗教等を再認識する機会としたい。民俗学は、自己認識と内省の学でもある。

## 到達目標 / Focus and Goal

民俗学の理解  
民衆文化の理解  
多角的視野を持つ

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

特になし

## 授業スケジュール / Schedule

| 授業日 (第N回) | テーマ / Theme    | キーワード / Key Word |
|-----------|----------------|------------------|
| 1         | 授業の紹介          | 民俗学とは            |
| 2         | 日本民俗学の基本用語 (1) | 民俗学の対象           |
| 3         | 日本民俗学の基本用語 (2) | 民俗学の資料           |
| 4         | 年中行事と民俗 (1)    | 年玉、歳神、タナバタ、先祖祭   |
| 5         | 年中行事と民俗 (2)    | 節供、五月五日、早乙女      |
| 6         | 昔話と民俗 (1)      | 桃太郎、爺婆の物語        |
| 7         | 昔話と民俗 (2)      | 山と川、採薪汲水         |
| 8         | 昔話と民俗 (3)      | 団子、海上他界、鬼        |
| 9         | 口承文芸と民俗 (1)    | 山椒太夫、さんせう太夫      |
| 10        | 口承文芸と民俗 (2)    | 日本の橋、架橋の論理       |
| 11        | 口承文芸と民俗 (3)    | 藪入り、起請文、アジール     |
| 12        | 平家物語と民俗学 (1)   | 平家物語の成立、琵琶法師     |
| 13        | 平家物語と民俗学 (2)   | 平家物語の成立、盲僧、替女    |
| 14        | 平家物語の民俗学 (3)   | 平維盛、補陀落信仰        |
| 15        | まとめ            | 民俗学と歴史学・国文学・宗教学  |

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

博物館、美術館等で開催される展覧会を積極的に見学すること

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

| 種別 / Kind | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc. |
|-----------|-----------------|-------------------------------|
| 定期試験      | 80 %            | 自筆ノート整理、配布プリント整理              |
| レポート      | 10 %            | 故郷の文化を知る                      |
| 日常点       | 10 %            | 受講態度                          |

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

聴く、調べる、表現する

## 教科書 / Textbooks

教科書は指定しない

## 参考書 / Reference Books

授業中に紹介する

## 参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

## その他 / Others



## 労働保護法 N

16008

担当者名 / Instructor 吉田 美喜夫

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Description

労働法は、労働組合の組織や活動、使用者との団体交渉などを対象とする労働団体の法と、労働契約の締結、配転、出向、労働時間、休憩、休日、年休、賃金、女性・年少者の保護、解雇保護、職場の安全・衛生、労災補償などについて扱う労働保護法の領域から構成される。後者が本科目の対象領域である。わが国では、過労死が問題になるなど、安心して働ける労働条件が実現しているとはいえない状況にある。したがって、この講義では、学生諸君が、現在就業しているなかで出会う問題や、将来、就職して労働者となった場合、あるいは使用者となった場合に会うことになるであろう職場の労働条件保護の問題について、主として労働基準法上の規定に即して検討する。

## 到達目標 / Focus and Goal

労働法は使用者と労働者という、立場の互換性がなく、かつ立場が優劣する関係を規制対象とする。したがって、労働法は、その内容において、労働者の保護の体系という性格を帯びざるをえない。このことが、とくに一般契約法の法理と異なるため、なじみにくいという印象を与える理由となる。しかし、労働者を保護するということは、決して労使を不平等に扱うということではなく、むしろ逆に、労使の実質的な平等を実現するためであり、これこそが、労働法を正当化する根拠である。このような認識に立って、現実の労使間で発生する法律問題をバランスよく、かつ適切に解決する法律構成ができるようにすることが、この科目の目標となる。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

民法のうち、とくに契約法分野は一通り履修しておいてください。

## 授業スケジュール / Schedule

| 授業日 (第N回)   | テーマ / Theme           | キーワード / Key Word                         |
|-------------|-----------------------|------------------------------------------|
| 2006年9月26日  | 労働条件の法的保護と労働基準法       | 労働条件の意義、法的保護の必要性、労働法の体系                  |
| 2006年10月5日  | 労働契約と労使の権利・義務         | 労働契約の機能、労働者・使用者の義務、付随義務                  |
| 2006年10月12日 | 就業規則と労働者の権利           | 就業規則の意義と機能、内容、作成手続、法的性質、法的効力、不利益変更       |
| 2006年10月19日 | 「労働憲章」と労働者            | 均等待遇、強制労働、中間搾取、公民権、労働契約の期間、賠償予定          |
| 2006年10月26日 | 採用と人事                 | 募集、採用内定、配転、出向                            |
| 2006年11月2日  | 労働関係の終了と解雇            | 解雇予告制度、解雇予告手当、解雇権濫用、整理解雇                 |
| 2006年11月9日  | 賃金の法的保護               | 賞与、退職金、休業手当、最低賃金法                        |
| 2006年11月16日 | 労働時間の法規制              | 労働時間の概念、変形労働時間制、フレックスタイム制、みなし労働時間制、裁量労働制 |
| 2006年11月23日 | 時短の推進と自由時間の保障         | 時短、時間外労働、三六協定、休憩、休日、年休                   |
| 2006年11月30日 | 雇用形態と雇用平等             | 不安定雇用、パート、均等法、派遣労働                       |
| 2006年12月7日  | 雇用平等の実現とセクシュアル・ハラスメント | 女性労働者保護、母性保護、均等法、セクシュアル・ハラスメント、配慮義務      |
| 2006年12月14日 | 健康の確保と災害補償            | 安全衛生、労働災害、労災補償、過労死                       |
| 2006年12月21日 | 国際化と労働法               | 労働契約の準拠法、国際労働基準、外国人労働者                   |
| 2007年1月11日  | 労働契約法の制定問題            | 労働保護法の課題、労働契約法                           |
| 定期試験        | 定期試験                  | 定期試験                                     |

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

労働法は社会・経済の動きと密接に関係しています。国内だけでなく、国際的な情勢にも日頃から関心を向けて下さい。とくに新聞は毎日、丹念に読むようにして下さい。

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

| 種別 / Kind                                       | 割合 / Percentage | 評価基準等 / Grading Criteria etc. |
|-------------------------------------------------|-----------------|-------------------------------|
| 定期試験                                            | 70 %            |                               |
| 日常点                                             | 30 %            | 出席調査や小テストを合計4回程度行う予定です。       |
| 定期試験の比重が大きいのので、しっかり講義に出て、かつ、教科書を日常的に読むようにして下さい。 |                 |                               |

## 受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

言うまでもないことですが、法令集は必ず講義に持参すること。

## 教科書 / Textbooks

| 書名 / Title | 出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment |
|------------|----------------------------------------------------------|
|------------|----------------------------------------------------------|

**参考書 / Reference Books****書名 / Title**

『労働法』

**出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment**

菅野和夫／弘文堂／4-335-30226-6／

**参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course**

厚生労働省や日本労働政策研究・研修機構、アジア経済研究所などのホームページにアクセスし、最新の労働統計や法令を参照して下さい。  
たとえば、<http://www.jil.go.jp/>が有益です。

**その他 / Others**